



Informatica®

10.0

Informatica® PowerCenter Express

10.0

コマンドリファレンス

Informatica PowerCenter Express コマンドリファレンス
10.010.0
2015年11月

© 著作権 Informatica LLC 1998, 2018

本ソフトウェアおよびマニュアルには、Informatica LLC の所有権下にある情報が収められています。これらは使用および開示の制限等を定めた使用許諾契約のもとに提供され、著作権法により保護されています。本ソフトウェアのリバースエンジニアリングは禁じられています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。このソフトウェアは、米国および/または国際的な特許、およびその他の出願中の特許によって保護されています。

合衆国政府によるソフトウェアの使用、複製または開示は、DFARS 227.7202-1 (a) および 227.7702-3 (a) (1995年)、DFARS 252.227-7013(C) (1) (ii) (1988年10月)、FAR 12.212 (a) (1995年)、FAR 52.227-19、または FAR 52.227-14 (ALT III) に記載されているとおりに、当該ソフトウェア使用許諾契約に定められた制限によって規制されます。

本製品または本書の情報は、予告なしに変更されることがあります。お客様が本製品または本書内に問題を発見された場合は、書面に当社までお知らせください。

Informatica、Informatica Platform、Informatica Data Services、PowerCenter、PowerCenterRT、PowerCenter Connect、PowerCenter Data Analyzer、PowerExchange、PowerMart、Metadata Manager、Informatica Data Quality、Informatica Data Explorer、Informatica B2B Data Transformation、Informatica B2B Data Exchange、Informatica On Demand、Informatica Identity Resolution、Informatica Application Information Lifecycle Management、Informatica Complex Event Processing、Ultra Messaging、および Informatica Master Data Management は、Informatica LLC の米国および世界中の管轄地での商標または登録商標です。その他のすべての企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメントの一部は、次のサードパーティが有する著作権に従います（ただし、これらに限定されません）。Copyright DataDirect Technologies.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Sun Microsystems.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) RSA Security Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Ordinal Technology Corp.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Aandacht c.v.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright Genivia, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright Isomorphic Software.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Meta Integration Technology, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Intalio.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Oracle.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Adobe Systems Incorporated.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) DataArt, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) ComponentSource.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Microsoft Corporation.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Rogue Wave Software, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Teradata Corporation.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Yahoo! Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Glyph & Cog, LLC.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Thinkmap, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Clearpace Software Limited.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Information Builders, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) OSS Nokalva, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright Edifecs, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright Cleo Communications, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) International Organization for Standardization 1986.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) ej-technologies GmbH.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Jaspersoft Corporation.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) International Business Machines Corporation.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) yWorks GmbH.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Lucent Technologies.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) University of Toronto.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Daniel Veillard.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Unicode, Inc. Copyright IBM Corp.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) MicroQuill Software Publishing, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) PassMark Software Pty Ltd.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) LogiXML, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) 2003-2010 Lorenzi Davide,コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Red Hat, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) The Board of Trustees of the Leland Stanford Junior University.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) EMC Corporation.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Flexera Software.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Jinfonet Software.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Apple Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Telerik Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) BEA Systems.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) PDFlib GmbH.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Orientation in Objects GmbH.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Tanuki Software, Ltd.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Ricebridge.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Sencha, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Scalable Systems, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) jQWidgets.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Tableau Software, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) MaxMind, Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) TMate Software s.r.o.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) MapR Technologies Inc.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Amazon Corporate LLC.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Highsoft.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) Python Software Foundation.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) BeOpen.com.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。Copyright (C) CNRI.コンテンツの無断複製・転載を禁じます。

本製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) によって開発されたソフトウェア、およびさまざまなバージョンの Apache License (まとめて「License」と呼んでいます) の下に許諾された他のソフトウェアが含まれます。これらのライセンスのコピーは、<http://www.apache.org/licenses/>で入手できます。適用法にて要求されないか書面に同意されない限り、ライセンスの下に配布されるソフトウェアは「現状のまま」で配布され、明示的あるいは黙示的かを問わず、いかなる種類の保証や条件も付帯することはありません。ライセンス下での許諾および制限を定める具体的文言については、ライセンスを参照してください。

本製品には、Mozilla (<http://www.mozilla.org/>) によって開発されたソフトウェア、ソフトウェア copyright The JBoss Group, LLC, コンテンツの無断複製・転載を禁じます、ソフトウェア copyright, Red Hat MiddleWare, LLC, コンテンツの無断複製・転載を禁じます、Copyright (C) 1999-2006 by Bruno Lowagie and Paulo Soares および GNU Lesser General Public License Agreement (<http://www.gnu.org/licenses/lgpl.html>を参照) に基づいて許諾された他のソフトウェアが含まれています。資料は、Informatica が無料で提供しており、一切の保証を伴わない「現状渡し」で提供されるものとし、Informatica Corporation は市場性および特定の目的の適合性の黙示的保証を含めて、一切の明示的及び黙示的保証の責任を負いません。

製品には、ワシントン大学、カリフォルニア大学アーバイン校、およびバンダービルト大学の Douglas C. Schmidt および同氏のリサーチグループが著作権を持つ ACE (TM) および TAO (TM) ソフトウェアが含まれています。Copyright (C) 1993-2006, コンテンツの無断複製・転載を禁じます。

本製品には、OpenSSL Toolkit を使用するために OpenSSL Project が開発したソフトウェア (copyright The OpenSSL Project.コンテンツの無断複製・転載を禁じます) が含まれています。また、このソフトウェアの再配布は、<http://www.openssl.org> および <http://www.openssl.org/source/license.html> にある使用条件に従います。

本製品には、Curl ソフトウェア Copyright 1996-2013, Daniel Stenberg, <daniel@haxx.se>が含まれます。コンテンツの無断複製・転載を禁じます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://curl.haxx.se/docs/copyright.html> にある使用条件に従います。すべてのコピーに上記の著作権情報とこの許諾情報が記載されている場合、目的に応じて、本ソフトウェアの使用、コピー、変更、ならびに配布が有償または無償で許可されます。

本製品には、ソフトウェア copyright 2001-2005 (C) MetaStuff, Ltd. コンテンツの無断複製・転載を禁じます。が含まれます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://www.dom4j.org/license.html> にある使用条件に従います。

製品には、ソフトウェア copyright (C) 2004-2007, The Dojo Foundation が含まれます。コンテンツの無断複製・転載を禁じます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://dojotoolkit.org/license> にある使用条件に従います。

本製品には、ICU ソフトウェア copyright International Business Machines Corporation および他のソフトウェアが含まれます。コンテンツの無断複製・転載を禁じます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://source.icu-project.org/repos/icu/icu/trunk/license.html> にある使用条件に従います。

本製品には、ソフトウェア copyright (C) 1996-2006 Per Bothner が含まれます。コンテンツの無断複製・転載を禁じます。お客様がこのようなソフトウェアを使用するための権利は、ライセンスで規定されています。<http://www.gnu.org/software/kawa/Software-License.html> を参照してください。

本製品には、OSSP UUID ソフトウェア Copyright (C) 2002 Ralf S. Engelschall, Copyright (C) 2002 The OSSP Project Copyright (C) 2002 Cable & Wireless Deutschland が含まれます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://www.opensource.org/licenses/mit-license.php> にある使用条件に従います。

本製品には、Boost (<http://www.boost.org/>) によって開発されたソフトウェア、または Boost ソフトウェアライセンスの下で開発されたソフトウェアが含まれます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、http://www.boost.org/LICENSE_1_0.txt にある使用条件に従います。

本製品には、ソフトウェア copyright (C) 1997-2007 University of Cambridge が含まれます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://www.pcre.org/license.txt> にある使用条件に従います。

本製品には、ソフトウェア copyright (C) 2007 The Eclipse Foundation が含まれます。コンテンツの無断複写・転載を禁じます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://www.eclipse.org/org/documents/epl-v10.php> および <http://www.eclipse.org/org/documents/edl-v10.php> にある使用条件に従います。

本製品には、<http://www.tcl.tk/software/tcltk/license.html>、<http://www.bosrup.com/web/overlib/?License>、<http://www.stlport.org/doc/license.html>、<http://www.asm.ow2.org/license.html>、<http://www.cryptix.org/LICENSE.TXT>、<http://hsqldb.org/web/hsqldbLicense.html>、<http://httpunit.sourceforge.net/doc/license.html>、<http://jung.sourceforge.net/license.txt>、http://www.zip.org/zlib/zlib_license.html、<http://www.openldap.org/software/release/license.html>、<http://www.libssh2.org>、<http://slf4j.org/license.html>、<http://www.sente.ch/software/OpenSourceLicense.html>、<http://fusesource.com/downloads/license-agreements/fuse-message-broker-v-5-3-license-agreement>、<http://antlr.org/license.html>、<http://aopalliance.sourceforge.net/>、<http://www.bouncycastle.org/license.html>、<http://www.jgraph.com/jgraphdownload.html>、<http://www.jcraft.com/jsch/LICENSE.txt>、http://jotm.objectweb.org/bsd_license.html に基づいて許諾されたソフトウェアが含まれています。<http://www.w3.org/Consortium/Legal/2002/copyright-software-20021231>、<http://www.slf4j.org/license.html>、<http://nanoxml.sourceforge.net/orig/copyright.html>、<http://www.json.org/license.html>、<http://forge.ow2.org/projects/javaservice/>、<http://www.postgresql.org/about/licence.html>、<http://www.sqlite.org/copyright.html>、<http://www.tcl.tk/software/tcltk/license.html>、<http://www.jaxen.org/faq.html>、<http://www.jdom.org/docs/faq.html>、<http://www.slf4j.org/license.html>、<http://www.iodbc.org/dataspace/iodbc/wiki/iODBC/License>、<http://www.keplerproject.org/md5/license.html>、<http://www.toedter.com/en/jcalendar/license.html>、<http://www.edankert.com/bounce/index.html>、<http://www.net-snmp.org/about/license.html>、<http://www.openmdx.org/#FAQ>、http://www.php.net/license/3_01.txt、<http://srp.stanford.edu/license.txt>、<http://www.schneier.com/blowfish.html>、<http://www.jmock.org/license.html>、<http://xsom.java.net>、<http://benalman.com/about/license/>、<https://github.com/CreateJS/EaselJS/blob/master/src/easeljs/display/Bitmap.js>、<http://www.h2database.com/html/license.html#summary>、<http://jsoncpp.sourceforge.net/LICENSE>、<http://jdbc.postgresql.org/license.html>、<http://protobuf.googlecode.com/svn/trunk/src/google/protobuf/descriptor.proto>、<https://github.com/rantav/hector/blob/master/LICENSE>、<http://web.mit.edu/Kerberos/krb5-current/doc/mitK5license.html>、<http://jibx.sourceforge.net/jibx-license.html>、<https://github.com/lyokato/libgeohash/blob/master/LICENSE>、<https://github.com/hjiang/jsonnx/blob/master/LICENSE>、<https://code.google.com/p/lz4/>、<https://github.com/jedisct1/libsodium/blob/master/LICENSE>、<http://one-jar.sourceforge.net/index.php?page=documents&file=license>、<https://github.com/EsotericSoftware/kryo/blob/master/license.txt>、<http://www.scala-lang.org/license.html>、<https://github.com/tinkerpop/blueprints/blob/master/LICENSE.txt>、<http://gee.cs.oswego.edu/dl/classes/EDU/oswego/cs/dl/util/concurrent/intro.html>、<https://aws.amazon.com/asi/>、<https://github.com/twbs/bootstrap/blob/master/LICENSE>、および <https://sourceforge.net/p/xmlunit/code/HEAD/tree/trunk/LICENSE.txt>。

本製品には、Academic Free License (<http://www.opensource.org/licenses/afl-3.0.php>)、Common Development and Distribution License (<http://www.opensource.org/licenses/cddl1.php>)、Common Public License (<http://www.opensource.org/licenses/cpl1.0.php>)、Sun Binary Code License Agreement Supplemental License Terms、BSD License (<http://www.opensource.org/licenses/bsd-license.php>)、BSD License (<http://opensource.org/licenses/BSD-3-Clause>)、MIT License (<http://www.opensource.org/licenses/mit-license.php>)、Artistic License (<http://www.opensource.org/licenses/artistic-license-1.0>)、Initial Developer's Public License Version 1.0 (<http://www.firebirdsql.org/en/initial-developer-s-public-license-version-1-0/>) に基づいて許諾されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、ソフトウェア copyright (C) 2003-2006 Joe Walnes, 2006-2007 XStream Committers が含まれています。コンテンツの無断複写・転載を禁じます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://j.org/license.html> にある使用条件に従います。本製品には、Indiana University Extreme! Lab によって開発されたソフトウェアが含まれています。詳細については、<http://www.extreme.indiana.edu/> を参照してください。

本製品には、ソフトウェア Copyright (C) 2013 Frank Balluffi and Markus Moeller が含まれています。コンテンツの無断複写・転載を禁じます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、MIT ライセンスの使用条件に従います。

特許については、<https://www.informatica.com/legal/patents.html> を参照してください。

免責: 本文書は、一切の保証を伴わない「現状渡し」で提供されるものとし、Informatica LLC は他社の権利の非侵害、市場性および特定の目的への適合性の黙示の保証などを含めて、一切の明示的および黙示的保証の責任を負いません。Informatica LLC では、本ソフトウェアまたはドキュメントに誤りのないことを保証していません。本ソフトウェアまたはドキュメントに記載されている情報には、技術的に不正確な記述や誤植が含まれる場合があります。本ソフトウェアまたはドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。

NOTICES

この Informatica 製品 (以下「ソフトウェア」) には、Progress Software Corporation (以下「DataDirect」) の事業子会社である DataDirect Technologies からの特定のドライバ (以下「DataDirect ドライバ」) が含まれています。DataDirect ドライバには、次の用語および条件が適用されます。

1. DataDirect ドライバは、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。
2. DataDirect または第三者は、予見の有無を問わず発生した ODBC ドライバの使用に関するいかなる直接的、間接的、偶発的、特別、あるいは結果的損害に対して責任を負わないものとします。本制限事項は、すべての訴訟原因に適用されます。訴訟原因には、契約違反、保証違反、過失、厳格責任、詐称、その他の不法行為を含みますが、これらに限るものではありません。

発行日: 2018-07-02

目次

序文	23
Informatica のリソース.....	23
Informatica マイサポートポータル.....	23
Informatica マニュアル.....	23
Informatica 製品可用性マトリックス.....	24
Informatica の Web サイト.....	24
Informatica How-To ライブラリ.....	24
Informatica ナレッジベース.....	24
Informatica サポートの YouTube チャンネル.....	24
Informatica Marketplace.....	24
Informatica Velocity.....	24
Informatica グローバルカスタマサポート.....	25
第 1 章: コマンドラインプログラムとユーティリティ	26
コマンドラインプログラムとユーティリティの概要.....	26
第 2 章: コマンドラインユーティリティのインストールと設定	28
コマンドラインユーティリティのインストールと設定の概要.....	28
コマンドラインユーティリティのインストール.....	28
インストールディレクトリ.....	29
コマンドラインユーティリティの設定.....	29
Informatica ユーティリティの設定.....	29
PowerCenter ユーティリティの設定.....	30
Metadata Manager ユーティリティの設定.....	30
domains.infa ファイルの作成.....	31
Informatica ユーティリティのセキュリティ設定.....	31
第 3 章: コマンドラインプログラムの使用	33
コマンドラインプログラムの使用の概要.....	33
オプションおよび引数の入力.....	34
構文の表記規則.....	35
セキュアなドメインでのコマンドの実行.....	36
Kerberos 認証を使用する UNIX でのコマンドの実行.....	36
シングルサインインを使用する UNIX でのコマンドの実行.....	36
シングルサインインを使用しない UNIX でのコマンドの実行.....	37
Kerberos 認証を使用する Windows でのコマンドの実行.....	38
第 4 章: コマンドラインプログラムの環境変数	39
コマンドラインプログラムの環境変数の概要.....	39
ICMD_JAVA_OPTS.....	41

UNIX での ICMD_JAVA_OPTS の設定.	41
Windows での ICMD_JAVA_OPTS の設定.	42
INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT.	42
UNIX での INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT の設定.	42
Windows での INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT の設定.	42
INFA_CODEPAGENAME.	42
UNIX での INFA_CODEPAGENAME の設定.	43
Windows での INFA_CODEPAGENAME の設定.	43
INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD.	43
UNIX での INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD の設定.	43
Windows での INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD の設定.	44
INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD.	44
UNIX での INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD の設定.	44
Windows での INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD の設定.	45
INFA_DEFAULT_DOMAIN.	45
UNIX での INFA_DEFAULT_DOMAIN の設定.	45
Windows での INFA_DEFAULT_DOMAIN の設定.	45
INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD.	45
UNIX での INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD の設定.	46
Windows での INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD の設定.	46
INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER.	46
UNIX での INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER の設定.	46
Windows での INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER の設定.	47
INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD.	47
UNIX での INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD の設定.	47
Windows での INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD の設定.	48
INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD.	48
UNIX での INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD の設定.	48
Windows での INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD の設定.	48
INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN.	48
UNIX での INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN の設定.	49
Windows での INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN の設定.	49
INFA_JAVA_CMD_OPTS.	49
UNIX での INFA_JAVA_CMD_OPTS の設定.	49
Windows での INFA_JAVA_CMD_OPTS の設定.	49
INFA_PASSWORD.	50
UNIX での INFA_PASSWORD の設定.	50
Windows での INFA_PASSWORD の設定.	50
INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD.	51
UNIX での INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD の設定.	51
Windows での INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD の設定.	51
INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD.	51

UNIX での INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD の設定.	52
Windows での INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD の設定.	52
INFA_REPCNX_INFO.	52
UNIX での INFA_REPCNX_INFO の設定.	53
Windows での INFA_REPCNX_INFO の設定.	53
INFA_REPOSITORY_PASSWORD.	53
UNIX での INFA_REPOSITORY_PASSWORD の設定.	53
Windows での INFA_REPOSITORY_PASSWORD の設定.	54
INFATool_DATEFORMAT.	54
UNIX での INFATool_DATEFORMAT の設定.	54
Windows での INFATool_DATEFORMAT の設定.	54
パスワードの暗号化.	54
環境変数としてのパスワードの使用.	55
ユーザー名の設定.	56
UNIX での環境変数としてのユーザー名の設定.	56
Windows での環境変数としてのユーザー名の設定.	56
第 5 章 : infacmd の使用.	57
infacmd の使用の概要.	57
infacmd コマンドプログラム.	58
infacmd ListPlugins.	58
コマンドの実行.	59
infacmd の戻りコード.	60
infacmd UpdateGatewayInfo.	60
第 6 章 : infacmd as コマンドリファレンス.	62
CreateService.	62
CreateAuditTables.	65
DeleteAuditTables.	67
ListServiceOptions.	68
ListServiceProcessOptions.	69
UpdateServiceOptions.	71
UpdateServiceProcessOptions.	73
第 7 章 : infacmd aud コマンドリファレンス.	76
getDomainObjectPermissions.	76
getPrivilegeAssociation.	78
getUserGroupAssociation.	80
getUserGroupAssociationForRoles.	82
getUsersPersonalInfo.	84
第 8 章 : infacmd bg コマンドリファレンス.	87
upgradeRepository.	87

第 9 章 : infacmd cms コマンドリファレンス.....	89
CreateAuditTables.	89
CreateService.	91
DeleteAuditTables.	93
ListServiceOptions.	95
ListServiceProcessOptions.	97
Purge.	98
RemoveService.	100
ResyncData.	102
UpdateServiceOptions.	104
UpdateServiceProcessOptions.	106
アップグレード.....	108
第 10 章 : infacmd dis コマンドリファレンス.....	110
AddParameterSetEntries.	111
BackupApplication.	113
CancelDataObjectCacheRefresh.	114
CreateService.	116
DeleteParameterSetEntries.	120
DeployApplication.	122
ListApplications.	123
ListApplicationObjects.	125
ListApplicationOptions.	127
ListComputeOptions.	128
ListDataObjectOptions.	130
ListParameterSetEntries.	132
ListParameterSetObjects.	133
ListParameterSets.	135
ListSequenceObjectProperties.	136
ListSequenceObjects.	138
ListServiceOptions.	140
ListServiceProcessOptions.	141
PurgeDataObjectCache.	143
PurgeResultSetCache.	145
RefreshDataObjectCache.	147
RenameApplication.	148
RestoreApplication.	150
SetSequenceState.	152
StartApplication.	154
StopApplication.	156
stopBlazeService.	158
UndeployApplication.	159

UpdateApplication.	161
UpdateApplicationOptions.	162
UpdateComputeOptions.	164
UpdateDataObjectOptions.	166
データオブジェクトのオプション.	168
UpdateParameterSetEntries.	169
UpdateServiceOptions.	170
データ統合サービスのオプション.	172
UpdateServiceProcessOptions.	185
データ統合サービスプロセスのオプション.	186
第 11 章 : infacmd es コマンドリファレンス.	189
ListServiceOptions.	189
UpdateServiceOptions.	191
UpdateSMTPOptions.	193
第 12 章 : infacmd ipc コマンドリファレンス.	196
ExportToPC.	196
ImportFromPC.	199
第 13 章 : infacmd isp コマンドリファレンス.	202
AddAlertUser.	202
AddConnectionPermissions.	204
AddDomainLink.	206
AddDomainNode.	208
AddGroupPrivilege.	210
AddLicense.	212
AddNamespace.	214
AddNodeResource.	216
AddRolePrivilege.	218
AddServiceLevel.	220
AddUserPrivilege.	222
AddUserToGroup.	224
AssignedToLicense.	226
AssignGroupPermission.	228
AssignIStoMMSservice.	230
AssignLicense.	232
AssignRoleToGroup.	234
AssignRoletoUser.	236
AssignRStoWSHubService.	238
AssignUserPermission.	240
BackupDARepositoryContents.	242
ConvertLogFile.	244

convertUserActivityLogFile.	245
CreateConnection.	245
Adabas 接続オプション.	249
DataSift 接続オプション.	251
DB2 for i5/OS 接続オプション.	252
Facebook 接続オプション.	255
Greenplum 接続オプション.	257
HBase 接続のオプション.	258
HDFS 接続オプション.	260
Hadoop 接続オプション.	261
Hive 接続オプション.	268
DB2 for z/OS 接続オプション.	273
IBM DB2 接続オプション.	275
IMS 接続オプション.	278
JDBC 接続オプション.	281
LinkedIn 接続オプション.	283
Microsoft SQL Server 接続オプション.	284
Netezza 接続オプション.	287
OData 接続オプション.	288
ODBC 接続オプション.	290
Oracle 接続オプション.	292
Salesforce 接続オプション.	295
SAP 接続オプション.	296
シーケンシャル接続オプション.	297
Teradata Parallel Transporter 接続オプション.	300
Twitter 接続オプション.	302
Twitter ストリーミング接続オプション.	303
VSAM 接続オプション.	304
Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション.	307
CreateDARepositoryContents.	308
CreateFolder.	309
CreateGrid.	311
creategroup	313
CreateIntegrationService.	315
統合サービスのオプション.	318
Integration Service プロセスのオプション.	323
CreateMMService.	324
Metadata Manager サービスのオプション.	327
CreateOSProfile	329
オペレーティングシステムのプロファイル用の Integration Service プロセスのオプション.	331
CreateReportingService.	332
Reporting Service のオプション.	334

レポートソースのオプション.	336
リネージサービスのオプション.	336
CreateRepositoryService.	337
CreateRole.	341
CreateSAPBWService.	343
SAP BW サービスのオプション.	346
SAP BW サービスプロセスのオプション.	346
CreateUser.	347
CreateWSHubService.	349
Web Services Hub のオプション.	352
DeleteDARepositoryContents.	353
DeleteNamespace.	354
DisableNodeResource.	356
DisableService.	358
DisableServiceProcess.	360
DisableUser.	362
EditUser.	364
EnableNodeResource.	366
EnableService.	368
EnableServiceProcess.	370
EnableUser.	372
ExportDomainObjects.	373
ExportUsersAndGroups.	376
GetFolderInfo.	378
GetLastError.	380
GetLog.	382
GetNodeName.	385
GetServiceOption.	386
GetServiceProcessOption.	388
GetServiceProcessStatus.	389
GetServiceStatus.	391
GetSessionLog.	393
GetSystemLogDirectory.	396
getUserActivityLog.	397
GetWorkflowLog.	400
Help.	403
ImportDomainObjects.	404
ImportUsersAndGroups.	408
ListAlertUsers.	410
ListAllGroups.	411
ListAllRoles.	413
ListAllUsers.	414

ListConnectionPermissions.	416
ListConnectionPermissionsByGroup.	417
ListConnectionPermissionsByUser.	419
ListConnections.	420
ListConnectionOptions.	422
ListDomainLinks.	424
ListDomainOptions.	425
ListFolders.	427
ListGridNodes.	428
ListGroupPermissions.	430
ListGroupPrivileges.	432
ListGroupsForUser.	433
ListLDAPConnectivity	435
ListLicenses.	437
ListMonitoringOptions.	438
ListNodeOptions.	440
ListNodeResources.	441
ListNodeRoles.	443
ListNodes.	444
ListOSProfiles.	446
ListRepositoryLDAPConfiguration.	448
ListRolePrivileges.	449
ListSecurityDomains.	451
ListServiceLevels.	452
ListServiceNodes.	454
ListServicePrivileges.	455
ListServices.	457
ListSMTPOptions.	459
ListUserPermissions.	461
ListUserPrivileges.	463
migrateUsers.	464
MoveFolder.	466
MoveObject.	468
Ping.	470
PrintSPNAndKeytabNames.	471
PurgeLog.	473
PurgeMonitoringData.	474
RemoveAlertUser.	477
RemoveConnection.	479
RemoveConnectionPermissions.	480
RemoveDomainLink.	482
RemoveFolder.	484

RemoveGrid.	485
RemoveGroup.	487
RemoveGroupPermission	488
RemoveGroupPrivilege.	490
RemoveLicense.	492
RemoveNode.	494
RemoveNodeResource.	495
RemoveOSProfile.	497
RemoveRole	499
RemoveRolePrivilege	500
RemoveService.	502
RemoveServiceLevel.	504
RemoveUser.	505
RemoveUserFromGroup	507
RemoveUserPermission	508
RemoveUserPrivilege	511
RenameConnection.	513
ResetPassword.	514
RestoreDARepositoryContents.	516
RunCPUProfile.	518
SetConnectionPermissions.	519
SetLDAPConnectivity	521
SetRepositoryLDAPConfiguration	524
ShowLicense.	527
ShutdownNode.	528
SwitchToGatewayNode.	530
SwitchToWorkerNode.	532
SyncSecurityDomains.	533
UnassignISMMSservice.	535
UnassignLicense.	537
UnassignRoleFromGroup	538
UnassignRoleFromUser.	540
UnassignRSWSHubService.	542
UnassociateDomainNode.	544
UpdateConnection.	546
UpdateDomainOptions.	549
UpdateFolder.	551
UpdateGatewayInfo	553
UpdateGrid.	554
UpdateIntegrationService.	556
UpdateLicense.	558
UpdateMMSservice.	560

UpdateMonitoringOptions.	561
UpdateNamespace.	565
UpdateNodeOptions.	567
UpdateNodeRole.	569
UpdateOSProfile.	571
UpdateReportingService.	573
UpdateRepositoryService.	575
UpdateSAPBWService.	579
UpdateServiceLevel.	581
UpdateServiceProcess.	583
UpdateSMTPOptions.	585
UpdateWSHubService.	587
UpgradeDARepositoryContents.	589
UpgradeDARepositoryUsers.	590
validateFeature.	592
Version.	593
第 14 章 : infacmd mrs コマンドリファレンス.	594
BackupContents.	595
CheckInObject.	597
CreateContents.	598
CreateFolder.	600
CreateProject.	601
CreateService.	603
DeleteContents.	606
DeleteFolder.	608
DeleteProject.	609
ListBackupFiles.	611
ListCheckedOutObjects.	613
listFolders.	614
ListLockedObjects	616
ListProjects.	618
ListServiceOptions.	620
ListServiceProcessOptions.	621
PopulateVCS.	623
ReassignCheckedOutObject.	624
rebuildDependencyGraph.	626
RenameFolder.	628
RestoreContents.	629
UndoCheckout.	631
UnlockObject.	633
UpdateServiceOptions.	635
モデルリポジトリサービスのオプション.	637

UpdateServiceProcessOptions.	640
UpgradeContents.	642
第 15 章 : infacmd ms コマンドリファレンス	644
GetRequestLog.	644
ListMappingParams.	646
ListMappingParams の出力.	648
ListMappings.	649
RunMapping.	651
UpgradeMappingParameterFile.	654
第 16 章 : infacmd oie コマンドリファレンス	657
DeployApplication.	657
ExportObjects.	658
exportResources.	662
ImportObjects.	664
第 17 章 : infacmd ps コマンドリファレンス	671
cancelProfileExecution.	671
CreateWH.	673
DropWH.	674
Execute.	676
executeProfile.	678
getExecutionStatus.	679
getProfileExecutionStatus.	681
List.	683
migrateProfileResults.	684
migrateScorecards.	686
消去.	687
synchronizeProfile.	690
第 18 章 : infacmd pwx コマンドリファレンス	692
CloseForceListener.	693
CloseListener.	696
CondenseLogger.	698
createdatamaps.	700
CreateListenerService.	703
CreateLoggerService.	706
DisplayAllLogger.	711
DisplayCPULogger.	714
DisplayEventsLogger.	716
DisplayMemoryLogger.	719
DisplayRecordsLogger.	721

displayStatsListener.	725
DisplayStatusLogger.	729
FileSwitchLogger.	731
ListTaskListener.	734
ShutDownLogger.	736
StopTaskListener.	739
UpgradeModels.	742
UpdateListenerService.	744
UpdateLoggerService.	747
第 19 章 : infacmd rms コマンドリファレンス.	753
ListComputeNodeAttributes.	753
ListServiceOptions.	755
SetComputeNodeAttributes.	756
UpdateServiceOptions.	758
リソースマネージャサービスのオプション.	760
第 20 章 : infacmd rtm コマンドリファレンス.	761
DeployImport.	761
Export.	763
Import.	765
第 21 章 : infacmd sch コマンドリファレンス.	769
CreateSchedule.	769
DeleteSchedule.	772
ListSchedule.	774
ListServiceOptions.	776
ListServiceProcessOptions.	778
PauseAll.	780
PauseSchedule.	781
ResumeAll.	783
ResumeSchedule.	784
UpdateSchedule.	786
UpdateServiceOptions.	789
スケジューラサービスのオプション.	790
UpdateServiceProcessOptions.	792
スケジューラサービスプロセスのオプション.	794
アップグレード.	796
第 22 章 : infacmd search コマンドリファレンス.	798
CreateService.	798
ListServiceOptions.	801
ListServiceProcessOptions.	803

UpdateServiceOptions.	804
UpdateServiceProcessOptions.	806
第 23 章 : infacmd sql コマンドリファレンス.	809
ExecuteSQL.	809
ListColumnOptions.	810
ListSQLDataServiceOptions.	812
ListSQLDataServicePermissions.	813
ListSQLDataServices.	815
ListStoredProcedurePermissions.	817
ListTableOptions.	818
ListTablePermissions.	820
PurgeTableCache.	822
RefreshTableCache.	823
RenameSQLDataService.	825
SetColumnPermissions.	826
SetSQLDataServicePermissions.	829
SetStoredProcedurePermissions.	831
SetTablePermissions.	834
StartSQLDataService.	837
StopSQLDataService.	839
UpdateColumnOptions.	840
カラムのオプション.	842
UpdateSQLDataServiceOptions.	843
SQL データサービスオプション.	844
UpdateTableOptions.	846
仮想テーブルのオプション.	848
第 24 章 : infacmd tdm コマンドリファレンス.	849
CreateService.	849
CreateContents.	855
EnableService.	857
DisableService.	858
第 25 章 : infacmd wfs コマンドリファレンス.	860
abortWorkflow.	860
bulkComplete.	862
cancelWorkflow.	864
createTables.	866
dropTables.	868
listActiveWorkflowInstances.	869
listMappingPersistedOutputs.	871
listWorkflowParams.	873

listWorkflowParams の出力.	875
listWorkflows.	875
recoverWorkflow.	877
setMappingPersistedOutputs.	879
startWorkflow.	882
upgradeParameterFile.	884
第 26 章 : infacmd ws コマンドリファレンス.	887
ListOperationOptions.	887
ListOperationPermissions.	889
ListWebServiceOptions.	891
ListWebServicePermissions.	893
ListWebServices.	895
RenameWebService.	896
SetOperationPermissions.	898
SetWebServicePermissions.	901
StartWebService.	903
StopWebService.	905
UpdateOperationOptions.	906
操作オプション.	908
UpdateWebServiceOptions.	908
Web サービスオプション.	910
第 27 章 : infacmd xrf コマンドリファレンス.	912
generateReadableViewXML.	912
updateExportXML.	912
第 28 章 : infacmd 制御ファイル.	914
infacmd 制御ファイルの概要.	914
制御ファイルの構成.	915
制御ファイルの命名規則.	915
エクスポート制御ファイル.	915
ドメインオブジェクト用のエクスポート制御ファイルのパラメータ.	916
モデルリポジトリオブジェクト用のエクスポート制御ファイルのパラメータ.	918
インポート制御ファイル.	920
ドメインオブジェクト用のインポート制御ファイルのパラメータ.	921
モデルリポジトリオブジェクト用のインポート制御ファイルのパラメータ.	923
制御ファイルに関するルールおよびガイドライン.	928
ドメインオブジェクト用の制御ファイルの例.	928
モデルリポジトリオブジェクト用の制御ファイルの例.	930
第 29 章 : infasetup コマンドリファレンス.	932
infasetup の使用.	932

コマンドの実行.	933
コマンドのオプション.	933
infasetup の戻りコード.	933
データベース接続文字列の使用.	933
BackupDomain.	934
DefineDomain.	936
DefineGatewayNode.	948
DefineWorkerNode.	954
DeleteDomain.	958
GenerateEncryptionKey.	960
Help.	961
MigrateEncryptionKey.	962
RestoreDomain.	962
SwitchToKerberosMode.	965
UpdateGatewayNode.	966
UpdateKerberosAdminUser.	971
UpdateKerberosConfig.	971
UpdateWorkerNode.	972
UnlockUser.	975
ValidateandRegisterFeature.	976

第 30 章 : pmcmd コマンドリファレンス. 977

pmcmd の使用.	978
コマンドラインモードでのコマンドの実行.	978
対話モードでのコマンドの実行.	980
待ちモードでの実行.	981
pmcmd コマンドのスクリプト作成.	981
コマンドのオプションの入力.	982
AbortTask.	983
abortworkflow.	985
Connect.	986
Disconnect.	987
Exit.	988
GetRunningSessionsDetails.	988
GetServiceDetails.	989
GetServiceProperties.	991
getsessionstatistics.	992
GetTaskDetails.	994
GetWorkflowDetails.	996
Help.	999
PingService.	1000
RecoverWorkflow.	1000
ScheduleWorkflow.	1002

SetFolder.	1004
SetNoWait.	1004
SetWait.	1005
ShowSettings.	1005
StartTask.	1005
starttask でのパラメータファイルの使用.	1008
StartWorkflow.	1008
startworkflow でのパラメータファイルの使用.	1011
StopTask.	1012
StopWorkflow.	1014
UnscheduleWorkflow.	1015
UnsetFolder.	1017
バージョン.	1017
WaitTask.	1017
WaitWorkflow.	1019
第 31 章 : pmrep コマンドリファレンス.	1022
pmrep の使用.	1023
コマンドラインモードでのコマンドの実行.	1024
対話モードでのコマンドの実行.	1024
ノーマルモードおよび排他モードでのコマンドの実行.	1025
pmrep の戻りコード.	1025
ネイティブ接続文字列の使用.	1025
pmrep コマンドのスクリプト作成.	1025
AddToDeploymentGroup.	1026
ApplyLabel.	1028
AssignPermission.	1030
例.	1032
BackUp.	1032
ChangeOwner.	1033
CheckIn.	1034
CleanUp.	1034
ClearDeploymentGroup.	1035
Connect.	1035
Create.	1037
CreateConnection.	1038
データベースタイプの指定.	1041
データベースのコードページの指定.	1043
CreateDeploymentGroup.	1043
CreateFolder.	1044
権限の割り当て.	1045
CreateLabel.	1046
Delete.	1046

DeleteConnection.	1047
DeleteDeploymentGroup.	1048
DeleteFolder.	1048
DeleteLabel.	1048
DeleteObject.	1049
DeployDeploymentGroup.	1050
DeployFolder.	1051
ExecuteQuery.	1053
Exit.	1055
FindCheckout.	1055
GetConnectionDetails.	1056
GenerateAbapProgramToFile.	1057
Help.	1059
InstallAbapProgram.	1059
KillUserConnection.	1061
ListConnections.	1062
ListObjectDependencies.	1062
ListObjects.	1065
オブジェクトタイプの一覧表示.	1067
フォルダの一覧表示.	1070
オブジェクトの一覧表示.	1070
ListTablesBySess.	1071
ListUserConnections.	1072
MassUpdate.	1072
セッションプロパティタイプ.	1075
MassUpdate に関するルールおよびガイドライン.	1078
サンプルのログファイル.	1079
ModifyFolder.	1079
Notify.	1081
ObjectExport.	1081
例.	1083
ObjectImport.	1083
PurgeVersion.	1084
例.	1086
Register.	1087
RegisterPlugin.	1088
セキュリティモジュールの登録.	1090
例.	1090
Restore.	1090
例.	1092
RollbackDeployment.	1092
例.	1093

Run.	1093
ShowConnectionInfo.	1094
SwitchConnection.	1094
TruncateLog.	1095
UndoCheckout.	1096
Unregister.	1097
UnregisterPlugin.	1098
外部セキュリティモジュールの登録解除.	1099
例.	1100
UpdateConnection.	1100
UpdateEmailAddr.	1101
UpdateSeqGenVals.	1102
UpdateSrcPrefix.	1103
UpdateStatistics.	1104
UpdateTargPrefix.	1105
Upgrade.	1106
UninstallAbapProgram.	1106
検証.	1108
バージョン.	1110
第 32 章 : pmrep ファイルに関する作業.	1111
pmrep ファイルに関する作業の概要.	1111
永続入力ファイルの使用.	1111
pmrep での永続入力ファイルの作成.	1112
手動での永続入力ファイルの作成.	1113
オブジェクトインポート制御ファイルの使用.	1113
オブジェクトインポート制御ファイルのパラメータ.	1115
オブジェクトインポート制御ファイルの例.	1118
ソースオブジェクトのインポート.	1119
複数のオブジェクトの 1 つのフォルダへのインポート.	1119
インポートされたオブジェクトのチェックインおよびラベルの適用.	1120
シーケンスジェネレータおよびノーマライザの値の保持.	1120
オブジェクトおよびローカルショートカットオブジェクトの同一リポジトリへのインポート.	1120
別のリポジトリからのショートカットオブジェクトのインポート.	1121
複数のフォルダへのオブジェクトのインポート.	1121
特定のオブジェクトのインポート.	1122
依存オブジェクトの再利用および上書き.	1122
無効なマッピングの上書き.	1122
オブジェクト名の変更.	1123
SAP マッピングおよび SAP プログラム情報のコピー.	1123
デフォルトの接続属性の適用.	1124
オブジェクト競合の解決.	1124
デプロイメント制御ファイルの使用.	1125

デプロイメント制御ファイルのパラメータ.....	1126
デプロイメント制御ファイルの例.....	1130
フォルダの最新バージョンのデプロイメント.....	1130
デプロイメントグループの最新バージョンのデプロイメント.....	1130
複数のソースフォルダとターゲットフォルダの一覧表示.....	1131
pmrep ファイルに関する作業のためのヒント.....	1132
索引.....	1133

序文

『Informatica コマンドリファレンス』は、リポジトリの管理、ドメインおよびサービスの管理を担当する Informatica の管理者および開発者を対象としています。読者は、使用する環境のオペレーティングシステムについて理解している必要があります。また、使用するアプリケーションのインターフェース要件についても理解していることを前提としています。

Informatica のリソース

Informatica マイサポートポータル

Informatica のユーザーは、最初に Informatica マイサポートポータル (<https://mysupport.informatica.com>) から Informatica にアクセスします。マイサポートポータルは、大規模なオンラインデータ統合コラボレーションプラットフォームであり、全世界で 10 万人を超える Informatica の顧客およびパートナーが利用しています。

メンバーは以下の操作を行うことができます。

- 1 つの場所からすべての Informatica のリソースにアクセスできます。
- 自分のサポート事例を確認できます。
- ナレッジベースや製品マニュアルを検索したり、入門ドキュメントを参照したり、サポートビデオを視聴したりできます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

メンバーは以下の操作を行うことができます。

- 1 つの場所からすべての Informatica のリソースにアクセスできます。
- ナレッジベースや製品マニュアルを検索したり、入門ドキュメントを参照したり、サポートビデオを視聴したりできます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルチームは、正確で役に立つマニュアルの作成に努めています。このマニュアルに関する質問、コメント、ご意見の電子メールの送付先は、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) です。お客様のフィードバックは、マニュアルの改良に利用させていただきます。コメントに返信をご希望のお客様は、その旨をお知らせください。

マニュアルチームは、必要に応じてマニュアルを更新します。製品の最新のマニュアルを入手するには、<https://mysupport.informatica.com> から製品マニュアルにアクセスします。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス (PAM) には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。PAM は、Informatica My Support ポータル (<https://mysupport.informatica.com>) でアクセスできます。

Informatica の Web サイト

Informatica 社の Web サイトは、<https://www.informatica.com> からアクセスできます。このサイトでは、Informatica 社の概要と沿革、今後のイベント、営業拠点などの情報を提供しています。また、製品情報やパートナー情報も提供しています。サービス関連のページには、テクニカルサポート、トレーニングと教育、および実装に関するサービスの重要な情報を掲載しています。

Informatica How-To ライブラリ

Informatica のユーザーとして、Informatica How-To ライブラリ (<https://mysupport.informatica.com>) にアクセスできます。How-To Library は、Informatica の製品および機能についての詳細を確認できるリソースのコレクションです。一般的な問題に対するソリューションを提供したり、機能や動作を比較したり、特定の実際のタスクを実行するための方法を示したりする記事やインタラクティブなデモンストレーションが含まれています。

Informatica ナレッジベース

Informatica のユーザーとして、Informatica ナレッジベース (<https://mysupport.informatica.com>) にアクセスできます。この Knowledge Base を利用して、Informatica 製品に関する既知の技術的問題の解決策を検索することができます。また、FAQ (よくある質問) の答え、技術的ホワイトペーパー、技術的なヒントも得られます。Knowledge Base に関する質問、コメント、ご意見の電子メールの送付先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica サポートの YouTube チャンネル

<http://www.youtube.com/user/INFASupport> で Informatica サポートの YouTube チャンネルにアクセスできます。Informatica サポートの YouTube チャンネルでは、特定のタスクを実行するソリューションについてのビデオを用意しています。Informatica サポートの YouTube チャンネルに関する質問、コメント、またはアイデアがある場合は、サポート YouTube チームに電子メール (supportvideos@informatica.com) を送信するか、または @INFASupport でツイートしてください。

Informatica Marketplace

情報マーケットプレイスは、開発者とパートナーがデータ統合実装を増幅、拡張、強化するソリューションを共有するためのフォーラムです。マーケットプレイスにある何百ものソリューションを利用して、プロジェクトで実装にかかる時間を短縮したり、生産性を向上させたりできます。Informatica Marketplace には、<http://www.informaticamarketplace.com> からアクセスできます。

Informatica Velocity

<https://mysupport.informatica.com> で Informatica Velocity にアクセスできます。数多くのデータ管理プロジェクトの実世界での経験から開発された Informatica Velocity は、世界中の組織と協力して優れたデータ管理ソリューションの計画、開発、展開、および維持を行ってきた弊社コンサルタントの知識の集合体を表しています。Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話またはオンラインサポートからカスタマサポートセンターに連絡できます。

オンラインサポートのご利用には、ユーザー名とパスワードが必要です。<http://mysupport.informatica.com>から、ユーザー名とパスワードが入手できます。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト <http://www.informatica.com/us/services-and-training/support-services/global-support-centers/>に掲載されています。

第 1 章

コマンドラインプログラムとユーティリティ

- [コマンドラインプログラムとユーティリティの概要, 26 ページ](#)

コマンドラインプログラムとユーティリティの概要

Informatica インストールには、カスタマサポートツール、コマンドラインプログラム、ユーティリティが含まれます。コマンドラインプログラムとユーティリティは、Informatica ドメイン、アプリケーションサービス、オブジェクトの管理に使用します。コマンドラインプログラムとユーティリティは、Informatica ドメインにアクセスできる任意のマシンで実行できます。

Informatica サービスや Informatica クライアントをインストールした場合、コマンドラインプログラムとユーティリティがデフォルトでインストールされます。また、Informatica ユーティリティをインストールすることにより、他のマシンでプログラムおよびユーティリティをインストールおよび実行することもできます。

以下の表では、Informatica ユーティリティについて説明します。

コマンドラインプログラム	説明
infacmd	リポジトリおよび統合サービスを含む Informatica ドメインとアプリケーションサービスおよびプロセスを管理します。infacmd を使用してライセンスとログイベントへのアクセスと管理を行い、オブジェクトとユーザーアカウントのエクスポートとインポートを行うこともできます。
infasetup	ドメインとノードを管理します。

以下の表では、PowerCenter ユーティリティについて説明します。

コマンドラインプログラム	説明
pmcmd	ワークフローを管理します。pmcmd を使用して、ワークフローの開始、停止、スケジュール設定、および監視を行います。
pmpasswd	pmcmd および pmrep 環境変数を使用する場合にパスワードを暗号化します。
pmrep	リポジトリ管理操作を実行します。pmrep を使用して、リポジトリオブジェクトの一覧表示、グループの作成と編集、およびリポジトリのリストアと削除を行います。

以下の表では、Metadata Manager ユーティリティについて説明します。

コマンドラインプログラム	説明
mmcmd	リソースのロードと管理、モデルとカスタムリソースのインポートとエクスポートを行います。
mmRepoCmd	Metadata Manager リポジトリのコンテンツの作成、削除、バックアップ、およびリストアを行います。Metadata Manager オブジェクトを含む PowerCenter リポジトリのバックアップファイルを PowerCenter リポジトリデータベースにリストアします。
rmu	以前のバージョンの Metadata Manager から現在のバージョンにリソースを移行します。
rcfmu	以前のバージョンの Metadata Manager から現在のバージョンにリソース構成ファイルを移行します。

第 2 章

コマンドラインユーティリティのインストールと設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [コマンドラインユーティリティのインストールと設定の概要, 28 ページ](#)
- [コマンドラインユーティリティのインストール, 28 ページ](#)
- [コマンドラインユーティリティの設定, 29 ページ](#)
- [Informatica ユーティリティのセキュリティ設定, 31 ページ](#)

コマンドラインユーティリティのインストールと設定の概要

Informatica サービスや Informatica クライアントをインストールした場合、コマンドラインユーティリティがデフォルトでインストールされます。また、Informatica 製品をインストールすることなくあらゆるマシンでコマンドラインプログラムをインストールおよび実行することもできます。

ドメインに安全な接続を可能する場合、またはドメインで Kerberos 認証を使用する場合、コマンドラインユーティリティをインストールしたマシンでセキュリティ設定を実行します。

コマンドラインユーティリティのインストール

Informatica ドメイン、アプリケーションサービス、オブジェクトを管理するには、コマンドラインユーティリティをインストールして設定します。

Informatica では、Informatica 製品がインストールされていないマシンでコマンドラインユーティリティをインストールする個別の ZIP ファイルが提供されています。この ZIP ファイルを入手するには、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

コマンドラインユーティリティを実行するマシンにファイルを抽出します。

コマンドラインプログラムを実行する前には、コマンドラインプログラムの環境変数を設定する必要があります。また、コマンドを実行するユーザーアカウントに、ユーティリティファイルに対する実行権限を付与する必要があります。

インストールディレクトリ

コマンドラインユーティリティのインストールディレクトリは、ユーティリティが Informatica サービスまたは Informatica クライアントと共にインストールされているか、またはスタンドアロンコマンドラインユーティリティとしてインストールされているかによって異なります。

Informatica サービスのインストール

Informatica ユーティリティは、以下のディレクトリにインストールされます。

<Informatica インストールディレクトリ>/isp/bin

PowerCenter ユーティリティは、以下のディレクトリにインストールされます。

<Informatica インストールディレクトリ>/server/bin

Metadata Manager ユーティリティは、以下のディレクトリにインストールされます。

<Informatica インストールディレクトリ>\services\MetadataManagerService\utilities\

Informatica クライアントのインストール

Developer tool をインストールする際に、Informatica ユーティリティは以下のディレクトリにインストールされます。

<Informatica インストールディレクトリ>/clients/DeveloperClient/infacmd

PowerCenter クライアントをインストールする際に、PowerCenter ユーティリティは以下のディレクトリにインストールされます。

<Informatica インストールディレクトリ>/clients/PowerCenterClient/CommandLineUtilities/PC/server/bin

PowerCenter クライアントをインストールする際に、Metadata Manager ユーティリティは以下のディレクトリにインストールされます。

<Informatica インストールディレクトリ>/clients/PowerCenterClient/CommandLineUtilities/MM

コマンドラインユーティリティのインストール

Informatica ユーティリティは、以下のディレクトリにインストールされます。

<ユーティリティのインストールディレクトリ>/PowerCenter/isp/bin

PowerCenter ユーティリティは、以下のディレクトリにインストールされます。

<ユーティリティのインストールディレクトリ>/PowerCenter/server/bin

Metadata Manager ユーティリティは、以下のディレクトリにインストールされます。

<ユーティリティのインストールディレクトリ>/MetadataManager/utilities

コマンドラインユーティリティの設定

コマンドラインユーティリティで必要とされるパスおよび環境変数を設定します。コマンドを実行するユーザーアカウントに、ユーティリティファイルに対する実行権限を付与します。

Informatica ユーティリティの設定

infacmd および infasetup コマンドラインプログラムに必要な環境変数を設定します。

infacmd を実行するには、ICMD_JAVA_OPTS 環境変数を設定します。

infasetup を実行するには、INFA_JAVA_CMD_OPTS 環境変数を設定します。

PowerCenter ユーティリティの設定

PowerCenter ユーティリティを実行する前に、以下のガイドラインを使用して、プログラムファイルと変数を設定します。

- pmrep、pmcmd、pmpasswd を実行するには、Informatica ドメインの domains.infra ファイルをユーティリティディレクトリにコピーします。
- pmrep、pmcmd、pmpasswd を UNIX で実行するには、INFA_HOME、PATH、およびライブラリパス環境変数をユーティリティの場所に設定します。

例えば、コマンドラインユーティリティが/data/Informatica_cmd_utilities/フォルダにインストールされている場合、PowerCenter ユーティリティは/data/Informatica_cmd_utilities/PowerCenter/server/bin フォルダ内に置かれます。Linux では、コマンドプロンプトで次のように環境変数を設定できます。

```
setenv INFA_HOME /data/Informatica_cmd_utilities/PowerCenter/  
setenv PATH ./data/Informatica_cmd_utilities/PowerCenter/server/bin:$PATH  
setenv LD_LIBRARY_PATH ./data/Informatica_cmd_utilities/PowerCenter/server/bin:$LD_LIBRARY_PATH
```

注: INFA_HOME またはライブラリパス環境変数を設定した後で、マシンを再起動します。

Metadata Manager ユーティリティの設定

Metadata Manager ユーティリティを設定するには、Java Virtual Machine と Informatica ルートディレクトリの場所を指定する環境変数を設定します。このほか、Solaris の共有ライブラリの場所も検証する必要があります。

ドメインが Kerberos 認証を使用する場合は、domains.infra ファイルを作成します。Metadata Manager コマンドラインプログラムは、domains.infra ファイルを使用してドメインのゲートウェイ接続情報を取得します。

以下の環境変数を設定します。

JAVA_HOME

Java Virtual Machine の場所を指定します。JAVA_HOME を、インストールされたコマンドラインユーティリティ内にある PowerCenter Java ディレクトリに設定します。以下に例を示します。

```
<ユーティリティのインストールディレクトリ>\PowerCenter\java
```

この環境変数を、次に示す方法で各 Metadata Manager コマンドラインプログラムに設定します。

1. テキストエディタを使用して、バッチファイルまたはシェルスクリプトを開きます。
2. JAVA_HOME を@INFA_JDK_HOME@に設定する行を見つけます。
3. 文字列@INFA_JDK_HOME@を PowerCenter Java ディレクトリに置き換えます。以下に例を示します。

```
set JAVA_HOME=C:\InfaUtilities\PowerCenter\java
```
4. バッチファイルまたはシェルスクリプトを保存して閉じます。

INFA_HOME

すべての Informatica アプリケーションまたはサービスが、実行する必要がある他の Informatica コンポーネントを見つけることができるように、Informatica ルートディレクトリを指定します。INFA_HOME を、インストールされたコマンドラインユーティリティ内にある PowerCenter ディレクトリに設定します。以下に例を示します。

```
<ユーティリティのインストールディレクトリ>\PowerCenter
```

この環境変数を、Informatica ユーティリティをインストールしたマシンごとに設定します。

LD_LIBRARY_PATH

Solaris の場合、必須です。共有ライブラリの場所を指定します。LD_LIBRARY_PATH 環境変数に以下のディレクトリが含まれていることを確認します。

```
${JAVA_HOME}/jre/lib/sparcv9/server:${JAVA_HOME}/jre/lib/sparcv9/jli
```

この環境変数を、Informatica ユーティリティをインストールしたマシンごとに設定します。

注: INFA_HOME または LD_LIBRARY_PATH 環境変数を設定した後で、マシンを再起動します。

domains.infa ファイルの作成

domains.infa ファイルには、ドメインのゲートウェイ接続情報が含まれます。ドメインが Kerberos 認証を使用する場合は、コマンドラインプログラムがドメインのゲートウェイ接続情報を取得できるように、domains.infa ファイルを作成します。

ドメインが Kerberos 認証を使用する場合は、コマンドラインプログラムコマンドの実行時にドメイン接続情報を入力する必要があります。ドメイン接続情報は、--domainName オプションまたは--gateway オプションを使用して入力します。--domainName オプションを使用するには、domains.infa ファイルにドメインゲートウェイ接続情報が含まれている必要があります。domains.infa ファイルが存在しないか、またはこのファイル内の情報が古い場合は、ドメインに接続するコマンドを実行するときに--gateway オプションを使用する必要があります。

Informatica サービスをインストールすると、INFA_HOME ディレクトリ内の domains.infa ファイルが使用可能になります。その他のインストールには、そのファイルを作成して、コマンドを実行するマシンでそのファイルが使用可能なことを確認します。

domains.infa ファイルを作成するには、infacmd isp UpdateGatewayInfo コマンドを実行します。このコマンドは、インストールされたコマンドラインユーティリティ内の PowerCenter ディレクトリに domains.infa ファイルを作成するか、またはこのディレクトリにある domains.infa ファイルを更新します。例: <ユーティリティのインストールディレクトリ>\PowerCenter。

Informatica ユーティリティのセキュリティ設定

Informatica ユーティリティのインストール時には、場合によってはドメインのセキュリティ設定に基づいてマシンを設定する必要があります。マシンを正しく設定しないと、コマンドラインプログラムがドメインに対してユーザーを認証できないことがあります。

ドメインが以下のセキュリティ設定を使用する場合は、Informatica ユーティリティをインストールしたマシンを設定してください。

安全な通信

ドメインで安全な通信が有効になっている場合、トラストストアファイルを使用するようにマシンを設定する必要があります。カスタムトラストストアファイルを使用する場合は、トラストストアファイルディレクトリとトラストストアパスワードを指定する環境変数を設定する必要があります。

Kerberos 認証

ドメインが Kerberos 認証を使用する場合は、Informatica ユーティリティをインストールしたマシンに Kerberos 設定ファイルをコピーする必要があります。このほか、ドメインの Kerberos 設定ファイルを見つけるようにマシンを設定する必要があります。

関連項目：

- [「セキュアなドメインでのコマンドの実行」 \(ページ 36\)](#)
- [「Kerberos 認証を使用する UNIX でのコマンドの実行」 \(ページ 36\)](#)
- [「Kerberos 認証を使用する Windows でのコマンドの実行」 \(ページ 38\)](#)

第 3 章

コマンドラインプログラムの使用

この章では、以下の項目について説明します。

- [コマンドラインプログラムの使用の概要, 33 ページ](#)
- [オプションおよび引数の入力, 34 ページ](#)
- [構文の表記規則, 35 ページ](#)
- [セキュアなドメインでのコマンドの実行, 36 ページ](#)
- [Kerberos 認証を使用する UNIX でのコマンドの実行, 36 ページ](#)
- [Kerberos 認証を使用する Windows でのコマンドの実行, 38 ページ](#)

コマンドラインプログラムの使用の概要

Informatica には、Informatica 環境のあらゆるマシンからタスクを実行するために使用するコマンドラインプログラムがあります。コマンドラインプログラムにより、Informatica Administrator で実行可能なタスクのサブセットを実行することができます。

例えば、Administrator ツールまたは infacmd コマンドラインプログラムから、リポジトリサービスを有効または無効にすることができます。

Informatica には、以下のコマンドラインプログラムがあります。

- **infacmd**。infacmd を使用して、Informatica アプリケーションサービスにアクセスします。
- **infacmd**。infacmd を使用して、ノード名の取得、ゲートウェイ情報の更新、サポートされているプラグインの表示を行います。
- **infasetup**。infasetup を使用して、ノードまたはドメインの定義などのインストールタスクを実行します。
- **infasetup**。infasetup を使用してゲートウェイノードを更新します。
- **pmcmd**。pmcmd を使用して、ワークフローを管理します。pmcmd を使用して、ワークフローの開始、停止、スケジュール設定、および監視を行うことができます。
- **pmrep**。pmrep を使用して、リポジトリオブジェクトの一覧表示、グループの作成および編集、リポジトリのリストアおよび削除などのリポジトリ管理タスクを実行します。
- **mmcmd**。リソースをロードおよび管理し、モデルとカスタムリソースをインポートおよびエクスポートするには、mmcmd を使用します。
- **mmRepoCmd**。Metadata Manager リポジトリコンテンツを作成、削除、バックアップ、リストアするには、mmRepoCmd を使用します。また、Metadata Manager オブジェクトを含む PowerCenter リポジトリバックアップファイルを PowerCenter リポジトリデータベースにリストアすることもできます。

- **rmu**。rmu を使用して以前のバージョンの Metadata Manager から現在のバージョンにリソースを移行します。
- **rcfmu**。rcfmu を使用して以前のバージョンの Metadata Manager から現在のバージョンにリソース構成ファイルを移行します。

UNIX でコマンドラインプログラムを実行するには、Informatica ユーティリティの場所にライブラリパス環境変数を設定することが必要になる場合があります。

使いやすくするために、コマンドラインプログラムを実行するたびに適用される環境変数を設定できます。

例えば、コマンドラインでオプションを入力しなくてすむように、デフォルトのドメイン名、ユーザー、およびパスワードの環境変数を設定しておくことができます。

例えば、コマンドラインでオプションを入力しなくてすむように、デフォルトのドメイン名とユーザーの環境変数を設定しておくことができます。

オプションおよび引数の入力

各コマンドラインプログラムは、オプションと引数のセットが必要です。セットには、ユーザー名、パスワード、ドメイン名および接続情報が含まれています。

コマンドのオプションと引数を入力するときの規則を次に示します。

- オプションを入力するには、ハイフンを入力し、その後、コマンドのプログラム構文に応じて、1つの文字、2つの文字、または1つの単語を入力します。

例えば、pmrep Connect コマンドでは、リポジトリ名に単一文字のオプションを使用します。

```
Connect -r <repository_name>
```

- オプションを任意の順序で入力します。
- コマンドラインから指定するオプションにスペースが含まれる場合は、そのオプションを二重引用符で囲みます。
- オプション文字の後の最初の単語は、引数です。
- ほとんどのオプションには引数が必要です。

pmcmd または infacmd を使用する場合は、単一のスペースでオプションと引数を分割する必要があります。pmrep を使用する場合は、オプションと引数を分割する必要はありません。

infacmd の使用する場合は、単一のスペースでオプションと引数を分割する必要があります。

- 引数に複数の単語が含まれている場合、引数を二重引用符で囲みます。

pmrep と pmcmd には、一重引用符も使用できます。

引用符が対応していないと、エラーが発生します。

infacmd または pmcmd の場合、コマンドラインプログラムは引数を囲まない引用符を無視します。

infacmd の場合、コマンドラインプログラムは引数を囲まない引用符を無視します。

- pmrep の場合、引数内でスペース文字を使用できます。スペース文字を含んだ引数を指定するには、一重または二重の引用符で引数を囲みます。引数内で一重または二重の引用符を使用する場合は、必要な引用符の前にバックスラッシュを付ける必要があります。

構文の表記規則

以下の表に、すべての Informatica コマンドラインプログラムの構文を示すために本書で使用されている表記を示します。

規則	説明
-x	引数の前に指定するオプションです。入力するパラメータを示します。 例えば、pmcmd のユーザー名を入力するには、「-u」または「-user」と入力し、その後にユーザー名を入力します。
<x>	必須オプション。必須なオプションを省略すると、コマンドラインプログラムからエラーメッセージが返されます。
<x y> {x y}	必須オプションのいずれかを選択します。コマンドを実行するためには、オプションの一覧から選択する必要があります。必須なオプションを省略すると、コマンドラインプログラムからエラーメッセージが返されます。 pmrep では、以下の例に示すように、中括弧で必要なオプションのグループを指定します。 KillUserConnection {-i <connection_id> -n <user_name> -a (kill all)}
[x]	オプションのパラメータ。オプションのパラメータを入力しなくてもコマンドは動作します。例えば、Help コマンドの構文は以下のとおりです。 Help [Command] コマンドを入力した場合、コマンドラインプログラムによって、そのコマンドに関する情報だけが返されます。コマンド名を省略した場合、コマンドラインプログラムによって、すべてのコマンドの一覧が返されます。
[x y]	複数のオプションパラメータから 1 つを選択します。 例えば、pmcmd の多くのコマンドは待ちモードまたは非待ちモードのいずれかで実行されます。 [-wait -nowait] モードを指定すると、コマンドは指定されたモードで動作します。オプションのパラメータを入力しなくてもコマンドは動作します。 モードを指定しない場合、pmcmd によって、デフォルトの非待ちモードでコマンドが実行されます。
< <x y> <a b> >	セットにサブセットが含まれる場合、スーパーセットを太字の角括弧 < > で示します。 太字のパイプ記号 () でサブセットを区切ります。
(テキスト)	pmrep では、引数に使用できる値の一覧、または引数をとらないオプションの説明などの説明的なテキストは、丸括弧で囲みます。 引数に使用できる値の一覧、または引数をとらないオプションの説明などの説明的なテキスト括弧は、丸括弧で囲みます。

セキュアなドメインでのコマンドの実行

Informatica ドメインで安全な通信が有効にされている場合は、コマンドを安全に実行するために、コマンドラインプログラムをホストしているマシンで環境変数を設定する必要があります。infacmd、pmrep、mmcmd、mmRepoCmd、および pmcmd コマンドを実行する前に、環境変数を設定する必要があります。

コマンドを実行する前に、以下の環境変数を設定します。

INFA_TRUSTSTORE

INFA_TRUSTSTORE 環境変数に、SSL 証明書のトラストストアファイルを含むディレクトリを設定します。このディレクトリには、infa_truststore.jks および infa_truststore.pem という名前のトラストストアファイルを含める必要があります。INFA_TRUSTSTORE 変数は、Informatica のデフォルトの SSL 証明書を使用する場合にも、SSL 証明書を指定する場合にも設定する必要があります。

INFA_TRUSTSTORE_PASSWORD

SSL 証明書を指定してドメインで安全な通信を有効にする場合は、INFA_TRUSTSTORE_PASSWORD 環境変数に SSL 証明書を含む infa_truststore.jks のパスワードを設定します。Informatica のデフォルトの SSL 証明書を使用する場合は、この変数を設定する必要はありません。

注: パスワードは暗号化される必要があります。pmpasswd というコマンドラインプログラムを使用して、暗号化タイプ CRYPT_SYSTEM でパスワードを暗号化します。詳細については、[「パスワードの暗号化」\(ページ 54\)](#)を参照してください。

Kerberos 認証を使用する UNIX でのコマンドの実行

Informatica ドメインが Kerberos 認証を使用する場合は、コマンドラインプログラムを実行する前に、Kerberos 設定環境変数を設定します。シングルサインインを使用してコマンドラインプログラムを実行する場合は、資格情報キャッシュファイルを生成して、パスとファイル名を環境変数で指定する必要があります。

infacmd、pmrep、mmcmd、mmRepoCmd、および pmcmd コマンドを UNIX で実行する前に、環境変数を設定する必要があります。

シングルサインインを使用する UNIX でのコマンドの実行

シングルサインインを使用してコマンドラインプログラムを実行する場合は、資格情報キャッシュファイルを生成して、Kerberos ネットワークでコマンドを実行するユーザーアカウントを認証する必要があります。資格情報キャッシュファイルを生成するには、*kinit* ユーティリティを使用します。

資格情報キャッシュファイルがある場合は、ユーザー名およびパスワードのオプションを指定せずにコマンドを実行できます。

シングルサインインを使用する UNIX でコマンドを実行するには、以下のタスクを実行します。

1. Kerberos 環境変数を設定します。
2. *kinit* ユーティリティをダウンロードして、資格情報キャッシュファイルを生成します。

Kerberos 環境変数の設定

コマンドラインプログラムをホストするマシンで、Kerberos 環境変数に資格情報のキャッシュおよび設定ファイルの場所を指定します。

以下の環境変数を設定します。

KRB5CCNAME

Kerberos 資格情報のキャッシュのパスとファイル名を格納します。 *kinit* ユーティリティを実行してユーザークレデンシャルのキャッシュを生成すると、 *kinit* によって、 KRB5CCNAME 環境変数に設定したデフォルトのファイルに資格情報のキャッシュが格納されます。

KRB5_CONFIG

Kerberos 設定ファイルのパスとファイル名を格納します。 Kerberos 設定ファイルの名前は `krb5.conf` です。 `krb5.conf` ファイルの内容の詳細については、「 *Informatica セキュリティガイド* 」を参照してください。

資格情報キャッシュファイルの生成

Kerberos *kinit* ユーティリティを使用して、コマンドラインプログラムを実行するユーザーアカウントの資格情報キャッシュファイルを生成します。 ユーティリティは MIT Kerberos V5 ダウンロードパッケージで使用できます。

資格情報キャッシュファイルを生成するには、以下のタスクを実行します。

1. MIT Kerberos V5 をダウンロードしてインストールします。

MIT Kerberos V5 は以下の Web サイトからダウンロードできます。

<http://web.mit.edu/Kerberos/dist/#krb5-1.12>

2. *kinit* ユーティリティを実行し、ユーザープリンシパル名を指定します。

ユーザークレデンシャルのキャッシュを作成する場合、 `forwardable (-f)` または `proxiable (-p)` オプションを使用する必要があります。 Solaris 10 では `proxiable` オプションを使用します。他の UNIX プラットフォームでは `forwardable` オプションを使用します。以下のコマンド構文を使用できます。

Solaris 10

```
kinit -p <プリンシパル名>
```

他の UNIX プラットフォーム

```
kinit -f <プリンシパル名>
```

プリンシパル名は `<username>@<realmname.com>` という形式です。レルム名は大文字で入力します。

注: *kinit* ユーティリティを実行する前に `KRB5CCNAME` 環境変数を設定する場合、 *kinit* は環境変数で指定した場所に資格情報キャッシュを格納します。

3. ユーザーアカウントのパスワードを入力します。

シングルサインインを使用しない UNIX でのコマンドの実行

シングルサインインを使用しない UNIX でコマンドを実行するには、 `KRB5_CONFIG` 環境変数に Kerberos 設定ファイルのパスとファイル名を設定します。コマンド実行時にユーザー名とパスワードを含めるか、環境変数にユーザー名とパスワードを設定します。

コマンドで、ユーザー名とパスワードの指定方法に基づいて、ユーザークレデンシャルが決定されます。コマンドで、以下の順序で資格情報が確認されます。

1. コマンドのオプション。コマンドにユーザー名オプション (`-un`) とパスワードオプション (`-pd`) を含めた場合は、コマンドで、オプションで指定されたユーザー名とパスワードが使用されます。
2. 環境変数。コマンドにユーザー名オプションとパスワードオプションを含めなかった場合は、コマンドで、環境変数 `INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER` と `INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD` で指定されたユーザー名とパスワードが使用されます。

注: コマンドオプションにも環境変数にも資格情報を設定しなかった場合は、コマンドで資格情報キャッシュファイルが確認されます。資格情報キャッシュが使用できる場合は、シングルサインインを使用してコマンドが実行されます。

Kerberos 認証を使用する Windows でのコマンドの実行

Windows では、`infacmd`、`pmrep`、`mmcmmcmd`、`mmRepoCmd`、および `pmcmd` の各種コマンドで、シングルサインインにログインの資格情報が使用されます。資格情報キャッシュファイルを生成する必要はありません。

Windows でシングルサインインを使用しない場合は、`KRB5_CONFIG` 環境変数に Kerberos 設定ファイルのパスとファイル名を設定します。設定ファイルの名前は `krb5.conf` です。

コマンドで、ユーザー名とパスワードの指定方法に基づいて、ユーザークレデンシャルが決定されます。コマンドで、以下の順序で資格情報が確認されます。

1. コマンドのオプション。コマンドにユーザー名オプション (`-un`) とパスワードオプション (`-pd`) を含めた場合は、コマンドで、オプションで指定されたユーザー名とパスワードが使用されます。
2. 環境変数。コマンドにユーザー名オプションとパスワードオプションを含めなかった場合は、コマンドで、環境変数 `INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER` と `INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD` で指定されたユーザー名とパスワードが使用されます。

注: コマンドオプションにも環境変数にも資格情報を設定しなかった場合は、コマンドでログイン資格情報が使用されますので、シングルサインインでコマンドを実行します。

第 4 章

コマンドラインプログラムの環境変数

この章では、以下の項目について説明します。

- [コマンドラインプログラムの環境変数の概要, 39 ページ](#)
- [ICMD_JAVA_OPTS, 41 ページ](#)
- [INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT, 42 ページ](#)
- [INFA_CODEPAGENAME, 42 ページ](#)
- [INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD, 43 ページ](#)
- [INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD, 44 ページ](#)
- [INFA_DEFAULT_DOMAIN, 45 ページ](#)
- [INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD, 45 ページ](#)
- [INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER, 46 ページ](#)
- [INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD, 47 ページ](#)
- [INFA_DEFAULT_PWX OSPASSWORD, 48 ページ](#)
- [INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN, 48 ページ](#)
- [INFA_JAVA_CMD_OPTS, 49 ページ](#)
- [INFA_PASSWORD, 50 ページ](#)
- [INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD, 51 ページ](#)
- [INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD, 51 ページ](#)
- [INFA_REPCNX_INFO, 52 ページ](#)
- [INFA_REPOSITORY_PASSWORD, 53 ページ](#)
- [INFATool_DATEFORMAT, 54 ページ](#)
- [パスワードの暗号化, 54 ページ](#)
- [ユーザー名の設定, 56 ページ](#)

コマンドラインプログラムの環境変数の概要

コマンドラインプログラムにオプションの環境変数を設定することができます。例えば、環境変数を設定すると、パスワードの暗号化、日時表示オプションの設定、またはドメインのデフォルトログイン情報の保管を実行できます。

pmcmd または pmrep を対話モードで実行している場合、変更した環境変数を使用するには、コマンドラインプログラムを終了してから再接続する必要があります。

Windows では、これらの環境変数をユーザー変数またはシステム変数として設定できます。Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

注: 環境変数は、ノード上で実行するコマンドラインプログラムに適用するために設定します。変更を適用するには、ノードを再起動します。

以下の表に、コマンドラインプログラムで使用するために設定できる環境変数を示します。

環境変数	コマンドラインプログラム	説明
ICMD_JAVA_OPTS	infacmd	Java オプションを設定します。
INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT	infacmd pmcmd pmrep	コマンドラインプログラムがドメインまたはサービスへの接続の確立に費やす秒数を制限します。
INFA_CODEPAGE_NAME	pmcmd pmrep	文字セット <i>pmcmd</i> および <i>pmrep</i> の使用方法を設定します。
INFA_DEFAULT_CONNECTION_PASSWORD	infacmd	セキュアデータベースのデータベーストラストストアファイルパスワードを格納します。
INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD	infasetup	ドメイン設定データベースのデフォルトのユーザー名とパスワードを格納します。
INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD	infasetup	データベーストラストストアパスワードを格納します。
INFA_DEFAULT_DOMAIN	infacmd pmcmd pmrep	デフォルトのドメイン名を格納します。
INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD	infacmd	ドメインのデフォルトのユーザー名とパスワードを格納します。
INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER	infacmd	ドメインのデフォルトのユーザー名を格納します。
INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD	infacmd pwx	オペレーティングシステムの暗号化されたパスワードを格納します。
INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD	infacmd pwx	オペレーティングシステムのテキストのパスワードを格納します。
INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN	infacmd	LDAP 認証のセキュリティドメインを格納します。
INFA_JAVA_CMD_OPTS	infasetup	Java オプションを設定します。
INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD	infasetup	infa_keystore.jks ファイルのパスワードを格納します。

環境変数	コマンドラインプログラム	説明
INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD	infasetup	infa_truststore.jks ファイルのパスワードを格納します。
INFA_PASSWORD	infacmd	ユーザーのデフォルトのパスワードを格納します。
INFA_REPCNX_INFO	pmrep	リポジトリ接続ファイルのファイル名を格納します。
INFA_REPOSITORY_PASSWORD	infacmd	ユーザーのデフォルトの PowerCenter リポジトリのパスワードを格納します。
INFATool_DATEFORMAT	pmcmd	pmcmd による日時の表示方法を設定します。
<Password_Environment_Variable>	pmcmd pmrep	パスワードを暗号化して格納します。
<User_Name_Environment_Variable>	pmcmd pmrep	ユーザー名を格納します。

関連項目：

- [「パスワードの暗号化」 \(ページ 54\)](#)
- [「ユーザー名の設定」 \(ページ 56\)](#)

ICMD_JAVA_OPTS

ICMD_JAVA_OPTS 環境変数は、infacmd コマンドラインプログラムに適用されます。

環境変数 ICMD_JAVA_OPTS を使用して、-Xmx 値などの Java オプションやシステムプロパティを設定できます。システムプロパティを設定する場合は、次の形式で値を指定します。

```
-Dproperty.name=property.value
```

たとえば、infacmd が使用するシステムメモリを増やすことができます。infacmd のデフォルトのシステムメモリは 512 MB です。UNIX の C シェル環境で 1024 MB のシステムメモリを設定するには、次のように入力します。

```
setenv ICMD_JAVA_OPTS "-Xmx1024m"
```

UNIX での ICMD_JAVA_OPTS の設定

UNIX で ICMD_JAVA_OPTS を設定する手順

- ▶ UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。

```
setenv ICMD_JAVA_OPTS <Java_Options>
```

UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。

```
ICMD_JAVA_OPTS = <Java_Options>  
export ICMD_JAVA_OPTS
```

Windows での ICMD_JAVA_OPTS の設定

Windows で ICMD_JAVA_OPTS を設定する手順

- ▶ 環境変数 ICMD_JAVA_OPTS を入力して、-Xmx 値などの Java オプションやシステムプロパティを設定できます。

Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT

INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数は、infacmd、pmcmd、pmrep コマンドラインプログラムに適用されます。

環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を設定すると、コマンドラインプログラムがドメインまたはサービスへの接続を確立するために費やす秒数を制限できます。この環境変数を設定しない場合、デフォルトの時間は 180 秒です。

UNIX での INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT の設定

UNIX で、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を設定する手順

- ▶ UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。

```
setenv INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT <number of seconds>
```

UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。

```
INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT = <number of seconds>  
export INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT
```

Windows での INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT の設定

Windows で INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を設定する手順

- ▶ 環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を入力し、この値をコマンドラインプログラムがドメインまたはサービスへの接続を確立するために要する秒数に設定します。

Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFA_CODEPAGENAME

INFA_CODEPAGENAME 環境変数は、pmcmd および pmrep コマンドラインプログラムに適用されます。

pmcmd および *pmrep* は、コマンドを Unicode で送信し、ホストマシンのコードページを使用しますが、コードページの環境変数 INFA_CODEPAGENAME を設定した場合は、これをオーバーライドします。*pmcmd* に INFA_CODEPAGENAME を設定する場合、統合サービスのコードページと互換性のあるコードページにする必要があります。*pmrep* に INFA_CODEPAGENAME を設定する場合、リポジトリのコードページと互換性がある

るコードページの名前にする必要があります。 *pmcmd* および *pmrep* を実行するマシンに `INFA_CODEPAGENAME` を設定する場合、統合サービスおよびリポジトリのコードページと互換性があるコードページにする必要があります。

コードページに互換性がない場合、コマンドが失敗することがあります。

UNIX での `INFA_CODEPAGENAME` の設定

UNIX で `INFA_CODEPAGENAME` を設定する手順

- ▶ UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。

```
setenv INFA_CODEPAGENAME <code page name>
```

UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。

```
INFA_CODEPAGENAME = <code page name>  
export INFA_CODEPAGENAME
```

Windows での `INFA_CODEPAGENAME` の設定

Windows で `INFA_CODEPAGENAME` を設定する手順

- ▶ 環境変数 `INFA_CODEPAGENAME` を入力して、この値をコードページ名に設定します。

Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD

`INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD` 環境変数は、`infasetup` コマンドラインプログラムに適用されます。

`infasetup` のコマンドには、ドメイン設定データベースのパスワードが必要なものがあります。`infasetup` でオプションとしてこのパスワードを指定することも、これを環境変数 `INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD` として格納することもできます。

以下の手順をガイドラインとして使用して、暗号化したパスワードを環境変数として使用します。

1. コマンドラインプログラム `pmpasswd` を使用して、データベースのユーザーパスワードを暗号化します。
`pmpasswd` により、暗号化されたパスワードが生成され表示されます。例えば、「monday」というパスワードを入力すると、このパスワードが「f/wRb5PZsZnqESTDPeos7Q==」という文字列に暗号化されず。
2. `PASSWORD` 環境変数を設定して、暗号化された値を設定します。

関連項目：

- [「パスワードの暗号化」 \(ページ 54\)](#)

UNIX での `INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD` の設定

UNIX で `INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD` を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。

```
pmpasswd <database password>
```

`pmpasswd` により、暗号化されたパスワードが返されます。

2. UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。
`setenv INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD <encrypted password>`
UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。
`INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD = <encrypted password>`
`export INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD`

Windows での INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD の設定

Windows で INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。
`pmpasswd <database password>`
pmpasswd により、暗号化されたパスワードが返されます。
2. 環境変数 INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD を入力して、この値を暗号化されたパスワードに設定します。

Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD

INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD 環境変数は、infasetup コマンドラインプログラムに適用されます。

一部の *infasetup* コマンドは、ドメインの安全な通信を設定します。セキュアデータベースのデータベーストラストストアファイルのパスワードは、*infasetup* でオプションとして指定することも、環境変数 INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_DATABASE_PASSWORD として格納することもできます。

以下の手順をガイドラインとして使用して、暗号化したパスワードを環境変数として使用します。

1. コマンドラインプログラム *pmpasswd* を使用して、データベースのユーザーパスワードを暗号化します。
pmpasswd により、暗号化されたパスワードが生成され表示されます。例えば、「monday」というパスワードを入力すると、このパスワードが「f/wRb5PZsZnqESTDPeos7Q==」という文字列に暗号化されません。
2. PASSWORD 環境変数を設定して、暗号化された値を設定します。

UNIX での INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD の設定

UNIX で INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。
`pmpasswd <database password>`
pmpasswd により、暗号化されたパスワードが返されます。
2. UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。
`setenv INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD <encrypted password>`
UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。
`INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD = <encrypted password>`
`export INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD`

Windows での INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD の設定

Windows で INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。

```
pmpasswd <database password>
```

pmpasswd により、暗号化されたパスワードが返されます。
2. 環境変数 INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD を入力して、この値を暗号化されたパスワードに設定します。

Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFA_DEFAULT_DOMAIN

INFA_DEFAULT_DOMAIN 環境変数は、*infacmd*、*pmcmd*、*pmrep* コマンドラインプログラムに適用されません。

コマンドラインプログラムでは、ドメイン名が必要になります。コマンドラインプログラムにオプションとしてドメイン名を指定するか、ドメイン名を環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN として格納することができます。複数のドメインがある場合、デフォルトのドメインを選択します。

UNIX での INFA_DEFAULT_DOMAIN の設定

UNIX で INFA_DEFAULT_DOMAIN を設定する手順

- ▶ UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。

```
setenv INFA_DEFAULT_DOMAIN <domain name>
```

UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。

```
INFA_DEFAULT_DOMAIN = <domain name>  
export INFA_DEFAULT_DOMAIN
```

Windows での INFA_DEFAULT_DOMAIN の設定

Windows で INFA_DEFAULT_DOMAIN を設定する手順

- ▶ 環境変数の INFA_DEFAULT_DOMAIN を入力して、この値をドメイン名に設定します。
Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD

INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD 環境変数は、*infacmd* コマンドラインプログラムに適用されます。

ほとんどの *infacmd* のコマンドには、ユーザーパスワードが必要です。ユーザーパスワードは、*infacmd* でオプションとして指定することも、環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD として格納することもできます。

以下の手順をガイドラインとして使用して、暗号化したパスワードを環境変数として使用します。

1. コマンドラインプログラム *pmpasswd* を使用して、ユーザーパスワードを暗号化します。
pmpasswd により、暗号化されたパスワードが生成され表示されます。例えば、「monday」というパスワードを入力すると、このパスワードが「f/wRb5PZsZnqESTDPeos7Q==」という文字列に暗号化されません。
2. PASSWORD 環境変数を設定して、暗号化された値を設定します。

関連項目：

- [「パスワードの暗号化」 \(ページ 54\)](#)

UNIX での INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD の設定

UNIX で INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。

```
pmpasswd <password>
```

pmpasswd により、暗号化されたパスワードが返されます。
2. UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。

```
setenv INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD <encrypted password>
```

UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。

```
INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD = <encrypted password>  
export INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD
```

Windows での INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD の設定

Windows で INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。

```
pmpasswd <password>
```

pmpasswd により、暗号化されたパスワードが返されます。
2. 環境変数の INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を入力して、この値を暗号化されたパスワードに設定します。

Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER

INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER 環境変数は、*infacmd* コマンドラインプログラムに適用されます。

ほとんどの *infacmd* コマンドには、ユーザー名が必要です。ユーザー名は、*infacmd* でオプションとして指定することも、環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER として格納することもできます。

UNIX での INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER の設定

UNIX で INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を設定する手順

- ▶ UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。

```
setenv INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER <user name>
```

UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。

```
INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER = <user name>
export INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER
```

Windows での INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER の設定

Windows で INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を設定する手順

- ▶ 環境変数の INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を入力すると、この値をデフォルトのユーザ名に設定します。

Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD

INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD 環境変数は、`infacmd pwx` コマンドラインプログラムに適用されません。

一部の `infacmd pwx` コマンドには、オペレーティングシステムのパスワードが必要です。暗号化されたパスワードは、`infacmd pwx` でオプションとして指定することも、環境変数 `INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD` として格納することもできます。

以下の手順をガイドラインとして使用して、暗号化したパスワードを環境変数として使用します。

1. パスワードを暗号化するには、`pmpasswd` コマンドラインプログラムを使用します。
`pmpasswd` プログラムにより、暗号化されたパスワードが生成され表示されます。例えば、「monday」というパスワードを入力すると、このパスワードが「f/wRb5PZsZnqESTDPeos7Q==」という文字列に暗号化されます。
2. `PASSWORD` 環境変数を設定して、暗号化された値を設定します。

関連項目：

- [「パスワードの暗号化」 \(ページ 54\)](#)

UNIX での INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD の設定

UNIX で INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。

```
pmpasswd password
```

`pmpasswd` プログラムにより、暗号化されたパスワードが返されます。

2. UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。

```
setenv INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD encrypted_password
```

UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。

```
INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD = encrypted_password
export INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD
```

Windows での INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD の設定

Windows で INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。

```
pmpasswd password
```

pmpasswd プログラムにより、暗号化されたパスワードが返されます。

2. 環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD を入力して、この値を暗号化されたパスワードに設定します。

Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD

INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD 環境変数は、infacmd pwx コマンドラインプログラムに適用されます。

一部の infacmd pwx コマンドには、オペレーティングシステムのパスワードが必要です。テキストのパスワードは、infacmd pwx でオプションとして指定することも、環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD として格納することもできます。

UNIX での INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD の設定

UNIX で INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を設定する手順

- ▶ UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。

```
setenv INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD password
```

UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。

```
INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD = password  
export INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD
```

Windows での INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD の設定

Windows で INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を設定するには、値をテキストのパスワードに設定します。

Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN

INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN 環境変数は、infacmd コマンドラインプログラムに適用されます。

LDAP 認証を使用して Informatica ユーザーを指定する場合、infacmd コマンドではセキュリティドメインが必要です。環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を、ネイティブセキュリティドメインまたは LDAP セキュリティドメインの名前に設定できます。

UNIX での INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN の設定

UNIX で INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を設定する手順

- ▶ UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。
`setenv INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN <security domain name>`
UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。
`INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN = <security domain name>`
`export INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN`

Windows での INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN の設定

Windows で INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を設定する手順

- ▶ 環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を入力して、その値をセキュリティドメインの名前に設定できます。
Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFA_JAVA_CMD_OPTS

INFA_JAVA_CMD_OPTS 環境変数は、infasetup コマンドラインプログラムに適用されます。

環境変数 INFA_JAVA_CMD_OPTS を使用して、-Xmx 値などの Java オプションやシステムプロパティを設定できます。システムプロパティを設定する場合は、次の形式で値を指定します。

`-Dproperty.name=property.value`

例えば、infasetup が使用するシステムメモリを増やすことができます。infasetup のデフォルトのシステムメモリは 512 MB です。UNIX の C シェル環境で 1024 MB のシステムメモリを設定するには、次のように入力します。

```
setenv INFA_JAVA_CMD_OPTS "-Xmx1024m"
```

UNIX での INFA_JAVA_CMD_OPTS の設定

UNIX で INFA_JAVA_CMD_OPTS を設定する手順

- ▶ UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。
`setenv INFA_JAVA_CMD_OPTS <Java_Options>`
UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。
`INFA_JAVA_CMD_OPTS = <Java_Options>`
`export INFA_JAVA_CMD_OPTS`

Windows での INFA_JAVA_CMD_OPTS の設定

Windows で INFA_JAVA_CMD_OPTS を設定する手順

- ▶ 環境変数 INFA_JAVA_CMD_OPTS を入力して、-Xmx 値などの Java オプションやシステムプロパティを設定できます。
Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFA_PASSWORD

INFA_PASSWORD 環境変数は、`infacmd` および `infasetup` コマンドラインプログラムに適用されます。

一部の `infacmd` および `infasetup` のコマンドには、ユーザーパスワードが必要です。ユーザーパスワードは、これらのコマンドのオプションとして指定することも、環境変数 `INFA_PASSWORD` として格納することもできます。

`INFA_PASSWORD` 環境変数を使用して、さまざまなタイプのパスワードを格納できます。例えば、`infasetup DefineDomain` コマンドでは、この環境変数を使用してキーストアのパスワードを設定できます。`infacmd isp SetLDAPConnectivity` コマンドでは、この環境変数を使用して LDAP 資格情報のパスワードを設定できます。実行するコマンドに基づいて、この変数の値を変更することが必要になる場合があります。

以下の手順をガイドラインとして使用して、暗号化したパスワードを環境変数として使用します。

1. コマンドラインプログラム `pmpasswd` を使用して、ユーザーパスワードを暗号化します。
`pmpasswd` により、暗号化されたパスワードが生成され表示されます。例えば、「monday」というパスワードを入力すると、このパスワードが「f/wRb5PZsZnqESTDPeos7Q==」という文字列に暗号化されません。
2. `PASSWORD` 環境変数を設定して、暗号化された値を設定します。

関連項目：

- [「パスワードの暗号化」 \(ページ 54\)](#)

UNIX での INFA_PASSWORD の設定

UNIX で `INFA_PASSWORD` を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。

```
pmpasswd <password>
```

`pmpasswd` により、暗号化されたパスワードが返されます。
2. UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。

```
setenv INFA_PASSWORD <encrypted password>
```

UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。

```
INFA_PASSWORD = <encrypted password>
export INFA_PASSWORD
```

Windows での INFA_PASSWORD の設定

Windows で `INFA_PASSWORD` を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。

```
pmpasswd <password>
```

`pmpasswd` により、暗号化されたパスワードが返されます。
2. 環境変数 `INFA_PASSWORD` を入力して、この値を暗号化されたパスワードに設定します。
Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD

INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD 環境変数は、infasetup コマンドラインプログラムに適用されます。

一部の *infasetup* コマンドは、ドメインの安全な通信を設定します。Informatica Java Keystore (JKS) ファイルのパスワードは、*infasetup* でオプションとして指定することも、環境変数 INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD として格納することもできます。

以下の手順をガイドラインとして使用して、暗号化したパスワードを環境変数として使用します。

1. コマンドラインプログラム *pmpasswd* を使用して、データベースのユーザーパスワードを暗号化します。
pmpasswd により、暗号化されたパスワードが生成され表示されます。例えば、「monday」というパスワードを入力すると、このパスワードが「f/wRb5PZsZnqESTDPeos7Q==」という文字列に暗号化されま
す。
2. PASSWORD 環境変数を設定して、暗号化された値を設定します。

UNIX での INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD の設定

UNIX で INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。

```
pmpasswd <database password>
```

pmpasswd により、暗号化されたパスワードが返されます。
2. UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。

```
setenv INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD <encrypted password>
```

UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。

```
INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD = <encrypted password>  
export INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD
```

Windows での INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD の設定

Windows で INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。

```
pmpasswd <database password>
```

pmpasswd により、暗号化されたパスワードが返されます。
2. 環境変数 INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD を入力し、この値を暗号化されたパスワードに設定しま
す。

Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD

INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD 環境変数は、infasetup コマンドラインプログラムに適用されます。

一部の *infasetup* コマンドは、ドメインの安全な通信を設定します。infa_truststore.jks ファイルのパスワードは、*infasetup* でオプションとして指定することも、環境変数 INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD と
して格納することもできます。

以下の手順をガイドラインとして使用して、暗号化したパスワードを環境変数として使用します。

1. コマンドラインプログラム *mpasswd* を使用して、データベースのユーザーパスワードを暗号化します。
mpasswd により、暗号化されたパスワードが生成され表示されます。例えば、「monday」というパスワードを入力すると、このパスワードが「f/wRb5PZsZnqESTDPeos7Q==」という文字列に暗号化されます。
2. PASSWORD 環境変数を設定して、暗号化された値を設定します。

UNIX での INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD の設定

UNIX で INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。

```
mpasswd <database password>
```

mpasswd により、暗号化されたパスワードが返されます。
2. UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。

```
setenv INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD <encrypted password>
```

UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。

```
INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD = <encrypted password>
export INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD
```

Windows での INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD の設定

Windows で INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。

```
mpasswd <database password>
```

mpasswd により、暗号化されたパスワードが返されます。
2. 環境変数 INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD を入力して、この値を *暗号化されたパスワード* に設定します。

Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFA_REPCNX_INFO

環境変数 INFA_REPCNX_INFO は、*pmrep* というコマンドラインプログラムに適用されます。

pmrep をコマンドラインモードで実行する場合またはスクリプトから実行する場合、リポジトリ接続情報はファイル *pmrep.cnx* に格納されます。*pmrep* は、このファイル内の情報を使用してリポジトリに再接続します。INFA_REPCNX_INFO 環境変数は、リポジトリ接続ファイルのファイル名とファイルパスを格納します。*pmrep* 接続を実行するたびに、このコマンドは *pmrep.cnx* ファイルを削除します。*pmrep* 接続コマンドが成功すると、そのコマンドによって *pmrep.cnx* ファイルのリポジトリ接続情報が書き換えられます。

pmrep コマンドを発行するスクリプトが同時に実行される場合にこの変数を使用すると、スクリプトは別のリポジトリに接続されます。各シェルでは、別のリポジトリ接続ファイルを指定します。これにより、あるスクリプトで使用する接続情報が他のスクリプトによって上書きされることを防ぎます。

この環境変数を設定しない場合、*pmrep* を実行すると、ホームディレクトリにある *pmrep.cnx* に接続情報が保存されます。別の場所に *pmrep.cnx* ファイルを設定する必要がある場合は、環境変数 INFA_REPCNX_INFO を使用してファイルパスを指定してください。

UNIX での INFA_REPCNX_INFO の設定

UNIX で INFA_REPCNX_INFO を設定する手順

- ▶ UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。
`setenv INFA_REPCNX_INFO <file name>`
UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。
`INFA_REPCNX_INFO = <file name>`
`export INFA_REPCNX_INFO`

Windows での INFA_REPCNX_INFO の設定

Windows で INFA_REPCNX_INFO を設定する手順

- ▶ DOS シェルの場合、次のように入力します。
`set INFA_REPCNX_INFO = <file name>`
注: 複数の *pmrep* スクリプトを実行する場合、この環境変数をマシンではなく DOS シェルに設定します。

INFA_REPOSITORY_PASSWORD

INFA_REPOSITORY_PASSWORD 環境変数は、*infacmd* コマンドラインプログラムに適用されます。

一部の *infacmd* コマンドには、PowerCenter リポジトリのパスワードが必要です。ユーザーパスワードは、*infacmd* でオプションとして指定することも、環境変数 INFA_REPOSITORY_PASSWORD として格納することもできます。

以下の手順をガイドラインとして使用して、暗号化したパスワードを環境変数として使用します。

1. コマンドラインプログラム *pmpasswd* を使用して、ユーザーパスワードを暗号化します。
pmpasswd により、暗号化されたパスワードが生成され表示されます。例えば、「monday」というパスワードを入力すると、このパスワードが「f/wRb5PZsZnqESTDPeos7Q==」という文字列に暗号化されます。
2. PASSWORD 環境変数を設定して、暗号化された値を設定します。

関連項目：

- [「パスワードの暗号化」 \(ページ 54\)](#)

UNIX での INFA_REPOSITORY_PASSWORD の設定

UNIX で INFA_REPOSITORY_PASSWORD を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。
`pmpasswd <password>`
pmpasswd により、暗号化されたパスワードが返されます。
2. UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。
`setenv INFA_REPOSITORY_PASSWORD <encrypted password>`
UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。
`INFA_REPOSITORY_PASSWORD = <encrypted password>`
`export INFA_REPOSITORY_PASSWORD`

Windows での INFA_REPOSITORY_PASSWORD の設定

Windows で INFA_REPOSITORY_PASSWORD を設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。

```
pmpasswd <repository password>
```

pmpasswd により、暗号化されたパスワードが返されます。
2. 環境変数 INFA_REPOSITORY_PASSWORD を入力して、この値を *暗号化されたパスワード* に設定します。
Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

INFATool_DATEFORMAT

INFATool_DATEFORMAT 環境変数は、*pmcmd* コマンドラインプログラムに適用されます。

この環境変数を使用して、*pmcmd* が日付および時刻を表示する方法をカスタマイズします。日付形式文字列を DY MON DD HH24:MI:SS YYYY 形式で入力します。*pmcmd* は、文字列の形式が有効であることを確認します。文字列の形式が正しくない場合、統合サービスは警告メッセージを表示して、日付を DY MON DD HH24:MI:SS YYYY の形式で表示します。

UNIX での INFATool_DATEFORMAT の設定

UNIX で INFATool_DATEFORMAT を設定する手順

- ▶ UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。

```
setenv INFATool_DATEFORMAT <date/time format string>
```

UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。

```
INFATool_DATEFORMAT = <date/time format string>
```

```
export INFATool_DATEFORMAT
```

Windows での INFATool_DATEFORMAT の設定

Windows で INFATool_DATEFORMAT を設定する手順

- ▶ 環境変数 INFATool_DATEFORMAT を入力し、その値を表示形式文字列に設定します。
Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

パスワードの暗号化

パスワードの暗号化によって、*infacmd*、*infasetup*、*pmcmd*、および *pmrep* と共に使用する環境変数を作成することも、パラメータファイル内にパスワードを定義することも可能です。

例えば、*pmrep* 用のリポジトリおよびデータベースのパスワードを暗号化して、スクリプトで *pmrep* を使用する際のセキュリティを保持できます。さらに、環境変数を作成して暗号化されたパスワードを格納できます。または、パラメータファイルにリレーショナルデータベース接続オブジェクトのパスワードを定義できます。

コマンドラインプログラム *pmpasswd* を使用して、パスワードを暗号化します。*pmpasswd* ユーティリティは次のディレクトリにインストールされています。

```
<InformaticaInstallationDir>/server/bin
```

pmpasswd コーティリティでは、以下の構文を使用します。

```
pmpasswd <password> [-e (CRYPT_DATA | CRYPT_SYSTEM)]
```

以下の表に、pmpasswd のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-	パスワード	必須。暗号化するパスワード。
-e	CRYPT_DATA, CRYPT_SYSTEM	オプション。暗号化タイプ: - CRYPT_DATA。パラメータファイルに定義する接続オブジェクトパスワードを暗号化するために使用します。 - CRYPT_SYSTEM。その他すべてのパスワードに使用します。 デフォルトは CRYPT_SYSTEM です。

環境変数としてのパスワードの使用

以下の手順をガイドラインとして使用して、暗号化したパスワードを環境変数として使用します。

1. コマンドラインプログラム *pmpasswd* を使用して、パスワードを暗号化します。
pmpasswd により、暗号化されたパスワードが生成され表示されます。例えば、「monday」というパスワードを入力すると、このパスワードが「f/wRb5PZsZnqESTDPeos7Q==」という文字列に暗号化されません。
2. PASSWORD 環境変数を設定して、暗号化された値を設定します。

UNIX での環境変数としてのパスワードの設定

UNIX 上でパスワードを環境変数として設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。

```
pmpasswd <password>
```

pmpasswd により、暗号化されたパスワードが返されます。
2. UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。

```
setenv <Password_Environment_Variable> <encrypted password>
```

UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。

```
<Password_Environment_Variable> = <encrypted password>
export <Password_Environment_Variable>
```

環境変数には任意の有効な UNIX 名を割り当てることができます。

Windows での環境変数としてのパスワードの設定

Windows でパスワードを環境変数として設定する手順

1. コマンドラインで次のように入力します。

```
pmpasswd <password>
```

pmpasswd により、暗号化されたパスワードが返されます。
2. パスワード環境変数を [変数] フィールドに入力します。暗号化されたパスワードを [値] フィールドに入力します。
Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

ユーザー名の設定

*pmcmd*と*pmrep*の場合、環境変数を作成してユーザー名を格納できます。

UNIX での環境変数としてのユーザー名の設定

UNIX でユーザー名を環境変数として設定する手順

- ▶ UNIX の C シェル環境では、次のように入力します。

```
setenv <User_Name_Environment_Variable> <user name>
```

UNIX の Bourne シェル環境では、次のように入力します。

```
<User_Name_Environment_Variable> = <user name>  
export <User_Name_Environment_Variable>
```

環境変数には任意の有効な UNIX 名を割り当てることができます。

Windows での環境変数としてのユーザー名の設定

Windows でユーザー名を環境変数として設定する手順

- ▶ ユーザー名環境変数を [変数] フィールドに入力します。ユーザー名を [値] フィールドに入力します。

Windows での環境変数の設定については、Windows のマニュアルを参照してください。

第 5 章

infacmd の使用

この章では、以下の項目について説明します。

- [infacmd の使用の概要, 57 ページ](#)
- [infacmd コマンドプログラム, 58 ページ](#)
- [コマンドの実行, 59 ページ](#)
- [infacmd の戻りコード, 60 ページ](#)
- [infacmd UpdateGatewayInfo, 60 ページ](#)

infacmd の使用の概要

infacmd は、ドメイン、ユーザー、およびサービスを管理できるコマンドラインプログラムです。*infacmd* を使用して、以下のオブジェクトおよびサービスを管理できます。

- **アプリケーションサービスおよびプロセス。** アプリケーションサービスおよび関連するサービスプロセスのステータスを作成、有効化、無効化、削除、および取得します。ping サービス。サービスおよびサービスを実行するノードを一覧表示します。サービスプロセスおよびサービスプロセスオプションを更新します。*infacmd* を使用して、以前のバージョンのサービスを作成することはできません。
- **ドメインゲートウェイ。** ゲートウェイノード接続情報を更新します。
- **ドメイン。** ドメインをリンクし、ドメインリンクを削除します。ドメイン管理者のパスワードを変更します。ドメインオプションを更新します。サービスレベルを追加および削除します。
- **フォルダ。** フォルダを作成、移動、一覧表示、更新、削除します。フォルダー間でオブジェクトを移動します。
- **グリッド。** グリッドを作成および削除します。グリッド内のノードを一覧表示します。
- **ライセンス。** ライセンスの追加、削除、割り当て、割り当て解除および一覧表示を行います。ライセンス情報を表示します。
- **ログイベント。** ログイベントを取得およびページします。セッションおよびワークフローのログを取得します。ログファイルの形式をバイナリからテキストに変更します。
- **ノード。** ノードを更新、ping、シャットダウン、削除します。ノードの名前およびオプションを一覧表示します。ノードロールを更新します。ノードのリソースを追加、有効化、無効化、一覧表示、削除します。ゲートウェイノードから作業ノードへ、または作業ノードからゲートウェイノードへ、ノードを変更します。ノードの CPU プロファイルを計算します。
- **ユーザー。** ユーザを作成および削除します。ユーザーパスワードをリセットします。ユーザーに対する警告のサブスクリプト、および警告からのサブスクリプトの解除を行います。ユーザにオブジェクトに対する権限を割り当てます。ユーザーアカウントのロックアウトとロック解除を有効にします。

infacmd コマンドプログラム

infacmd プログラムでは、すべての Informatica アプリケーションサービスがサポートされます。Informatica ドメインには、各アプリケーションサービスをサポートするための個別の infacmd プログラムがあります。

コマンドラインインターフェースには、以下の infacmd プログラムがあります。

- infacmd advanced はアカウントロックアウトやプラグイン検証などの高度な機能を管理します。
- infacmd as はアナリストサービスを管理します。
- infacmd cms はコンテンツ管理サービスを管理します。
- infacmd csm は CSM 診断を管理します。
- infacmd dis はデータ統合サービスを管理します。
- infacmd ide は Data Explorer Legacy オブジェクトを Informatica Data Explorer に移行します。
- infacmd ipc はマッピングをモデルリポジトリから PowerCenter リポジトリへエクスポートします。
- infacmd isp はドメイン、セキュリティ、および PowerCenter アプリケーションサービスを管理します。
- infacmd isp はゲートウェイノードの接続情報を更新し、ノードの名前を返します。
- infacmd mrs はモデルリポジトリサービスを管理します。
- infacmd ms はデプロイ済みのマッピングを一覧表示して実行します。
- infacmd oie は、モデルリポジトリからのオブジェクトのエクスポートと、モデルリポジトリへのオブジェクトのインポートを管理します。
- infacmd ps はプロファイリングウェアハウスのコンテンツ、プロファイル、およびスコアカードを管理します。
- infacmd ps はプロファイリングウェアハウスのコンテンツを作成または削除します。
- infacmd pwx は PowerExchange Listener およびロッガーサービスを管理します。
- infacmd rds は、レポートおよびダッシュボードサービスを管理します。
- infacmd rms はリソースマネージャサービスを管理します。
- infacmd rtm は参照テーブルデータのインポートおよびエクスポート操作を管理します。
- infacmd sch はスケジューラサービスを管理します。
- Infacmd search は検索サービスを管理します。
- infacmd sql はデータ統合サービスにデプロイする SQL データサービスを管理します。
- infacmd wfs はデータ統合サービスにデプロイするワークフローを管理します。
- infacmd ws はデータ統合サービスにデプロイする Web サービスを管理します。
- infacmd xrf は、モデルリポジトリからエクスポートされた XML ファイルを管理します。

infacmd ListPlugins

各 infacmd プログラムにはプラグイン識別子があります。プログラムを実行する際に、プラグイン ID をプログラム名の一部として含めます。

例えば、dis は、Data Integration Service infacmd プログラムのプラグイン ID です。

例えば、デプロイされたアプリケーションを一覧表示するコマンドを実行するには、infacmd dis ListApplications コマンドを実行します。

```
infacmd dis ListApplications -dn domain_name -un user_name -d password -sn Data_Integration_Service_Name
```

例えば、ms はマッピングサービス infacmd プログラムのプラグイン ID です。

例えば、アプリケーション内のマッピングを一覧表示するコマンドを実行するには、以下の infacmd ms ListMappings コマンドを実行します。

```
infacmd ms ListMappings -dn domain_name -un user_name -pd password -sdn security_domain -sn service_name -a application_name
```

プラグイン ID を一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
infacmd (.sh) ListPlugins
```

あるプラグインに対して有効なコマンドを一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
infacmd(.sh) plugin_ID Help
```

あるコマンドのヘルプを表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
infacmd(.sh) plugin_ID CommandName Help
```

コマンドの実行

コマンドラインから infacmd を呼び出します。スクリプト、バッチファイル、またはその他のプログラムから直接コマンドを発行できます。

infacmd コマンドを実行する手順

1. コマンドプロンプトで、infacmd の実行可能ファイルが格納されているディレクトリに切り替えます。
デフォルトでは、infacmd は、Informatica サービスのインストール先の次のディレクトリにインストールされます。<Informatica インストールディレクトリ>/isp/bin
Informatica インストール DVD から infacmd をインストールすることもできます。
2. Windows では infacmd、UNIX では infacmd.sh を入力し、続けてプラグイン ID、コマンド名、および必要なオプションと引数を入力します。コマンド名では大文字と小文字が区別されません。

例:

```
infacmd(.sh) plugin_ID CommandName [-option1] argument_1 [-option2] argument_2...Command Options
```

infacmd を実行する場合、コマンドごとにオプションを入力し、続けて必要な引数を入力します。例えば、ほとんどのコマンドで、コマンドオプションを使用してドメイン名、ユーザー名、およびパスワードを入力することが必要です。コマンドオプションは、前にハイフンが付き、大文字と小文字を区別しません。オプションの後ろに引数を指定します。

先頭にハイフンの付いた引数を入力する場合は、その引数を引用符で囲みます。その際、各引用符をバックslash (\) でエスケープしてください。例えば、次のコマンドでは、ジョブ ID"-qnLI7G_TEEw9oIHBkc9hoA"のマッピング実行のログを、Windows の infacmd ディレクトリの "MyLog.log" ファイルに書き出しています。

```
infacmd ms GetRequestLog -dn MyDomain -sn MyDIS -un AdminUser -pd password -id \"-qnLI7G_TEEw9oIHBkc9hoA\" -f MyLog.log
```

必要なオプションを 1 つでも省略するか、間違えて入力すると、コマンドは失敗し、エラーメッセージが返されます。

infacmd では、いくつかのコマンドオプションに環境変数を使用することができます。例えば、ドメインのデフォルトユーザー名とパスワードは、コマンドオプションを使用して入力する必要があるように環境変数として格納できます。例えば、ドメインのデフォルトユーザー名は、コマンドオプションを使用して入力する必要があるように環境変数として格納できます。これらの変数は、infacmd を使用する前に設定します。

infacmd の戻りコード

infacmd プログラムは、以下の戻りコードで、コマンドが成功したか失敗したかを示します。

- 「0」はコマンドが成功したことを示します。
- 「-1」はコマンドが失敗したことを示します。

コマンドの戻りコードを確認するため、infacmd コマンドを実行後すぐに DOS または UNIX の echo コマンドを使用します。

- DOS シェルの場合: echo %ERRORLEVEL%
- UNIX Bourne または Korn シェルの場合: echo \$?
- UNIX C シェルの場合: echo \$status

infacmd UpdateGatewayInfo

ドメイン情報ファイルをコマンドラインから更新します。

infacmd isp UpdateGatewayInfo を実行して、domains.infa ファイルを作成するか、domains.infa ファイルを更新します。domains.infa ファイルには、ドメインのゲートウェイノードの接続情報と、ドメインの TLS と Kerberos の設定が含まれます。この接続情報には、ドメイン名、ドメインホスト名、およびドメインホストの HTTP ポートが含まれます。

domains.infa ファイルを生成して、クライアントマシン上で infacmd oie コマンドを実行する必要がある場合があります。domains.infa ファイルを生成するには、infacmd isp UpdateGatewayInfo を実行します。updateGatewayInfo コマンドにより、DeveloperClient ディレクトリ内で domains.infa ファイルが生成されます。コマンドを実行する場合には、ドメインゲートウェイのホスト名とポートを定義します。

infacmd UpdateGatewayInfo コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpdateGatewayInfo
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-GatewayAddress|-dg> domain_gateway_host:port
```

```
[<-Force|-f>]
```

以下の表に、infacmd UpdateGatewayInfo のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-GatewayAddress -dg	domain_gateway_host:port	必須。次の形式でゲートウェイのアドレスを入力します。 domain_gateway_host:port
-Force -f	-	オプション。ドメインへの接続が失敗した場合でも、domains.infa ファイルを更新または作成します。ドメインへの接続が失敗した場合は、domains.infa ファイルに -Force オプションによって Kerberos および TLS で有効化されるオプションが失敗として設定されます。-Force オプションを指定しない場合は、ドメインへの接続が失敗した場合に、このコマンドは domains.infa ファイルを更新しません。

第 6 章

infacmd as コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [CreateService, 62](#) ページ
- [CreateAuditTables, 65](#) ページ
- [DeleteAuditTables, 67](#) ページ
- [ListServiceOptions, 68](#) ページ
- [ListServiceProcessOptions, 69](#) ページ
- [UpdateServiceOptions, 71](#) ページ
- [UpdateServiceProcessOptions, 73](#) ページ

CreateService

ドメイン内にアナリストサービスを作成します。また、モデルリポジトリサービス、データ統合サービス、および Metadata Manager サービスをアナリストサービスに関連付けます。

infacmd as CreateService コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-NodeName|-nn> node_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-RepositoryService|-rs> model_repository_service_name]

[<-DataIntegrationService|-ds> data_integration_service_name]

[<-HumanTaskDataIntegrationService|-htds> human_task_data_integration_service_name]

[<-MetadataManagerService|-mm> metadata_manager_service_name]

[<-FlatFileCacheLocation|-ffl> flat_file_location]

[<-RepositoryUsername|-au> model_repository_user_name]

[<-RepositorySecurityDomain|-rssdn> model_repository_security_domain]

[<-RepositoryPassword|-ap> model_repository_password]

[<-BusinessGlossaryExportFileDirectory|-bgefd> business_glossary_export_file_directory]

<-HttpPort> http_port

以下の表に、infacmd as CreateService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-NodeName -nn	node_name	必須。アナリストサービスを実行するノードの名前。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アナリストサービスの名前。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前は 230 文字以内で、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰文字や、タブ、以下の文字を含むことはできません。 / * ? < > "
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。デフォルトは 180 秒です。
-RepositoryService -rs	model_repository_service_name	オプション。モデルリポジトリサービスの名前。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前は 230 文字以内で、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰文字や、タブ、以下の文字を含むことはできません。 / * ? < > "
-DataIntegrationService -ds	data_integration_service_name	オプション。アナリストサービスに関連付けられているデータ統合サービスの名前。
-HumanTaskDataIntegrationService -htds	human_task_data_integration_service_name	オプション。ヒューマンタスクを実行するデータ統合サービス。
-Metadata ManagerService -mm	metadata_manager_service_name	オプション。アナリストサービスに関連付けられている Metadata Manager サービスの名前。
-FlatFileCacheLocation -ffl	flat_file_location	オプション。フラットファイルをキャッシュするフォルダへのフルパス (ドメイン名は除く)。以下の形式である必要があります。 /parent_folder/child_folder

オプション	引数	説明
-RepositoryUserName -au	model_repository_user_name	モデルリポジトリサービスを指定している場合に必須。モデルリポジトリに接続するためのユーザー名。 スペースまたはアルファベット以外の文字を含むユーザー名を入力する場合は、名前を引用符で囲みます。
-RepositorySecurityDomain -rssdn	model_repository_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。管理者ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。
-RepositoryPassword -ap	model_repository_password	モデルリポジトリサービスを指定している場合に必須。モデルリポジトリサービス用のユーザーパスワード。
-BusinessGlossaryExportFileDirectory -bgefd	business_glossary_export_file_directory	オプション。Business Glossary ファイルをエクスポートするディレクトリの場所。
-HttpPort	http_port	必須。アナリストサービス用のポート番号。

CreateAuditTables

Informatica Analyst の不良レコードテーブルおよび重複テーブルの監査証跡ログイベントを含む監査テーブルを作成します。

infacmd as CreateAuditTables コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateAuditTables

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd as CreateAuditTables のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アナリストサービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

DeleteAuditTables

Informatica Analyst の不良レコードテーブルおよび重複テーブルの監査証跡ログイベントを含む監査テーブルを削除します。

infacmd as DeleteAuditTables コマンドでは、以下の構文を使用します。

DeleteAuditTables

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd as DeleteAuditTables のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アナリストサービスの名前。名前では大文字小文字を区別しません。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

ListServiceOptions

アナリストサービスオプションを一覧表示します。各アナリストサービスオプションの値を一覧表示します。

infacmd as ListServiceOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd as ListServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アナリストサービスの名前。名前では大文字小文字を区別しません。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	<p>ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。</p> <p>ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。</p>
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。</p>

ListServiceProcessOptions

アナリストサービスプロセスのオプションを一覧表示します。

infacmd as ListServiceProcessOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListServiceProcessOptions
```

```

<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-NodeName|-nn> node_name

```

以下の表に、`infacmd as ListServiceProcessOptions` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アナリストサービスの名前。名前では大文字小文字を区別しません。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds -ResilienceTimeout	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-NodeName -nn	node_name	必須。アナリストサービスプロセスを実行するノード。

UpdateServiceOptions

アナリストサービスオプションを更新します。現在のオプション値を表示するには、infacmd as ListServiceOptions を実行します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

オプションが複数ある場合はスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

infacmd as UpdateServiceOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpdateServiceOptions
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

[<-Options |>-o> options]

以下の表に、infacmd as UpdateServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アナリストサービスの名前。名前では大文字小文字を区別しません。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Options -o	オプション	オプション。設定するオプションのリスト。各オプションはスペースで区切ります。オプションを表示するには、infacmd as ListServiceOptions コマンドを実行します。

UpdateServiceProcessOptions

アナリストサービスプロセスの更新オプション。オプションを表示するには、infacmd as ListServiceProcessOptions コマンドを実行します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

オプションが複数ある場合はスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

infacmd as UpdateServiceProcessOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpdateServiceProcessOptions
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-NodeName|-nn> node_name
```

```
<-Options|-o> options
```

以下の表に、infacmd as UpdateServiceProcessOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アナリストサービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
-NodeName -nn	node_name	必須。アナリストサービスプロセスを実行するノード。
-Options -o	オプション	必須。設定するオプションのリスト。各オプションはスペースで区切ります。オプションを表示するには、 <code>infacmd as ListServiceProcessOptions</code> コマンドを実行します。

第 7 章

infacmd aud コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [getDomainObjectPermissions, 76](#) ページ
- [getPrivilegeAssociation, 78](#) ページ
- [getUserGroupAssociation, 80](#) ページ
- [getUserGroupAssociationForRoles, 82](#) ページ
- [getUsersPersonalInfo, 84](#) ページ

getDomainObjectPermissions

指定したユーザーまたはグループが権限を持つドメインオブジェクトのリストを取得します。指定したユーザーまたはグループのレポートを生成できます。

このコマンドは、管理者ロールが設定されたユーザーが実行できます。

infacmd aud getDomainObjectPermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
getDomainObjectPermissions
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<<-ExistingUserNames|-eu> existing_user_names|
<-ExistingGroupNames|-eg> existing_group_names>
[<-ExistingSecurityDomain|-esd> existing_security_domain]
[<-Format|-fm> format_TEXT_CSV]
[<-OutputFile|-lo> output_file_name]
```

以下の表に、infacmd aud getDomainObjectPermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインユーザーが属する、作成するセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 -sdn の値を指定できます。または認証モードに基づいてデフォルトの値を使用できます。 - ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。デフォルトはネイティブです。LDAP 認証と連動するには、-sdn の値を指定する必要があります。 - ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ネイティブ認証の場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号を指定します。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ExistingUserNames -eu	existing_user_names	-ExistingGroupNames (-eg)を使用しない場合は必須。レポートを実行するユーザーまたはユーザーのリストの名前。複数のユーザーの場合、コマンドラインで各ユーザーをカンマで区切ります。
-ExistingGroupNames -eg	existing_group_names	-ExistingUserName (-eu)を使用しない場合は必須。レポートを実行するグループまたはグループのリストの名前。複数のグループの場合、コマンドラインで各グループをカンマで区切ります。
-ExistingSecurityDomain -esd	existing_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーまたはグループが属するセキュリティドメイン。デフォルトはネイティブです。
-Format -fm	format_TEXT_CSV	オプション。出力ファイルの形式。有効なタイプは以下のとおりです。 - テキスト - CSV 形式を指定しない場合、infacmd ではテキスト形式が使用され、行が 80 文字で折り返されます。
-OutputFile -lo	output_file_name	オプション。出力ファイルの名前とファイルパス。出力ファイル名を指定しない場合、infacmd で画面にログイベントが表示されます。

getPrivilegeAssociation

ユーザーまたはグループに割り当てられている特権を取得します。レポート生成対象にするユーザーまたはグループを選択することができます。

このコマンドは、管理者ロールが設定されたユーザーが実行できます。

infacmd aud getPrivilegeAssociation コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
getPrivilegeAssociation
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<<-ExistingUserNames|-eu> existing_user_names|
<-ExistingGroupNames|-eg> existing_group_names>
[<-ExistingSecurityDomain|-esd> existing_security_domain]
[<-Format|-fm> format_TEXT_CSV]
[<-OutputFile|-lo> output_file_name]
```

以下の表に、infacmd aud getPrivilegeAssociation のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合、デフォルトはインストール中に指定されたユーザーレルム名です。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ExistingUserNames -eu	existing_user_names	-ExistingGroupNames (-eg) を使用しない場合は必須。レポートを実行するユーザーまたはユーザーのリストの名前。複数のユーザーの場合、コマンドラインで各ユーザーをカンマで区切ります。
-ExistingGroupNames -eg	existing_group_names	-ExistingUserName (-eu) を使用しない場合は必須。レポートを実行するグループまたはグループのリストの名前。複数のグループの場合、コマンドラインで各グループをカンマで区切ります。
-ExistingSecurityDomain -esd	existing_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーまたはグループが属するセキュリティドメイン。デフォルトはネイティブです。
-Format -fm	format_TEXT_CSV	オプション。出力ファイルの形式。有効なタイプは以下のとおりです。 - テキスト - CSV 形式を指定しない場合、infacmd ではテキスト形式が使用され、行が 80 文字で折り返されます。
-OutputFile -lo	output_file_name	オプション。出力ファイルの名前とファイルパス。出力ファイル名を指定しない場合、infacmd で画面にログイベントが表示されます。

getUserGroupAssociation

指定されたユーザーに関連付けられているグループまたはグループのリストに属するユーザーのリストを取得します。レポート生成対象にするユーザーまたはグループを選択することができます。

このコマンドは、管理者ロールが設定されたユーザーが実行できます。

infacmd aud getUserGroupAssociation コマンドでは、以下の構文を使用します。

```

getUserGroupAssociation
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

```



```
<<-ExistingUserNames|-eu> existing_user_names|
<-ExistingGroupNames|-eg> existing_group_names>
[<-ExistingSecurityDomain|-esd> existing_security_domain]
[<-Format|-fm> format_TEXT_CSV]
[<-OutputFile|-lo> output_file_name]
```

以下の表に、infacmd aud getUserGroupAssociation のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合、デフォルトはインストール中に指定されたユーザーレルム名です。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ExistingUserNames -eu	existing_user_names	-ExistingGroupNames (-eg)を使用しない場合は必須。レポートを実行するユーザーまたはユーザーのリストの名前。複数のユーザーの場合、コマンドラインで各ユーザーをカンマで区切ります。
-ExistingGroupNames -eg	existing_group_names	-ExistingUserName (-eu)を使用しない場合は必須。レポートを実行するグループまたはグループのリストの名前。複数のグループの場合、コマンドラインで各グループをカンマで区切ります。
-ExistingSecurityDomain -esd	existing_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーまたはグループが属するセキュリティドメイン。デフォルトはネイティブです。
-Format -fm	format_TEXT_CSV	オプション。出力ファイルの形式。有効なタイプは以下のとおりです。 - テキスト - CSV 形式を指定しない場合、infacmd ではテキスト形式が使用され、行が 80 文字で折り返されます。
-OutputFile -lo	output_file_name	オプション。出力ファイルの名前とファイルパス。出力ファイル名を指定しない場合、infacmd で画面にログイベントが表示されます。

getUserGroupAssociationForRoles

ユーザーおよびグループに割り当てられているロールのリストを取得します。レポート生成対象にするロールを選択することができます。

このコマンドは、管理者ロールが設定されたユーザーが実行できます。

infacmd aud getUserGroupAssociationForRoles コマンドでは、以下の構文を使用します。

```

getUserGroupAssociationForRoles
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

```

<-RoleNames|-en> role_names

[<-Format|-fm> format_TEXT_CSV]

[<-OutputFile|-lo> output_file_name]

以下の表に、infacmd aud getUserGroupAssociationForRoles のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合、デフォルトはインストール中に指定されたユーザーレルム名です。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-RoleNames -en	role_names	必須。レポート生成対象にするドメインのユーザーまたはグループに割り当てられているロールの名前。ロールが複数ある場合は、コマンドラインで各ロールをカンマで区切ります。
-Format -fm	format_TEXT_CSV	オプション。出力ファイルの形式。有効なタイプは以下のとおりです。 - テキスト - CSV 形式を指定しない場合、infacmd ではテキスト形式が使用され、行が 80 文字で折り返されます。
-OutputFile -lo	output_file_name	オプション。出力ファイルの名前とファイルパス。出力ファイル名を指定しない場合、infacmd で画面にログイベントが表示されます。

getUsersPersonalInfo

ドメイン内のユーザー情報を取得します。レポートに、フルネーム、セキュリティドメイン、説明、連絡先の詳細、およびユーザーのステータスが表示されます。ユーザー用レポートを実行した場合は、指定したユーザーのユーザー情報がレポートに表示されます。グループ用レポートを実行した場合は、指定したグループのすべてのユーザーのユーザー情報がレポートで整理されます。レポートには、ネストされたグループが個別に表示されます。

このコマンドは、管理者ロールが設定されたユーザーが実行できます。

infacmd aud getUsersPersonalInfo コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
getUsersPersonalInfo
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<<-ExistingUserNames|-eu> existing_user_names|
<-ExistingGroupNames|-eg> existing_group_names>
[<-ExistingSecurityDomain|-esd> existing_security_domain]
```

[<-Format|-fm> format_TEXT_CSV]

[<-OutputFile|-lo> output_file_name]

以下の表に、infacmd aud getUsersPersonallInfo のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合、デフォルトはインストール中に指定されたユーザーレルム名です。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ExistingUserNames -eu	existing_user_names	-ExistingGroupNames (-eg)を使用しない場合は必須。レポートを実行するユーザーまたはユーザーのリストの名前。複数のユーザーの場合、コマンドラインで各ユーザーをカンマで区切ります。
-ExistingGroupNames -eg	existing_group_names	-ExistingUserName (-eu)を使用しない場合は必須。レポートを実行するグループまたはグループのリストの名前。複数のグループの場合、コマンドラインで各グループをカンマで区切ります。
-ExistingSecurityDomain -esd	existing_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーまたはグループが属するセキュリティドメイン。デフォルトはネイティブです。
-Format -fm	format_TEXT_CSV	オプション。出力ファイルの形式。有効なタイプは以下のとおりです。 - テキスト - CSV 形式を指定しない場合、infacmd ではテキスト形式が使用され、行が 80 文字で折り返されます。
-OutputFile -lo	output_file_name	オプション。出力ファイルの名前とファイルパス。出力ファイル名を指定しない場合、infacmd で画面にログイベントが表示されます。

第 8 章

infacmd bg コマンドリファレンス

- [upgradeRepository, 87](#) ページ

upgradeRepository

モデルリポジトリの Business Glossary データをアップグレードします。このコマンドはドメインのアップグレード後に実行します。

infacmd bg upgradeRepository コマンドでは、以下の構文を使用します。

upgradeRepository

```
<-DomainName|-dn> domain_name  
<-UserName|-un> user_name  
<-Password|-pd> Password  
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]  
<-AtServiceName|-atn> Analyst_service_name
```

以下の表に、infacmd bg upgradeRepository のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
AtServiceName -atn	Analyst_service_name	必須。アナリストサービスの名前。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前は 230 文字以内で、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰改行文字や、タブ、以下の文字を含むことはできません。 / * ? < > "

第 9 章

infacmd cms コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [CreateAuditTables, 89](#) ページ
- [CreateService, 91](#) ページ
- [DeleteAuditTables, 93](#) ページ
- [ListServiceOptions, 95](#) ページ
- [ListServiceProcessOptions, 97](#) ページ
- [Purge, 98](#) ページ
- [RemoveService, 100](#) ページ
- [ResyncData, 102](#) ページ
- [UpdateServiceOptions, 104](#) ページ
- [UpdateServiceProcessOptions, 106](#) ページ
- [アップグレード, 108](#) ページ

CreateAuditTables

指定されたコンテンツ管理サービスによって管理される参照テーブルの監査証跡ログイベントを含む監査テーブルを作成します。

infacmd cms CreateAuditTables コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateAuditTables

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd cms CreateAuditTables のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。コンテンツ管理サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

CreateService

ドメインにコンテンツ管理サービスを作成します。

infacmd cms CreateService コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

<-DataServer|-ds> data_service_name

<-RepositoryService|-rs> repository_service_name

<-RepositoryUsername|-rsu> repository_user_name

<-RepositoryPassword|-rsp> repository_password

[<-RepositorySecurityDomain|-rssid> repository_security_domain]

<-ReferenceDataLocation|-rdl> reference_data_location

[<-HttpPort> http_port]

[<-HttpsPort> https_port]

[<-KeystoreFile|-kf> keystore_file_location]

[<-KeystorePassword|-kp> keystore_password]

以下の表に、infacmd cms CreateService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。コンテンツ管理サービスの名前。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前は 128 文字以内で、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰文字や、タブ、以下の文字を含むことはできません。 / * ? < > "

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。デフォルトは 180 秒です。
-NodeName -nn	node_name	必須。コンテンツ管理サービスを実行するノードの名前。
-DataServer -ds	data_service_name	必須。コンテンツ管理サービスに関連付けられているデータ統合サービス名。
-RepositoryService -rs	repository_service_name	必須。コンテンツ管理サービスに関連付けられているモデルリポジトリサービスの名前。

オプション	引数	説明
-RepositoryUsername -rsu	repository_user_name	必須。モデルリポジトリサービスに接続するためのユーザー名。 モデルリポジトリで参照テーブルの管理タスクを実行するには、プロパティで識別されたユーザーにモデルリポジトリサービスの管理者ロールが割り当てられている必要があります。参照テーブルの管理タスクには孤立した参照テーブルのパージ処理が含まれます。
-RepositoryPassword -rsp	repository_password	必須。モデルリポジトリサービスに接続するためのパスワード。
-RepositorySecurityDomain -rssd	repository_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されません。デフォルトはネイティブです。
-ReferenceDataLocation -rdl	reference_data_location	必須。モデルリポジトリで定義されている参照テーブルのデータ値を格納するデータベースの接続名。指定したデータベースに参照データ値が格納されます。モデルリポジトリは参照テーブルのメタデータを格納します。
-HttpPort	http_port	必須。コンテンツ管理サービスの一意的 HTTP ポート番号。
-HttpsPort	https_port	オプション。Transport Layer Security (TLS) プロトコルを有効にした場合に、サービスが実行される HTTPS ポート番号。
-KeystoreFile -kf	keystore_file_location	サービスに対して TLS を有効にし、HTTPS プロトコルを使用する場合に必要な、キーと証明書が格納されたキーストアファイルのパスとファイル名。
-KeystorePassword -kp	keystore_password	サービスで TLS を有効にして HTTPS 接続を使用する場合に必須。キーストアファイルのテキストパスワード。

DeleteAuditTables

指定されたコンテンツ管理サービスの監査証跡テーブルを削除します。

infacmd cms DeleteAuditTables コマンドでは、以下の構文を使用します。

DeleteAuditTables

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd cms DeleteAuditTables のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。コンテンツ管理サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。</p>

ListServiceOptions

Content Management Service のオプションを一覧表示します。

infacmd cms ListServiceOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd cms ListServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。コンテンツ管理サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

ListServiceProcessOptions

コンテンツ管理サービスプロセスのオプションを一覧表示します。

infacmd cms ListServiceProcessOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListServiceProcessOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

以下の表に、cms ListServiceProcessOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。コンテンツ管理サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
NodeName -nn	node_name	必須。サービスプロセスを実行するノードの名前。

Purge

モデルリポジトリの参照テーブルオブジェクトに関連付けられなくなった参照テーブルを参照データウェアハウスから削除します。

infacmd cms Purge を実行すると、コンテンツ管理サービスによって、関連付けられたモデルリポジトリ内の参照テーブルオブジェクトのデータを保存するテーブルが特定されます。コンテンツ管理サービスは、他のテーブルをウェアハウスからすべて削除し、削除されたテーブルの一覧を生成します。モデルリポジトリのマスタコンテンツ管理サービスで、infacmd cms Purge を実行してください。

注: データを誤って消失することを防止するために、モデルリポジトリに参照テーブルオブジェクトが含まれない場合にはパーズ処理によってテーブルが削除されることはありません。

infacmd cms Purge を実行する前に、以下の前提条件を確認してください。

- コマンドに指定するユーザー名に、ドメインに対するサービス管理特権が存在する。
- コンテンツ管理サービスで指定されているモデルリポジトリユーザーが、モデルリポジトリサービスの管理者ロールを持っている。
- モデルリポジトリに関連付けられたデータ統合サービスがすべて使用できる。
- 参照データウェアハウスで進行しているデータ処理がない。
- 参照データウェアハウスが、1つのモデルリポジトリ内の参照テーブルオブジェクトのデータを格納している。

infacmd cms Purge コマンドでは、以下の構文を使用します。

Purge

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd cms Purge のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。コンテンツ管理サービスの名前。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前は 128 文字以内で、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰文字や、タブ、以下の文字を含むことはできません。 / * ? < > "
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。デフォルトは 180 秒です。</p>

RemoveService

ドメインからコンテンツ管理サービスを削除します。サービスを削除する前に、サービスを無効にする必要があります。

infacmd cms RemoveService コマンドでは、以下の構文を使用します。

RemoveService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd cms RemoveService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。削除するサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

ResyncData

ドメイン内の指定されたコンテンツ管理サービスマシンとマスタコンテンツ管理サービスマシンとの間で、確率モデルファイルまたは分類子モデルファイルを同期させます。ResyncData コマンドによって、指定のコンテンツ管理サービスマシン上のファイルが、マスタコンテンツ管理サービスマシンからのファイルで更新されます。

このコマンドは、指定した日時が過ぎると、マスタコンテンツ管理サービスマシン上に保存されている任意のファイルを同期します。単一の種類のモデルファイルに対して ResyncData コマンドを実行します。確率モデルファイルと分類子モデルファイルを同期するには、このコマンドを 2 回実行する必要があります。

infacmd cms ResyncData を実行する場合は、両方のコンテンツ管理サービスマシンに対するアクセス権限が必要です。サービスへのアクセス権限は Informatica Administrator が設定します。

infacmd cms ResyncData コマンドでは、以下の構文を使用します。

ResyncData

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-Type|-t> type

<-StartTime|-st> start_time

以下の表に、infacmd cms ResyncData のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。コンテンツ管理サービスの名前。このコマンドは、サービスをホストするマシンにファイルをコピーします。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Type -t	タイプ	必須。マスタコンテンツ管理サービスマシンからコピーするデータファイルのタイプを特定します。次のいずれかのオプションを入力します。 - NER。確率モデルのデータファイルを指定します。 - 分類子。分類子モデルのデータファイルを指定します。
-StartTime -st	start_time	必須。マスタコンテンツ管理サービスマシンから、ServiceName プロパティで指定したコンテンツ管理サービスマシンにコピーするファイルを特定します。このコマンドは、StartTime の値よりも前のタイムスタンプが付いたファイルをコピーしません。時間の判断には、マスタコンテンツ管理サービスマシンのシステムクロックが使用されます。 デフォルトのロケール形式でデータを入力します。

UpdateServiceOptions

コンテンツ管理サービスサービスを、現在のリリースで導入されたオプションで更新します。現在のオプションを表示するには、`infacmd cms ListServiceOptions` コマンドを実行します。

`infacmd cms UpdateServiceOptions` コマンドでは、以下の構文を使用します。

`UpdateServiceOptions`

`<-DomainName|-dn> domain_name`

`<-ServiceName|-sn> service_name`

`<-UserName|-un> user_name`

`<-Password|-pd> password`

`[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]`

`[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]`

`<-Options|-o> options`

以下の表に、`infacmd cms UpdateServiceOptions` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
<code>-DomainName</code> <code>-dn</code>	<code>domain_name</code>	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、 <code>-dn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、 <code>-dn</code> オプションが優先されます。
<code>-ServiceName</code> <code>-sn</code>	<code>service_name</code>	必須。コンテンツ管理サービスの名前。
<code>-UserName</code> <code>-un</code>	<code>user_name</code>	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、 <code>-un</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、 <code>-un</code> オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
<code>-Password</code> <code>-pd</code>	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、 <code>-pd</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、 <code>-pd</code> オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Options -o	オプション	必須。更新する各オプションと値を入力します。各オプションはスペースで区切ります。アプリケーションのオプションを表示するには、infacmd cms ListServiceOptions コマンドを実行します。

ユーザー名およびパスワードのオプション

UpdateServiceProcessOptions -o オプションを使用して、モデルリポジトリサービスに接続するためにコンテンツ管理サービスで使用するユーザー名とパスワードを更新できます。

DataServiceOptions.RepositoryUsername オプションおよび DataServiceOptions.RepositoryPassword オプションを使用して、ユーザー名およびパスワードの値を更新します。Informatica Administrator で値を設定することもできます。

参照データの場所オプション

UpdateServiceProcessOptions -o オプションを使用して、参照データのステージングディレクトリのパスを更新できます。コンテンツ管理サービスではこのディレクトリを使用して、参照テーブルに追加するデータをステージングします。

FileTransferOptions.TempLocation オプションを使用して、ステージングディレクトリの場所を更新します。Informatica Administrator で場所を設定することもできます。

UpdateServiceProcessOptions

コンテンツ管理サービスプロセスのオプションを更新します。現在のオプションを表示するには、`infacmd cms ListServiceProcessOptions` コマンドを実行します。

`infacmd cms UpdateServiceProcessOptions` コマンドでは、以下の構文を使用します。

`UpdateServiceProcessOptions`

`<-DomainName|-dn> domain_name`

`<-ServiceName|-sn> service_name`

`<-UserName|-un> user_name`

`<-Password|-pd> password`

`[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]`

`[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]`

`<-NodeName|-nn> node_name`

`<-Options|-o> options`

以下の表に、`infacmd cms UpdateServiceProcessOptions` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
<code>-DomainName</code> <code>-dn</code>	<code>domain_name</code>	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、 <code>-dn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、 <code>-dn</code> オプションが優先されます。
<code>-ServiceName</code> <code>-sn</code>	<code>service_name</code>	必須。コンテンツ管理サービスの名前。
<code>-UserName</code> <code>-un</code>	<code>user_name</code>	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、 <code>-un</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、 <code>-un</code> オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
<code>-Password</code> <code>-pd</code>	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、 <code>-pd</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、 <code>-pd</code> オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
NodeName -nn	node_name	必須。サービスプロセスを実行するノードの名前。
-Options -o	オプション	必須。更新する各オプションと値を入力します。各オプションはスペースで区切ります。アプリケーションのオプションを表示するには、infacmd cms ListServiceProcessOptions コマンドを実行します。

ID 照合分析オプション

UpdateServiceProcessOptions -o オプションを使用して、ID 照合分析に対する以下のプロパティを更新できます。

- IdentityOptions.IdentityReferenceDataLocation.ID ポピュレーションファイルの場所を指定します。
- IdentityOptions.IdentityCacheDir. ID 照合分析で使用されるキャッシュディレクトリの場所を指定します。
- IdentityOptions.IdentityIndexDir. ID 照合分析で使用されるインデックスキーディレクトリの場所を指定します。

Informatica Administrator でプロパティを設定することもできます。

アップグレード

Content Management Service の設定をアップグレードします。現在のバージョンの Informatica Data Quality にアップグレードするには、`infacmd cms Upgrade` を実行します。

`infacmd cms Upgrade` コマンドでは、以下の構文を使用します。

Upgrade

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

`infacmd cms Upgrade` マンドでは、ドメインのサービス設定をチェックして、以下のサービスオプションを検証します。

マスタ Content Management Service

Upgrade コマンドは、ドメインのモデルリポジトリがマスタ Content Management Service を使用することを検証します。Model Repository Service がマスタ Content Management Service を指定しない場合、Upgrade コマンドは現在のサービスをマスタ Content Management Service として設定します。デフォルトでは、モデルリポジトリに接続する最初の Content Management Service がマスタ Content Management Service になります。

Model Repository Service

Upgrade コマンドは、Content Management Service に関連付けられている Data Integration Service を使用して、ドメインの Model Repository Service を特定します。

Upgrade コマンドは、Model Repository Service に接続する場合に使用する Content Management Service のユーザー名、パスワード、セキュリティドメインが有効であるかどうかを検証します。これらのオプションを設定しない場合、Upgrade コマンドは、関連する Data Integration Service のユーザー名、パスワード、およびセキュリティドメインの値を使用して、Model Repository Service に接続します。

参照データの場所

Upgrade コマンドは、Content Management Service が参照データの場所を指定していることを検証します。サービスが参照データの場所を指定していない場合、Upgrade コマンドは Analyst Service で定義されたステージングデータベースに場所を設定します。

以下の表に、`infacmd cms Upgrade` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。コンテンツ管理サービスの名前。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	<p>ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。</p> <p>ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。</p>
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。</p>

第 10 章

infacmd dis コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [AddParameterSetEntries, 111](#) ページ
- [BackupApplication, 113](#) ページ
- [CancelDataObjectCacheRefresh, 114](#) ページ
- [CreateService, 116](#) ページ
- [DeleteParameterSetEntries, 120](#) ページ
- [DeployApplication, 122](#) ページ
- [ListApplications, 123](#) ページ
- [ListApplicationObjects, 125](#) ページ
- [ListApplicationOptions, 127](#) ページ
- [ListComputeOptions, 128](#) ページ
- [ListDataObjectOptions, 130](#) ページ
- [ListParameterSetEntries, 132](#) ページ
- [ListParameterSetObjects, 133](#) ページ
- [ListParameterSets, 135](#) ページ
- [ListSequenceObjectProperties, 136](#) ページ
- [ListSequenceObjects, 138](#) ページ
- [ListServiceOptions, 140](#) ページ
- [ListServiceProcessOptions, 141](#) ページ
- [PurgeDataObjectCache, 143](#) ページ
- [PurgeResultSetCache, 145](#) ページ
- [RefreshDataObjectCache, 147](#) ページ
- [RenameApplication, 148](#) ページ
- [RestoreApplication, 150](#) ページ
- [SetSequenceState, 152](#) ページ
- [StartApplication, 154](#) ページ
- [StopApplication, 156](#) ページ
- [stopBlazeService, 158](#) ページ
- [UndeployApplication, 159](#) ページ

- [UpdateApplication, 161](#) ページ
- [UpdateApplicationOptions, 162](#) ページ
- [UpdateComputeOptions, 164](#) ページ
- [UpdateDataObjectOptions, 166](#) ページ
- [UpdateParameterSetEntries, 169](#) ページ
- [UpdateServiceOptions, 170](#) ページ
- [UpdateServiceProcessOptions, 185](#) ページ

AddParameterSetEntries

パラメータセットにエントリを追加します。このコマンドを実行すると、アプリケーションとしてデプロイされたマッピングまたはワークフローのパラメータを追加できます。

infacmd dis AddParameterSetEntries コマンドでは、以下の構文を使用します。

AddParameterSetEntries

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-Application|-a> application

<-parameterSetName|-ps> parameter set name

<-projectScope|-prs> path to the mapping or workflow that contains the parameters. For a mapping, M1, in project P1 and folder F1, the path is P1/F1/mapping/M1.

<-paramNameValues|-pnv> parameter name-value pairs, separated by space

以下の表に、infacmd dis AddParameterSetEntries のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされるデータ統合サービスの名前。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	application	必須。パラメータセットが含まれるアプリケーションの名前。
parametersetname -ps	パラメータセット名	必須。パラメータセットの名前。

オプション	引数	説明
-projectScope -prs	プロジェクト範囲	必須。パラメータを含むマッピングまたはワークフローへのパス。プロジェクト P1 およびフォルダ F1 のマッピング M1 の場合、パスは P1/F1/mapping/M1 となります。
-paramNames -pnv	パラメータ名	必須。パラメータ名と値のペアをスペースで区切って入力します。名前-値のペアは二重引用符で囲みます。各値は一重引用符で囲みます。以下の構文を使用します。 "parm1='valueA'" "parm2='valueB'" "parm3='valueC'" パラメータ値にスペースを含めることができます。アポストロフィ (') やコロン (:) を値に含めるには、その文字をバックスラッシュ (\) でエスケープします。 'C:\directory'

BackupApplication

デプロイ済みアプリケーションをデータ統合サービスから XML ファイルへバックアップします。

バックアップファイルには、アプリケーションのためのすべてのプロパティ設定が含まれます。アプリケーションを別のデータ統合サービスにリストアできます。バックアップする前に、アプリケーションを停止する必要があります。

infacmd dis BackupApplication コマンドでは、以下の構文を使用します。

BackupApplication

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-Application|-a> application

<-FileName|-f> file_name

以下の表に、infacmd dis BackupApplication のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされるデータ統合サービスの名前。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	アプリケーション	必須。バックアップするアプリケーションの名前。
FileName -f	file_name	必須。アプリケーションのバックアップファイルの名前とファイルパス。

CancelDataObjectCacheRefresh

論理データオブジェクトのキャッシュを更新するために最新のリクエストを停止します。キャッシュマッピングが実行中の場合、論理データオブジェクトのキャッシュを更新するために、このコマンドは現在のリクエスト

トを停止します。それ以降に周期的に発生する論理データオブジェクトのキャッシュ更新リクエストは、この影響を受けません。

infacmd dis CancelDataObjectCacheRefresh コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
CancelDataObjectCacheRefresh
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ServiceName|-sn> service_name
<-Application|-a> application
<-Folder|-f> folder
<-DataObject|-do> data_model.data_object
```

次の表に、infacmd dis CancelDataObjectCacheRefresh のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。データ統合サービスの名前。
アプリケーション -a	アプリケーション	必須。アプリケーションの名前。
-Folder -f	フォルダー	アプリケーション内の、データオブジェクトを含むフォルダ。
-DataObject -do	data_model.data_object	必須。論理データオブジェクトの名前。名前は、次の構文で指定する必要があります。 <data_model>.<data_object>

CreateService

データ統合サービスを作成します。デフォルトでは、データ統合サービスは作成時に有効になります。

infacmd dis CreateService コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

```

<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-NodeName|-nn> node_name | <-GridName|-gn> grid_name
[<-BackupNodes|-bn> node_name1,node_name2,...]
<-RepositoryService|-rs> model_repository_service_name
<-RepositoryUserName|-rsun> model_repository_user_name
<-RepositoryPassword|-rspd> model_repository_password
[<-RepositorySecurityDomain|-rssdn> model_repository_security_domain]
[<-HttpPort> http_port]
[<-HttpsPort> https_port]
[<-KeystoreFile|-kf> keystore_file_location]
[<-KeystorePassword|-kp> keystore_password]
[<-httpProtocolType|-pt> http_protocol_type]

```

以下の表に、infacmd dis CreateService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。データ統合サービスの名前。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前は 230 文字以内で、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰文字や、タブ、以下の文字を含むことはできません。 / * ? < > "
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-NodeName -nn	node_name	グリッド名を指定していない場合に必須。データ統合サービスが実行されるノード。データ統合サービスはノードまたはグリッド上で実行できます。
-GridName -gn	grid_name	ノード名を指定していない場合に必須。データ統合サービスが実行されるグリッド。データ統合サービスはノードまたはグリッド上で実行できます。
-BackupNodes -bn	node_name1,node_name2,...	オプション。プライマリノードが使用できない場合にサービスが実行されるノード。高可用性オプションがある場合は、バックアップノードを設定できます。
-RepositoryService -rs	model_repository_service_name	マッピングと SQL データサービスを実行するのに必要とされるランタイムメタデータを格納するモデルリポジトリサービス。
-RepositoryUserName -rsun	model_repository_user_name	モデルリポジトリサービスにアクセスするためのユーザー名。
-RepositoryPassword -rspd	model_repository_password	モデルリポジトリサービスにアクセスするためのユーザーパスワード。
-RepositorySecurityDomain -rssidn	model_repository_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。モデルリポジトリユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。

オプション	引数	説明
-HttpPort	http_port	HTTPS ポートを指定しない場合に必須。データ統合サービスプロセスに使用される固有の HTTP ポート番号。サービスの作成後は、データ統合サービスのプロセスごとに異なるポート番号を定義できます。 デフォルトは 8095 です。
-HttpsPort	https_port	HTTP ポートを指定しない場合に必須。各データ統合サービスプロセスに使用する一意の HTTPS ポート番号。サービスの作成後は、データ統合サービスのプロセスごとに異なるポート番号を定義できます。
-KeystoreFile -kf	keystore_file_location	データ統合サービスに対して HTTPS プロトコルを使用する場合に必要なキーと証明書を含む、キーストアファイルのパスおよびファイル名。キーストアファイルはキーツールで作成できます。キーツールは、プライベートキーまたはパブリックキーのペアと関連する証明書を生成してキーストアファイルに格納するユーティリティです。自己署名証明書または認証機関によって署名された証明書を使用できます。 データ統合サービスをグリッド上で有効にする場合、グリッド上のキーストアファイルは同じキーを含んでいる必要があります。
-KeystorePassword -kp	keystore_password	キーストアファイルのパスワード。
-httpProtocolType -pt	http_protocol_type	データ統合サービスが使用するセキュリティプロトコル。次のいずれかの値を入力します。 - HTTP。このサービスに対する要求では HTTP URL を使用する必要があります。 - HTTPS。このサービスに対する要求では HTTPS URL を使用する必要があります。 - 両方。このサービスに対する要求では HTTP URL か HTTPS URL のいずれかを使用できます。 HTTP プロトコルタイプを HTTPS または両方に設定する場合は、このサービスに対して Transport Layer Security (TLS) を有効にします。 1 つのアプリケーションにデプロイされた各 Web サービスに対して、TLS を有効にすることもできます。Data Integration Service に対して HTTPS を有効にし、Web サービスに対して TLS を有効にすると、Web サービスで HTTPS URL が使われます。Data Integration Service に対して HTTPS を有効にし、Web サービスに対して TLS を有効にしないと、Web サービスで HTTP URL または HTTPS URL を使用できません。Data Integration Service に対して HTTPS を有効にせずに、Web サービスに対して TLS を有効にすると、Web サービスが起動しません。 デフォルトは HTTP です。

DeleteParameterSetEntries

パラメータセットからエントリを削除します。このコマンドを実行すると、アプリケーションとしてデプロイされたマッピングまたはワークフローのパラメータセットエントリを削除できます。特定のパラメータセットエントリまたはすべてのパラメータセットエントリを削除できます。

削除するパラメータがパラメータセット内に存在しない場合は、警告メッセージが返されます。メッセージには、指定されたパラメータがパラメータセット内に存在しないため削除されなかったことが示されます。

infacmd dis DeleteParameterSetEntries コマンドでは、以下の構文を使用します。

DeleteParameterSetEntries

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-Application|-a> application

<-parameterSetName|-ps> parameter set name

<-projectScope|-prs> path to the mapping or workflow that contains the parameters

<-paramNames|-pnv> parameter names to delete, separated by spaces. For a mapping, M1, in project P1 and folder F1, the path is P1/F1/mapping/M1.

<-all|> Delete all the parameters in the project scope.

以下の表に、infacmd dis DeleteParameterSetEntries のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされるデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	application	必須。パラメータセットが含まれるアプリケーションの名前。
parametersetname -ps	パラメータセット名	必須。パラメータセットの名前。
-projectScope -prs	プロジェクト範囲	必須。パラメータを含むマッピングまたはワークフローへのパス。プロジェクト P1 およびフォルダ F1 のマッピング M1 の場合、パスは P1/F1/mapping/M1 となります。
-paramNames -pnv	パラメータ名	必須。削除するパラメータセットエントリの名前をスペースで区切って指定します。すべてのパラメータを削除する場合は、このオプションの代わりに -all オプションを使用します。
-all	all	パラメータセット内のすべてのパラメータを削除します。

DeployApplication

アプリケーションをデータ統合サービスにデプロイします。

infacmd dis DeployApplication コマンドでは、以下の構文を使用します。

DeployApplication

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-FileName|-f> file_name

<-Application|-a> application

以下の表に、infacmd dis DeployApplication のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされるデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できません。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
FileName -f	file_name	必須。アプリケーションファイルの名前。
-Application -a	アプリケーション	必須。デプロイするアプリケーションの名前。名前が競合した場合、デプロイは失敗します。

ListApplications

データ統合サービスにデプロイされているアプリケーションを一覧表示します。

infacmd dis ListApplications コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListApplications

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

以下の表に、infacmd dis ListApplications のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別しません。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレールムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションを一覧表示するデータ統合サービスの名前。

ListApplicationObjects

アプリケーションに含まれているオブジェクトを一覧表示します。

-ListObjectTypes オプションを使用している場合、このコマンドは各オブジェクトのタイプも一覧表示しません。

infacmd dis ListApplicationObjects コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListApplicationObjects
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> Data_Integration_Service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-Application|-a> application
[<-ObjectType|-t> object_type]
[<-ListObjectType|-lt> list_object_type]
[<-PageSize|-ps> page_size]
[<-PageIndex|-pi> page_index]
```

以下の表に、infacmd dis ListApplicationObjects のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	Data_Integration_Service_name	必須。データ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	application	必須。アプリケーションの名前。
-ObjectType -t	object_type	オプション。一覧表示するオブジェクトのタイプ。このオプションを使用して、オブジェクトタイプ別に結果をフィルタできます。
-ListObjectType -lt	true false	オプション。次のいずれかの値を入力します。 - true - false
-PageSize -ps	page_size	オプション。各グループまたはページに表示する結果の数。ページサイズを指定すると、コマンドの結果がグループにまとめられます。例えば、-PageSize 5 を指定した場合、コマンドは 5 個以下のグループで結果を返します。
-PageIndex -pi	page_index	オプション。表示する結果のページ (0 から始まります)。例えば、-PageSize 5 -PageIndex 0 を指定した場合、コマンドは最初のページの 5 個の結果 (結果 1~5) を返します。 PageIndex を省略した場合、コマンドは結果の最初の PageSize を返します。 デフォルトは 0 です。

ListApplicationOptions

アプリケーションのプロパティを一覧表示します。

infacmd dis ListApplicationOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListApplicationOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-Application|-a> application

以下の表に、infacmd dis ListApplicationOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされるデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	アプリケーション	必須。アプリケーションの名前。

ListComputeOptions

計算ロールのあるノードのデータ統合サービスプロパティを一覧表示します。

infacmd dis ListComputeOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListComputeOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

以下の表に、infacmd dis ListComputeOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。データ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
NodeName -nn	node_name	必須。データ統合サービスまたはデータ統合サービスグリッドに割り当てられた計算ロールを持つノード。

ListDataObjectOptions

データオブジェクトのプロパティを一覧表示します。

infacmd dis ListDataObjectOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListDataObjectOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-Application|-a> application

<-Folder|-f> folder

<-DataObject|-do> data_model.data_object

以下の表に、infacmd dis ListDataObjectOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。データ統合サービスの名前。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	アプリケーション	必須。アプリケーションの名前。
-Folder -f	フォルダー	必須。データオブジェクトを格納するリポジトリフォルダー。
DataObject -do	data_model.data_object	必須。データオブジェクト名。

ListParameterSetEntries

パラメータセットのエントリを一覧表示します。

infacmd dis ListParameterSetEntries コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListParameterSetEntries

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-Application|-a> application

<-parameterSetName|-ps> parameter set name

<-projectScope|-prs> path to the mapping or workflow that contains the parameters. For a mapping, M1, in project P1 and folder F1, the path is P1/F1/mapping/M1.

以下の表に、infacmd dis ListParameterSetEntries のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされるデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できません。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	application	必須。パラメータセットが含まれるアプリケーションの名前。
parametersetname -ps	パラメータセット名	必須。パラメータセットの名前。
-projectScope -prs	プロジェクト範囲	必須。パラメータを含むマッピングまたはワークフローへのパス。プロジェクト P1 およびフォルダ F1 のマッピング M1 の場合、パスは P1/F1/mapping/M1 となります。

ListParameterSetObjects

特定のパラメータセット内のオブジェクトを一覧表示します。

infacmd dis ListParameterSetObjects コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListParameterSetObjects
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-Password|-ps> parameter set
```

<-Application|-a> application that contains the parameter set

以下の表に、infacmd dis ListParameterSetObjects のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされるデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
-parameterset -ps	パラメータセット	必須。表示するパラメータセットの名前。
-Application -a	application	必須。パラメータセットが含まれるアプリケーションの名前。

ListParameterSets

アプリケーション内のパラメータセットを一覧表示します。

infacmd dis ListParameterSets コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListParameterSets

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-Application|-a> application

以下の表に、infacmd dis ListParameterSets のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされるデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	application	必須。パラメータセットが含まれるアプリケーションの名前。

ListSequenceObjectProperties

シーケンスデータオブジェクトのプロパティを一覧表示します。

infacmd dis listsequenceobjectproperties コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListSequenceObjectProperties
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-Application|-a> application
<-SequenceObjectPath|-sop> sequence_object_path
```


以下の表に、infacmd dis ListSequenceObjectProperties のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。統合サービスの名前です。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前は 230 文字以内で、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰文字や、タブ、以下の文字を含むことはできません: / * ? < >
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	アプリケーション	必須。アプリケーションの名前。
-SequenceObjectPath -sop	シーケンスオブジェクトパス	<p>必須。シーケンスデータオブジェクトのパス。該当する場合、パスに以下のオブジェクトを順に含める必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト - フォルダー - SQL データサービスまたは Web サービス - マッピング - シーケンスジェネレータトランスフォーメーション - シーケンスデータオブジェクト <p>シーケンスデータオブジェクトがマッピング、SQL データサービス、または Web サービス内に存在する場合、マッピング名、SQL データサービス名、または Web サービス名の前にプレフィックスを使用する必要があります。コマンドで、オプションに以下のプレフィックスを使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Mapping:<mapping name> - SQLDS:<SQL data service name> - WS:<web service name> <p>オプションはスラッシュ (/) で区切ります。以下に例を示します。</p> <pre><project name>/<folder>/SQLDS:<SQL Data Service Name>/Mapping:<virtual table mapping>/<Sequence Generator transformation>/<sequence data object name></pre>

ListSequenceObjects

アプリケーションにデプロイされたシーケンスデータオブジェクトを一覧表示します。

infacmd dis ListSequenceObjects コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListSequenceObjects
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-Application|-a> application
```

以下の表に、infacmd dis ListSequenceObjects のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。統合サービスの名前です。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前は 230 文字以内で、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰文字や、タブ、以下の文字を含むことはできません： / * ? < >
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーロールと同じです。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	アプリケーション	必須。アプリケーションの名前。

ListServiceOptions

データ統合サービスのプロパティを一覧表示します。

infacmd dis ListServiceOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd dis ListServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。データ統合サービスの名前。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	<p>ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。</p> <p>ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。</p>
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。</p>

ListServiceProcessOptions

データ統合サービスプロセスのプロパティを一覧表示します。

infacmd dis ListServiceProcessOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListServiceProcessOptions
```

```

<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-NodeName|-nn> node_name

```

以下の表に、`infacmd dis ListServiceProcessOptions` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。データ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-NodeName -nn	node_name	必須。サービスプロセスを実行するノードの名前。

PurgeDataObjectCache

論理データオブジェクトのキャッシュをパーズします。論理データオブジェクトのキャッシュが有効になっている場合、このコマンドは、最後に実行されたキャッシュ以外の、論理データオブジェクトのすべてのキャッシュを削除します。最後に実行されたキャッシュが [キャッシュのリフレッシュ期間] に設定された時間よりも前の場合は、最後に実行されたキャッシュも削除されます。論理データオブジェクトのキャッシュが有効になっていない場合、このコマンドは、論理データオブジェクトのすべてのキャッシュを削除します。

データオブジェクトのキャッシュを削除する前に、論理データオブジェクトのアプリケーションを無効にする必要があります。

infacmd dis PurgeDataObjectCache コマンドでは、以下の構文を使用します。

PurgeDataObjectCache

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-Application|-a> application

<-Folder|-f> folder

<-DataObject|-do> data_model.data_object

[<-PurgeAll|-pa> true|false]

以下の表に、infacmd dis PurgeDataObjectCache のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされるデータ統合サービスの名前。
アプリケーション -a	アプリケーション	データオブジェクトを含むアプリケーションの名前。
フォルダー -f	フォルダー	データオブジェクトモデルを含むフォルダーの名前。
DataObject -do	data_model.data_object	パージが必要なキャッシュのあるデータオブジェクトの名前。
-PurgeAll -pa	true false	オプション。論理データオブジェクトのキャッシュを削除します。

PurgeResultSetCache

アプリケーションの結果セットキャッシュをパージします。アプリケーションで SQL データサービスおよび Web サービスの既存の結果セットキャッシュが不要になった場合は、アプリケーションのキャッシュをパージできます。

infacmd dis PurgeResultSetCache コマンドでは、以下の構文を使用します。

PurgeResultSetCache

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-Application|-a> application

以下の表に、infacmd dis PurgeResultSetCache のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーロールと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされるデータ統合サービスの名前。
アプリケーション -a	アプリケーション	結果セットキャッシュをパージする対象アプリケーションの名前。

RefreshDataObjectCache

データオブジェクトキャッシュをリフレッシュします。

infacmd dis RefreshDataObjectCache コマンドでは、以下の構文を使用します。

RefreshDataObjectCache

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-Application|-a> application

<-Folder|-f> folder

<-DataObject|-do> data_model.data_object

以下の表に、infacmd dis RefreshDataObjectCache のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションを一覧表示するデータ統合サービスの名前。
-Application -a	アプリケーション	必須。データオブジェクトを含むアプリケーションの名前。
-Folder -f	フォルダー	必須。データオブジェクトを含むフォルダーの名前。
-DataObject -do	data_model.data_object	必須。リフレッシュするキャッシュのあるデータオブジェクトの名前。

RenameApplication

デプロイ済みアプリケーションの名前を変更します。名前を変更する前に、infacmd dis StopApplication コマンドを実行してアプリケーションを停止する必要があります。

infacmd dis RenameApplication コマンドの構文は以下のとおりです。

RenameApplication

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-Application|-a> application

<-NewName|-n> new_name

以下の表に、infacmd dis RenameApplication のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-Application -a	アプリケーション	必須。現在のアプリケーション名。
-NewName -n	new_name	必須。アプリケーションの新しい名前。

RestoreApplication

バックアップファイルからアプリケーションをリストアします。リストアされたアプリケーションをデプロイする場合、アプリケーションの状態は、デフォルトのデプロイメントモードによって異なります。アプリケーションのプロパティは、リストアされたアプリケーションで保持されます。

infacmd dis RestoreApplication コマンドでは、以下の構文を使用します。

RestoreApplication

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-FileName|-f> file_name

[<-Application|-a> application]

以下の表に、infacmd dis RestoreApplication のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションをリストアするデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-FileName -f	file_name	必須。アプリケーションのバックアップファイルの名前。
-Application -a	アプリケーション	オプション。デプロイ後のアプリケーションの名前。名前が競合した場合、デプロイは失敗します。

SetSequenceState

シーケンスデータオブジェクトの現在の値を更新します。

infacmd dis setsequencestate コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
SetSequenceState
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-Application|-a> application
<-SequenceObjectPath|-sop> sequence_object_path
<-SequenceValue|-sv> sequence_value
```

以下の表に、infacmd dis SetSequenceState のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。統合サービスの名前です。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前は 230 文字以内で、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰文字や、タブ、以下の文字を含むことはできません: / * ? < > "

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	<p>ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。</p> <p>ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。</p>
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。</p>
-Application -a	アプリケーション	<p>必須。アプリケーションの名前。</p>

オプション	引数	説明
-SequenceObjectPath -sop	シーケンスオブジェクトパス	<p>必須。シーケンスデータオブジェクトのパス。該当する場合、パスに以下のオブジェクトを順に含める必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト - フォルダ - SQL データサービスまたは Web サービス - マッピング - シーケンスジェネレータトランスフォーメーション - シーケンスデータオブジェクト <p>シーケンスデータオブジェクトがマッピング、SQL データサービス、または Web サービス内に存在する場合、マッピング名、SQL データサービス名、または Web サービス名の前にプレフィックスを使用する必要があります。コマンドで、オプションに以下のプレフィックスを使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Mapping:<mapping name> - SQLDS:<SQL data service name> - WS:<web service name> <p>オプションはスラッシュ (/) で区切ります。以下に例を示します。</p> <p><project name>/<folder>/SQLDS:<SQL Data Service Name>/Mapping:<virtual table mapping>/<Sequence Generator transformation>/<sequence data object name></p>
-SequenceValue -sv	sequence_value	<p>必須。シーケンスデータオブジェクトの新しい値。シーケンスデータオブジェクトの開始値以上で終了値以下の値を入力します。</p>

StartApplication

デプロイ済みアプリケーションを開始します。アプリケーションを起動するには、そのアプリケーションを有効にする必要があります。データ統合サービスが実行されている必要があります。

infacmd dis StartApplication コマンドでは、以下の構文を使用します。

StartApplication

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-Application|-a> application

以下の表に、infacmd dis StartApplication のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされるデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	アプリケーション	必須。起動するアプリケーションの名前。

StopApplication

実行中のアプリケーションを停止します。アプリケーションを停止するのは、アプリケーションをバックアップする必要がある場合や、ユーザーがアプリケーションにアクセスできないようにする場合などです。

infacmd dis StopApplication コマンドでは、以下の構文を使用します。

StopApplication

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-Application|-a> application

以下の表に、infacmd dis StopApplication のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-Application -a	アプリケーション	必須。停止するアプリケーションの名前。

stopBlazeService

Blaze エンジンのコンポーネントの実行を停止します。リソースのクリーンアップやソフトウェアパッチの適用など、Hadoop クラスタのメンテナンスを実行する場合に、Blaze エンジンのコンポーネントの実行を停止する必要がある場合があります。

infacmd dis stopBlazeService コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
stopBlazeService
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、infacmd dis stopBlazeService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

UndeployApplication

データ統合サービスからアプリケーションを削除します。

infacmd dis UndeployApplication コマンドでは、以下の構文を使用します。

UndeployApplication

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-Application|-a> application

以下の表に、infacmd dis UndeployApplication のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-un オプションまたは INFA_DEFAULT_DOMAIN 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションを削除するデータ統合サービスの名前。
-Application -a	アプリケーション	必須。データ統合サービスから削除するアプリケーションの名前。

UpdateApplication

アプリケーションファイルからアプリケーションを更新し、構成を保持します。アプリケーションをデータ統合サービスにデプロイする必要があります。エンドユーザーは、最新バージョンのアプリケーションにアクセスできます。

infacmd dis UpdateApplication コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateApplication

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-FileName|-f> file_name

[<-Application|-a> application]

以下の表に、infacmd dis UpdateApplication のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-FileName -f	file_name	必須。デプロイ済みアプリケーションの更新に使用するアプリケーションファイルの名前とパス。
-Application -a	アプリケーション	オプション。デプロイ済みアプリケーションの名前。

UpdateApplicationOptions

アプリケーションプロパティを更新します。

各オプションと値をスペースで区切ります。現在のプロパティを表示するには、infacmd dis ListApplicationOptions を実行します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

オプションが複数ある場合はスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

infacmd dis UpdateApplicationOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpdateApplicationOptions
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-Application|-a> application

<-Options|-o> options

以下の表に、infacmd dis UpdateApplicationOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされるデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	アプリケーション	必須。更新するアプリケーションの名前。
-Options -o	オプション	必須。更新する各オプションと値を入力します。各オプションはスペースで区切ります。アプリケーションのオプションを表示するには、infacmd dis ListApplicationOptions コマンドを実行します。

UpdateComputeOptions

計算ロールのあるノードに対するデータ統合サービスのプロパティを更新します。特定の計算ノードに対するデータ統合サービスのプロパティをオーバーライドするコマンドを使用してください。

オプションは次の形式で入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

オプションが複数ある場合はスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

infacmd dis UpdateComputeOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateComputeOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

<-Options|-o> options

以下の表に、infacmd dis UpdateComputeOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。データ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
NodeName -nn	node_name	必須。データ統合サービスまたはデータ統合サービスグリッドに割り当てられた計算ロールを持つノード。
-Options -o	オプション	必須。各オプションはスペースで区切って入力します。オプションを表示するには、 <code>infacmd dis ListComputeOptions</code> コマンドを実行します。 以下のデータ統合サービスオプションを更新できません。 <ul style="list-style-type: none"> - ExecutionOptions.TemporaryDirectories - ExecutionOptions.DISHomeDirectory - ExecutionOptions.CacheDirectory - ExecutionOptions.SourceDirectory - ExecutionOptions.TargetDirectory - ExecutionOptions.RejectFilesDirectory

UpdateDataObjectOptions

データオブジェクトのプロパティを更新します。現在のオプションを表示するには、`infacmd dis ListDataObjectOptions` コマンドを実行します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

オプションが複数ある場合はスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

`infacmd dis UpdateDataObjectOptions` コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpdateDataObjectOptions
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-Application|-a> application
```

```
<-Folder|-f> folder
```

```
<-DataObject|-do> data_model.data_object
```

```
<-Options|-o> options
```

以下の表に、infacmd dis UpdateDataObjectOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされるデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
-Application -a	アプリケーション	必須。データオブジェクトを含むアプリケーション。
-Folder -f	フォルダー	必須。データオブジェクトモデルを含むフォルダーの名前。
-DataObject -do	data_model.data_object	必須。更新するデータオブジェクトの名前。
-Options -o	オプション	必須。オプションと値をスペースで区切って入力します。現在のオプションを表示するには、 <code>infacmd dis ListDataObjectOptions</code> コマンドを実行します。

データオブジェクトのオプション

データオブジェクトのオプションを使用して、論理データオブジェクトのキャッシュを設定します。データオブジェクトのオプションは、`infacmd dis UpdateDataObjectOptions` コマンドで使用します。

データオブジェクトのオプションは以下の形式で入力します。

```
... -o option_type.option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、データオブジェクトのオプションを示します。

オプション	説明
DataObjectOptions.CachingEnabled	データオブジェクトキャッシュデータベース内の論理データオブジェクトをキャッシュします。true または false。デフォルトは true です。
DataObjectOptions.CacheRefreshPeriod	キャッシュのリフレッシュ間隔 (分)。デフォルトはゼロです。
DataObjectOptions.CacheTableName	データ統合サービスが論理データオブジェクトキャッシュにアクセスする元のユーザー管理テーブルの名前。ユーザー管理のキャッシュテーブルは、ユーザーが作成、取り込み、必要に応じて手動でリフレッシュするデータオブジェクトキャッシュデータベース内のテーブルです。 キャッシュテーブル名を指定すると、データオブジェクトキャッシュマネージャはオブジェクトのキャッシュを管理せず、キャッシュのリフレッシュ期間を無視します。キャッシュテーブル名を指定しない場合、データオブジェクトキャッシュマネージャはオブジェクトのキャッシュを管理します。

UpdateParameterSetEntries

パラメータセットのエントリを更新します。このコマンドを実行すると、アプリケーションのマッピングやワークフローに使用するパラメータセットのエントリの値を更新できます。

infacmd dis UpdateParameterSetEntries コマンドは、以下の構文を使用します。

UpdateParameterSetEntries

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-Application|-a> application

<-parameterSetName|-ps> parameter set name

<-projectScope|-prs> path to the mapping or workflow that contains the parameters. For a mapping, M1, in project P1 and folder F1, the path is P1/F1/mapping/M1.

<-paramNames|-pnv> parameter name-value pairs, separated by double quotes

以下の表に、infacmd dis UpdateParameterSetEntries のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされるデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	application	必須。パラメータセットが含まれるアプリケーションの名前。
parametersetname -ps	パラメータセット名	必須。パラメータセットの名前。
-projectScope -prs	プロジェクト範囲	必須。パラメータを含むマッピングまたはワークフローへのパス。プロジェクト P1 およびフォルダ F1 のマッピング M1 の場合、パスは P1/F1/mapping/M1 となります。
-paramNames -pvn	パラメータ名	必須。パラメータ名と値のペアをスペースで区切って入力します。名前-値のペアは二重引用符で囲みます。各値は一重引用符で囲みます。次の構文を使用します。"parm1='valueA'" "parm2='valueB'" "parm3='valueC'" パラメータ値にスペースを含めることができます。アポストロフィ (') やコロン (:) を値に含めるには、その文字をバックスラッシュ (\) でエスケープします。 'C:\directory'

UpdateServiceOptions

データ統合サービスのプロパティを更新します。現在のプロパティを表示するには、infacmd dis ListServiceOptions コマンドを実行します。

サービスの実行中にプロパティを変更できますが、変更したプロパティを有効にするにはサービスをリサイクルする必要があります。

infacmd dis UpdateServiceOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-Options|-o> options]

[<-NodeName|-nn> node_name | <-GridName|-gn> grid_name]

[<-BackupNodes|-bn> node_name1,node_name2,...]

以下の表に、infacmd dis UpdateServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされるデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Options -o	オプション	オプション。各オプションはスペースで区切って入力します。オプションを表示するには、infacmd dis ListServiceOptions コマンドを実行します。
-NodeName -nn -GridName -gn	node_name grid_name	オプション。データ統合サービスが実行するノードまたはグリッドを入力します。データ統合サービスはノードまたはグリッド上で実行できます。
-BackupNodes -bn	node_name1,node_name2,...	オプション。プライマリノードが使用できない場合にサービスが実行されるノード。高可用性オプションがある場合は、バックアップノードを設定できません。

データ統合サービスのオプション

データ統合サービスのオプションは、infacmd dis UpdateServiceOptions コマンドで使用します。

次の形式でデータ統合サービスのオプションを入力します。

```
... -o option_type.option_name=value
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、データ統合サービスのオプションを示します。

オプション	説明
LoggingOptions.LogLevel	<p>データ統合サービスによりサービスログに書き込まれるエラーメッセージのレベル。重大、エラー、警告、情報、トレース、またはデバッグのいずれかのメッセージレベルを選択します。</p>
ExecutionOptions.OutOfProcessExecution	<p>データ統合サービスプロセス内、ローカルノード上の個別の DTM プロセス内、またはリモートノード上の個別の DTM プロセス内でジョブを実行します。このプロパティは、データ統合サービスを単一ノードとグリッドのどちらで実行するのか、およびサービスが実行するジョブのタイプに基づいて設定します。</p> <p>次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - IN_PROCESS. データ統合サービスプロセス内でジョブを実行します。単一ノード、または各ノードにサービスロールと計算ロールの両方があるグリッド上で SQL データサービスおよび Web サービスジョブを実行するタイミングを設定します。 - OUT_OF_PROCESS. ローカルノードの個別の DTM プロセス内でジョブを実行します。単一ノード、または各ノードにサービスロールと計算ロールの両方があるグリッド上でマッピング、プロファイル、およびワークフロージョブを実行するタイミングを設定します。 - OUT_OF_PROCESS_REMOTE. リモートノードの個別の DTM プロセス内でジョブを実行します。各ノードに異なるロールの組み合わせが設定されている可能性があるグリッド上でマッピング、プロファイル、およびワークフロージョブを実行するタイミングを設定します。データ統合サービスを単一ノードで実行する場合、このオプションを設定してもサービスは個別のローカルプロセスでジョブを実行します。 <p>デフォルトは OUT_OF_PROCESS です。</p>
ExecutionOptions.MaxExecutionPoolSize	<p>各データ統合サービスプロセスが同時に実行できるジョブの最大数。ジョブには、データレビュー、マッピング、プロファイリングジョブ、SQL クエリ、および Web サービス要求などがあります。例えば、あるデータ統合サービスグリッドで、3 つのサービスプロセスが実行されるとします。この値を 10 に設定すると、各データ統合サービスプロセスは最大 10 個のジョブを同時に実行できます。したがって、グリッドでは合計 30 個のジョブを同時に実行できます。デフォルトは 10 です。</p>

オプション	説明
ExecutionOptions.MaxMemorySize	<p>データ統合サービスプロセスでジョブを実行する場合、すべての要求を同時に実行するためにデータ統合サービスが割り当てることができる最大メモリサイズ（バイト）。データ統合サービスがジョブを個別のローカルまたはリモートプロセスで実行する場合、この値は無視されます。データ統合サービスで割り当てることができるメモリの量を制限しない場合は、このプロパティを 0 に設定します。</p> <p>値が 0 を超えていた場合、データ統合サービスは、このプロパティを使用して、すべての要求を同時に実行できる最大メモリサイズを計算します。データ統合サービスでは、次の式に基づいて最大合計メモリが計算されます。</p> <p>最大メモリサイズ + 最大ヒープサイズ + プログラムのコンポーネントのロードに必要なメモリ デフォルトは 0 です。</p> <p>注: プロファイルやデータ品質のマッピングを実行する場合は、このプロパティを 0 に設定します。</p>
ExecutionOptions.MaxMappingParallelism	<p>単一のマッピングパイプラインステージを処理する並行スレッドの最大数。</p> <p>1 より大きい値に設定すると、データ統合サービスは、マッピングおよびプロファイルから変換されたマッピングに対してパーティション化を有効にします。サービスは、マッピングパイプラインのパーティション数を実行時に動的に拡張します。マッピングを実行するノードで使用可能な CPU の数に基づいて値を増やします。</p> <p>開発者は Developer tool で、各マッピングの並列処理の最大値を変更できます。データ統合サービスとマッピングの両方に最大並列処理数を設定する場合、データ統合サービスはマッピングを実行するときにその最小値を使用します。</p> <p>デフォルトは 1 です。最大値は 64 です。</p>
ExecutionOptions.DisHadoopPrincipal	<p>Kerberos 認証を使用する Hadoop クラスタに接続するデータ統合サービスのサービスプリンシパル名 (SPN)。</p>
ExecutionOptions.DisHadoopKeytab	<p>データ統合サービスを実行するマシンにある Kerberos キータブファイルのパス。</p>
ExecutionOptions.TemporaryDirectories	<p>ジョブが実行されるときに作成される一時ファイルのディレクトリ。デフォルトは <home directory>/disTemp です。</p> <p>プロファイルの操作時およびソータトランスフォーメーションのキャッシュのパーティション化時のパフォーマンスを最適化するには、ディレクトリのリストをセミコロンで区切って入力します。</p> <p>ディレクトリパスには以下の文字は使用できません。</p> <p>* ? < > " , []</p>

オプション	説明
ExecutionOptions.DISHomeDirectory	<p>ノードによるルートディレクトリへのアクセス性。これは他のサービスディレクトリのルートディレクトリです。デフォルトは<Informatica installation directory>/tomcat/binです。デフォルト値を変更する場合は、ディレクトリが存在することを確認してください。</p> <p>ディレクトリパスには以下の文字は使用できません。</p> <p>* ? < > " ,</p>
ExecutionOptions.CacheDirectory	<p>トランスフォーメーションのインデックスファイルおよびデータキャッシュファイルのディレクトリ。デフォルトは<home directory>/cacheです。</p> <p>アグリゲータ、ジョイナ、またはランクトランスフォーメーションのキャッシュのパーティション化時のパフォーマンスを向上するには、ディレクトリのリストをセミコロンで区切って入力します。</p> <p>ディレクトリパスには以下の文字は使用できません。</p> <p>* ? < > " ,</p>
ExecutionOptions.SourceDirectory	<p>マッピングで使用されているソースプラットフォームのディレクトリ。デフォルトは<home directory>/sourceです。</p> <p>グリッド上でデータ統合サービスを実行する場合、共有ディレクトリを使用して、ソースファイル用の1つのディレクトリを作成できます。計算ロールを持つ各ノードに別々のディレクトリを設定する場合、すべてのソースディレクトリでソースファイルが同じであることを確認してください。</p> <p>ディレクトリパスには以下の文字は使用できません。</p> <p>* ? < > " ,</p>

オプション	説明
ExecutionOptions.TargetDirectory	<p>マッピングで使用されているターゲットフラットファイルのデフォルトディレクトリ。デフォルトは<home directory>/target です。</p> <p>複数のパーティションがフラットファイルターゲットに書き込む場合、パフォーマンスを向上するには、ディレクトリのリストをセミコロンで区切って入力します。</p> <p>グリッド上でデータ統合サービスを実行する場合、共有ディレクトリを使用して、ターゲットファイル用の1つのディレクトリを作成できます。計算ルールを持つ各ノードに別々のディレクトリを設定する場合、すべてのターゲットディレクトリでターゲットファイルが同じであることを確認してください。</p> <p>ディレクトリパスには以下の文字は使用できません。</p> <p>* ? < > " ,</p>
ExecutionOptions.RejectFilesDirectory	<p>拒否ファイル用のディレクトリ。拒否ファイルには、マッピングの実行中に拒否された行が含まれます。デフォルトは<home directory>/reject です。</p> <p>ディレクトリパスには以下の文字は使用できません。</p> <p>* ? < > " ,</p>
ExecutionOptions.HadoopInfaHomeDir	<p>Hadoop RPM インストールによって作成された、各データノード上の PowerCenter Big Data Edition ホームディレクトリ。「/ <PowerCenterBigDataEditionInstallationDirectory>/Informatica」と入力します。</p>
ExecutionOptions.HadoopDistributionDir	<p>RPM インストールの場所からのクラスタ上の Hive および Hadoop JARS のコレクションが含まれているディレクトリ。ディレクトリには、Hadoop 環境で Informatica マッピングを処理するために必要な最小セットの JARS が含まれています。「/ <PowerCenterBigDataEditionInstallationDirectory>/Informatica/services/shared/hadoop/[Hadoop_distribution_name]」と入力します。</p>
ExecutionOptions.DisHadoopDistributionDir	<p>データ統合サービスノード上の Hadoop ディストリビューションディレクトリ。データ統合サービスの Hadoop ディストリビューションディレクトリは、データノード上の Hadoop ディストリビューションディレクトリと同一である必要があります。「<Informatica Installation directory>/Informatica/services/shared/hadoop/[Hadoop_distribution_name]」と入力します。</p>
RepositoryOptions.RepositoryServiceName	<p>マッピングと SQL データサービスを実行するために必要なランタイムメタデータを格納するサービス。</p>

オプション	説明
RepositoryOptions.RepositoryUserName	モデルリポジトリにアクセスするためのユーザー名。ユーザーはモデルリポジトリサービスに対するプロジェクト作成特権を持っている必要があります。
RepositoryOptions.RepositoryPassword	モデルリポジトリにアクセスするためのユーザーパスワード。
RepositoryOptions.RepositorySecurityDomain	LDAP を使用している場合の LDAP セキュリティドメイン名。LDAP を使用していない場合、デフォルトのドメインはネイティブです。
DataObjectCacheOptions.CacheRemovalTime	リフレッシュ後にキャッシュストレージをクリーンアップするまでにデータ統合サービスが待機するミリ秒。デフォルトは 3,600,000 です。
DataObjectCacheOptions.CacheConnection	データオブジェクトキャッシュを格納するデータベースのためのデータベース接続名。有効な接続オブジェクト名を入力します。
DataObjectCacheOptions.MaxConcurrentRefreshRequests	同時にリフレッシュできるキャッシュの最大数。
DataObjectCacheOptions.EnableNestedLDOCache	<p>データ統合サービスが、キャッシュのリフレッシュ中に別の論理データオブジェクトでソースまたはロックアップとして使用されている論理データオブジェクトに対し、キャッシュデータを使用できるかどうかを示します。false の場合、ソースまたはロックアップとして使用される論理データオブジェクトに対してキャッシュを有効化した場合でも、データ統合サービスはソースリソースにアクセスします。</p> <p>例えば、論理データオブジェクト LDO3 は、論理データオブジェクト LDO1 と LDO2 のデータを結合します。開発者が LDO3 を入力として使用するマッピングを作成し、そのマッピングをアプリケーションに含めます。LDO1、LDO2、LDO3 に対してキャッシュを有効にします。ネストされた論理データオブジェクトのキャッシュを有効にすると、データ統合サービスは LDO3 のキャッシュテーブルをリフレッシュする際に、LDO1 と LDO2 のキャッシュデータを使用します。ネストされた論理データオブジェクトのキャッシュを有効にしない場合、データ統合サービスは LDO3 のキャッシュテーブルをリフレッシュする際に、LDO1 と LDO2 のソースリソースにアクセスします。</p> <p>デフォルトは False です。</p>

オプション	説明
DeploymentOptions.DefaultDeploymentMode	<p>各アプリケーションをデータ統合サービスにデプロイした後に、有効にして起動するかどうかを決定します。</p> <p>次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - EnableandStart。アプリケーションを有効にし、アプリケーションを起動します。 - EnableOnly。アプリケーションを有効にしますが、アプリケーションを起動しません。 - Disable。アプリケーションを有効にしません。
PassThroughSecurityOptions.AllowCaching	<p>データ統合サービスのすべてのパススルー接続に対して、データオブジェクトのキャッシュを許可します。接続オブジェクト内の資格情報を使用して、データオブジェクトキャッシュを生成します。</p> <p>注: パススルーセキュリティでデータオブジェクトのキャッシングを有効にする場合、一部のデータへの権限のないアクセスを許可することになる場合があります。</p>
HttpProxyServerOptions.HttpProxyServerHost	HTTP プロキシサーバ名。
HttpProxyServerOptions.HttpProxyServerPort	HTTP プロキシサーバのポート番号。 デフォルトは 8080 です。
HttpProxyServerOptions.HttpServerUser	HTTP プロキシサーバの認証ユーザ名。このオプションは、プロキシサーバが認証を要求した場合に必要です。
HttpProxyServerOptions.HttpProxyServerPassword	認証されたユーザーのパスワード。パスワードはサービスマネージャによって暗号化されます。このオプションは、プロキシサーバが認証を要求した場合に必要です。
HttpProxyServerOptions.HttpProxyServerDomain	認証用ドメイン。
HttpConfigurationOptions.AllowedIPAddresses	<p>要求を送信するマシンの IP アドレスと比較する定数または Java 正規表現パターンのリスト。複数の定数や式を区切るには、スペースを使用します。</p> <p>このプロパティを設定すると、許可されるアドレスパターンに一致する IP アドレスからの要求が許可されます。このプロパティを設定しない場合は、[拒否する IP アドレス] プロパティを使用して、要求を送信できるクライアントが特定されます。</p>

オプション	説明
HttpConfigurationOptions.AllowedHostNames	<p>要求を送信するマシンのホスト名と比較する定数または Java 正規表現パターンのリスト。ホスト名は大文字と小文字が区別されます。複数の定数や式を区切るには、スペースを使用します。</p> <p>このプロパティを設定すると、許可されるホスト名パターンに一致するホスト名からの要求が許可されます。このプロパティを設定しない場合は、[拒否するホスト名] プロパティを使用して、要求を送信できるクライアントが特定されます。</p>
HttpConfigurationOptions.DeniedIPAddresses	<p>要求を送信するマシンの IP アドレスと比較する定数または Java 正規表現パターンのリスト。複数の定数や式を区切るには、スペースを使用します。</p> <p>このプロパティを設定すると、拒否される IP アドレスパターンに一致しない IP アドレスからの要求が許可されます。このプロパティを設定しない場合は、[許可する IP アドレス] プロパティを使用して、要求を送信できるクライアントが特定されます。</p>
HttpConfigurationOptions.DeniedHostNames	<p>要求を送信するマシンのホスト名と比較する定数または Java 正規表現パターンのリスト。ホスト名は大文字と小文字が区別されます。複数の定数や式を区切るには、スペースを使用します。</p> <p>このプロパティを設定すると、拒否されるホスト名パターンに一致しないホスト名からの要求が許可されます。このプロパティを設定しない場合は、[許可するホスト名] プロパティを使用して、要求を送信できるクライアントが特定されます。</p>

オプション	説明
HttpConfigurationOptions.HTTPProtocolType	<p>データ統合サービスが使用するセキュリティプロトコル。次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - HTTP。このサービスに対する要求では HTTP URL を使用する必要があります。 - HTTPS。このサービスに対する要求では HTTPS URL を使用する必要があります。 - 両方。このサービスに対する要求では HTTP URL か HTTPS URL のいずれかを使用できます。 <p>HTTP プロトコルタイプを HTTPS または両方に設定する場合は、このサービスに対して Transport Layer Security (TLS) を有効にします。</p> <p>1 つのアプリケーションにデプロイされた各 Web サービスに対して、TLS を有効にすることもできます。Data Integration Service に対して HTTPS を有効にし、Web サービスに対して TLS を有効にすると、Web サービスで HTTPS URL が使われます。Data Integration Service に対して HTTPS を有効にし、Web サービスに対して TLS を有効にしないと、Web サービスで HTTP URL または HTTPS URL を使用できます。Data Integration Service に対して HTTPS を有効にせずに、Web サービスに対して TLS を有効にすると、Web サービスが起動しません。</p> <p>デフォルトは HTTP です。</p>
ResultSetCacheOptions.FileNamePrefix	<p>ディスクに格納されるすべての結果セットキャッシュファイルの名前のプレフィックス。デフォルトは RSCACHE です。</p>
ResultSetCacheOptions.EnableEncryption	<p>結果セットキャッシュファイルを 128 ビットの AES 暗号化を使用して暗号化するかどうかを示します。有効な値は true または false です。デフォルトは true です。</p>
MappingServiceOptions.MaxNotificationThreadPoolSize	<p>クライアントに通知を送信するスレッド数を割り当てます。</p>

オプション	説明
MappingServiceOptions.MaxMemPerRequest	<p>要求ごとの最大メモリは、データ統合サービスの次の設定によって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 個別のローカルまたはリモートプロセスでジョブが実行されるか、またはサービスプロパティの最大メモリサイズが 0 の場合（デフォルト）。 要求ごとの最大メモリは、データ統合サービスが、1 回の要求内の、自動キャッシュモードを使用するすべてのトランスフォーメーションに割り当てることができる、最大メモリサイズ（バイト）です。データ統合サービスは、特定のキャッシュサイズの複数のトランスフォーメーションにメモリを別々に割り当てます。要求によって使用されるメモリ合計は、要求ごとの最大メモリの値を超えることができます。 - データ統合サービスプロセスでジョブが実行され、かつ、サービスプロパティの最大メモリサイズが 0 を超えている場合。 要求ごとの最大メモリは、データ統合サービスが単一の要求に割り当てることができる、最大メモリサイズ（バイト）です。要求によって使用されるメモリ合計は、要求ごとの最大メモリの値を超えることはできません。 デフォルトは 536,870,912 です。
ProfilingServiceOptions.ProfileWarehouseConnectionName	プロファイリングウェアハウスへの接続用の接続オブジェクト名。
ProfilingServiceOptions.MaxRanks	プロファイルに表示する最小値および最大値。デフォルトは 5 です。デフォルトは 10 です。
ProfilingServiceOptions.MaxPatterns	プロファイルに表示するパターンの最大数。
ProfilingServiceOptions.MaxProfileExecutionPoolSize	プロファイリングを実行するためのスレッドの最大数。
ProfilingServiceOptions.MaxExecutionConnections	各プロファイリングジョブのデータベース接続の最大数。
ProfilingServiceOptions.ExportPath	プロファイル結果のエクスポート場所。ファイルシステムパスを入力します。デフォルトは、/ProfileExport です。
AdvancedProfilingServiceOptions.MinPatternFrequency	プロファイルに表示するパターンの最小数。
AdvancedProfilingServiceOptions.MaxValueFrequencyPairs	プロファイリングウェアハウスに格納するための値/頻度ペアの最大数。デフォルトは 16,000 です。
AdvancedProfilingServiceOptions.MaxStringLength	プロファイリングサービスが処理できる文字列の最大長。
AdvancedProfilingServiceOptions.MaxNumericPrecision	数値の最大桁数。

オプション	説明
AdvancedProfilingServiceOptions.ExecutionPoolSize	マッピングを実行するためのスレッドの最大数。
AdvancedProfilingServiceOptions.ColumnsPerMapping	メモリとディスク容量を節約するため、単一のマッピングでプロファイル可能なカラム数を制限します。デフォルトは5です。1億行を超えるソースをプロファイルする場合、値を1に減らします。
AdvancedProfilingServiceOptions.MaxParallelColumnBatches	同時にマッピングを実行可能なスレッド数。デフォルトは1です。
AdvancedProfilingServiceOptions.ValueFrequencyMemSize	値の頻度ペアで使用可能なメモリ量。デフォルトは64メガバイトです。
AdvancedProfilingServiceOptions.ReservedThreads	優先要求のための最大実行プールサイズのスレッド数。デフォルトは1です。
AdvancedProfilingServiceOptions.MaxMemPerRequest	データ統合サービスが、単一のプロファイル要求に対する各マッピング実行に割り当てることができる、最大メモリサイズ (バイト) です。デフォルトは536,870,912です。
SQLServiceOptions.DTMKeepAliveTime	DTM プロセスが最後の要求の完了後にオープン状態を維持する期間 (ミリ秒)。同じ SQL クエリはオープンプロセスを再利用できます。SQL クエリの処理に必要な時間が DTM プロセスの初期化にかかる時間よりも短い場合は、キープアライブ時間を使用してパフォーマンスを向上させます。クエリが失敗した場合、DTP プロセスは終了します。0 以上を指定する必要があります。0 の場合、データ統合サービスは DTM プロセスをメモリに保持しません。デフォルトは0です。 このプロパティはデータ統合サービスにデプロイした SQL データサービスごとに設定することもできます。デプロイ済みの SQL データサービスにこのプロパティを設定すると、デプロイ済みの SQL データサービスの値で、データ統合サービスに設定した値が上書きされます。
SQLServiceOptions.TableStorageConnection	SQL データサービスの一時テーブルを格納するリレーショナルデータベース接続。デフォルトでは、接続は選択されていません。
SQLServiceOptions.SkipLogFiles	SQL データサービス要求が正常に完了し、トレースレベルが INFO 以上の場合に、データ統合サービスでログファイルを生成しません。デフォルトは false です。

オプション	説明
SQLServiceOptions.MaxMemPerRequest	<p>要求ごとの最大メモリは、データ統合サービスの次の設定によって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 個別のローカルまたはリモートプロセスでジョブが実行されるか、またはサービスプロパティの最大メモリサイズが 0 の場合（デフォルト）。 要求ごとの最大メモリは、データ統合サービスが、1 回の要求内の、自動キャッシュモードを使用するすべてのトランスフォーメーションに割り当てることができる、最大メモリサイズ（バイト）です。データ統合サービスは、特定のキャッシュサイズの複数のトランスフォーメーションにメモリを別々に割り当てます。要求によって使用されるメモリ n 合計は、要求ごとの最大メモリの値を超えることができます。 - データ統合サービスプロセスでジョブが実行され、かつ、サービスプロパティの最大メモリサイズが 0 を超えている場合。 要求ごとの最大メモリは、データ統合サービスが単一の要求に割り当てることができる、最大メモリサイズ（バイト）です。要求によって使用されるメモリ合計は、要求ごとの最大メモリの値を超えることはできません。 デフォルトは 50,000,000 です。
WorkflowOrchestrationServiceOptions.DBName	ワークフローのランタイムメタデータを格納するデータベースの接続名。
WSServiceOptions.DTMKeepAliveTime	<p>DTM プロセスが最後の要求の完了後にオープン状態を維持する期間（ミリ秒）。同じ操作に対して発行される Web サービス要求は、オープンプロセスを再利用できます。要求の処理に必要な時間が DTM プロセスの初期化にかかる時間よりも短い場合は、キープアライブ時間を使用してパフォーマンスを向上させます。要求が失敗すると、DTM プロセスは終了します。0 以上を指定する必要があります。0 の場合、データ統合サービスは DTM プロセスをメモリに保持しません。デフォルトは 5000 です。</p> <p>このプロパティは、データ統合サービスにデプロイした Web サービスごとに設定することもできます。デプロイ済みの Web サービスにこのプロパティを設定すると、デプロイ済みの Web サービスの値で、データ統合サービスに設定した値が上書きされます。</p>
WSServiceOptions.WSDLLogicalURL	<p>外部 HTTP ロードバランサを使用する場合の、WSDL URL のプレフィックス。以下に例を示します。</p> <p>http://loadbalancer:8080</p> <p>データ統合サービスは外部 HTTP ロードバランサがグリッド上で Web サービスを実行する必要があります。データ統合サービスを単一ノードで実行する場合、論理 URL を指定する必要はありません。</p>

オプション	説明
WSServiceOptions.SkipLogFiles	Web サービス要求が正常に完了し、トレースレベルが INFO 以上の場合に、データ統合サービスでログファイルが生成されないようにします。デフォルトは false です。
WSServiceOptions.MaxMemPerRequest	<p>要求ごとの最大メモリは、データ統合サービスの次の設定によって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 個別のローカルまたはリモートプロセスでジョブが実行されるか、またはサービスプロパティの最大メモリサイズが 0 の場合（デフォルト）。 要求ごとの最大メモリは、データ統合サービスが、1 回の要求内の、自動キャッシュモードを使用するすべてのトランスフォーメーションに割り当てることができる、最大メモリサイズ（バイト）です。データ統合サービスは、特定のキャッシュサイズの複数のトランスフォーメーションにメモリを別々に割り当てます。要求によって使用されるメモリ合計は、要求ごとの最大メモリの値を超えることができます。 - データ統合サービスプロセスでジョブが実行され、かつ、サービスプロパティの最大メモリサイズが 0 を超えている場合。 要求ごとの最大メモリは、データ統合サービスが単一の要求に割り当てることができる、最大メモリサイズ（バイト）です。要求によって使用されるメモリ合計は、要求ごとの最大メモリの値を超えることはできません。 デフォルトは 50,000,000 です。
Modules.MappingService	「false」を入力して、マッピングとプレビューを実行するモジュールを無効にします。デフォルトは true です。
Modules.ProfilingService	「false」を入力して、プロファイルを実行してスコアカードを生成するモジュールを無効にします。デフォルトは true です。
Modules.SQLService	「false」を入力して、SQL データサービスに対して SQL クエリを実行するモジュールを無効にします。デフォルトは true です。
Modules.WebService	「false」を入力して、Web サービスの操作マッピングを実行するモジュールを無効にします。デフォルトは true です。
Modules.WorkflowOrchestrationService	「false」を入力して、ワークフローを実行するモジュールを無効にします。デフォルトは true です。

UpdateServiceProcessOptions

データ統合サービスプロセスのプロパティを更新します。現在のプロパティを表示するには、`infacmd dis ListServiceProcessOptions` コマンドを実行します。

オプションは次の形式で入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

オプションが複数ある場合はスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

`infacmd dis UpdateServiceProcessOptions` コマンドでは、以下の構文を使用します。

`UpdateServiceProcessOptions`

`<-DomainName|-dn> domain_name`

`<-ServiceName|-sn> service_name`

`<-UserName|-un> user_name`

`<-Password|-pd> password`

`[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]`

`[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]`

`<-NodeName|-nn> node_name`

`<-Options|-o> options`

以下の表に、`infacmd dis UpdateServiceProcessOptions` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
<code>-DomainName</code> <code>-dn</code>	<code>domain_name</code>	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、 <code>-dn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、 <code>-dn</code> オプションが優先されます。
<code>-ServiceName</code> <code>-sn</code>	<code>service_name</code>	必須。データ統合サービスの名前。
<code>-UserName</code> <code>-un</code>	<code>user_name</code>	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、 <code>-un</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、 <code>-un</code> オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
NodeName -nn	node_name	必須。データ統合サービスが実行されるノード。
-Options -o	オプション	必須。各オプションはスペースで区切って入力します。オプションを表示するには、infacmd dis ListServiceProcessOptions コマンドを実行します。

データ統合サービスプロセスのオプション

データ統合サービスプロセスのオプションは、infacmd dis UpdateServiceProcessOptions コマンドで使用します。

次の形式でデータ統合サービスプロセスオプションを入力します。

```
... -o option_type.option_name=value
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたは英数字以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、データ統合サービスプロセスのオプションを示します。

オプション	説明
GeneralOptions.JVMOptions	Java ベースプログラムを実行するための Java 仮想マシン (JVM) のコマンドラインオプション。JVM オプションを設定する場合は、Java SDK クラスパス、Java SDK の最小メモリプロパティおよび Java SDK の最大メモリプロパティを設定する必要があります。
GeneralOptions.HttpPort	サービスで HTTP プロトコルが使用されている場合の、データ統合サービスプロセスの一意的 HTTP ポート番号。
GeneralOptions.HttpsPort	サービスで HTTPS プロトコルが使用されている場合の、データ統合サービスプロセスの一意的 HTTPS ポート番号。
LoggingOptions.LogDirectory	データ統合サービスのノードプロセスログのディレクトリ。デフォルトは<INFA_HOME>\logs\dislogs です。グリッド上でデータ統合サービスを実行する場合、共有ディレクトリを使用して、ログファイル用の 1 つのディレクトリを作成します。共有ディレクトリを使用して、マスタサービスプロセスが別のノードにフェイルオーバーした場合に、新しいマスタサービスプロセスが以前のログファイルにアクセスできるようにします。
ResultSetCacheOptions.MaxTotalDiskSize	結果セットキャッシュファイルのストレージ全体で使用できる最大サイズ (バイト)。デフォルトは 0 です。
ResultSetCacheOptions.MaxPerCacheMemorySize	メモリ内の単一の結果セットキャッシュインスタンスに割り当てられた最大サイズ (バイト)。デフォルトは 0 です。
ResultSetCacheOptions.MaxTotalMemorySize	メモリ内の結果セットキャッシュのストレージ全体に割り当てられた最大サイズ (バイト)。デフォルトは 0 です。
ResultSetCacheOptions.MaxNumCaches	このデータ統合サービスプロセスに使用できる結果セットキャッシュインスタンスの最大数。デフォルトは 0 です。
HttpConfigurationOptions.MaxConcurrentRequests	現在のデータ統合サービスプロセスに対して確立できる HTTP 接続または HTTPS 接続の最大数。デフォルトは 200 です。
HttpConfigurationOptions.MaxBacklogRequests	現在のデータ統合サービスプロセスに対してキューで待機可能な HTTP 接続または HTTPS 接続の最大数。デフォルトは 100 です。

オプション	説明
HttpConfigurationOptions.KeyStoreFile	<p>データ統合サービスに対して HTTPS プロトコルを使用する場合に必要なキーと証明書を含む、キーストアファイルのパスおよびファイル名。キーストアファイルはキーツールで作成できます。キーツールは、プライベートキーまたはパブリックキーのペアと関連する証明書を生成してキーストアファイルに格納するユーティリティです。自己署名証明書を使用することも、認証局によって署名された証明書を使用することもできます。</p> <p>データ統合サービスをグリッド上で有効にする場合、グリッド上のキーストアファイルは同じキーを含んでいる必要があります。</p>
HttpConfigurationOptions.KeyStorePassword	キーストアファイルのパスワード
HttpConfigurationOptions.TrustStoreFile	<p>データ統合サービスで信頼されている認証証明書を含むトラストストアファイルのパスおよびファイル名。</p> <p>データ統合サービスをグリッド上で有効にする場合、グリッド上のトラストストアファイルは同じキーを含んでいる必要があります。</p>
HttpConfigurationOptions.TrustStorePassword	トラストストアファイルのパスワード。
HttpConfigurationOptions.SSLProtocol	使用する Secure Socket Layer プロトコル。デフォルトは TLS です。
SQLServiceOptions.MaxConcurrentConnections	データ統合サービスが SQL データサービスに対して確立できるデータベース接続の最大数です。デフォルトは 100 です。

第 11 章

Infacmd es コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [ListServiceOptions, 189](#) ページ
- [UpdateServiceOptions, 191](#) ページ
- [UpdateSMTPOptions, 193](#) ページ

ListServiceOptions

電子メールサービスに設定されているプロパティのリストを返します。電子メールサービスのプロパティを設定するには、`infacmd es updateServiceOptions` を実行します。電子メールサーバーのプロパティを設定するには、`infacmd es updateSMTPOptions` を実行します。

`infacmd es listServiceOptions` コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-ServiceName|-sn> service_name]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されません。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	オプション。Email_Service を入力します。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

UpdateServiceOptions

電子メールサービスのプロパティを更新します。このコマンドを実行して、電子メールサービスのドメインプロパティおよびノードを設定します。現在の電子メールサービスのプロパティを表示するには、`infacmd es listServiceOptions` を実行します。

`infacmd es updateServiceOptions` コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-ServiceName|-sn> service_name]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-NodeName|nn> primary node name]

[<-BackupNodes|-bn> backup node names]

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されません。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	<p>ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。</p> <p>ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。</p>
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-ServiceName -sn	service_name	<p>オプション。Email_Service を入力します。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。</p>
-Options -o	options	<p>オプションは次の形式で入力します。</p> <pre>OptionGroupName.OptionName=OptionValue OptionGroupName2.OptionName2=OptionValue2</pre> <p>有効なオプションを表示するには、infacmd isp ListServiceOptions を実行します。</p>
-NodeName -nn	プライマリノード名	<p>オプション。サービスを実行するプライマリノード。</p>
-BackupNodes -bn	バックアップノード名	<p>オプション。プライマリノードが使用できない場合にサービスを実行できるノード。</p>

UpdateSMTPOptions

電子メールサービスの SMTP プロパティを更新します。 Business Glossary およびワークフローは、電子メールサービスの SMTP 設定を使用して通知をメール送信します。

次の通知は、電子メールサービスの SMTP 設定を使用して電子メールを送信します。

- Business Glossary の通知。
- ワークフロー通知。 ワークフロー通知には、データ統合サービスが実行するワークフローのヒューマンタスクおよび通知タスクから送信された電子メールが含まれます。

infacmd es updateSMTPOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateSMTPOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ServiceName|-sn> service_name]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-SMTPServerHostName|-sa> smtp_host]

[<-SMTPUsername|-su> smtp_email_password]

[<-SMTPEmailPassword|-se> smtp_email_password]

[<-SMTPEmailAddress|-ss> smtp_email_address]

[<-SMTPPort|-sp> smtp_port]

[<-SMTPAuthEnabled|-sau> smtp_auth_enabled]

[<-SMTPTLSEnabled|-stls> smtp_tls_enabled]

[<-SMTPSSLEnabled|-sssl> smtp_ssl_enabled]

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ServiceName -sn	service_name	オプション。Email_Service を入力します。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-SMTPServerHostName -sa	smtp_host	オプション。SMTP 送信メールサーバーのホスト名。例えば、Microsoft Outlook の場合は Microsoft Exchange Server を入力します。デフォルトは localhost です。
-SMTPUsername -su	smtp_user	オプション。送信時の認証に使用するユーザー名。
-SMTPEmailPassword -se	smtp_email_password	オプション。送信 SMTP メールサーバーに必要な場合、送信時の認証に使用するパスワード。
-SMTPEmailAddress -ss	smtp_email_address	オプション。ワークフローから通知電子メールを送信するときに電子メールサービスの [From] フィールドで使用される電子メールアドレス。デフォルトは admin@example.com です。

オプション	引数	説明
SMTPPort -sp	smtp_port	オプション。送信 SMTP メールサーバーで使用されるポート番号。有効な値は 1~65535 です。デフォルトは 25 です。
-SMTPAuthEnabled -sau	smtp_auth_enabled	オプション。SMTP サーバーが認証に対して有効になっていることを示します。true の場合、送信メールサーバーにユーザー名とパスワードが必要です。true の場合、サーバーで Transport Layer Security (TLS) プロトコルと Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルのどちらを使用するかを選択する必要があります。true または false を入力します。デフォルトは False です。
-SMTPTLSEnabled -stls	smtp_tls_enabled	オプション。SMTP サーバーで TLS プロトコルを使用することを指定します。true の場合、SMTP サーバーポートプロパティの TLS ポート番号を入力します。true または false を入力します。デフォルトは False です。
-SMTPSSLEnabled -sssl	smtp_ssl_enabled	オプション。SMTP サーバーで SSL プロトコルが使用されていることを示します。true の場合、SMTP サーバーポートプロパティの SSL ポート番号を入力します。true または false を入力します。デフォルトは False です。

第 12 章

infacmd ipc コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [ExportToPC, 196](#) ページ
- [ImportFromPC, 199](#) ページ

ExportToPC

モデルリポジトリまたはエクスポートファイルからオブジェクトをエクスポートして、PowerCenter オブジェクトに変換します。

ExportToPC コマンドは、モデルリポジトリのオブジェクトまたはモデルリポジトリからエクスポートした XML ファイルのオブジェクトを変換します。エクスポートするモデルリポジトリまたはソースファイルのいずれかを選択する必要があります。両方のオプションを選択した場合、ソースファイルオプションが優先されます。PowerCenter にインポート可能な XML ファイルを作成するには、pmrep プログラムを使用して ExportToPC コマンドを実行します。

infacmd ipc ExportToPC コマンドでは、以下の構文を使用します。

ExportToPC

<-Release|-rel> release_number

[<-SourceFile|-sf> source_file]

[<-SourceRepository|-sr> source_repository]

[<-SourceFolders|-f> folder1 folder2|<-SourceObjects|-so> object1 object2]

[<-Recursive|-r>]

[<-TargetLocation|-tl> target_location]

[<-TargetFolder|-tf> target_folder_name]

[<-CodePage|-cp> target_code_page]

[<-Check|-c>]

[<-ReferenceDataLocation|-rdl> reference_data_output_location]

[<-ConvertMappletTargets|-cmt>]

[<-ConvertMappingsToMapplets|-cmm>]

[<-NoValidation|-nv>]

[<-DSTErrorFormat|-def>]

以下の表に、infacmd ipc ExportToPC コマンドのオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-Release -rel	release_number	必須。PowerCenter のリリース番号。
-SourceFile -sf	source_file	オプション。Developer ツールでエクスポートしたソースオブジェクトを含む XML ファイルへのフルパス。
-SourceRepository -sr	source_repository	<p>オプション。PowerCenter へエクスポートするオブジェクトを含むモデルリポジトリ。</p> <p>モデルリポジトリサービスに接続するためのゲートウェイホストとポートを指定するには、非 Kerberos ドメインで以下のコマンド構文を使用します。</p> <pre><Model repository name>@<host>:<port>#<projectname> ?user=<username>[&namespace=<namespace>]&password=<password></pre> <p>複数のゲートウェイノードが存在するときにドメイン名を指定するには、以下のコマンド構文を使用して、非 Kerberos ドメイン内のモデルリポジトリサービスへの復元性のある接続を確立します。</p> <pre><Model repository name>@<domainname>#<projectname> ?user=<username>[&namespace=<namespace>]&password=<password></pre> <p>ドメイン名をログイン資格情報と一緒に指定するには、以下のコマンド構文を使用してシングルサインオンでコマンドを実行します。</p> <pre><Model repository name>@<domainname>#<projectname> ?isloggedinuser=true[&namespace=<namespace>]</pre> <p>ゲートウェイホストとポートをログイン資格情報と一緒に指定するには、以下のコマンド構文を使用してシングルサインオンでコマンドを実行します。</p> <pre><Model repository name>@<host>:<port>#<projectname> ?isloggedinuser=true[&namespace=<namespace>]</pre> <p>ゲートウェイホストとポートをログイン資格情報の代わりに指定するユーザークレデンシャルと一緒に指定するには、Kerberos ドメインで次のコマンド構文を使用します。</p> <pre><Model repository name>@<host>:<port>#<projectname> ? iskerberos=true&user=<username>[&namespace=<namespace>]&password=<password> &Kerberosrealm=<kerberosrealm></pre> <p>ドメイン名をログイン資格情報の代わりに指定するユーザークレデンシャルと一緒に指定するには、Kerberos ドメインで以下のコマンド構文を使用します。</p> <pre><Model repository name>@<domainname>#<projectname> ? iskerberos=true&user=<username>[&namespace=<namespace>]&password=<password> &Kerberosrealm=<kerberosrealm></pre> <p>port パラメータは HTTP ポートです。&namespace パラメータはオプションです。デフォルトの名前空間はネイティブです。</p>

オプション	引数	説明
-SourceFolders -f	source_folder s	-sr を使用する場合は、-f または -so を使用しなければなりません。 モデルリポジトリからエクスポートするソースフォルダーのリストです。マップレット、マッピングおよび論理データオブジェクトモデルをソースフォルダーから PowerCenter にエクスポートできます。複数のオブジェクトをエクスポートする場合は、リスト内の各オブジェクトをスペースで区切らなければなりません。
SourceObjects -so	source_object s	-sr を使用する場合は、-f または -so を使用しなければなりません。 モデルリポジトリからエクスポートするソースオブジェクトのリストです。マップレット、マッピングおよび論理データオブジェクトモデルを PowerCenter にエクスポートできます。オブジェクトを名前として記述できます。 以下の構文を使用します。 name=</path>/<objectname>[&type=<typename>] オブジェクトのフルパスを含めなければなりません。複数のオブジェクトをエクスポートする場合は、リスト内の各オブジェクトをスペースで区切らなければなりません。 以下のタイプを入力できます。 - Mapping。マッピングおよびマップレットをエクスポートするために使用します。 - DataObjectModel。論理データオブジェクトモデルをエクスポートするために使用します。 タイプの大文字と小文字は区別されません。デフォルトはマッピングです。
-Recursive -r	-	オプション。ソースフォルダーからすべてのマッピングと論理データオブジェクトモデルをエクスポートします。オブジェクト配下の各サブフォルダーと、その配下の任意のサブフォルダーをエクスポートします。
-TargetLocation -tl	target_location	オプション。ターゲット XML ファイルへのフルパス。
-TargetFolder -tf	target_folder_name	オプション。オブジェクトのエクスポート先の PowerCenter フォルダ。ExportToPC コマンドにより、ターゲット XML ファイルにフォルダー名が配置されます。フォルダー名を設定しない場合、ExportToPC コマンドによってフォルダー名が作成されます。
-CodePage -cp	target_code_page	オプション。PowerCenter リポジトリのコードページ。デフォルトは UTF-8 です。
-Check -c	-	オプション。ターゲットファイルを作成せずに、変換をテストします。
-ReferenceDataLocation -rdl	reference_data_output_location	オプション。参照テーブルデータを保存する場所。ExportToPC コマンドにより、参照テーブルデータは 1 つ以上のディクショナリ.dic ファイルとして保存されます。
-ConvertMappletTargets -cmt	-	オプション。マップレットのターゲットを PowerCenter マップレットの出力トランスフォーメーションに変換します。 PowerCenter マップレットにターゲットを含めることはできません。ターゲットを含むマップレットがエクスポートに含まれ、このオプションを選択しない場合、エクスポートは失敗します。

オプション	引数	説明
- ConvertMapping stoMapplets -cmm	-	オプション。Developer ツールのマッピングを PowerCenter マップレットに変換します。Developer ツールによって、マッピングのソースおよびターゲットが PowerCenter マップレットの入力トランスフォーメーションおよび出力トランスフォーメーションに変換されます。
-NoValidation -nv	-	オプション。ExportToPC コマンドは、ソースオブジェクトを検証せずに変換します。
- DSTErrorFormat -def	-	オプション。Developer ツールが解析できる形式でエラーメッセージが表示されます。各オブジェクトのフルパスがエラーメッセージ内に表示されます。デフォルトでは、エラーはユーザーがわかりやすい形式で表示されます。

ImportFromPC

PowerCenter リポジトリオブジェクト XML ファイルをモデルリポジトリオブジェクト XML ファイルに変換します。XML ファイルに PowerCenter リポジトリオブジェクトをエクスポートします。importFromPC コマンドを実行して、モデルリポジトリにインポート可能なオブジェクトを含むターゲット XML ファイルを作成します。

ターゲット XML ファイルをモデルリポジトリにインポートするには、infacmd oie ImportObjects コマンドを使用するか、Developer tool から操作します。コマンドラインを使用してターゲット XML ファイルをインポートする場合、ImportFromPC は接続をターゲット XML ファイルのモデルリポジトリオブジェクトに割り当てません。接続を割り当てるには、infacmd oie ImportObjects コマンドを使用するか、Developer tool から操作します。

infacmd ipc importFromPC コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
importFromPC
<-Release|-rel> release_number
[<-SourceFile|-sf> source_file]
[<-TargetFile|-tf> target_location]
[<-Check|-c>]
[<-Db2Type|-dt> default_db2_type]
[<-Db2TypesFile|-df> db2_types_file]
[<-DefaultLookUpConType|-dl> default_lookup_con_type]
[<-LookUpConTypesFile|-lcf> lookup_connection_types_file]
[<-ConvertOverriddenProps|-orprops> recreate_transformation_with_overridden_properties_in_mappings]
[<-LogFile|-lf> log_file]
```

以下の表に、infacmd ipc ImportFromPC コマンドのオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-Release -rel	release_number	必須。モデルリポジトリのバージョン。
-SourceFile -sf	source_file	必須。ソースオブジェクトを含む PowerCenter XML ファイルへのフルパス。
-TargetFile -tf	target_location	必須。ターゲット XML ファイルへのフルパス。
-Check -c	-	オプション。ターゲットファイルを作成せずに、変換をテストします。 オブジェクトの変換をテストする場合、ターゲットの場所は不要です。
-Db2Type -dt	default_db2_type	オプション。変換に使用される DB2 サブシステムタイプ。 Db2Type、Db2TypesFile、またはその両方を指定できます。IBM DB2 オブジェクトで Db2Type と Db2TypesFile の両方を指定した場合、Db2TypesFile にリストされていない DB2 ソースおよびターゲットは、Db2Type に変換されます。 DB2 サブシステムタイプを指定しないと、デフォルトの DB2 サブシステムタイプが使用されます。デフォルトは LUW です。
-Db2TypesFile -df	db2_types_file	オプション。PowerCenter DB2 ソースと Db2 サブシステムタイプを含むプロパティファイル。Db2 ソースおよびターゲットが、LUW、z/OS、or i/OS などの異なるサブシステムの場合、Db2 タイプのファイルを使用できます。 Db2Type、Db2TypesFile、またはその両方を指定できます。IBM DB2 オブジェクトで Db2Type と Db2TypesFile の両方を指定した場合、Db2TypesFile にリストされていない DB2 ソースおよびターゲットは、Db2Type に変換されます。 DB2 サブシステムタイプを指定しないと、デフォルトの DB2 サブシステムタイプが使用されます。デフォルトは LUW です。
-DefaultLookUpConType -dl	default_lookup_con_type	オプション。変換に使用されるルックアップ接続タイプ。 DefaultLookUpConType、LookUpConTypesFile、またはその両方を指定できます。ルックアップオブジェクトに DefaultLookUpConType と LookUpConTypesFile の両方を指定した場合、LookUpConTypesFile にリストされていないルックアップトランスフォーメーションは DefaultLookUpConType に変換されます。 変換時にルックアップオブジェクトの DefaultLookUpConType を指定しないと、デフォルトの接続タイプが使用されます。デフォルトは ODBC です。

オプション	引数	説明
- LookUpConType sFile -lcf	lookup_conne ction_type_fil e	<p>オプション。ルックアップソースとルックアップ接続タイプが含まれるプロパティファイル。ルックアップオブジェクトが異なるデータベース（Oracle、IBM DB2 など）に格納されている場合は、ルックアップ接続タイプファイルを使用できます。</p> <p>DefaultLookUpConType、LookUpConTypesFile、またはその両方を指定できます。ルックアップオブジェクトに DefaultLookUpConType と LookUpConTypesFile の両方を指定した場合、LookUpConTypesFile にリストされていないルックアップトランスフォーマーは DefaultLookUpConType に変換されます。</p> <p>変換時にルックアップオブジェクトの DefaultLookUpConType を指定しないと、デフォルトの接続タイプが使用されます。デフォルトは ODBC です。</p>
- ConvertOverride nprops -orprops	True False	<p>オプション。変換中に再利用可能な PowerCenter ソース、ターゲット、およびトランスフォーマーの上書きプロパティを保持します。</p> <p>このコマンドは、上書きプロパティを保持したまま PowerCenter トランスフォーマーの再利用不可能なトランスフォーマーを作成します。また、上書きプロパティを保持したまま PowerCenter ソースおよびターゲットの再利用可能なデータオブジェクトを作成します。</p> <p>有効な値は True または False です。デフォルトは True です。</p>
-LogFile -lf	log_file	<p>オプション。出力ログファイルのパスとファイル名。デフォルトは [STDOUT] です。</p>

第 13 章

infacmd isp コマンドリファレンス

infacmd isp プログラムにより、Informatica ドメイン、セキュリティ、および PowerCenter アプリケーションサービスが管理されます。Informatica Service は、infacmd isp コマンドを使用して有効および無効にすることができます。

infacmd isp プログラムは、ゲートウェイノードの接続情報を更新し、ノードの名前を返します。

この章では、infacmd isp プログラムで使用できるコマンドについて説明します。

AddAlertUser

ユーザーを警告メール通知にサブスクライブします。ユーザーが警告をサブスクライブする前に、送信メールサーバーの SMTP 設定を行っておく必要があります。任意のユーザーに対して infacmd isp AddAlertUser を実行できます。

警告をサブスクライブすると、権限のあるオブジェクトについてのドメインおよびサービスの通知メールが送信されます。

infacmd isp AddAlertUser コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
AddAlertUser
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-Password|-pd> password
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-AlertUser|-au> user_name
```

以下の表に、infacmd isp AddAlertUser のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port . ..	ドメインの.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_ seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-AlertUser -au	user_name	必須。警告をサブスクライブするユーザー名。

関連項目：

- [「UpdateSMTPOptions」 \(ページ 585\)](#)

AddConnectionPermissions

ユーザーまたはグループに接続権限を割り当てます。

infacmd isp AddConnectionPermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

AddConnectionPermissions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<<-RecipientUserName|-run> recipient_user_name|<RecipientGroupName|-rgn> recipient_group_name>

<-RecipientSecurityDomain|-rsd> recipient_security_domain]

<-ConnectionName|-cn> connection_name

[<-Permission|-p> permission_READ|WRITE|EXECUTE|GRANT|ALL

以下の表に、infacmd isp AddConnectionPermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザ名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-RecipientUserName -run	recipient_user_name	受信者グループ名を指定していない場合に必須。接続権限が割り当てられたユーザーの名前。
-RecipientGroupName -rgn	recipient_group_name	受信者ユーザー名を指定していない場合に必須。接続権限が割り当てられたグループの名前。
-RecipientSecurityDomain -rsd	recipient_security_domain_name	受信者が LDAP セキュリティドメインに属している場合に必須。受信者が属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。

オプション	引数	説明
-ConnectionName -cn	connection_name_security_domain	必須。接続の名前。
-Permission -p	permission	必須。割り当てる権限のタイプ。 以下の値を1つ以上、スペースで区切って入力します。 - READ - WRITE。読み込みと書き込み - EXECUTE - GRANT。読み取りおよび付与 - すべて:読み取り、書き込み、実行、付与

AddDomainLink

ドメインリンクを追加します。ローカルドメインとリンクドメインとの間でリポジトリメタデータを交換できるように、リモートドメインまたはリンクドメインへの接続プロパティを記録します。

ドメイン内の PowerCenter リポジトリサービスへのアクセスが必要な場合は、そのドメインへのリンクを追加することができます。

他の Informatica ドメイン内のグローバルリポジトリに対して、ローカルリポジトリを登録または登録解除をする場合、リンクを別の Informatica ドメインに追加できます。

infacmd isp AddDomainLink コマンドでは、以下の構文を使用します。

AddDomainLink

```
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-LinkedDomainName|-ld> linked_domain_name
<-DomainLink|-dl> domain_host1:port domain_host2:port...
```

以下の表に、infacmd isp AddDomainLink のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port. ..	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ローカルドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_ seconds	オプション。infacmd がローカルドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-LinkedDomainName -ld	linked_domain_name	必須。接続を確立するドメインの名前。
-DomainLink -dl	gateway_host1:port gateway_host2:port. ..	必須。リンクされたドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

AddDomainNode

ドメインにノードを追加します。ノードを起動する前に、ノード上で `infasetup` の `DefineGatewayNode` または `DefineWorkerNode` を実行してノードを定義する必要があります。

`infacmd isp AddDomainNode` コマンドでは、以下の構文を使用します。

AddDomainNode

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

[<-FolderPath|-fp> full_folder_path]

[<-EnableServiceRole|-esr> true|false]

[<-EnableComputeRole|-ecr> true|false]

以下の表に、infacmd isp AddDomainNode のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port. ..	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_ seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	node_name	必須。ドメインに追加するノードの名前。

オプション	引数	説明
-FolderPath -fp	full_folder_path	オプション。ノードを追加するフォルダへの完全パス（ドメイン名は除く）。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i> デフォルトは"/"（ドメイン）です。
-EnableServiceRole -esr	true false	オプション。ノードのサービスロールを有効にします。true の場合、アプリケーションサービスをノードで実行できます。false の場合、アプリケーションサービスをノードで実行できません。ノードがデータ統合サービスグリッドに割り当てられており、ノードをマッピングの実行専用として使用する場合のみ、false に設定してください。デフォルトは true です。
-EnableComputeRole -esr	true false	オプション。ノードの計算ロールを有効にします。true の場合、ノードはリモートアプリケーションサービスが要求する計算を実行できます。false の場合、ノードはリモートアプリケーションサービスが要求する計算を実行できません。 データ統合サービスがノード上でジョブを実行する場合、そのノードは計算ロールを必要とします。 データ統合サービスがノード上でジョブを実行しない場合は、計算ロールを無効にすることができます。しかし、計算ロールを有効または無効に設定しても、パフォーマンスに影響はありません。 デフォルトは true です。

AddGroupPrivilege

ドメイン内のグループに特権を割り当てます。特権はドメインのグループに割り当てることができます。また、ドメイン内の各アプリケーションサービスにグループ特権を割り当てることができます。

infacmd isp AddGroupPrivilege コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
AddGroupPrivilege
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-GroupName|-gn> group_name
[<-GroupSecurityDomain|-gsf> group_security_domain]
<-ServiceName|-sn> service_name
<-PrivilegePath|-pp> path_of_privilege
```

以下の表に、infacmd isp AddGroupPrivilege のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ..	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確認または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-GroupName -gn	group_name	必須。特権を割り当て中のグループの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-GroupSecurityDomain -gsf	group_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。特権を割り当て中のグループが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。

オプション	引数	説明
-ServiceName -sn	service_name	必須。特権を表示するドメインまたはアプリケーションサービスの名前。
-PrivilegePath -pp	path_of_privilege	必須。グループの割り当て先にする特権の完全修飾名。完全修飾名には、特権グループ名と特権名が含まれます。たとえば、リポジトリサービスの完全修飾特権名は folder/create です。特権名にスペースが含まれている場合は、次のようにパスを二重引用符で囲みます。 “Runtime Objects/Monitor/Execute/Manage Execution” 特権名に特殊文字“/”が含まれる場合、その前にエスケープ文字“\”を次のように追加します。 “Model/View Model/Export\Import Models”

AddLicense

ドメインにライセンスを追加します。ライセンスを追加したら、AssignLicense コマンドを使用してアプリケーションサービスに割り当てることができます。サービスを使用するには、サービスにライセンスを割り当てる必要があります。

infacmd isp AddLicense コマンドでは、以下の構文を使用します。

AddLicense

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> securitydomain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-LicenseName|-ln> license_name

<-LicenseKeyFile|-lf> license_key_file

[<-FolderPath|-fp> full_folder_path]

以下の表に、infacmd isp AddLicense のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されません。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-LicenseName -ln	license_name	必須。ライセンスの名前。この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。名前は 79 文字以内で、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰文字や、タブ、以下の文字を含むことはできません。 / * ? < > "
-LicenseKeyFile -lf	license_key_file	必須。ライセンスキーファイルへのパス。
-FolderPath -fp	full_folder_path	オプション。ライセンスを追加するフォルダへの完全パス（ドメイン名は除く）。以下の形式である必要があります。 /parent_folder/child_folder デフォルトは"/（ドメイン）です。

AddNamespace

LDAP セキュリティドメインを作成し、ディレクトリサービス内のユーザーまたはグループを検索するフィルタを設定します。Informatica ドメインで LDAP 認証または Kerberos 認証を使用する場合、LDAP セキュリティドメインを作成します。

infacmd isp AddNamespace コマンドでは、以下の構文を使用します。

AddNamespace

```
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-NameSpace|-ns> namespace
[<-UserSearchBase|-usb> usersearchbase]
[<-UserFilter|-uf> userfilter]
[<-GroupSearchBase|-gsb> groupsearchbase]
[<-GroupFilter|-gf> groupfilter]
```

以下の表に、infacmd isp AddNamespace のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 -sdn の値を指定できます。または認証モードに基づいてデフォルトの値を使用できます。 - ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。デフォルトはネイティブです。LDAP 認証と連動するには、-sdn の値を指定する必要があります。 - ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ネイティブ認証の場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。環境変数を指定しない場合、使用されるデフォルト値は 180 秒です。

オプション	引数	説明
-NameSpace -ns	名前空間	必須。追加する LDAP または Kerberos セキュリティドメインの名前。この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。名前にはスペースと次の特殊文字を使用できません。 , + / < > @ ; \ % ? 名前は 128 文字を超えることはできません。名前の最初および最後の文字以外で、ASCII のスペース文字を使用できます。その他のスペース文字は使用できません。
-UserSearchBase -usb	usersearchbase	LDAP ディレクトリサービス内のユーザ名検索の基点となるエントリの識別名 (Distinguished Name : DN)。LDAP ディレクトリサービスは、オブジェクトの識別名のパスに従いディレクトリ内のオブジェクトを検索します。 例えば、Microsoft Active Directory では、ユーザーオブジェクトの識別名は、cn=UserName、ou=OrganizationalUnit、dc=DomainName となり、dc=DomainName により示される一連の相対識別名は、オブジェクトの DNS ドメインを識別します。
-UserFilter -uf	userfilter	ディレクトリサービス内のユーザー検索の基準を指定する LDAP クエリ文字列。このフィルタでは、属性タイプ、アサーション値、マッチング基準が指定できます。 例えば、フィルタ(objectclass=*)はすべてのオブジェクトを検索します。フィルタ(&(objectClass=user)(!(cn=susan)))は、「susan」以外のすべてのユーザーオブジェクトを検索します。検索フィルタの詳細については、LDAP ディレクトリサービスのマニュアルを参照してください。
-GroupSearchBase -gsb	groupsearchbase	LDAP ディレクトリサービス内のグループ名検索の基点となるエントリの識別名 (Distinguished Name : DN)。
-GroupFilter -gf	groupfilter	ディレクトリサービス内のグループ検索の基準を指定する LDAP クエリ文字列。

AddNodeResource

カスタムリソースまたはファイルディレクトリリソースをノードに追加します。

グリッド上で PowerCenter 統合サービスが実行されている場合、ロードバランサはリソースを使用してセッション、コマンド、定義済みイベント待ちタスクを分散することができます。PowerCenter 統合サービスがリソースをチェックするように設定されている場合、ロードバランサは、リソースが追加されて有効になっているノードにタスクを分散します。

infacmd isp AddNodeResource コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
AddNodeResource
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
```



```

<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-NodeName|-nn> node_name
[<-ResourceCategory|-rc> resource_category ("PCIS", "DIS")]
<-ResourceType|-rt> resource_type("Custom", "File Directory")
<-ResourceName|-rn> resource_name
[<-ResourceValue|-rv> resource_value]

```

以下の表に、infacmd isp AddNodeResource のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレールムと同じです。

オプション	引数	説明
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	node_name	必須。リソースを追加するノードの名前。
-ResourceCategory -rc	resource_category	オプション。リソースのカテゴリ。有効なカテゴリは以下のとおりです。 - PCIS。PowerCenter 統合サービスのリソース。 - DIS。将来の使用のために予約済み。 デフォルトは PCIS です。
-ResourceType -rt	resource_type	必須。リソースのタイプ。有効なタイプは以下のとおりです。 - Custom - File Directory
-ResourceName -rn	resource_name	必須。リソースの名前。名前は 79 文字を超えないもので、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰文字やタブ、以下の文字を含むことはできません。 \ / * ? < > " \$
-ResourceValue -rv	resource_value	オプション。将来の使用のために予約済み。

AddRolePrivilege

ドメイン内の役割に特権を割り当てます。ドメインの役割に特権を割り当てることができます。ドメイン内のアプリケーションサービスごとに役割特権を割り当てすることもできます。

infacmd isp AddRolePrivilege コマンドでは、以下の構文を使用します。

AddRolePrivilege

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-RoleName|-rn> role_name

<-ServiceType|-st> service_type AS|CMS|MM|MRS|RPS|RS|DOMAIN

<-PrivilegePath|-pp> path_of_privilege

以下の表に、infacmd isp AddRolePrivilege のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	ドメインの.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-RoleName -rn	role_name	必須。特権を割り当て中のロールの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-ServiceType -st	service_type	必須。ロール用の特権の割り当て先のドメインまたはアプリケーションサービスのタイプ。 サービスタイプ： - AS。アナリストサービス - CMS。コンテンツ管理サービス - MM。Metadata Manager サービス - MRS。モデルリポジトリサービス - RPS。レポートサービス - RS。PowerCenter リポジトリサービス - ドメイン。Domain
-PrivilegePath -pp	path_of_privilege	必須。グループの割り当て先にする特権の完全修飾名。完全修飾名には、特権グループ名と特権名が含まれます。たとえば、リポジトリサービスの完全修飾特権名は folder/create です。特権名にスペースが含まれている場合は、次のようにパスを二重引用符で囲みます。 “Runtime Objects/Monitor/Execute/Manage Execution” 特権名に特殊文字「/」が含まれる場合、その前にエスケープ文字「\」を次のように追加します。 “Model/View Model/Export\Import Models”

AddServiceLevel

サービスレベルを追加します。

サービスレベルでは、待機しているタスク間のディスパッチ優先度が設定されます。Task Developer によってワークフローに割り当てられるさまざまなサービスレベルを作成できます。

作成する各サービスレベルには、名前、ディスパッチ優先度、および最大ディスパッチ待ち時間があります。ディスパッチ優先度とは、ディスパッチの優先度を設定する数値のことです。ロードバランサでは、優先度の高いタスクがディスパッチされてから、優先度の低いタスクがディスパッチされます。最大ディスパッチ待ち時間では、ロードバランサによってタスクのディスパッチ優先度が最も高い優先度に変更されるまでの待ち時間を指定します。

infacmd isp AddServiceLevel コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
AddServiceLevel
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> securitydomain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

<-ServiceLevelName|-ln> service_level_name

<-ServiceLevel|-sl> option_name=value ...

以下の表に、infacmd isp AddServiceLevel のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	ドメインの.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-ServiceLevelName -ln	service_level_name	必須。サービスレベルの名前です。
-ServiceLevel -sl	option_name=value	必須。サービスレベルプロパティ。以下のプロパティを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> - DispatchPriority。ディスパッチの初期優先度です。数値が小さいほど優先度が高くなります。1が最も高い優先度を表します。デフォルトは5です。 - MaxDispatchWaitTime。ロードバランサによってタスクのディスパッチ優先度が最も高い優先度に変更されるまでの経過時間（秒）。デフォルトは1800です。

AddUserPrivilege

ドメイン内のユーザーに特権を割り当てます。ドメイン内のアプリケーションごとにユーザー特権を割り当てることができます。

infacmd isp AddUserPrivilege コマンドでは、以下の構文を使用します。

AddUserPrivilege

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExistingUserName|-eu> existing_user_name

[<-ExistingUserSecurityDomain|-esd> existing_user_security_domain]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-PrivilegePath|-pp> path_of_privilege

以下の表に、infacmd isp AddUserPrivilege のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_se conds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ExistingUserName -eu	existing_user_name	必須。特権を割り当て中のユーザアカウント。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-ExistingUserSecurityDomain -esd	existing_user_security _domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。特権を割り当て中のユーザーが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-ServiceName -sn	service_name	必須。特権を表示するドメインまたはアプリケーションサービスの名前。
-PrivilegePath -pp	path_of_privilege	必須。グループの割り当て先にする特権の完全修飾名。完全修飾名には、特権グループ名と特権名が含まれます。たとえば、リポジットリサービスの完全修飾特権名は folder/create です。特権名にスペースが含まれている場合は、次のようにパスを二重引用符で囲みます。 “Runtime Objects/Monitor/Execute/Manage Execution” 特権名に特殊文字 “/” が含まれる場合、その前にエスケープ文字 “\” を次のように追加します。 “Model/View Model/Export\ /Import Models”

AddUserToGroup

ネイティブユーザーまたは LDAP ユーザーをドメイン内のネイティブグループに追加します。グループに追加されたユーザーは、グループの権限と特権をすべて継承します。

infacmd isp AddUserToGroup コマンドでは、以下の構文を使用します。

AddUserToGroup

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExistingUserName|-eu> existing_user_Name

[<-ExistingUserSecurityDomain|-esd> existing_user_security_domain]

<-GroupName|-gn> group_name

以下の表に、infacmd isp AddUserToGroup のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ExistingUserName -eu	existing_user_name	必須。追加するユーザーの名前。
-ExistingUserSecurityDomain -esd	existing_user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。追加対象ユーザーが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-GroupName -gn	group_name	必須。ユーザーを追加するグループの名前。

AssignedToLicense

ライセンスに割り当てられたサービスの一覧を示します。現在ライセンスに割り当てられているサービスを一覧表示できます。

infacmd isp AssignedToLicense コマンドでは、以下の構文を使用します。

AssignedToLicense

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-LicenseName|-ln> license_name

以下の表に、infacmd isp AssignedToLicense のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-LicenseName -ln	license_name	必須。ライセンスの名前。

AssignGroupPermission

オブジェクトに対するグループ権限を割り当てます。

権限とは、グループがドメイン内のオブジェクトにアクセスできる権限です。オブジェクトには、ドメイン、フォルダ、ノード、グリッド、ライセンス、およびアプリケーションサービスが含まれます。フォルダに対してグループ権限を割り当てると、グループはフォルダ内のすべてのオブジェクトに対する権限を継承します。

infacmd isp AssignGroupPermission コマンドでは、以下の構文を使用します。

AssignGroupPermission

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExistingGroup|-eg> existing_group_name

[<-GroupSecurityDomain|-gsf> group_security_domain]

<-ObjectName|-on> object_name

<-ObjectType|-ot> object_type_SERVICE_LICENSE_NODE_GRID_FOLDER_OSPROFILE

以下の表に、infacmd isp AssignGroupPermission のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ExistingGroup -eg	existing_group_name	必須。オブジェクトに対する権限を割り当てるグループの名前。
-GroupSecurityDomain -gsf	group_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。権限を割り当てるグループが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。

オプション	引数	説明
-ObjectName -on	object_name	必須。グループアクセス権限を割り当てるオブジェクトの名前。
-ObjectType -ot	object_type_SERVICE_LICENSE_NODE_GRID_FOLDER_OSPROFILE	必須。オブジェクトのタイプ。 次のいずれかの値を入力します。 - Service - License - Node - Grid - フォルダー - OSProfile

AssignISToMMService

Metadata Manager サービスに対して、関連する PowerCenter 統合サービスを割り当てます。

infacmd isp AssignISToMMService コマンドでは、以下の構文を使用します。

AssignISToMMService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> securitydomain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-IntegrationService|-is> integration_service_name

[<-RepositoryUserSecurityDomain|-rsdn> repository_user_security_domain]

<-RepositoryUser|-ru> repository_user

<-RepositoryPassword|-rp> repository_password

以下の表に、infacmd isp AssignISToMMService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。統合サービスの割り当て対象の Metadata Manager サービスの名前。

オプション	引数	説明
-IntegrationService -is	integration_service_name	必須。Metadata Manager サービスに関連付ける PowerCenter 統合サービスの名前。
-RepositoryUserSecurityDomain -rsdn	repository_user_security_domain	ドメインで LDAP 認証または Kerberos 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証が使用されている場合は任意。PowerCenter リポジトリユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。 セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 このオプションを指定しない場合、コマンドはリポジトリユーザーセキュリティドメインを-sdn オプションで指定されたセキュリティドメインに設定します。
-RepositoryUser -ru	repository_user	必須。PowerCenter リポジトリユーザーの名前。
-RepositoryPassword -rp	repository_password	必須。PowerCenter リポジトリユーザーのパスワード。ユーザーパスワード。パスワードは、-rp オプションまたは INFA_REPOSITORY_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-rp オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

AssignLicense

アプリケーションサービスにライセンスを割り当てます。サービスを有効にする前に、アプリケーションサービスにライセンスを割り当てる必要があります。

注: サービスが別のライセンスに割り当てられている場合は、このサービスにライセンスを割り当てることはできません。異なるライセンスをサービスに割り当てるには、RemoveLicense コマンドを使用して既存のライセンスをサービスから削除してから、新しいライセンスをサービスに割り当てます。

infacmd isp AssignLicense コマンドでは、以下の構文を使用します。

AssignLicense

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-LicenseName|-ln> license_name

<-ServiceNames|-sn> service1_name service2_name ...

以下の表に、infacmd isp AssignLicense のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port . ..	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_s econds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-LicenseName -ln	license_name	必須。サービスに割り当てるライセンスの名前。
-ServiceNames -sn	service_name1 service_name2 ...	必須。ライセンスを割り当てる対象のサービスの名前スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。サービスを再起動して変更を適用します。

AssignRoleToGroup

ドメインのグループまたはアプリケーションサービスのグループにロールを割り当てます。

infacmd isp AssignRoleToGroup コマンドでは、以下の構文を使用します。

AssignRoleToGroup

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-GroupName|-gn> group_name

[<-GroupSecurityDomain|-gsf> group_security_domain]

<-RoleName|-rn> role_name

<-ServiceName|-sn> service_name

以下の表に、infacmd isp AssignRoleToGroup のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	ドメインの.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-GroupName -gn	group_name	必須。ロールを割り当て中のグループの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

オプション	引数	説明
-GroupSecurityDomain -gsf	group_security_domain	LDAP 認証を使用している場合に必要です。ロールの割り当て先のグループが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-RoleName -rn	role_name	必須。グループに割り当て対象のロールの名前。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ロールの割り当て対象のドメインまたはアプリケーションサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

AssignRoletoUser

ドメインのユーザーまたはアプリケーションサービスのユーザーにロールを割り当てます。

infacmd isp AssignRoleToUser コマンドでは、以下の構文を使用します。

AssignRoleToUser

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExistingUserName|-eu> existing_user_name

[<-ExistingUserSecurityDomain|-esd> existing_user_security_domain]

<-RoleName|-rn> role_name

<-ServiceName|-sn> service_name

以下の表に、infacmd isp AssignRoleToUser のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	ドメインの.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ExistingUserName -eu	existing_user_name	必須。ロールを割り当て中のユーザアカウントスペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-ExistingUserSecurityDomain -esd	existing_user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ロールを割り当てるユーザーが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-RoleName -rn	role_name	必須。ユーザーに割り当て対象のロールの名前。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ロールの割り当て対象のドメインまたはアプリケーションサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

AssignRSToWSHubService

PowerCenter リポジトリとドメイン内の Web サービス Hub を関連付けます。

infacmd isp AssignRSToWSHubService コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
AssignRSToWSHubService
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-NodeName|-nn> node_name
```

```
<-RepositoryService|-rs> repository_service_name
```

```
<-RepositoryUser|-ru> user
```

```
<-RepositoryPassword|-rp> password
```

以下の表に、infacmd isp AssignRSToWShubService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。リポジトリを関連付ける Web サービス Hub の名前。

オプション	引数	説明
-NodeName -nn	node_name	必須。Web サービス Hub プロセスを実行するノードの名前。PowerCenter 環境が高可用性に設定されている場合、このオプションでプライマリノードの名前を指定できます。
-RepositoryService -rs	repository_service_name	必須。Web サービス Hub が依存する PowerCenter リポジトリサービスの名前。 スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RepositoryUser -ru	user	必須。リポジトリへの接続に使用するユーザー名。 スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RepositoryPassword -rp	パスワード	必須。ユーザーパスワード。ユーザーパスワード。パスワードは、-rp オプションまたは INFA_REPOSITORY_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-rp オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

AssignUserPermission

オブジェクトに対するユーザー権限を割り当てます。

権限とは、ユーザーがドメイン内のオブジェクトにアクセスできる権限です。オブジェクトには、ドメイン、フォルダ、ノード、グリッド、ライセンス、およびアプリケーションサービスが含まれます。フォルダーに対してユーザー権限を割り当てると、ユーザーはフォルダー内のすべてのオブジェクトに対する権限を継承します。

infacmd isp AssignUserPermission コマンドでは、以下の構文を使用します。

AssignUserPermission

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExistingUserName|-eu> existing_user_name

[<-ExistingUserSecurityDomain|-esd> existing_user_security_domain]

<-ObjectName|-on> object_name

<-ObjectType|-ot> object_type_SERVICE_LICENSE_NODE_GRID_FOLDER_OSPROFILE

以下の表に、*infacmd isp AssignUserPermission* のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	ドメインの.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。

オプション	引数	説明
-ExistingUserName -eu	existing_user_name	必須。オブジェクトに対する権限を割り当てるユーザーの名前。
-ExistingUserSecurityDomain -esd	existing_user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。権限を割り当てるユーザーが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-ObjectName -on	object_name	必須。ユーザーアクセス権限を割り当てるオブジェクトの名前。
-ObjectType -ot	object_type_SERVICE _LICENSE_NODE_GRID_FOLDER_OSPROFILE	必須。オブジェクトのタイプ。 次のいずれかの値を入力します。 - Service - License - Node - Grid - フォルダー - OSPProfile

BackupDARepositoryContents

Data Analyzer リポジトリのコンテンツをバイナリファイルへバックアップします。コンテンツをバックアップするとき、レポートサービスではリポジトリオブジェクト、接続情報、およびコードページ情報を含む Data Analyzer リポジトリを保存します。リポジトリのコンテンツをリストアするには、`infacmd isp RestoreDARepositoryContents` を実行します。

`infacmd isp BackupDARepositoryContents` コマンドでは、以下の構文を使用します。

`BackupDARepositoryContents`

`<-DomainName|-dn> domain_name`

`<-UserName|-un> user_name`

`<-Password|-pd> password`

`[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]`

`[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]`

`[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]`

`<-ServiceName|-sn> service_name`

`<-fileName|-f> file_name`

`[<-overwrite|-o> overwrite_file]`

以下の表に、infacmd isp BackupDARepositoryContent のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。コンテンツのバックアップ対象のレポートサービスの名前。

オプション	引数	説明
-fileName -f	file_name	必須。書き込むバックアップファイルの名前とファイルパス。
-overwrite -o	overwrite_file	同じ名前のファイルが既に存在する場合、バックアップファイルを上書きします。 同じ名前のファイルが存在する場合に必要です。

ConvertLogFile

バイナリログファイルをテキストファイル、XML ファイルまたは画面に読み込み可能なテキストに変換します。

infacmd isp ConvertLogFile コマンドでは、以下の構文を使用します。

ConvertLogFile

<-InputFile|-in> input_file_name

[<-Format|-fm> format_TEXT_XML]

[<-OutputFile|-lo> output_file_name]

以下の表に、infacmd isp ConvertLogFile のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-InputFile -in	input_file_name	必須。変換するログファイルの名前およびパス。 デフォルトでは、サービスマネージャはマスタゲートウェイノードの server\infa_shared\log ディレクトリを使用します。
-Format -fm	フォーマット	オプション。出力ファイルの形式。有効なタイプは以下のとおりです。 - テキスト - XML 形式を指定しない場合、infacmd ではテキスト形式が使用され、行が 80 文字で折り返されます。
-OutputFile -lo	output_file_name	オプション。出力ファイルの名前とファイルパス。 出力ファイル名を指定しない場合、infacmd で画面にログイベントが表示されます。

convertUserActivityLogFile

getUserActivityLog コマンドを使用して取得したバイナリユーザーアクティビティログファイルをテキスト形式または XML 形式に変換します。

infacmd isp convertUserActivityLogFile コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
convertUserActivityLogFile
```

```
<-InputFile|-in> input_file_name
```

```
[<-Format|-fm> format_TEXT_XML]
```

```
[<-OutputFile|-lo> output_file_name]
```

以下の表に、infacmd isp convertUserActivityLogFile のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-InputFile -in	input_file_name	必須。変換するログファイルの名前。
-Format -fm	format_TEXT_XML	オプション。出力ファイルの形式。有効な形式には次が含まれます。 - テキスト - XML デフォルトはテキストです。
-OutputFile -lo	output_file_name	オプション。出力ファイルの名前。出力ファイル名を指定しない場合、コマンドによってログがコマンドラインに表示されます。

CreateConnection

接続および接続オプションを定義します。

infacmd isp ListConnectionOptions を実行し、既存の接続に対する接続オプションを一覧表示します。

infacmd isp CreateConnection コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
CreateConnection
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-ConnectionName|-cn> connection_name
```

```
[<-ConnectionId|-cid> connection_id]
```

```
<-ConnectionType|-ct> connection_type
```

```
[<-ConnectionUserName|-cun> connection_user_name]
```

[<-ConnectionPassword|-cpd> connection_password]

[<-VendorId|-vid> vendor_id]

[-o options] (name-value pairs separated by space)

以下の表に、infacmd isp CreateConnection のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-ConnectionName -cn	connection_name	接続の名前。この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。128文字以内で指定し、空白および以下の特殊文字は使用できません。 ~ ` ! \$ % ^ & * () - + = { [] } \ : ; " ' < , > . ? /
-ConnectionId -cid	connection_id	データ統合サービスが接続の識別に使用する文字列。IDでは大文字と小文字が区別されません。255文字以下で、ドメイン内で一意である必要があります。このプロパティは、接続を作成してから変更できません。デフォルト値は接続名です。
-ConnectionType -ct	connection_type	必須。接続タイプ。次のいずれかの接続タイプを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - ADABAS - DATASIFT - DB2 - DB2I - DB2Z - FACEBOOK - GreenplumPT - HADOOP - HIVE - HadoopFileSystem - IMS - JDBC - LINKEDIN - ODBC - ORACLE - SAP - SEQ - SFDC - SQLSERVER - TWITTER - TWITTERSTREAMING - VSAM - WEBCONTENT - KAPOWKATALYST infacmd isp ListConnections コマンドを使用して接続タイプを表示することができます。
ConnectionUserName -cun	connection_username	必須。データベースユーザ名。

オプション	引数	説明
-ConnectionPassword -cpd	connection_password	<p>必須。上記データベースユーザー名のパスワード。パスワードは、-cpd オプションまたは INFA_DEFAULT_CONNECTION_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方のオプションでパスワードを設定した場合、-cpd オプションが優先されます。</p> <p>ADABAS、DB2I、DB2Z、IMS、SEQ、または VSAM の接続を作成する場合、パスワードの代わりに有効な PowerExchange のパスフレーズを入力することができます。z/OS におけるデータベースとデータセットへのアクセス用のパスフレーズの長さは、9 から 128 文字です。DB2 for i5/OS へのアクセス用のパスフレーズの長さは、最長 31 文字です。パスフレーズには次の文字を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 大文字および小文字 - 0~9 の数字 - スペース - 次に示す特殊文字。 ' - ; # \ , . / ! % & * () _ + { } : @ < > ? <p>注: 先頭に書かれている特殊文字はアポストロフィです。</p> <p>パスフレーズに一重引用符 (')、二重引用符 (")、または通貨記号を含めることはできません。</p> <p>パスフレーズにスペースが含まれている場合、必ずそれを二重引用符 (") で囲んでください (例: "This is an example passphrase")。パスフレーズに特殊文字が含まれる場合、パスフレーズを 3 重にした二重引用符 (""") で囲む必要があります。例えば次のように表記します。""""This passphrase contains special characters ! % & * . """"。パスフレーズにスペース以外の英数字のみが使用されている場合は、区切り文字を使わずにそのまま入力できます。</p> <p>注: z/OS で有効な RACF パスフレーズの最大長は 100 文字です。PowerExchange は、検証のために RACF にパスフレーズを渡すときに 100 文字を超えるパスフレーズを切り捨てます。</p> <p>パスフレーズを使用するには、DBMOVER メンバのセキュリティ設定を SECURITY=(1,N)以上にして PowerExchange リスナを実行します。詳細については、『PowerExchange リファレンスマニュアル』の「SECURITY 文」を参照してください。</p> <p>IMS の接続のパスフレーズを使用するために、次の追加の要件を確実に満足させてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ODBA の IMS へのアクセスは、『PowerExchange Navigator ユーザーガイド』で説明されているとおりに設定する必要があります。 - 必ずアクセス方式に IMS ODBA を指定している IMS データマップを使用してください。DL/1 BATCH アクセス方式を指定するデータマップは使用しないでください。これは、パスフレーズをサポートしていない netport ジョブの使用がこのアクセス方式で必須になっているためです。 - IMS データベースは、ODBA の IMS へのアクセスを使用するために、IMS 制御領域でオンラインにする必要があります。

オプション	引数	説明
-VendorId -vid	vendor_id	オプション。アダプタを構築した外部パートナーの ID。
-Options -o	オプション	必須。名前と値のペアをスペースで区切って入力します。接続オプションは接続タイプごとに異なります。

Adabas 接続オプション

接続オプションを使用して、Adabas 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、Adabas 接続オプションを示します。

オプション	説明
CodePage	必須。データベースからの読み込みまたはデータベースへの書き込みを行うためのコード。ISO コードページ名 (ISO-8859-6 など) を使用します。コードページ名では大文字と小文字が区別されません。
ArraySize	オプション。ワーカースレッドの値が 0 より大きい場合、スレッド用のストレージ配列内のレコードの数を決定します。有効な値は、1~100000 です。デフォルトは 25 です。
Compression	オプション。データを圧縮し、ネットワーク上で Informatica アプリケーションが書き込むデータ量を減らします。True または False。デフォルトは False です。
EncryptionLevel	オプション。RC2 または DES に対する暗号化レベル (暗号化タイプ別)。暗号化レベルに応じて、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - 1. DES および RC2 には 56 ビットの暗号化キーを使用します。 - 2. DES に 168 ビットトリプル DES 暗号化キーを使用し、RC2 に 64 ビット暗号化キーを使用します。 - 3. DES に 168 ビットトリプル DES 暗号化キーを使用し、RC2 に 128 ビット暗号化キーを使用します。 デフォルトは 1 です。 注: 暗号化タイプに「なし」を選択した場合、Data Integration Service では暗号化レベルの値を無視します。
EncryptionType	オプション。暗号化タイプに応じて、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - なし - RC2 - DES デフォルトは [なし] です。
InterpretAsRows	オプション。True の場合、ページングサイズの値は行数を表します。False の場合、ページングサイズはキロバイトを表します。デフォルトは False です。
Location	データベースに接続できる PowerExchange Listener ノードの場所。場所は、PowerExchange dbmover.cfg コンフィギュレーションファイル内の NODE 文の最初のパラメータで定義されます。

オプション	説明
OffLoadProcessing	<p>オプション。ソースマシンからバルクデータ処理を Data Integration Service マシンに移動します。</p> <p>次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Auto。オフロード処理を使用するかどうかを Data Integration Service によって決定されます。 - Yes。オフロード処理を使用します。 - No。オフロード処理は使用しません。 <p>デフォルトは Auto です。</p>
PacingSize	<p>オプション。データ転送率を低くして、ボトルネックを減らします。値が小さいほど、セッションパフォーマンスが向上します。最小値は 0 です。最大のパフォーマンスを得るためには、「0」を入力します。デフォルトは 0 です。</p>
WorkerThread	<p>オプション。オフロード処理の有効時に Data Integration Services がバルクデータを処理するために使用するスレッドの数。最適なパフォーマンスを得るためには、Data Integration Service マシンで使用可能なプロセッサの数を超えないようにこの値を設定します。有効な値は 1~64 です。デフォルトは 0 です。このとき、マルチスレッド処理は無効になります。</p>
WriteMode	<p>次のうちいずれかの書き込みモードを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - CONFIRMWRITEON。PowerExchange Listener にデータを送信し、成功/失敗の応答を待ってから、さらにデータを送信します。 - CONFIRMWRITEOFF。成功/失敗の応答を待たずに、PowerExchange Listener にデータを送信します。エラーが発生した際、ターゲットテーブルをリロードできる場合に、このオプションを使用します。 - ASYNCHRONOUSWITHFAULTT。エラー検出機能で、PowerExchange Listener にデータを非同期的に送信します。 <p>デフォルトは CONFIRMWRITEON です。</p>
EnableConnectionPool	<p>オプション。接続プールを有効にする。接続プールを有効にした場合、接続プールはメモリ内にアイドル状態の接続インスタンスを保持します。接続プールを無効にした場合、Data Integration Service はすべてのプールアクティビティを停止します。True または False。デフォルトは False です。</p>
ConnectionPoolSize	<p>オプション。データベース接続のために Data Integration Service が保持するアイドル状態の接続インスタンスの最大数です。この値をアイドル状態の接続インスタンスの最小数以上で設定します。デフォルトは 15 です。</p>
ConnectionPoolMaxIdleTime	<p>オプション。接続プールが接続を削除する前に、接続インスタンスの最小数を超える接続がアイドル状態を保持できる秒数。接続プールは、接続プールがアイドル状態の接続インスタンスの最小数を超えない場合、アイドル時間を無視します。デフォルトは 120 です。</p>
ConnectionPoolMinConnections	<p>オプション。データベース接続のためにプールが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最小数。アイドル状態の接続プールのサイズと等しい値、または接続プールのサイズ以下の値で設定します。デフォルトは 0 です。</p>

関連項目：

- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)

- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

DataSift 接続オプション

接続オプションを使用して、DataSift 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、infacmd isp CreateConnection および UpdateConnection コマンド用の DataSift 接続オプションを示します。

オプション	説明
userName	DataSift ユーザーアカウントに対応する DataSift ユーザー名。
apiKey	API キー。Developer API キーが、DataSift アカウント内の [ダッシュボード] ページまたは [設定] ページに表示されます。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)

- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

DB2 for i5/OS 接続オプション

DB2I 接続オプションを使用して、DB2 for i5/OS 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

オプションが複数ある場合はスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、infacmd isp CreateConnection および UpdateConnection コマンド用の DB2 for i5/OS 接続オプションを示します。

オプション	説明
DatabaseName	データベースインスタンス名。
EnvironmentSQL	オプション。データベースに接続する場合に、データベース環境を設定する SQL コマンド。データ統合サービスは、データベースに接続するたびに、接続環境 SQL を実行します。 注: 特殊文字を二重引用符で囲みます。

オプション	説明
CodePage	必須。ソースデータベースからの読み取りや、ターゲットデータベースまたはファイルへの書き込みに使用されるコードページ。
ArraySize	オプション。ワーカースレッドの値が0より大きい場合、スレッド用のストレージ配列内のレコードの数を決定します。有効な値は、1~100000です。デフォルトは25です。
圧縮	オプション。データを圧縮し、ネットワーク上で書き込まれるデータの量を減らします。デフォルトはFalseです。
EncryptionLevel	<p>オプション。RC2 または DES に対する暗号化レベル（暗号化タイプ別）。暗号化レベルに応じて、次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1. DES および RC2 には 56 ビットの暗号化キーを使用します。 - 2. DES に 168 ビットトリプル DES 暗号化キーを使用し、RC2 に 64 ビット暗号化キーを使用します。 - 3. DES に 168 ビットトリプル DES 暗号化キーを使用し、RC2 に 128 ビット暗号化キーを使用します。 <p>デフォルトは1です。</p> <p>注: 暗号化タイプに「なし」を選択した場合、データ統合サービスでは暗号化レベルの値を無視します。</p>
EncryptionType	<p>オプション。暗号化のタイプ。暗号化タイプに応じて、次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - なし - RC2 - DES <p>デフォルトは [なし] です。</p>
InterpretAsRows	オプション。ペーシングサイズを行数で表します。False の場合、ペーシングサイズはキロバイトを表します。デフォルトは False です。
Location	データベースに接続できる PowerExchange Listener ノードの場所。場所は、PowerExchange dbmover.cfg コンフィギュレーションファイル内の NODE 文の最初のパラメータで定義されます。
PacingSize	<p>オプション。ソースシステムが PowerExchange Listener に渡すことができるデータ量。外部アプリケーション、データベース、またはデータ統合サービスノードがボトルネックになっている場合は、ペーシングサイズを設定します。値が小さいほど、パフォーマンスは向上します。</p> <p>最小値は0です。最大のパフォーマンスを得るためには、「0」を入力します。デフォルトは0です。</p>
RejectFile	オプション。拒否ファイル名およびパスを入力します。拒否ファイルには、データベースに書き込まれなかった行が含まれています。
WriteMode	<p>次のうちいずれかの書き込みモードを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - CONFIRMWRITEON。PowerExchange Listener にデータを送信し、成功/失敗の応答を待ってから、さらにデータを送信します。 - CONFIRMWRITEOFF。成功/失敗の応答を待たずに、PowerExchange Listener にデータを送信します。エラーが発生した際、ターゲットテーブルをリロードできる場合に、このオプションを使用します。 - ASYNCHRONOUSWITHFAULTT。エラー検出機能で、PowerExchange Listener にデータを非同期的に送信します。 <p>デフォルトは CONFIRMWRITEON です。</p>

オプション	説明
DatabaseFileOverrides	<p>i5/OS データベースファイルのオーバーライドを指定します。形式は次のとおりです。</p> <p>from_file/to_library/to_file/to_member</p> <p>説明:</p> <ul style="list-style-type: none"> - from_file はオーバーライドされるファイルです。 - to_library は新しく使用するライブラリです。 - to_file は新しく使用するライブラリ内のファイルです。 - to_member はオプションで、新しく使用するライブラリおよびファイル内のメンバです。何も指定しない場合、*FIRST が使用されます。 <p>単一の接続において 8 回まで、一意のファイルオーバーライドを指定することができます。単一のオーバーライドが一つのソースまたはターゲットに適用されます。1 回以上ファイルオーバーライドを指定する場合は、ファイルオーバーライドの文字列を二重引用符で囲み、各ファイルオーバーライドの間にスペースを入れます。</p> <p>注: LibraryList と DatabaseFileOverrides の両方を指定し、テーブルが両方に存在する場合は、DatabaseFileOverrides が優先されます。</p>
IsolationLevel	<p>トランザクションのコミット範囲。次のうちいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - なし - CS。カーソルの安定性。 - RR。繰り返し可能読み込み。 - CHG。変更。 - すべて <p>デフォルトは CS です。</p>
LibraryList	<p>Select、Insert、Delete、または Update 文のテーブル名を検出するために PowerExchange が検索するライブラリのリストです。テーブル名が修飾されていない場合、PowerExchange はリストを検索します。</p> <p>ライブラリをセミコロンで区切ります。</p> <p>注: LibraryList と DatabaseFileOverrides の両方を指定し、テーブルが両方に存在する場合は、DatabaseFileOverrides が優先されます。</p>
EnableConnectionPool	<p>オプション。データをバルクモードでテーブルにロードする場合の並列処理を可能にします。Oracle で使用されます。True または False。デフォルトは True です。</p>
ConnectionPoolSize	<p>オプション。データベース接続のためにデータ統合サービスが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最大数です。この値をアイドル状態の接続インスタンスの最小数以上で設定します。</p>
ConnectionPoolMaxIdleTime	<p>オプション。接続プールが接続を削除する前に、接続インスタンスの最小数を超える接続がアイドル状態を保持できる秒数。接続プールは、接続プールがアイドル状態の接続インスタンスの最小数を超えない場合、アイドル時間を無視します。</p>
ConnectionPoolMinConnections	<p>オプション。データベース接続のためにプールが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最小数。アイドル状態の接続プールのサイズと等しい値、または接続プールのサイズ以下の値で設定します。デフォルトは 0 です。</p>

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)

- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

Facebook 接続オプション

接続オプションを使用して、Facebook 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、infacmd isp CreateConnection および UpdateConnection コマンド用の Facebook 接続オプションを示します。

オプション	説明
ConsumerKey	Facebook にアプリケーションを作成すると支給される App ID。Facebook はこのキーを使用してアプリケーションを識別します。
ConsumerSecret	Facebook にアプリケーションを作成すると支給されるアプリケーションシークレット。Facebook はこのシークレットを使用してコンシューマキーの所有権を確立します。
AccessToken	OAuth Utility から返されるアクセストークン。Facebook は、ユーザークレデンシャルではなくこのトークンを使用して保護されたリソースにアクセスします。
AccessSecret	アクセスシークレットは Facebook 接続に必要ありません。
Scope	アプリケーションの権限。OAuth の設定に使用した権限を入力します。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)

- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

Greenplum 接続オプション

接続オプションを使用して、Greenplum 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、`infacmd isp CreateConnection` および `UpdateConnection` コマンド用の Greenplum 接続オプションを示します。

オプション	説明
UserName	必須。Greenplum データベースにアクセスする権限を持つユーザー名。
パスワード	必須。Greenplum データベースに接続するためのパスワード。
driverName	必須。Greenplum JDBC ドライバの名前。 例: <code>com.pivotal.jdbc.GreenplumDriver</code> このドライバの詳細については、Greenplum のマニュアルを参照してください。
connectionString	必須。Greenplum JDBC 接続 URL。 例: <code>jdbc:pivotal:greenplum://<hostname>:<port>;DatabaseName=<database_name></code> この接続 URL の詳細については、Greenplum のマニュアルを参照してください。
hostName	必須。Greenplum サーバーのホスト名または IP アドレス。
portNumber	必須。Greenplum サーバーのポート番号。 0 を入力すると、 <code>gpload</code> ユーティリティは環境変数 <code>\$PGPORT</code> から読み取ります。 デフォルトは 5432 です。
databaseName	必須。接続するデータベースの名前。
enableSSL	オプション。 <code>gpload</code> ユーティリティと Greenplum サーバー間で SSL 経由の安全な通信を確立するには、このオプションを <code>true</code> に設定します。
SSLCertificatePath	SSL を有効にする場合は必須です。Greenplum サーバーの SSL 証明書が格納されるパス。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)

- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

HBase 接続のオプション

接続オプションを使用して、Hbase 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、`infacmd isp CreateConnection` および `UpdateConnection` コマンド用の HBase 接続オプションを示します。

プロパティ	説明
名前	接続の名前。この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。このプロパティは、接続を作成した後に変更できません。名前は 128 文字以内で指定し、空白および以下の特殊文字は使用できません。 ~ ` ! \$ % ^ & * () - + = { []] \ : ; " ' < , > . ? /
ID	データ統合サービスが接続の識別に使用する文字列。ID では大文字と小文字が区別されません。255 文字以下で、ドメイン内で一意である必要があります。このプロパティは、接続を作成してから変更できません。デフォルト値は接続名です。
説明	接続の説明。説明は、4,000 文字を超えることはできません。
場所	接続を作成するドメイン。

プロパティ	説明
タイプ	接続タイプ。HBase を選択します。
ZooKeeper ホスト	ZooKeeper サーバーをホストするマシンの名前。この名前は、大文字と小文字が区別されます。 ZooKeeper をレプリケートモードで実行する場合は、ZooKeeper quorum サーバーの中のカンマで区切られたサーバーリストを指定します。サーバーへの TCP 接続が切断された場合、クライアントは quorum の中の別のサーバーに接続します。
ZooKeeper ポート	ZooKeeper サーバーをホストするマシンのポート番号。
Kerberos 接続の有効化	Kerberos 認証を使用する HBase Master サーバーまたは Region サーバーと通信するために、Informatica ドメインを有効にします。
HBase Master プリンシパル	HBase Master サーバーのサービスプリンシパル名 (SPN)。Kerberos 認証を使用する HBase Master サーバーと通信するために、ZooKeeper サーバーを有効にします。 文字列は次の形式で入力します。 hbase/<domain.name>@<YOUR-REALM> 説明: - domain.name は、HBase Master サーバーをホストするマシンのドメイン名です。 - YOUR-REALM は、Kerberos レルムです。
HBase Region サーバープリンシパル	HBase Region サーバーのサービスプリンシパル名 (SPN)。Kerberos 認証を使用する HBase Region サーバーと通信するために、ZooKeeper サーバーを有効にします。 文字列は次の形式で入力します。 hbase_rs/<domain.name>@<YOUR-REALM> 説明: - domain.name は、HBase Master サーバーをホストするマシンのドメイン名です。 - YOUR-REALM は、Kerberos レルムです。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)

- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

HDFS 接続オプション

接続オプションを使用して、HDFS 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、`infacmd isp CreateConnection` および `UpdateConnection` コマンド用の HDFS 接続オプションを示します。

オプション	説明
userName	HDFS にアクセスするためのユーザー名。
nameNodeURI	HDFS にアクセスするための URI。URI は次の形式で指定してください。 <code>hdfs://<namenode>:<port></code> 説明 - <namenode>は、NameNode のホスト名または IP アドレスです。 - <port>は、NameNode がリモートプロシージャ呼び出し (RPC) をリスンするポートです。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)

- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

Hadoop 接続オプション

接続オプションを使用して、Hive 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name='value' option_name='value' ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。

以下の表に、`infacmd isp CreateConnection` および `UpdateConnection` コマンドに対する Hadoop 接続オプションを示します。これらのオプションは、Hadoop 接続を使用する場合に設定します。

オプション	説明
connectionId	データ統合サービスが接続の識別に使用する文字列。ID では大文字と小文字が区別されません。255 文字以下で、ドメイン内で一意である必要があります。このプロパティは、接続を作成してから変更できません。デフォルト値は接続名です。
connectionType	必須。接続の種類は Hadoop です。
name	接続の名前。この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。このプロパティは、接続を作成した後に変更できます。名前は 128 文字以内で指定し、空白および以下の特殊文字は使用できません。 ~ ` ! \$ % ^ & * () - + = { []] \ : ; " ' < , > . ? /

オプション	説明
RMAddress	<p>リソースの要求を送信したり、YARN アプリケーションを生成したりする Hadoop 内のサービス。</p> <p>次の形式を使用します。</p> <pre><hostname>:<port></pre> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> - <hostname>は、Yarn リソースマネージャのホスト名または IP アドレスです。 - <port>は、Yarn リソースマネージャがリモートプロシージャコール (RPC) をリスンするポートです。 <p>例えば、次のように入力します。myhostame:8032</p> <p>Hadoop クラスタの次のディレクトリに配置された yarn-site.xml からリソースマネージャアドレスのプロパティを取得することもできます。/etc/hadoop/conf/</p> <p>リソースマネージャアドレスは、次のようなプロパティとして yarn-site.xml に含まれます。</p> <pre><property> <name>yarn.resourcemanager.address</name> <value>hostname:port</value> <description>The address of the applications manager interface in the Resource Manager.</description> </property></pre> <p>yarn-site.xml 内で yarn.resourcemanager.address プロパティが設定されていない場合は、yarn-site.xml 内の yarn.resourcemanager.hostname または yarn.resourcemanager.scheduler.address プロパティからホスト名を見つけることもできます。これで、次の値を使用して、Hadoop 接続のリソースマネージャアドレスを設定できます。hostname:8032</p>
cadiAppYarnQueueName	<p>クラスタ上の利用可能なリソースを指定する Blaze エンジンが使用する YARN スケジューラのキュー名。この名前は、大文字と小文字が区別されます。</p>
cadiExecutionParameterList	<p>Blaze エンジン固有のカスタムプロパティ。複数のプロパティを指定できます。</p> <p>次の形式を使用します。</p> <pre><property1>=<value></pre> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> - <property1>は、Blaze エンジンの最適化プロパティです。 - <value>は、Blaze エンジンの最適化プロパティの値です。 <p>複数のプロパティを指定するには、プロパティセパレータとして&:を使用します。</p> <p>カスタムプロパティは、Informatica グローバルカスタマサポートから要求された場合にのみ使用します。</p>
cadiMaxPort	Blaze エンジンのポート番号範囲の最大値。
cadiMinPort	Blaze エンジンのポート番号範囲の最小値。
cadiUserName	Blaze エンジンのオペレーティングシステムのプロファイルユーザー名。
cadiWorkingDirectory	Blaze エンジンが一時ファイルを保存するために使用するディレクトリの HDFS ファイルパス。ディレクトリが存在することを確認してください。YARN ユーザー、Blaze エンジンユーザー、およびマッピング偽装ユーザーには、このディレクトリへの書き込み権限が必要です。

オプション	説明
databaseName	<p>テーブルの名前空間。指定されたデータベース名を持たないテーブルには、名前として default を使用してください。</p>
defaultFSURI	<p>デフォルトの Hadoop 分散ファイルシステムにアクセスするための URI。次の接続 URI を使用します。</p> <pre>hdfs://<node name>:<port></pre> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> - <node name>は、NameNode のホスト名または IP アドレスです。 - <port>は、NameNode がリモートプロシージャコール (RPC) をリスンするポートです。 <p>例えば、次のように入力します。hdfs://myhostname:8020/</p> <p>Hadoop クラスタの次のディレクトリに配置された core-site.xml からデフォルトのファイルシステム URI のプロパティを取得することもできます。/etc/hadoop/conf/core-site.xml 内にある fs.defaultFS プロパティの値を使用します。</p> <p>例えば、以下の値を使用します。</p> <pre><property> <name>fs.defaultFS</name> <value>hdfs://localhost:8020</value> </property></pre> <p>Hadoop クラスタで MapR を実行している場合、次の URI を使用して、MapR ファイルシステムにアクセスします。maprfs:///</p>
engineType	<p>Hadoop クラスタでマッピングを実行するために Hadoop 環境で使用するエンジン。ドロップダウンリストから値を選択します。</p> <p>例えば、次の値を選択します。MRv2</p> <p>Hadoop 接続のエンジンタイプを設定するには、Hadoop クラスタの次のディレクトリに配置された mapred-site.xml から mapreduce.framework.name プロパティの値を取得する必要があります。/etc/hadoop/conf/mapreduce.framework.name の値が classic の場合、mrv1 を Hadoop 接続のエンジンタイプとして選択します。</p> <p>mapreduce.framework.name の値が yarn の場合、mrv2 または tez を Hadoop 接続のエンジンタイプとして選択できます。Hadoop クラスタで Tez が設定されていない場合、Tez を選択しないでください。</p> <p>hive-site.xml 内のエンジンタイプの値を設定することもできます。エンジンタイプは、次のようなプロパティとして hive-site.xml に含まれます。</p> <pre><property> <name>hive.execution.engine</name> <value>tez</value> <description>Chooses execution engine. Options are: mr (MapReduce, default) or tez (Hadoop 2 only)</description> </property></pre>

オプション	説明
environmentSQL	<p>Hadoop 環境を設定する SQL コマンド。データ統合サービスは、Hive 実行プラン内に生成された各 Hive スクリプトの開始時に環境 SQL を実行します。</p> <p>環境 SQL の使用には、以下のルールおよびガイドラインが適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 環境 SQL は、Hive クエリを指定するために使用します。 - 環境 SQL を使用して Hive ユーザー定義関数のクラスパスを設定し、続いて環境 SQL または PreSQL を使用して Hive ユーザー定義関数を指定します。データオブジェクトプロパティで PreSQL を使用してクラスパスを指定することはできません。パスは、ユーザー定義関数に使用される JAR ファイルの完全修飾パスでなければなりません。infapdo.aux.jars.path にすべてのエントリを指定したパラメータ hive.aux.jars.path およびパスをユーザー定義関数の JAR ファイルに設定します。 - 環境 SQL は、PreSQL コマンド内またはカスタムクエリ内で使用する Hadoop パラメータまたは Hive パラメータを定義するために使用できません。
hadoopExecEnvExecutionParameterList	<p>Hadoop 環境固有のカスタムプロパティ。複数のプロパティを指定できます。</p> <p>次の形式を使用します。</p> <pre><property1>=<value></pre> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> - <property1>は、Hadoop 環境の最適化プロパティです。 - <value>は、Hadoop 環境の最適化プロパティの値です。 <p>複数のプロパティを指定するには、プロパティセパレータとして&:を使用します。</p> <p>カスタムプロパティは、Informatica グローバルカスタマサポートから要求された場合にのみ使用します。</p>
hiveWarehouseDirectoryOnHDFS	<p>クラスタに対してローカルなウェアハウスの、デフォルトデータベースの HDFS ファイルの絶対パスです。例えば、以下のファイルパスはローカルウェアハウスを指定します。/user/hive/warehouse</p> <p>Cloudera CDH で、Metastore Execution Mode がリモートの場合は、ファイルパスが、Hadoop クラスタの Hive メタストアサービスによって指定されたファイルパスと一致する必要があります。</p> <p>Hadoop クラスタの次のディレクトリに配置された hive-site.xml 内の hive.metastore.warehouse.dir プロパティから、HDFS 上の Hive ウェアハウスディレクトリの値を取得できます。/etc/hadoop/conf/</p> <p>例えば、以下の値を使用します。</p> <pre><property> <name>hive.metastore.warehouse.dir</name> <value>/usr/hive/warehouse </value> <description>location of the warehouse directory</description> </property></pre> <p>MapR の場合、hive-site.xml は、/opt/mapr/hive/<hive version>/conf ディレクトリに配置されています。</p>

オプション	説明
jobMonitoringURL	<p>MapReduce JobHistory サーバーの URL。MapReduce バージョン 1 を使用する場合は、JobTracker URI の URL を使用できます。</p> <p>次の形式を使用します。 <code><hostname>:<port></code> ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> - <code><hostname></code>は、JobHistory サーバーのホスト名または IP アドレスです。 - <code><port></code>は、JobHistory サーバーがリモートプロシージャコール (RPC) をリスンするポートです。 <p>例えば、次のように入力します。myhostname:8021</p> <p>mapred-site.xml からジョブ監視 URL の値を取得できます。ジョブ監視 URL は、次のようなプロパティとして mapred-site.xml に含まれます。</p> <pre data-bbox="662 695 1409 835"><property> <name>mapred.job.tracker</name> <value>myhostname:8021 </value> <description>The host and port that the MapReduce job tracker runs at.</description> </property></pre>
metastoreDatabaseDriver	<p>JDBC データストアのドライバクラス名。例えば、以下のクラス名は MySQL ドライバを指定します。</p> <p>com.mysql.jdbc.Driver</p> <p>hive-site.xml からメタストアデータベースドライバの値を取得できます。メタストアデータベースドライバは、次のようなプロパティとして hive-site.xml に含まれます。</p> <pre data-bbox="662 1066 1198 1161"><property> <name>javax.jdo.option.ConnectionDriverName</name> <value>com.mysql.jdbc.Driver</value> </property></pre>
metastoreDatabasePassword	<p>メタストアユーザー名のパスワード。</p> <p>hive-site.xml からメタストアデータベースパスワードの値を取得できます。メタストアデータベースパスワードは、次のようなプロパティとして hive-site.xml に含まれます。</p> <pre data-bbox="662 1329 1182 1423"><property> <name>javax.jdo.option.ConnectionPassword</name> <value>password</value> </property></pre>

オプション	説明
metastoreDatabaseURI	<p>ローカルメタストアセットアップ内のデータストアにアクセスするために使用される JDBC 接続の URI。次の接続 URI を使用します。</p> <pre>jdbc:<datastore type>://<node name>:<port>/<database name></pre> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> - <node name>は、データストアのホスト名または IP アドレスです。 - <data store type>は、データストアのタイプです。 - <port>は、データストアがリモートプロシージャコール (RPC) をリスンするポートです。 - <database name>は、データベースの名前です。 <p>例えば、以下の URI はデータストアとして MySQL を使用するローカルメタストアを指定します。</p> <pre>jdbc:mysql://hostname23:3306/metastore</pre> <p>hive-site.xml からメタストアデータベースの URI の値を取得できます。メタストアデータベースの URI は、次のようなプロパティとして hive-site.xml に含まれます。</p> <pre><property> <name>javax.jdo.option.ConnectionURL</name> <value>jdbc:mysql://MYHOST/metastore</value> </property></pre>
metastoreDatabaseUserName	<p>メタストアデータベースユーザー名。</p> <p>hive-site.xml からメタストアデータベースユーザー名の値を取得できます。メタストアデータベースユーザー名は、次のようなプロパティとして hive-site.xml に含まれます。</p> <pre><property> <name>javax.jdo.option.ConnectionUserName</name> <value>hiveuser</value> </property></pre>
metastoreMode	<p>リモートメタストアとローカルメタストアのどちらに接続するかを制御します。デフォルトではローカルが選択されます。ローカルメタストアの場合、メタストアデータベースの URI、メタストアデータベースドライバ、ユーザー名、およびパスワードを指定する必要があります。リモートメタストアの場合、指定する必要があるのはリモートメタストアの URI だけです。</p> <p>hive-site.xml からメタストア実行モードの値を取得できます。メタストア実行モードは、次のようなプロパティとして hive-site.xml に含まれます。</p> <pre><property> <name>hive.metastore.local</name> <value>true</true> </property></pre> <p>注: hive.metastore.local プロパティは、Hive サーババージョン 0.9 以上の hive-site.xml では廃止されています。hive.metastore.local プロパティは存在しないが hive.metastore.uris プロパティは存在し、Hive サーバが起動していることを把握している場合、リモートメタストアへの接続を設定できます。</p>

オプション	説明
remoteMetastoreURI	<p>リモートメタストアセットアップ内のメタデータにアクセスするために使用されるメタストアの URI。リモートメタストアの場合、Thrift サーバーの詳細を指定する必要があります。</p> <p>次の接続 URI を使用します。 thrift://<hostname>:<port></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> - <hostname>は、Thrift メタストアサーバーの名前または IP アドレスです。 - <port>は、Thrift サーバーがリスンしているポートです。 <p>例えば、次のように入力します。thrift://myhostname:9083/ hive-site.xml からリモートメタストアの URI の値を取得できます。リモートメタストアの URI は、次のようなプロパティとして hive-site.xml に含まれます。</p> <pre><property> <name>hive.metastore.uris</name> <value>thrift://<n.n.n.n>:9083</value> <description> IP address or fully-qualified domain name and port of the metastore host</description> </property></pre>
stgDataCompressionCodecClass	データ圧縮を有効にし、一時ステージングテーブルのパフォーマンスを改善するコーデッククラス名。
stgDataCompressionCodecType	圧縮コーデッククラス名の Hadoop 圧縮ライブラリ。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)

- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

Hive 接続オプション

接続オプションを使用して、Hive 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name='value' option_name='value' ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。

以下の表に、`infacmd isp CreateConnection` および `UpdateConnection` コマンドに対する Hive 接続オプションを示します。これらのオプションは、Hive 接続を使用する場合に設定します。

オプション	説明
<code>connectionType</code>	必須。接続の種類は HIVE です。
<code>name</code>	接続の名前。この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。このプロパティは、接続を作成した後に変更できません。名前は 128 文字以内で指定し、空白および以下の特殊文字は使用できません。 ~ ` ! \$ % ^ & * () - + = { [] } \ : ; " ' < , > . ? /
<code>relationalSourceAndTarget</code>	Hive 接続モード。Hive データウェアハウスにアクセスするための接続を使用する場合は、このオプションを <code>true</code> に設定します。Hive ターゲットにアクセスする場合は、同じ接続または Hive 接続を有効にして Hadoop クラスタ内でマッピングを実行する必要があります。 リレーショナルソースとターゲットを有効にする場合は、 <code>metadataDatabaseString</code> オプションを指定する必要があります。
<code>pushDownMode</code>	Hive 接続モード。Hadoop クラスタ内でマッピングを実行するための接続を使用する場合は、このオプションを <code>true</code> に設定します。 プッシュダウンモードの接続を有効にする場合は、Informatica マッピングを Hadoop クラスタ内で実行するためのオプションを指定する必要があります。

オプション	説明
environmentSQL	<p>Hadoop 環境を設定するための SQL コマンド。ネイティブ環境タイプでは、Data Integration Service が、Hive メタストアへの接続を作成するたびに環境 SQL を実行します。Hive 接続を使用して Hadoop クラスタ内でのマッピングを実行する場合は、Data Integration Service は各 Hive セッションの開始時に環境 SQL を実行します。</p> <p>両方の接続モードで環境 SQL を使用する場合には、以下の規則およびガイドラインが適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 環境 SQL を使用して Hive クエリを指定します。 - 環境 SQL を使用して Hive ユーザー定義関数のクラスパスを設定し、次に、環境 SQL か PreSQL のいずれかを使用して Hive ユーザー定義関数を指定します。データオブジェクトのプロパティ内にある PreSQL を使用してクラスパスを指定することはできません。パスは、ユーザー定義関数に使用する JAR ファイルの完全修飾パスで指定する必要があります。infapdo.aux.jars.path のすべてのエントリおよびユーザー定義関数に使用する JAR ファイルのパスで、パラメーター hive.aux.jars.path を設定します。 - 環境 SQL を使用して、PreSQL コマンドまたはカスタムクエリ内で使用する Hadoop パラメーターまたは Hive パラメーターを定義することもできます。 <p>Hive 接続を使用して Hadoop クラスタ内でのマッピングを実行すると、Hive 接続の環境 SQL のみが実行されます。Hive ソースとターゲットが別々のクラスタ内にある場合でも、Hive ソースまたはターゲットの接続に対して異なる環境 SQL コマンドは実行されません。</p>
enableQuotes	データベース予約語をすべて引用符で囲みます。デフォルトは false です。

ソースまたはターゲットとして、Hive にアクセスするためのプロパティ

以下の表に、`infacmd isp CreateConnection` および `UpdateConnection` コマンドに対する必須オプションを示します。これらのオプションは、Hive 接続を使用して Hive データにアクセスする場合に設定します。

プロパティ	説明
<code>metadataConnString</code>	<p>Hadoop サーバーからメタデータにアクセスする場合に使用する JDBC 接続 URI。</p> <p>接続文字列には、次の形式が使用されます。 <code>jdbc:hive://<hostname>:<port>/<db></code></p> <p>説明</p> <ul style="list-style-type: none">- <code>hostname</code> は、Hive サーバーが実行されているマシンの名前または IP アドレスです。- <code>port</code> は、Hive サーバーがリスンしているポートです。- <code>db</code> は、接続するデータベースです。データベースの詳細を指定しない場合は、Data Integration Service では、デフォルトのデータベースの詳細が使用されます。
<code>bypassHiveJDBCServer</code>	<p>JDBC ドライバーモード。このオプションを有効にすると、埋め込み JDBC ドライバーが使用されます（埋め込みモード）。</p> <p>JDBC 埋め込みモードを使用するには、以下のタスクを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">- Hive クライアントおよび Informatica Services が同じマシンにインストールされていることを確認します。- Hive 接続プロパティを設定し、Hadoop クラスタ内でマッピングを実行します。 <p>非組み込みモードを選択する場合は、データアクセス接続文字列を設定する必要があります。</p> <p>非組み込みモードよりも JDBC 組み込みモードを推奨します。</p>
<code>connectString</code>	<p>Hadoop データストアからデータにアクセスする場合に使用する接続文字列。非組み込み JDBC モードの接続文字列は、以下の形式で指定する必要があります。</p> <p><code>jdbc:hive://<hostname>:<port>/<db></code></p> <p>説明</p> <ul style="list-style-type: none">- <code>hostname</code> は、Hive サーバーが実行されているマシンの名前または IP アドレスです。- <code>port</code> は、Hive サーバーがリスンしているポートです。デフォルトは 10000 です。- <code>db</code> は、接続するデータベースです。データベースの詳細を指定しない場合は、Data Integration Service では、デフォルトのデータベースの詳細が使用されます。

Hadoop クラスタでマッピングを実行するためのプロパティ

以下の表に、`infacmd isp CreateConnection` および `UpdateConnection` コマンドに対する必須オプションを示します。これらのオプションは、Hive 接続を使用して Hadoop クラスタ内で Informatica マッピングを実行する場合に設定します。

プロパティ	説明
databaseName	テーブルの名前空間。指定したデータベース名のないテーブルには、 <code>default</code> の名前を使用します。
defaultFSURI	デフォルトの Hadoop 分散ファイルシステムにアクセスするための URI。 FS の URI は、以下の形式で指定する必要があります。 <code>hdfs://<node name>:<port></code> 説明 - <code>node name</code> は、NameNode のホスト名または IP アドレスです。 - <code>port</code> は、NameNode がリモートプロシージャ呼び出し (RPC) をリスンするポートです。
jobTrackerURI	MapReduce タスクをクラスタ内の特定のノードにサブミットする Hadoop 内のサービス。 JobTracker の URI は、以下の形式で指定する必要があります。 <code><jobtrackername>:<port></code> 説明 - <code>jobtrackername</code> は、JobTracker のホスト名または IP アドレスです。 - <code>port</code> は、JobTracker がリモートプロシージャ呼び出し (RPC) をリスンするポートです。
hiveWarehouseDirectoryOnHDFS	ウェアハウスに対するデフォルトデータベースの HDFS ファイルの絶対パス。このパスはクラスタに対してローカルです。たとえば、以下のファイルパスでローカルウェアハウスを指定します。 <code>/user/hive/warehouse</code>
metastoreExecutionMode	リモートメタストアまたはローカルメタストアのどちらに接続するかを制御します。ローカルメタストアの場合、メタストアデータベースの URI、ドライバ、ユーザー名、パスワードを指定する必要があります。リモートメタストアの場合、指定する必要があるのは、リモートメタストアの URI だけです。
metastoreDatabaseURI	ローカルメタストアのセットアップ時にデータストアへのアクセスに使用する、JDBC 接続 URI。URI は、以下の形式で指定する必要があります。 <code>jdbc:<datastore type>://<node name>:<port>/<database name></code> 説明 - <code>node name</code> は、データストアのホスト名または IP アドレスです。 - <code>data store type</code> は、データストアのタイプです。 - <code>port</code> は、データストアがリモートプロシージャ呼び出し (RPC) をリスンするポートです。 - <code>database name</code> は、データベースの名前です。 たとえば、以下の URI では、MySQL をデータストアとして使用するローカルメタストアを指定します。 <code>jdbc:mysql://hostname23:3306/metastore</code>
metastoreDatabaseDriver	DBC データストアのドライバクラス名。たとえば、以下のクラス名で MySQL ドライバを指定します。 <code>com.mysql.jdbc.Driver</code>

プロパティ	説明
metastoreDatabaseUserName	メタストアデータベースユーザー名。
metastoreDatabasePassword	メタストアユーザー名のパスワード。
remoteMetastoreURI	<p>リモートメタストアのセットアップ時にメタデータへのアクセスに使用する、メタストア URI。リモートメタストアの場合、Thrift サーバーの詳細を指定する必要があります。</p> <p>URI は、以下の形式で指定する必要があります。 thrift://<hostname>:<port></p> <p>説明</p> <ul style="list-style-type: none"> - hostname は、Thrift メタストアサーバーの名前または IP アドレスです。 - port は、Thrift サーバーがリスンしているポートです。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

DB2 for z/OS 接続オプション

DB2Z 接続オプションを使用して、IBM for DB2 z/OS 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

オプションが複数ある場合はスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、infacmd isp CreateConnection および UpdateConnection コマンド用の DB2Z 接続オプションを示します。

オプション	説明
DataSourceConnectString	データベースからデータにアクセスするために使用した接続文字列。 <database name>
EnvironmentSQL	オプション。データベースに接続する場合に、データベース環境を設定する SQL コマンド。データ統合サービスは、データベースに接続するたびに、接続環境 SQL を実行します。 注: 特殊文字を二重引用符で囲みます。
CodePage	必須。ソースデータベースからの読み取りや、ターゲットデータベースまたはファイルへの書き込みに使用されるコードページ。
ArraySize	オプション。ワーカースレッドの値が 0 より大きい場合、スレッド用のストレージ配列内のレコードの数を決定します。有効な値は、1~100000 です。デフォルトは 25 です。
圧縮	オプション。データを圧縮し、ネットワーク上で書き込まれるデータの量を減らします。デフォルトは False です。
CorrelationID	オプション。DB2 for z/OS でリソースを識別可能にするために DB2 タスクまたはクエリに適用されるラベル。最大 8 バイトの英数字を入力します。
EncryptionLevel	オプション。RC2 または DES に対する暗号化レベル (暗号化タイプ別)。暗号化レベルに応じて、次のいずれかの値を入力します。 - 1. DES および RC2 には 56 ビットの暗号化キーを使用します。 - 2. DES に 168 ビットトリプル DES 暗号化キーを使用し、RC2 に 64 ビット暗号化キーを使用します。 - 3. DES に 168 ビットトリプル DES 暗号化キーを使用し、RC2 に 128 ビット暗号化キーを使用します。 デフォルトは 1 です。 注: 暗号化タイプに「なし」を選択した場合、データ統合サービスでは暗号化レベルの値を無視します。
EncryptionType	オプション。暗号化のタイプ。暗号化タイプに応じて、次のいずれかの値を入力します。 - なし - RC2 - DES デフォルトは [なし] です。
InterpretAsRows	オプション。パーシングサイズを行数で表します。False の場合、パーシングサイズはキロバイトを表します。デフォルトは False です。

オプション	説明
Location	データベースに接続できる PowerExchange Listener ノードの場所。ノードは、PowerExchange dbmover.cfg コンフィギュレーションファイルで定義されます。
OffloadProcessing	オプション。VSAM ソースからバルクデータ処理をデータ統合サービスマシンに移動します。 次のいずれかの値を入力します。 - Auto。オフロード処理を使用するかどうかデータ統合サービスによって決定されます。 - Yes。オフロード処理を使用します。 - No。オフロード処理は使用しません。 デフォルトは Auto です。
PacingSize	オプション。ソースシステムが PowerExchange Listener に渡すことができるデータ量。外部アプリケーション、データベース、またはデータ統合サービスノードがボトルネックになっている場合は、ペーシングサイズを設定します。値が小さいほど、パフォーマンスは向上します。 最小値は 0 です。最大のパフォーマンスを得るためには、「0」を入力します。デフォルトは 0 です。
RejectFile	オプション。拒否ファイル名およびパスを入力します。拒否ファイルには、データベースに書き込まれなかった行が含まれています。
WorkerThread	オプション。オフロード処理が有効なときにデータ統合サービスがバルクデータを処理するために使用するスレッドの数。最適なパフォーマンスを得るためには、データ統合サービスのマシンで使用可能なプロセッサの数を超えないように、この値を設定します。有効な値は 1~64 です。デフォルトは 0 です。このとき、マルチスレッド処理は無効になります。
WriteMode	次のうちいずれかの書き込みモードを入力します。 - CONFIRMWRITEON。PowerExchange Listener にデータを送信し、成功/失敗の応答を待ってから、さらにデータを送信します。 - CONFIRMWRITEOFF。成功/失敗の応答を待たずに、PowerExchange Listener にデータを送信します。エラーが発生した際、ターゲットテーブルをリロードできる場合に、このオプションを使用します。 - ASYNCHRONOUSWITHFAULTT。エラー検出機能で、PowerExchange Listener にデータを非同期的に送信します。 デフォルトは CONFIRMWRITEON です。
EnableConnectionPool	オプション。データをバルクモードでテーブルにロードする場合の並列処理を可能にします。Oracle で使用されます。True または False。デフォルトは True です。
ConnectionPoolSize	オプション。データベース接続のためにデータ統合サービスが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最大数です。この値をアイドル状態の接続インスタンスの最小数以上で設定します。
ConnectionPoolMaxIdleTime	オプション。接続プールが接続を削除する前に、接続インスタンスの最小数を超える接続がアイドル状態を保持できる秒数。接続プールは、接続プールがアイドル状態の接続インスタンスの最小数を超えない場合、アイドル時間を無視します。
ConnectionPoolMinConnections	オプション。データベース接続のためにプールが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最小数。アイドル状態の接続プールのサイズと等しい値、または接続プールのサイズ以下の値で設定します。デフォルトは 0 です。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

IBM DB2 接続オプション

接続オプションを使用して、IBM DB2 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

オプションが複数ある場合はスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、infacmd isp CreateConnection および UpdateConnection コマンド用の IBM DB2 接続オプションを示します。

オプション	説明
PassThruEnabled	オプション。接続のパススルーセキュリティを有効にします。接続のパススルーセキュリティを有効にすると、ドメインは、接続オブジェクトに定義されている資格情報ではなく、クライアントのユーザー名とパスワードを使用して対応するデータベースにログインします。
MetadataAccessConnectString	データベースからメタデータにアクセスするために使用した JDBC 接続 URL。 jdbc:informatica:db2://<host name>:<port>;DatabaseName=<database name>
AdvancedJDBCSecurityOptions	<p>オプション。セキュアデータベースへのメタデータアクセスのためのデータベースパラメータ。Informatica は、AdvancedJDBCSecurityOptions フィールドの値を機密データとして扱い、パラメータ文字列を暗号化します。</p> <p>セキュアデータベースに接続するには、以下のパラメータを含めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - EncryptionMethod。必須。ネットワーク上で送信される際にデータが暗号化されるかどうかを示します。このパラメータは SSL に設定する必要があります。 - ValidateServerCertificate。オプション。データベースサーバーによって送信される証明書を Informatica が検証するかどうかを示します。 このパラメータを True に設定すると、Informatica はデータベースサーバーによって送信される証明書を検証します。HostNameInCertificate パラメータを指定すると、Informatica は証明書内のホスト名も検証します。 このパラメータを false に設定すると、Informatica はデータベースサーバーによって送信される証明書を検証しません。指定するトラストストア情報がすべて無視されます。 - HostNameInCertificate。オプション。セキュアデータベースをホストするマシンのホスト名。ホスト名を指定すると、Informatica は接続文字列に含められたそのホスト名を SSL 証明書内のホスト名と照らして検証します。 - TrustStore。必須。データベースの SSL 証明書が含まれるトラストストアファイルのパスとファイル名。 - TrustStorePassword。必須。セキュアデータのトラストストアファイルのパスワード。 <p>注: セキュア JDBC パラメータの完全なリストは、DataDirect JDBC のマニュアルを参照してください。</p> <p>Informatica は、セキュア JDBC パラメータを接続文字列に付加します。セキュア JDBC パラメータを接続文字列に直接含める場合は、AdvancedJDBCSecurityOptions フィールドにはパラメータを入力しないでください。</p>
DataAccessConnectString	データベースからデータにアクセスするために使用した接続文字列。 接続文字列は以下の書式で入力します。 <database name>
CodePage	必須。ソースデータベースからの読み取りや、ターゲットデータベースへの書き込みに使用されるコードページ。
EnvironmentSQL	<p>オプション。データベースに接続する場合に、データベース環境を設定する SQL コマンド。データ統合サービスは、データベースに接続するたびに、接続環境 SQL を実行します。</p> <p>例: ALTER SESSION SET CURRENT_SCHEMA=INFA_USR;</p> <p>注: 特殊文字を二重引用符で囲みます。</p>

オプション	説明
TransactionSQL	オプション。各トランザクションの前に実行する SQL コマンド。データ統合サービスにより、トランザクション SQL が各トランザクションの開始時に実行されます。 例: SET TRANSACTION ISOLATION LEVEL SERIALIZABLE; 注: 特殊文字を二重引用符で囲みます。
テーブルスペース	オプション。データベースのテーブルスペース名。
QuoteChar	オプション。この接続で引用に使用する文字。 特殊文字と SQL の予約済み SQL キーワード (WHERE など) の識別に使用される文字のタイプ。データ統合サービスは特殊文字と予約済み SQL キーワードを選択した文字で囲みます。データ統合サービスはこの文字を、QuoteChar プロパティにも使用します。デフォルトは 0 です。
EnableQuotes	オプション。この接続で引用符を有効にするかどうかを選択します。 有効にすると、接続内でテーブル、ビュー、スキーマ、シノニム、およびカラムに対して SQL を生成および実行するときに、データ統合サービスはこれらのオブジェクトの名前を識別子文字で囲みます。オブジェクト名が、大文字と小文字が混在している場合または小文字の場合に使用します。有効な値は True または False です。デフォルトは True です。
EnableConnectionPool	オプション。接続プールを有効にする。接続プールを有効にした場合、接続プールはメモリ内にアイドル状態の接続インスタンスを保持します。接続プールを無効にした場合、データ統合サービスはすべてのプールアクティビティを停止します。有効な値は True または False です。デフォルトは True です。
ConnectionPoolSize	オプション。データベース接続のためにデータ統合サービスが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最大数です。この値をアイドル状態の接続インスタンスの最小数以上で設定します。デフォルトは 15 です。
ConnectionPoolMaxIdleTime	オプション。接続プールが接続を削除する前に、接続インスタンスの最小数を超える接続がアイドル状態を保持できる秒数。接続プールは、接続プールがアイドル状態の接続インスタンスの最小数を超えない場合、アイドル時間を無視します。デフォルトは 120 です。
ConnectionPoolMinConnections	オプション。データベース接続のためにプールが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最小数。アイドル状態の接続プールのサイズと等しい値、または接続プールのサイズ以下の値で設定します。デフォルトは 0 です。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)

- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

IMS 接続オプション

接続オプションを使用して、IMS 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、IMS 接続オプションを示します。

オプション	説明
CodePage	必須。データベースからの読み込みまたはデータベースへの書き込みを行うためのコード。ISO コードページ名 (ISO-8859-6 など) を使用します。コードページ名では大文字と小文字が区別されません。
ArraySize	オプション。ワーカースレッドの値が 0 より大きい場合、スレッド用のストレージ配列内のレコードの数を決定します。有効な値は、1~100000 です。デフォルトは 25 です。
Compression	オプション。データを圧縮し、ネットワーク上で Informatica アプリケーションが書き込むデータ量を減らします。True または False。デフォルトは False です。

オプション	説明
EncryptionLevel	<p>オプション。RC2 または DES に対する暗号化レベル（暗号化タイプ別）。暗号化レベルに応じて、次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1. DES および RC2 には 56 ビットの暗号化キーを使用します。 - 2. DES に 168 ビットトリプル DES 暗号化キーを使用し、RC2 に 64 ビット暗号化キーを使用します。 - 3. DES に 168 ビットトリプル DES 暗号化キーを使用し、RC2 に 128 ビット暗号化キーを使用します。 <p>デフォルトは 1 です。</p> <p>注: 暗号化タイプに「なし」を選択した場合、Data Integration Service では暗号化レベルの値を無視します。</p>
EncryptionType	<p>オプション。暗号化タイプに応じて、次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - なし - RC2 - DES <p>デフォルトは [なし] です。</p>
InterpretAsRows	<p>オプション。True の場合、ペーシングサイズの値は行数を表します。False の場合、ペーシングサイズはキロバイトを表します。デフォルトは False です。</p>
Location	<p>データベースに接続できる PowerExchange Listener ノードの場所。場所は、PowerExchange dbmover.cfg コンフィギュレーションファイル内の NODE 文の最初のパラメータで定義されます。</p>
OffLoadProcessing	<p>オプション。ソースマシンからバルクデータ処理を Data Integration Service マシンに移動します。</p> <p>次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Auto。オフロード処理を使用するかどうか Data Integration Service によって決定されます。 - Yes。オフロード処理を使用します。 - No。オフロード処理は使用しません。 <p>デフォルトは Auto です。</p>
PacingSize	<p>オプション。データ転送率を低くして、ボトルネックを減らします。値が小さいほど、セッションパフォーマンスが向上します。最小値は 0 です。最大のパフォーマンスを得るためには、「0」を入力します。デフォルトは 0 です。</p>
WorkerThread	<p>オプション。オフロード処理の有効時に Data Integration Services がバルクデータを処理するために使用するスレッドの数。最適なパフォーマンスを得るためには、Data Integration Service マシンで使用可能なプロセッサの数を超えないようにこの値を設定します。有効な値は 1~64 です。デフォルトは 0 です。このとき、マルチスレッド処理は無効になります。</p>
WriteMode	<p>次のうちいずれかの書き込みモードを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - CONFIRMWRITEON。PowerExchange Listener にデータを送信し、成功/失敗の応答を待ってから、さらにデータを送信します。 - CONFIRMWRITEOFF。成功/失敗の応答を待たずに、PowerExchange Listener にデータを送信します。エラーが発生した際、ターゲットテーブルをリロードできる場合に、このオプションを使用します。 - ASYNCHRONOUSWITHFAULTT。エラー検出機能で、PowerExchange Listener にデータを非同期的に送信します。 <p>デフォルトは CONFIRMWRITEON です。</p>

オプション	説明
EnableConnectionPool	オプション。接続プールを有効にする。接続プールを有効にした場合、接続プールはメモリ内にアイドル状態の接続インスタンスを保持します。接続プールを無効にした場合、Data Integration Service はすべてのプールアクティビティを停止します。True または False。デフォルトは False です。
ConnectionPoolSize	オプション。データベース接続のために Data Integration Service が保持するアイドル状態の接続インスタンスの最大数です。この値をアイドル状態の接続インスタンスの最小数以上で設定します。デフォルトは 15 です。
ConnectionPoolMaxIdleTime	オプション。接続プールが接続を削除する前に、接続インスタンスの最小数を超える接続がアイドル状態を保持できる秒数。接続プールは、接続プールがアイドル状態の接続インスタンスの最小数を超えない場合、アイドル時間を無視します。デフォルトは 120 です。
ConnectionPoolMinConnections	オプション。データベース接続のためにプールが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最小数。アイドル状態の接続プールのサイズと等しい値、または接続プールのサイズ以下の値で設定します。デフォルトは 0 です。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)

- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

JDBC 接続オプション

接続オプションを使用して、JDBC 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力する場合は、個々のオプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、`infacmd isp CreateConnection` および `UpdateConnection` コマンド用の JDBC 接続オプションを示します。

オプション	説明
JDBCClassName	<p>データベースへの接続に使用する Java クラス。</p> <p>以下のリストに、該当するデータベースタイプに入力できるドライバクラス名を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Oracle 用 DataDirect JDBC ドライバクラス名: <code>com.informatica.jdbc.oracle.OracleDriver</code> - IBM DB2 用 DataDirect JDBC ドライバクラス名: <code>com.informatica.jdbc.db2.DB2Driver</code> - Microsoft SQL Server 用 DataDirect JDBC ドライバクラス名: <code>com.informatica.jdbc.sqlserver.SQLServerDriver</code> - Sybase ASE 用 DataDirect JDBC ドライバクラス名: <code>com.informatica.jdbc.sybase.SybaseDriver</code> - Informix 用 DataDirect JDBC ドライバクラス名: <code>com.informatica.jdbc.informix.InformixDriver</code> - MySQL 用 DataDirect JDBC ドライバクラス名: <code>com.informatica.jdbc.mysql.MySQLDriver</code> <p>特定のデータベースで使用するドライバクラスの詳細については、ベンダ提供のドキュメントを参照してください。</p>
MetadataConnString	<p>データベースへの接続に使用する URL。</p> <p>以下のリストに、該当するデータベースタイプに入力できる接続文字列を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Oracle 用 DataDirect JDBC ドライバ: <code>jdbc:informatica:oracle://<hostname>:<port>;SID=<sid></code> - IBM DB2 用 DataDirect JDBC ドライバ: <code>jdbc:informatica:db2://<hostname>:<port>;DatabaseName=<database name></code> - Microsoft SQL Server 用 DataDirect JDBC ドライバ: <code>jdbc:informatica:sqlserver://<host>:<port>;DatabaseName=<database name></code> - Sybase ASE 用 DataDirect JDBC ドライバ: <code>jdbc:informatica:sybase://<host>:<port>;DatabaseName=<database name></code> - Informix 用 DataDirect JDBC ドライバ: <code>jdbc:informatica:informix://<host>:<port>;informixServer=<informix server name>;databaseName=<dbName></code> - MySQL 用 DataDirect JDBC ドライバ: <code>jdbc:informatica:mysql://<host>:<port>;DatabaseName=<database name></code> <p>特定のデータベースに使用する接続文字列の詳細については、ベンダ提供のドキュメントで「URL 構文」を参照してください。</p>

オプション	説明
EnvironmentSQL	<p>オプション。データベースに接続する場合に、データベース環境を設定する SQL コマンド。データ統合サービスは、データベースに接続するたびに、接続環境 SQL を実行します。</p> <p>例: ALTER SESSION SET CURRENT_SCHEMA=INFA_USR; 注: 特殊文字は二重引用符で囲みます。</p>
TransactionSQL	<p>オプション。各トランザクションの前に実行する SQL コマンド。データ統合サービスにより、トランザクション SQL が各トランザクションの開始時に実行されます。</p> <p>例: SET TRANSACTION ISOLATION LEVEL SERIALIZABLE; 注: 特殊文字を二重引用符で囲みます。</p>
QuoteChar	<p>オプション。この接続で引用に使用する文字。</p> <p>特殊文字と SQL の予約済み SQL キーワード (WHERE など) の識別に使用される文字のタイプ。データ統合サービスは特殊文字と予約済み SQL キーワードを選択した文字で囲みます。データ統合サービスはこの文字を、QuoteChar プロパティにも使用します。デフォルトは DOUBLE_QUOTE です。</p>
EnableQuotes	<p>オプション。この接続で引用符を有効にするかどうかを選択します。</p> <p>有効にすると、接続内でテーブル、ビュー、スキーマ、シノニム、およびカラムに対して SQL を生成および実行するときに、データ統合サービスはこれらのオブジェクトの名前を識別子文字で囲みます。オブジェクト名が、大文字と小文字が混在している場合または小文字の場合に使用します。有効な値は True または False です。デフォルトは True です。</p>

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)

- [「Salesforce 接続オプション」](#) (ページ 295)
- [「SAP 接続オプション」](#) (ページ 296)
- [「シーケンシャル接続オプション」](#) (ページ 297)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」](#) (ページ 300)
- [「Twitter 接続オプション」](#) (ページ 302)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」](#) (ページ 303)
- [「VSAM 接続オプション」](#) (ページ 304)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」](#) (ページ 307)

LinkedIn 接続オプション

接続オプションを使用して、LinkedIn 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、`infacmd isp CreateConnection` および `UpdateConnection` コマンド用の LinkedIn 接続オプションを示します。

オプション	説明
ConsumerKey	LinkedIn でアプリケーションを作成するときに取得する API キー。LinkedIn はこのキーを使用してアプリケーションを識別します。
ConsumerSecret	LinkedIn でアプリケーションを作成するときに取得するシークレットキー。LinkedIn はこのシークレットを使用してコンシューマキーの所有権を確立します。
AccessToken	OAuth Utility から返されるアクセストークン。LinkedIn アプリケーションはユーザークレデンシャルの代わりにこのトークンを使用して、保護されたリソースにアクセスします。
AccessSecret	OAuth Utility が返すアクセスシークレット。このシークレットがトークンの所有権を確立します。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」](#) (ページ 249)
- [「DataSift 接続オプション」](#) (ページ 251)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」](#) (ページ 252)
- [「Facebook 接続オプション」](#) (ページ 255)
- [「Greenplum 接続オプション」](#) (ページ 257)
- [「HBase 接続のオプション」](#) (ページ 258)
- [「HDFS 接続オプション」](#) (ページ 260)
- [「Hadoop 接続オプション」](#) (ページ 261)
- [「Hive 接続オプション」](#) (ページ 268)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」](#) (ページ 273)

- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

Microsoft SQL Server 接続オプション

接続オプションを使用して、Microsoft SQL Server 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、infacmd isp CreateConnection または UpdateConnection 用の Microsoft SQL Server 接続オプションを示します。

オプション	説明
UseTrustedConnection	オプション。統合サービスは Windows 認証を使用して、Microsoft SQL Server データベースにアクセスします。統合サービスを起動するユーザー名は、MS SQL Server データベースへのアクセス権限を持つ、有効な Windows ユーザーでなければなりません。true または false。デフォルトは false です。
PassThruEnabled	オプション。接続のパススルーセキュリティを有効にする。接続のパススルーセキュリティを有効にすると、ドメインは、接続オブジェクトに定義されている資格情報ではなく、クライアントのユーザー名とパスワードを使用して対応するデータベースにログインします。
MetadataAccessConnectString	データベースからメタデータにアクセスするための JDBC 接続 URL。 jdbc:informatica:sqlserver://<host name>:<port>;DatabaseName=<database name>

オプション	説明
AdvancedJDBCSecurityOptions	<p>オプション。セキュアデータベースへのメタデータアクセスのためのデータベースパラメータ。Informatica は、AdvancedJDBCSecurityOptions フィールドの値を機密データとして扱い、パラメータ文字列を暗号化します。</p> <p>セキュアデータベースに接続するには、以下のパラメータを含めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - EncryptionMethod。必須。ネットワーク上で送信される際にデータが暗号化されるかどうかを示します。このパラメータは SSL に設定する必要があります。 - ValidateServerCertificate。オプション。データベースサーバーによって送信される証明書を Informatica が検証するかどうかを示します。 このパラメータを True に設定すると、Informatica はデータベースサーバーによって送信される証明書を検証します。HostNameInCertificate パラメータを指定すると、Informatica は証明書内のホスト名も検証します。 このパラメータを false に設定すると、Informatica はデータベースサーバーによって送信される証明書を検証しません。指定するトラストストア情報がすべて無視されます。 - HostNameInCertificate。オプション。セキュアデータベースをホストするマシンのホスト名。ホスト名を指定すると、Informatica は接続文字列に含まれたそのホスト名を SSL 証明書内のホスト名と照らして検証します。 - TrustStore。必須。データベースの SSL 証明書が含まれるトラストストアファイルのパスとファイル名。 - TrustStorePassword。必須。セキュアデータベースのトラストストアファイルのパスワード。 <p>注: セキュア JDBC パラメータの完全なリストは、DataDirect JDBC のマニュアルを参照してください。</p> <p>Informatica により、接続文字列にセキュア JDBC パラメータが追加されます。セキュア JDBC パラメータを接続文字列に直接含める場合は、AdvancedJDBCSecurityOptions フィールドにはパラメータを入力しないでください。</p>
DataAccessConnectionString	<p>必須。データベースからデータにアクセスするために使用する接続文字列。接続文字列は以下の書式で入力します。</p> <p><server name>@<database name></p>
DomainName	<p>オプション。Microsoft SQL Server が実行されているドメインの名前。</p>
PacketSize	<p>オプション。ネットワークパケットのサイズを拡張して、大きなデータパケットが一度にネットワークを流れるようにします。</p>
CodePage	<p>必須。データベースからの読み込みまたはデータベースへの書き込みを行うためのコード。ISO コードページ名 (ISO-8859-6 など) を使用します。コードページ名では大文字と小文字が区別されません。</p>
OwnerName	<p>オプション。テーブルオーナー名。</p>
SchemaName	<p>オプション。データベースのスキーマの名前。スキーマ名がデータベースユーザー名と異なる場合は、プロファイリングウェアハウスのスキーマ名を指定する必要があります。スキーマ名がデータベースのユーザー名と異なり、ユーザーが管理するキャッシュテーブルを設定する場合は、データオブジェクトキャッシュデータベースのスキーマ名を指定する必要があります。</p>

オプション	説明
EnvironmentSQL	オプション。データベースに接続する場合に、データベース環境を設定する SQL コマンド。データ統合サービスは、データベースに接続するたびに、接続環境 SQL を実行します。 例: ALTER SESSION SET CURRENT_SCHEMA=INFA_USR; 注: 特殊文字を二重引用符で囲みます。
TransactionSQL	オプション。各トランザクションの前に実行する SQL コマンド。データ統合サービスにより、トランザクション SQL が各トランザクションの開始時に実行されます。 例: SET TRANSACTION ISOLATION LEVEL SERIALIZABLE; 注: 特殊文字を二重引用符で囲みます。
QuoteChar	オプション。この接続で引用に使用する文字。 特殊文字と SQL の予約済み SQL キーワード (WHERE など) の識別に使用される文字のタイプ。データ統合サービスは特殊文字と予約済み SQL キーワードを選択した文字で囲みます。データ統合サービスはこの文字を、QuoteChar プロパティにも使用します。デフォルトは 0 です。
EnableQuotes	オプション。この接続で引用符を有効にするかどうかを選択します。 有効にすると、接続内でテーブル、ビュー、スキーマ、シノニム、およびカラムに対して SQL を生成および実行するときに、データ統合サービスはこれらのオブジェクトの名前を識別子文字で囲みます。オブジェクト名が、大文字と小文字が混在している場合または小文字の場合に使用します。有効な値は True または False です。デフォルトは True です。
EnableConnectionPool	オプション。接続プールを有効にします。接続プールを有効にした場合、接続プールはメモリ内にアイドル状態の接続インスタンスを保持します。接続プールを無効にした場合、データ統合サービスがすべてのプールアクティビティを停止します。有効な値は True または False です。デフォルトは True です。
ConnectionPoolSize	オプション。データベース接続のためにデータ統合サービスが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最大数です。アイドル状態の接続インスタンスの最小数より大きな値を設定します。デフォルトは 15 です。
ConnectionPoolMaxIdleTime	オプション。接続インスタンスの最小数を超えたアイドル状態の接続が削除されるまでの秒数。接続プールは、接続プールがアイドル状態の接続インスタンスの最小数を超えない場合、アイドル時間を無視します。デフォルトは 120 です。
ConnectionPoolMinConnections	オプション。データベース接続に対してプールが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最小数。アイドル状態の接続プールのサイズ以下の値で設定します。デフォルトは 0 です。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)

- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

Netezza 接続オプション

接続オプションを使用して、Netezza 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、infacmd isp CreateConnection および UpdateConnection コマンド用の Netezza 接続オプションを示します。

オプション	説明
connectionString	必須。Netezza データベースへの接続のために作成する ODBC データソースの名前。
jdbcUrl	必須。Netezza データベースへの接続時に Developer tool で使用する必要がある JDBC URL。次の形式を使用します。 jdbc:netezza://<ホスト名>:<ポート>/<データベース名>
username	必須。Netezza データベースにアクセスするための適切な権限を持つユーザー名。
password	必須。上記データベースユーザー名のパスワード。
timeout	必須。Developer tool が接続を閉じる前に Netezza データベースからの応答を待機する秒数。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)

- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

OData 接続オプション

接続オプションを使用して、OData 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

... -o option_name=value option_name=value ...

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、infacmd isp CreateConnection および UpdateConnection コマンド用の OData 接続オプションを示します。

プロパティ	説明
URL	必須。読み取る必要があるデータを公開している OData サービスのルート URL。
securityType	オプション。OData サーバーへの安全な接続を確立するために Developer tool で使用する必要があるセキュリティプロトコル。 次のいずれかの値を入力します。 - なし - SSL - TLS
trustStoreFileName	セキュリティタイプを入力する場合、必須です。 OData サーバーの公開証明書が含まれるトラストストアファイルの名前。
trustStorePassword	セキュリティタイプを入力する場合、必須です。 OData サーバーの公開証明書が含まれるトラストストアファイルのパスワード。
keyStoreFileName	セキュリティタイプを入力する場合、必須です。 OData サーバーのプライベートキーが含まれるキーストアファイルの名前。
keyStorePassword	セキュリティタイプを入力する場合、必須です。 OData サーバーのプライベートキーが含まれるキーストアファイルのパスワード。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)

- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

ODBC 接続オプション

接続オプションを使用して、ODBC 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、infacmd isp CreateConnection および UpdateConnection コマンド用の ODBC 接続オプションを示します。

オプション	説明
PassThruEnabled	オプション。接続のパススルーセキュリティを有効にします。接続のパススルーセキュリティを有効にすると、ドメインは、接続オブジェクトに定義されている資格情報ではなく、クライアントのユーザー名とパスワードを使用して対応するデータベースにログインします。
DataAccessConnectionString	データベースからデータにアクセスするために使用した接続文字列。 接続文字列は以下の書式で入力します。 <database name>
CodePage	必須。ソースデータベースからの読み取りや、ターゲットデータベースまたはファイルへの書き込みに使用されるコードページ。
EnvironmentSQL	オプション。データベースに接続する場合に、データベース環境を設定する SQL コマンド。データ統合サービスは、データベースに接続するたびに、接続環境 SQL を実行します。 例: ALTER SESSION SET CURRENT_SCHEMA=INFA_USR; 注: 特殊文字を二重引用符で囲みます。
TransactionSQL	オプション。各トランザクションの前に実行する SQL コマンド。データ統合サービスにより、トランザクション SQL が各トランザクションの開始時に実行されます。 例: SET TRANSACTION ISOLATION LEVEL SERIALIZABLE; 注: 特殊文字を二重引用符で囲みます。
QuoteChar	オプション。この接続で引用に使用する文字。 特殊文字と SQL の予約済み SQL キーワード (WHERE など) の識別に使用される文字のタイプ。データ統合サービスは特殊文字と予約済み SQL キーワードを選択した文字で囲みます。データ統合サービスはこの文字を、QuoteChar プロパティにも使用します。デフォルトは 4 です。

オプション	説明
ODBC プロバイダ	<p>オプション。データ統合サービスが ODBC を使用して接続するデータベースのタイプ。プッシュダウンの最適化用に、データベースタイプを指定して、データ統合サービスでネイティブデータベース SQL を生成できるようにします。次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - その他 - Sybase - Microsoft_SQL_Server - Teradata - Netezza - Greenplum <p>デフォルトは [その他] です。</p>
EnableQuotes	<p>オプション。この接続で引用符を有効にするかどうかを選択します。</p> <p>有効にすると、接続内でテーブル、ビュー、スキーマ、シノニム、およびカラムに対して SQL を生成および実行するときに、データ統合サービスはこれらのオブジェクトの名前を識別子文字で囲みます。オブジェクト名が、大文字と小文字が混在している場合または小文字の場合に使用します。有効な値は True または False です。デフォルトは False です。</p>
EnableConnectionPool	<p>オプション。接続プールを有効にする。接続プールを有効にした場合、接続プールはメモリ内にアイドル状態の接続インスタンスを保持します。接続プールを無効にした場合、データ統合サービスはすべてのプールアクティビティを停止します。有効な値は True または False です。デフォルトは True です。</p>
ConnectionPoolSize	<p>オプション。データベース接続のためにデータ統合サービスが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最大数です。この値をアイドル状態の接続インスタンスの最小数以上で設定します。デフォルトは 15 です。</p>
ConnectionPoolMaxIdleTime	<p>オプション。接続プールが接続を削除する前に、接続インスタンスの最小数を超える接続がアイドル状態を保持できる秒数。接続プールは、接続プールがアイドル状態の接続インスタンスの最小数を超えない場合、アイドル時間を無視します。デフォルトは 120 です。</p>
ConnectionPoolMinConnections	<p>オプション。データベース接続のためにプールが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最小数。アイドル状態の接続プールのサイズと等しい値、または接続プールのサイズ以下の値で設定します。デフォルトは 0 です。</p>

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)

- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

Oracle 接続オプション

接続オプションを使用して、Oracle 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、`infacmd isp CreateConnection` および `UpdateConnection` コマンド用の Oracle 接続オプションを示します。

オプション	説明
PassThruEnabled	オプション。接続のパススルーセキュリティを有効にします。接続のパススルーセキュリティを有効にすると、ドメインは、接続オブジェクトに定義されている資格情報ではなく、クライアントのユーザー名とパスワードを使用して対応するデータベースにログインします。
MetadataAccessConnectionString	データベースからメタデータにアクセスするために使用した JDBC 接続 URL。 jdbc:informatica:oracle://<host_name>:<port>;SID=<database name>

オプション	説明
AdvancedJDBCSecurityOptions	<p>オプション。セキュアデータベースへのメタデータアクセスのためのデータベースパラメータ。Informatica は、AdvancedJDBCSecurityOptions フィールドの値を機密データとして扱い、パラメータ文字列を暗号化します。</p> <p>セキュアデータベースに接続するには、以下のパラメータを含めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - EncryptionMethod。必須。ネットワーク上で送信される際にデータが暗号化されるかどうかを示します。このパラメータは SSL に設定する必要があります。 - ValidateServerCertificate。オプション。データベースサーバーによって送信される証明書を Informatica が検証するかどうかを示します。このパラメータを True に設定すると、Informatica はデータベースサーバーによって送信される証明書を検証します。HostNamelnCertificate パラメータを指定すると、Informatica は証明書内のホスト名も検証します。このパラメータを false に設定すると、Informatica はデータベースサーバーによって送信される証明書を検証しません。指定するトラストストア情報がすべて無視されます。 - HostNamelnCertificate。オプション。セキュアデータベースをホストするマシンのホスト名。ホスト名を指定すると、Informatica は接続文字列に含められたそのホスト名を SSL 証明書内のホスト名と照らして検証します。 - TrustStore。必須。データベースの SSL 証明書が含まれるトラストストアファイルのパスとファイル名。 - TrustStorePassword。必須。セキュアデータのトラストストアファイルのパスワード。 <p>注: セキュア JDBC パラメータの完全なリストは、DataDirect JDBC のマニュアルを参照してください。</p> <p>Informatica により、接続文字列にセキュア JDBC パラメータが追加されます。セキュア JDBC パラメータを接続文字列に直接含める場合は、AdvancedJDBCSecurityOptions フィールドにはパラメータを入力しないでください。</p>
DataAccessConnectionString	<p>データベースからデータにアクセスするために使用した接続文字列。接続文字列は、TNSNAMES エントリから以下の書式で入力します。</p> <p><database name></p>
CodePage	<p>必須。ソースデータベースからの読み取りや、ターゲットデータベースまたはファイルへの書き込みに使用されるコードページ。</p>
EnvironmentSQL	<p>オプション。データベースに接続する場合に、データベース環境を設定する SQL コマンド。データ統合サービスは、データベースに接続するたびに、接続環境 SQL を実行します。</p> <p>例: ALTER SESSION SET CURRENT_SCHEMA=INFA_USR;</p> <p>注: 特殊文字を二重引用符で囲みます。</p>
TransactionSQL	<p>オプション。各トランザクションの前に実行する SQL コマンド。データ統合サービスにより、トランザクション SQL が各トランザクションの開始時に実行されます。</p> <p>例: SET TRANSACTION ISOLATION LEVEL SERIALIZABLE;</p> <p>注: 特殊文字を二重引用符で囲みます。</p>
EnableParallelMode	<p>オプション。データをバルクモードでテーブルにロードする場合の並列処理を可能にします。Oracle で使用されます。True または False。デフォルトは False です。</p>

オプション	説明
QuoteChar	オプション。この接続で引用に使用する文字。 特殊文字と SQL の予約済み SQL キーワード (WHERE など) の識別に使用される文字のタイプ。データ統合サービスは特殊文字と予約済み SQL キーワードを選択した文字で囲みます。データ統合サービスはこの文字を、QuoteChar プロパティにも使用します。デフォルトは 0 です。
EnableQuotes	オプション。この接続で引用符を有効にするかどうかを選択します。 有効にすると、接続内でテーブル、ビュー、スキーマ、シノニム、およびカラムに対して SQL を生成および実行するときに、データ統合サービスはこれらのオブジェクトの名前を識別子文字で囲みます。オブジェクト名が、大文字と小文字が混在している場合または小文字の場合に使用します。有効な値は True または False です。デフォルトは True です。
EnableConnectionPool	オプション。接続プールを有効にする。接続プールを有効にした場合、接続プールはメモリ内にアイドル状態の接続インスタンスを保持します。接続プールを無効にした場合、データ統合サービスはすべてのプールアクティビティを停止します。有効な値は True または False です。デフォルトは True です。
ConnectionPoolSize	オプション。データベース接続のためにデータ統合サービスが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最大数です。この値をアイドル状態の接続インスタンスの最小数以上で設定します。デフォルトは 15 です。
ConnectionPoolMaxIdleTime	オプション。接続プールが接続を削除する前に、接続インスタンスの最小数を超える接続がアイドル状態を保持できる秒数。接続プールは、接続プールがアイドル状態の接続インスタンスの最小数を超えない場合、アイドル時間を無視します。デフォルトは 120 です。
ConnectionPoolMinConnections	オプション。データベース接続のためにプールが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最小数。アイドル状態の接続プールのサイズと等しい値、または接続プールのサイズ以下の値で設定します。デフォルトは 0 です。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)

- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

Salesforce 接続オプション

接続オプションを使用して、Salesforce 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

以下に例を示します。

```
infacmd createConnection -dn DomainName -un Domain_UserName -pd Domain_Pwd -cn conname -cid conname -ct SFDC -o userName=salesforceUserName password=salesforcePWD serviceURL=https://login.salesforce.com/services/Soap/u/26.0
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

次の表に、infacmd isp CreateConnection および UpdateConnection コマンド用の Salesforce 接続オプションを示します。

オプション	説明
ユーザー名	Salesforce のユーザー名。
パスワード	Salesforce のユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。 所属する組織の信頼済みネットワークの外部で Salesforce にアクセスするには、セキュリティトークンをパスワードに追加して、API またはデスクトップクライアントにログインする必要があります。 セキュリティトークンを受信またはリセットするには、Salesforce にログインして、 [設定] > [個人情報] > [セキュリティトークンのリセット] の順にクリックします。
serviceURL	アクセスしたい Salesforce サービスの URL。テストまたは開発環境で、Salesforce Sandbox テスト環境にアクセスできます。Salesforce Sandbox の詳細については、Salesforce のマニュアルを参照してください。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)

- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

SAP 接続オプション

接続オプションを使用して、SAP 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

オプションが複数ある場合はスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、`infacmd isp CreateConnection` および `UpdateConnection` コマンド用の SAP 接続オプションを示します。

オプション	説明
UserName	必須。SAP システムのユーザー名。
パスワード	必須。ユーザー名に対するパスワード。
HostName	必須。SAP アプリケーションのホスト名。
ClientNumber	必須。SAP クライアント番号。

オプション	説明
SystemNumber	必須。SAP システム番号。
言語	オプション。SAP ログオン言語。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

シーケンシャル接続オプション

SEQ 接続オプションを使用して、z/OS のシーケンシャルデータセットへの接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、infacmd isp CreateConnection および UpdateConnection コマンド用の SEQ 接続オプションを示します。

オプション	説明
CodePage	必須。シーケンシャルファイルからの読み込みまたはシーケンシャルファイルへの書き込みを行うためのコード。ISO コードページ名 (ISO-8859-6 など) を使用します。コードページ名では大文字と小文字が区別されません。
ArraySize	オプション。ワーカースレッドの値が 0 より大きい場合、スレッド用のストレージ配列内のレコードの数を決定します。有効な値は、1~100000 です。デフォルトは 25 です。
Compression	オプション。データを圧縮し、ネットワーク上で Informatica アプリケーションが書き込むデータ量を減らします。True または False。デフォルトは False です。
EncryptionLevel	オプション。RC2 または DES に対する暗号化レベル (暗号化タイプ別)。暗号化レベルに応じて、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - 1. DES および RC2 には 56 ビットの暗号化キーを使用します。 - 2. DES に 168 ビットトリプル DES 暗号化キーを使用し、RC2 に 64 ビット暗号化キーを使用します。 - 3. DES に 168 ビットトリプル DES 暗号化キーを使用し、RC2 に 128 ビット暗号化キーを使用します。 デフォルトは 1 です。 注: 暗号化タイプに「なし」を選択した場合、Data Integration Service では暗号化レベルの値を無視します。
EncryptionType	オプション。暗号化タイプに応じて、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - なし - RC2 - DES デフォルトは [なし] です。
InterpretAsRows	オプション。True の場合、ページングサイズの値は行数を表します。False の場合、ページングサイズはキロバイトを表します。デフォルトは False です。
Location	データソースに接続できる PowerExchange Listener ノードの場所。場所は、PowerExchange dbmover.cfg コンフィギュレーションファイル内の NODE 文の最初のパラメータで定義されます。
OffLoadProcessing	オプション。データソースマシンからバルクデータ処理を Data Integration Service マシンに移動します。 次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - Auto。オフロード処理を使用するかどうかは Data Integration Service によって決定されます。 - Yes。オフロード処理を使用します。 - No。オフロード処理は使用しません。 デフォルトは Auto です。
PacingSize	オプション。データ転送率を低くして、ボトルネックを減らします。値が小さいほど、セッションパフォーマンスが向上します。最小値は 0 です。最大のパフォーマンスを得るためには、「0」を入力します。デフォルトは 0 です。
WorkerThread	オプション。オフロード処理の有効時に Data Integration Services がバルクデータを処理するために使用するスレッドの数。最適なパフォーマンスを得るためには、Data Integration Service マシンで使用可能なプロセッサの数を超えないようにこの値を設定します。有効な値は 1~64 です。デフォルトは 0 です。このとき、マルチスレッド処理は無効になります。

オプション	説明
WriteMode	次のうちいずれかの書き込みモードを入力します。 - CONFIRMWRITEON。Data Integration Service にデータを送信し、成功/失敗の応答を待ってから、さらにデータを送信します。 - CONFIRMWRITEOFF。成功/失敗の応答を待たずに、Data Integration Service にデータを送信します。エラーが発生した際、ターゲットテーブルをリロードできる場合に、このオプションを使用します。 - ASYNCHRONOUSWITHFAULTT。エラー検出機能で、Data Integration Service にデータを非同期的に送信します。 デフォルトは CONFIRMWRITEON です。
EnableConnectionPool	オプション。接続プールを有効にする。接続プールを有効にした場合、接続プールはメモリ内にアイドル状態の接続インスタンスを保持します。接続プールを無効にした場合、Data Integration Service はすべてのプールアクティビティを停止します。True または False。デフォルトは False です。
ConnectionPoolSize	オプション。データベース接続のために Data Integration Service が保持するアイドル状態の接続インスタンスの最大数です。この値をアイドル状態の接続インスタンスの最小数以上で設定します。デフォルトは 15 です。
ConnectionPoolMaxIdleTime	オプション。接続プールが接続を削除する前に、接続インスタンスの最小数を超える接続がアイドル状態を保持できる秒数。接続プールは、接続プールがアイドル状態の接続インスタンスの最小数を超えない場合、アイドル時間を無視します。デフォルトは 120 です。
ConnectionPoolMinConnections	オプション。データベース接続のためにプールが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最小数。アイドル状態の接続プールのサイズと等しい値、または接続プールのサイズ以下の値で設定します。デフォルトは 0 です。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)

- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

Teradata Parallel Transporter 接続オプション

接続オプションを使用して、Teradata PT 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name='value' option_name='value' ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、`infacmd isp CreateConnection` コマンドおよび `UpdateConnection` コマンドの Teradata PT 接続オプションを示します。

オプション	説明
UserName	必須。データベースにアクセスするための適切な書き込み権限を持つ Teradata データベースのユーザー名。
パスワード	必須。Teradata データベースユーザー名のパスワード。
DriverName	必須。Teradata JDBC ドライバの名前。
ConnectionString	必須。メタデータを取得するための JDBC URL。
TDPID	必須。Teradata データベースマシンの名前、または IP アドレス。
databaseName	必須。Teradata データベース名。 データベース名を入力しない場合、Teradata PT API はデフォルトのログインデータベース名を使用します。
DataCodePage	オプション。データベースに関連付けられているコードページ。 Teradata ターゲットへのロードを行うマッピングを実行する場合、Teradata PT 接続のコードページは Teradata ターゲットのコードページと同じでなければなりません。 デフォルトは UTF-8。
Tenacity	オプション。Teradata データベース上で最大数の操作が実行されている場合に、Teradata PT API がログオンの試行を続ける時間数（時間単位）。 ゼロ以外の正の整数である必要があります。デフォルト値は 4 です。
MaxSessions	オプション。Teradata PT API が Teradata データベースとの間で確立するセッションの最大数。 ゼロ以外の正の整数である必要があります。デフォルト値は 4 です。

オプション	説明
MinSessions	オプション。Teradata PT API ジョブを継続するために必要な Teradata PT API セッションの最大数。 1~最大セッション数の値までの正の整数である必要があります。デフォルトは1です。
スリープ	オプション。Teradata データベース上で最大数の操作が実行されている場合に、Teradata PT API がログオンを再試行する前に休止する時間数（分単位）。 ゼロ以外の正の整数である必要があります。デフォルト値は6です。
useMetadataJdbcUrl	オプション。 接続文字列に指定した JDBC URL を、Teradata Connector for Hadoop (TDCH) が使用する必要があることを示すには、このオプションを true に設定します。 TDCH がマッピングを実行するときに使用する必要のある別の JDBC URL を入力するには、このオプションを false に設定します。
tdchJdbcUrl	オプション。 TDCH がマッピングを実行するときに使用する必要のある JDBC URL。
dataEncryption	オプション。 Windows で、SQL の要求、応答、およびデータの完全なセキュリティ暗号化を有効にします。 Unix でデータの暗号化を有効にするには、odbc.ini ファイルの DSN にコマンド UseDataEncryption=Yes を追加します。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)

- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

Twitter 接続オプション

接続オプションを使用して、Twitter 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、`infacmd isp CreateConnection` および `UpdateConnection` コマンド用の Twitter 接続オプションを示します。

オプション	説明
ConsumerKey	Twitter でアプリケーションを作成するときに取得するコンシューマキー。Twitter はこのキーを使用してアプリケーションを識別します。
ConsumerSecret	Twitter アプリケーションを作成するときに取得するコンシューマシークレット。Twitter はこのシークレットを使用してコンシューマキーの所有権を確立します。
AccessToken	OAuth Utility から返されるアクセストークン。Twitter はユーザークレデンシャルの代わりにこのトークンを使用して、保護されたリソースにアクセスします。
AccessSecret	OAuth Utility が返すアクセスシークレット。このシークレットがトークンの所有権を確立します。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)

- [「IBM DB2 接続オプション」](#) (ページ 275)
- [「IMS 接続オプション」](#) (ページ 278)
- [「JDBC 接続オプション」](#) (ページ 281)
- [「LinkedIn 接続オプション」](#) (ページ 283)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」](#) (ページ 284)
- [「Netezza 接続オプション」](#) (ページ 287)
- [「OData 接続オプション」](#) (ページ 288)
- [「ODBC 接続オプション」](#) (ページ 290)
- [「Oracle 接続オプション」](#) (ページ 292)
- [「Salesforce 接続オプション」](#) (ページ 295)
- [「SAP 接続オプション」](#) (ページ 296)
- [「シーケンシャル接続オプション」](#) (ページ 297)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」](#) (ページ 300)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」](#) (ページ 303)
- [「VSAM 接続オプション」](#) (ページ 304)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」](#) (ページ 307)

Twitter ストリーミング接続オプション

接続オプションを使用して、Twitter ストリーミング接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、infacmd isp CreateConnection および UpdateConnection コマンド用の Twitter ストリーミング接続オプションを示します。

オプション	説明
HoseType	ストリーミング API のメソッド。以下のメソッドを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> - フィルタ。Twitter statuses/filter メソッドは検索条件に一致するパブリックステータスを返します。 - サンプル。Twitter statuses/sample メソッドはすべてのパブリックステータスのランダムサンプルを返します。
UserName	Twitter ユーザー画面名。
パスワード	Twitter パスワード。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」](#) (ページ 249)
- [「DataSift 接続オプション」](#) (ページ 251)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」](#) (ページ 252)
- [「Facebook 接続オプション」](#) (ページ 255)

- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)
- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

VSAM 接続オプション

接続オプションを使用して、VSAM 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、`infacmd isp CreateConnection` コマンドおよび `UpdateConnection` コマンドの VSAM 接続オプションを示します。

オプション	説明
CodePage	必須。VSAM ファイルからの読み込みまたは VSAM ファイルへの書き込みを行うためのコード。ISO コードページ名 (ISO-8859-6 など) を使用します。コードページ名では大文字と小文字が区別されません。
ArraySize	オプション。ワーカースレッドの値が 0 より大きい場合、スレッド用のストレージ配列内のレコードの数を決定します。有効な値は、1~100000 です。デフォルトは 25 です。

オプション	説明
Compression	オプション。データを圧縮し、ネットワーク上で Informatica アプリケーションが書き込むデータ量を減らします。 True または False。デフォルトは False です。
EncryptionLevel	オプション。RC2 または DES に対する暗号化レベル (暗号化タイプ別)。暗号化レベルに応じて、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - 1. DES および RC2 には 56 ビットの暗号化キーを使用します。 - 2. DES に 168 ビットトリプル DES 暗号化キーを使用し、RC2 に 64 ビット暗号化キーを使用します。 - 3. DES に 168 ビットトリプル DES 暗号化キーを使用し、RC2 に 128 ビット暗号化キーを使用します。 デフォルトは 1 です。 注: 暗号化タイプに「なし」を選択した場合、Data Integration Service では暗号化レベルの値を無視します。
EncryptionType	オプション。暗号化タイプに応じて、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - なし - RC2 - DES デフォルトは [なし] です。
InterpretAsRows	オプション。True の場合、ページングサイズの値は行数を表します。False の場合、ページングサイズはキロバイトを表します。デフォルトは False です。
Location	VSAM に接続できる PowerExchange Listener ノードの場所。ノードは、PowerExchange dbmover.cfg コンフィギュレーションファイルで定義されます。
OffLoadProcessing	オプション。VSAM ソースからバルクデータ処理を Data Integration Service マシンに移動します。 次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - Auto。オフロード処理を使用するかどうかを Data Integration Service によって決定されます。 - Yes。オフロード処理を使用します。 - No。オフロード処理は使用しません。 デフォルトは Auto です。
PacingSize	オプション。データ転送率を低くして、ボトルネックを減らします。値が小さいほど、セッションパフォーマンスが向上します。最小値は 0 です。最大のパフォーマンスを得るためには、「0」を入力します。デフォルトは 0 です。
WorkerThread	オプション。オフロード処理の有効時に Data Integration Services がバルクデータを処理するために使用するスレッドの数。最適なパフォーマンスを得るためには、Data Integration Service マシンで使用可能なプロセッサの数を超えないようにこの値を設定します。有効な値は 1~64 です。デフォルトは 0 です。このとき、マルチスレッド処理は無効になります。
WriteMode	次のうちいずれかの書き込みモードを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - CONFIRMWRITEON。Data Integration Service にデータを送信し、成功/失敗の応答を待ってから、さらにデータを送信します。 - CONFIRMWRITEOFF。成功/失敗の応答を待たずに、Data Integration Service にデータを送信します。エラーが発生した際、ターゲットテーブルをリロードできる場合に、このオプションを使用します。 - ASYNCHRONOUSWITHFAULTT。エラー検出機能で、Data Integration Service にデータを非同期的に送信します。 デフォルトは CONFIRMWRITEON です。

オプション	説明
EnableConnectionPool	オプション。接続プールを有効にする。接続プールを有効にした場合、接続プールはメモリ内にアイドル状態の接続インスタンスを保持します。接続プールを無効にした場合、Data Integration Service はすべてのプールアクティビティを停止します。True または False。デフォルトは False です。
ConnectionPoolSize	オプション。データベース接続のために Data Integration Service が保持するアイドル状態の接続インスタンスの最大数です。この値をアイドル状態の接続インスタンスの最小数以上で設定します。デフォルトは 15 です。
ConnectionPoolMaxIdleTime	オプション。接続プールが接続を削除する前に、接続インスタンスの最小数を超える接続がアイドル状態を保持できる秒数。接続プールは、接続プールがアイドル状態の接続インスタンスの最小数を超えない場合、アイドル時間を無視します。デフォルトは 120 です。
ConnectionPoolMinConnections	オプション。データベース接続のためにプールが保持するアイドル状態の接続インスタンスの最小数。アイドル状態の接続プールのサイズと等しい値、または接続プールのサイズ以下の値で設定します。デフォルトは 0 です。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)
- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)

- [「Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション」 \(ページ 307\)](#)

Web コンテンツ-Kapow Katalyst 接続オプション

接続オプションを使用して、Web Content-Kapow Katalyst 接続を定義します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、infacmd isp CreateConnection コマンドおよび UpdateConnection コマンド用の Web コンテンツ-Kapow Katalyst UpdateConnection オプションを示します。

オプション	説明
ManagementConsoleURL	ロボットがアップロードされるローカル管理コンソールの URL。URL アドレスの先頭は「http」または「https」である必要があります。つまり、「http://localhost:50080」のように指定します。
RQLServicePort	ソケットサービスが RQL サービスをリスンする場合のポート番号。1~65535 の有効な値を入力します。デフォルトは 50000 です。
Username	ローカル管理コンソールへのアクセスに必要なユーザー名。
パスワード	ローカル管理コンソールへのアクセスに必要なパスワード。

関連項目：

- [「Adabas 接続オプション」 \(ページ 249\)](#)
- [「DataSift 接続オプション」 \(ページ 251\)](#)
- [「DB2 for i5/OS 接続オプション」 \(ページ 252\)](#)
- [「Facebook 接続オプション」 \(ページ 255\)](#)
- [「Greenplum 接続オプション」 \(ページ 257\)](#)
- [「HBase 接続のオプション」 \(ページ 258\)](#)
- [「HDFS 接続オプション」 \(ページ 260\)](#)
- [「Hadoop 接続オプション」 \(ページ 261\)](#)
- [「Hive 接続オプション」 \(ページ 268\)](#)
- [「DB2 for z/OS 接続オプション」 \(ページ 273\)](#)
- [「IBM DB2 接続オプション」 \(ページ 275\)](#)
- [「IMS 接続オプション」 \(ページ 278\)](#)
- [「JDBC 接続オプション」 \(ページ 281\)](#)
- [「LinkedIn 接続オプション」 \(ページ 283\)](#)
- [「Microsoft SQL Server 接続オプション」 \(ページ 284\)](#)
- [「Netezza 接続オプション」 \(ページ 287\)](#)
- [「OData 接続オプション」 \(ページ 288\)](#)
- [「ODBC 接続オプション」 \(ページ 290\)](#)
- [「Oracle 接続オプション」 \(ページ 292\)](#)

- [「Salesforce 接続オプション」 \(ページ 295\)](#)
- [「SAP 接続オプション」 \(ページ 296\)](#)
- [「シーケンシャル接続オプション」 \(ページ 297\)](#)
- [「Teradata Parallel Transporter 接続オプション」 \(ページ 300\)](#)
- [「Twitter 接続オプション」 \(ページ 302\)](#)
- [「Twitter ストリーミング接続オプション」 \(ページ 303\)](#)
- [「VSAM 接続オプション」 \(ページ 304\)](#)

CreateDARepositoryContents

Data Analyzer リポジトリのコンテンツを作成します。レポートサービスの作成、またはリポジトリコンテンツの削除時に、リポジトリコンテンツを追加します。すでにコンテンツがあるリポジトリに対して、コンテンツを作成することはできません。

infacmd isp CreateDARepositoryContents コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
CreateDARepositoryContents
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ServiceName|-sn> service_name
<-initialAdmin|-ia> initial_administrator
```

以下の表に、infacmd isp CreateDARepositoryContents のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。コンテンツを作成するサービスの名前。
-initialAdmin -ia	initial_administrator	必須。レポートサービスの管理者の名前。

CreateFolder

ドメイン内にフォルダを作成します。フォルダを作成する場合、フォルダはドメイン内または指定したフォルダ内に作成されます。

フォルダは、オブジェクトの整理およびセキュリティの管理に使用できます。フォルダには、ノード、サービス、グリッド、ライセンスその他のフォルダが含まれます。

infacmd isp CreateFolder コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateFolder

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

```

<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-FolderName|-fn> folder_name
<-FolderPath|-fp> full_folder_path
[<-FolderDescription|-fd> description_of_folder]

```

以下の表に、infacmd isp CreateFolder のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されず。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port. ..	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-FolderName -fn	folder_name	必須。フォルダの名前。フォルダ名はフォルダまたはドメイン内で一意である必要があります。スペースは使用できません。また、79 文字以内で指定します。
-FolderPath -fp	full_folder_path	必須。フォルダを作成する場所への完全パス（ドメイン名は除く）。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i>
-FolderDescription -fd	description_of_folder	オプション。フォルダの説明です。フォルダの説明にスペースまたは英数字以外の文字が含まれる場合は、説明を引用符で囲みます。

CreateGrid

ドメインにグリッドを作成して、ノードをグリッドに割り当てます。グリッド内のノードで実行されるサービスプロセスにジョブを分散するグリッドを作成します。

infacmd isp CreateGrid コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateGrid

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-GridName|-gn> grid_name

<-NodeList|-nl> node1 node2 ...

[<-FolderPath|-fp> full_folder_path]

以下の表に、infacmd isp CreateGrid のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port. ..	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_ seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-GridName -gn	grid_name	必須。グリッドの名前。

オプション	引数	説明
-NodeList -nl	node1 node2 ...	必須。グリッドに割り当てるノードの名前。
-FolderPath -fp	full_folder_path	オプション。グリッドを作成するフォルダへの完全パス（ドメイン名を除く）。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i> デフォルトは"/"（ドメイン）です。

creategroup

ネイティブセキュリティドメインにグループを作成します。ネイティブまたはLDAPセキュリティドメイン内のグループに役割、権限、および特権を割り当てることができます。ドメインでそのグループのユーザーが実行できるタスクは、グループに割り当てられた役割、権限、および特権によって決定されます。

infacmd isp CreateGroup コマンドでは、以下の構文を使用します。

```

CreateGroup
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-GroupName|-gn> group_name
[<-GroupDescription|-ds> group_description]

```

以下の表に、infacmd isp CreateGroup のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ..	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-GroupName -gn	group_name	必須。グループの名前。グループ名は、大文字と小文字が区別され、1~80文字で指定できます。タブ、改行文字、または次の特殊文字は使用できません。 , + " \ < > ; / * % ? 名前には、先頭と末尾の文字以外に ASCII スペース文字を使用できます。その他のスペース文字は許可されません。
-GroupDescription -ds	group_description	オプション。グループの説明。スペースまたは英数字以外の文字を含む説明を入力するには、説明を引用符で囲みます。 完全名に次の特殊文字を使用できません。 < > “

CreateIntegrationService

ドメイン内に PowerCenter 統合サービスを作成します。

デフォルトでは、PowerCenter 統合サービスは作成時に有効になっています。

infacmd isp CreateIntegrationService コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateIntegrationService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-FolderPath|-fp> full_folder_path]

<<-NodeName|-nn> node_name|<-GridName|-gn> grid_name>

[<-BackupNodes|-bn> node1 node2 ...]

<-RepositoryService|-rs> repository_service_name

[<-RepositoryUser|-ru> repository_user]

[<-RepositoryPassword|-rp> repository_password]

[<-RepositoryUserSecurityDomain|-rsdn> repository_user_security_domain]

[<-ServiceDisable|-sd>]

[<-ServiceOptions|-so> option_name=value ...]

[<-ServiceProcessOptions|-po> option_name=value ...]

[<-EnvironmentVariables|-ev> name=value ...]

[<-LicenseName|-ln> license_name]

注: Kerberos 認証では、infacmd isp CreateIntegrationService コマンドで -ru、-rp、および -rsdn オプションを使用してはいけません。これらのオプションを Kerberos モードで使用すると、このコマンドは失敗します。

以下の表に、infacmd isp CreateIntegrationService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合、デフォルトはインストール中に指定されたユーザー領域です。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。PowerCenter 統合サービスの名前。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前の先頭または末尾にスペースを使用したり、改行やタブを入れたり、79 文字を超えたり、次の文字を含めたりすることはできません。 / * ? < > "
-FolderPath -fp	full_folder_path	オプション。統合サービスを作成するフォルダへの完全パス (ドメイン名を除く)。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i> デフォルトは"/ (ドメイン) です。
-NodeName -nn	node_name	グリッド名を指定していない場合に必要です。 PowerCenter 統合サービスのプロセスを実行するノードの名前。PowerCenter 環境が高可用性に設定されている場合、このオプションでプライマリノードの名前を指定できます。 変更を適用するには、統合サービスを再開してください。
-GridName -gn	grid_name	ノード名を指定していない場合に必要です。 PowerCenter 統合サービスのプロセスを実行するグリッドの名前。 変更を適用するには、PowerCenter 統合サービスを再起動します。
-BackupNodes -bn	node1 node2 ...	オプション。プライマリノードが使用できない場合にサービスが実行されるノード。高可用性オプションがある場合は、バックアップノードを設定できます。
-RepositoryService -rs	repository_service_name	必須。PowerCenter 統合サービスが依存する PowerCenter リポジトリサービスの名前。 スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。 変更を適用するには、PowerCenter 統合サービスを再起動します。

オプション	引数	説明
-RepositoryUser -ru	repository_user	ネイティブまたは LDAP 認証で必須。PowerCenter リポジトリへの接続に使用するユーザー名。 スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。 変更を適用するには、PowerCenter 統合サービスを再起動します。
-RepositoryPassword -rp	repository_password	ネイティブまたは LDAP 認証で必須。ユーザーパスワード。パスワードは、-rp オプションまたは INFA_REPOSITORY_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-rp オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。 変更を適用するには、PowerCenter 統合サービスを再起動します。
-RepositoryUserSecurityDomain -rsdn	repository_user_security_domain	LDAP で必須。ドメインでネイティブの認証が使用されている場合は任意。PowerCenter リポジトリユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。 セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。このオプションを指定しない場合、コマンドはリポジトリユーザーセキュリティドメインをネイティブに設定します。
-ServiceDisable -sd	-	オプション。無効なサービスを作成します。このサービスを実行するには、サービスを有効にする必要があります。
-ServiceOptions -so	option_name=value	オプション。PowerCenter 統合サービスの実行方法を定義するサービスプロパティ。
-ServiceProcessOptions -po	option_name=value	オプション。PowerCenter 統合サービス用サービスプロセスのプロパティ。グリッドまたはマルチノード環境では、infacmd はこれらのプロパティをプライマリノード、グリッド、およびバックアップノードに適用します。
-EnvironmentVariables -ev	name=value	オプション。PowerCenter 統合サービスプロセスのオプションとして環境変数を指定します。使用している PowerCenter 環境に応じて、別の変数を含めることもできます。 変更を適用するには、ノードを再起動します。
-LicenseName -ln	license_name	有効なサービスを作成する場合は必須です。PowerCenter 統合サービスに割り当てるライセンスの名前。 変更を適用するには、PowerCenter 統合サービスを再起動します。

統合サービスのオプション

次の形式で統合サービスのオプションを入力します。

```
infacmd CreateIntegrationService ... -so option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、統合サービスのオプションを示します。

オプション	説明
\$PMFailureEmailUser	オプション。セッションが完了しなかったときに Email を受信するユーザの Email アドレス。Windows で複数のアドレスを入力するには、分散リストを使用します。UNIX で複数のアドレスを入力するには、コンマで区切ります。
\$PMSessionErrorThreshold	オプション。セッションが失敗するまでに Integration Service が許可する致命的ではないエラーの数。デフォルトは 0 です（非致命的エラーはセッション停止の原因ではありません）。
\$PMSessionLogCount	オプション。Integration Service がセッションでアーカイブするセッションログの数。最小値は 0 です。デフォルトは 0 です。
\$PMSuccessEmailUser	オプション。セッションが完了したときに Email を受信するユーザの Email アドレス。Windows で複数のアドレスを入力するには、分散リストを使用します。UNIX で複数のアドレスを入力するには、コンマで区切ります。
\$PMWorkflowLogCount	オプション。Integration Service がセッションでアーカイブするワークフローログの数。最小値は 0 です。デフォルトは 0 です。
AggregateTreatNullAsZero	オプション。Aggregator トランスフォーメーションでは NULL を 0 として扱います。デフォルトは [No]。
AggregateTreatRowAsInsert	オプション。Update Strategy 式でレコードに挿入、更新、削除、拒否のフラグを設定する前に、集計関数を実行します。デフォルトは [No]。
ClientStore	オプション。の構文を使用して ClientStore の値を入力してください。 <path>/<filename> 以下に例を示します。 ./Certs/client.keystore
CreateIndicatorFiles	オプション。フラットファイルターゲットのワークフローを実行するとき、インジケータファイルを作成します。デフォルトは [No]。
DataMovementMode	オプション。Integration Service が文字データを処理する方法を決定するモード。 - ASCII - Unicode デフォルトは ASCII です。
DateDisplayFormat	オプション。Integration Service がログエントリで使用される日付形式。デフォルトは、DY MON DD HH 24:MI:SS YYYY です。

オプション	説明
DateHandling40Compatibility	オプション。PowerCenter 1.0/PowerMart 4.0 と同じように日付を取り扱います。デフォルトは [No] です。
DeadlockSleep	オプション。Integration Service がデータベースのデッドロックのターゲットの書き込みを再試行するまでの秒数。最小値は 0 です。最大値は 2,147,483,647 です。デフォルトは 0 です (ターゲット書き込みを直ちにリトライする)。
ErrorSeverityLevel	オプション。Integration Service のログに対するエラーロギングの最小値： <ul style="list-style-type: none"> - 致命 - エラー - 警告 - 情報 - トレース - デバッグ デフォルトは info です。
ExportSessionLogLibName	オプション。セッションログメッセージを書き込む外部ライブラリファイルの名前
FlushGMDWrite	セッションのリカバリを有効にする場合は必須です。リカバリファイルのセッションリカバリデータをオペレーティングシステムのバッファからディスクへフラッシュします。次のいずれかのレベルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - 自動。 JMS ソースまたは WebSphere MQ ソース、および非リレーショナルターゲットを使用するあらゆるリアルタイムセッションのリカバリデータをフラッシュします。 - はい。 すべてのセッションのリカバリデータをフラッシュします。 - いいえ。 リカバリデータはフラッシュされません。高可用性の外部システムが導入済みの場合、またはパフォーマンスの最適化を希望する場合は、このオプションを選択します。 デフォルトは [Auto] です。
HttpProxyDomain	オプション。認証用ドメイン。
HttpProxyPassword	プロキシサーバが認証を要求した場合に必要です。認証されたユーザのパスワード。
HttpProxyPort	オプション。HTTP プロキシサーバのポート番号。
HttpProxyServer	オプション。HTTP プロキシサーバ名
HttpProxyUser	プロキシサーバが認証を要求した場合に必要です。HTTP プロキシサーバの認証ユーザ名。
IgnoreResourceRequirements	オプション。1つのグリッドのノード全体にタスクを分散するときに、タスクリソース要件を無視します。デフォルトは [Yes]。

オプション	説明
JCEProvider	オプション。NTLM 認証をサポートする JCEProvider クラス名。 以下に例を示します。 com.unix.crypto.provider.UnixJCE.
JoinerSourceOrder6xCompatibility	オプション。PowerCenter7.0 以前のバージョンと同じように、マスタパイプラインと明細パイプラインを順次処理します。デフォルトは [No] です。
LoadManagerAllowDebugging	オプション。この Integration Service を使用して、Designer からデバッガセッションを実行することを許可します。デフォルトは [Yes]。
LogInUTF8	オプション。すべてのログを UTF-8 文字セットを使用して書き込みます。デフォルトは Yes (Unicode の場合) または No (ASCII の場合)。
MSExchangeProfile	オプション。セッション実行後の Email を送信するときにサービス開始アカウントで使用される Microsoft Exchange プロファイル
MaxLookup SPDB Connections	オプション。セッション開始時のルックアップまたはストアードプロシージャデータベースへの最大接続数。最小値は 0 です。デフォルトは 0 です。
MaxMSSQL Connections	オプション。セッション開始時の Microsoft SQL Server データベースへの最大接続数。最小値は 100 です。最大値は 2,147,483,647 です。デフォルトは 100 です。
MaxResilienceTimeout	オプション。サービスが、レジリエンスのためにリソースを確保する最大時間 (秒) です。デフォルトは 180 です。
MaxSybase Connections	オプション。セッション開始時の Sybase データベースへの最大接続数。最小値は 100 です。最大値は 2,147,483,647 です。デフォルトは 100 です。
NumOfDeadlockRetries	オプション。Integration Service がデータベースのデッドロックのターゲットの書き込みを再試行する回数。最小値は 10 です。最大値は 1,000,000,000 です。デフォルトは 10 です。
OperatingMode	オプション。Integration Service の操作モードは、以下のとおりです。 - ノーマル - セーフ デフォルトは [Normal] です。
OperatingModeOnFailover	オプション。サービスプロセスがフェイルオーバーした場合の Integration Service の操作モードは、以下のとおりです。 - ノーマル - セーフ デフォルトは [Normal] です。
OutputMetaDataForFF	オプション。カラムヘッダーをフラットファイルターゲットに書き込みます。デフォルトは [No]。

オプション	説明
PersistRuntimeStatsToRepo	<p>オプション。リポジトリに格納されたランタイム情報のレベル。次のいずれかのレベルを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - なし。Integration Service は、セッションまたはワークフローのランタイム情報をリポジトリ内に格納しません。 - Normal。Integration Service は、ワークフローの詳細、タスクの詳細、セッション統計、およびソースとターゲットの統計をリポジトリ内に格納します。 - Verbose。Integration Service は、ワークフローの詳細、タスクの詳細、セッション統計、およびソースとターゲットの統計、パーティションの詳細、パフォーマンスの詳細をリポジトリ内に格納します。 <p>デフォルトは [Normal] です。</p>
Pmsserver3XCompatibility	<p>オプション。PowerMart Server が PowerMart 3.5 で実行した Aggregator トランスフォーメーションを取り扱います。デフォルトは [No] です。</p>
RunImpactedSessions	<p>オプション。依存性の更新により影響を受けたセッションを実行します。デフォルトは [No]。</p>
ServiceResilienceTimeout	<p>オプション。サービスが他のサービスとの接続を確立または再確立しようと試みる時間（秒）です。デフォルトは 180 です。</p>
StoreHAPersistenceInDB	<p>オプション。処理状態の情報を、関連する PowerCenter リポジトリデータベースの中の永続データベーステーブル内に保存します。デフォルトは [No]。</p>
TimeStampWorkflowLogMessages	<p>オプション。ワークフローログに記述されるメッセージにタイムスタンプを追加します。デフォルトは [No]。</p>
TreatCharAsCharOnRead	<p>オプション。SAP または PeopleSoft の CHAR 形式のデータを読みとるとき、末尾のスペースは保持されます。デフォルトは [Yes]。</p>
TreatDBPartitionAsPassThrough	<p>オプション。パーティションタイプがデータベースパーティション化のときに、DB2 以外のターゲットにパススルーパーティション化を使用します。デフォルトは [No]。</p>
TreatNullInComparisonOperatorsAs	<p>オプション。比較処理で Integration Service により NULL 値が評価される方法を決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Null - LOW - HIGH <p>デフォルトは NULL です。</p>
TrustStore	<p>オプション。の構文を使用して TrustStore の値を入力してください。</p> <p><path>/<filename></p> <p>以下に例を示します。</p> <p>./Certs/trust.keystore</p>

オプション	説明
UseOperatingSystemProfiles	オプション。オペレーティングシステムプロファイルの使用を有効にします。このオプションは、UNIX 上で Integration Service が動作している場合に使用します。
ValidateDataCodePages	オプション。データコードページの互換性機能を実施します。デフォルトは [Yes]。
WriterWaitTimeOut	オプション。ターゲットベースコミットモードで、コミットを発行するまでに Writer がアイドル状態に維持される時間(秒単位)。最小値は 60 です。最大値は 2,147,483,647 です。デフォルトは 60 です。
XMLWarnDupRows	オプション。重複行警告と XML ターゲットの重複行をセッションログに書き込みます。デフォルトは [Yes]。

Integration Service プロセスのオプション

次の形式でサービスプロセスオプションを入力します。

```
infacmd CreateIntegrationService ... -po option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、Integration Service プロセスのオプションを示します。

オプション	説明
\$PMBadFileDir	オプション。リジェクトファイルのデフォルトディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 *?<>" , デフォルトは、\$PMRootDir/BadFiles です。
\$PMCacheDir	オプション。インデックスファイルとデータキャッシュファイルのデフォルトディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 *?<>" , デフォルトは、\$PMRootDir/Cache です。
\$PMExtProcDir	オプション。外部プロシージャのデフォルトディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 *?<>" , デフォルトは、\$PMRootDir/ExtProc です。
\$PMLookupFileDir	オプション。ルックアップファイルのデフォルトディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 *?<>" , デフォルトは、\$PMRootDir/LkpFiles です。
\$PMRootDir	オプション。ノードによるルートディレクトリへのアクセス性。次の特殊文字は使用できません。 *?<>" , デフォルトは、C:\Informatica\PowerCenter8.6\server\infa_shared。

オプション	説明
\$PMSessionLogDir	オプション。セッションログのデフォルトディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、\$PMRootDir/SessLogs です。
\$PMSourceFileDir	オプション。ソースファイルのデフォルトディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、\$PMRootDir/SrcFiles です。
\$PMStorageDir	オプション。実行時ファイルのデフォルトディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、\$PMRootDir/Storage です。
\$PMTargetFileDir	オプション。ターゲットファイルのデフォルトディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、\$PMRootDir/TgtFiles です。
\$PMTempDir	オプション。一時ファイルのデフォルトディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、\$PMRootDir/Temp です。
\$PMWorkflowLogDir	オプション。ワークフローログのデフォルトディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、\$PMRootDir/WorkflowLogs です。
Codepage_ID	必須。Integration Service プロセスのコードページ ID 番号。
JVMClassPath	オプション。Java SDK の ClassPath。
JVMMaxMemory	オプション。PowerCenter セッション中に Java SDK が使用するメモリの最大量。デフォルトは 64MB です。
JVMMinMemory	オプション。PowerCenter セッション中に Java SDK が使用するメモリの最小容量。デフォルトは 32MB です。

CreateMMService

ドメイン内に Metadata Manager サービスを作成します。デフォルトでは、Metadata Manager サービスは作成時に有効ではありません。Metadata Manager サービスを有効にするには、`infacmd EnableService` を実行します。

`infacmd isp CreateMMService` コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
CreateMMService
```

```

<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ServiceName|-sn> service_name
<-NodeName|-nn> node_name
<-ServiceOptions|-so> option_name=value ...>
[<-LicenseName|-ln> license_name]
[<-FolderPath|-fp> full_folder_path]

```

以下の表に、infacmd isp CreateMMService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Metadata Manager サービスの名前。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。名前は 79 文字を超えないようにする必要があり、スペース、復帰、タブ、または以下の文字が含まれないようにする必要があります。 / * ? < > "
-NodeName -nn	node_name	必須。Metadata Manager のアプリケーションを実行させるノードの名前。
-ServiceOptions -so	option_name=value	オプション。Metadata Manager サービスの実行方法を定義するサービスプロパティ。
-LicenseName -ln	license_name	必須。Metadata Manager サービスに割り当てるライセンスの名前。
-FolderPath -fp	full_folder_path	オプション。Metadata Manager サービスを作成するフォルダへの完全パス (ドメイン名を除く)。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i> デフォルトは"/ (ドメイン) です。

Metadata Manager サービスのオプション

次の形式で Metadata Manager サービスのオプションを入力します。

```
infacmd isp CreateMMService ... -so option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、Metadata Manager サービスのオプションを示します。

オプション	説明
AgentPort	必須。Metadata Manager Agent のポート番号。エージェントがメタデータソースリポジトリとのやり取りに使用するのが、このポートです。デフォルトは 10251 です。
CodePage	必須。Metadata Manager リポジトリのコードページの説明。スペースまたは英数字以外の文字を含むコードページの説明を入力する場合は、名前を引用符で囲みます。
ConnectionString	必須。Metadata Manager リポジトリデータベースに接続するためのネイティブ接続文字列。
DBUser	必須。Metadata Manager リポジトリデータベースのユーザーアカウント。
DBPassword	必須。Metadata Manager リポジトリデータベースユーザーパスワード。ユーザーパスワード。パスワードは、-so オプションまたは INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-so オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
DatabaseHostname	必須。Metadata Manager リポジトリデータベースのホスト名。
DatabaseName	必須。Oracle データベースの完全サービス名または SID。IBM DB2 データベースのサービス名。Microsoft SQL Server データベースのデータベース名。
DatabasePort	必須。Metadata Manager リポジトリデータベースのポート番号。
DatabaseType	必須。Metadata Manager リポジトリのデータベースのタイプです。
ErrorSeverityLevel	オプション。Metadata Manager サービスのログに書き込まれるエラーメッセージのレベル。デフォルトは [エラー] です。
FileLocation	必須。Metadata Manager アプリケーションによって使用されるファイルの位置。
JdbcOptions	オプション。追加 JDBC オプション。 このプロパティを使用して、以下の情報を指定できます。 - バックアップサーバーの場所 - Oracle Advanced Security Option (ASO) のパラメータ - Microsoft SQL Server の認証パラメータ - Metadata Manager リポジトリデータベースに対してセキュアな通信が可能なときの JDBC 追加パラメータ これらのパラメータの詳細については、『 <i>Informatica アプリケーションサービスガイド</i> 』を参照してください。

オプション	説明
MaxConcurrentRequests	オプション。利用可能なスレッドを処理する要求の最大数。この値により、Metadata Manager が同時に処理できる最大クライアント要求数が決まります。デフォルトは 100 です。
MaxHeapSize	オプション。Metadata Manager を実行する Java 仮想マシン (JVM) のために割り当てられた RAM の領域 (MB)。デフォルトは 512 です。
MaxQueueLength	オプション。有り得るリクエスト処理スレッドがすべて Metadata Manager のアプリケーションによって使用中である場合の接続リクエストの受信キューの最大長。デフォルトは 500 です。
MaximumActiveConnections	オプション。使用可能な Metadata Manager リポジトリデータベースへのアクティブ接続数。リポジトリデータベースへの接続のための接続プールは、Metadata Manager アプリケーションによってメンテナンスされます。デフォルトは 20 です。
MaximumWaitTime	オプション。Metadata Manager がデータベース接続リクエストを接続プールに保持する時間の長さ (秒)。デフォルトは 180 です。
MetadataTreeMaxFolderChilds	オプション。親オブジェクトに対して Metadata Manager のメタデータカタログに表示される子オブジェクトの数。デフォルトは 100 です。
ODBCConnectionMode	リソースのロード時に統合サービスがメタデータソースおよび Metadata Manager リポジトリと接続するために使用する接続モード。値は、True または False のいずれかです。 統合サービスが UNIX マシン上で実行されており、Microsoft SQL Server からメタデータをロードする場合、または Metadata Manager リポジトリ用に Microsoft SQL Server を使用する場合には、このプロパティを True に設定する必要があります。
OracleConnType	DatabaseType に Oracle を選択した場合に必須。Oracle 接続タイプ。以下のいずれかのオプションを入力することができます。 - OracleSID - OracleServiceName
PortNumber	必須。Metadata Manager アプリケーションが実行するポート番号。デフォルトは 10250 です。
StagePoolSize	オプション。Metadata Manager が同時にロードできる最大リソース数。デフォルトは 3 です。
TablespaceName	IBM DB2 での Metadata Manager リポジトリのテーブルスペース名。
TimeoutInterval	オプション。Metadata Manager が失敗したリソースロードをロードキューに保持する時間の長さ (分)。デフォルトは 30 です。
URLScheme	必須。Metadata Manager アプリケーションに対して設定するセキュリティプロトコルを示します。HTTP または HTTPS です。
keystoreFile	HTTPS を使用する場合に必要です。Metadata Manager アプリケーションで SSL セキュリティプロトコルを使用する場合に必要な鍵と証明書が入っているキーストアファイル。

CreateOSProfile

ドメイン内にオペレーティングシステムのプロファイルを作成します。オペレーティングシステムのプロファイルを使用するワークフローを実行する前に、オペレーティングシステムのプロファイルを使用するために PowerCenter 統合サービスを構成する必要があります。

infacmd isp CreateOSProfile コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateOSProfile

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-OSProfileName|-on> OSProfile_name

<-SystemName|-sn> system_username

[<-IntegrationServiceProcessOptions|-po> option_name=value ...]

[<-EnvironmentVariables|-ev> name=value ...]

以下の表に、infacmd isp CreateOSProfile のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できません。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1: port gateway_host2: port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period _in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-OSProfileName -on	OSProfile_name	必須。オペレーティングシステムプロファイルの名前。オペレーティングシステムプロファイル名には、80 文字まで使用できます。スペースまたは以下の特殊文字を含めることはできません。 \ / : * ? " < > []= + ; ,
-SystemName -sn	system_username	必須。統合サービスが実行されるマシンに存在するオペレーティングシステムユーザーの名前。統合サービスは、オペレーティングシステムプロファイル用に定義されたシステムユーザーのシステムアクセスを使用して、ワークフローを実行します。
-IntegrationServiceProcessOptions -po	option_name=value	オプション。統合サービスの実行方法を定義するサービスプロセスプロパティ。
-EnvironmentVariables -ev	name=value	オプション。実行時に統合サービスによって使用される環境変数の名前と値。

オペレーティングシステムのプロファイル用の Integration Service プロセスのオプション

次の形式で Integration Service プロセスオプションを入力します。

```
infacmd CreateOSProfile ... -po option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、Integration Service プロセスのオプションを示します。

オプション	説明
\$PMBadFileDir	オプション。拒否ファイルのディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、\$PMRootDir/BadFiles です。
\$PMCacheDir	オプション。インデックスファイルとデータキャッシュファイルのデフォルトディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、\$PMRootDir/Cache です。
\$PMExtProcDir	オプション。外部プロシージャのディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、\$PMRootDir/ExtProc です。
\$PMLookupFileDir	オプション。ルックアップファイルのディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、\$PMRootDir/LkpFiles です。
\$PMRootDir	オプション。ノードによるルートディレクトリへのアクセス性。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、C:\Informatica\PowerCenter\server\infa_shared です。
\$PMSessionLogDir	オプション。セッションログのディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、\$PMRootDir/SessLogs です。
\$PMSourceFileDir	オプション。ソースファイルのディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、\$PMRootDir/SrcFiles です。
\$PMStorageDir	オプション。実行時ファイルのデフォルトディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、\$PMRootDir/Storage です。

オプション	説明
\$PMTargetFileDir	オプション。ターゲットファイルのディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、\$PMRootDir/TgtFiles です。
\$PMTempDir	オプション。一時ファイルのディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " , デフォルトは、\$PMRootDir/Temp です。

CreateReportingService

ドメインにレポートサービスを作成します。レポートサービスを有効にするには、`infacmd isp EnableService` を実行します。

`infacmd isp CreateReportingService` コマンドでは、以下の構文を使用します。

`CreateReportingService`

`<-DomainName|-dn> domain_name`

`<-UserName|-un> user_name`

`<-Password|-pd> password`

`[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]`

`[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]`

`[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]`

`<-ServiceName|-sn> service_name`

`<-NodeName|-nn> node_name`

`<-LicenseName|-ln> license_name`

`[<-FolderPath|-fp> full_folder_path]`

`<-ServiceOptions|-so> option_name=value ...`

`<-ReportingSource|-rs> option_name=value ...`

`[<-LineageService|-ls> option_name=value ...]`

以下の表に、infacmd isp CreateReportingService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレールムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-ServiceName -sn	service_name	必須。レポートサービスの名前。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。名前の先頭または末尾にスペースを使用したり、改行やタブを入れたり、79文字を超えたり、次の文字を含めたりすることはできません。 / * ? < > "
-NodeName -nn	node_name	必須。レポートサービスのプロセスを実行させたいノードの名前。
-LicenseName -ln	license_name	必須。RepositoryService に割り当てるライセンスの名前。
-FolderPath -fp	full_folder_path	オプション。レポートサービスを作成するフォルダへの完全パス（ドメイン名を除く）。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i> デフォルトは"/"（ドメイン）です。
-ServiceOptions -so	option_name=value	必須。レポートサービスの実行方法を定義するサービスプロパティ。
-ReportingSource -rs	option_name=value	必須。データソースの名前とタイプを指定します。
-LineageService -ls	option_name=value	オプション。Data Analyzer のデータに対するリネージ分析の実行に必要なリネージプロパティ。

Reporting Service のオプション

次の形式で Reporting Service のオプションを入力します。

```
infacmd CreateReportingService ... -so option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、Reporting Service のオプションを示します。

オプション	説明
AdditionalJdbcParams	オプション。追加の JDBC オプションを入力します。このオプションは、Oracle RAC などの高可用性データベースサーバーを使用している場合に、文字エンコードやサーバーの場所を指定するために使用します。
DatabaseDriver	必須。Reporting Service が Data Analyzer リポジトリデータベースへの接続に使用する JDBC ドライバ。
DatabaseHost	必須。データベースサーバーをホストするマシンの名前。

オプション	説明
DatabaseName	必須。Oracle データベースの完全サービス名または SID。IBM DB2 データベースのサービス名。Microsoft SQL Server または Sybase ASE のデータベース名です。DatabaseNameInterpretation オプションを使用して、DatabaseName オプションにサービス名、SID、またはデータベース名が含まれているかどうかを指定します。
DatabaseNameInterpretation	DatabaseName オプションに完全な Oracle サービス名が含まれている場合に必須。DatabaseName オプションのタイプ。以下の値を使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - DatabaseName。DatabaseName オプションに、Microsoft SQL Server または Sybase ASE データベースのデータベース名、または IBM DB2 データベースのサービス名が含まれます。 - OracleSID。DatabaseName オプションに、Oracle SID が含まれます。 - OracleServiceName。DatabaseName オプションに、完全な Oracle サービス名が含まれます。 デフォルトでは、Oracle 以外のすべてのデータベースについて <i>infacmd</i> で DatabaseName が使用されます。
DatabasePassword	必須。データベースユーザーに対応する Data Analyzer リポジトリデータベースのパスワード。パスワードは、-so オプションまたは INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-so オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
DatabasePort	必須。リポジトリデータベースのポート番号。
DatabaseTablespaceName	IBM DB2 データベースを選択する場合に必須。IBM DB2 リポジトリの表領域名。テーブルスペース名を指定すると、Reporting Service はリポジトリテーブルをすべて同じテーブルスペースに作成します。
DatabaseUser	必須。リポジトリデータベースのユーザーアカウント。
DatasourceDriver	オプション。Reporting Service がデータソースへの接続に使用するドライバ。
DatasourcePassword	必須。データソースユーザーに対応するパスワード。パスワードは、-so オプションまたは INFA_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-so オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
DatasourceTestTable	必須。レポートサービスがデータソースへの接続の検証に使用するテストテーブル。
DatasourceURL	必須。Reporting Service がデータソースへの接続に使用する JDBC 接続文字列。
DatasourceUser	必須。データソースデータベースのユーザーアカウント。
HttpPort	SslPort オプションを使用しない場合は必須。Reporting Service で使用される TCP ポート。

オプション	説明
SslPort	HttpPort オプションを使用しない場合は必須。レポートサービスにおいて、セキュリティ保護された接続に使用される SSL ポート。
DataSourceAdvancedMode	<p>Datasource プロパティの編集を決定するモード。</p> <p>有効にした場合、編集モードは詳細設定になり、値は True になります。詳細編集モードでは、Data Analyzer インスタンスで <i>Datasource</i> および <i>Datasource</i> プロパティを編集できます。</p> <p>無効にする場合、編集モードは基本になり、値は False になります。基本編集モードでは、Administrator ツールの <i>Datasource</i> プロパティを編集できます。</p> <p>注: 詳細編集モードで Reporting Service を有効にした後で、基本編集モードに戻すことはできません。</p>

レポートソースのオプション

次の形式で Reporting Source のオプションを入力します。

```
infacmd CreateReportingService ... -rs option_name=value option_name=value
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、Reporting Source のオプションを示します。

オプション	説明
DatasourceName	必須。レポートで使用するサービスの名前。
DatasourceType	<p>必須。サービスのタイプ。サービスタイプ：</p> <ul style="list-style-type: none"> - Dataprofiling - MM - PCRR - その他

リネージサービスのオプション

次の形式でリネージサービスのオプションを入力します。

```
infacmd CreateReportingService ... -ls option_name=value option_name=value
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、リネージサービスのオプションを示します。

オプション	説明
MetadataManagerService	オプション。データリネージ実行時の接続先となる Metadata Manager Service の名前。
ResourceName	オプション。Data Analyzer メタデータをロードした Metadata Manager のリソースの名前。

CreateRepositoryService

ドメイン内に PowerCenter リポジトリサービスを作成します。

デフォルトでは、PowerCenter リポジトリサービスは作成時に有効になっています。

1 つの PowerCenter リポジトリサービスが、1 つのリポジトリを管理します。リポジトリおよびリポジトリクライアント間のすべてのメタデータトランザクションを実行します。

infacmd isp CreateRepositoryService コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
CreateRepositoryService
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ServiceName|-sn> service_name
<-NodeName|-nn> node_name
[<-BackupNodes|-bn> node1 node2 ...]
[<-ServiceDisable|-sd>]
<-ServiceOptions|-so> option_name=value ...
[<-LicenseName|-ln> license_name]
[<-FolderPath|-fp> full_folder_path]
```

以下の表に、infacmd isp CreateRepositoryService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザ名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。PowerCenter リポジトリサービスの名前。この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前の先頭または末尾にスペースを使用したり、改行やタブを入れたり、79 文字を超えたり、次の文字を含めたりすることはできません。 \ / : * ? < > "
-NodeName -nn	node_name	必須。PowerCenter リポジトリサービスのプロセスを実行するノードの名前。PowerCenter 環境が高可用性に設定されている場合、このオプションでプライマリノードの名前を指定できます。
-BackupNodes -bn	node1 node2 ...	オプション。プライマリノードが使用できない場合にサービスを実行できるノード。高可用性オプションがある場合は、バックアップノードを設定できます。
-ServiceDisable -sd	-	オプション。無効なサービスを作成します。このサービスを実行するには、サービスを有効にする必要があります。
-ServiceOptions -so	option_name=value	必須。PowerCenter リポジトリサービスの実行方法を定義するサービスプロパティ。

オプション	引数	説明
-LicenseName -ln	license_name	有効なサービスを作成する場合は必須です。PowerCenter リポジトリサービスに割り当てるライセンスの名前。
-FolderPath -fp	full_folder_path	オプション。PowerCenter リポジトリサービスを作成するフォルダへの完全パス（ドメイン名を除く）。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i> デフォルトは"/"（ドメイン）です。

リポジトリサービスのオプション (-so)

次の形式でリポジトリサービスのオプションを入力します。

```
infacmd CreateRepositoryService ... -so option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、リポジトリサービスのオプションを示します。

オプション	説明
AllowWritesWithRACaching	オプション。Repagent キャッシュが有効な場合、リポジトリのメタデータの変更に PowerCenter Client ツールを使用します。デフォルトは [はい] です。
CheckinCommentsRequired	オプション。リポジトリオブジェクトをチェックインするときに、ユーザーはコメントを追加する必要があります。デフォルトは [はい] です。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。
CodePage	必須。データベースのコードページの説明。スペースまたは英数字以外の文字を含むコードページの説明を入力する場合は、名前を引用符で囲みます。
ConnectionString	必須。PowerCenter リポジトリサービスのセットアップ中に指定されるデータベース接続文字列。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。
DBPassword	必須。データベースユーザーに対応するリポジトリデータベースパスワード。パスワードは、-so オプションまたは INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-so オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。
DBPoolExpiryThreshold	オプション。PowerCenter リポジトリサービスで許可されるアイドル状態のデータベース接続の最小値。例えば、20 個のアイドル状態の接続があり、このしきい値を 5 に設定した場合、PowerCenter リポジトリサービスは接続を 15 個まで閉じます。最小値は 3 です。デフォルトは 5 です。
DBPoolExpiryTimeout	オプション。PowerCenter リポジトリサービスがアイドル状態のデータベース接続を確認する間隔（秒）。この値を超える時間、接続がアイドル状態になっている場合、PowerCenter リポジトリサービスは接続を閉じることがあります。最小値は 300 です。最大は 2,592,000（30 日間）です。デフォルトは 3,600（1 時間）です。

オプション	説明
DBUser	必須。リポジトリが含まれているデータベースのアカウント。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。
DatabaseArrayOperationSize	オプション。データベース配列操作（挿入または取り出しなど）が発行されるたびに取り出される行数です。デフォルトは 100 です。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。
DatabaseConnectionTimeout	オプション。PowerCenter リポジトリサービスがデータベース管理システムへの接続の確立を試みる時間（秒）。デフォルトは 180 です。
DatabasePoolSize	オプション。PowerCenter リポジトリサービスが構築するリポジトリデータベースへの接続の最大数。最小値は 20 です。デフォルトは 500 です。
DatabaseType	必須。リポジトリメタデータを格納しているデータベースのタイプ。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。
EnableRepAgentCaching	オプション。リポジトリエージェントキャッシュ機能を有効にします。デフォルトは [はい] です。
ErrorSeverityLevel	オプション。PowerCenter リポジトリサービスログに書き込まれるエラーメッセージの最小レベル。 <ul style="list-style-type: none"> - 致命 - エラー 警告 - 情報 - トレース - デバッグ デフォルトは info です。
HeartBeatInterval	オプション。PowerCenter リポジトリサービスがサービスのクライアントとの接続を確認する間隔。デフォルトは 60 秒です。
MaxResilienceTimeout	オプション。サービスが、レジリエンスのためにリソースを確保する最大時間（秒）です。デフォルトは 180 です。
MaximumConnections	オプション。リポジトリがリポジトリクライアントから受け入れる接続の最大数。デフォルトは 200 です。
MaximumLocks	オプション。リポジトリがメタデータオブジェクトに配置するロックの最大数デフォルトは 50,000 です。
OperatingMode	オプション。PowerCenter リポジトリサービスが実行されているモード。 <ul style="list-style-type: none"> - ノーマル - 占有 デフォルトは [ノーマル] です。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。

オプション	説明
OptimizeDatabaseSchema	<p>オプション。リポジトリコンテンツを作成するか、IBM DB2 または Microsoft SQL Server のリポジトリをバックアップしてリストアする場合に、リポジトリのデータベーススキーマを最適化します。有効にすると、PowerCenter リポジトリサービスは、CLOB カラムの代わりに Varchar カラムを含むリポジトリテーブルの作成を精度 2000 で試行します。リポジトリのパフォーマンスを向上するには、Varchar カラムを使用します。Varchar カラムを使用する場合は、ディスクの入力および出力を削減すると、データベースはカラムをキャッシュできます。</p> <p>このオプションを使用するには、次のリポジトリデータベースのページサイズ要件を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - IBM DB2。データベースのページサイズが 4KB 以上。ページサイズが 16KB 以上ある一時テーブル領域を少なくとも 1 つ。 - Microsoft SQL Server。データベースのページサイズが 8KB 以上。 <p>デフォルトでは無効になっています。</p>
PreserveMXData	<p>オプション。以前のバージョンのマッピングの MX データを保存します。デフォルトでは無効になっています。</p>
RACacheCapacity	<p>オプション。リポジトリエージェントキャッシュを有効にしたときに、キャッシュが含むことができるオブジェクトの数。デフォルトは 10,000 です。</p>
SecurityAuditTrail	<p>オプション。ユーザー、グループ、特権、および権限に対する変更を追跡します。デフォルトは [いいえ] です。</p>
ServiceResilienceTimeout	<p>オプション。サービスが他のサービスとの接続を確立または再確立しようと試みる時間 (秒) です。デフォルトは 180 です。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。</p>
TableOwnerName	<p>オプション。IBM DB2 リポジトリのリポジトリテーブルのオーナー名。</p>
TablespaceName	<p>オプション。IBM DB2 リポジトリのテーブルスペース名。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。</p>
TrustedConnection	<p>オプション。Windows 認証を使用して、Microsoft SQL Server データベースにアクセスします。デフォルトは [いいえ] です。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。</p>

CreateRole

ドメイン内にカスタム役割を作成します。さらに、ドメインまたはアプリケーションサービスタイプの役割に特権を割り当てることができます。システム定義の役割は作成できません。

infacmd isp CreateRole コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateRole

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

[<-SecurityDomain|-sdn> securitydomain]

<-Password|-pd> password

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-RoleName|-rn> role_name

[<-RoleDescription|-rd> role_description]

以下の表に、infacmd isp CreateRole のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-RoleName -rn	role_name	必須。ロールの名前。ロール名は、大文字と小文字が区別され、1～80 文字の長さで指定できます。タブ、改行文字、または次の特殊文字は使用できません。 , + " \ < > ; / * % ? 名前には、先頭と末尾の文字以外に ASCII スペース文字を使用できます。その他のスペース文字は許可されません。
-RoleDescription -rd	role_description	オプション。ロールの説明。説明は最大 1,000 文字です。タブ、改行文字、または次の特殊文字を含めることはできません。 < > " スペースまたは英数字以外の文字を含む説明を入力するには、説明を引用符で囲みます。

CreateSAPBWService

ドメイン内に SAP BW サービスを作成します。デフォルトでは、SAP BW サービスは作成時に有効になっています。

infacmd isp CreateSAPBWService コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
CreateSAPBWService
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ServiceName|-sn> service_name
<-NodeName|-nn> node_name
<-IntegrationService|-is> integration_service_name
<-RepositoryUser|-ru> user
<-RepositoryPassword|-rp> password
[<-ServiceOptions|-so> option_name=value ...]
[<-ServiceProcessOptions|-po> option_name=value ...]
```

[<-ServiceDisable|-sd>]

[<-LicenseName|-ln> license_name]

[<-FolderPath|-fp> full_folder_path]

以下の表に、infacmd isp CreateSAPBWSERVICE のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。SAP BW サービスの名前。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前の先頭または末尾にスペースを使用したり、改行やタブを入れたり、79 文字を超えたり、次の文字を含めたりすることはできません。 / * ? < > "
-NodeName -nn	node_name	必須。SAP BW サービスプロセスを実行するノードの名前。PowerCenter 環境が高可用性に設定されている場合、このオプションでプライマリノードの名前を指定できます。
-IntegrationService -is	integration_service_name	必須。SAP BW サービスが接続する統合サービスの名前。 スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RepositoryUser -ru	user	必須。リポジトリへの接続に使用するユーザー名。 スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RepositoryPassword -rp	パスワード	ドメインの安全な通信が有効になっていない場合は必須。ドメインの安全な通信が有効な場合は任意。 ユーザーパスワード。パスワードは、-rp オプションまたは INFA_REPOSITORY_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-rp オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceOptions -so	option_name=value	オプション。SAP BW サービスの実行方法を定義するサービスプロパティです。
-ServiceProcessOptions -po	option_name=value	オプション。SAP BW サービスの Service プロセスのプロパティ。
-ServiceDisable -sd	-	オプション。無効なサービスを作成します。このサービスを実行するには、サービスを有効にする必要があります。

オプション	引数	説明
-LicenseName -ln	license_name	有効なサービスを作成する場合は必須です。SAP BW サービスに割り当てるライセンスの名前。
-FolderPath -fp	full_folder_path	オプション。SAP BW サービスを作成するフォルダへの完全パス（ドメイン名を除く）。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i> デフォルトは"/"（ドメイン）です。

SAP BW サービスのオプション

次の形式で SAP BW サービスのオプションを入力します。

```
infacmd CreateSAPBWService ... -so option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、SAP BW サービスのオプションを示します。

オプション	説明
BWSystemConxString	オプション。RFC サーバプログラムへの接続のために、sapnwrfc.ini ファイルに定義された DEST エントリ。SAP BW サービス用の sapnwrfc.ini ファイルに異なる DEST エントリを作成した場合にこのプロパティを編集します。
RetryPeriod	オプション。前の接続が失敗した場合に SAP BW サービスが BW システムへの接続を試行するまで待機する秒数。デフォルトは 5 です。

SAP BW サービスプロセスのオプション

次の形式でサービスプロセスオプションを入力します。

```
infacmd CreateSAPBWService ... -po option_name=value
```

スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、SAP BW サービスプロセスオプションを示します。

オプション	説明
ParamFileDir	オプション。一時パラメータファイルディレクトリ。デフォルトは/Infa_Home/server/infa_shared/BWParam です。

CreateUser

ネイティブセキュリティドメインにユーザーアカウントを作成します。次に、ユーザーアカウントに役割、権限、および特権を割り当てることができます。ドメインでユーザーが実行できるタスクは、ユーザーに割り当てられた役割、権限、および特権によって決定されます。

infacmd isp CreateUser コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
CreateUser
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-NewUserName|-nu> new_user_name
<-NewUserPassword|-np> new_user_password
[<-NewUserFullName|-nf> new_user_full_name]
[<-NewUserDescription|-ds> new_user_description]
[<-NewUserEmailAddress|-em> new_user_email_address]
[<-NewUserPhoneNumber|-pn> new_user_phone_number]
```

以下の表に、infacmd isp CreateUser のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p>
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。</p>
-NewUserName -nu	new_user_name	<p>必須。ユーザーアカウントのログイン名。ユーザーアカウントのログイン名は、所属するセキュリティドメイン内で一意でなくてはなりません。</p> <p>ログイン名は、大文字と小文字が区別されず、1~80 文字で指定できます。タブ、改行文字、または次の特殊文字は使用できません。</p> <p>, + " \ < > ; / * & % ?</p> <p>名前には、先頭と末尾の文字以外に ASCII スペース文字を使用できます。その他のスペース文字は許可されません。</p>
-NewUserPassword -np	new_user_password	<p>必須。ユーザーアカウントのパスワードです。パスワードは、-np オプションまたは INFA_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-np オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p> <p>パスワードでは大文字と小文字が区別され、1 から 80 文字の範囲で指定できます。</p>
-NewUserFullName -nf	new_user_full_name	<p>オプション。ユーザーアカウントのフルネーム。スペースを含むかアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。完全名に次の特殊文字を使用できません。</p> <p>< > “</p>

オプション	引数	説明
-NewUserDescription -ds	new_user_description	オプション。ユーザアカウントの説明。スペースまたは英数字以外の文字を含む説明を入力するには、説明を引用符で囲みます。 完全名に次の特殊文字を使用できません。 < > “
-NewUserEmailAddress -em	new_user_email_address	オプション。ユーザーのメールアドレス。スペースまたは英数字以外の文字を含むアドレスを入力するには、アドレスを引用符で囲みます。 完全名に次の特殊文字を使用できません。 < > “ 電子メールアドレスを UserName@Domain の形式で入力します。
-NewUserPhoneNumber -pn	new_user_phone_number	オプション。ユーザーの電話番号。スペースまたは英数字以外の文字を含む電話番号を入力するには、電話番号を引用符で囲みます。 完全名に次の特殊文字を使用できません。 < > “

CreateWSHubService

ドメイン内に Web サービス Hub を作成します。デフォルトでは、Web サービス Hub は作成時に有効になっています。

infacmd isp CreateWSHubService コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateWSHubService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-FolderPath|-fp> full_folder_path]

<-NodeName|-nn> node_name

<-RepositoryService|-rs> repository_service_name

<-RepositoryUser|-ru> repository_user

<-RepositoryPassword|-rp> repository_password

[<-RepositoryUserSecurityDomain|-rsdn> repository_user_security_domain]

[<-ServiceDisable|-sd>]

[<-ServiceOptions|-so> option_name=value ...

<-LicenseName|-ln> license_name

以下の表に、infacmd isp CreateWSHubService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。ドメインの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-ServiceName -sn	service_name	作成する Web サービス Hub の名前。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前の先頭または末尾にスペースを使用したり、改行やタブを入れたり、79 文字を超えたり、次の文字を含めたりすることはできません。 / * ? < > "
-FolderPath -fp	full_folder_path	オプション。Web サービス Hub を作成するフォルダへの完全パス（ドメイン名を除く）。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i> デフォルトは"/"（ドメイン）です。
-NodeName -nn	node_name	必須。Web サービス Hub プロセスを実行するノードの名前。
-RepositoryService -rs	repository_service_name	必須。Web サービス Hub が依存するリポジトリサービスの名前です。 スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RepositoryUser -ru	repository_user	必須。リポジトリへの接続に使用するユーザー名。 スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RepositoryPassword -rp	repository_password	必須。ユーザーパスワード。パスワードは、-rp オプションまたは INFA_REPOSITORY_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-rp オプションを使用して設定したパスワードが優先されます。
-RepositoryUserSecurityDomain -rsdn	repository_user_security_domain	ドメインで LDAP 認証または Kerberos 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証が使用されている場合は任意。PowerCenter リポジトリユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。 セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ServiceDisable -sd	-	オプション。無効なサービスを作成します。このサービスを実行するには、サービスを有効にする必要があります。
-ServiceOptions -so	option_name=value ...	オプション。Web サービス Hub の実行方法を定義するサービスプロパティです。
-LicenseName -ln	license_name	必須。Web サービス Hub に割り当てるライセンスの名前。

Web Services Hub のオプション

次の形式で Web Services Hub のオプションを入力します。

```
infacmd CreateWHubService ... -so option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、Web Services Hub のオプションを示します。

オプション	説明
DTMTimeout	オプション。 <i>infacmd</i> が DTM への接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。デフォルトは 60 です。
ErrorSeverityLevel	オプション。Web Services Hub のログに対するエラーロギングの最小レベルは、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">- 致命- エラー- 警告- 情報- トレース- デバッグ デフォルトは info です。
HubHostName	オプション。Web Services Hub をホストしているマシンの名前。デフォルトは localhost です。変更を適用するには、Web Services Hub を再起動します。
HubPortNumber (http)	オプション。Tomcat で Web Services Hub が実行されるポート番号。デフォルトは 7333 です。変更を適用するには、Web Services Hub を再起動します。
HubPortNumber (https)	Tomcat で Web Services Hub が実行されるポート番号。Web Services Hub を HTTPS 上で実行することを選択する場合に必要です。デフォルトは 7343 です。
InternalHostName	オプション。Web Services Hub が Integration Service からの接続をリスンするホスト名。デフォルトは localhost です。変更を適用するには、Web Services Hub を再起動します。
InternalPortNumber	オプション。Web Services Hub が Integration Service からの接続をリスンするポート番号。デフォルトは 15555 です。変更を適用するには、Web Services Hub を再起動します。
MaxConcurrentRequests	オプション。利用可能なスレッドを処理する要求の最大数。この値により、処理可能な同時要求の最大数が決まります。デフォルトは 100 です。
MaxLMConnections	オプション。Web Services Hub に対して同時に開くことができる Integration Service への最大接続数。デフォルトは 20 です。
MaxQueueLength	オプション。発生する可能性のある要求の処理スレッドすべてが使用中の場合、受信する接続要求のキューの最大長。デフォルトは 5000 です。
SessionExpiryPeriod	オプション。セッション ID が無効になるまでセッションを未使用の状態にできる時間 (秒)。デフォルトは 3600 秒です。

オプション	説明
URLScheme	オプション。Web Services Hub に対して設定するセキュリティプロトコル (HTTP または HTTPS)。デフォルトは HTTP です。変更を適用するには、Web Services Hub を再起動します。
WSH_ENCODING	オプション。Web Services Hub の文字エンコード。デフォルトは UTF-16LE です。変更を適用するには、Web Services Hub を再起動します。
KeystoreFile	オプション。Web Services Hub で SSL セキュリティプロトコルを使用する場合に必要なキーと証明書が含まれるキーストアファイル。

DeleteDARepositoryContents

Data Analyzer リポジトリからリポジトリコンテンツを削除します。リポジトリのコンテンツを削除すると、レポートサービスのユーザーに割り当てられている特権および役割もすべて削除されます。

infacmd isp DeleteDARepositoryUsers コマンドでは、以下の構文を使用します。

DeleteDARepositoryContents

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

以下の表に、infacmd isp DeleteDARepositoryUsers のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。コンテンツを削除するレポートサービスの名前。

DeleteNamespace

LDAP セキュリティドメインと、セキュリティドメイン内のユーザーおよびグループを削除します。Informatica ドメインで LDAP または Kerberos 認証を使用している場合、LDAP セキュリティドメインを削除します。

infacmd isp DeleteNamespace コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
DeleteNamespace
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
```

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NameSpace|-ns> namespace

以下の表に、infacmd isp DeleteNamespace のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインユーザーが属する、作成するセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 -sdn の値を指定できます。または認証モードに基づいてデフォルトの値を使用できます。 - ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。デフォルトはネイティブです。LDAP 認証と連動するには、-sdn の値を指定する必要があります。 - ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ネイティブ認証の場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。環境変数を指定しない場合、使用されるデフォルト値は 180 秒です。
-NameSpace -ns	名前空間	必須。LDAP または Kerberos セキュリティドメインの名前。この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。名前にはスペースと次の特殊文字を使用できません。 , + / < > @ ; \ % ? 名前は 128 文字を超えることはできません。名前の最初および最後の文字以外で、ASCII のスペース文字を使用できます。その他のスペース文字は使用できません。

DisableNodeResource

Informatica リソースを無効にします。Informatica リソースには、ファイルディレクトリリソース、カスタムリソースおよび接続リソースが含まれます。必要なリソースがないノードにロードバランサがタスクを分散しないように、利用できないリソースを無効にします。

ファイルディレクトリリソース、カスタムリソースおよび接続リソースを無効にすることができます。

グリッド上で PowerCenter 統合サービスが実行されている場合、ロードバランサはリソースを使用してセッション、コマンド、定義済みイベント待ちタスクを分散することができます。PowerCenter 統合サービスがリソースをチェックするように構成されている場合、ロードバランサでは、使用可能なリソースを含むノードにタスクを分散します。

デフォルトでは、ノード上のすべての接続リソースは有効です。

infacmd isp DisableNodeResource コマンドでは、以下の構文を使用します。

DisableNodeResource

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

[<-ResourceCategory|-rc> resource_category ("PCIS", "DIS")]

<-ResourceType|-rt> resource_type ("Custom", "File Directory", "Connection")

<-ResourceName|-rn> resource_name

以下の表に、infacmd isp DisableNodeResource のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port . ..	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_ seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	node_name	必須。リソースを定義するノードの名前。

オプション	引数	説明
-ResourceCategory -rc	resource_category	オプション。リソースのカテゴリ。有効なカテゴリは以下のとおりです。 - PCIS。PowerCenter 統合サービスのリソース。 - DIS。将来の使用のために予約済み。 デフォルトは PCIS です。
-ResourceType -rt	resource_type	必須。リソースのタイプ。有効なタイプは以下のとおりです。 - Custom - File Directory - 接続
-ResourceName -rn	resource_name	必須。リソース全体の名前。 ノードに使用可能なすべてのリソース名を一覧表示するには、 <code>infacmd isp ListNodeResources</code> コマンドを実行します。

DisableService

サービス名に該当するアプリケーションサービスを無効にします。サービスを無効にすると、すべてのサービスプロセスが停止します。

システムサービスを含むすべてのアプリケーションサービスタイプを無効にします。

`infacmd isp DisableService` コマンドでは、以下の構文を使用します。

`DisableService`

`<-DomainName|-dn> domain_name`

`<-UserName|-un> user_name`

`<-Password|-pd> password`

`[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]`

`[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]`

`[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]`

`<-ServiceName|-sn> service_name`

`<-Mode|-mo> disable_mode`

以下の表に、infacmd isp DisableService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できません。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-ServiceName -sn	service_name	必須。無効にするサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-Mode -mo	disable_mode	<p>必須。サービスを無効にする方法を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 完了。すべてのサービスプロセスが停止した後に、サービスを無効にします。 - 停止。PowerCenter 統合サービスの場合、実行中のすべてのワークフローを停止して、PowerCenter 統合サービスを無効にします。 サービスがアナリストサービスである場合は、すべてのジョブを停止してから、サービスを無効にします。 - 強制終了。全プロセスを直ちに停止してから、サービスを停止します。

注: Listener Service の Stop 無効化モードを指定すると、このコマンドは Listener サブタスクの完了を最大 30 秒待機してから、サービスと Listener Service プロセスをシャットダウンします。

DisableServiceProcess

特定のノードでサービスプロセスを無効にします。

ノードにメンテナンスが必要な場合、特定のノードのサービスプロセスを無効にできます。

infacmd isp DisableServiceProcess コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
DisableServiceProcess
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ServiceName|-sn> service_name
<-NodeName|-nn> node_name
<-Mode|-mo> disable_mode
```


以下の表に、infacmd isp DisableServiceProcess のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。無効にするプロセスに関連付けられたサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

オプション	引数	説明
-NodeName -nn	node_name	必須。サービスプロセスを実行するノードの名前。
-Mode -mo	disable_mode	<p>必須。サービスプロセスを無効にする方法を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 完全。無効にする前に、サービスプロセスが現在のタスクを完了することを許可します。 - 停止。統合サービスプロセスの場合、実行中のすべてのワークフローを停止してから、統合サービスプロセスを無効にします。 - 強制終了。現在のタスクを完了する前に、サービスプロセスを無効にします。

DisableUser

ドメイン内のユーザーアカウントを無効にします。ユーザーのドメインへのアクセスを一時的に中断する場合、ユーザーアカウントを無効にできます。

ユーザーアカウントを無効にすると、ユーザーは PowerCenter アプリケーションにログインできなくなります。

infacmd isp DisableUser コマンドでは、以下の構文を使用します。

DisableUser

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExistingUserName|-eu> existing_user_name

[<-ExistingUserSecurityDomain|-esd> existing_user_security_domain]

以下の表に、infacmd isp DisableUser のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間（秒）。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
ExistingUserName -eu	existing_user_name	必須。無効にするユーザアカウント。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-ExistingUserSecurityDomain -esd	existing_user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。無効化対象ユーザーが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。

EditUser

ネイティブセキュリティドメイン内のユーザーアカウントの一般的なプロパティを編集します。

LDAP セキュリティドメインのユーザーアカウントのプロパティは編集できません。

ネイティブユーザーのログイン名は変更できません。

infacmd isp EditUser コマンドでは、以下の構文を使用します。

EditUser

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExistingUserName|-eu> existing_user_name

[<-ExistingUserFullName|-ef> Existing_user_full_name]

[<-ExistingUserDescription|-ds> Existing_user_description]

[<-ExistingUserEmailAddress|-em> Existing_user_email_address]

[<-ExistingUserPhoneNumber|-pn> Existing_user_phone_number]

以下の表に、infacmd isp EditUser のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ExistingUserName -eu	existing_user_name	必須。編集するユーザアカウント。
-ExistingUserFullName -sf	existing_user_full_name	オプション。変更された、ユーザアカウントの完全名。スペースを含むかアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。完全名に次の特殊文字を使用できません。 < > “
-ExistingUserDescription -ds	existing_user_description	オプション。変更された、ユーザアカウントの説明。スペースまたは英数字以外の文字を含む説明を入力するには、説明を引用符で囲みます。 完全名に次の特殊文字を使用できません。 < > “
-ExistingUserEMailAddress -em	existing_user_email_address	オプション。変更された、ユーザーのメールアドレス。スペースまたは英数字以外の文字を含むアドレスを入力するには、アドレスを引用符で囲みます。 完全名に次の特殊文字を使用できません。 < > “
-ExistingUserPhoneNumber -pn	existing_user_phone_number	オプション。変更された、ユーザーの電話番号。スペースまたは英数字以外の文字を含む電話番号を入力するには、電話番号を引用符で囲みます。 電話番号に次の特殊文字は使用できません。 < > “

EnableNodeResource

Informatica リソースを有効にします。Informatica リソースには、ファイルまたはディレクトリリソース、カスタムリソース、接続リソースがあります。ノード上のリソースを有効にする場合、ロードバランサがリソースを必要とするタスクをノードに分散することができます。

グリッド上で PowerCenter 統合サービスが実行されている場合、ロードバランサはリソースを使用してセッション、コマンド、定義済みイベント待ちタスクを分散することができます。PowerCenter 統合サービスがリソースをチェックするように設定されている場合、ロードバランサは、リソースが追加されて有効になっているノードにタスクを分散します。

infacmd isp EnableNodeResource コマンドでは、以下の構文を使用します。

EnableNodeResource

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

[<-ResourceCategory|-rc> resource_category ("PCIS", "DIS")]

<-ResourceType|-rt> resource_type ("Custom", "File Directory", "Connection")

<-ResourceName|-rn> resource_name

以下の表に、infacmd isp EnableNodeResource のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できません。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	node_name	必須。リソースを定義するノードの名前。
-ResourceCategory -rc	resource_category	オプション。リソースのカテゴリ。有効なカテゴリは以下のとおりです。 - PCIS。PowerCenter 統合サービスのリソース。 - DIS。将来の使用のために予約済み。 デフォルトは PCIS です。
-ResourceType -rt	resource_type	必須。リソースのタイプ。有効なタイプは以下のとおりです。 - Custom - File Directory - 接続
-ResourceName -rn	resource_name	必須。リソース全体の名前。 ノードに使用できるすべてのリソースを一覧表示するには、ListNodeResources コマンドを実行します。

EnableService

サービス名に対応するアプリケーションサービスを有効にします。

システムサービスを含むすべてのアプリケーションサービスタイプを有効にします。Informatica Administrator を有効にすることもできます。

infacmd isp EnableService コマンドでは、以下の構文を使用します。

EnableService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

以下の表に、infacmd isp EnableService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。有効にするサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。 Administrator ツールを起動するには、「_adminconsole」と入力します。

EnableServiceProcess

特定のノードのサービスプロセスを有効にします。

infacmd isp EnableServiceProcess コマンドでは、以下の構文を使用します。

EnableServiceProcess

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-NodeName|-nn> node_name

以下の表に、infacmd isp EnableServiceProcess のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in _seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。有効にするプロセスに関連付けられたサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-NodeName -nn	node_name	必須。サービスプロセスを有効にするノードの名前。

EnableUser

ドメイン内のユーザーアカウントを有効にします。

infacmd isp EnableUser コマンドでは、以下の構文を使用します。

EnableUser

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExistingUserName|-eu> existing_user_name

[<-ExistingUserSecurityDomain|-esd> existing_user_security_domain]

以下の表に、infacmd isp EnableUser のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
ExistingUserName -eu	existing_user_name	必須。有効にするユーザーアカウント。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-ExistingUserSecurityDomain -esd	existing_user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。有効化対象ユーザーが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。

ExportDomainObjects

ネイティブユーザー、ネイティブグループ、ロール、および接続を Informatica ドメインから XML ファイルへエクスポートします。

ドメイン内の一部のオブジェクトをエクスポートする場合は、infacmd エクスポート制御ファイルを使用して、エクスポートするオブジェクトをフィルタリングします。

ExportDomainObjects コマンドと ImportDomainObjects コマンドを組み合わせて使用すれば、同じバージョンの 2 つのドメイン間でオブジェクトを移行できます。別のバージョンのドメインからネイティブユーザー

およびネイティブグループをエクスポートするには、`infacmd isp exportUsersAndGroups` コマンドを使用します。

グループをエクスポートすると、グループ内のすべてのサブグループとユーザーがエクスポートされます。

管理者ユーザー、管理者グループ、管理者グループ内のユーザー、Everyone ループ、LDAP ユーザー、または LDAP グループをエクスポートすることはできません。Informatica ドメイン内で LDAP ユーザーおよびグループをレプリケートするには、LDAP ユーザーと LDAP グループを LDAP ディレクトリサービスから直接インポートします。

Java メモリエラーでコマンドが失敗する場合は、`infacmd` が使用するシステムメモリを増やします。システムメモリを増やすには、`ICMD_JAVA_OPTS` 環境変数の `-Xmx` 値を設定します。

`infacmd isp ExportDomainObjects` コマンドでは、以下の構文を使用します。

`ExportDomainObjects`

```
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ExportFile|-fp> export_file_name
[<-ExportControlFile|-cp> export_control_file_name]
[<-RetainPassword|-rp> retain_password]
[<-Force|-f>]
```

以下の表に、`infacmd isp ExportDomainObjects` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
<code>-DomainName</code> <code>-dn</code>	<code>domain_name</code>	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、 <code>-dn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、 <code>-dn</code> オプションが優先されます。
<code>-UserName</code> <code>-un</code>	<code>user_name</code>	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、 <code>-un</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、 <code>-un</code> オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザ名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ExportFile -fp	export_file_name	必須。エクスポートファイルのパスとファイル名。 ファイルパスを指定しない場合、infacmd を実行するディレクトリにファイルが作成されます。
-ExportControlFile -cp	export_control_file	オプション。エクスポートするオブジェクトのフィルタリングに使用するエクスポート制御ファイルの名前とパス。

オプション	引数	説明
-RetainPassword -rp	retain_password	オプション。True に設定すると、ユーザーおよび接続の暗号化されたパスワードがエクスポートファイルに保持されます。False に設定すると、ユーザーパスワードと接続パスワードは空の文字列としてエクスポートされます。デフォルトは false です。
-Force -f	-	オプション。同じ名前のエクスポートファイルがすでに存在する場合、ファイルを上書きします。このオプションを省略した場合、ファイルを上書きする前に確認を求めるプロンプトが表示されます。

ExportUsersAndGroups

ネイティブユーザーおよびネイティブグループを XML ファイルにエクスポートします。

Java メモリエラーでコマンドが失敗する場合は、`infacmd` が使用するシステムメモリを増やします。システムメモリを増やすには、`ICMD_JAVA_OPTS` 環境変数の `-Xmx` 値を設定します。

`infacmd isp ExportUsersAndGroups` コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ExportUsersAndGroups
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ExportFile|-ef> export_file_name
[<-Force|-f>]
```


以下の表に、infacmd isp ExportUsersAndGroups のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-ExportFile -ef	export_file_name	必須。書き込むエクスポートファイルの名前とファイルパス。 ファイルパスを指定しない場合、infacmd は、infacmd を実行するディレクトリにバックアップファイルを作成します。
-Force -f	-	オプション。同じ名前のファイルが既に存在する場合、エクスポートファイルを上書きします。このオプションを省略した場合、コマンドは、ファイルを削除する前に確認を求めるプロンプトを表示します。

関連項目：

- [「ImportUsersAndGroups」 \(ページ 408\)](#)

GetFolderInfo

フォルダー情報を取得します。フォルダー情報には、フォルダーパス、名前、説明などの情報があります。

infacmd isp GetFolderInfo コマンドを実行するには、フォルダーに対する権限が必要です。

infacmd isp GetFolderInfo コマンドでは、以下の構文を使用します。

GetFolderInfo

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-FolderPath|-fp> full_folder_path

以下の表に、infacmd isp GetFolderInfo のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.inf ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-FolderPath -fp	full_folder_path	必須。フォルダへの完全パス (ドメイン名を除く)。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i>

GetLastError

ノードで実行中のアプリケーションサービスに対する最新のエラーメッセージを取得します。

エラーメッセージは、重要度レベルがエラーまたは**重大 (FATAL)** のログイベントのことです。このコマンドでは、Informatica サービスが最後に起動する前に発生したエラーを返しません。

エラーメッセージをファイルに取り出すことも、画面に表示することもできます。

infacmd isp GetLastError コマンドでは、以下の構文を使用します。

GetLastError

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-NodeName|-nn> node_name

[<-Format|-fm> format_TEXT_XML]

[<-MaxEvents|-me> maximum_number_of_error_events]

以下の表に、infacmd isp GetLastError のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレールムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port . ..	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_ seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	オプション。エラーメッセージを取り出すサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-NodeName -nn	node_name	必須。サービスが実行されるノードの名前。

オプション	引数	説明
-Format -fm	フォーマット	オプション。エラーメッセージの形式。有効なタイプは以下のとおりです。 - テキスト - XML 形式を指定しない場合、infacmd ではメッセージがテキスト形式で表示され、行が 80 文字で折り返されます。
-MaxEvents -me	maximum_number_of_error_events	オプション。取り出すエラーメッセージの最大数。デフォルトは 1 です。最大値は 20 です。

GetLog

ログイベントを取得します。ドメインまたはサービスのログイベントを取得できます。ログイベントをファイルに書き込むことも、画面に表示することもできます。

ドメインのログイベントを取り出すには、ドメインの権限が必要です。サービスのログイベントを取り出すには、サービスに関する権限が必要です。

infacmd isp GetLog コマンドでは、以下の構文を使用します。

GetLog

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-StartDate|-sd> start_date_time]

[<-EndDate|-ed> end_date_time]

[<-ReverseOrder|-ro>]

[<-Format|-fm> format_TEXT_XML_BIN]

[<-OutputFile|-lo> output_file_name]

[<-ServiceType|-st> service_type AS|BW|CMS|DIS|IS|MM|MRS|RPS|RS|WS|ES|SCH|RMS|DOMAIN|SEARCH|]

[<-ServiceName|-sn> service_name]

[<-Severity|-svt> FATAL_ERROR_WARNING_INFO_TRACE_DEBUG]

以下の表に、infacmd isp GetLog のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port . ..	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_ seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-StartDate -sd	start_date_time	<p>オプション。この日時から開始されるログイベントを返します。以下のいずれかの形式で日付を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - MM/dd/yyyy_hh:mm:ssa_Z - MM/dd/yyyy_hh:mm:ssa_Z - MM/dd/yyyy_hh:mm:ssa - MM/dd/yyyy_hh:mm:ssa - yyyy-MM-dd_HH:mm:ss_Z - yyyy-MM-dd_HH:mm:ss_Z - yyyy-MM-dd_HH:mm:ss - yyyy-MM-dd_HH:mm - MM/dd/yyyy hh:mm:ssa Z - MM/dd/yyyy hh:mm:ssa Z - MM/dd/yyyy hh:mm:ssa - MM/dd/yyyy hh:mm:ssa - yyyy-MM-dd HH:mm:ss_Z - yyyy-MM-dd HH:mm:ss_Z - yyyy-MM-dd HH:mm:ss - yyyy-MM-dd HH:mm - MM/dd/yyyy - yyyy-mm-dd <p>「a」は am/pm マーカー（「a」は a.m.、「p」は p.m.）であり、「Z」はタイムゾーンのマーカー（「-0800」または「GMT」など）です。</p>
-EndDate -ed	end_date_time	<p>オプション。この日時までに終了するログイベントを返します。StartDate オプションと同じ形式で日時を入力します。終了日を開始日より前の日付で入力すると、GetLog を実行してもログイベントは返されません。</p>
-ReverseOrder -ro	-	<p>オプション。最新のタイムスタンプに従って、ログイベントを取り出します。</p>
-Format -fm	フォーマット	<p>オプション。ログイベントの形式。有効なタイプは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - テキスト - XML - Bin (バイナリ) <p>バイナリを選択した場合、OutputFile オプションを使用してファイル名を指定する必要があります。</p> <p>形式を指定しない場合、infacmd ではテキスト形式が使用され、行が 80 文字で折り返されます。</p>

オプション	引数	説明
-OutputFile -lo	output_file_name	書き込むログファイルの名前とファイルパス。デフォルトでは、サービスマネージャはマスタゲートウェイノードの server\infra_shared\log ディレクトリを使用します。 このオプションを省略すると、画面上にログイベントが表示されます。 出力ファイルタイプにバイナリを指定する場合、このオプションを使用して名前を指定する必要があります。
-ServiceType -st	service_type	オプション。ログイベントを取り出す対象のサービスの種類。サービスタイプを1つ指定できます。 このオプションを省略すると、すべてのサービスタイプを対象としたログイベントが取り出されます。 サービスタイプ： - AS。アナリストサービス - BW。SAP BW サービス - CMS。コンテンツ管理サービス - DIS。データ統合サービス - IS。PowerCenter 統合サービス - MM。Metadata Manager サービス - MRS。モデルリポジトリサービス - RPS。レポートサービス - RS。PowerCenter リポジトリサービス - WS。Web サービス Hub - ES。電子メールサービス - SCH。スケジューラサービス - RMS。リソースマネージャサービス - DOMAIN。ドメイン - SEARCH。検索サービス
-ServiceName -sn	service_name	オプション。ログイベントを取り出すサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-Severity -svt	severity_level	オプション。メッセージの重要度。重要度のタイプ： - 致命的 - エラー - 警告 - 情報 - トレース - デバッグ

GetNodeName

ノード名を返します。

ノード上の nodemeta.xml ファイルからノード名を取得します。名前を取り出すノード上で、このコマンドを入力する必要があります。

infacmd isp GetNodeName コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
GetNodeName
[<-OutputFile|-o>] output_file
```

-o オプションを使用せずにコマンドを実行すると、ノード名がコマンドウィンドウに出力されます。-o オプションを使用して出力ファイルを指定する場合は、ファイル名とパスを入力します。例:

```
isp\bin\infacmd.bat getNodeName -o c:\node_name.txt
```

コマンドが指定されたパスに、node_name.txt というファイルを作成します。ノード名はこのファイルに出力されます。このファイルが存在する場合は上書きされます。

GetServiceOption

PowerCenter 統合サービス、PowerCenter リポジトリサービス、SAP BW サービス、または Web サービス Hub のサービスプロパティの値を取得します。データ統合サービスまたはアナリストサービスのオプションには、infacmd dis ListServiceOptions または infacmd as ListServiceOptions を実行します。

例えば、リポジトリデータベースタイプを取得できます。

infacmd isp GetServiceOption コマンドでは、以下の構文を使用します。

GetServiceOption

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-OptionName|-op> option_name

以下の表に、infacmd isp GetServiceOption のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。値を取り出すサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-OptionName -op	option_name	必須。値を取り出すオプションの名前。サービスタイプに応じて次のオプションを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - 統合サービスのオプションの詳細については、「統合サービスのオプション」 (ページ 318)を参照してください。 - SAP BW サービスの場合、「BWSystemConXString (SAP Destination R タイプ)」または「RetryPeriod (秒単位の再試行期間)」を指定します。 - Web サービス Hub オプションの詳細については、「Web Services Hub のオプション」 (ページ 352)を参照してください。

GetServiceProcessOption

ノード上で実行中の PowerCenter 統合サービスプロセスのプロパティ値を取得します。

infacmd isp GetServiceProcessOption コマンドでは、以下の構文を使用します。

GetServiceProcessOption

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-NodeName|-nn> node_name

<-OptionName|-op> option_name

以下の表に、infacmd isp GetServiceProcessOption のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。値を取り出すサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-NodeName -nn	node_name	必須。サービスプロセスを実行するノードの名前。
-OptionName -op	option_name	必須。値を取り出すオプションの名前。

関連項目：

- [「Integration Service プロセスのオプション」 \(ページ 323\)](#)

GetServiceProcessStatus

ノード上でのアプリケーションサービスプロセスのステータスを取得します。サービスプロセスは、有効または無効の場合があります。

infacmd isp GetServiceProcessStatus コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
GetServiceProcessStatus
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
```

```

<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ServiceName|-sn> service_name
<-NodeName|-nn> node_name

```

以下の表に、infacmd isp GetServiceProcessStatus のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。状態が必要なプロセスを実行中のサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-NodeName -nn	node_name	必須。サービスプロセスを実行するノードの名前。

GetServiceStatus

アプリケーションサービスのステータスを取得します。

リポジトリサービス、データ統合サービス、アナリストサービス、統合サービス、Web サービス Hub、SAP BW サービスなどのサービスのステータスを取り出すことができます。サービスは、有効または無効にできません。

infacmd isp GetServiceStatus コマンドでは、以下の構文を使用します。

GetServiceStatus

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

以下の表に、infacmd isp GetServiceStatus のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。状態が必要なサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

GetSessionLog

最新のセッションの実行に関するログイベントを取得します。このコマンドを実行する場合、PowerCenter リポジトリサービスが実行されている必要があります。

infacmd isp GetSessionLog コマンドでは、以下の構文を使用します。

GetSessionLog

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-UserName|-un> user_name]

[<-Password|-pd> password]

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-Format|-fm> format_TEXT_XML_BIN]

[<-OutputFile|-lo> output_file_name]

<-IntegrationService|-is> integration_service_name

<-RepositoryService|-rs> repository_service_name

[<-RepositoryDomain|-rd> domain_of_repository]

<-RepositoryUser|-ru> repository_user]

<-RepositoryPassword|-rp> repository_password]

[<-RepositoryUserSecurityDomain|-rsdn> repository_user_security_domain]

<-FolderName|-fn> repository_folder_name

<-Workflow|-wf> workflow_name

[<-RunInstance|-in> run_instance_name] | [<-RunId|-id> workflow_run_id]

<-Session|-ss> session_name

注: -un、-pd、および-sdn オプションが指定されない場合、infacmd isp GetSessionLog コマンドは-ru、-rp、および-rsdn オプションの対応する値を使用します。

以下の表に、infacmd isp GetSessionLog のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合、デフォルトはインストール中に指定されたユーザー領域です。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_se conds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-Format -fm	フォーマット	オプション。セッションログのフォーマット。有効なタイプは以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - テキスト - XML - Bin (バイナリ) バイナリを選択した場合、OutputFile オプションを使用してファイル名を指定する必要があります。 形式を指定しない場合、 <i>infacmd</i> ではテキスト形式が使用され、行が 80 文字で折り返されます。
-OutputFile -lo	output_file_name	セッションログファイルの名前とパス。デフォルトでは、サービスマネージャはマスタゲートウェイノードの <code>server\infa_shared\log</code> ディレクトリを使用します。 このオプションを省略すると、画面上にログイベントが表示されます。 出力ファイルタイプにバイナリを指定する場合、このオプションを使用して名前を指定する必要があります。
-IntegrationService -is	integration_service_name	必須。セッションを実行する統合サービスの名前。 スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RepositoryService -rs	repository_service_name	必須。セッションを含むリポジトリサービスの名前。 スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RepositoryDomain -rd	domain_of_repository	リポジトリがローカルドメイン以外のドメインにある場合に必要となります。リポジトリサービスのドメイン。 スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RepositoryUser -ru	repository_user	ネイティブまたは LDAP 認証で必須。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。リポジトリへの接続に使用するユーザー名。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RepositoryPassword -rp	repository_password	ネイティブまたは LDAP 認証で必須。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ユーザーパスワード。パスワードは、 <code>-rp</code> オプションまたは <code>INFA_REPOSITORY_PASSWORD</code> 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、 <code>-rp</code> オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-RepositoryUserSecurityDomain -rsdn	repository_user_security_domain	LDAP または Kerberos 認証で必須。ドメインでネイティブの認証が使用されている場合は任意。PowerCenter リポジトリユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。 セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 このオプションを指定しない場合、コマンドはリポジトリユーザーセキュリティドメインをネイティブに設定します。

オプション	引数	説明
-FolderName -fn	repository_folder_name	必須。セッションが格納されているフォルダー。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-Workflow -wf	workflow_name	必須。セッションが格納されているワークフローの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RunInstance -in	run_instance_name	セッションを含むワークフロー実行インスタンスの名前。このオプションは、同時ワークフローを実行している場合に使用します。-in または -id オプションのどちらかを使用しますが、両方は使用しません。
-RunId -id	workflow_run_id	セッションを含むワークフロー実行インスタンスの実行識別番号 (実行 ID)。このオプションは、同時ワークフローを実行している場合に使用します。-in または -id オプションのどちらかを使用しますが、両方は使用しません。 注: このオプションは、ワークフローに一意の実行インスタンス名がない場合に使用します。
-Session -ss	session_name	必須。セッション名。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

GetSystemLogDirectory

システムログディレクトリのパスを返します。

このコマンドは、システムログのディレクトリパスを取得するドメイン上で入力する必要があります。

infacmd isp GetSystemLogDirectory コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
GetSystemLogDirectory
[<-OutputFile|-o> output_file]
```

-o オプションを使用せずにコマンドを実行すると、ディレクトリパスがコマンドウィンドウに出力されます。

-o オプションを使用して出力ファイルを指定する場合は、出力ファイルのファイル名とパスを入力します。

例:

```
isp\bin\infacmd.bat getSystemLogDirectory -o c:\sys_log_dir.txt
```

このコマンドは、指定されたパスに sys_log_dir.txt というファイルを作成し、そのファイルにシステムログディレクトリのパスを出力します。このファイルが存在する場合は上書きされます。

getUserActivityLog

単一ユーザーまたは複数のユーザーのユーザーアクティビティログを取得します。ユーザーアクティビティログはファイルに書き込むか、またはコンソールに表示できます。

infacmd isp getUserActivityLog コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
getUserActivityLog
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-Users|-usrs> user1:[securitydomain] user2:[securitydomain]...]
[<-StartDate|-sd> start_date]
[<-EndDate|-ed> end_date]
[<-ActivityCode|-ac> activity_code]
[<-ActivityText|-atxt> activity_text]
[<-ReverseOrder|-ro> true]
[<-OutputFile|-lo> output_file_name]
[<-Format|-fm> output_format_BIN_TEXT_XML]
```

以下の表に、infacmd isp getUserActivityLog のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p>
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、<code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。</p>

オプション	引数	説明
-Users -usrs	user1:[securitydomain] user2: [securitydomain] ...	<p>オプション。ログイベントを取得する対象のユーザーのリスト。ユーザーが複数の場合はスペースで区切ります。1つのセキュリティドメインまたはすべてのセキュリティドメインの複数のユーザーのログを表示するには、ワイルドカード記号(*)を使用します。例えば、次の文字列はオプションに対する有効な値です。</p> <pre>user:Native "user:*" "user*" "*_users_*" "*:Native"</pre> <p>ワイルドカード記号を使用する場合、引数を引用符で囲みます。</p> <p>ユーザーを入力しないと、コマンドはすべてのユーザーに対するログイベントを取得します。</p>
-StartDate -sd	start_date	<p>オプション。指定した日時から開始するログイベントを返します。</p> <p>以下のいずれかの形式で日付を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - MM/dd/yyyy - MM/dd/yyyy HH:mm:ss - yyyy-MM-dd - yyyy-MM-dd HH:mm:ss
-EndDate -ed	end_date	<p>オプション。この日時までに終了するログイベントを返します。StartDate オプションと同じ形式で日時を入力します。</p> <p>終了日を開始日より前の日付で入力すると、このコマンドを実行してもログイベントは返されません。</p>
-ActivityCode -ac	activity_code	<p>オプション。アクティビティコードに基づいてログイベントを返します。</p> <p>複数のアクティビティコードに対するログイベントを取得するには、ワイルドカード記号(*)を使用します。有効なアクティビティコードは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - CCM_10437。アクティビティが成功したことを示します。 - CCM_10438。アクティビティが失敗したことを示します。

オプション	引数	説明
-ActivityText -atxt	activity_text	オプション。アクティビティテキストで検出された文字列に基づいてログイベントを返します。 複数のイベントに対するログを取得するには、ワイルドカード記号 (*) を使用します。例えば、以下のパラメータでは、説明に「Enabling service」という句が含まれるすべてのログイベントが返されます。 "*Enabling service*" ワイルドカード記号を使用する場合、引数を引用符で囲みます。
-ReverseOrder -ro	true	オプション。時系列とは逆の順序でログイベントを出力します。このパラメータを指定しないと、コマンドはログイベントを時系列順に表示します。
-OutputFile -lo	output_file_name	オプション。出力ファイルの名前。このパラメータを指定しないと、コマンドはログをコマンドラインに表示します。
-Format -fm	output_format_BIN_TEXT_XML	オプション。ログ出力ファイルの形式。有効な形式は以下のとおりです。 - Bin (バイナリ) - テキスト - XML デフォルトの形式はテキストです。形式をバイナリに設定した場合、-OutputFile オプションを使用してファイル名を指定する必要があります。

GetWorkflowLog

最新のワークフローの実行に関するログイベントを取得します。このコマンドを実行する場合、PowerCenter リポジトリサービスが実行されている必要があります。

infacmd isp GetWorkflowLog コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
GetWorkflowLog
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-UserName|-un> user_name]
[<-Password|-pd> password]
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-Format|-fm> format_TEXT_XML_BIN]
```



```

[<-OutputFile|-lo> output_file_name]
<-IntegrationService|-is> integration_service_name
<-RepositoryService|-rs> repository_service_name
[<-RepositoryDomain|-rd> domain_of_repository]
<-RepositoryUser|-ru> repository_user
<-RepositoryPassword|-rp> repository_password
[<-RepositoryUserSecurityDomain|-rsdn> repository_user_security_domain]
<-FolderName|-fn> repository_folder_name
<-Workflow|-wf> workflow_name
[<-RunInstance|-in> run_instance_name] | [<-RunId|-id> workflow_run_id]

```

注: -un、-pd、および-sdn オプションが指定されない場合、infacmd isp GetWorkflowLog コマンドは-ru、-rp、および-rsdn オプションの対応する値を使用します。

以下の表に、infacmd isp GetWorkflowLog のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合、デフォルトはインストール中に指定されたユーザー領域です。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_secs	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-Format -fm	フォーマット	オプション。セッションログのフォーマット。有効なタイプは以下のとおりです。 - テキスト - XML - Bin (バイナリ) バイナリを選択した場合、OutputFile オプションを使用してファイル名を指定する必要があります。 形式を指定しない場合、infacmd ではテキスト形式が使用され、行が 80 文字で折り返されます。
-OutputFile -lo	output_file_name	ワークフローログファイルの名前とパス。デフォルトでは、サービスマネージャはマスタゲートウェイノードの server\infa_shared\log ディレクトリを使用します。このオプションを省略すると、画面上にログイベントが表示されます。出力ファイルタイプにバイナリを指定する場合、このオプションを使用して名前を指定する必要があります。
-IntegrationService -is	integration_service_name	必須。ワークフローを実行する統合サービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RepositoryService -rs	repository_service_name	必須。ワークフローを含むリポジトリサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RepositoryDomain -rd	domain_of_repository	リポジトリがローカルドメイン以外のドメインにある場合に必要となります。リポジトリサービスのドメイン。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

オプション	引数	説明
-RepositoryUser -ru	user	ネイティブまたは LDAP 認証で必須。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。リポジトリへの接続に使用するユーザー名。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RepositoryPassword -rp	パスワード	ネイティブまたは LDAP 認証で必須。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ユーザーパスワード。パスワードは、-rp オプションまたは INFA_REPOSITORY_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-rp オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-RepositoryUserSecurityDomain -rsdn	repository_user_security_domain	LDAP または Kerberos 認証で必須。ドメインでネイティブの認証が使用されている場合は任意。PowerCenter リポジトリユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。 セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。このオプションを指定しない場合、コマンドはリポジトリユーザーセキュリティドメインをネイティブに設定します。
-FolderName -fn	repository_folder_name	必須。ワークフローが格納されているフォルダーの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-Workflow -wf	workflow_name	必須。ワークフロー名。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RunInstance -in	run_instance_name	ワークフロー実行インスタンスの名前。このオプションは、同時ワークフローを実行している場合に使用します。-in または -id オプションのどちらかを使用しますが、両方は使用しません。
-RunId -id	workflow_run_id	ワークフロー実行インスタンスの実行識別番号（実行 ID）。このオプションは、同時ワークフローを実行している場合に使用します。-in または -id オプションのどちらかを使用しますが、両方は使用しません。 注: このオプションは、ワークフローに一意的な実行インスタンス名がない場合に使用します。

Help

infacmd コマンド用のオプションと引数を表示します。

コマンド名を省略した場合、infacmd ではすべてのコマンドが一覧表示されます。

infacmd Help コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
Help <-plugin_ID> [command]
```

例えば、「`infacmd isp Help GetServiceStatus`」と入力した場合、`infacmd` は `infacmd isp GetServiceStatus` コマンドに対して以下のオプションおよび引数を返します。

```
GetServiceStatus
<-DomainName|-dn> domain_name <-UserName|-un> user_name <-Password|-pd> password [<-Gateway|-hp>
gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds] <-ServiceName|-sn> service_name
```

例えば、「`infacmd isp Help UpdateGatewayInfo`」と入力した場合、`infacmd` は `infacmd isp UpdateGatewayInfo` コマンドに対して以下のオプションおよび引数を返します。

```
UpdateGatewayInfo
<-DomainName|-dn> domain_name
<-GatewayAddress|-dg> domain_gateway_host:port
```

以下の表に、`infacmd Help` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-	plugin_ID	オプション。どの <code>infacmd</code> プログラムのヘルプを表示するかを示します。デフォルトは <code>isp</code> です。
-	コマンド	オプション。コマンド名。コマンド名を省略した場合、 <code>infacmd</code> ではすべてのコマンドが一覧表示されます。

ImportDomainObjects

ネイティブユーザー、ネイティブグループ、ロール、および接続を XML ファイルから Informatica ドメインへインポートします。

ファイル内の一部のオブジェクトをインポートする場合は、`infacmd` インポート制御ファイルを使用して、インポートするオブジェクトをフィルタリングします。

`ExportDomainObjects` コマンドと `ImportDomainObjects` コマンドを組み合わせれば、同じバージョンの 2 つのドメイン間でオブジェクトを移行できます。別のバージョンのドメインからネイティブユーザーおよびネイティブグループをインポートするには、`infacmd isp importUsersAndGroups` コマンドを使用します。

グループをインポートすると、グループ内のすべてのサブグループとユーザーがインポートされます。

Java メモリエラーでコマンドが失敗する場合は、`infacmd` が使用するシステムメモリを増やします。システムメモリを増やすには、`ICMD_JAVA_OPTS` 環境変数の `-Xmx` 値を設定します。

`infacmd isp ImportDomainObjects` コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ImportDomainObjects
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

<-ImportFilePath|-fp> import_file_path

[<-ImportControlFile|-cp> import_control_file]

[<-ConflictResolution|-cr> resolution_type]

以下の表に、infacmd isp ImportDomainObjects のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。</p>

オプション	引数	説明
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ImportFilePath -fp	import_file_path	必須。オブジェクトのインポート元の XML ファイルのパスとファイル名。
-ImportControlFile -cp	import_control_file	オプション。インポートオブジェクトのフィルタリングに使用するインポート制御ファイルのパスおよびファイル名。
-ConflictResolution -cr	resolution_type	オプション。競合の解決策。以下のいずれかのオプションを指定することができます。 <ul style="list-style-type: none"> - 名前の変更 - 置換 - 再利用 インポート制御ファイルに競合の解決策を指定している場合、このオプションは無視されます。競合の解決策を指定しなかった場合に競合が発生すると、インポートに失敗します。

ImportUsersAndGroups

ドメイン内にネイティブユーザーとグループをインポートします。

infacmd isp ImportUsersAndGroups を実行して、ユーザーとグループを XML ファイルからインポートします。

Java メモリエラーでコマンドが失敗する場合は、infacmd が使用するシステムメモリを増やします。システムメモリを増やすには、ICMD_JAVA_OPTS 環境変数の-Xmx 値を設定します。

infacmd isp ImportUsersAndGroups コマンドでは、以下の構文を使用します。

ImportUsersAndGroups

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExportFile|-ef> export_file_name

[<-ReuseDomainUsersAndGroups|-rd> If there is a conflict use the users and groups defined in the target domain]

[<-exportedFromPowercenter|-epc> The export file containing users and groups has been exported from an Informatica PowerCenter 8.6.1 domain]

以下の表に、infacmd isp ImportUsersAndGroups のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間(秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ExportFile -ef	export_file_name	必須。ユーザとグループについての情報を含むエクスポートファイルの名前とファイルパス。

オプション	引数	説明
- ReuseDomainUsersAndGroups -rd	-	オプション。名前が競合した場合に、ターゲットドメインで定義されているユーザーとグループを保持します。デフォルトでは、名前が競合するとコマンドが失敗します。
-exportedFromPowercenter -epc	-	エクスポートファイルが PowerCenter バージョン 8.6.1 ドメインからエクスポートされた場合に必要です。

関連項目：

- [「ExportUsersAndGroups」 \(ページ 376\)](#)

ListAlertUsers

警告をサブスクライブしているユーザーを一覧表示します。

infacmd isp ListAlertUsers コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListAlertUsers

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd isp ListAlertUsers のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されず。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

ListAllGroups

ネイティブセキュリティドメイン内のすべてのグループを一覧表示します。

infacmd isp ListAllGroups コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListAllGroups

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd isp ListAllGroups のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

ListAllRoles

ドメイン内のすべてのロールを一覧表示します。

infacmd isp ListAllRoles コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListAllRoles

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd isp ListAllRoles のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

ListAllUsers

ドメイン内のすべてのユーザーアカウントを一覧表示します。

infacmd isp ListAllUsers コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListAllUsers

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd isp ListAllUsers のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

ListConnectionPermissions

ユーザーまたはグループが持つ接続に対する権限を一覧表示します。

infacmd isp ListConnectionPermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListConnectionPermissions
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<<-RecipientUserName|-run> recipient_user_name|<RecipientGroupName|-rgn> recipient_group_name>
```

```
<-RecipientSecurityDomain|-rsd> recipient_security_domain]
```

```
<-ConnectionName|-cn> connection_name
```

以下の表に、infacmd isp ListConnectionPermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-RecipientUserName -run	recipient_user_name	受信者グループ名を指定していない場合に必須。権限を一覧表示する対象となるユーザーの名前。
-RecipientGroupName -rgn	recipient_group_name	受信者ユーザー名を指定していない場合に必須。権限を一覧表示する対象となるグループの名前。
-RecipientSecurityDomain -rsd	recipient_security_domain_name	受信者が LDAP セキュリティドメインに属している場合に必須。受信者が属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-ConnectionName -cn	connection_name_security_domain	必須。接続の名前。

ListConnectionPermissionsByGroup

接続に対する権限を持つすべてのグループと、その権限のタイプを一覧表示します。

infacmd isp ListConnectionPermissionsByGroup コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListConnectionPermissionsByGroup
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ConnectionName|-cn> connection_name

以下の表に、infacmd isp ListConnectionPermissionsByGroup のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ConnectionName -cn	connection_name_security_domain	必須。接続の名前。

ListConnectionPermissionsByUser

接続に対する権限を持つユーザーと、その権限のタイプを一覧表示します。

infacmd isp ListConnectionPermissionsByUser コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListConnectionPermissionsByUser

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ConnectionName|-cn> connection_name

以下の表に、infacmd isp ListConnectionPermissionsByUser のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ConnectionName -cn	connection_name_security_domain	必須。接続の名前。

ListConnections

各接続タイプと、接続タイプごとの接続オブジェクト名を一覧表示します。すべての有効な接続タイプを一覧表示します。

infacmd isp ListConnections コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListConnections
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd isp ListConnections のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。</p>

ListConnectionOptions

接続のためのオプションを一覧表示します このコマンドを実行して、接続の更新時に構成可能なオプションを表示します。

infacmd isp ListConnectionOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListConnectionOptions
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-ConnectionName|-cn> connection_name
```

以下の表に、infacmd isp ListConnectionOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ConnectionName -cn	connection_name_security_domain	必須。接続の名前。

ListDomainLinks

ローカルドメインが接続できるドメインを一覧表示します。2つのドメイン間の接続は、ドメイン間でリポジトリメタデータを交換する場合に必要になります。

infacmd isp ListDomainLinks コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListDomainLinks

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd isp ListDomainLinks のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されません。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ローカルドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がローカルドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

ListDomainOptions

ドメインの全般プロパティを一覧表示します。プロパティには、レジリエンスタイムアウト、レジリエンスタイムアウトの制限、リスタートの最大試行回数、リスタート期間、SSL モード、ディスパッチモードなどがあります。

infacmd isp ListDomainOptions コマンドを実行するには、ドメインに対する権限が必要です。

infacmd isp ListDomainOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListDomainOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd isp ListDomainOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

ListFolders

ドメイン内のフォルダを一覧表示します。

infacmd isp ListFolders コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListFolders

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd isp ListFolders のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されず。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p>
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、<code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。</p>

ListGridNodes

グリッドに割り当てられたノードの一覧を示します。

infacmd isp ListGridNodes コマンドを実行するには、グリッドに関する権限が必要です。

infacmd isp ListGridNodes コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListGridNodes

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-GridName|-gn> grid_name

以下の表に、*infacmd isp ListGridNodes* のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-GridName -gn	grid_name	必須。グリッドの名前。

ListGroupPermissions

オブジェクトに対するグループの権限を一覧表示します。

infacmd isp ListGroupPermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListGroupPermissions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExistingGroup|-eg> existing_group_name

[<-ExistingGroupSecurityDomain|-egn> existing_group_security_domain]

[<-ObjectType|-ot> object_type_SERVICE_LICENSE_NODE_GRID_FOLDER_OSPROFILE]

以下の表に、infacmd isp ListGroupPermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。</p>
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。</p>
-ExistingGroup -eg	existing_group_name	必須。オブジェクトに対する権限を割り当てるグループの名前。
-ExistingGroupSecurityDomain -egn	existing_group_security_domain_name	LDAP 認証を使用する場合に必要です。権限を割り当てるグループが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-ObjectType -ot	object_type	<p>必須。一覧表示するオブジェクトのタイプ。</p> <ul style="list-style-type: none"> - サービス - ライセンス - ノード - グリッド - フォルダー - OSProfile

ListGroupPrivileges

ドメイン内のグループに割り当てられた特権を一覧表示します。ドメイン内の各アプリケーションサービスのグループ特権を一覧表示することもできます。

infacmd isp ListGroupPrivileges コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListGroupPrivileges

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-GroupName|-gn> group_name

[<-GroupSecurityDomain|-gsf> group_security_domain]

<-ServiceName|-sn> service_name

以下の表に、infacmd isp ListGroupPrivileges のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-GroupName -gn	group_name	必須。特権をリストにする対象のグループの名前。
-GroupSecurityDomain -gsf	group_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。特権を一覧表示するグループが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-ServiceName -sn	service_name	必須。特権を表示するドメインまたはアプリケーションサービスの名前。

ListGroupsForUser

ユーザーの割り当て先のネイティブグループを一覧表示します。

infacmd isp ListGroupsForUser コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListGroupsForUser

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExistingUserName|-eu> existing_user_Name

[<-ExistingUserSecurityDomain|-esd> existing_user_security_domain]

以下の表に、infacmd isp ListGroupsForUser のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ExistingUserName -eu	existing_user_name	必須。グループを一覧表示するユーザーの名前。
-ExistingUserSecurityDomain -esd	existing_user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。

ListLDAPConnectivity

LDAP サーバーの接続情報を一覧表示します。

infacmd isp ListLDAPConnectivity コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListLDAPConnectivity
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、infacmd isp ListLDAPConnectivity のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

ListLicenses

ドメイン内のライセンスを一覧表示します。各ライセンスのライセンス名とシリアル番号も表示できます。

infacmd isp ListLicenses コマンドを実行するには、ライセンスに対する権限が必要です。

infacmd isp ListLicenses コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListLicenses

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port ...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd isp ListLicenses のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できません。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレールムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

ListMonitoringOptions

監視の全般プロパティを一覧表示します。

infacmd isp listMonitoringOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
listMonitoringOptions
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、infacmd isp listMonitoringOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合、デフォルトはインストール中に指定されたユーザー領域です。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立を試行する秒数。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。デフォルトは 180 秒です。

ListNodeOptions

ノードの全般プロパティを一覧表示します。全般プロパティには、バックアップディレクトリ、CPU プロファイル、エラー重要度レベル、最大および最小プロセスのポート、リソースプロビジョンのしきい値などのプロパティがあります。

infacmd isp ListNodeOptions コマンドを実行するには、ノードに対する権限が必要です。

infacmd isp ListNodeOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListNodeOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

以下の表に、infacmd isp ListNodeOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	node_name	必須。オプションを一覧表示するノードの名前。

ListNodeResources

ノードに対して定義されたすべてのリソースを一覧表示します。リソースごとに、このコマンドでは、リソースタイプとそのリソースが利用可能かどうか返されます。

infacmd isp ListNodeResources コマンドを実行するには、ノードに対する権限が必要です。

infacmd isp ListNodeResources コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListNodeResources

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

[<-ResourceCategory|-rc> resource_category ("PCIS", "DIS")]

以下の表に、infacmd isp ListNodeResources のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-NodeName -nn	node_name	必須。リソースをリストする対象のノード名。
-ResourceCategory -rc	resource_category	オプション。一覧表示するリソースのカテゴリ。有効なカテゴリは以下のとおりです。 - PCIS。PowerCenter 統合サービスのリソース。 - DIS。将来の使用のために予約済み。 デフォルトは PCIS です。

ListNodeRoles

ドメイン内のノードのすべてのロールを一覧表示します。

infacmd isp ListNodeRoles コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListNodeRoles

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

以下の表に、infacmd isp ListNodeRoles のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されず。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port. ..	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_ seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	node_name	必須。ノードの名前。

ListNodes

ドメイン内のノードを一覧表示します。ノードロールオプションを使用していない場合は、コマンドはドメイン内のすべてのノードを一覧表示します。ノードロールオプションを使用している場合は、コマンドは指定されたロールのノードを一覧表示します。

infacmd isp ListNodes コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListNodes

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-NodeRole|-nr> node_role SERVICE|COMPUTE|SERVICE_COMPUTE]

以下の表に、infacmd isp ListNodes のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeRole -nr	node_role	オプション。一覧表示するノードの有効なロール。次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - サービス。少なくともサービスロールがあるノードを一覧表示します。 - 計算。少なくとも計算ロールがあるノードを一覧表示します。 - サービス&計算。サービスと計算の両方のロールがあるノードを一覧表示します。 このオプションを省略した場合は、コマンドがドメイン内のすべてのノードを一覧表示します。

ListOSProfiles

ドメイン内のオペレーティングシステムのプロファイルを一覧表示します。

infacmd isp ListOSProfile コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListOSProfiles

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd isp ListOSProfile のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

ListRepositoryLDAPConfiguration

LDAP サーバーのアドレス、検索範囲、およびログイン属性などの LDAP サーバー設定オプションを一覧表示します。

Informatica のインストール後に、このコマンドを使用して、ドメインと外部の LDAP ディレクトリサービス間の接続を確認します。

infacmd isp SetRepositoryLDAPConfiguration を使用して、Informatica ドメインの LDAP サーバー設定オプションを更新します。このコマンドを使用して、LDAP 認証を使用するリポジトリをアップグレードします。

infacmd isp ListRepositoryLDAPConfiguration コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListRepositoryLDAPConfiguration

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd isp ListRepositoryLDAPConfiguration のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。</p>
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。</p>

ListRolePrivileges

ドメイン内の役割に割り当てられた特権を一覧表示します。ドメイン内のアプリケーションサービスごとに役割特権を一覧表示できます。

ドメインのロール、およびドメイン内の各アプリケーションサービスタイプのロールに割り当てられた特権を一覧表示することができます。

infacmd isp ListRolePrivileges コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListRolePrivileges
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-RoleName|-rn> role_name
```

以下の表に、ListRolePrivileges のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-RoleName -rn	role_name	必須。特権を一覧表示する対象となるロールの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

ListSecurityDomains

ドメイン内のネイティブドメインおよび LDAP セキュリティドメインを一覧表示します。

infacmd isp ListSecurityDomains コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListSecurityDomains

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd isp ListSecurityDomains のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されません。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

ListServiceLevels

ドメインに対して定義されているサービスレベルを一覧表示します。各サービスレベルの名前、ディスパッチ優先度、および最大ディスパッチ待ち時間を一覧表示できます。

infacmd isp ListServiceLevels コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListServiceLevels
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、infacmd isp ListServiceLevels のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

ListServiceNodes

サービスに割り当てられているノードまたはグリッドを一覧表示します。

このコマンドがグリッド名を返す場合は、`infacmd isp ListGridNodes` コマンドを実行して、グリッド内のノードを一覧表示できます。

`infacmd isp ListServiceNodes` コマンドを実行するには、サービスに対する権限が必要です。

`infacmd isp ListServiceNodes` コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListServiceNodes

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

以下の表に、`infacmd isp ListServiceNodes` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されず。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。サービスの名前です。

関連項目：

- [「ListGridNodes」 \(ページ 428\)](#)

ListServicePrivileges

ドメインまたはアプリケーションサービスのタイプの特権を一覧表示します。

infacmd isp ListServicePrivileges コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListServicePrivileges

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-ServiceType|-st> service_type AS|CMS|MM|MRS|RPS|RS|DOMAIN]

以下の表に、infacmd isp ListServicePrivileges のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceType -st	service_type	オプション。特権を表示するドメインまたはアプリケーションサービスのタイプ。 サービスタイプ： <ul style="list-style-type: none"> - AS。アナリストサービス - CMS。コンテンツ管理サービス - MM。Metadata Manager サービス - MRS。モデルリポジトリサービス - RPS。レポートサービス - RS。PowerCenter リポジトリサービス - ドメイン。ドメイン

ListServices

ドメイン内のサービスを一覧表示します。

infacmd isp ListServices コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListServices

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-ServiceType|-st> service_type AS|BW|CMS|DIS|IS|MM|MRS|RPS|RS|WS|ES|SCH|RMS|SEARCH]

以下の表に、infacmd isp ListServices のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceType -st	service_type	オプション。特定のタイプのすべてのサービスを一覧表示します。 サービスタイプ： <ul style="list-style-type: none"> - AS。アナリストサービス - BW。SAP BW サービス - CMS。コンテンツ管理サービス - DIS。データ統合サービス - IS。PowerCenter 統合サービス - MM。Metadata Manager サービス - MRS。モデルリポジトリサービス - RPS。レポートサービス - RS。PowerCenter リポジトリサービス - WS。Web サービス Hub - ES。電子メールサービス - SCH。スケジューラサービス - RMS。リソースマネージャサービス - SEARCH。検索サービス

ListSMTPOptions

ドメインの SMTP 設定プロパティを一覧表示します。SMTP 設定を使用して、ドメイン警告とスコアカード通知を送信します。

infacmd isp ListSMTPOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListSMTPOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd isp ListSMTPOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

関連項目：

- [「UpdateSMTPOptions」 \(ページ 585\)](#)

ListUserPermissions

ユーザーが権限を持つドメインオブジェクトを一覧表示します。

infacmd isp ListUserPermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListUserPermissions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExistingUserName|-eu> existing_user_name

[<-ExistingUserSecurityDomain|-esd> existing_user_security_domain]

[<-ObjectType|-ot> object_type_SERVICE_LICENSE_NODE_GRID_FOLDER_OSPROFILE]

以下の表に、infacmd isp ListUserPermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ExistingUserName -eu	existing_user_name	必須。特権を一覧表示するユーザーアカウント。スペースまたは英数字以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-ExistingUserSecurityDomain -esd	existing_user_security_domainth_name	LDAP 認証を使用する場合に必要です。特権を一覧表示するユーザーが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-ObjectType -ot	object_type	必須。一覧表示するオブジェクトのタイプ。 - サービス - ライセンス - ノード - グリッド - フォルダー - OSProfile

ListUserPrivileges

ドメイン内のユーザーに割り当てられた特権を一覧表示します。ドメイン内のアプリケーションサービスごとにユーザー特権を一覧表示できます。

infacmd isp ListUserPrivileges コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListUserPrivileges

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExistingUserName|-eu> existing_user_name

[<-ExistingUserSecurityDomain|-esd> existing_user_security_domain]

<-ServiceName|-sn> service_name

以下の表に、infacmd isp ListUserPrivileges のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_secs	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
ExistingUserName -eu	existing_user_name	必須。特権を一覧表示するユーザーアカウント。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
- ExistingUserSecurityDomain -esd	existing_user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。特権を一覧表示するユーザーが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-ServiceName -sn	service_name	必須。特権を表示するドメインまたはアプリケーションサービスの名前。

migrateUsers

ネイティブセキュリティドメイン内のユーザーのグループ、ロール、特権、権限を 1 つ以上の LDAP セキュリティドメイン内のユーザーに移行します。Kerberos 認証を使用するようにドメインを設定するには、事前にユーザーを LDAP セキュリティドメインに移行しておく必要があります。

migrateUsers コマンドの詳細については、『*Informatica セキュリティガイド*』を参照してください。

infacmd isp migrateUsers コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
migrateUsers
```



```

<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> administrator_user_name
<-Password|-pd> administrator_password
[<-SecurityDomain|-sdn>|security_domain]
[<-Gateway|-hp>|gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds ]
<-UserMigrationFile|-umf> user_migration_file

```

以下の表に、infacmd isp migrateUsers のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	administrator_user_name	必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。
-Password -pd	administrator_password	必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	オプション。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 注: このセキュリティドメインは、ユーザーの移行先のセキュリティドメインではなく、ドメインに接続するために使用するユーザーアカウントのセキュリティドメインです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	オプション。domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に使用します。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-UserMigrationFile -umf	user_migration_file	必須。ユーザー移行ファイルのパスとファイル名。ユーザー移行ファイルは、ネイティブユーザーと対応する LDAP ユーザーのリストが含まれたテキストファイルです。エントリは以下の形式である必要があります。 Native/<SourceUserName>,LDAP/<TargetUsername> 例えば、User1 という名前のユーザーをネイティブセキュリティドメインから LDAP セキュリティドメイン内の User1 という名前のユーザーに移行するには、次の行をユーザー移行ファイルに追加します。 Native/User1,LDAP/User1 コマンドは重複するソースユーザー名またはターゲットユーザー名を持つエントリをスキップします。

MoveFolder

フォルダを移動します。

infacmd isp MoveFolder コマンドでは、以下の構文を使用します。

MoveFolder

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-OriginalPath|-op> original_folder_path

<-FolderPath|-fp> full_folder_path

以下の表に、infacmd isp MoveFolder のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-OriginalPath -op	original_folder_path	必須。移動するフォルダへの完全パス（ドメイン名を除く）。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i>
-FolderPath -fp	full_folder_path	必須。ターゲットフォルダの場所への完全パス（ドメイン名を除く）。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i>

MoveObject

オブジェクトを別のフォルダーに移動します。

infacmd isp MoveObject コマンドでは、以下の構文を使用します。

MoveObject

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ObjectName|-on> object_name

<-ObjectType|-ot> object_type_SERVICE_LICENSE_NODE_GRID

<-FolderPath|-fp> full_folder_path

以下の表に、infacmd isp MoveObject のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ObjectName -on	object_name	必須。移動するオブジェクトの名前。

オプション	引数	説明
-ObjectType -ot	object_type	必須。移動するオブジェクトのタイプ。 - Service - License - Node - Grid
-FolderPath -fp	full_folder_path	必須。オブジェクトを移動するフォルダへの完全パス（ドメイン名を除く）。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i>

Ping

ドメイン、サービス、ドメインゲートウェイホスト、ノードを ping するコマンドです。オブジェクトが利用可能な場合は、オブジェクトがゲートウェイホストマシン上の特定のポートで利用できることを伝えるメッセージを表示します。オブジェクトが利用できない場合は、オブジェクトから応答を受け取るのに失敗したと伝えるメッセージを表示します。

ネットワーク接続のトラブルシューティングに、このコマンドを使用します。infacmd isp Ping コマンドを実行するには、ping を実行するオブジェクトに対する権限が必要です。

infacmd isp Ping コマンドは、個々のサービスプロセスの結果を表示しません。

infacmd isp Ping コマンドでは、以下の構文を使用します。

Ping

[<-DomainName|-dn> domain_name]

[<-ServiceName|-sn> service_name]

[<-GatewayAddress|-dg> domain_gateway_host:port]

[<-NodeName|-nn> node_name]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd isp Ping のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	オプション。ping を実行するサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

オプション	引数	説明
-GatewayAddress -dg	domain_gateway_host:port	-DomainName オプションを指定しない場合、または別のドメインを ping する必要がある場合に必須。ゲートウェイホストのマシン名およびポート番号。
-NodeName -nn	node_name	オプション。ノードの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

PrintSPNAndKeytabNames

ドメイン内のノードとサービスの SPN とキータブファイル名のリストを生成します。Informatica ドメインは各 SPN に対するキータブファイルが必要とします。Kerberos 管理者に、プリンシパルデータベースに対する SPN の追加と、キータブファイルの作成を依頼することが必要な場合があります。SPN とキータブファイル名は大文字小文字が区別されます。

infacmd isp PrintSPNAndKeytabNames コマンドでは、以下の構文を使用します。

PrintSPNAndKeytabNames

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceRealmName|-srn> realm_name_of_node_spn

[<-Format|-fm> format_TEXT_CSV]

[<-OutputFile|-of> output_file_name]

[<-DomainNodes|-dns> Node1:HostName1 Node2:HostName2 ...]

[<-ServiceProcesses|-sps> ServiceName1:NodeName1 ServiceName2:NodeName2...]

[<-SPNShareLevel|-spnSL> SPNShareLevel PROCESS|NODE]

以下の表に、infacmd isp PrintSPNAndKeytabNames のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceRealmName -srn	realm_name_of_node_spn	必須。Informatica ドメインサービスが属する Kerberos 領域の名前。レルム名は、大文字小文字が区別され、すべて大文字にする必要があります。

オプション	引数	説明
-Format -fm	format_TEXT_CSV	オプション。出力ファイルの形式。有効なタイプは以下のとおりです。 - テキスト - CSV 形式を指定しない場合、infacmd ではテキスト形式が使用され、行が 80 文字で折り返されます。
-OutputFile -of	output_file_name	オプション。出力ファイルの名前とファイルパス。 出力ファイル名を指定しない場合、infacmd で画面にログイベントが表示されます。
-DomainNodes -dns	NodeName:HostName [NodeName:Hostna me]	ノードの名前と、ノードをホストするマシンの完全修飾ホスト名。次の形式を使用します: NodeName:HostName 複数のノードに対して SPN およびキータブファイル名を生成できます。ノード名とホスト名の各ペアはスペースで区切ります。
-ServiceProcesses -sps	ServiceName:Noden ame [ServiceName:Node name]	オプション。Informatica ドメインに作成するサービスの名前と、サービスを実行するノードの名前。次の形式を使用します: ServiceName:NodeName 複数のサービスに対して SPN およびキータブファイル名を生成できます。サービス名とノード名の各ペアはスペースで区切ります。 注: ドメインで Kerberos 認証を使用するように設定するときに、ドメイン内のアプリケーションサービスのキータブファイルが使用可能である必要はありません。Informatica ドメイン認証の変更後、ただしサービスを有効にする前に、サービスの SPN をプリンシパルデータベースに追加してキータブを作成することができます。
SPNShareLevel -spnSL	SPNShareLevel PROCESS NODE]	オプション。ドメインのサービスプリンシパルレベルを示します。このプロパティを以下のいずれかに設定します。 - プロセス。ドメインでは、ノードごと、およびノードのサービスごとに、一意のサービスプリンシパル名 (SPN) とキータブファイルが必要とします。ノードごとに必要になる SPN とキータブファイルの数は、ノードで実行されるサービスプロセスの数により変わります。本稼働ドメインに推奨されます。 - ノード。ドメインでは、ノードとそのノードで実行されているすべてのサービスで 1 つの SPN とキータブファイルを使用しています。また、ノードのすべての HTTP プロセスに個別の SPN とキータブファイルが必要になります。テストドメインと開発ドメインに推奨されます。テストドメインと開発ドメインに推奨されます。 デフォルトは PROCESS です。

PurgeLog

ログイベントをパージします。ドメインまたは、PowerCenter 統合サービスや、データ統合サービス、Web サービス Hub などのアプリケーションサービスに対するログイベントをパージできます。

infacmd isp PurgeLog コマンドでは、以下の構文を使用します。

PurgeLog

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-BeforeDate|-bd> before_date

[<-LicenseUsage|-lu>]

以下の表に、infacmd isp PurgeLog のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-BeforeDate -bd	before_date	必須。この日時より前に発生したログイベントをパージします。以下のいずれかの形式で日付を入力します。 - MM/dd/yyyy - yyyy-mm-dd
-LicenseUsage -lu	-	オプション。ライセンス使用状況のログイベントおよびデータベースの記録をパージします。

PurgeMonitoringData

モデルリポジトリから監視データをパージします。

infacmd isp purgeMonitoringData コマンドでは、以下の構文を使用します。

```

purgeMonitoringData
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-NumDaysToRetain|-ndr> num_days_to_retain]

```

[<-NumDaysToRetainDetailedStat|-ndrds> num_days_to_retain_detailed_stat]

以下の表に、infacmd isp purgeMonitoringData のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。 ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。 ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数</p> <p>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合、デフォルトはインストール中に指定されたユーザー領域です。</p>
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立を試行する秒数。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数</p> <p>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。デフォルトは 180 秒です。</p>

オプション	引数	説明
-NumDaysToRetain -ndr	num_days_to_retain	オプション。平均データをモデルリポジトリに保持する日数。 例えば、180 を入力した場合、モデルリポジトリサービスは 180 日を超えたすべての平均データをパージします。 このオプションを設定しない場合、PurgeMonitoringData はモデルリポジトリ内の平均監視データをすべてパージします。 最小値は 0 です。最大値は 366 です。
-NumDaysToRetainDetailedStat -ndrds	num_days_to_retain_detailed_stat	オプション。分単位のデータをモデルリポジトリに保持する日数。 例えば、7 を入力した場合、モデルリポジトリサービスは 7 日を超えたすべての平均データをパージします。 このオプションを設定しない場合、PurgeMonitoringData はモデルリポジトリ内の分単位の監視データをすべてパージします。 最小値は 0 です。最大値は 14 です。

RemoveAlertUser

ユーザーの警告通知メールのサブスクリプションを解除します。任意のユーザーに対して `infacmd isp RemoveAlertUser` を実行できます。

`infacmd isp RemoveAlertUser` コマンドでは、以下の構文を使用します。

`RemoveAlertUser`

`<-DomainName|-dn> domain_name`

`<-UserName|-un> user_name`

`<-Password|-pd> password`

`[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]`

`[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]`

`[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]`

`<-AlertUser|-au> user_name`

以下の表に、infacmd isp RemoveAlertUser のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-AlertUser -au	user_name	必須。警告のサブスクライブを解除するユーザーの名前。

RemoveConnection

ドメインから接続を削除します。

infacmd isp RemoveConnection コマンドでは、以下の構文を使用します。

RemoveConnection

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ConnectionName|-cn> connection_name

以下の表に、infacmd isp RemoveConnection のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ConnectionName -cn	connection_name	削除する接続の名前。

RemoveConnectionPermissions

ユーザーまたはグループから接続権限を削除します。

infacmd isp RemoveConnectionPermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

RemoveConnectionPermissions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<<-RecipientUserName|-run> recipient_user_name|<ReceipeintGroupName|-rgn> recipeint_group_name>

<-RecipientSecurityDomain|-rsd> recipient_security_domain]

<-ConnectionName|-cn> connection_name

以下の表に、infacmd isp RemoveConnectionPermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-RecipientUserName -run	recipient_user_name	受信者グループ名を指定していない場合に必須。権限を削除する対象となるユーザーの名前。
-RecipientGroupName -rgn	recipient_group_name	受信者ユーザー名を指定していない場合に必須。接続に対する権限を削除するグループの名前。
-RecipientSecurityDomain -rsd	recipient_security_domain ainth_name	受信者が LDAP セキュリティドメインに属している場合に必須。受信者が属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-ConnectionName -cn	connection_name_security_domain	必須。接続の名前。

RemoveDomainLink

リンクドメインを削除します。リンクドメインを削除した場合、ローカルドメインとリンクドメインとの間でリポジトリメタデータを交換することはできません。別のドメインにある PowerCenter リポジトリサービスへアクセスする必要がなくなった場合には、この作業を実行してもかまいません。

infacmd isp RemoveDomainLink コマンドでは、以下の構文を使用します。

RemoveDomainLink

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-LinkedDomainName|-ld> linked_domain_name

以下の表に、infacmd isp RemoveDomainLink のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ローカルドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がローカルドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-LinkedDomainName -ld	linked_domain_name	必須。削除する接続元のドメイン名。

RemoveFolder

ドメインからフォルダーを削除します。フォルダーを削除する前に、フォルダーが空であることを確認します。フォルダーは空である必要があります。

infacmd isp RemoveFolder コマンドでは、以下の構文を使用します。

RemoveFolder

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-FolderPath|-fp> full_folder_path

以下の表に、infacmd isp RemoveFolder のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されず。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-FolderPath -fp	full_folder_path	必須。削除するフォルダへの完全パス (ドメイン名を除く)。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i>

RemoveGrid

ドメインからグリッドを削除します。グリッドを削除するには、PowerCenter 統合サービスまたはデータ統合サービスからグリッドの割り当てを解除する必要があります。

infacmd isp RemoveGrid コマンドでは、以下の構文を使用します。

RemoveGrid

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-GridName|-gn> grid_name

以下の表に、infacmd isp RemoveGrid のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。
-Password -pd	パスワード	必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-GridName -gn	grid_name	必須。削除するグリッドの名前。

RemoveGroup

ネイティブセキュリティドメイン内のグループを削除します。

infacmd isp RemoveGroup コマンドでは、以下の構文を使用します。

RemoveGroup

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-GroupName|-gn> group_name

以下の表に、infacmd isp RemoveGroup のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されず。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-GroupName -gn	group_name	必須。削除するグループの名前。

RemoveGroupPermission

オブジェクトに対するグループ権限を削除します。

infacmd isp RemoveGroupPermission コマンドでは、以下の構文を使用します。

RemoveGroupPermission

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExistingGroup|-eg> existing_group_name

[<-GroupSecurityDomain|-gsf> group_security_domain]

<-ObjectName|-on> object_name

<-ObjectType|-ot> object_type_SERVICE_LICENSE_NODE_GRID_FOLDER_OSPROFILE

以下の表に、infacmd isp RemoveGroupPermission のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ExistingGroup -eg	existing_group_name	必須。オブジェクトに対する権限を割り当てるグループの名前。
-GroupSecurityDomain -gsf	group_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。権限を割り当てるグループが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-ObjectName -on	object_name	グループアクセス権限を削除するオブジェクトの名前。
-ObjectType -ot	object_type_SERVICE_LICENSE_NODE_GRID_OLDER_OSPROFILE	必須。オブジェクトのタイプ。 次のいずれかの値を入力します。 - Service - License - Node - Grid - フォルダー - OSProfile

RemoveGroupPrivilege

ドメイン内のグループから特権を削除します。ドメインのグループまたはドメイン内のアプリケーションサービスから特権を削除できます。

infacmd isp RemoveGroupPrivilege コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
RemoveGroupPrivilege
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-GroupName|-gn> group_name
[<-GroupSecurityDomain|-gsf> group_security_domain]
<-ServiceName|-sn> service_name
<-PrivilegePath|-pp> path_of_privilege
```

以下の表に、infacmd isp RemoveGroupPrivilege のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレールムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-GroupName -gn	group_name	必須。特権を削除しているグループの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

オプション	引数	説明
-GroupSecurityDomain -gsf	group_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。特権を削除しているグループが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-ServiceName -sn	service_name	必須。特権を表示するドメインまたはアプリケーションサービスの名前。
-PrivilegePath -pp	path_of_privilege	必須。グループの割り当て先にする特権の完全修飾名。完全修飾名には、特権グループ名と特権名が含まれます。たとえば、リポジットサービスの完全修飾特権名は folder/create です。特権名にスペースが含まれている場合は、次のようにパスを二重引用符で囲みます。 “Runtime Objects/Monitor/Execute/Manage Execution” 特権名に特殊文字“/”が含まれる場合、その前にエスケープ文字“\”を次のように追加します。 “Model/View Model/Export\Import Models”

RemoveLicense

ドメインからライセンスを削除します。このコマンドを実行する前に、まずライセンスに割り当てられているサービスを停止する必要があります。

ライセンスの有効期限が切れている場合、または別のドメインへライセンスを移動する場合に、ドメインからライセンスを削除します。

infacmd isp RemoveLicense コマンドでは、以下の構文を使用します。

RemoveLicense

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-LicenseName|-ln> license_name

以下の表に、infacmd isp RemoveLicense のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-LicenseName -ln	license_name	必須。削除するライセンスの名前。

関連項目：

- [「DisableService」 \(ページ 358\)](#)
- [「UnassignLicense」 \(ページ 537\)](#)

RemoveNode

ドメインからノードを削除します。ノードが実行中の場合、まずノードをシャットダウンする必要があります。

infacmd isp RemoveNode コマンドでは、以下の構文を使用します。

RemoveNode

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

以下の表に、infacmd isp RemoveNode のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	node_name	必須。削除するノードの名前。

RemoveNodeResource

ノードからリソースを削除します。ノードからカスタムまたはファイル/ディレクトリのリソースを削除することができます。接続リソースは、ノードから削除することはできません。

グリッド上で PowerCenter 統合サービスが実行されている場合、ロードバランサはリソースを使用してセッション、コマンド、定義済みイベント待ちタスクを分散することができます。PowerCenter 統合サービスがリソースをチェックするように設定されている場合、ロードバランサは、リソースが追加されて有効になっているノードにタスクを分散します。セッションまたはコマンドタスクによって必要とされるリソースを削除すると、そのノードでタスクを実行できなくなります。

infacmd isp RemoveNodeResource コマンドでは、以下の構文を使用します。

RemoveNodeResource

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

```

<-nodeName|-nn> node_name
[<-ResourceCategory|-rc> resource_category ("PCIS", "DIS")]
<-ResourceType|-rt> resource_type("Custom", "File Directory")
<-ResourceName|-rn> resource_name

```

以下の表に、infacmd isp RemoveNodeResource のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	node_name	必須。削除するリソースを持つノード名。
-ResourceCategory -rc	resource_category	オプション。削除するリソースのカテゴリ。有効なカテゴリは以下のとおりです。 - PCIS。PowerCenter 統合サービスのリソース。 - DIS。将来の使用のために予約済み。 デフォルトは PCIS です。
-ResourceType -rt	resource_type	必須。削除するリソースのタイプ。有効なタイプは以下のとおりです。 - Custom - File Directory
-ResourceName -rn	resource_name	必須。削除するリソース全体の名前。 ノードに使用可能なすべてのリソース名を一覧表示するには、infacmd isp ListNodeResources コマンドを実行します。

RemoveOSProfile

ドメインからオペレーティングシステムのプロファイルを削除します。

infacmd isp RemoveOSProfile コマンドでは、以下の構文を使用します。

RemoveOSProfile

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-OSProfileName|-on> OSProfile_name

以下の表に、infacmd isp RemoveOSProfile のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-OSProfileName -on	OSProfile_name	必須。削除対象のオペレーティングシステムプロファイルの名前。

RemoveRole

ドメインからカスタム役割を削除します。カスタム役割を削除すると、カスタム役割およびそれに含まれたすべての特権が、役割を割り当てたユーザーまたはグループから削除されます。

infacmd isp RemoveRole コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
RemoveRole
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-RoleName|-rn> role_name
```

以下の表に、infacmd isp RemoveRole のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレールムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-RoleName -rn	role_name	必須。削除するロールの名前。

RemoveRolePrivilege

ドメインのロールまたはドメイン内のアプリケーションサービスのロールから特権を削除します。

infacmd isp RemoveRolePrivilege コマンドでは、以下の構文を使用します。

RemoveRolePrivileges

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-RoleName|-rn> role_name

<-ServiceType|-st> service_type AS|CMS|MM|MRS|RPS|RS|DOMAIN

<-PrivilegePath|-pp> path_of_privilege

以下の表に、infacmd isp RemoveRolePrivilege のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-RoleName -rn	role_name	必須。特権を削除しているロールの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

オプション	引数	説明
-ServiceType -st	service_type	<p>必須。ロール用の特権の削除元のドメインまたはアプリケーションサービスのタイプ。</p> <p>サービスタイプ：</p> <ul style="list-style-type: none"> - AS。アナリストサービス - CMS。コンテンツ管理サービス - MM。Metadata Manager サービス - MRS。モデルリポジトリサービス - RPS。レポートサービス - RS。PowerCenter リポジトリサービス - ドメイン。ドメイン
-PrivilegePath -pp>	path_of_privilege	<p>必須。グループの割り当て先にする特権の完全修飾名。完全修飾名には、特権グループ名と特権名が含まれません。たとえば、リポジトリサービスの完全修飾特権名は folder/create です。特権名にスペースが含まれている場合は、次のようにパスを二重引用符で囲みます。</p> <p>“Runtime Objects/Monitor/Execute/Manage Execution”</p> <p>特権名に特殊文字“/”が含まれる場合、その前にエスケープ文字“\”を次のように追加します。</p> <p>“Model/View Model/Export\Import Models”</p>

RemoveService

ドメインからアプリケーションサービスを削除します。サービスを削除する前に、サービスを無効にする必要があります。

infacmd isp RemoveService コマンドでは、以下の構文を使用します。

RemoveService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

以下の表に、infacmd isp RemoveService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。削除するサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

RemoveServiceLevel

サービスレベルを削除します。サービスレベルを削除した場合、そのサービスレベルを使用するタスクは Workflow Manager によって更新されません。ワークフローのサービスレベルがドメイン内に存在しない場合、タスクはデフォルトのサービスレベルでロードバランサによってディスパッチされます。

infacmd isp RemoveServiceLevel コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
RemoveServiceLevel
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ServiceLevelName|-ln> service_level_name
```

以下の表に、infacmd isp RemoveServiceLevel のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceLevelName -ln	service_level_name	必須。削除するサービスレベルの名前。

RemoveUser

ネイティブセキュリティドメインからユーザーアカウントを削除します。LDAP セキュリティドメインのユーザーアカウントは削除できません。

infacmd isp RemoveUser コマンドでは、以下の構文を使用します。

RemoveUser

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExistingUserName|-eu> existing_user_name

以下の表に、infacmd isp RemoveUser のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ExistingUserName -eu	existing_user_name	必須。削除対象のユーザーアカウント。

RemoveUserFromGroup

ドメイン内のネイティブグループからネイティブユーザーまたは LDAP ユーザーを削除します。

infacmd isp RemoveUserFromGroup コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
RemoveUserFromGroup
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-ExistingUserName|-eu> existing_user_name
```

```
[<-ExistingUserSecurityDomain|-esd> existing_user_security_domain]
```

```
<-GroupName|-gn> group_name
```

以下の表に、infacmd isp RemoveUserFromGroup のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ExistingUserName -eu	existing_user_name	必須。削除するユーザーの名前。
-ExistingUserSecurityDomain -esd	existing_user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。削除対象ユーザーが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-GroupName -gn	group_name	必須。ユーザーを削除するグループの名前。

RemoveUserPermission

オブジェクトに対するユーザー権限を削除します。

infacmd isp RemoveUserPermission コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
RemoveUserPermission
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ExistingUserName|-eu> existing_user_name
[<-ExistingUserSecurityDomain|-esd> existing_user_security_domain]
<-ObjectName|-on> object_name
<-ObjectType|-ot> object_type_SERVICE_LICENSE_NODE_GRID_FOLDER_OSPROFILE

```

以下の表に、infacmd isp RemoveUserPermission のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。</p>
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	ドメインの.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。
-ExistingUserName -eu	existing_user_name	必須。オブジェクトに対する権限を割り当てるユーザーの名前。
-ExistingUserSecurityDomain -esd	existing_user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。権限を割り当てるユーザーが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-ObjectName -on	object_name	ユーザーアクセス権限を削除するオブジェクトの名前。
-ObjectType -ot	object_type_SERVICE _LICENSE_NODE_GRID_FOLDER_OSPROFILE	<p>必須。オブジェクトのタイプ。 次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Service - License - Node - Grid - フォルダー - OSPProfile

RemoveUserPrivilege

ドメインのユーザーまたはドメイン内のアプリケーションサービスのユーザーから特権を削除します。

infacmd isp RemoveUserPrivilege コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
RemoveUserPrivilege
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ExistingUserName|-eu> existing_user_name
[<-ExistingUserSecurityDomain|-esd> existing_user_security]
<-ServiceName|-sn> service_name
<-PrivilegePath|-pp> path_of_privilege
```

以下の表に、infacmd isp RemoveUserPrivilege のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
ExistingUserName -eu	existing_user_name	必須。特権を削除しているユーザーアカウント。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
- ExistingUserSecurityDomain -esd	existing_user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。特権を削除しているユーザーが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-ServiceName -sn	service_name	必須。特権を表示するドメインまたはアプリケーションサービスの名前。
-PrivilegePath -pp	path_of_privilege	必須。グループの割り当て先にする特権の完全修飾名。完全修飾名には、特権グループ名と特権名が含まれます。たとえば、リポジトリサービスの完全修飾特権名は folder/create です。特権名にスペースが含まれている場合は、次のようにパスを二重引用符で囲みます。 “Runtime Objects/Monitor/Execute/Manage Execution” 特権名に特殊文字“/”が含まれる場合、その前にエスケープ文字“\”を次のように追加します。 “Model/View Model/Export\ /Import Models”

RenameConnection

接続の名前を変更します。接続の名前を変更すると、その接続を使用するジョブが Developer ツールと Analyst ツールで更新されます。

注: デプロイされたアプリケーションおよびパラメータファイルは、接続 ID ではなく名前で接続を識別します。したがって、接続の名前を変更する場合、その接続を使用するすべてのアプリケーションを再デプロイする必要があります。接続パラメータを使用するパラメータファイルもすべて更新する必要があります。

infacmd isp RenameConnection コマンドでは、次の構文を使用します。

RenameConnection

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ConnectionName|-cn> connection_name

<-NewConnectionName|-ncn> new_connection_name

以下の表に、infacmd isp RenameConnection のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ConnectionName -cn	connection_name	必須。既存の接続名。
-NewConnectionName -ncn	new_connection_name	必須。新しい接続名。この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意する必要があります。128 文字以内で指定し、空白および以下の特殊文字は使用できません。 ~ ` ! \$ % ^ & * () - + = { [] } \ : ; " ' < , > . ? /

ResetPassword

ドメイン内のユーザーのパスワードをリセットします。

infacmd isp ResetPassword コマンドでは、以下の構文を使用します。

ResetPassword

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ResetUserName|-ru> reset_user_name

<-ResetUserPassword|-rp> reset_user_password

以下の表に、infacmd isp ResetPassword のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-ResetUserName -ru	reset_user_name	必須。リセットするパスワードを所有するユーザーの名前。
-ResetUserPassword -rp	reset_user_password	必須。ユーザーの新しいパスワード。パスワードは、-rp オプションまたは INFA_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-rp オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。 パスワードでは大文字と小文字が区別され、1 から 80 文字の範囲で指定する必要があります。スペースまたは英数字以外の文字を含むパスワードを入力するには、パスワードを引用符で囲みます。

RestoreDARepositoryContents

バイナリファイルから Data Analyzer リポジトリのコンテンツをリストアします。メタデータをリポジトリバックアップファイルからデータベースへリストアできます。既存のデータベースにバックアップファイルをリストアすると、既存のコンテンツが上書きされます。

infacmd isp RestoreDARepositoryContents コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
RestoreDARepositoryContents
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ServiceName|-sn> service_name
<-fileName|-f> file_name
```

以下の表に、infacmd isp RestoreDARepositoryContents のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。コンテンツをリストアするレポートサービスの名前。
-fileName -f	file_name	必須。コンテンツのバックアップ先のファイルの名前とファイルパス。

RunCPUProfile

ノードの CPU プロファイルを計算します。

注: このコマンドには約 5 分かかり、マシンの 1 つの CPU が 100% 使用されます。

infacmd isp RunCPUProfile コマンドでは、以下の構文を使用します。

RunCPUProfile

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

以下の表に、infacmd isp RunCPUProfile のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されず。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	node_name	必須。CPU プロファイルを計算するノードの名前。

SetConnectionPermissions

以前の権限を削除した後、ユーザーまたはグループに接続に対する権限を割り当てます。

infacmd isp SetConnectionPermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
SetConnectionPermissions
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<<-RecipientUserName|-run> recipient_user_name|<RecipientGroupName|-rgn> recipient_group_name>
```

```
<-RecipientSecurityDomain|-rsd> recipient_security_domain]
```

```
<-ConnectionName|-cn> connection_name
```

```
[<-Permission|-p> permission_READ|WRITE|EXECUTE|GRANT|ALL
```

以下の表に、infacmd isp SetConnectionPermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合は、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-RecipientUserName -run	recipient_user_name	受信者グループ名を指定していない場合に必須。接続に対する権限を割り当てられたユーザーの名前。
-RecipientGroupName -rgn	recipient_group_name	受信者ユーザー名を指定していない場合に必須。接続に対する権限を割り当てられたグループの名前。
-RecipientSecurityDomain -rsd	recipient_security_domain ainth_name	受信者が LDAP セキュリティドメインに属している場合に必須。受信者が属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-ConnectionName -cn	connection_name_security_domain	必須。接続の名前。
-Permission -p	permission	必須。割り当てる権限のタイプ。 以下の値を 1 つ以上、スペースで区切って入力します。 - READ - WRITE。読み取りと書き込み。 - EXECUTE - GRANT。読み取りおよび付与。 - すべて:読み取り、書き込み、実行、付与

SetLDAPConnectivity

LDAP サーバーへの接続を設定します。LDAP サーバーへの接続を設定するときに、サービスマネージャによってすべての LDAP セキュリティドメインのユーザーアカウントが LDAP サーバーからインポートされます。

infacmd isp SetLDAPConnectivity コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
SetLDAPConnectivity
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-LDAPAddress|-la> ldap_server_address
[<-LDAPPrincipal|-lp> ldap_principal]
[<-LDAPCredential|-lc> ldap_credential]
[<-UseSSL|-us> use_ssl]
[<-TrustLDAPCertificate|-tc> trust_ldap_certificate]
```

<-LDAPType|-lt> ldap_types=MicrosoftActiveDirectory, SunJavaSystemDirectory, NovellE-Directory, IBMTravelDirectory, OpenLDAP

[<-MaxSecurityDomainSize|-ms> Max_Security_Domain_size]

[<-GroupMembershipAttr|-gm> LDAP_Group_Membership_Attribute]

[<-LDAPNotCaseSensitive|-lnc> ldap_not_case_sensitive]

以下の表に、infacmd isp SetLDAPConnectivity のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-LDAPAddress -la	ldap_server_address	必須。LDAP ディレクトリサービスを管理するマシンのホスト名およびポート番号。通常、LDAP サーバーのポート番号は 389 です。LDAP サーバーが SSL を使用する場合、LDAP サーバーのポート番号は 636 になります。
-LDAPPrincipal -lp	ldap_principal	オプション。Principal User の識別名 (DN)。このオプションを省略して匿名ユーザとしてログインします。 詳細については、LDAP サーバーのマニュアルを参照してください。
-LDAPCredential -lc	ldap_credential	オプション。Principal User のパスワード。パスワードは、-lc オプションまたは INFA_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-lc オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。 このオプションを省略して匿名ユーザとしてログインします。
-UseSSL -us	use_ssl	オプション。このオプションを含める場合、LDAP ディレクトリサービスは、Secure Socket Layer (SSL) プロトコルを使用します。
-TrustLDAPCertificate -tc	trust_ldap_certificate	オプション。このオプションを含める場合、PowerCenter は、SSL 証明書を確認しないで LDAP サーバーに接続します。 このオプションを含めない場合、PowerCenter は、LDAP サーバーに接続する前に SSL 証明書が認証機関によって SSL 署名されていることを確認します。
-LDAPType -lt	ldap_types=value	必須。LDAP ディレクトリサービスのタイプ。ディレクトリサービスには以下が含まれます。 - MicrosoftActiveDirectory - SunJavaSystemDirectory - NovellE-Directory - IBMTivoliDirectory - OpenLDAP
-MaxSecurityDomainSize -ms	Max_Security_Domain_size	オプション。セキュリティドメインにインポートするユーザとグループの最大数 デフォルトは 1000 です。

オプション	引数	説明
-GroupMembershipAttr -gm	LDAP_Group_Membership_Attribute	オプション。ユーザーを削除するグループの名前。
-LDAPNotCaseSensitive -lnc	LDAP_Not_Case_Sensitive	オプション。LDAP ディレクトリサービスのユーザー名が大文字と小文字を区別しないことを示します。デフォルトは false です。

SetRepositoryLDAPConfiguration

PowerCenter リポジトリの LDAP サーバー設定オプションを更新します。

Informatica のインストール後に、リポジトリと外部の LDAP ディレクトリサービス間の接続情報の更新が必要な場合があります。

infacmd isp ListRepositoryLDAPConfiguration を使用して、LDAP サーバー設定オプションの-current値を表示します。

infacmd isp SetRepositoryLDAPConfiguration コマンドでは、以下の構文を使用します。

SetRepositoryLDAPConfiguration

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-LDAPAddress|-la> ldap_server_address

<-SearchBase|-sb> search base

<-SearchScope|-ss> search scope

<-LDAPPrincipal|-lp> ldap_principal

<-LDAPCredential|-lc> ldap_credential

<-LoginAttribute|-lt> login attribute

<-LoginFilter|-lf> login filter

[<-UseSSL|-us> use_ssl]

[<-CertificateDatabase|-cd> certificate database for ssl]

以下の表に、infacmd isp SetRepositoryLDAPConfiguration のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_secs	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-LDAPAddress -la	ldap_server_address	必須。LDAP ディレクトリサービスを管理するマシンのホスト名およびポート番号。通常、LDAP サーバーのポート番号は 389 です。

オプション	引数	説明
-SearchBase -sb	検索ベース	必須。LDAP ディレクトリツリー内のユーザ名検索の基点となるエントリの識別名 (Distinguished Name : DN)。LDAP は、オブジェクトの識別名のパスに従いディレクトリ内のオブジェクトを検索します。例えば、Microsoft Active Directory では、ユーザーオブジェクトの識別名は、cn=UserName、ou=OrganizationalUnit、dc=DomainName となり、dc=DomainName により示される一連の相対識別名は、オブジェクトの DNS ドメインを識別します。
-SearchScope -ss	検索スコープ	必須。ユーザ検索のスコープ。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> - Base。検索ベースで指定されているエントリを検索。 - One level。検索ベースより 1 レベル下のすべてのエントリを検索 (検索ベースは含まず)。 - Subtree。検索ベースエントリ下のすべてのレベルのエントリサブツリーを検索。
-LDAPPrincipal -lp	ldap_principal	必須。Principal User の識別名 (DN)。通常、ユーザー名は、共通名 (CN)、組織 (O)、および国名 (C) により構成されます。Principal User の名前は、ディレクトリへのアクセス権を持つ管理ユーザであり、認証する名前ではありません。LDAP サーバー内の他のユーザエントリの読み取り権限を持つユーザーを指定します。このオプションを省略して匿名ユーザとしてログインします。詳細については、LDAP サーバーのマニュアルを参照してください。
-LDAPCredential -lc	ldap_credential	必須。Principal User のパスワード。パスワードは、-lc オプションまたは INFA_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-lc オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。 このオプションを省略して匿名ユーザとしてログインします。
-LoginAttribute -lt	login_attribute	必須。ログイン名を含むディレクトリ属性。
-LoginFilter -lf	login_filter	必須。ユーザ検索の結果をフィルタリングする LDAP クエリー文字列。このフィルタでは、属性タイプ、アサーション値、マッチング基準が指定できます。たとえば、(objectclass=*)はすべてのオブジェクトを検索します。(&(objectClass=user)!(!(cn=susan)))</>は、「susan」以外のすべてのユーザオブジェクトを検索します。検索フィルタの詳細については、LDAP サーバのマニュアルを参照してください。検索フィルタの詳細については、LDAP サーバーのマニュアルを参照してください。
-UseSSL -us	use_ssl	このオプションは使用しないでください。Informatica では、バージョン 8.1.1 の SSL を使用する LDAP サーバーをサポートしていません。
-CertificateDatabase -cd	certificate_database_for_ssl	このオプションは使用しないでください。Informatica では、バージョン 8.1.1 の SSL を使用する LDAP サーバーをサポートしていません。

ShowLicense

ライセンスの詳細を表示します。表示されたライセンスの詳細は、すべてのライセンスキーの適用を蓄積した結果です。サービスマネージャは、ライセンスに差分キーを追加するときに現在のライセンス明細を更新しません。

infacmd isp ShowLicense コマンドを実行するには、ライセンスに対する権限が必要です。

infacmd isp ShowLicense コマンドでは、以下の構文を使用します。

ShowLicense

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-LicenseName|-ln> license_name

以下の表に、infacmd isp ShowLicense のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port.. .	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_s econds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-LicenseName -ln	license_name	必須。ライセンスの名前。

ShutdownNode

ノードをシャットダウンします。ノードをシャットダウンした後に、マシン上の Informatica Service を起動することで、ノードを再起動することができます。infacmd を使用してノードを再起動することはできません。

infacmd isp ShutdownNode コマンドでは、以下の構文を使用します。

ShutdownNode

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

以下の表に、infacmd isp ShutdownNode のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	node_name	必須。シャットダウンするノードの名前。

SwitchToGatewayNode

既存の作業ノードをゲートウェイノードに変換します。作業ノードに有効なサービスロールが必要です。

infacmd isp SwitchToGatewayNode コマンドでは、以下の構文を使用します。

SwitchToGatewayNode

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

[<-AdminconsolePort|-ap> admin_tool_port]

[<-AdminconsoleShutdownPort|-asp> admin_tool_shutdown_port]

<-LogServiceDirectory|-ld> log_service_directory

[<-DatabaseTruststorePassword|-dbtp> database_truststore_password]

[<-DatabaseTruststoreLocation|-dbtl> database_truststore_location]

以下の表に、infacmd isp SwitchToGatewayNode のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p>
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port. ..	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	node_name	必須。ゲートウェイノードに切り換えるノードの名前。
-AdminconsolePort -ap	admin_tool_port	Informatica Administrator にアクセスするためのポート。
-AdminconsoleShutdownPort -asp	admin_tool_shutdown_port	Informatica Administrator のシャットダウンを制御するポート番号。
-LogServiceDirectory -ld	log_service_directory	必須。ログマネージャがログイベントファイルの格納に使用する共有ディレクトリパス。
-DatabaseTruststorePassword -dbtp	database_truststore_password	オプション。セキュアデータベースのデータベーストラストストアファイルのパスワード。ドメインにセキュアなドメインリポジトリデータベースを設定する場合は必須。
-DatabaseTruststoreLocation -dbtl	database_truststore_location	セキュアデータベースのトラストストアファイルのパスとファイル名。ドメインにセキュアなドメインリポジトリデータベースを設定する場合は必須。

SwitchToWorkerNode

ゲートウェイノードを作業ノードに変換します。切り換えるノードがドメイン内の唯一のゲートウェイノードである場合、このコマンドは失敗します。

ノードがマスタゲートウェイノードの場合は、そのノードをシャットダウンしてから作業ノードに変換する必要があります。ノードをシャットダウンし、マスタゲートウェイが別のノードにフェールオーバーするまで待機します。そうすれば、ノードを再起動し、`infacmd isp SwitchToWorkerNode` コマンドを実行できます。

`infacmd isp SwitchToWorkerNode` コマンドでは、以下の構文を使用します。

SwitchToWorkerNode

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

以下の表に、`infacmd isp SwitchToWorkerNode` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port. ..	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	node_name	必須。作業ノードに切り換えるノードの名前。

SyncSecurityDomains

セキュリティドメイン内のユーザーおよびグループを LDAP ディレクトリサービスのユーザーおよびグループと同期します。

infacmd isp SyncSecurityDomains コマンドでは、以下の構文を使用します。

SyncSecurityDomains

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-SynchronizingNamespace|-sn> namespace_to_sync

以下の表に、`infacmd isp SyncSecurityDomain` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	<code>domains.infa</code> ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_se conds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
<-SynchronizingNamespace -sn	namespace_to_sync	LDAP ディレクトリサービスと同期するセキュリティドメインの名前。

UnassignISMMService

Metadata Manager サービスから PowerCenter 統合サービスの関連付けを解除します。PowerCenter 統合サービスを削除する場合、リソースをロードする前に、別の PowerCenter 統合サービスと関連付けをする必要があります。

infacmd isp UnassignISMMService コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UnassignISMMService
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> securitydomain]
```

```
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-IntegrationService|-is> integration_service_name
```

以下の表に、infacmd isp UnassignISMService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-ServiceName -sn	service_name	必須。統合サービスの割り当てを解除する Metadata Manager サービスの名前。
-IntegrationService -is	integration_service_name	必須。Metadata Manager サービスから関連を解除する統合サービスの名前。

UnassignLicense

アプリケーションサービスからライセンスを削除します。サービスを停止する必要があります。ライセンスをサービスから削除した後は、有効なライセンスを割り当て直し、サービスを再度有効にする必要があります。

UnassignLicense コマンドは、以下の構文を使用します。

UnassignLicense

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-LicenseName|-ln> license_name

<-ServiceNames|-sn> service1_name service2_name ...

以下の表に、*infacmd isp* UnassignLicense のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-LicenseName -ln	license_name	必須。割り当て解除するライセンスの名前。
-ServiceNames -sn	service_name1 service_name2 ...	必須。ライセンスを削除するサービス名。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

UnassignRoleFromGroup

ドメインまたはアプリケーションサービスのグループからロールを削除します。

infacmd isp UnassignRoleFromGroup コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UnassignRoleFromGroup
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-GroupName|-gn> group_name

[<-GroupSecurityDomain|-gsf> group_security_domain]

<-RoleName|-rn> role_name

<-ServiceName|-sn> service_name

以下の表に、infacmd isp UnassignRoleFromGroup のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-GroupName -gn	group_name	必須。ロールを削除するグループの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-GroupSecurityDomain -gsf	group_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ロールを削除しているグループが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-RoleName -rn	role_name	必須。グループから削除対象のロールの名前。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ロールを削除するドメインまたはアプリケーションサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

UnassignRoleFromUser

ドメインまたはアプリケーションサービスのグループからユーザーを削除します。

infacmd isp UnassignRoleFromUser コマンドでは、以下の構文を使用します。

UnassignRoleFromUser

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ExistingUserName|-eu> existing_user_name

[<-ExistingUserSecurityDomain|-esd> existing_user_security_domain]

<-RoleName|-rn> role_name

<-ServiceName|-sn> service_name

以下の表に、infacmd isp UnassignRoleFromUser のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ExistingUserName -eu	existing_user_name	必須。ロールを削除しているユーザアカウント。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-ExistingUserSecurityDomain -esd	existing_user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ロールを削除しているユーザーが属するセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-RoleName -rn	role_name	必須。ユーザから削除対象のロールの名前。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ロールを削除するドメインまたはアプリケーションサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

UnassignRSWSHubService

ドメイン内の PowerCenter リポジトリと Web サービス Hub の関連付けを解除します。

infacmd isp UnassignRSWSHubService コマンドでは、以下の構文を使用します。

UnassignRSWSHubService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-NodeName|-nn> node_name

<-RepositoryService|-rs> repository_service_name

以下の表に、infacmd isp UnassignRSWSHubService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。リポジトリとの関連付けを解除する Web サービス Hub の名前。

オプション	引数	説明
-NodeName -nn	node_name	必須。Web サービス Hub プロセスを実行するノードの名前です。Informatica 環境が高可用性の設定になっている場合、このオプションにより、プライマリノードの名前を指定できます。
-RepositoryService -rs	repository_service_name	必須。Web サービス Hub が依存するリポジトリサービスの名前です。 スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

UnassociateDomainNode

ドメイン内のノードとアドレスの関連付けを解除します。ノード名はドメイン内に残りますが、物理アドレスが割り当てられていない状態です。

例えば、ドメインで、「Node1」がマシン「MyHost:9090」に関連付けられているとします。このコマンドを実行すると、「Node1」という名前とホストアドレス「MyHost:9090」の間の接続が削除されます。その後、「Node1」を新しいホストに関連付けることができます。infasetup の DefineGatewayNode コマンドまたは DefineWorkerNode コマンドを新しいホスト上で実行して、そのマシンに「Node1」を定義する必要があります。

infacmd isp UnassociateDomainNode コマンドでは、以下の構文を使用します。

UnassociateDomainNode

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

以下の表に、infacmd isp UnassociateDomainNode のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	node_name	必須。ドメインから関連付けを解除するノード名。

UpdateConnection

接続を更新します。接続オプションを一覧表示するには、`infacmd isp ListConnectionOptions` を実行します。

`infacmd isp UpdateConnection` コマンドでは、以下の構文を使用します。

`UpdateConnection`

`<-DomainName|-dn> domain_name`

`<-UserName|-un> user_name`

`<-Password|-pd> password`

`[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]`

`[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]`

`<-ConnectionName|-cn> connection_name`

`[<-ConnectionUserName|-cun> connection_user_name]`

`[<-ConnectionPassword|-cpd> connection_password]`

`[-o options]` (name-value pairs separated by space)

以下の表に、`infacmd isp UpdateConnection` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
<code>-DomainName</code> <code>-dn</code>	<code>domain_name</code>	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、 <code>-dn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、 <code>-dn</code> オプションが優先されます。
<code>-UserName</code> <code>-un</code>	<code>user_name</code>	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、 <code>-un</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、 <code>-un</code> オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
<code>-Password</code> <code>-pd</code>	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、 <code>-pd</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、 <code>-pd</code> オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。</p>
-ConnectionName -cn	connection_name_security_domain	<p>必須。更新する接続の名前。</p>
ConnectionUserName -cun	connection_username	<p>必須。データベースユーザ名。</p>

オプション	引数	説明
-ConnectionPassword -cpd	connection_pass word	<p>必須。上記データベースユーザ名のパスワード。</p> <p>ADABAS、DB2I、DB2Z、IMS、SEQ、または VSAM の接続を更新する場合、パスワードの代わりに有効な PowerExchange のパスフレーズを入力することができます。z/OS におけるデータベースとデータセットへのアクセス用のパスフレーズの長さは、9 から 128 文字です。DB2 for i5/OS へのアクセス用のパスフレーズの長さは、最長 31 文字です。パスフレーズには次の文字を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 大文字および小文字 - 0~9 の数字 - スペース - 次を示す特殊文字。 ' - ; # \ , . / ! % & * () _ + { } : @ < > ? <p>注: 最初の文字はアポストロフィです。</p> <p>パスフレーズに一重引用符 (')、二重引用符 (")、通貨記号を含めることはできません。</p> <p>パスフレーズにスペースが含まれている場合、必ずそれを二重引用符 (") で囲んでください (例: "This is an example passphrase")。パスフレーズに特殊文字が含まれる場合、パスフレーズを 3 重にした二重引用符 (""") で囲む必要があります (例: """"This passphrase contains special characters !% & *. """")。パスフレーズにスペース以外の英数字のみが使用されている場合、このような区切り文字を使わずにそのまま入力できます。</p> <p>注: z/OS では、有効な RACF パスフレーズは最大 100 文字の長さで指定できます。</p> <p>PowerExchange は、パスフレーズを検証のため RACF に渡す場合、100 文字より長いパスフレーズを切り捨てます。</p> <p>パスフレーズを使用するには、DBMOVER メンバのセキュリティ設定を SECURITY=(1,N)以上にして PowerExchange リスナを実行します。詳細については、『PowerExchange リファレンスマニュアル』の「SECURITY 文」を参照してください。</p> <p>IMS の接続のパスフレーズを使用するために、次の追加の要件を確実に満足させてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 『PowerExchange Navigator ユーザーガイド』で説明しているように、ODBA を使用した IMS へのアクセスを設定する必要があります。 - 必ずアクセス方式に IMS ODBA を指定している IMS データマップを使用してください。DL/1 BATCH アクセス方式を指定するデータマップは使用しないでください。これは、パスフレーズをサポートしていない netport ジョブの使用がこのアクセス方式で必須になっているためです。

オプション	引数	説明
		- IMS データベースは、ODBA の IMS へのアクセスを使用するために、IMS 制御領域でオンラインにする必要があります。
- Options -o	オプション	名前と値のペアをスペースで区切って入力します。 infacmd isp ListConnectionOptions を実行して、有効なオプションを表示します。

UpdateDomainOptions

ドメインのプロパティを更新します。ドメインプロパティには、レジリエンスタイムアウト、レジリエンスタイムアウトの制限、再起動の最大試行回数、再起動期間、TLS モード、ディスパッチモードなどのプロパティがあります。

infacmd isp UpdateDomainOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateDomainOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-DomainOptions|-do> option_name=value ...

以下の表に、infacmd isp UpdateDomainOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されず。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-DomainOptions -do	option_name=value	<p>必須。更新するドメインのプロパティ。以下のプロパティを更新できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - LicenseUsageDetailMinDays。Log Manager がライセンス使用状況のログイベントを保持する最小日数。 - LicenseUsageSummaryMinDays。Log Manager がライセンス使用状況のデータベースの記録を保持する最小日数。 - ResilTimeout。サービスがクライアントとして他のサービスに接続を試行する時間 (秒)。 - RestartsMaxAttempts。失敗時、指定された期間内にドメインがアプリケーションサービスプロセスをリスタートしようとする回数。 - RestartsWithinSeconds。失敗時、ドメインがアプリケーションサービスプロセスのリスタートを試行する最大時間 (秒)。 - ServiceResilTimeout。サービスが別のサービスへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。 - TaskDispatchMode。タスクに対するロードバランサのディスパッチモード。RoundRobin、MetricBased、または Adaptive です。統合サービスを再起動して変更を適用します。 - TLSMode。ドメイン内のサービス間の通信をセキュリティで保護します。変更を反映するには、ドメインを再起動します。有効な値は True または False です。

UpdateFolder

フォルダの説明を更新します。

infacmd isp UpdateFolder コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateFolder

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-FolderPath|-fp> full_folder_path

<-FolderDescription|-fd> description_of_folder

以下の表に、infacmd isp UpdateFolder のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-FolderPath -fp	full_folder_path	必須。更新するフォルダへの完全パス（ドメイン名を除く）。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i>
-FolderDescription -fd	description_of_folder	必須。フォルダの説明です。フォルダの説明にスペースまたは英数字以外の文字が含まれる場合は、説明を引用符で囲みます。

UpdateGatewayInfo

domains.infa ファイルのゲートウェイノードの接続情報を更新します。

infacmd isp UpdateGatewayInfo コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateGatewayInfo

<-DomainName|-dn> domain_name

<-GatewayAddress|-dg> domain_gateway_host:port

[<-Force|-f>]

以下の表に、infacmd isp UpdateGatewayInfo のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。ドメインの名前。
-GatewayAddress -dg	domain_gateway_host:port	必須。ゲートウェイホストのマシン名およびポート番号。
-Force -f	-	オプション。ドメインへの接続が失敗した場合でも、domains.infa ファイルを更新または作成します。ドメインへの接続が失敗した場合は、domains.infa ファイルに -Force オプションによって Kerberos および TLS で有効化されるオプションが失敗として設定されます。-Force オプションを指定しない場合は、ドメインへの接続が失敗した場合に、このコマンドは domains.infa ファイルを更新しません。

UpdateGrid

グリッドに割り当てられたノードのリストを更新します。

infacmd isp UpdateGrid コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateGrid

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-GridName|-gn> grid_name

<-NodeList|-nl> node1 node2 ...

[<-UpdateNodeList|-ul> true|false]

以下の表に、infacmd isp UpdateGrid のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されず。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレلمと同じです。</p>
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-GridName -gn	grid_name	必須。グリッドの名前。
-NodeList -nl	node1 node2 ...	<p>必須。グリッドに割り当てるノードの名前。このノードのリストは、定義されている -ul オプションに基づいて以前にグリッドに割り当てられていたノードのリストを置き換えるか、または更新します。</p> <p>-ul オプションを指定すると、-nl オプションにより、以前にグリッドに割り当てられていたノードのリストは更新されます。-ul オプションを指定しない場合、-nl オプションにより、以前にグリッドに割り当てられていたノードのリストは置き換えられます。</p>
-UpdateNodeList -ul	true false	オプション。以前にグリッドに割り当てられていたノードのリストを置き換える代わりに、-nl オプションの値を使用して現在のノードのリストを更新します。true の場合、infacmd は、以前にグリッドに割り当てられていたノードと共に -nl オプションを使用して指定されているノードのリストによってノードリストを更新します。false の場合、infacmd は -nl オプションを使用して指定されているノードのリストでノードリストを置き換えます。デフォルトは false です。

UpdateIntegrationService

PowerCenter 統合サービスの設定プロパティを更新します。

infacmd isp UpdateIntegrationService コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateIntegrationService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-NodeName|-nn> node_name|<-GridName|-gn> grid_name]

[<-BackupNodes|-bn> node1 node2 ...]

[<-RepositoryService|-rs> repository_service_name]

[<-RepositoryUser|-ru> repository_user]

[<-RepositoryPassword|-rp> repository_password]

[<-RepositoryUserSecurityDomain|-rsdn> repository_user_security_domain]

[<-ServiceOptions|-so> option_name=value ...]

注: Kerberos 認証では、infacmd isp UpdateIntegrationService コマンドで-ru、-rp、および-rsdn オプションを使用してはいけません。これらのオプションを Kerberos モードで使用すると、このコマンドは失敗します。

以下の表に、infacmd isp UpdateIntegrationService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合、デフォルトはインストール中に指定されたユーザー領域です。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port .. .	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_s econds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。統合サービス名。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-NodeName -nn	node_name	オプション。統合サービスプロセスを実行するノードの名前。PowerCenter 環境が高可用性に設定されている場合、このオプションでプライマリノードの名前を指定できます。 グリッド名を指定する場合は、このオプションに値を入力しないでください。
-GridName -gn	grid_name	オプション。統合サービスが実行されるグリッドの名前。ノード名を指定する場合は、このオプションに値を入力しないでください。
-BackupNodes -bn	node1 node2 ...	オプション。プライマリノードが使用できない場合にサービスが実行されるノード。高可用性オプションがある場合は、バックアップノードを設定できます。
-RepositoryService -rs	repository_service_n ame	オプション。統合サービスが依存するリポジトリサービスの名前。 スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

オプション	引数	説明
-RepositoryUser -ru	user	ネイティブまたは LDAP 認証で必須。リポジトリへの接続に使用するユーザー名。 スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-RepositoryPassword -rp	パスワード	ネイティブまたは LDAP 認証で必須。ユーザーパスワード。パスワードは、-rp オプションまたは INFA_REPOSITORY_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-rp オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-RepositoryUserSecurityDomain -rsdn	repository_user_security_domain	LDAP 認証で必須。ドメインでネイティブの認証が使用されている場合は任意。PowerCenter リポジトリユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。 セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。このオプションを指定しない場合、コマンドはリポジトリユーザーセキュリティドメインをネイティブに設定します。
-ServiceOptions -so	option_name=value	オプション。PowerCenter 統合サービスの実行方法を定義するサービスプロパティ。

UpdateLicense

ドメインのライセンス情報を更新します。差分ライセンスキーを使用してライセンスを更新する場合に実行します。このキーにより、ライセンスされているオプションを追加または削除することができます。

差分キーをライセンスに追加する場合に、差分キーの有効期限が元のキーよりも後の日付になるときは、サービスマネージャがライセンスの有効期限を更新します。

infacmd isp UpdateLicense コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateLicense

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-LicenseName|-ln> license_name

<-LicenseKeyFile|-lf> license_key_file

以下の表に、infacmd isp UpdateLicense のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-LicenseName -ln	license_name	必須。更新するライセンスオブジェクトの名前。
-LicenseKeyFile -lf	license_key_file	必須。名前と、差分キーが含まれるファイルへのパス。

UpdateMMService

Metadata Manager サービスのサービスオプションを更新または作成します。サービスオプションを更新または作成するには、Metadata Manager サービスを無効にして、オプションを更新し、サービスを再有効化します。

infacmd isp UpdateMMService コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpdateMMService
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-LicenseName|-ln> license_name]
<-ServiceOptions|-so> option_name=value ...>
```

以下の表に、infacmd isp UpdateMMService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。更新する Metadata Manager サービスの名前。
-LicenseName -ln	license_name	必須。Metadata Manager サービスに割り当てるライセンスの名前。
-ServiceOptions -so	option_name=value	オプション。Metadata Manager サービスの実行方法を定義するサービスプロパティ。

UpdateMonitoringOptions

ドメイン内のアクションを監視するには、一般的なプロパティを更新します。

モデルリポジトリサービスに -ModelRepositoryService オプションを指定する場合は、-RepositoryUserName および -RepositoryPassword オプションの値も入力する必要があります。3つのオプションについて、すべてに値を指定するか、すべてに値を指定しないかのどちらかにする必要があります。

infacmd isp UpdateMonitoringOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpdateMonitoringOptions
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-ModelRepositoryService|-rs> model_repository_service]
[<-RepositoryUserName|-rsun> model_repository_user_name]
[<-RepositoryPassword|-rspd> model_repository_password]
[<-RepositorySecurityDomain|-rsdn> model_repository_security_domain]
[<-AdministratorOptions|-ao> option_name=value ...(MaxSortedRecords, ShowMilliSeconds)]
[<-CachingOption|-co> option_name=value ...(DefaultNotificationDelay)]
[<-PurgeOptions|-po> option_name=value ...(PurgeScheduleTime, PurgeTaskFrequency, StatisticsExpiryTime, DetailedStatisticsExpiryTime)]
```

以下の表に、infacmd isp UpdateMonitoringOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合、デフォルトはインストール中に指定されたユーザー領域です。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立を試行する秒数。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。デフォルトは 180 秒です。
-ModelRepositoryService -rs	model_repository_service	オプション。履歴情報を格納するモデルリポジトリサービスの名前。
-RepositoryUserName -rsun	model_repository_user_name	ネイティブまたは LDAP 認証の場合は必須。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。モデルリポジトリサービスにアクセスするためのユーザー名。
-RepositoryPassword -rspd	model_repository_password	ネイティブまたは LDAP 認証の場合は必須。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。モデルリポジトリサービスにアクセスするためのユーザーパスワード。

オプション	引数	説明
- RepositorySecurityDomain -rsdn	model_repository_security_domain	LDAP または Kerberos 認証の場合は必須。ドメインでネイティブ認証が使用されている場合は任意です。 PowerCenter リポジトリユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは大文字小文字を区別します。このオプションを指定しない場合、コマンドはリポジトリユーザーセキュリティドメインをネイティブに設定します。
-AdministratorOptions -ao	option_name=value	オプション。レコードおよび監視レポートの一般的な管理者設定。以下のオプションを設定できます。 - MaxSortedRecords。ソートできる最大レコード数。デフォルトは 3,000 です。 - ShowMilliseconds。監視レポートの日時フィールドにミリ秒まで表示します。true または false に設定できます。デフォルトは false です。
-CachingOption -co	option_name=value	オプション。キャッシュ統計の設定。以下のオプションを設定できます。 - DefaultNotificationDelay。データ統合サービスで統計をバッファする最大秒数。この秒数を経過すると、モデルリポジトリ内に統計が保持され、監視レポートに書き込まれます。デフォルトは 10 です。
-PurgeOptions -po	option_name=value	オプション。ページ統計の設定。以下のオプションを設定できます。 - PurgeScheduleTime。モデルリポジトリサービスで統計をページする時刻。デフォルトは午前 1 時です。 - PurgeTaskFrequency。モデルリポジトリサービスで、ExpiryTime オプションに設定した値が経過した統計をページする間隔（日数）。デフォルトは 1 です。 - StatisticsExpiryTime。モデルリポジトリで平均統計を保存する日数。ページ処理が無効になっている場合、モデルリポジトリには統計情報が無期限に保存されます。デフォルトは 180 です。最小値は 0 です。最大値は 366 です。 - DetailedStatisticsExpiryTime。モデルリポジトリサービスで毎分の統計を保存する日数。ページ処理が無効になっている場合、モデルリポジトリには統計情報が無期限に保存されます。デフォルトは 14 です。最小値は 0 です。最大値は 14 です。

UpdateNamespace

ユーザーおよびグループ用に提供されているフィルタを使用して LDAP セキュリティドメインを更新します。Informatica ドメインが LDAP または Kerberos 認証を使用する場合に、LDAP セキュリティドメインを更新します。

infacmd isp UpdateNamespace コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateNamespace

```
<-DomainName|-dn> domain_name  
  
<-UserName|-un> user_name  
  
<-Password|-pd> password  
  
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]  
  
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]  
  
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]  
  
<-NameSpace|-ns> namespace  
  
[<-UserSearchBase|-usb> usersearchbase]  
  
[<-UserFilter|-uf> userfilter]  
  
[<-GroupSearchBase|-gsb> groupsearchbase]  
  
[<-GroupFilter|-gf> groupfilter]
```

以下の表に、infacmd isp UpdateNamespace のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>-sdn の値を指定できます。または認証モードに基づいてデフォルトの値を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。デフォルトはネイティブです。LDAP 認証と連動するには、-sdn の値を指定する必要があります。 - ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ネイティブ認証の場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。環境変数を指定しない場合、使用されるデフォルト値は 180 秒です。
-NameSpace -ns	名前空間	<p>必須。LDAP または Kerberos セキュリティドメインの名前。この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。名前にはスペースと次の特殊文字を使用できません。</p> <p>, + / < > @ ; \ % ?</p> <p>名前は 128 文字を超えることはできません。名前の最初および最後の文字以外で、ASCII のスペース文字を使用できます。その他のスペース文字は使用できません。</p>
-UserSearchBase -usb	usersearchbasesu	<p>LDAP ディレクトリサービス内のユーザー名検索の基点となるエントリの識別名 (Distinguished Name : DN)。LDAP ディレクトリサービスは、オブジェクトの識別名のパスに従いディレクトリ内のオブジェクトを検索します。</p> <p>例えば、Microsoft Active Directory では、ユーザーオブジェクトの識別名は、cn=UserName、ou=OrganizationalUnit、dc=DomainName となり、dc=DomainName により示される一連の相対識別名は、オブジェクトの DNS ドメインを識別します。</p>

オプション	引数	説明
-UserFilter -uf	userfilter	ディレクトリサービス内のユーザー検索の基準を指定する LDAP クエリ文字列。このフィルタでは、属性タイプ、アサーション値、マッチング基準が指定できます。 例えば、フィルタ(objectclass=*)はすべてのオブジェクトを検索します。フィルタ(&(objectClass=user)(!(cn=susan)))は、「susan」以外のすべてのユーザーオブジェクトを検索します。検索フィルタの詳細については、LDAP ディレクトリサービスのマニュアルを参照してください。
-GroupSearchBase -gsb	groupsearchbase	LDAP ディレクトリサービス内のグループ名検索の基点となるエントリの識別名 (Distinguished Name : DN)。
-GroupFilter -gf	groupfilter	ディレクトリサービス内のグループ検索の基準を指定する LDAP クエリ文字列。

UpdateNodeOptions

バックアップディレクトリ、CPU プロファイル、エラー重要度レベル、サービスプロセスポート、準備されたリソースのしきい値など、ノードの全般プロパティを更新します。

infacmd isp UpdateNodeOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateNodeOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

[<-NodeOptions|-no> option_name=value ...]

[<-ResourceProvision|-rp> option_name=value ...]

以下の表に、infacmd isp UpdateNodeOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port..	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	node_name	オプション。更新するリソースプロビジョンのしきい値があるノードの名前。

オプション	引数	説明
-NodeOptions -no	option_name=value	<p>オプション。更新するノードのオプション。以下のオプションを更新できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - BackupDir。リポジトリバックアップファイルを格納するディレクトリ。 - CPUProfile。ベースラインシステムと比較したノードのCPUパフォーマンスの順位。ErrorSeverityLevel。ノードのエラーロギングのレベル。error, warning, info, trace, debug があります。 - MaxProcessPort。ノード上のサービスプロセスが使用する最大ポート番号。 - MinProcessPort。ノード上のサービスプロセスが使用する最小ポート番号。 <p>以下の例では、MaxProcessPort を 1515 に設定します。</p> <pre>infacmd UpdateNodeOptions ... -no MaxProcessPort=1515</pre>
-ResourceProvision -rp	option_name=value	<p>オプション。更新するリソースプロビジョンのしきい値。以下のしきい値を更新できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - MaxCPURunQueueLength。ノードのCPUリソースを待機している実行可能なスレッドの最大数です。 - MaxMemoryPercent。物理メモリの合計サイズに対する、ノードに割り当てられている仮想メモリの最大割合 (%) です。 - MaxProcesses。ノード上で実行している各統合サービス上で実行可能なセッションタスクとコマンドタスクの最大数。 <p>以下の例では、MaxProcesses を 15 に設定します。</p> <pre>infacmd UpdateNodeOptions ... -rp MaxProcesses=15</pre>

UpdateNodeRole

ドメイン内のノードのロールを更新します。ノードのサービスノードまたは計算ロールを有効または無効にできます。

デフォルトでは、各ノードにはサービスロールと計算ロールの両方が指定されています。ノードがデータ統合サービスグリッドに割り当てられている場合は、ノードロールを更新できます。ノードをデータ統合サービスプロセスの実行専用にするには、サービスロールだけを有効にします。ノードをデータ統合サービスマッピングの実行専用にするには、計算ロールだけを有効にします。

データ統合サービスまたはデータ統合サービスグリッドに割り当てられたノードのロールを更新する場合、データ統合サービスをリサイクルして変更を有効にする必要があります。

infacmd isp UpdateNodeRole コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateNodeRole

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

```

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-nodeName|-nn> node_name
[<-EnableServiceRole|-esr> true|false]
[<-EnableComputeRole|-ecr> true|false]
[<-disableComputeRoleMode|-mo> disable_mode]

```

以下の表に、infacmd isp UpdateNodeRole のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されません。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port. ..	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	node_name	必須。更新するノードの名前。
-EnableServiceRole -esr	true false	オプション。ノードのサービスロールを有効にします。true の場合、アプリケーションサービスをノードで実行できます。false の場合、アプリケーションサービスをノードで実行できません。ノードがデータ統合サービスグリッドに割り当てられており、ノードをマッピングの実行専用として使用する場合のみ、false に設定してください。デフォルトは true です。
-EnableComputeRole -esr	true false	オプション。ノードの計算ロールを有効にします。true の場合、ノードはリモートアプリケーションサービスが要求する計算を実行できます。false の場合、ノードはリモートアプリケーションサービスが要求する計算を実行できません。 データ統合サービスがノード上でジョブを実行する場合、そのノードは計算ロールを必要とします。 データ統合サービスがノード上でジョブを実行しない場合は、計算ロールを無効にすることができます。しかし、計算ロールを有効または無効に設定しても、パフォーマンスに影響はありません。 デフォルトは true です。
-disableComputeRole Mode -mo	disable_mode	オプション。計算ロールを無効にする方法を定義します。 - 完了。計算ロールを無効にする前に、計算を実行して完了します。 - 停止。実行中のすべての計算を停止してから、計算ロールを無効にします。 - 強制終了。実行中のすべての計算の停止を試みた後、計算ロールを強制終了して無効にします。 デフォルトは強制終了です。

UpdateOSProfile

ドメイン内のオペレーティングシステムプロファイルのプロパティを更新します。

注: オペレーティングシステムプロパティを使用するワークフローを実行するには、オペレーティングシステムプロファイルオプションを持っている必要があります。

infacmd isp UpdateOSProfile コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateOSProfile

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

```

<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-OSProfileName|-on> OSProfile_name
[<-IntegrationServiceProcessOptions|-po> option_name=value ...

```

以下の表に、`infacmd isp UpdateOSProfile` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-OSProfileName -on	OSProfile_name	必須。オペレーティングシステムプロファイルの名前。
-IntegrationServiceProcessOptions -po	option_name=value	オプション。統合サービスの実行方法を定義するサービスプロセスプロパティ。

UpdateReportingService

レポートサービスのサービスオプションとリネージオプションを更新または作成します。

infacmd isp UpdateReportingService コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateReportingService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

```
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
[<-ServiceOptions|-so> option_name=value]
```

```
[<-LineageService|-ls> option_name=value ]
```

以下の表に、infacmd isp UpdateReportingService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。更新するレポートサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-ServiceOptions -so	option_name=value	オプション。レポートサービスの実行方法を定義するサービスプロパティ。
-LineageService -ls	option_name=value	オプション。Data Analyzer のデータに対するリネージ分析の実行に必要なリネージプロパティ。

UpdateRepositoryService

PowerCenter リポジトリサービスのサービスオプションを更新または作成します。

例えば、PowerCenter リポジトリサービスの操作モードを更新すると、ノーマルモードまたは排他モードに設定できます。ノーマルモードでは、複数のユーザーが PowerCenter リポジトリサービスにアクセスしてリポジトリコンテンツを更新できます。排他モードでは、単一のユーザーが PowerCenter リポジトリサービスにアクセスしてリポジトリコンテンツを更新できます。単一ユーザーがログインして設定を更新する必要がある管理操作を行う場合、操作モードを排他モードに設定します。PowerCenter リポジトリサービスの操作モードを更新するには、PowerCenter リポジトリサービスを無効にし、操作モードを更新してから再度 PowerCenter リポジトリサービスを有効にします。

infacmd isp UpdateRepositoryService コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateRepositoryService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-NodeName|-nn> node_name]

[<-BackupNodes|-bn> node1 node2 ...]

[<-ServiceOptions|-so> option_name=value ...]

以下の表に、infacmd isp UpdateRepositoryService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。更新する PowerCenter リポジトリサービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

オプション	引数	説明
-NodeName -nn	node_name	オプション。PowerCenter リポジトリサービスのプロセスを実行するノードの名前。PowerCenter 環境が高可用性に設定されている場合、このオプションでプライマリノードの名前を指定できます。
-BackupNodes -bn	node1 node2 ...	オプション。プライマリノードが使用できない場合にサービスを実行できるノード。高可用性オプションがある場合は、バックアップノードを設定できます。
-ServiceOptions -so	option_name=value	必須。PowerCenter リポジトリサービスの実行方法を定義するサービスプロパティ。

リポジトリサービスのオプション (-so)

次の形式でリポジトリサービスのオプションを入力します。

```
infacmd CreateRepositoryService ... -so option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、リポジトリサービスのオプションを示します。

オプション	説明
AllowWritesWithRACaching	オプション。Repagent キャッシュが有効な場合、リポジトリのメタデータの変更に PowerCenter Client ツールを使用します。デフォルトは [はい] です。
CheckinCommentsRequired	オプション。リポジトリオブジェクトをチェックインするときに、ユーザーはコメントを追加する必要があります。デフォルトは [はい] です。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。
CodePage	必須。データベースのコードページの説明。スペースまたは英数字以外の文字を含むコードページの説明を入力する場合は、名前を引用符で囲みません。
ConnectionString	必須。PowerCenter リポジトリサービスのセットアップ中に指定されるデータベース接続文字列。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。
DBPassword	必須。データベースユーザーに対応するリポジトリデータベースパスワード。パスワードは、-so オプションまたは INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-so オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。
DBPoolExpiryThreshold	オプション。PowerCenter リポジトリサービスで許可されるアイドル状態のデータベース接続の最小値。例えば、20 個のアイドル状態の接続があり、このしきい値を 5 に設定した場合、PowerCenter リポジトリサービスは接続を 15 個まで閉じます。最小値は 3 です。デフォルトは 5 です。

オプション	説明
DBPoolExpiryTimeout	オプション。PowerCenter リポジトリサービスがアイドル状態のデータベース接続を確認する間隔（秒）。この値を超える時間、接続がアイドル状態になっている場合、PowerCenter リポジトリサービスは接続を閉じることがあります。最小値は 300 です。最大は 2,592,000（30 日間）です。デフォルトは 3,600（1 時間）です。
DBUser	必須。リポジトリが含まれているデータベースのアカウント。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。
DatabaseArrayOperationSize	オプション。データベース配列操作（挿入または取り出しなど）が発行されるたびに取り出される行数です。デフォルトは 100 です。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。
DatabaseConnectionTimeout	オプション。PowerCenter リポジトリサービスがデータベース管理システムへの接続の確立を試みる時間（秒）。デフォルトは 180 です。
DatabasePoolSize	オプション。PowerCenter リポジトリサービスが構築するリポジトリデータベースへの接続の最大数。最小値は 20 です。デフォルトは 500 です。
DatabaseType	必須。リポジトリメタデータを格納しているデータベースのタイプ。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。
EnableRepAgentCaching	オプション。リポジトリエージェントキャッシュ機能を有効にします。デフォルトは [はい] です。
ErrorSeverityLevel	オプション。PowerCenter リポジトリサービスログに書き込まれるエラーメッセージの最小レベル。 <ul style="list-style-type: none"> - 致命 - エラー 警告 - 情報 - トレース - デバッグ デフォルトは info です。
HeartBeatInterval	オプション。PowerCenter リポジトリサービスがサービスのクライアントとの接続を確認する間隔。デフォルトは 60 秒です。
MaxResilienceTimeout	オプション。サービスが、レジリエンスのためにリソースを確保する最大時間（秒）です。デフォルトは 180 です。
MaximumConnections	オプション。リポジトリがリポジトリクライアントから受け入れる接続の最大数。デフォルトは 200 です。
MaximumLocks	オプション。リポジトリがメタデータオブジェクトに配置するロックの最大数デフォルトは 50,000 です。
OperatingMode	オプション。PowerCenter リポジトリサービスが実行されているモード。 <ul style="list-style-type: none"> - ノーマル - 占有 デフォルトは [ノーマル] です。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。

オプション	説明
OptimizeDatabaseSchema	<p>オプション。リポジトリコンテンツを作成するか、IBM DB2 または Microsoft SQL Server のリポジトリをバックアップしてリストアする場合に、リポジトリのデータベーススキーマを最適化します。有効にすると、PowerCenter リポジトリサービスは、CLOB カラムの代わりに Varchar カラムを含むリポジトリテーブルの作成を精度 2000 で試行します。リポジトリのパフォーマンスを向上するには、Varchar カラムを使用します。Varchar カラムを使用する場合は、ディスクの入力および出力を削減すると、データベースはカラムをキャッシュできます。</p> <p>このオプションを使用するには、次のリポジトリデータベースのページサイズ要件を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - IBM DB2。データベースのページサイズが 4KB 以上。ページサイズが 16KB 以上ある一時テーブル領域を少なくとも 1 つ。 - Microsoft SQL Server。データベースのページサイズが 8KB 以上。 <p>デフォルトでは無効になっています。</p>
PreserveMXData	<p>オプション。以前のバージョンのマッピングの MX データを保存します。デフォルトでは無効になっています。</p>
RACacheCapacity	<p>オプション。リポジトリエージェントキャッシュを有効にしたときに、キャッシュが含むことができるオブジェクトの数。デフォルトは 10,000 です。</p>
SecurityAuditTrail	<p>オプション。ユーザー、グループ、特権、および権限に対する変更を追跡します。デフォルトは [いいえ] です。</p>
ServiceResilienceTimeout	<p>オプション。サービスが他のサービスとの接続を確立または再確立しようと試みる時間 (秒) です。デフォルトは 180 です。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。</p>
TableOwnerName	<p>オプション。IBM DB2 リポジトリのリポジトリテーブルのオーナー名。</p>
TablespaceName	<p>オプション。IBM DB2 リポジトリのテーブルスペース名。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。</p>
TrustedConnection	<p>オプション。Windows 認証を使用して、Microsoft SQL Server データベースにアクセスします。デフォルトは [いいえ] です。変更を適用するには、PowerCenter リポジトリサービスを再開します。</p>

UpdateSAPBWService

SAP BW サービスのサービスおよびサービスプロセスのオプションを更新します。

infacmd isp UpdateSAPBWService コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateSAPBWService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-NodeName|-nn> node_name]

[<-ServiceOptions|-so> option_name=value ...]

[<-ServiceProcessOptions|-po> option_name=value ...]

以下の表に、infacmd isp UpdateSAPBWService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ..	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_s econds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必要な SAP BW サービス名。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-NodeName -nn	node_name	オプション。SAP BW サービスプロセスを実行するノードの名前。PowerCenter 環境が高可用性に設定されている場合、このオプションでプライマリノードの名前を指定できます。
-ServiceOptions -so	option_name=value	オプション。SAP BW サービスの実行方法を定義するサービスプロパティです。
-ServiceProcessOptions -po	option_name=value	オプション。SAP BW サービスプロセスの実行方法を定義するサービスプロセスのプロパティ。

UpdateServiceLevel

サービスレベルプロパティを更新します。ディスパッチ優先度および最大ディスパッチ待ち時間を更新できません。

infacmd isp UpdateServiceLevel コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpdateServiceLevel
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ServiceLevelName|-ln> service_level_name
<-ServiceLevel|-sl> option_name=value ...
```

以下の表に、infacmd isp UpdateServiceLevel のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-ServiceLevelName -ln	service_level_name	必須。更新するサービスレベルの名前。
-ServiceLevel -sl	option_name=value	必須。更新するサービスレベルのプロパティ。以下のプロパティを更新できます。 <ul style="list-style-type: none"> - DispatchPriority。ディスパッチの初期優先度です。数値が小さいほど優先度が高くなります。1が最も高い優先度を表します。 - MaxDispatchWaitTime。ロードバランサによってタスクのディスパッチ優先度が最も高い優先度に設定されるまでの経過時間（秒）。

UpdateServiceProcess

PowerCenter 統合サービスプロセスオプションの値を更新します。

infacmd isp UpdateServiceProcess コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateServiceProcess

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-NodeName|-nn> node_name

<-ServiceProcessOptions|-po> option_name=value

[<-ProcessEnvironmentVariables|-ev> option_name=value ...]

以下の表に、infacmd isp UpdateServiceProcess のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。サービスの名前です。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。

オプション	引数	説明
-nodeName -nn	node_name	必須。設定情報を更新するノードの名前。
-ServiceProcessOptions -po	option_name=value	更新する値を持つオプションの名前と新しい値。複数の option_name=value の対を指定できます。この値にプロセス変数を使用することもできます。 たとえば、次のコマンドでは、キャッシュディレクトリを \$PMRootDir/NewCache に、リジェクトファイルディレクトリを \$PMRootDir/NewBadFiles に設定します。 infacmd UpdateServiceProcess ... -po \$PMCacheDir=\$PMRootDir/NewCache \$PMBadFileDir=\$PMRootDir/NewBadFiles ProcessEnvironmentVariables を指定しない場合に必須。
-ProcessEnvironmentVariables -ev	option_name=value	サービスプロセス用の環境変数。複数の環境変数を指定できます。 例えば、次のコマンドにより、指定されたサービスプロセスとして JAVA_HOME ディレクトリは「\$HOME/java」に、INFA_HOME ディレクトリは「\$HOME/Informatica/9.0.1/install」として追加、または更新されます。 infacmd ProcessEnvironmentVariables ... -ev JAVA_HOME=\$HOME/java INFA_HOME=\$HOME/Informatica/9.0.1/install ServiceProcessOptions を指定しない場合に必須。

UpdateSMTPOptions

ドメイン SMTP 設定を更新します。SMTP 設定を使用して、ドメイン警告とスコアカード通知を送信します。

SMTP 設定を行った後、AddAlertUser コマンドを使用してユーザーに警告のサブスクライブを設定する必要があります。

infacmd isp UpdateSMTPOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateSMTPOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-SMTPAddress|-sa> smtp_server_address

[<-SMTPUsername|-su> user_name]

[<-SMTPPassword|-sp> password]

[<-SMTPSenderAddress|-ss> sender_email_address]

以下の表に、`infacmd isp UpdateSMTPOptions` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、 <code>-dn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、 <code>-dn</code> オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、 <code>-un</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、 <code>-un</code> オプションが優先されます。
-Password -pd	パスワード	必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、 <code>-pd</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、 <code>-pd</code> オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、 <code>-sdn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、 <code>-sdn</code> オプションが優先されます。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port .. .	<code>domains.infa</code> ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_s econds	オプション。 <code>infacmd</code> がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、 <code>infacmd</code> では、 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-SMTPAddress -sa	SMTP_server_addresses	必須。SMTP 送信メールサーバのホスト名およびポート番号。この情報は以下の形式で入力します。 <i>host_name:port_number</i>
-SMTPUserName -su	user_name	送信メールサーバが必要な場合、送信時の認証に使用するユーザー名。

オプション	引数	説明
-SMTPPassword -sp	パスワード	送信メールサーバに必要な場合、送信時の認証に使用するユーザパスワード。パスワードは、-sp オプションまたは INFA_PASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-sp オプションを使用して設定されたパスワードが優先されません。
-SMTPSenderAddress -ss	sender_email_address	オプション。Service Manager が通知メールの送信に使用するメールアドレス。このフィールドを空白にすると、Service Manager は送信側アドレスにデフォルトの "Administrator@<host>" を使用します。

関連項目：

- [「AddAlertUser」 \(ページ 202\)](#)

UpdateWSHubService

ドメイン内の Web サービス Hub を更新します。

infacmd isp UpdateWSHubService コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpdateWSHubService
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-NodeName|-nn> node_name]
[<-ServiceOptions|-so> option_name=value ...]
```

以下の表に、infacmd isp UpdateWSHubService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。更新する Web サービス Hub の名前。

オプション	引数	説明
-NodeName -nn	node_name	オプション。Web サービス Hub プロセスを実行するノードの名前です。
-ServiceOptions -so	option_name=value ...	オプション。Web サービス Hub の実行方法を定義するサービスプロパティです。

UpgradeDARepositoryContents

Data Analyzer リポジトリのコンテンツをアップグレードします。

リポジトリのコンテンツをアップグレードして、以前バージョンの Data Analyzer リポジトリのメタデータが Reporting Service と互換性があることを確認します。

infacmd isp UpgradeDARepositoryContents コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpgradeDARepositoryContents

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

以下の表に、infacmd isp UpgradeDARepositoryContents のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。
-Password -pd	パスワード	必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必須。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ServiceName -sn	service_name	必須。コンテンツをアップグレードする Reporting Service の名前。

UpgradeDARepositoryUsers

Data Analyzer リポジトリ内のユーザーおよびグループをアップグレードします。Data Analyzer リポジトリのユーザーとグループをアップグレードした場合、サービスマネージャによって、そのユーザーおよびグループは Informatica ドメインへ移動されます。

infacmd isp UpgradeDARepositoryUsers コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpgradeDARepositoryUsers
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ServiceName|-sn> service_name
<-MigrateSecurityDomain|-msd> migrate_securitydomain
```

以下の表に、infacmd isp UpgradeDARepositoryUsers のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
-ServiceName -sn	service_name	必須。ユーザとグループをアップグレードするリポジトリのレポートサービスの名前。
-MigrateSecurityDomain -msd	migrate_securitydomain	必須。ユーザとグループを移動しているセキュリティドメインの名前。

validateFeature

指定されたプラグインファイルの機能がドメインに登録されているかを検証します。

infacmd isp validateFeature コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
validateFeature
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-FeatureFilename|-ff> feature_filename
```

以下の表に、infacmd isp validateFeature のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	ドメインの.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-FeatureFilename -ff	feature_filename	必須。検証する登録済みの機能のプラグイン xml ファイルのパスと名前。

Version

PowerCenter のバージョン、および Informatica の商標と著作権の情報を表示します。

version コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
infacmd version
```

第 14 章

infacmd mrs コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [BackupContents, 595](#) ページ
- [CheckInObject, 597](#) ページ
- [CreateContents, 598](#) ページ
- [CreateFolder, 600](#) ページ
- [CreateProject, 601](#) ページ
- [CreateService, 603](#) ページ
- [DeleteContents, 606](#) ページ
- [DeleteFolder, 608](#) ページ
- [DeleteProject, 609](#) ページ
- [ListBackupFiles, 611](#) ページ
- [ListCheckedOutObjects, 613](#) ページ
- [listFolders, 614](#) ページ
- [ListLockedObjects, 616](#) ページ
- [ListProjects, 618](#) ページ
- [ListServiceOptions, 620](#) ページ
- [ListServiceProcessOptions, 621](#) ページ
- [PopulateVCS, 623](#) ページ
- [ReassignCheckedOutObject, 624](#) ページ
- [rebuildDependencyGraph, 626](#) ページ
- [RenameFolder, 628](#) ページ
- [RestoreContents, 629](#) ページ
- [UndoCheckout, 631](#) ページ
- [UnlockObject, 633](#) ページ
- [UpdateServiceOptions, 635](#) ページ
- [UpdateServiceProcessOptions, 640](#) ページ
- [UpgradeContents, 642](#) ページ

BackupContents

モデルリポジトリコンテンツをファイルへバックアップします。リポジトリコンテンツが存在しない場合、コマンドが失敗します。

整合性のあるバックアップファイルを作成するために、バックアップが完了するまで他のすべてのリポジトリ操作がブロックされます。

infacmd mrs BackupContents コマンドでは、以下の構文を使用します。

BackupContents

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-ServiceName|-sn> service_name

<-OutputFileName|-of> output_file_name

[<-OverwriteFile|-ow> overwrite_file]

[<-Description|-ds> description]

[<-BackupSearchIndices|-bsi> backup search index]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd mrs BackupContents のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービスの名前。
OutputFileName -of	output_file_name	必須。バックアップファイルの名前。
OverwriteFile -ow	overwrite_file	同じ名前を持つバックアップファイルを上書きするには、このオプションを含める必要があります。
説明 -ds	説明	バックアップファイルの説明。説明にスペースまたはアルファベット以外の文字が含まれる場合は、説明を引用符で囲みます。
-BackupSearchIndices -bsi	-	オプション。True に設定すると、バックアップファイルに検索インデックスが保存され、ファイルのリストアに要する時間を短縮できます。False に設定すると、バックアップファイルに検索インデックスは保存されません。ファイルをリストアすると、モデルリポジトリサービスによって検索インデックスが再作成されます。デフォルトは True です。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確認または再確立しようとする場合の時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

CheckInObject

チェックアウトされている 1 つのオブジェクトをチェックインします。オブジェクトがモデルリポジトリにチェックインされます。

infacmd mrs CheckInObject コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
infacmd mrs checkInObject
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ObjectPathandName|-opn> object_path_and_name
[<-Description|-ds> description]
```

以下の表に、infacmd mrs CheckInObject のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ObjectPathAndName -opn	MRS_object_path	必須。モデルリポジトリオブジェクト（オブジェクト名など）へのパス。 パスを二重引用符で囲みます。以下の構文を使用します。 "ProjectName/FolderName/.../SubFolder_Name/{ObjectName ProjectName/ObjectName}"
-Description -ds	description	オプション。このパラメータは、チェックインの説明またはコメントに使用できます。

CreateContents

モデルリポジトリのリポジトリコンテンツを作成します。モデルリポジトリのコンテンツが存在する場合には、コマンドが失敗します。

infacmd mrs CreateContents コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateContents

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd mrs CreateContents のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

CreateFolder

モデルリポジトリ内のプロジェクトにフォルダを作成します。

infacmd mrs CreateFolder コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
infacmd mrs createFolder
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
<-ProjectName|-pn> project_name
<-Path|-p> folder_path_and_name
[<-CreatePath|-cp> true|false]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、infacmd mrs CreateFolder のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-ProjectName -pn	project_name	必須。フォルダの作成先のプロジェクトの名前。プロジェクト名の太文字と小文字は区別されません。
-Path -p	folder_path_and_name	必須。作成するフォルダのパスと名前。 パス名はスラッシュ (/) で始まる必要があります。名前では大文字小文字を区別しません。名前は 128 文字以内で、復帰文字や、タブ、スペース、以下の文字を含めることはできません。 / * ? < > "
-CreatePath -cp	true false	オプション。true の場合、指定されたパスにフォルダを作成します。デフォルトは False です。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

CreateProject

モデルリポジトリにプロジェクトを作成します。

infacmd mrs CreateProject コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
infacmd mrs createProject
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
<-ProjectName|-pn> project_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、infacmd mrs CreateProject のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。

オプション	引数	説明
-ProjectName -pn	project_name	必須。作成するプロジェクトの名前。 プロジェクト名の太文字と小文字は区別されません。 名前は 128 文字以内で、復帰文字や、タブ、スペース、以下の文字を含めることはできません。 <code>/ * ? < > " </code>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_s econds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

CreateService

モデルリポジトリサービスを作成します。モデルリポジトリサービスを作成する前に、リポジトリテーブルを格納するデータベースを作成する必要があります。データベースクライアントを使用してデータベースを作成します。

各モデルリポジトリは、以下のデータベース要件を満たす必要があります。

- モデルリポジトリは、一意のスキーマを持つ必要がある。2つのモデルリポジトリ、またはモデルリポジトリとドメイン環境設定データベースでは、同一のスキーマは共有できません。
- モデルリポジトリは、一意のリポジトリデータベース名を持つ必要がある。

infacmd mrs CreateService コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateService

```
<-DomainName|-dn> domain_name
<-NodeName|-nn> node_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
<-DbUser|-du> db_user
<-DbPassword|-dp> db_password
<-DbUrl|-dl> db_url
[<-DbDriver|-dr> db_driver]
[<-DbDialect|-dd> db_dialect]
[<-SearchIndexRoot|-si> search_index_root]
[<-DbType|-dt> db_type]
[<-DbSchema|-ds> db_schema]
```

[<-DbTablespace|-db> db_tablespace (used for DB2 only)]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-FolderPath|-fp> full_folder_path]

[<-BackupNodes|-bn> nodename1,nodename2,...]

以下の表に、infacmd mrs CreateService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
NodeName -nn	node_name	必須。モデルリポジトリサービスを実行するノード。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-DbUser -du	db_user	必須。リポジトリデータベースのアカウント。このアカウントは、データベースクライアントを使用して設定します。
-DbPassword -dp	db_password	必須。データベースユーザー用のリポジトリデータベースパスワード。
-DbUrl -dl	db_url	必須。 モデルリポジトリデータベースに接続するときに使用する JDBC 接続文字列。 サポートしているデータベースに対し、次の JDBC 接続文字列構文を使用します。 - IBM DB2。jdbc:informatica:db2:// <host_name>:<port_number>;DatabaseName=<database_name>;BatchPerformanceWorkaround=true;DynamicSections=3000 - デフォルトのインスタンスを使用する Microsoft SQL Server jdbc:informatica:sqlserver:// <host_name>:<port_number>;DatabaseName=<database_name>;SnapshotSerializable=true - 名前付きのインスタンスを使用する Microsoft SQL Server jdbc:informatica:sqlserver:// <host_name> \<named_instance_name>;DatabaseName=<database_name>;SnapshotSerializable=true - Oracle。jdbc:informatica:oracle:// <host_name>:<port_number>;SID=<database_name>;MaxPooledStatements=20;CatalogOptions=0;BatchPerformanceWorkaround=true
-DbDriver -dr	db_driver	オプション。データベースに接続するための Data Direct ドライバ。例: com.informatica.jdbc.oracle.OracleDriver
-DbDialect -dd	db_dialect	オプション。特定のデータベースの SQL ダイアレクト。ダイアレクトにより、Java オブジェクトがデータベースオブジェクトにマッピングされます。 例: org.hibernate.dialect.Oracle9Dialect
-SearchIndexRoot -si	search_index_root	オプション。検索インデックスのディレクトリを変更します。ディレクトリへのフルパスを入力します。デフォルトは、Informatica インストールディレクトリです。
-DbType -dt	db_type	オプション。値は Oracle、SQL Server、または DB2 です。
-DbSchema -ds	db_schema	オプション。Microsoft SQL Server データベースのスキーマ名。

オプション	引数	説明
-DbTablespace -dt	db_tablespace	DB2 データベースの場合にのみ必須。テーブルスペース名を設定する際、モデルリポジトリサービスによってすべてのリポジトリテーブルが同じテーブルスペースに作成されます。テーブルスペース名にスペースは使用できません。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-FolderPath -fp	full_folder_path	オプション。サービスを作成するフォルダへの完全パス (ドメイン名を除く)。以下の形式である必要があります。 <i>/parent_folder/child_folder</i> デフォルトは"/ (ドメイン) です。
-BackupNodes -bn	nodename1,nodename2,...	オプション。プライマリノードが使用できない場合にサービスを実行できるノード。高可用性オプションがある場合は、バックアップノードを設定できます。

DeleteContents

モデルリポジトリコンテンツを削除します。モデルリポジトリ用のコンテンツが存在しない場合、コマンドが失敗します。

infacmd mrs DeleteContents コマンドでは、以下の構文を使用します。

DeleteContents

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd mrs DeleteContents のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

DeleteFolder

モデルリポジトリ内のプロジェクトからフォルダを削除します。

オブジェクトを含むフォルダを削除するには、-ForceDelete オプションを true に設定します。

infacmd mrs DeleteFolder コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
infacmd mrs deleteFolder
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
<-ProjectName|-pn> project_name
<-Path|-p> folder_path_and_name
[<-ForceDelete|-f> true|false]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、infacmd mrs DeleteFolder のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できません。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-ProjectName -pn	project_name	必須。フォルダを含むプロジェクトの名前。
-Path -p	folder_path_and_name	必須。削除するフォルダのパスと名前。パスはスラッシュ (/) で始まる必要があります。
-ForceDelete -f	true false	オプション。true の場合、オブジェクトを含むフォルダを削除します。デフォルトは False です。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

DeleteProject

モデルリポジトリのプロジェクトを削除します。

フォルダおよびオブジェクトが含まれているプロジェクトを削除するには、-ForceDelete オプションに true を設定します。

infacmd mrs DeleteProject コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
infacmd mrs deleteProject
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
<-ProjectName|-pn> project_name
[<-ForceDelete|-f> true|false]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、infacmd mrs DeleteProject のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-ProjectName -pn	project_name	必須。削除するプロジェクトの名前。

オプション	引数	説明
-ForceDelete -f	true false	オプション。true の場合、フォルダおよびオブジェクトが含まれているプロジェクトが削除されます。デフォルトは False です。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

ListBackupFiles

バックアップフォルダー内のファイルを一覧表示します。

infacmd mrs ListBackupFiles コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListBackupFiles

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd mrs ListBackupFiles のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

ListCheckedOutObjects

ユーザーがチェックアウトしたオブジェクトのリストを表示します。このコマンドは、バージョン管理システムに統合されたリポジトリに対して実行します。

infacmd mrs listCheckedOutObjects コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
infacmd mrs listCheckedOutObjects
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-ByUser|-bu> by_user_name]
[<-ByUserSecurityDomain|-bsd> by_user_security_domain]
[<-ObjectType|-ot> object_type]
[<-ByObjectPathandName|-bopn> object_path_and_name]
[<-objectName|-objn> object_name]
[<-operationType|-optype> operation_type]
```

以下の表に、infacmd mrs listCheckedOutObjects のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ByUser -bu	checkedout_by_user	オプション。モデルリポジトリのオブジェクトをチェックアウトしたユーザーアカウント。
-ObjectType -ot	object_type	オプション。検索するオブジェクトのタイプ。(例: マッピング)。
-ByObjectPathandName -bopn	object_path_and_name	オプション。検索するオブジェクトのパスと名前。
-ObjectName -objn	object_name	オプション。検索するオブジェクトの名前。
-LastOperationType -optype	operation_type	オプション。検索する操作のタイプ。次のいずれかの値を入力します。 - ADD_OP - EDIT_OP - MOVE_OP - DELETE_OP

listFolders

指定したプロジェクトフォルダパスに含まれるすべてのフォルダの名前を一覧表示します。

プロジェクト内のすべてのフォルダ、またはサブフォルダに含まれるすべてのフォルダを一覧表示するには、-Path オプションを使用します。プロジェクトの最上位レベルを指定するには、スラッシュ (/) を使用します。

例えば、次のコマンドは/MRS_1/Project_A/内のすべてのフォルダを一覧表示します。

```
infacmd mrs listFolders ... -sn MRS_1 -pn Project_A -p /
```

Project_A のコンテンツが Folder_1 と Folder_2 の場合、次のコマンドを実行すると、Folder_1 内のすべてのサブフォルダが一覧表示されます。

```
infacmd mrs listFolders ... -sn MRS_1 -pn Project_A -p /Folder_1/
```

infacmd mrs ListFolders コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
infacmd mrs listFolders
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
<-ProjectName|-pn> project_name
<-Path|-p> path
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、infacmd mrs ListFolders のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービスの名前。
-Path -p	path	必須。一覧表示するフォルダコンテンツが含まれる親フォルダへのパス。 パスはスラッシュ (/) で始まる必要があります。名前では大文字小文字を区別しません。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

ListLockedObjects

ユーザーがロックしたオブジェクトのリストを表示します。このコマンドは、バージョン管理システムに統合されていないリポジトリに対して実行します。

注: バージョン管理されたリポジトリにこのコマンドを実行すると、コマンドが失敗します。

infacmd mrs listLockedObjects コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
infacmd mrs listLockedObjects
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-ByUser|-bu> user_name]
[<-ByUserSecurityDomain|-bsd> by_user_security_domain]
[<-ObjectType|-ot> object_type]
[<-ByObjectPathandName|-bopn> object_path_and_name]
[<-objectName|-objn> object_name]
[<-lastOperationType|-optype> operation_type]
```


以下の表に、infacmd mrs listLockedObjects のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
-ByUser -bu	locked_by_user	オプション。モデルリポジトリのオブジェクトのロックを所有するユーザーアカウント。デフォルトは、すべてのユーザーによってロックされたオブジェクトです。
-ObjectType -ot	object_type	オプション。検索するオブジェクトのタイプ。1つのオブジェクトタイプに対してコマンドを実行できます。このパラメータを省略した場合は、すべてのオブジェクトタイプに対してコマンドを実行します。
-ByObjectPathAndName -bopn	object_path_and_name	オプション。検索するオブジェクトのモデルリポジトリのパスと名前。
-ObjectName -objn	object_name	オプション。検索するオブジェクトの名前。
-LastOperationType -optype	operation_type	オプション。検索する操作のタイプ。次のいずれかの値を入力します。 - ADD_OP - EDIT_OP - MOVE_OP - DELETE_OP

ListProjects

モデルリポジトリ内のプロジェクトを一覧表示します。モデルリポジトリ内にリポジトリコンテンツが存在しない場合、コマンドが失敗します。

infacmd mrs ListProjects コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListProjects

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd mrs ListProjects のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

ListServiceOptions

モデルリポジトリサービスのオプションを一覧表示します。

infacmd mrs ListServiceOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd mrs ListServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

ListServiceProcessOptions

モデルリポジトリサービスのサービスプロセスオプションを一覧表示します。

infacmd mrs ListServiceProcessOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd mrs ListServiceProcessOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

PopulateVCS

モデルリポジトリをバージョン管理システムと同期します。モデルリポジトリをバージョン管理システムと同期する前に、バージョンングプロパティを設定します。

バージョンングプロパティを設定するときは、モデルリポジトリを再起動して、PopulateVCS コマンドを実行します。

注: このコマンドの実行後、同期が完了するまではモデルリポジトリを使用できません。

infacmd mrs populateVCS コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
infacmd mrs populateVcs
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、infacmd mrs populateVCS のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

ReassignCheckedOutObject

チェックアウトされたオブジェクトの所有権を別のユーザーに再割り当てします。チェックアウトされたオブジェクトの所有者が変更を保存した場合、オブジェクトの再割り当て時に変更が保持されます。変更が保存されていない場合は、オブジェクトの再割り当て時に変更が失われます。

infacmd mrs reassignCheckedOutObject コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ObjectPathandName|-opn> object_path_and_name
<-ToUser|-tu> to_user
[<-ToUserSecurityDomain|-tsd> to_user_security_domain]
```


以下の表に、`infacmd mrs reassignCheckedOutObject` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。 <code>infacmd</code> がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
-ObjectPathAndName -opn	MRS_object_path	必須。以下の構文を使用します。 ProjectName/FolderName/.../SubFolder_Name/ {ObjectName ProjectName/ObjectName}
-ToUser -tu	ユーザー名	必須。オブジェクトにチェックアウト状態を所有するユーザーのユーザー名。
-ToUserSecurityDomain -tsd	セキュリティドメイン	オプション。オブジェクトにチェックアウト状態を所有するユーザーのセキュリティドメイン。

rebuildDependencyGraph

アップグレード後オブジェクトの依存関係を確認できるようにオブジェクト依存関係のグラフを再作成してください。モデルリポジトリサービスのアップグレードによりオブジェクト依存関係のグラフの再作成が失敗した場合は、このコマンドを実行してください。

この再構築プロセスが完了するまで、モデルリポジトリオブジェクトにユーザーアクセスがあってはなりません。完了前にユーザーがアクセスすると、オブジェクト依存関係のグラフが正確でなくなることがあります。このコマンドは、ユーザーがログインしていない時間に実行することをお勧めします。

infacmd mrs rebuildDependencyGraph コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
rebuildDependencyGraph
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、infacmd mrs rebuildDependencyGraph のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

RenameFolder

プロジェクト内のフォルダの名前を変更します。

infacmd mrs RenameFolder コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
infacmd mrs renameFolder
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
<-ProjectName|-pn> project_name
<-SourceFolder|-sf> source_folder
<-TargetFolder|-tf> target_folder
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、infacmd mrs RenameFolder のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-ProjectName -pn	project_name	必須。名前変更するフォルダが含まれるプロジェクトの名前。
-SourceFolder -sf	source_folder_path_and_name	必須。名前変更するフォルダのパスと名前。パスはスラッシュ (/) で始まる必要があります。
-TargetFolder -tf	target_folder_path_and_name	必須。フォルダの新しい名前。 フォルダ名、またはパスとフォルダ名を指定できます。パスはスラッシュ (/) で始まる必要があります。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

RestoreContents

バックアップファイルからモデルリポジトリのコンテンツをリストアします。

infacmd mrs RestoreContents コマンドでは、以下の構文を使用します。

RestoreContents

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-ServiceName|-sn> service_name

<-InputFileName|-if> input_file_name

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds

以下の表に、`infacmd mrs RestoreContents` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、 <code>-dn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、 <code>-dn</code> オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、 <code>-sdn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、 <code>-sdn</code> オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、 <code>-un</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、 <code>-un</code> オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、 <code>-pd</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、 <code>-pd</code> オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。バックアップするモデルリポジトリサービスの名前。

オプション	引数	説明
InputFileName -if	input_file_name	必須。リストアするバックアップファイルの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

UndoCheckout

モデルリポジトリオブジェクトのチェックアウトを元に戻します。オブジェクトがモデルリポジトリにチェックインされます。モデルリポジトリはチェックアウト以降のオブジェクトへの変更を破棄します。バージョン管理システムは、バージョン番号をインクリメントせず、バージョン履歴にも追加しません。

infacmd mrs undoCheckout コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
infacmd mrs undoCheckout
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ObjectPathAndName|-opn> Object_path_and_name
```

以下の表に、`infacmd mrs undoCheckout` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、 <code>-dn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、 <code>-dn</code> オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、 <code>-sdn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、 <code>-sdn</code> オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、 <code>-un</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、 <code>-un</code> オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、 <code>-pd</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、 <code>-pd</code> オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ObjectPathAndName -opn	MRS_object_path	必須。モデルリポジトリオブジェクト（オブジェクト名など）へのパス。 パスを二重引用符で囲みます。以下の構文を使用します。 "ProjectName/FolderName/.../SubFolder_Name/{ObjectName ProjectName/ObjectName}"

UnlockObject

ユーザーがロックしたモデルリポジトリオブジェクトをロック解除します。このコマンドは、バージョン管理システムに統合されていないリポジトリに対して実行します。

注: バージョン管理されたリポジトリにこのコマンドを実行すると、コマンドが失敗します。

オブジェクトは一度に1つずつロック解除できます。

infacmd mrs unlockObject コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
infacmd mrs unlockObject
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ObjectPathAndName|-opn> Object_path_and_name
```

以下の表に、`infacmd mrs unlockObject` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ObjectPathAndName -opn	MRS_object_path	必須。モデルリポジトリオブジェクト（オブジェクト名など）へのパス。 例えば、以下の構文を使用します。 ProjectName/FolderName/SubFolder_Name/ObjectName

UpdateServiceOptions

モデルリポジトリサービスのオプションを更新します。オプションが複数ある場合はスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

infacmd mrs UpdateServiceOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-Options|-o> options

[<-PrimaryNode|-nn> primary node name]

[<-BackupNode|-bn> nodename1,nodename2,...]

[<-SearchIndexRoot|-si> search_index_root]

以下の表に、infacmd mrs UpdateServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
-Options -o	options	必須。名前と値のペアをスペースで区切って入力します。
-PrimaryNode -nn	プライマリノード名	オプション。モデルリポジトリサービスを実行するノード。
-BackupNodes -bn	nodename1,nodename 2,...	オプション。プライマリノードが使用できない場合にサービスを実行できるノード。高可用性オプションがある場合は、バックアップノードを設定できません。
-SearchIndexRoot -si		オプション。検索インデックスのディレクトリを変更します。ディレクトリへのフルパスを入力します。デフォルトは、Informatica インストールディレクトリです。

モデルリポジトリサービスのオプション

モデルリポジトリサービスのオプションは、`infacmd mrs UpdateServiceOptions` コマンドで使用します。

モデルリポジトリサービスのオプションを次の形式で入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、モデルリポジトリサービスのオプションを示します。

オプション	引数	説明
CACHE.EnableCache	true false	モデルリポジトリサービスを有効にして、モデルリポジトリオブジェクトをキャッシュメモリに保存します。変更を適用する際は、モデルリポジトリサービスを再起動します。
CACHE.CacheJVMOptions	-Xmx[heap_size]	モデルリポジトリサービスキャッシュの JVM オプション。キャッシュに割り当てるメモリの量を設定する際は、最大ヒープサイズを設定します。このフィールドには、最大ヒープサイズを-Xmx オプションで指定する必要があります。デフォルト値および最大ヒープサイズの最小値は-Xmx128m です。 設定したオプションは、モデルリポジトリサービスキャッシュが有効になったときに適用されます。変更を適用する際は、モデルリポジトリサービスを再起動します。このフィールドで設定するオプションは、モデルリポジトリサービスを実行する JVM には適用されません。
PERSISTENCE_DB.Username	db_user	必須。リポジトリデータベースのアカウント。このアカウントは、データベースクライアントを使用して設定します。

オプション	引数	説明
PERSISTENCE_DB.Password	db_password	必須。データベースユーザー用のリポジトリデータベースパスワード。
PERSISTENCE_DB.Database Schema	db_schema	オプション。特定のデータベースのスキーマ名。
PERSISTENCE_DB.Database Tablespace	db_tablespace	DB2 データベースの場合にのみ必須。テーブルスペース名を設定する際、モデルリポジトリサービスによってすべてのリポジトリテーブルが同じテーブルスペースに作成されます。テーブルスペース名にスペースは使用できません。 複数パーティションの IBM DB2 データベースの場合は、テーブルスペースが単一ノードおよび単一パーティションに収まっている必要があります。
PERSISTENCE_DB.Database Type	DatabaseType	必須。以下のデータベースタイプを使用できます。 - db2 - oracle - mssqlserver - sybase
PERSISTENCE_DB.JDBCConnectString	JDBC 接続文字列	モデルリポジトリデータベースに接続するときに使用する JDBC 接続文字列。 サポートしているデータベースに対し、次の JDBC 接続文字列構文を使用します。 - IBM DB2。jdbc:informatica:db2:// <host_name>:<port_number>;DatabaseName=<database_name>;BatchPerformanceWorkaround=true;DynamicSessions=3000 - デフォルトのインスタンスを使用する Microsoft SQL Serverjdbc:informatica:sqlserver:// <host_name>:<port_number>;DatabaseName=<database_name>;SnapshotSerializable=true - 名前付きのインスタンスを使用する Microsoft SQL Serverjdbc:informatica:sqlserver:// <host_name> <named_instance_name>;DatabaseName=<database_name>;SnapshotSerializable=true - Oracle。jdbc:informatica:oracle:// <host_name>:<port_number>;SID=<database_name>;MaxPooledStatements=20;CatalogOptions=0;BatchPerformanceWorkaround=true
PERSISTENCE_DB.SecureJDBCParameters	セキュア JDBC パラメータ	モデルリポジトリデータベースが SSL プロトコルで保護されている場合、セキュアデータベースパラメータを入力する必要があります。 セミコロン (;) で区切り、パラメータを name=value というペア形式で入力します。例: param1=value1;param2=value2
PERSISTENCE_DB.Dialect	ダイアレクト	特定のデータベースの SQL ダイアレクト。ダイアレクトにより、Java オブジェクトがデータベースオブジェクトにマッピングされます。 例: org.hibernate.dialect.Oracle9Dialect

オプション	引数	説明
PERSISTENCE_DB.Driver	ドライバ	データベースへの接続に使用する Data Direct ドライバ。 例: com.informatica.jdbc.oracle.OracleDriver
SEARCH.SearchAnalyzer	Java クラスの完全修飾名	検索アナライザの Java クラスの完全修飾名。 デフォルトで、モデルリポジトリサービスは、英語用に、次の検索アナライザを使用します。 com.informatica.repository.service.provider.search.analysis.MMStandardAnalyzer 中国語、日本語、および韓国語には、以下の検索アナライザの Java クラス名を指定できます。 org.apache.lucene.analysis.cjk.CJKAnalyzer または、カスタム検索アナライザを作成し、指定することができます。
SEARCH.SearchAnalyzerFactory	Java クラスの完全修飾名	カスタム検索アナライザの作成時に、ファクトリクラスを使用した場合の、ファクトリクラスの Java クラス完全修飾名です。 カスタム検索アナライザを使用する場合は、検索アナライザクラスまたは検索アナライザファクトリクラスの名前を入力します。
VCS.Host	IP アドレスまたはホスト名	Perforce のモデルリポジトリのバージョンングプロパティの設定に必須です。 Perforce バージョン管理システムが実行されているマシンの URL、IP アドレス、またはホスト名です。 SVN をバージョン管理システムとして設定するときは、このオプションを使用しないでください。
VCS.URL	Subversion のリポジトリの URL	SVN のモデルリポジトリのバージョンングプロパティの設定に必須です。 Subversion のリポジトリの URL。例: VCS.URL=https://myserver.company.com/svn/ Perforce をバージョン管理システムとして設定するときは、このオプションを使用しないでください。
VCS.Port	VCS_port	モデルリポジトリのバージョンングプロパティの設定に必須です。 モデルリポジトリからのパケットをリスンするためにバージョン管理システムホストが使用するポート番号。

オプション	引数	説明
VCS.User	VCS_user	<p>モデルリポジトリのバージョンングプロパティの設定に必須です。</p> <p>バージョン管理システムユーザーのユーザーアカウント。</p> <p>このアカウントには、バージョン管理システムでの書き込み権限が必要です。バージョン管理システムのこの1つのユーザーとパスワードを使用して接続を設定した場合は、モデルリポジトリのすべてのユーザーがこのアカウントを使用してバージョン管理システムに接続します。</p> <p>Perforce バージョン管理システムでは、アカウントタイプを標準ユーザーにする必要があります。</p>
VCS.Password	VCS_password	<p>モデルリポジトリのバージョンングプロパティの設定に必須です。</p> <p>バージョン管理システムユーザーのパスワード。</p>
VCS.Type	VCS_type	<p>モデルリポジトリのバージョンングプロパティの設定に必須です。</p> <p>接続先でサポートされているバージョン管理システム。Perforce または SVN を選択できます。</p>
VCS.MRSPath	MRS_path	<p>Perforce を使用したモデルリポジトリのバージョンングプロパティの設定に必須です。</p> <p>モデルリポジトリオブジェクトのバージョン管理システムのコピーのルートディレクトリへのパス。 注: コマンドを実行すると、モデルリポジトリがバージョン管理システムに接続し、指定したディレクトリが存在しない場合はそのディレクトリを生成します。</p> <p>このディレクトリを使用できるのは、1つのモデルリポジトリサービスだけです。</p> <p>Perforce の場合は、次の構文を使用します。</p> <pre>//directory/path</pre> <p>ここで <code>directory</code> は Perforce のディレクトリルートで、<code>path</code> はモデルリポジトリオブジェクトのルートディレクトリへのパスの残りの部分です。</p> <p>例:</p> <pre>//depot/Informatica/repository_copy</pre> <p>SVN をバージョン管理システムとして設定するときは、このオプションを使用しないでください。</p>

UpdateServiceProcessOptions

モデルリポジトリサービスのサービスプロセスオプションを更新します。オプションが複数ある場合はスペースで区切ります。スペースを含む値および英数字以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

サービスプロセスオプションは以下の形式で入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```


infacmd mrs UpdateServiceProcessOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpdateServiceProcessOptions
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-Options|-o> options
```

以下の表に、infacmd mrs UpdateServiceProcessOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Options -o	オプション	必須。名前と値のペアをスペースで区切って入力します。

UpgradeContents

モデルリポジトリのコンテンツをアップグレードします。モデルリポジトリ内にリポジトリコンテンツが存在しない場合、コマンドが失敗します。

infacmd mrs UpgradeContents コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpgradeContents

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd mrs UpgradeContents のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。モデルリポジトリサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続を確立または再確立しようとする場合の時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

第 15 章

infacmd ms コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [GetRequestLog, 644](#) ページ
- [ListMappingParams, 646](#) ページ
- [ListMappings, 649](#) ページ
- [RunMapping, 651](#) ページ
- [UpgradeMappingParameterFile, 654](#) ページ

GetRequestLog

マッピングログを指定されたファイルに書き込みます。infacmd ms RunMapping コマンドによって返されたジョブ ID を入力します。

infacmd ms GetRequestLog コマンドでは、以下の構文を使用します。

GetRequestLog

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-RequestId|-id> request_id

<-FileName|-f> file_name

以下の表に、infacmd ms GetRequestLog のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。マッピングを実行したデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。 必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードには、大文字と小文字の区別があります。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。 オプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-RequestId -id	request_id	必須。ログファイル出力の対象となるマッピングのジョブ ID。infacmd ms RunMapping コマンドによって返されたジョブ ID を入力します。
-FileName -f	file_name	必須。書き込むログファイルの名前とファイルパス。

ListMappingParams

マッピングのパラメータを一覧表示し、マッピングを実行するときに使用できるマッピングパラメータファイルを作成します。このコマンドは、更新可能なデフォルト値を含む XML ファイルを返します。infacmd ms RunMapping を使用してマッピングを実行する場合、パラメータファイル名を入力します。

infacmd ms ListMappingParams コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListMappingParams

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-Application|-a> application_name

<-Mapping|-m> mapping_name

[<-OutputFile|-o> output_file_to_write_to]

以下の表に、infacmd ms ListMappingParams のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。マッピングを実行するデータ統合サービスの名前。マッピングを含むアプリケーションは、データ統合サービスにデプロイされている必要があります。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。 必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードには、大文字と小文字の区別があります。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。 オプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	application_name	必須。マッピングを含むアプリケーションの名前。
-Mapping -m	mapping_name	必須。マッピングの名前。
-OutputFile -o	output file_to_write_to	オプション。作成するパラメータファイルのパスとファイル名。ファイルを指定しないと、コマンドプロンプトにパラメータが表示されます。

ListMappingParams の出力

ListMappingParams コマンドは、更新可能なデフォルト値を含む XML ファイルとしてパラメータファイルを返します。

例えば、アプリケーション「MyApp」およびマッピング「MyMapping」に対して ListMappingParams コマンドを実行するとします。マッピング「MyMapping」には、「MyParameter」というパラメータが1つあります。ListMappingParams コマンドは、以下の形式で XML ファイルを返します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="no"?>
<root xmlns="http://www.informatica.com/Parameterization/1.0" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
  <!--
    <application name="MyApp">
      <mapping name="MyMapping">
        <!-- Specify deployed application specific parameters here. -->
      </mapping>
    </application>
  -->
  <project name="MyProject">
    <mapping name="MyMapping">
      <parameter name="MyParameter">DefaultValue</parameter>
    </mapping>
  </project>
</root>
```

出力 XML ファイルには以下の最上位要素が含まれます。

アプリケーションの要素

アプリケーションの最上位要素内でパラメータを定義した場合、指定されたマッピングを指定されたアプリケーションで実行するときに、Data Integration Service によってそのパラメータ値が適用されます。アプリケーション/マッピングの要素内には、プロジェクトの要素を1つ以上含める必要があります。

デフォルトでは、この最上位要素はコメントアウトされています。この要素を使用するには、コメント () を削除します。

プロジェクトのエレメント

プロジェクトの最上位要素内でパラメータを定義した場合、デプロイされたアプリケーションのプロジェクトの指定されたマッピングに、Data Integration Service によってそのパラメータ値が適用されます。プロジェクトでオブジェクトを使用するマッピングにもパラメータ値が適用されます。

同じパラメータファイルでプロジェクトとアプリケーションの最上位要素に同じパラメータを定義すると、アプリケーション要素で定義されたパラメータ値が優先されます。

ListMappings

アプリケーション内のマッピングを一覧表示します。

infacmd ms ListMappings コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListMappings

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-Application|-a> application_name

以下の表に、infacmd ms ListMappings のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p> <p>必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードには、大文字と小文字の区別があります。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p> <p>オプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。これらの両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。</p>
-ServiceName -sn	service_name	<p>必須。マッピングを実行するデータ統合サービスの名前。マッピングを含むアプリケーションは、データ統合サービスにデプロイされている必要があります。</p>
-Application -a	application_name	<p>必須。マッピングを含むアプリケーションの名前。</p>

RunMapping

データ統合サービスにデプロイされるマッピングを実行します。パラメータセットまたはパラメータファイルを使用してマッピングを実行できます。

マッピング用のパラメータファイルを作成するには、`infacmd ms ListMappingParams` を実行します。`infacmd ms ListMappingParams` を実行する前に、アプリケーションに対して `infacmd dis StartApplication` コマンドを実行します。`infacmd ms ListMappingParams` を実行する前に、アプリケーションが Administrator ツールで実行されていることを確認します。

パラメータセットのパラメータと値を表示するには、`infacmd dis ListParameterSetEntries` コマンドを実行します。

`infacmd ms RunMapping` コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
RunMapping
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-Application|-a> application_name
<-Mapping|-m> mapping_name
[<-Wait|-w> true|false]
[<-ParameterFile|-pf> parameter_file_path]
[<-ParameterSet|-ps> parameter_set_name]
[<-NodeName|-nn> node_name]
[<-OptimizationLevel|-ol> optimization_level]
[<-PushdownType|-pt> pushdown_type]
[<-CustomProperties|-cp> custom_properties]
```

このコマンドは、マッピング実行のジョブ ID を返します。

以下の表に、`infacmd ms RunMapping` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
<code>-DomainName</code> <code>-dn</code>	<code>domain_name</code>	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、 <code>-dn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、 <code>-dn</code> オプションが優先されます。
<code>-ServiceName</code> <code>-sn</code>	<code>service_name</code>	必須。マッピングを実行するデータ統合サービスの名前。マッピングを含むアプリケーションは、データ統合サービスにデプロイされている必要があります。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	<p>ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。</p> <p>ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。</p>
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p> <p>必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードには、大文字と小文字の区別があります。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p> <p>オプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。</p>
-Application -a	application_name	<p>必須。マッピングを含むアプリケーションの名前。</p>

オプション	引数	説明
-Mapping -m	mapping_name	必須。実行するマッピングの名前。
-Wait -w	true false	オプション。infacmd が、シェルまたはコマンドプロンプトに戻る前にマッピングが完了するのを待機するかどうかを示します。true の場合、infacmd はマッピングの完了後にシェルまたはコマンドプロンプトに戻ります。マッピングが完了するまでは、以降のコマンドを実行できません。false の場合、infacmd はすぐにシェルまたはコマンドプロンプトに戻ります。次のコマンドを実行する前にマッピングが完了するのを待つ必要はありません。デフォルトは False です。
-ParameterFile -pf	parameter_file_path	オプション。パラメータファイルの名前およびパス。パラメータファイルとパラメータセットを入力しないでください。
-ParameterSet -ps	parameter_set_name	オプション。実行時に使用するパラメータセットの名前。パラメータセットオプションは、アプリケーションとともにデプロイされたすべてのパラメータセットをオーバーライドします。パラメータセットとパラメータファイルを入力しないでください。
-NodeName -nn	node_name	オプション。マッピングジョブのディスパッチ先である、データ統合サービスグリッド内のノードの名前。データ統合サービスプロセスがノードで実行されている必要があります。 このオプションを使用しない場合、マッピングジョブは、マスターデータ統合サービスプロセスが実行されているノードにディスパッチされます。
-OptimizationLevel -ol	optimization_level	オプション。データ統合サービスがマッピングに適用する最適化方式を制御します。設定する最適化レベルに関連する数値を入力します。次のいずれかの数値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - 0 (なし)。データ統合サービスは最適化を適用しません。 - 1 (最小)。データ統合サービスは初期プロジェクション最適化方式を適用します。 - 2 (ノーマル)。データ統合サービスは、初期プロジェクション、初期選択、ブランチ刈り込み、プッシュイン、プッシュダウン、述部の最適化方式を適用します。ノーマルがデフォルトの最適化レベルです。 - 3 (完全)。データ統合サービスは、コストベース、初期プロジェクション、初期選択、ブランチ刈り込み、述部、プッシュイン、プッシュダウン、準結合の最適化方式を適用します。 このオプションを使用しない場合、データ統合サービスは、Administrator ツールでデプロイ済みアプリケーションのマッピングプロパティに設定された最適化レベルを適用します。

オプション	引数	説明
-PushdownType -pt	pushdown_type	<p>オプション。データ統合サービスがマッピングに適用するプッシュダウンタイプを制御します。次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - なし。マッピングのプッシュダウンタイプを選択しません。 - ソース。データ統合サービスは、ソースデータベースに、できるだけ多くのトランスフォーメーションロジックのプッシュダウンを試みます。 - 全体。データ統合サービスは、トランスフォーメーションロジック全体をソースデータベースにプッシュします。 <p>このオプションは、マッピングのランタイムプロパティ、パラメータファイル、またはパラメータセットに設定されたプッシュダウンタイプをオーバーライドします。</p> <p>このオプションを使用しない場合、データ統合サービスは、マッピングのランタイムプロパティ、パラメータファイル、またはパラメータセットに設定されたプッシュダウンタイプを適用します。</p>
-CustomProperties -cp	custom_properties	<p>オプション。マッピングのカスタムプロパティは、Informatica グローバルカスタマサポートから要求された場合に定義します。</p> <p>カスタムプロパティには、名前と値のペアをセミコロンで区切って入力します。例:</p> <pre>... -cp custom_property_name=value</pre> <p>スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。</p>

UpgradeMappingParameterFile

Informatica の旧バージョンで作成したパラメータファイルを、Informatica 10.0 の有効なパラメータファイル形式に変換します。

Informatica 10.0 では、パラメータファイルにマッピングパラメータとワークフローパラメータは格納されませんが、トランスフォーメーションパラメータは格納されなくなりました。旧バージョンのパラメータファイルを使用してマッピングまたはワークフローを実行すると、データ統合サービスは、実行時に、旧バージョンのパラメータファイルを Informatica 10.0 形式に変換する必要があります。パラメータファイルを Informatica 10.0 形式に変換することで、パフォーマンスの向上を図ることができます。

infacmd ms upgradeMappingParameterFile コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpgradeMappingParameterFile
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-Application|-a> application_name

<-Mapping|-m> mapping_name

[<-OutputFile|-o> output_file_to_write_to]

<-ParameterFile|-pf> parameter_file_to_upgrade

以下の表に、infacmd ms upgradeMappingParameterFile のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。マッピングを実行するデータ統合サービスの名前。マッピングを含むアプリケーションは、データ統合サービスにデプロイされている必要があります。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。 必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードには、大文字と小文字の区別があります。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p> <p>オプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。</p>
-Application -a	application_name	必須。マッピングを含むアプリケーションの名前。
-Mapping -m	mapping_name	必須。マッピング名。
-OutputFile -o	output file_to_write_to	オプション。作成するパラメータファイルのパスとファイル名。ファイルを指定しないと、コマンドプロンプトにパラメータが表示されます。
-ParameterFile -pf	parameter_file_to_upgrade	必須。アップグレードするパラメータファイルの名前。

第 16 章

infacmd oie コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [DeployApplication, 657](#) ページ
- [ExportObjects, 658](#) ページ
- [exportResources, 662](#) ページ
- [ImportObjects, 664](#) ページ

DeployApplication

アプリケーションを.iar ファイルにデプロイします。

アプリケーションに多数のオブジェクトが含まれる場合、アプリケーションをファイルにデプロイします。infacmd oie deployApplication コマンドを実行した後、infacmd dis DeployApplication コマンドを実行してアプリケーションをデータ統合サービスにデプロイします。

infacmd oie DeployApplication コマンドでは、以下の構文を使用します。

DeployApplication

<-DomainName|-dn> Domain name

<-UserName|-un> User name

<-Password|-pd> Password

<-ModelRepositoryService|-rs> Model Repository Service

<-OutputDirectory|-od> Output directory

<-ApplicationPath|-ap> Application path

以下の表に、infacmd oie DeployApplication のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	ドメイン名	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	ユーザー名	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ModelRepositoryService -rs	モデルリポジトリサービス	必須。モデルリポジトリサービス名。
-OutputDirectory -od	出力ディレクトリ	必須。 .iar ファイルを書き込むディレクトリ。
-ApplicationPath -ap	アプリケーションパス	必須。プロジェクト名、フォルダ名、アプリケーション名の順に続くアプリケーションパス。プロジェクト名、フォルダ名、アプリケーション名の間はスラッシュ (/) で区切ります。例: 「Project/Folder1/Folder2/Application」。

ExportObjects

オブジェクトをモデルリポジトリ内のプロジェクトから XML ファイルへエクスポートします。

プロジェクト内の一部のオブジェクトをエクスポートする場合は、infacmd エクスポート制御ファイルを使用して、エクスポートするモデルリポジトリオブジェクトをフィルタリングします。

エクスポートされるプロジェクトに参照テーブルが含まれている場合は、Informatica サービスインストールディレクトリからこのコマンドを実行する必要があります。このコマンドは、モデルリポジトリから XML ファイルに参照テーブルのメタデータをエクスポートします。このコマンドは、参照テーブルのデータを zip ファイルにエクスポートします。このコマンドを実行する場合、作成先の XML ファイルと zip ファイルの両方のパスとファイル名を指定します。

このコマンドは空のフォルダーをエクスポートしません。

Java メモリエラーでコマンドが失敗する場合は、infacmd が使用するシステムメモリを増やします。システムメモリを増やすには、ICMD_JAVA_OPTS 環境変数の-Xmx 値を設定します。

infacmd oie ExportObjects コマンドでは、以下の構文を使用します。

ExportObjects

<-DomainName|-dn> Domain name

<-UserName|-un> User name

<-Password|-pd> Password

[<-SecurityDomain|-sdn> Security domain]

<-ProjectName|-pn> Project name

<-RepositoryService|-rs> Model Repository Service name

<-ExportFilePath|-fp> Path of file to export to

[<-OverwriteExportFile|-ow> Set to "true" to overwrite export file if it exists.]

[<-ControlFilePath|-cp> Path of export control file]

[<-OtherOptions|-oo>]

ExportObjects

<-DomainName|-dn> Domain name

<-UserName|-un> User name

<-Password|-pd> Password

[<-SecurityDomain|-sdn> Security domain]

<-ProjectName|-pn> Project name

<-RepositoryService|-rs> Model Repository Service name

<-ExportFilePath|-fp> Path of file to export to

[<-OverwriteExportFile|-ow> Set to "true" to overwrite export file if it exists.]

[<-ControlFilePath|-cp> Path of export control file]

以下の表に、infacmd oie ExportObjects のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	ドメイン名	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	ユーザー名	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	セキュリティドメイン	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ProjectName -pn	プロジェクト名	必須。オブジェクトのエクスポート元であるプロジェクトの名前。
-RepositoryService -rs	モデルリポジトリサービス名	必須。モデルリポジトリサービス名。
-ExportFilePath -fp	エクスポート先ファイルのパス	必須。作成されるエクスポートファイルのパスと XML ファイル名。ファイル名には絶対パスまたは相対パスを指定できます。ファイルの区別が簡単になる名前を使用してください。例えば、以下のような命名規則を使用します。 exp_<project_name>.xml

オプション	引数	説明
-OverwriteExportFile -ow	エクスポートファイルが存在する場合にはそのファイルを上書きするには、「true」に設定します。	オプション。true に設定すると、既存のエクスポートファイルが上書きされます。エクスポートファイルが存在している場合に、このオプションを false に設定すると、エクスポートに失敗します。デフォルトは False です。
-ControlFilePath -cp	エクスポート制御ファイルのパス	オプション。エクスポートされるオブジェクトのフィルタリングに使用するエクスポート制御ファイルのパスおよびファイル名。ファイル名には絶対パスまたは相対パスを指定できます。
-OtherOptions -oo	-	エクスポートされるプロジェクトに参照テーブルが含まれる場合は、必須。zip ファイルに参照テーブルのデータをエクスポートする追加のオプション。オプションは次の形式で入力します。 rtm:<option_name>=<value>,<option_name>=<value> 必須オプション名の要素: - disName。データ統合サービスの名前。 - codePage。参照データのコードページ。 - refDataFile。参照テーブルデータのエクスポート先の zip ファイルのパスとファイル名。 以下に例を示します。 rtm:disName=ds,codePage=UTF-8,refDataFile=/folder1/data.zip

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	ドメイン名	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	ユーザー名	必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。
-Password -pd	パスワード	必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードには、大文字と小文字の区別があります。
-SecurityDomain -sdn	セキュリティドメイン	オプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。
-ProjectName -pn	プロジェクト名	必須。オブジェクトのエクスポート元であるプロジェクトの名前。
-RepositoryService -rs	モデルリポジトリサービス名	必須。モデルリポジトリサービス名。

オプション	引数	説明
-ExportFilePath -fp	エクスポート先ファイルのパス	必須。作成されるエクスポートファイルのパスと XML ファイル名。ファイル名には絶対パスまたは相対パスを指定できます。ファイルの区別が簡単になる名前を使用してください。例えば、以下のような命名規則を使用します。 exp_<project_name>.xml
-OverwriteExportFile -ow	エクスポートファイルが存在する場合にそのファイルを上書きするには、「true」に設定します。	オプション。true に設定すると、既存のエクスポートファイルが上書きされます。エクスポートファイルが存在している場合に、このオプションを false に設定すると、エクスポートに失敗します。デフォルトは false です。
-ControlFilePath -cp	エクスポート制御ファイルのパス	オプション。エクスポートされるオブジェクトのフィルタリングに使用するエクスポート制御ファイルのパスおよびファイル名。ファイル名には絶対パスまたは相対パスを指定できます。

exportResources

プロジェクトまたはフォルダにあるスコアカードオブジェクトおよびリネージ情報を、Metadata Manager で使用する XML ファイルにエクスポートします。

プロジェクト内の一部のオブジェクトをエクスポートする場合は、infacmd エクスポート制御ファイルを使用して、エクスポートするオブジェクトをフィルタリングします。このコマンドは空のフォルダーをエクスポートしません。

Java メモリエラーでコマンドが失敗する場合は、infacmd が使用するシステムメモリを増やします。システムメモリを増やすには、ICMD_JAVA_OPTS 環境変数の-Xmx 値を設定します。

infacmd oie exportResources コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
exportResources
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-ProjectName|-pn> project_name
<-RepositoryService|-rs> model_repository_service_name
<-ExportFilePath|-fp> export_file_path
[<-OverwriteExportFile|-ow> overwrite_export_file]
[<-ControlFilePath|-cp> control_file_path]
```

以下の表に、infacmd oie exportResources のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ProjectName -pn	project_name	必須。オブジェクトのエクスポート元であるプロジェクトの名前。
-RepositoryService -rs	model_repository_service_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-ExportFilePath -fp	export_file_path	必須。コマンドの実行時にコマンドラインプログラムによって作成されるエクスポートファイルのパスと XML ファイル名。ファイル名には絶対パスまたは相対パスを指定できます。ファイルには、わかりやすい名前を付けます。例えば、以下のような命名規則を使用します。 exp_<project_name>.xml

オプション	引数	説明
-OverwriteExportFile -ow	overwrite_export_file	オプション。true に設定すると、既存のエクスポートファイルが上書きされます。エクスポートファイルが存在する状態でこのオプションを false に設定すると、エクスポートが失敗します。デフォルトは False です。
-ControlFilePath -cp	control_file_path	オプション。コマンドラインプログラムによってエクスポートされるオブジェクトをフィルタリングするエクスポート制御ファイルのパスとファイル名。ファイル名には絶対パスまたは相対パスを指定できます。

ImportObjects

XML ファイルからモデルリポジトリ内の既存のプロジェクトへオブジェクトをインポートします。

ファイル内の一部のオブジェクトをインポートする場合は、infacmd インポート制御ファイルを使用して、モデルリポジトリへインポートするオブジェクトをフィルタリングします。

インポートするファイルに参照テーブルが含まれている場合は、Informatica サービスインストールディレクトリからコマンドを実行する必要があります。ImportObjects コマンドは、XML ファイルからモデルリポジトリに参照テーブルのメタデータをインポートします。このコマンドは、zip ファイルから参照テーブルのデータをインポートします。コマンドを実行する場合、インポート先の XML と zip ファイルの両方のパスとファイル名を指定します。

Java メモリエラーでコマンドが失敗する場合は、infacmd が使用するシステムメモリを増やします。システムメモリを増やすには、ICMD_JAVA_OPTS 環境変数の-Xmx 値を設定します。

infacmd oie ImportObjects コマンドでは、以下の構文を使用します。

ImportObjects

<-DomainName|-dn> Domain name

<-UserName|-un> User name

<-Password|-pd> Password

[<-SecurityDomain|-sdn> Security domain]

[<-TargetProject|-tp> Target project name <ignored if control file is specified>]

<-RepositoryService|-rs> Model Repository Service name

<-ImportFilePath|-fp> import_file_path

[<-SourceProject|-sp> Source project name in import file <ignored if control file is specified>]

[<-TargetFolder|-tf> Target folder to import to <omit for root, ignored if control file is specified>]

[<-SkipCRC|-sc> Set to "true" to skip CRC check on imported file.]

[<-ConflictResolution|-cr> Resolution type]

[<-ControlFilePath|-cp> Path of import control file]

[<-SkipCnxValidation|-scv> Set to "true" to skip connection validation.]


```

[<-OtherOptions|-oo>]

ImportObjects

<-DomainName|-dn> Domain name

<-UserName|-un> User name

<-Password|-pd> Password

[<-SecurityDomain|-sdn> Security domain]

[<-TargetProject|-tp> Target project name <ignored if control file is specified>]

<-RepositoryService|-rs> Model Repository Service name

<-ImportFilePath|-fp> import_file_path

[<-SourceProject|-sp> Source project name in import file <ignored if control file is specified>]

[<-TargetFolder|-tf> Target folder to import to <omit for root, ignored if control file is specified>]

[<-SkipCRC|-sc> Set to "true" to skip CRC check on imported file.]

[<-ConflictResolution|-cr> Resolution Type]

[<-ControlFilePath|-cp> Path of import control file]

[<-SkipCnxValidation|-scv> Set to "true" to skip connection validation.]

```

以下の表に、infacmd oie ImportObjects のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	ドメイン名	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	ユーザー名	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用する場合、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	セキュリティドメイン	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-TargetProject -tp	ターゲットプロジェクト名 (制御ファイルを指定した場合、このオプションの設定は無視される)	オプション。オブジェクトのインポート先のプロジェクトの名前。オブジェクトをインポートするには、リポジトリ内にプロジェクトが存在する必要があります。インポート制御ファイルを使用すると、このオプションの設定は無視されます。
-RepositoryService -rs	モデルリポジトリサービス名	必須。モデルリポジトリサービス名。
-ImportFilePath -fp	import_file_path	必須。オブジェクトのインポート元の XML ファイルのパスとファイル名。ファイル名には絶対パスまたは相対パスを指定できません。
-SourceProject -sp	インポートファイル内のソースプロジェクト名 (制御ファイルを指定した場合、このオプションの設定は無視される)	オプション。インポート元ファイル内のソースプロジェクト名。インポート制御ファイルを使用すると、このオプションの設定は無視されます。

オプション	引数	説明
-TargetFolder -tf	インポート先のターゲットフォルダ（ルートの場合は省略する。制御ファイルを指定した場合、このオプションの設定は無視される）	オプション。オブジェクトのインポート先のフォルダ。インポート先フォルダを指定しない場合、オブジェクトはターゲットプロジェクトにインポートされます。オブジェクトをインポートするには、リポジトリ内にフォルダが存在する必要があります。インポート制御ファイルを使用すると、このオプションの設定は無視されます。
-SkipCRC -sc	インポートされたファイルのCRC チェックをスキップするには、「true」に設定します。	インポートするファイルが変更されていないかどうかをチェックするCRC（巡回冗長検査）をスキップするかどうかを指定します。True に設定するとチェックをスキップします。デフォルトはFalse です。
-ConflictResolution -cr	指定されている解決タイプ	オプション。競合の解決策。インポートするすべてのオブジェクトに対して以下のオプションのいずれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - 名前の変更 - 置換 - 再利用 - なし インポート制御ファイルを使用すると、このオプションの設定は無視されます。競合の解決策の設定が「なし」で競合が発生すると、インポートに失敗します。デフォルトは「なし」です。
-ControlFilePath -cp	インポート制御ファイルのパス	オプション。インポートオブジェクトのフィルタリングに使用するインポート制御ファイルのパスおよびファイル名。絶対パスまたは相対パスを指定できます。

オプション	引数	説明
-SkipCnxValidation -scv	接続の検証をスキップするには、「true」に設定します。	<p>オプション。インポート中にターゲット接続の検証をスキップするかどうかを示します。デフォルトでは、インポートオブジェクトが使用する接続がインポート先のリポジトリに存在するかどうか、インポートプロセスによって確認されます。接続が存在しない場合は、インポートに失敗します。</p> <p>ターゲット接続の検証をスキップし、インポートを続行するには、このオプションを true に設定します。インポートされたオブジェクトがターゲットリポジトリに存在しない接続を使用する場合、インポートプロセスは「詳細不明」の接続でオブジェクトをインポートします。インポートプロセス完了後に、Developer tool を使用して正しい接続を選択します。</p> <p>デフォルトは False です。</p> <p>注: インポート制御ファイルが指定するソース接続が、インポートしているファイル内に存在しない場合、インポートプロセスはこのオプションの値に関係なく失敗します。このエラーを修正するには、インポートしているファイル内に存在するソース接続が、インポート制御ファイル内の接続 <code>rebind</code> 要素に含まれていることを確認します。</p>
-OtherOptions -oo	-	<p>インポートファイルに参照テーブルが含まれる場合は、必須です。zip ファイルから参照テーブルのデータをインポートする追加のオプションです。オプションは次の形式で入力します。</p> <pre>rtm:<option_name>=<value>,<option_name>=<value></pre> <p>必須オプション名の要素:</p> <ul style="list-style-type: none"> - <code>disName</code>。データ統合サービスの名前。 - <code>codePage</code>。参照データのコードページ。 - <code>refDataFile</code>。参照テーブルデータのインポート元の zip ファイルのパスとファイル名。 <p>例:</p> <pre>rtm:disName=ds,codePage=UTF-8,refDataFile=/folder1/data.zip</pre>

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	ドメイン名	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、 <code>-dn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、 <code>-dn</code> オプションが優先されます。
-UserName -un	ユーザー名	必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、 <code>-un</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。

オプション	引数	説明
		両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。
-Password -pd	パスワード	必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードには、大文字と小文字の区別があります。
-SecurityDomain -sdn	セキュリティドメイン	オプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。
-TargetProject -tp	ターゲットプロジェクト名 (制御ファイルを指定した場合、このオプションの設定は無視される)	オプション。オブジェクトのインポート先のプロジェクトの名前。オブジェクトをインポートするには、リポジトリ内にプロジェクトが存在する必要があります。インポート制御ファイルを使用すると、このオプションの設定は無視されます。
-RepositoryService -rs	モデルリポジトリサービス名	必須。モデルリポジトリサービス名。
-ImportFilePath -fp	import_file_path	必須。オブジェクトのインポート元の XML ファイルのパスとファイル名。ファイル名には絶対パスまたは相対パスを指定できます。
-SourceProject -sp	インポートファイル内のソースプロジェクト名 (制御ファイルを指定した場合、このオプションの設定は無視される)	オプション。インポート元ファイル内のソースプロジェクト名。インポート制御ファイルを使用すると、このオプションの設定は無視されます。
-TargetFolder -tf	インポート先のターゲットフォルダ (ルートの場合は省略する。制御ファイルを指定した場合、このオプションの設定は無視される)	オプション。オブジェクトのインポート先のフォルダ。インポート先フォルダを指定しない場合、オブジェクトはターゲットプロジェクトにインポートされます。オブジェクトをインポートするには、リポジトリ内にフォルダが存在する必要があります。インポート制御ファイルを使用すると、このオプションの設定は無視されます。
-SkipCRC -sc	インポートされたファイルの CRC チェックをスキップするには、「true」に設定します。	インポートするファイルが変更されていないかどうかをチェックする CRC (巡回冗長検査) をスキップするかどうかを指定します。True に設定するとチェックをスキップします。デフォルトは False です。

オプション	引数	説明
-ConflictResolution -cr	指定されている解決タイプ	<p>オプション。競合の解決策。インポートするすべてのオブジェクトに対して以下のオプションのいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 名前の変更 - 置換 - 再利用 - なし <p>インポート制御ファイルを使用すると、このオプションの設定は無視されます。競合の解決策の設定が [なし] で競合が発生すると、インポートに失敗します。デフォルトは [なし] です。</p>
-ControlFilePath -cp	インポート制御ファイルのパス	<p>オプション。インポートオブジェクトのフィルタリングに使用するインポート制御ファイルのパスおよびファイル名。絶対パスまたは相対パスを指定できます。</p>
-SkipCnxValidation -scv	接続の検証をスキップするには、「true」に設定します。	<p>オプション。インポート中にターゲット接続の検証をスキップするかどうかを示します。デフォルトでは、インポートオブジェクトが使用する接続がインポート先のリポジトリに存在するかどうか、インポートプロセスによって確認されます。接続が存在しない場合は、インポートに失敗します。</p> <p>ターゲット接続の検証をスキップし、インポートを続行するには、このオプションを true に設定します。インポートされたオブジェクトがターゲットリポジトリに存在しない接続を使用する場合、インポートプロセスは「詳細不明」の接続でオブジェクトをインポートします。インポートプロセス完了後に、Developer tool を使用して正しい接続を選択します。</p> <p>デフォルトは False です。</p> <p>注: インポート制御ファイルが指定するソース接続が、インポートしているファイル内に存在しない場合、インポートプロセスはこのオプションの値に関係なく失敗します。このエラーを修正するには、インポートしているファイル内に存在するソース接続が、インポート制御ファイル内の接続 <code>rebind</code> 要素に含まれていることを確認します。</p>

第 17 章

infacmd ps コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [cancelProfileExecution, 671](#) ページ
- [CreateWH, 673](#) ページ
- [DropWH, 674](#) ページ
- [Execute, 676](#) ページ
- [executeProfile, 678](#) ページ
- [getExecutionStatus, 679](#) ページ
- [getProfileExecutionStatus, 681](#) ページ
- [List, 683](#) ページ
- [migrateProfileResults, 684](#) ページ
- [migrateScorecards, 686](#) ページ
- [消去, 687](#) ページ
- [synchronizeProfile, 690](#) ページ

cancelProfileExecution

プロファイルとエンタープライズ検出プロファイルを含むすべてのプロファイルの実行を停止します。

infacmd ps cancelProfileExecution コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
cancelProfileExecution
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-Gateway|-hp> gateway_name]
[<-NodeName|-nn> node_name]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-MrsServiceName|-msn> MRS_name
<-DsServiceName|-dsn> data_integration_service_name
<-ObjectPathAndName|-opn> MRS_object_path
```

以下の表に、`infacmd ps cancelProfileExecution` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、 <code>-dn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、 <code>-dn</code> オプションが優先されます。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	<code>domains.infra</code> ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-NodeName -nn	node_name	オプション。データ統合サービスを実行するノードの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、 <code>-un</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、 <code>-un</code> オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、 <code>-pd</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、 <code>-pd</code> オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、 <code>-sdn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、 <code>-sdn</code> オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-MrsServiceName -msn	MRS_name	必須。モデルリポジトリサービス名。

オプション	引数	説明
-DsServiceName -dsn	data_integration _service_name	必須。データ統合サービスの名前。
-ObjectPathAndName -opn	MRS_object_pat h	必須。以下の構文を使用します。 ProjectName/FolderName/.../SubFolder_Name/{ObjectName} ProjectName/ObjectName}

CreateWH

プロファイリングウェアハウスのコンテンツを作成します。

infacmd ps CreateWH コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateWH

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-Gateway|-hp>] gateway_name]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> Password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-DsServiceName|-dsn> data_integration_service_name

以下の表に、infacmd ps CreateWH のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-Gateway -hp	gateway_name	オプション。domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に、このオプションを使用します。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号を入力します。以下の構文を使用します。 gateway_hostname:port。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p> <p>必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードには、大文字と小文字の区別があります。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p> <p>オプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。</p>
-DsServiceName -dsn	data_integration_service_name	必須。データ統合サービス名。

DropWH

Profiling ウェアハウスのコンテンツを削除します。

infacmd ps DropWH コマンドでは、以下の構文を使用します。

DropWH

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-Gateway|-hp>] gateway_name]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> Password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-DsServiceName|-dsn> data_integration_service_name

以下の表に、infacmd ps DropWH のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-Gateway -hp	gateway_name	オプション。domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に、このオプションを使用します。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号を入力します。以下の構文を使用します。 gateway_hostname:port。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。 必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードには、大文字と小文字の区別があります。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。 オプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。
-DsServiceName -dsn	data_integration_service_name	必須。データ統合サービス名。

Execute

プロファイルまたはスコアカードを実行します。

infacmd ps Execute コマンドでは、以下の構文を使用します。

Execute

```
<-DomainName|-dn> domain_name  
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]  
[<-NodeName|-nn> node_name]  
<-UserName|-un> user_name  
<-Password|-pd> password  
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]  
<-MrsServiceName|-msn> MRS_name  
<-DsServiceName|-dsn> data_integration_service_name  
<-ObjectType|-ot> object_type  
<-ObjectPathAndName|-opn> MRS_object_path  
[<-ProfileTaskName|-pt> profile_task_name]  
[<-wait|-w> true|false]
```

以下の表に、infacmd ps Execute のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-NodeName -nn	node_name	オプション。データ統合サービスを実行するノードの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザ名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-MrsServiceName -msn	MRS_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-DsServiceName -dsn	data_inetgration_service_name	必須。データ統合サービスの名前。
-ObjectType -ot	object_type	必須。プロファイルまたはスコアカードを入力します。
-ObjectPathandName -opn	MRS_object_path	必須。以下の構文を使用します。 ProjectName/FolderName/.../SubFolder_Name/{ObjectName ProjectName/ObjectName}
-ProfileTaskName -pt	profile_task_name	オプション。エンタープライズ検出プロファイルのプロファイルタスクの名前。
-Wait -w	true false	オプション。true の場合、コマンドが完了してからコマンドプロンプトに戻ります。false の場合、コマンドが完了する前にコマンドプロンプトに戻ります。デフォルトは false です。

executeProfile

エンタープライズ検出プロファイルを実行します。

infacmd ps executeProfile コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
executeProfile
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-NodeName|-nn> node_name]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-MrsServiceName|-msn> MRS_name
<-DsServiceName|-dsn> data_integration_service_name
<-ObjectPathAndName|-opn> MRS_object_path
```

以下の表に、infacmd ps executeProfile のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-NodeName -nn	node_name	オプション。データ統合サービスを実行するノードの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-MrsServiceName -msn	MRS_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-DsServiceName -dsn	data_inetgration_service_name	必須。データ統合サービスの名前。
-ObjectPathandName -opn	MRS_object_path	必須。以下の構文を使用します。 ProjectName/FolderName/.../SubFolder_Name/{ObjectName} ProjectName/ObjectName}

getExecutionStatus

エンタープライズ検出プロファイルのプロファイルタスクのランタイムステータスを取得します。

infacmd ps getExecutionStatus コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
getExecutionStatus
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-Gateway|-hp> gateway_name]
[<-NodeName|-nn> node_name]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-MrsServiceName|-msn> MRS_name
<-DsServiceName|-dsn> data_integration_service_name
<-ObjectType|-ot> object_type
<-ObjectPathAndName|-opn> MRS_object_path
<-ProfileTaskName|-pt> profile_task_name
```

以下の表に、infacmd ps getExecutionStatus のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-NodeName -nn	node_name	オプション。データ統合サービスを実行するノードの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-MrsServiceName -msn	MRS_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-DsServiceName -dsn	data_integration_service_name	必須。データ統合サービスの名前。

オプション	引数	説明
-ObjectType -ot	object_type	必須。プロファイルまたはスコアカードを入力します。
-ObjectPathAndName -opn	MRS_object_path	必須。以下の構文を使用します。 ProjectName/FolderName/.../SubFolder_Name/{ObjectName ProjectName/ObjectName}
-ProfileTaskName -pt	profile_task_name	オプション。エンタープライズ検出プロファイルのプロファイルタスクの名前。

getProfileExecutionStatus

エンタープライズ検出プロファイルのランタイムステータスを取得します。このコマンドは、エンタープライズ検出プロファイルのすべてのプロファイルタスクおよびそのランタイムステータスも一覧表示します。

infacmd ps getProfileExecutionStatus コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
getProfileExecutionStatus
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
[<-Gateway|-hp> gateway_name]
```

```
[<-NodeName|-nn> node_name]
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
<-MrsServiceName|-msn> MRS_name
```

```
<-DsServiceName|-dsn> data_integration_service_name
```

```
<-ObjectPathAndName|-opn> MRS_object_path
```

以下の表に、infacmd ps getProfileExecutionStatus のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-NodeName -nn	node_name	オプション。データ統合サービスを実行するノードの名前。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-MrsServiceName -msn	MRS_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-DsServiceName -dsn	data_integration_service_name	必須。データ統合サービスの名前。
-ObjectPathAndName -opn	MRS_object_path	必須。以下の構文を使用します。 ProjectName/FolderName/.../SubFolder_Name/{ObjectName} ProjectName/ObjectName}

List

プロファイルまたはスコアカードを一覧表示します。

infacmd ps List コマンドでは、以下の構文を使用します。

List

```
<-DomainName|-dn> domain_name  
[<-NodeName|-nn>] node_name  
<-MrsServiceName|-msn> MRS_name  
<-UserName|-un> user_name  
<-Password|-pd> password  
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]  
<-ObjectType|-ot>  
<-FolderPath|-fp> full_folder_path  
[<-Recursive|-r>]
```

以下の表に、infacmd ps List のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-NodeName -nn	node_name	オプション。データ統合サービスを実行するノードの名前。
-MrsServiceName -msn	MRS_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ObjectType -ot	-	必須。プロファイルまたはスコアカードを入力します。
-FolderPath -fp	full_folder_path	必須。一覧表示するオブジェクトを含むフォルダのパスを入力します。 以下の構文を使用します。 Project_name/folder_name/./SubFolderName
-Recursive -r	-	オプション。指定したフォルダおよびそのサブフォルダのオブジェクトにコマンドを適用します。

migrateProfileResults

カラムプロファイル結果とデータドメイン検出結果をバージョン 9.1.0、9.5.0、または 9.5.1 から移行します。

infacmd ps migrateProfileResults コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
migrateProfileResults
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-Gateway|-hp> gateway_name]
[<-NodeName|-nn> node_name]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-MrsServiceName|-msn> MRS_name
<-DsServiceName|-dsn> data_integration_service_name
```

以下の表に、infacmd ps migrateProfileResults のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-NodeName -nn	node_name	オプション。データ統合サービスを実行するノードの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-MrsServiceName -msn	MRS_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-DsServiceName -dsn	data_integration_service_name	必須。データ統合サービス名。

migrateScorecards

Informatica 9.1.0 または 9.5.0 から 9.5.1 にスコアカードの結果を移行します。

infacmd ps migrateScorecards コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
migrateScorecards
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-Gateway|-hp> gateway_name]
[<-NodeName|-nn> node_name]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-MrsServiceName|-msn> MRS_name
<-DsServiceName|-dsn> data_integration_service_name
<-migrateFrom|-mfr> migrate_from_release
```

以下の表に、infacmd ps migrateScorecards のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-NodeName -nn	node_name	オプション。データ統合サービスを実行するノードの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-MrsServiceName -msn	MRS_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-DsServiceName -dsn	data_integration_service_name	必須。データ統合サービス名。
-migrateFrom -mfr	migrate_from_release	必須。移行元の Data Explorer のバージョン。このバージョンは 9.1.0 または 9.5.0 のいずれかです。

消去

プロファイリングウェアハウスからのプロファイルおよびスコアカードの結果をパーズします。

infacmd ps Purge コマンドでは、以下の構文を使用します。

Purge

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-Gateway|-hp> gateway_name]

[<-NodeName|-nn>] node_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> Password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-MrsServiceName|-msn> MRS_name

<-DsServiceName|-dsn> data_integration_service_name

<-ObjectType|-ot> object_type

<-ObjectPathAndName|-opn> MRS_object_path

[<-RetainDays|-rd> results_retain_days]

[<-ProjectFolderPath|-pf> project_folder_path]

[<-ProfileTaskName|-pt> profile_task_name]

[<-Recursive|-r> recursive]

[<-PurgeAllResults|-pa> purge_all_results]

以下の表に、infacmd ps Purge のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。 ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-Gateway -hp	gateway_name	コマンドを Informatica インストールの \bin ディレクトリから実行する場合は、オプション。それ以外の場所からコマンドを実行する場合は、必須。 ゲートウェイノードの名前。 以下の構文を使用します。 [Domain_Host]:[HTTP_Port]
-NodeName -nn	node_name	必須。データ統合サービスを実行するノードの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレلمと同じです。
-MrsServiceName -msn	MRS_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-DsServiceName -dsn	data_integration_service_name	必須。データ統合サービス名。
-ObjectType -ot	-	必須。プロファイルまたはスコアカードを入力します。
-ObjectPathAndName -opn *	MRS_object_path	オプション。ProjectFolderPath または Recursive と併用しないでください。モデルリポジトリ内のプロファイルまたはスコアカードへのパス。 以下の構文を使用します。 ProjectName/FolderName/.../{SubFolder_Name/ObjectName ProjectName/ObjectName}
-RetainDays -rd	results_retain_days	オプション。Profiling ウェアハウスがプロファイルまたはスコアカードの結果を格納する日数。この日数を経過すると結果はページされます。
-ProjectFolderPath -pf *	project_folder_path	オプション。ObjectPathAndName または ProfileTaskName と併用しないでください。 プロファイルまたはスコアカードが格納されるプロジェクトおよびフォルダの名前。 以下の構文を使用します。 ProjectName/FolderName
-ProfileTaskName -pt *	profile_task_name	オプション。ページするプロファイルタスクの名前。 ProjectFolderPath を指定する場合、このオプションを指定する必要はありません。ProjectFolderPath には、プロファイルタスクを含むエンタープライズ検出プロファイルの名前が含まれるからです。
-Recursive -r	recursive	オプション。ObjectPathAndName と併用しないでください。 指定したフォルダとそのサブフォルダ内のオブジェクトに、コマンドを適用します。

オプション	引数	説明
-PurgeAllResults -pa	purge_all_results	オプション。このオプションを設定すると、プロファイルまたはスコアカードオブジェクトからすべての結果がパーズされます。 -recursive オプションと併用して、コマンドを、指定したフォルダとそのサブフォルダ内のプロファイルおよびスコアカードの結果に適用します。
* コマンドを実行するには、ObjectPathAndName、ProjectFolderPath、ProfileTaskName のいずれかを指定する必要があります。		

synchronizeProfile

プロジェクト内のすべてのプロファイルに対する、文書化された、ユーザー定義の、コミットされたプライマリキーと外部キーをバージョン 9.1.0、9.5.0、または 9.5.1 から移行します。

infacmd ps synchronizeProfile コマンドでは、以下の構文を使用します。

synchronizeProfile

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-Gateway|-hp> gateway_name]

[<-NodeName|-nn> node_name]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-MrsServiceName|-msn> MRS_name

<-DsServiceName|-dsn> data_integration_service_name

<-ProjectName|-pn> project_name

以下の表に、infacmd ps synchronizeProfile のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-NodeName -nn	node_name	オプション。データ統合サービスを実行するノードの名前。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	<p>ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。</p> <p>ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。</p>
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。</p>
-MrsServiceName -msn	MRS_name	必須。モデルリポジトリサービス名。
-DsServiceName -dsn	data_integration_service_name	必須。データ統合サービス名。
-ProjectName -pn	project_name	必須。プロジェクト名。

第 18 章

infacmd pwx コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [CloseForceListener, 693](#) ページ
- [CloseListener, 696](#) ページ
- [CondenseLogger, 698](#) ページ
- [createdatamaps, 700](#) ページ
- [CreateListenerService, 703](#) ページ
- [CreateLoggerService, 706](#) ページ
- [DisplayAllLogger, 711](#) ページ
- [DisplayCPULogger, 714](#) ページ
- [DisplayEventsLogger, 716](#) ページ
- [DisplayMemoryLogger, 719](#) ページ
- [DisplayRecordsLogger, 721](#) ページ
- [displayStatsListener, 725](#) ページ
- [DisplayStatusLogger, 729](#) ページ
- [FileSwitchLogger, 731](#) ページ
- [ListTaskListener, 734](#) ページ
- [ShutDownLogger, 736](#) ページ
- [StopTaskListener, 739](#) ページ
- [UpgradeModels, 742](#) ページ
- [UpdateListenerService, 744](#) ページ
- [UpdateLoggerService, 747](#) ページ

CloseForceListener

PowerExchange リスナサービスで長時間実行されているサブタスクを強制的にキャンセルし、リスナサービスを停止します。

infacmd pwx CloseForceListener コマンドを発行した場合、PowerExchange は次のアクションを実行しません。

1. リスナサービスのアクティブなサブタスクの有無をチェックします。
2. アクティブなサブタスクが存在する場合は、30 秒経過するまで、アクティブなサブタスクの数を毎秒ポーリングします。
3. この間、TCP/IP ネットワーク入力を待機しているサブタスクを停止します。
4. 残っているアクティブなサブタスクをすべてキャンセルします。
5. リスナサービスを停止します。

infacmd pwx CloseForceListener コマンドでは、以下の構文を使用します。

CloseForceListener

```
[<-DomainName|-dn> domain_name]
[<-UserName|-un> user_name]
[<-Password|-pd> password]
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-OSUser|-oun> OS_user_name]
[<-OSPassword|-oup> OS_password]
[<-OSEPassword|-ouep> OS_epassword]
```

以下の表に、infacmd pwx CloseForceListener のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できません。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザ名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。リスナサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトは Native です。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-OSUser -oun	OS_user_name	<p>オペレーティングシステムのセキュリティを有効にする場合に必須。オペレーティングシステムのユーザー名。</p> <p>オペレーティングシステムのセキュリティは次のように有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 有効なオペレーティングシステムのユーザー ID とパスワードをコマンドで入力することをユーザーに要求するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の DBMOVER コ構成ファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 1 または 2 を指定します。PowerExchange は、infacmd pwx プログラムの使用に関するユーザー ID およびパスワードを認証するために、ターゲットシステムのオペレーティングシステム機能を使用します。 - 特定の infacmd pwx コマンドの実行をユーザーに許可するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の PowerExchange サインオンファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 2 を指定し、AUTHGROUP 文と USER 文を定義します。PowerExchange は、サインオンファイルをチェックして、infacmd pwx プログラムに提供されたユーザー ID でコマンドを実行することを許可するかどうかを決定します。 <p>詳細については、『PowerExchange リファレンスマニュアル』を参照してください。</p>
-OSPassword -oup	OS_password	<p>ユーザー名を指定し、暗号化されたパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムのパスワード。</p> <p>テキストパスワードは、-p オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-p オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-OSEPassword -ouep	OS_epassword	<p>ユーザー名を指定し、テキストパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムの暗号化されたパスワード。</p> <p>暗号化されたパスワードは、-e オプションまたは INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-e オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>

CloseListener

リスナサービス上の未処理のサブタスクがすべて完了するまで待機した後、PowerExchange リスナサービスを停止します。

注: リスナサービスで長時間実行されているサブタスクがある場合は、`infacmd pwx closeforceListener` コマンドを代わりに発行して、すべてのユーザーサブタスクを強制的にキャンセルし、リスナサービスを停止します。

`infacmd pwx CloseListener` コマンドでは、以下の構文を使用します。

CloseListener

[<-DomainName|-dn> domain_name]

[<-UserName|-un> user_name]

[<-Password|-pd> password]

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-OSUser|-oun> OS_user_name]

[<-OSPassword|-oup> OS_password]

[<-OSEPassword|-ouep> OS_epassword]

以下の表に、`infacmd pwx CloseListener` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-ServiceName -sn	service_name	必須。リスナサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されません。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-OSUser -oun	OS_user_name	オペレーティングシステムのセキュリティを有効にする場合に必須。オペレーティングシステムのユーザー名。 オペレーティングシステムのセキュリティは次のように有効にします。 - 有効なオペレーティングシステムのユーザー ID とパスワードをコマンドで入力することをユーザーに要求するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の DBMOVER コンフィギュレーションファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 1 または 2 を指定します。PowerExchange は、infacmd pwx プログラムの使用に関するユーザー ID およびパスワードを認証するために、ターゲットシステムのオペレーティングシステム機能を使用します。 - 特定の infacmd pwx コマンドの実行をユーザーに許可するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の PowerExchange サインオンファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 2 を指定し、AUTHGROUP 文と USER 文を定義します。PowerExchange は、サインオンファイルをチェックして、infacmd pwx プログラムに提供されたユーザー ID でコマンドを実行することを許可するかどうかを決定します。

オプション	引数	説明
-OSPassword -oup	OS_password	ユーザー名を指定し、暗号化されたパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムのパスワード。 テキストパスワードは、-p オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-p オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-OSEPassword -ouep	OS_epassword	ユーザー名を指定し、テキストパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムの暗号化されたパスワード。 暗号化されたパスワードは、-e オプションまたは INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-e オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

CondenseLogger

PowerExchange ロガーサービスが継続モードで実行中の場合に、次のロギングサイクルの開始までの待機期間が経過する前に、別のロギングサイクルを開始します。待機期間は、pwxcl.cfg 構成ファイルの NO_DATA_WAIT パラメータで指定します。

infacmd pwx CondenseLogger コマンドでは、以下の構文を使用します。

CondenseLogger

```
[<-DomainName|-dn> domain_name]
[<-UserName|-un> user_name]
[<-Password|-pd> password]
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-OSUser|-oun> OS_user_name]
[<-OSPassword|-oup> OS_password]
[<-OSEPassword|-ouep> OS_epassword]
```

以下の表に、infacmd pwx CondenseLogger のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できません。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ロッガーサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-OSUser -oun	OS_user_name	オペレーティングシステムのセキュリティを有効にする場合に必須。オペレーティングシステムのユーザー名。 オペレーティングシステムのセキュリティは次のように有効にします。 - 有効なオペレーティングシステムのユーザー ID とパスワードをコマンドで入力することをユーザーに要求するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の DBMOVER コンフィギュレーションファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 1 または 2 を指定します。PowerExchange は、infacmd pwx プログラムの使用に関するユーザー ID およびパスワードを認証するために、ターゲットシステムのオペレーティングシステム機能を使用します。 - 特定の infacmd pwx コマンドの実行をユーザーに許可するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の PowerExchange サインオンファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 2 を指定し、AUTHGROUP 文と USER 文を定義します。PowerExchange は、サインオンファイルをチェックして、infacmd pwx プログラムに提供されたユーザー ID でコマンドを実行することを許可するかどうかを決定します。
-OSPassword -oup	OS_password	ユーザー名を指定し、暗号化されたパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムのパスワード。 テキストパスワードは、-p オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-p オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-OSEPassword -ouep	OS_epassword	ユーザー名を指定し、テキストパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムの暗号化されたパスワード。 暗号化されたパスワードは、-e オプションまたは INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-e オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

createdatamaps

バルクデータ移動操作のデータマップを作成します。

createdatamaps コマンドを使用して、コマンドラインから IMS、SEQ、および VSAM の各データソースのデータマップを生成します。このコマンドは、場合によって PowerExchange Navigator の代替手段を提供し、データマップを非対話形式で生成または再生成できます。

Java メモリエラーでコマンドが失敗する場合は、infacmd が使用するシステムメモリを増やします。システムメモリを増やすには、ICMD_JAVA_OPTS 環境変数の-Xmx 値を設定します。詳細については、[「ICMD_JAVA_OPTS」 \(ページ 41\)](#)を参照してください。

infacmd pwx createdatamaps コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
createdatamaps
[<-pwxLocation|-loc> pwx_location]
[<-pwxUserName|-pun> pwx_user_name]
[<-pwxPassword|-ppd> pwx_password]
[<-pwxEncryptedPassword|-epwd> pwx_encrypted_password]
[<-datamapOutputDir|-dod> datamap_output_directory]
[<-replace|-r> replace_existing_datamaps]
<-controlFile|-cf> file_path_for_control_file
[<-logfile|-lf> file_path_for_log_file]
[<-verbosity|-v> logging_verbosity]
```

以下の表に、infacmd pwx createdatamaps のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-pwxLocation -loc	pwx_location	オプション。PowerExchange DBMOVER 構成ファイルの NODE 文に指定されているデータソースの場所。pwxLocation が指定されていない場合、createdatamaps ユーティリティはローカルファイルシステムのコピーブックおよび DBD メタデータにアクセスします。 レコード ID を検索するように制御ファイルを設定する場合、pwxLocation が必要です。
-pwxUserName -pun	pwx_user_name	オプション。pwxLocation が指定されている場合、PowerExchange リスナに接続するためのユーザー ID。

オプション	引数	説明
-pwxPassword -ppd	pwx_password	<p>オプション。pwxLocation が指定されている場合、PowerExchange リスナに接続するためのパスワード。</p> <p>パスワードの代わりに、有効な PowerExchange パスフレーズを入力することができます。z/OS で PowerExchange リスナにアクセスするためのパスフレーズは、長さが 9~128 文字で、以下の文字を含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 英字 (大文字と小文字) - 数字 (0~9) - スペース - 次に示す特殊文字。 ' - ; # \ , . / ! % & * () _ + { } : @ < > ? <p>注: 先頭に書かれている特殊文字はアポストロフィです。</p> <p>パスフレーズに一重引用符 (')、二重引用符 (")、または通貨記号を含めることはできません。</p> <p>パスフレーズにスペースが含まれている場合は、二重引用符 (") で囲む必要があります (例: "This is an example passphrase")。パスフレーズに特殊文字が含まれる場合、パスフレーズを 3 重にした二重引用符 (""") で囲む必要があります (例: """"This passphrase contains special characters ! % & * .""").</p> <p>パスフレーズにスペース以外の英数字のみが使用されている場合は、区切り文字を使わずにそのまま入力できます。</p> <p>注: z/OS で有効な RACF パスフレーズの最大長は 100 文字です。PowerExchange は、検証のために RACF にパスフレーズを渡すときに 100 文字を超えるパスフレーズを切り捨てます。</p> <p>パスフレーズを使用するには、DBMOVER メンバのセキュリティ設定を SECURITY=(1,N)以上にして PowerExchange リスナを実行します。詳細については、『PowerExchange リファレンスマニュアル』の「SECURITY 文」を参照してください。</p>
-pwxEncryptedPassword -epwd	pwx_encrypted_password	<p>オプション。pwxLocation が指定されている場合、PowerExchange リスナに接続するための暗号化されたパスワード。</p> <p>PowerExchange リスナが z/OS または i5/OS システムで実行されている場合、暗号化されたパスワードの代わりに PowerExchange の暗号化されたパスフレーズを入力できます。無効な文字を含んでいるパスフレーズは暗号化しないでください (二重引用符、一重引用符、通貨記号など)。</p>
-datamapOutputDir -dod	datamap_output_directory	<p>オプション。出力データマップを書き込むローカルのファイルディレクトリ。デフォルトは現在の作業ディレクトリです。</p>

オプション	引数	説明
-replace -r	replace_existing_datamaps	オプション。既存のデータマップを置換するかどうかを指定します。 replace=Y の場合、datamap_output_directory にあるデータマップで、作成しているデータマップと同じ名前のすべてのデータマップが置換されます。 replace=N の場合、datamap_output_directory に同じ名前があるデータマップがすでにある場合にデータマップの作成をスキップします。 デフォルトは N です。
-controlFile -cf	file_path_for_control_file	必須。データマップの生成を制御する制御ファイルのパスとファイル名。
-logFile -lf	file_path_for_log_file	オプション。出力ログファイルのパスとファイル名。デフォルトは[STDOUT]です。
-verbosity -v	logging_verbosity	オプション。ログファイルの冗長性。デフォルトは [INFO] です。有効な値は以下のとおりです。 - DEBUG。最も詳細なログの記録方法。スタックトレースが表示される場合があります。 - INFO。情報メッセージ。 - WARN。潜在的な問題を示しています。 - ERROR。障害を示しています。処理は続きます。 - FATAL。重大な事態を示しています。プロセスは終了します。

PowerExchange のノード名と資格情報はオプションです。pwxLocation オプションを含めない場合、コマンドはローカルファイルシステムに直接アクセスしてメタデータを読み取ります。この場合は、createdatamaps を実行するマシンに PowerExchange をインストールする必要はありません。

createdatamaps コマンドの詳細については、『PowerExchange ユーティリティガイド』を参照してください。

CreateListenerService

ドメイン内に PowerExchange リスナサービスを作成します。デフォルトでは、リスナサービスは作成時に無効になっています。リスナサービスを有効にするには、infacmd isp EnableService コマンドを実行します。

infacmd pwx CreateListenerService コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateListenerService

[<-DomainName|-dn> domain_name]

[<-UserName|-un> user_name]

[<-Password|-pd> password]

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-NodeName|-nn> node_name

[<-LicenseName|-ln> license_name]

[<-BackupNode|-bn> backup_node]

<-StartParameters|-sp> start_parameters

<-SvcPort|-sp> service_port

以下の表に、infacmd pwx CreateListenerService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザ名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。

オプション	引数	説明
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	-DomainName を指定しない場合に必須。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。リスナサービスの名前。 名前では大文字小文字を区別しません。名前は 128 文字以内で、復帰文字や、タブ、スペース、以下の文字を含むことはできません。 / * ? < > "
-NodeName -nn	node_name	必須。リスナサービスを実行するノードの名前。
-LicenseName -ln	license_name	オプション。サービスに割り当てられるライセンス。ここでライセンスを選択しない場合でも、後でこのサービスに対するライセンスを割り当てることができます。サービスを有効にする前に必要です。
-BackupNode -bn	backup_node	オプション。PowerCenter 環境が高可用性の設定になっている場合、このオプションにより、バックアップノードの名前を指定できます。

オプション	引数	説明
-StartParameters -sp	start_parameters	<p>リスナサービスを開始するときに含まれるパラメータ。パラメータはスペース文字で区切ります。 <i>node_name</i> パラメータが必要です。 以下のパラメータを含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - <i>node_name</i> 必須。リスナサービスを特定するノード名。このノード名は、DBMOVER コンフィギュレーションファイル内の LISTENER 文のノード名と一致している必要があります。 - <i>config=directory</i> オプション。デフォルトの dbmover.cfg ファイルの代わりに使用する dbmover.cfg 構成ファイルのフルパスとファイル名を指定します。この代替の構成ファイルは、PWX_CONFIG 環境変数で指定した他の代替の構成ファイルよりも優先されます。 - <i>license=directory/license_key_file</i> オプション。デフォルトの license.key ファイルの代わりに使用するライセンスキーファイルのフルパスとファイル名を指定します。この代替のライセンスキーファイルのファイル名またはパスは、デフォルトファイルのファイル名またはパスと異なっている必要があります。この代替のライセンスキーファイルは、PWX_LICENSE 環境変数で指定した他の代替のライセンスキーファイルよりも優先されます。 <p>注: インストールディレクトリ内にファイルが存在しない場合にのみ、<i>config</i> および <i>license</i> パラメータにフルパスを指定する必要があります。スペースを含むパスとファイル名の前後の引用符を含みます。</p>
-SvcPort -sp	service_port	<p>必須。リスナサービスがサービスマネージャからのコマンドをリスンするポート。</p>

CreateLoggerService

ドメインに PowerExchange ロガーサービスを作成します。デフォルトでは、ロガーサービスは作成時に無効になっています。リスナサービスを有効にするには、`infacmd isp EnableService` コマンドを実行します。

`infacmd pwx CreateLoggerService` コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateLoggerService

[<-DomainName|-dn> domain_name]

[<-UserName|-un> user_name]

[<-Password|-pd> password]

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

```

<-ServiceName|-sn> service_name
<-NodeName|-nn> node_name
[<-LicenseName|-ln> license_name]
[<-BackupNode|-bn> backup_node]
[<-StartParameters|-sp> start_parameters]
<-SvcPort|-sp> service_port

```

以下の表に、infacmd pwx CreateLoggerService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	オプション。-DomainName を指定しない場合。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
- ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ロッガーサービスの名前。 名前では大文字小文字を区別しません。名前は 128 文字以内で、復帰文字や、タブ、スペース、以下の文字を含むことはできません。 <code>/ * ? < > " </code>
-NodeName -nn	node_name	必須。ロッガーサービスを実行するノードの名前。
-LicenseName -ln	license_name	オプション。サービスに割り当てられるライセンス。ここでライセンスを選択しない場合でも、後でこのサービスに対するライセンスを割り当てることができます。サービスを有効にする前に必要です。
-BackupNode -bn	backup_node	オプション。PowerCenter 環境が高可用性の設定になっている場合、このオプションにより、バックアップノードの名前を指定できます。

オプション	引数	説明
-StartParameters -sp	start_parameters	<p>オプション。ロッガーサービスを開始するときに含まれるパラメータ。パラメータはスペース文字で区切ります。</p> <p>以下のパラメータを含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - coldstart={Y N} <p>ロッガーサービスでコールドスタートとウォームスタートのどちらを実行するかを示します。ロッガーサービスをコールドスタートするには、「Y」を入力します。CDCT ファイルにログレコードが含まれる場合、ロッガーサービスによりこれらのレコードが削除されます。CDCT ファイル内に示されている再開ポイントからロッガーサービスをウォームスタートするには、「N」を入力します。</p> <p>デフォルトは N です。</p> - config=<i>directory/pwx_config_file</i> <p>デフォルトの dbmover.cfg ファイルの代わりに使用する dbmover.cfg 構成ファイルのフルパスとファイル名を指定します。この代替の構成ファイルは、PWX_CONFIG 環境変数で指定した他の代替の構成ファイルよりも優先されます。</p> - cs=<i>directory/pwxlogger_config_file</i> <p>ロッガーサービスの構成ファイルのパスとファイル名を指定します。cs パラメータを使用して、デフォルトの pwxcl.cfg ファイルをオーバーライドする、ロッガーサービスの構成ファイルを指定することもできます。このオーバーライドファイルのパスまたはファイル名は、デフォルトファイルのパスまたはファイル名と異なっている必要があります。</p> - encryptpwd=<i>encrypted_password</i> <p>PowerExchange ロッガーのログファイルの暗号化を有効にするための暗号化形式のパスワード。このパスワードを使用すると、PowerExchange ロッガーは各ロッガーログファイルに一意的暗号化キーを生成できます。このパスワードは、CDCT ファイルに暗号化形式で保存されます。セキュリティ上の理由により、パスワードは CDCT バックアップファイルに保存されず、PowerExchange PWXUCDCT ユーティリティを使用して生成できる CDCT レポートに表示されません。</p> <p>このパラメータを指定する場合は、coldstart=Y も指定する必要があります。</p> <p>このパラメータを指定し、PowerExchange ロッガー構成ファイル pwxcl.cfg で ENCRYPTPWD パラメータも指定した場合は、構成ファイルのパラメータが優先されます。このパラメータを指定し、PowerExchange ロッガー構成ファイルで ENCRYPTPWD パラメータも指定するとエラーが発生します。</p> <p>pwxcl.cfg ファイルの ENCRYPTOPT パラメータで、ログファイル暗号化に AES アルゴリズムを使用するように設定できます。デフォルトは AES128 です。</p> <p>ヒント: セキュリティを最適化するために、暗号化パスワードを pwxcl.cfg 構成ファイルに指定するのではなく、PowerExchange ロッガーのコールドスタート時に指定することをお勧めします。このようにする</p>

オプション	引数	説明
		<p>と、以下の理由により、暗号化パスワードへの悪意あるアクセスのリスクを軽減できます。1) 暗号化パスワードが pwxcl.cfg ファイルに保存されない。2) コールドスタートが正常に実行された後でコマンドラインからパスワードを削除できる。コールドスタートの暗号化パスワードを指定してから、後で CDCT ファイルをリストアする必要がある場合は、PWUCDCT ユーティリティの RESTORE_CDCT コマンドに同じ暗号化パスワードを入力する必要があります。</p> <p>PowerExchange ロgger ログファイルを暗号化しない場合は、暗号化パスワードを入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - license=directory/license_key_file <p>デフォルトの license.key ファイルの代わりに使用するライセンスキーファイルのフルパスとファイル名を指定します。この代替のライセンスキーファイルのファイル名またはパスは、デフォルトファイルのファイル名またはパスと異なっている必要があります。この代替のライセンスキーファイルは、PW_LICENSE 環境変数で指定した他の代替のライセンスキーファイルよりも優先されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - specialstart={Y N} <p>PowerExchange ロgger の特殊スタートを実行するかどうかを指定します。特殊スタートは、pwxcl.cfg ファイルで指定した変更ストリームのポイントから PowerExchange のキャプチャ処理を開始します。この開始ポイントは、PowerExchange ロgger の実行で CDCT ファイルによる再起動ポイントより優先されます。特殊スタートによって CDCT ファイルの中身が削除されることはありません。</p> <p>このパラメータを使用すると、キャプチャデータを失うことなくソースログの中の問題のある部分を飛ばして先に進みます。例えば、次のような状況で特殊スタートを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - PowerExchange ロgger に Oracle カタログのアップグレードをキャプチャされると困る場合があるとします。この場合、アップグレードする前に PowerExchange ロgger を停止します。アップグレードが完了した後、アップグレード後の SCN に基づいて、新しいシーケンスを生成し、PowerExchange ロgger のトークンをリスタートします。これらトークンの値を pwxcl.cfg の中の SEQUENCE_TOKEN パラメータおよび RESTART_TOKEN パラメータを入力してから、PowerExchange ロgger を特殊スタートします。 - 次に、CDC には関係のない UOW が相当数あり、そのことによって発生した古い、使用できないログを PowerExchange ロgger が再処理すると困る場合を考えます。この場合、PowerExchange ロgger を停止してください。RESTART_TOKEN の値を、最も古い利用可能なログの SCN を反映するように編集し、それから特殊スタートを実行します。相当数の UOW のうち、このリスタート点より前に始まっていたものが CDC に関係があれば、データ損失が起きる可能性があります。

オプション	引数	説明
		<p>有効な値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Y。PowerExchange ロggerの特殊スタートを変更ストリームのポイント（pwxcl.cfg 構成ファイルの SEQUENCE_TOKEN パラメータ値と RESTART_TOKEN パラメータ値で定義される）から実行します。特殊スタートを実行するには、pwxcl.cfg ファイルに有効なトークンの値を指定する必要があります。このトークンの値は、CDCT ファイルのトークン値より優先されます。pwxcl.cfg の SEQUENCE_TOKEN 値が CDCT ファイルの現在のシーケントークン値以上になっていることを確認します。 また、coldstart=Y パラメータを指定しないでください。その場合は、coldstart=Y パラメータが優先されます。 - N。特殊スタートを実行しません。coldstart パラメータで指定されたとおりに、コールドスタートまたはウォームスタートを実行します。 <p>デフォルトは N です。</p> <p>注: config、cs、および license の各パラメータでは、ファイルがインストールディレクトリに存在しない場合のみフルパスを指定する必要があります。スペースを含むパスとファイル名の前後の引用符を含みます。</p>
-SvcPort -sp	service_port	オプション。ロggerサービスがサービスマネージャからのコマンドをリスンするポート。

DisplayAllLogger

他の PowerExchange ロggerサービスの表示コマンドにより作成されたメッセージをすべて、コマンドごとに表示します。

infacmd pwx DisplayAllLogger コマンドでは、次のコマンドに対する出力をまとめて表示します。

- DisplayCPULogger
- DisplayEventsLogger
- DisplayMemoryLogger
- DisplayRecordsLogger
- DisplayStatusLogger

infacmd pwx DisplayAllLogger コマンドでは、以下の構文を使用します。

DisplayAllLogger

[<-DomainName|-dn> domain_name]

[<-UserName|-un> user_name]

[<-Password|-pd> password]

<-ServiceName|-sn> service_name

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-OSUser|-oun> OS_user_name]
[<-OSPassword|-oup> OS_password]
[<-OSEPassword|-ouep> OS_epassword]
```

以下の表に、infacmd pwx DisplayAllLogger のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できません。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ロッガーサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p>
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-OSUser -oun	OS_user_name	<p>オペレーティングシステムのセキュリティを有効にする場合に必須。オペレーティングシステムのユーザー名。</p> <p>オペレーティングシステムのセキュリティは次のように有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 有効なオペレーティングシステムのユーザー ID とパスワードをコマンドで入力することをユーザーに要求するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の DBMOVER コンフィギュレーションファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 1 または 2 を指定します。PowerExchange は、infacmd pwx プログラムの使用に関するユーザー ID およびパスワードを認証するために、ターゲットシステムのオペレーティングシステム機能を使用します。 - 特定の infacmd pwx コマンドの実行をユーザーに許可するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の PowerExchange サインオンファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 2 を指定し、AUTHGROUP 文と USER 文を定義します。PowerExchange は、サインオンファイルをチェックして、infacmd pwx プログラムに提供されたユーザー ID でコマンドを実行することを許可するかどうかを決定します。

オプション	引数	説明
-OSPassword -oup	OS_password	ユーザー名を指定し、暗号化されたパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムのパスワード。 テキストパスワードは、-p オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-p オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-OSEPassword -ouep	OS_epassword	ユーザー名を指定し、テキストパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムの暗号化されたパスワード。 暗号化されたパスワードは、-e オプションまたは INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-e オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

DisplayCPULogger

現在のロギングサイクル中に費やされた PowerExchange ロガーサービスの CPU 時間を段階ごとにマイクロ秒で表示します。これには、すべてのロッガーサービス処理の合計 CPU 時間も含まれます。

例えば、ロッガーサービスが以下のアクションの実行に費やした CPU 時間は `infacmd pwx DisplayCPULogger` コマンドにより報告される場合があります。

- ソースデータの読み込み
- ロggerサービスのログファイルへのデータの書き込み
- ファイルスイッチの実行
- 初期化コマンドや処理コマンドなど、他の処理の実行

`infacmd pwx DisplayCPULogger` コマンドでは、以下の構文を使用します。

`DisplayCPULogger`

```
[<-DomainName|-dn> domain_name]
[<-UserName|-un> user_name]
[<-Password|-pd> password]
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-OSUser|-oun> OS_user_name]
[<-OSPassword|-oup> OS_password]
[<-OSEPassword|-ouep> OS_epassword]
```

以下の表に、infacmd pwx DisplayCPULogger のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ロッガーサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-OSUser -oun	OS_user_name	<p>オペレーティングシステムのセキュリティを有効にする場合に必須。オペレーティングシステムのユーザー名。</p> <p>オペレーティングシステムのセキュリティは次のように有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 有効なオペレーティングシステムのユーザー ID とパスワードをコマンドで入力することをユーザーに要求するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の DBMOVER コンフィギュレーションファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 1 または 2 を指定します。PowerExchange は、infacmd pwx プログラムの使用に関するユーザー ID およびパスワードを認証するために、ターゲットシステムのオペレーティングシステム機能を使用します。 - 特定の infacmd pwx コマンドの実行をユーザーに許可するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の PowerExchange サインオンファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 2 を指定し、AUTHGROUP 文と USER 文を定義します。PowerExchange は、サインオンファイルをチェックして、infacmd pwx プログラムに提供されたユーザー ID でコマンドを実行することを許可するかどうかを決定します。
-OSPassword -oup	OS_password	<p>ユーザー名を指定し、暗号化されたパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムのパスワード。</p> <p>テキストパスワードは、-p オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-p オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-OSEPassword -ouep	OS_epassword	<p>ユーザー名を指定し、テキストパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムの暗号化されたパスワード。</p> <p>暗号化されたパスワードは、-e オプションまたは INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-e オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>

DisplayEventsLogger

PowerExchange ロガーサービス用のコントローラ、コマンドハンドラ、および Writer タスクが待機しているイベントを表示します。また、Writer がデータの処理中であるか、イベントやタイムアウトの発生を待機しているスリープ状態であるかを示します。

infacmd pwx DisplayEventsLogger コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
DisplayEventsLogger
```

```

[<-DomainName|-dn> domain_name]
[<-UserName|-un> user_name]
[<-Password|-pd> password]
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-OSUser|-oun> OS_user_name]
[<-OSPassword|-oup> OS_password]
[<-OSEPassword|-ouep> OS_epassword]

```

以下の表に、infacmd pwx DisplayEventsLogger のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ロッガーサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p>
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-OSUser -oun	OS_user_name	<p>オペレーティングシステムのセキュリティを有効にする場合に必須。オペレーティングシステムのユーザー名。</p> <p>オペレーティングシステムのセキュリティは次のように有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 有効なオペレーティングシステムのユーザー ID とパスワードをコマンドで入力することをユーザーに要求するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の DBMOVER コンフィギュレーションファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 1 または 2 を指定します。PowerExchange は、infacmd pwx プログラムの使用に関するユーザー ID およびパスワードを認証するために、ターゲットシステムのオペレーティングシステム機能を使用します。 - 特定の infacmd pwx コマンドの実行をユーザーに許可するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の PowerExchange サインオンファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 2 を指定し、AUTHGROUP 文と USER 文を定義します。PowerExchange は、サインオンファイルをチェックして、infacmd pwx プログラムに提供されたユーザー ID でコマンドを実行することを許可するかどうかを決定します。

オプション	引数	説明
-OSPassword -oup	OS_password	ユーザー名を指定し、暗号化されたパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムのパスワード。 テキストパスワードは、-p オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-p オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-OSEPassword -ouep	OS_epassword	ユーザー名を指定し、テキストパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムの暗号化されたパスワード。 暗号化されたパスワードは、-e オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-e オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

DisplayMemoryLogger

各 PowerExchange ロガーサービスタスクとサブタスクのメモリ使用量、およびロガーサービスプロセス全体の合計使用量をバイト単位で表示します。

PowerExchange では、以下のカテゴリに対するメモリ使用量が報告されます。

- アプリケーション。ロガーサービスアプリケーションが自身で使用するために要求するメモリ。
- 合計。ロガーサービスアプリケーションと関連するヘッダのオーバーヘッドが使用するメモリの合計。この値は、ロガーサービス処理中の PowerExchange によるメモリの割り当ておよび解放によって変動します。
- 最大。このコマンドの実行時までに合計カテゴリに対して記録された最大メモリ量。

infacmd pwx DisplayMemoryLogger コマンドでは、以下の構文を使用します。

DisplayMemoryLogger

[<-DomainName|-dn> domain_name]

[<-UserName|-un> user_name]

[<-Password|-pd> password]

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-OSUser|-oun> OS_user_name]

[<-OSPassword|-oup> OS_password]

[<-OSEPassword|-ouep> OS_epassword]

以下の表に、infacmd pwx DisplayMemoryLogger のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ロッガーサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-OSUser -oun	OS_user_name	<p>オペレーティングシステムのセキュリティを有効にする場合に必須。オペレーティングシステムのユーザー名。</p> <p>オペレーティングシステムのセキュリティは次のように有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 有効なオペレーティングシステムのユーザー ID とパスワードをコマンドで入力することをユーザーに要求するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の DBMOVER コンフィギュレーションファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 1 または 2 を指定します。PowerExchange は、infacmd pwx プログラムの使用に関するユーザー ID およびパスワードを認証するために、ターゲットシステムのオペレーティングシステム機能を使用します。 - 特定の infacmd pwx コマンドの実行をユーザーに許可するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の PowerExchange サインオンファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 2 を指定し、AUTHGROUP 文と USER 文を定義します。PowerExchange は、サインオンファイルをチェックして、infacmd pwx プログラムに提供されたユーザー ID でコマンドを実行することを許可するかどうかを決定します。
-OSPassword -oup	OS_password	<p>ユーザー名を指定し、暗号化されたパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムのパスワード。</p> <p>テキストパスワードは、-p オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-p オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-OSEPassword -ouep	OS_epassword	<p>ユーザー名を指定し、テキストパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムの暗号化されたパスワード。</p> <p>暗号化されたパスワードは、-e オプションまたは INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-e オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>

DisplayRecordsLogger

PowerExchange ロガーサービスが現在の処理サイクル中に処理した変更レコード数を表示します。ロガーサービスで現在のサイクル中に変更が受信されなかった場合は、現在の一連のロガーサービスのログファイル用の変更レコード数を表示します。

infacmd pwx DisplayRecordsLogger コマンドでは、処理された各タイプの変更レコード数と、処理された合計レコード数を表示します。変更レコードのタイプには、削除、挿入、更新、およびコミットが含まれます。

このコマンドで現在のサイクルと現在のログファイルのどちらの数を表示するかに応じて、出力には、以下のタイプの情報のすべてまたは一部が含まれます。

- サイクル。現在のロッガーサービス処理サイクルの変更レコード数。 pwxcl.cfg ファイルの NO_DATA_WAIT2 パラメータに指定される待機間隔が経過し、変更データが受信されない場合、ロッガーサービスではこの数をゼロにリセットします。
- ファイル。現在の一連の PowerExchange ログファイルの変更レコード数。 ファイルスイッチが発生した場合、ロッガーサービスはこの数をゼロにリセットします。
- 合計。ロッガーサービスで起動後に受信した変更レコードの数。 PowerExchange ではこの数はゼロにリセットされません。

infacmd pwx DisplayRecordsLogger コマンドでは、以下の構文を使用します。

DisplayRecordsLogger

```
[<-DomainName|-dn> domain_name]
[<-UserName|-un> user_name]
[<-Password|-pd> password]
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-OSUser|-oun> OS_user_name]
[<-OSPassword|-oup> OS_password]
[<-OSEPassword|-ouep> OS_epassword]
```

以下の表に、infacmd pwx DisplayRecordsLogger のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザ名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ロッガーサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-OSUser -oun	OS_user_name	<p>オペレーティングシステムのセキュリティを有効にする場合に必須。オペレーティングシステムのユーザー名。</p> <p>オペレーティングシステムのセキュリティは次のように有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 有効なオペレーティングシステムのユーザー ID とパスワードをコマンドで入力することをユーザーに要求するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の DBMOVER コンフィギュレーションファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 1 または 2 を指定します。PowerExchange は、infacmd pwx プログラムの使用に関するユーザー ID およびパスワードを認証するために、ターゲットシステムのオペレーティングシステム機能を使用します。 - 特定の infacmd pwx コマンドの実行をユーザーに許可するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の PowerExchange サインオンファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 2 を指定し、AUTHGROUP 文と USER 文を定義します。PowerExchange は、サインオンファイルをチェックして、infacmd pwx プログラムに提供されたユーザー ID でコマンドを実行することを許可するかどうかを決定します。
-OSPassword -oup	OS_password	<p>ユーザー名を指定し、暗号化されたパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムのパスワード。</p> <p>テキストパスワードは、-p オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-p オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-OSEPassword -ouep	OS_epassword	<p>ユーザー名を指定し、テキストパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムの暗号化されたパスワード。</p> <p>暗号化されたパスワードは、-e オプションまたは INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-e オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>

displayStatsListener

PowerExchange リスナサービスが管理する Linux、UNIX、または Windows 上の PowerExchange リスナの監視統計を表示します。このほか、リスナに関連付けられているクライアントタスクとソース接続またはターゲット接続の統計も表示します。

このコマンドは、指定される-type オプションに基づいて、以下のタイプの統計を表示できます。

- クライアント要求を受けての、メモリの使用状況、CPU 処理時間、アクティビティなどに関する PowerExchange リスナサマリ統計。これらの統計には、クライアントタスクの数、接続の数、送受信されたメッセージの数、送受信されたデータのバイト数などがあります。
- タスク ID とアクセス方式別に示した、クライアント要求のためにクライアントタスクによって送受信されたメッセージとデータの量。メッセージおよびデータ量は、統計が生成された時点での合計です。
- クライアント要求を処理するための、リスナで実行されているアクティブタスクについての情報。これらの統計には、タスクの開始時間、CPU の処理時間、アクセス方式、読み取りまたは書き込みのモード、関連付けられたプロセス、セッション ID などが含まれます。このほか、PowerExchange リスナに対して要求を発行したクライアントのポート番号と IP アドレスも含まれます。

重要: PowerExchange で PowerExchange リスナ監視統計を収集するためには、リスナが実行される DBMOVER 構成ファイルの STATS 文に MONITOR パラメータを指定する必要があります。

infacmd pwx displayStatsListener コマンドは、以下の構文を使用します。

```
displayStatsListener
[<-DomainName|-dn> domain_name]
[<-UserName|-un> user_name]
[<-Password|-pd> password]
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> domain_host1:port domain_host2:port...]
[<-OSUser|-oun> OS_user_name]
[<-OSPassword|-oup> OS_password]
[<-OSEPassword|-ouep> OS_epassword]
[<-Type|-tp> report_type]
```

以下の表に、infacmd pwx displayStatsListener のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザ名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。リスナサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。

オプション	引数	説明
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-OSUser -oun	OS_user_name	<p>オペレーティングシステムのセキュリティを有効にする場合に必須。オペレーティングシステムのユーザー名。</p> <p>オペレーティングシステムのセキュリティは次のように有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 有効なオペレーティングシステムのユーザー ID とパスワードをコマンドで入力することをユーザーに要求するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の DBMOVER コンフィギュレーションファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 1 または 2 を指定します。PowerExchange は、infacmd pwx プログラムの使用に関するユーザー ID およびパスワードを認証するために、ターゲットシステムのオペレーティングシステム機能を使用します。 - 特定の infacmd pwx コマンドの実行をユーザーに許可するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の PowerExchange サインオンファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 2 を指定し、AUTHGROUP 文と USER 文を定義します。PowerExchange は、サインオンファイルをチェックして、infacmd pwx プログラムに提供されたユーザー ID でコマンドを実行することを許可するかどうかを決定します。
-OSPassword -oup	OS_password	<p>ユーザー名を指定し、暗号化されたパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムのパスワード。</p> <p>テキストパスワードは、-p オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-p オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>

オプション	引数	説明
-OSEPassword -ouep	OS_epassword	<p>ユーザー名を指定し、テキストパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムの暗号化されたパスワード。</p> <p>暗号化されたパスワードは、<code>-e</code> オプションまたは <code>INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD</code> 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、<code>-e</code> オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-type -tp	report_type	<p>オプション。PowerExchange リスナとそのクライアントタスクおよび接続について報告する監視統計のタイプ。report_type には、以下の値の 1 つを指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - listener。特定の PowerExchange リスナの場合、メモリの使用状況、CPU 処理時間、クライアントタスクの合計数、アクティブタスク数、ハイウォーターマークタスク数、許容される最大のタスク数、試行された接続の合計数、受け入れられた接続数、アクティブな接続数、送受信したメッセージの数、送受信したデータのバイト数などが報告されます。 - accessmethods。各アクティブタスクのアクセス方式ごとに、読み取りおよび書き込みが行われた行数、読み取りおよび書き込みが行われたデータのバイト数、ソースファイルまたはターゲットファイルの名前またはデータマップファイル名（アクセス方式によって異なる）、CPU 処理時間などが報告されます。 - clients。アクティブタスクごとに、タスク ID、ステータス、アクセス方式、読み取りまたは書き込みモード、プロセス ID とセッション ID（使用できる場合）、CPU 処理時間、開始日および開始時刻などが報告されます。このほか、タスクが作成された要求を発行したクライアントのポート番号と IP アドレスも報告します。クライアントが PowerCenter の場合、PowerCenter セッション ID と、CDC のアプリケーション名が報告されます。 <p>デフォルトは listener です。</p> <p>注: これらのレポートでは、アクセス方式は NRDB などのソースタイプであることもあります。1 つのクライアントタスクが、複数のアクセス方式に関連付けられている可能性があります（ソースデータを読み取るためのアクセス方式と、非リレーショナルデータをリレーショナル形式データにマッピングするためのアクセス方式など）。</p>

DisplayStatusLogger

PowerExchange ロガーサービスの Writer サブタスクのステータスを表示します。

例えば、`infacmd pwx DisplayStatusLogger` コマンドでは、Writer が以下のアクションを完了した場合に報告ができます。

- 初期化
- ソースデータの読み込みまたは待機
- ロガーサービスのログファイルへのソースデータの書き込み
- ファイルスイッチ中の CDCT レコードの書き込み
- 期限切れの CDCT レコードの削除
- シャットダウン

`infacmd pwx DisplayStatusLogger` コマンドでは、以下の構文を使用します。

DisplayStatusLogger

```
[<-DomainName|-dn> domain_name]
[<-UserName|-un> user_name]
[<-Password|-pd> password]
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-OSUser|-oun> OS_user_name]
[<-OSPassword|-oup> OS_password]
[<-OSEPassword|-ouep> OS_epassword]
```

以下の表に、`infacmd pwx DisplayStatusLogger` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザ名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ロッガーサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-OSUser -oun	OS_user_name	<p>オペレーティングシステムのセキュリティを有効にする場合に必須。オペレーティングシステムのユーザー名。</p> <p>オペレーティングシステムのセキュリティは次のように有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 有効なオペレーティングシステムのユーザー ID とパスワードをコマンドで入力することをユーザーに要求するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の DBMOVER コンフィギュレーションファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 1 または 2 を指定します。PowerExchange は、infacmd pwx プログラムの使用に関するユーザー ID およびパスワードを認証するために、ターゲットシステムのオペレーティングシステム機能を使用します。 - 特定の infacmd pwx コマンドの実行をユーザーに許可するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の PowerExchange サインオンファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 2 を指定し、AUTHGROUP 文と USER 文を定義します。PowerExchange は、サインオンファイルをチェックして、infacmd pwx プログラムに提供されたユーザー ID でコマンドを実行することを許可するかどうかを決定します。
-OSPassword -oup	OS_password	<p>ユーザー名を指定し、暗号化されたパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムのパスワード。</p> <p>テキストパスワードは、-p オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-p オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-OSEPassword -ouep	OS_epassword	<p>ユーザー名を指定し、テキストパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムの暗号化されたパスワード。</p> <p>暗号化されたパスワードは、-e オプションまたは INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-e オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>

FileSwitchLogger

PowerExchange ロガーサービス用に開いているログファイルを閉じ、新しいログファイルセットへ切り替えます。開いているログファイルにデータが含まれていない場合は、ファイルスイッチは行われません。

注: 継続抽出モードを使用する場合は、通常、ファイルスイッチを手動で完了する必要はありません。

infacmd pwx FileSwitchLogger コマンドでは、以下の構文を使用します。

FileSwitchLogger

```
[<-DomainName|-dn> domain_name]
[<-UserName|-un> user_name]
[<-Password|-pd> password]
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-OSUser|-oun> OS_user_name]
[<-OSPassword|-oup> OS_password]
[<-OSEPassword|-ouep> OS_epassword]
```

以下の表に、infacmd pwx FileSwitchLogger のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ロッガーサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p>
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-OSUser -oun	OS_user_name	<p>オペレーティングシステムのセキュリティを有効にする場合に必須。オペレーティングシステムのユーザー名。</p> <p>オペレーティングシステムのセキュリティは次のように有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 有効なオペレーティングシステムのユーザー ID とパスワードをコマンドで入力することをユーザーに要求するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の DBMOVER コンフィギュレーションファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 1 または 2 を指定します。PowerExchange は、infacmd pwx プログラムの使用に関するユーザー ID およびパスワードを認証するために、ターゲットシステムのオペレーティングシステム機能を使用します。 - 特定の infacmd pwx コマンドの実行をユーザーに許可するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の PowerExchange サインオンファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 2 を指定し、AUTHGROUP 文と USER 文を定義します。PowerExchange は、サインオンファイルをチェックして、infacmd pwx プログラムに提供されたユーザー ID でコマンドを実行することを許可するかどうかを決定します。

オプション	引数	説明
-OSPassword -oup	OS_password	ユーザー名を指定し、暗号化されたパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムのパスワード。 テキストパスワードは、-p オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-p オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-OSEPassword -ouep	OS_epassword	ユーザー名を指定し、テキストパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムの暗号化されたパスワード。 暗号化されたパスワードは、-e オプションまたは INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-e オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

ListTaskListener

TCP/IP アドレス、ポート番号、アプリケーション名、アクセスタイプ、ステータスを含む、PowerExchange リスナサービスの各アクティブタスクについての情報を表示します。

infacmd pwx ListTaskListener コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListTaskListener
[<-DomainName|-dn> domain_name]
[<-UserName|-un> user_name]
[<-Password|-pd> password]
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-OSUser|-oun> OS_user_name]
[<-OSPassword|-oup> OS_password]
[<-OSEPassword|-ouep> OS_epassword]
```

以下の表に、infacmd pwx ListTaskListener のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。リスナサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-OSUser -oun	OS_user_name	<p>オペレーティングシステムのセキュリティを有効にする場合に必須。オペレーティングシステムのユーザー名。</p> <p>オペレーティングシステムのセキュリティは次のように有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 有効なオペレーティングシステムのユーザー ID とパスワードをコマンドで入力することをユーザーに要求するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の DBMOVER コンフィギュレーションファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 1 または 2 を指定します。PowerExchange は、infacmd pwx プログラムの使用に関するユーザー ID およびパスワードを認証するために、ターゲットシステムのオペレーティングシステム機能を使用します。 - 特定の infacmd pwx コマンドの実行をユーザーに許可するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の PowerExchange サインオンファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 2 を指定し、AUTHGROUP 文と USER 文を定義します。PowerExchange は、サインオンファイルをチェックして、infacmd pwx プログラムに提供されたユーザー ID でコマンドを実行することを許可するかどうかを決定します。
-OSPassword -oup	OS_password	<p>ユーザー名を指定し、暗号化されたパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムのパスワード。</p> <p>テキストパスワードは、-p オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-p オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-OSEPassword -ouep	OS_epassword	<p>ユーザー名を指定し、テキストパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムの暗号化されたパスワード。</p> <p>暗号化されたパスワードは、-e オプションまたは INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-e オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>

ShutDownLogger

PowerExchange ロガーサービスを安全な方法で停止します。ロガーサービスのログファイルを閉じ、最新の再開位置を CDCT ファイルに書き込みます。

このコマンドは、継続モードで実行中の PowerExchange ロガーサービスを停止する場合に使用します。

シャットダウン処理中に、ロッガーサービスは以下のアクションを実行します。

- 開いているログファイルの終了
- 更新された情報（リスタートトークンやシーケンストークンなど）の CDCT ファイルへの書き込み
- CAPI のクローズ
- Writer およびコマンドハンドラサブタスクの停止
- pwxcl プログラムの終了
- CPU の使用状況の報告

infacmd pwx ShutDownLogger コマンドでは、以下の構文を使用します。

ShutDownLogger

```
[<-DomainName|-dn> domain_name]
[<-UserName|-un> user_name]
[<-Password|-pd> password]
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-OSUser|-oun> OS_user_name]
[<-OSPassword|-oup> OS_password]
[<-OSEPassword|-ouep> OS_epassword]
```

以下の表に、infacmd pwx ShutDownLogger のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-ServiceName -sn	service_name	必須。ロッガーサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-OSUser -oun	OS_user_name	オペレーティングシステムのセキュリティを有効にする場合に必須。オペレーティングシステムのユーザー名。 オペレーティングシステムのセキュリティは次のように有効にします。 - 有効なオペレーティングシステムのユーザー ID とパスワードをコマンドで入力することをユーザーに要求するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の DBMOVER コンフィギュレーションファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 1 または 2 を指定します。PowerExchange は、infacmd pwx プログラムの使用に関するユーザー ID およびパスワードを認証するために、ターゲットシステムのオペレーティングシステム機能を使用します。 - 特定の infacmd pwx コマンドの実行をユーザーに許可するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の PowerExchange サインオンファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 2 を指定し、AUTHGROUP 文と USER 文を定義します。PowerExchange は、サインオンファイルをチェックして、infacmd pwx プログラムに提供されたユーザー ID でコマンドを実行することを許可するかどうかを決定します。

オプション	引数	説明
-OSPassword -oup	OS_password	ユーザー名を指定し、暗号化されたパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムのパスワード。 テキストパスワードは、-p オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-p オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-OSEPassword -ouep	OS_epassword	ユーザー名を指定し、テキストパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムの暗号化されたパスワード。 暗号化されたパスワードは、-e オプションまたは INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-e オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

StopTaskListener

指定したアプリケーション名またはタスク ID に基づき、PowerExchange リスナサービスのタスクを停止します。変更データの抽出中は、終了 UOW が検出されるかコミットしきい値に達するまで、infacmd pwx StopTaskListener はタスクの停止を待機します。

infacmd pwx StopTaskListener コマンドでは、以下の構文を使用します。

StopTaskListener

[<-DomainName|-dn> domain_name]

[<-UserName|-un> user_name]

[<-Password|-pd> password]

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-OSUser|-oun> OS_user_name]

[<-OSPassword|-oup> OS_password]

[<-OSEPassword|-ouep> OS_epassword]

[<-applicationid|-a> appname]

[<-taskid|-t> taskid]

以下の表に、infacmd pwx StopTaskListener のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できません。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。リスナサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-OSUser -oun	OS_user_name	<p>オペレーティングシステムのセキュリティを有効にする場合に必須。オペレーティングシステムのユーザー名。</p> <p>オペレーティングシステムのセキュリティは次のように有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 有効なオペレーティングシステムのユーザー ID とパスワードをコマンドで入力することをユーザーに要求するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の DBMOVER コンフィギュレーションファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 1 または 2 を指定します。PowerExchange は、infacmd pwx プログラムの使用に関するユーザー ID およびパスワードを認証するために、ターゲットシステムのオペレーティングシステム機能を使用します。 - 特定の infacmd pwx コマンドの実行をユーザーに許可するには、コマンドのターゲットとなる各 Linux、UNIX、または Windows システム上の PowerExchange サインオンファイル内にある SECURITY 文の最初のパラメータに 2 を指定し、AUTHGROUP 文と USER 文を定義します。PowerExchange は、サインオンファイルをチェックして、infacmd pwx プログラムに提供されたユーザー ID でコマンドを実行することを許可するかどうかを決定します。
-OSPassword -oup	OS_password	<p>ユーザー名を指定し、暗号化されたパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムのパスワード。</p> <p>テキストパスワードは、-p オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-p オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-OSEPassword -ouep	OS_epassword	<p>ユーザー名を指定し、テキストパスワードを指定しない場合に必須。オペレーティングシステムの暗号化されたパスワード。</p> <p>暗号化されたパスワードは、-e オプションまたは INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD 環境変数を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-e オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-applicationid -a	appname	<p>-taskid を指定しない場合に必須。</p> <p>アプリケーション名。停止するアクティブな抽出プロセスの名前。infacmd pwx listtaskListener コマンドで出力される PWX-00712 メッセージにこの名前が表示されます。</p>
-taskid -t	taskid	<p>-application を指定しない場合に必須。</p> <p>リスナサービスのタスク ID。停止するリスナサービスタスクの数値識別子。</p> <p>ヒント: アクティブなタスクの名前を特定するには、infacmd pwx listtaskListener コマンドを発行します。コマンドの出力で、PWX-00712 メッセージ内の名前の値にタスク ID が示されます。</p>

UpgradeModels

PowerExchange 9.0.1 非リレーショナルデータオブジェクトをアップグレードします。データオブジェクトは、使用する前にアップグレードする必要があります。

このコマンドは、まず接続名で、次にスキーマ名とマップ名でソートして、アップグレードの結果を表示します。初回実行時にアップグレードされなかったオブジェクトがある場合、UpgradeModels コマンドを何回でも実行できます。

このコマンドは、非リレーショナルデータがインポートされたときに、データマップがデータマップに定義された非リレーショナル操作と一致しているかどうかを検証します。矛盾がある場合、非リレーショナル操作は削除され、データマップと一致するように再作成されます。影響を受けたマッピングまたはマップレットがある場合は、再作成された非リレーショナル操作を使用するように変更する必要があります。

infacmd pwx UpgradeModels コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpgradeModels

[<-DomainName|-dn> domain_name]

[<-UserName|-un> user_name]

[<-Password|-pd> password]

<-MrsServiceName|-msn> mrs_service_name

<-ConnectionName|-cn> connection_name

<-DataObjectSchemaName|ds> data_object_schema_name

<-DataObjectName|do> data_object_name

<-Preview|pr> preview

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-ServiceName|-sn> service_name]

以下の表に、infacmd pwx UpgradeModels のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザ名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-MrsServiceName -msn	mrs_service_name	必須。モデルリポジトリサービスの名前。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前は 230 文字以内で、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰文字や、タブ、以下の文字を含むことはできません。 / * ? < > "
-ConnectionName -cn	connection_name	必須。アップグレードする非リレーショナルデータオブジェクトを含む接続の名前。すべての接続、または同じパターンで始まるすべての接続を指定するには、ワイルドカード文字のアスタリスク (*) を二重引用符で囲んで使用します (例: "*" または ABC"*")。
-DataObjectSchemaName -ds	data_object_schema_name	必須。アップグレードする非リレーショナルデータオブジェクトのデータマップを含むスキーマの名前。すべてのスキーマまたは同じパターンで始まるすべてのスキーマを指定するには、ワイルドカード文字のアスタリスク (*) を二重引用符で囲んで使用します (例: "*" または ABC"*")。
-DataObjectName -do	data_object_name	必須。アップグレードする非リレーショナルデータオブジェクトのデータマップの名前。すべてのデータマップまたは同じパターンで始まるすべてのデータマップを指定するには、ワイルドカード文字のアスタリスク (*) を二重引用符で囲んで使用します (例: "*" または ABC"*")。
-Preview -pr	プレビュー	必須。Y を指定すると、コミットせずにアップグレード結果をプレビューできます。N を指定すると、オブジェクトがアップグレードされます。コマンドが正常に実行されるかどうかを検証するには、実際のアップグレードを実行する前に、Preview を Y に設定して UpgradeModels コマンドを実行します。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	オプション。リスナサービスの名前。 このコマンドは、まず接続名を使用して、指定されたデータマップを取得します。取得に失敗すると、リスナサービス名を使用してデータマップを取得します。 名前では大文字小文字を区別しません。名前は 128 文字以内で、復帰文字や、タブ、スペース、以下の文字を含むことはできません。 / * ? < > "

UpdateListenerService

PowerExchange リスナサービスのプロパティを更新します。

infacmd pwx UpdateListenerService コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateListenerService

[<-DomainName|-dn> domain_name]

[<-UserName|-un> user_name]

[<-Password|-pd> password]

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-LicenseName|-ln> license_name]

[<-NodeName|-nn> node_name]

[<-BackupNode|-bn> backup_node]

[<-StartParameters|-sp> start_parameters>]

[<-SvcPort|-sp> service_port]

以下の表に、infacmd pwx UpdateListenerService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されません。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。

オプション	引数	説明
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。リスナサービスの名前。
-LicenseName -ln	license_name	オプション。サービスに割り当てられるライセンス。事前に指定されていない場合には、サービスを有効にする前に必要です。
-NodeName -nn	node_name	必須。リスナサービスを実行するノードの名前。
-BackupNode -bn	backup_node	オプション。PowerCenter 環境が高可用性の設定になっている場合、このオプションにより、バックアップノードの名前を指定できます。

オプション	引数	説明
-StartParameters -sp	start_parameters	<p>オプション。リスナサービスを開始するときに含まれるパラメータ。パラメータはスペース文字で区切ります。</p> <p>以下のパラメータを含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - <i>node_name</i> リスナサービスを特定するノード名。このノード名は、DBMOVER コンフィギュレーションファイル内の LISTENER 文のノード名と一致している必要があります。 - <i>config=directory</i> デフォルトの dbmover.cfg ファイルの代わりに使用する dbmover.cfg 構成ファイルのフルパスとファイル名を指定します。この代替の構成ファイルは、PWX_CONFIG 環境変数で指定した他の代替の構成ファイルよりも優先されます。 - <i>license=directory/license_key_file</i> デフォルトの license.key ファイルの代わりに使用するライセンスキーファイルのフルパスとファイル名を指定します。この代替のライセンスキーファイルのファイル名またはパスは、デフォルトファイルのファイル名またはパスと異なっている必要があります。この代替のライセンスキーファイルは、PWX_LICENSE 環境変数で指定した他の代替のライセンスキーファイルよりも優先されます。 <p>注: インストールディレクトリ内にファイルが存在しない場合にのみ、<i>config</i> および <i>license</i> パラメータにフルパスを指定する必要があります。スペースを含むパスとファイル名の前後の引用符を含みます。</p>
-SvcPort -sp	service_port	<p>オプション。リスナサービスがサービスマネージャからのコマンドをリスンするポート。</p>

UpdateLoggerService

PowerExchange ロガーサービスのプロパティを更新します。

infacmd pwx UpdateLoggerService コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateLoggerService

[<-DomainName|-dn> domain_name]

[<-UserName|-un> user_name]

```

[<-Password|-pd> password]
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ServiceName|-sn> service_name
<-NodeName|-nn> node_name
[<-LicenseName|-ln> license_name]
[<-BackupNode|-bn> backup_node]
[<-StartParameters|-sp> start_parameters]
[<-SvcPort|-sp> service_port]

```

以下の表に、`infacmd pwx UpdateLoggerService` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ロッガーサービスの名前。
-NodeName -nn	node_name	必須。ロッガーサービスを実行するノードの名前。
-LicenseName -ln	license_name	サービスに割り当てられるライセンス。事前に指定されていない場合には、サービスを有効にする前に必要です。
-BackupNode -bn	backup_node	オプション。PowerCenter 環境が高可用性の設定になっている場合、このオプションにより、バックアップノードの名前を指定できます。

オプション	引数	説明
-StartParameters -sp	start_parameters	<p>オプション。ロッガーサービスを開始するときに含まれるパラメータ。パラメータはスペース文字で区切りません。</p> <p>以下のパラメータを含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - coldstart={Y N} <p>ロッガーサービスでコールドスタートとウォームスタートのどちらを実行するかを示します。ロッガーサービスをコールドスタートするには、「Y」を入力します。CDCT ファイルにログレコードが含まれる場合、ロッガーサービスによりこれらのレコードが削除されます。CDCT ファイル内に示されている再開ポイントからロッガーサービスをウォームスタートするには、「N」を入力します。</p> <p>デフォルトは N です。</p> <ul style="list-style-type: none"> - config=<i>directory/pwx_config_file</i> <p>デフォルトの dbmover.cfg ファイルの代わりに使用する dbmover.cfg 構成ファイルのフルパスとファイル名を指定します。この代替の構成ファイルは、PWX_CONFIG 環境変数で指定した他の代替の構成ファイルよりも優先されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - cs=<i>directory/pwxlogger_config_file</i> <p>ロッガーサービスの構成ファイルのパスとファイル名を指定します。cs パラメータを使用して、デフォルトの pwxcl.cfg ファイルをオーバーライドする、ロッガーサービスの構成ファイルを指定することもできます。このオーバーライドファイルのパスまたはファイル名は、デフォルトファイルのパスまたはファイル名と異なっている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - encryptpwd=<i>encrypted_password</i> <p>PowerExchange ロggerのログファイルの暗号化を有効にするための暗号化形式のパスワード。このパスワードを使用すると、PowerExchange ロggerは各ロッガーログファイルに一意的暗号化キーを生成できます。このパスワードは、CDCT ファイルに暗号化形式で保存されます。セキュリティ上の理由により、パスワードは CDCT バックアップファイルに保存されず、PowerExchange PWXUCDCT ユーティリティを使用して生成できる CDCT レポートに表示されません。</p> <p>このパラメータを指定する場合は、coldstart=Y も指定する必要があります。</p> <p>このパラメータを指定し、PowerExchange ロgger構成ファイル pwxcl.cfg で ENCRYPTPWD パラメータも指定した場合は、構成ファイルのパラメータが優先されます。このパラメータを指定し、PowerExchange ロgger構成ファイルで ENCRYPTPWD パラメータも指定するとエラーが発生します。</p> <p>pwxcl.cfg ファイルの ENCRYPTOPT パラメータで、ログファイル暗号化に AES アルゴリズムを使用するように設定できます。デフォルトは AES128 です。</p> <p>ヒント: セキュリティを最適化するために、暗号化パスワードを pwxcl.cfg 構成ファイルに指定するのではなく、PowerExchange ロggerのコールドスタート時に指定することをお勧めします。このようにする</p>

オプション	引数	説明
		<p>と、以下の理由により、暗号化パスワードへの悪意あるアクセスのリスクを軽減できます。1) 暗号化パスワードが pwxcccl.cfg ファイルに保存されない。2) コールドスタートが正常に実行された後でコマンドラインからパスワードを削除できる。コールドスタートの暗号化パスワードを指定してから、後で CDCT ファイルをリストアする必要がある場合は、PWXCDCCT ユーティリティの RESTORE_CDCT コマンドに同じ暗号化パスワードを入力する必要があります。</p> <p>PowerExchange ロgger ログファイルを暗号化しない場合は、暗号化パスワードを入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - license=<i>directory/license_key_file</i> デフォルトの license.key ファイルの代わりに使用するライセンスキーファイルのフルパスとファイル名を指定します。この代替のライセンスキーファイルのファイル名またはパスは、デフォルトファイルのファイル名またはパスと異なっている必要があります。この代替のライセンスキーファイルは、PWXC_LICENSE 環境変数で指定した他の代替のライセンスキーファイルよりも優先されます。 - specialstart={Y N} PowerExchange ロgger の特殊スタートを実行するかどうかを指定します。特殊スタートは、pwxcccl.cfg ファイルで指定した変更ストリームのポイントから PowerExchange のキャプチャ処理を開始します。この開始ポイントは、PowerExchange ロgger の実行で CDCT ファイルによる再起動ポイントより優先されます。特殊スタートによって CDCT ファイルの中身が削除されることはありません。 このパラメータを使用すると、キャプチャデータを失うことなくソースログの中の問題のある部分を飛ばして先に進みます。例えば、次のような状況で特殊スタートを使用します。 - PowerExchange ロgger に Oracle カタログのアップグレードをキャプチャされると困る場合があるとします。この場合、アップグレードする前に PowerExchange ロgger を停止します。アップグレードが完了した後、アップグレード後の SCN に基づいて、新しいシーケンスを生成し、PowerExchange ロgger のトークンをリスタートします。これらトークンの値を pwxcccl.cfg の中の SEQUENCE_TOKEN パラメータおよび RESTART_TOKEN パラメータを入力してから、PowerExchange ロgger を特殊スタートします。 - 次に、CDC には関係のない UOW が相当数あり、そのことによって発生した古い、使用できないログを PowerExchange ロgger が再処理すると困る場合を考えます。この場合、PowerExchange ロgger を停止してください。RESTART_TOKEN の値を、最も古い利用可能なログの SCN を反映するように編集し、それから特殊スタートを実行します。相当数の UOW のうち、このリスタート点より前に始まっていたものが CDC に関係があれば、データ損失が起きる可能性があります。

オプション	引数	説明
		<p>有効な値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Y。PowerExchange ロggerの特殊スタートを変更ストリームのポイント（pwxcl.cfg 構成ファイルの SEQUENCE_TOKEN パラメータ値と RESTART_TOKEN パラメータ値で定義される）から実行します。特殊スタートを実行するには、pwxcl.cfg ファイルに有効なトークンの値を指定する必要があります。このトークンの値は、CDCT ファイルのトークン値より優先されます。pwxcl.cfg の SEQUENCE_TOKEN 値が CDCT ファイルの現在のシーケントークン値以上になっていることを確認します。 また、coldstart=Y パラメータを指定しないでください。その場合は、coldstart=Y パラメータが優先されます。 - N。特殊スタートを実行しません。coldstart パラメータで指定されたとおりに、コールドスタートまたはウォームスタートを実行します。 <p>デフォルトは N です。</p> <p>注: インストールディレクトリ内にファイルが存在しない場合にのみ、config、cs、および license パラメータにフルパスを指定する必要があります。スペースを含むパスとファイル名の前後の引用符を含みます。</p>
-SvcPort -sp	service_port	<p>ロggerサービスがサービスマネージャからのコマンドをリスンするポート。</p>

第 19 章

infacmd rms コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [ListComputeNodeAttributes, 753](#) ページ
- [ListServiceOptions, 755](#) ページ
- [SetComputeNodeAttributes, 756](#) ページ
- [UpdateServiceOptions, 758](#) ページ

ListComputeNodeAttributes

指定されたノードまたはすべてのノードについて、上書きされた計算ノード属性を一覧表示します。計算ノード属性を上書きするには、infacmd rms SetComputeNodeAttributes コマンドを使用します。

この属性のデフォルト値は、マシンで使用可能な実際のコア数とメモリ容量です。infacmd rms ListComputeNodeAttributes コマンドによって属性値が一覧表示されない場合、リソースマネージャサービスはデフォルト値を使用しています。

infacmd rms ListComputeNodeAttributes コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListComputeNodeAttributes
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-NodeName|-nn> node_name]
[<-ServiceName|-sn> service_name]
```

次の表に、`infacmd rms ListComputeNodeAttributes` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、 <code>-dn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、 <code>-dn</code> オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、 <code>-sdn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、 <code>-sdn</code> オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、 <code>-un</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、 <code>-un</code> オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、 <code>-pd</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、 <code>-pd</code> オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-NodeName -nn	node_name	オプション。属性を一覧表示する計算ノードの名前。 このオプションを省略した場合は、ドメイン内のすべての計算ノードの属性セットが一覧表示されます。
-ServiceName -sn	service_name	オプション。Resource_Manager_Service を入力します。

ListServiceOptions

リソースマネージャサービスのプロパティを一覧表示します。

infacmd as ListServiceOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-ServiceName|-sn> service_name]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd rms ListServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	オプション。Resource_Manager_Service を入力します。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

SetComputeNodeAttributes

指定したノードの計算ノード属性をオーバーライドします。

この属性のデフォルト値は、マシンで使用可能な実際のコア数とメモリ容量です。このオプションをデフォルト値にリセットするには、値として-1を指定します。

infacmd rms SetComputeNodeAttributes コマンドでは、以下の構文を使用します。

SetComputeNodeAttributes

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-NodeName|-nn> node_name

[<-MaxCores|-mc> max_number_of_cores_to_allocate]

[<-MaxMem|-mm> max_memory_in_mb_to_allocate]

[<-ServiceName|-sn> service_name]

次の表に、infacmd rms SetComputeNodeAttributes のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-NodeName -nn	node_name	必須。属性を設定する計算ノードの名前。

オプション	引数	説明
-MaxCores -mc	max_number_of_cores_to_allocate	オプション。リソースマネージャサービスが計算ノードで実行されるジョブに割り当てることができる最大コア数。コンテナを初期化してDTM プロセスを開始するには、計算ノードに少なくとも5つの使用可能なコアが必要です。グリッドに割り当てられたいずれかの計算ノードのコア数が5個未満の場合は、その数がコンテナを初期化するために必要な最小コア数として使用されます。 最大コア数は、デフォルトでは、マシンで使用可能な実コア数になります。
-MaxMem -mm	max_memory_in_mb_to_allocate	オプション。リソースマネージャサービスが計算ノードで実行されるジョブに割り当てることができる最大メモリ (MB)。コンテナを初期化してDTM プロセスを開始するには、計算ノードに少なくとも2.5GBのメモリが必要です。 最大メモリ容量は、デフォルトでは、マシンで使用可能な実メモリ容量になります。
-ServiceName -sn	service_name	オプション。Resource_Manager_Service を入力します。

UpdateServiceOptions

リソースマネージャサービスのプロパティを更新します。このコマンドを実行して、リソースマネージャサービスのプライマリノードとバックアップノードを設定します。

サービスの実行中にプロパティを変更できますが、変更したプロパティを有効にするにはサービスをリサイクルする必要があります。

infacmd rms UpdateServiceOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-ServiceName|-sn> service_name]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-Options|-o> options]

[<-NodeName|-nn> primary_node_name]

[<-BackupNodes|-bn> backup_node_name1,backup_node_name2,...]

次の表に、infacmd rms UpdateServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	オプション。Resource_Manager_Service を入力します。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
-Options -o	options	オプション。各オプションはスペースで区切って入力します。
-NodeName -nn	primary_node_name	オプション。リソースマネージャサービスを実行するプライマリノード。
-BackupNodes -bn	backup_node_name1,b ackup_node_name2,...	オプション。プライマリノードが使用できない場合にサービスを実行できるノード。

リソースマネージャサービスのオプション

リソースマネージャサービスのオプションは、`infacmd rms UpdateServiceOptions` コマンドで使用します。

リソースマネージャサービスのオプションを以下の形式で入力します。

```
... -o option_type.option_name=value
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、リソースマネージャサービスのオプションを示します。

オプション	説明
ResourceManagerServiceOptions.Log_Level	リソースマネージャサービスによってサービスログに書き込まれるエラーメッセージのレベル。重大、エラー、警告、情報、トレース、またはデバッグのいずれかのメッセージレベルを選択します。

第 20 章

infacmd rtm コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [DeployImport, 761](#) ページ
- [Export, 763](#) ページ
- [Import, 765](#) ページ

DeployImport

アプリケーションファイルからモデルリポジトリが読み取るデータベースにコンテンツをインポートします。

infacmd rtm DeployImport コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
DeployImport
<-DomainName|-dn> Domain name
<-UserName|-un> User name
<-Password|-pd> Password
<-securityDomain|-sdn> Security domain
[<-Gateway|-hp> Domain gateway host:port]
[<-NodeName|-nn> Node name]
<-DataIntegrationService|-ds> Data Integration Service name
<-CodePage|-cp> Code page
<-Folder|-f> The folder to import from
<-MetadataFile|-mf> Metadata file
```

以下の表に、infacmd rtm DeployImport のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	ドメイン名	必須。Informatica ドメインの名前。 ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	ユーザー名	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-securityDomain -sdn	セキュリティドメイン	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	ドメインゲートウェイホスト:ポート	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号を入力します。以下の構文を使用します。 gateway_hostname:HttpPort
-NodeName -nn	ノード名	オプション。モデルリポジトリサービスのゲートウェイノードの名前。
-DataIntegrationService -ds	データ統合サービスの名前	必須。データ統合サービスの名前。

オプション	引数	説明
-CodePage -cp	コードページ	必須。参照データをインポートするためのコードページ。
-Folder -f	インポート元フォルダ	必須。インポートするファイルを含むフォルダへのパス。フォルダを格納するマシンで DeployImport コマンドを実行します。folder オプションは、コマンドを実行するマシンのパスを表します。
-MetadataFile -mf	メタデータファイル	必須。コマンドを適用するアプリケーションファイルのフルネームとパスです。

Export

参照テーブルからデータをエクスポートします。参照テーブルオブジェクトをエクスポートすることも、参照テーブルデータだけをエクスポートすることもできます。管理された参照テーブルのデータをエクスポートすることも、管理されていない参照テーブルのデータをエクスポートすることもできます。

次のいずれかのオプションを使用してエクスポートデータを定義します。

- ProjectFolder。エクスポートするプロジェクトまたはフォルダの名前。
- MetadataFile。エクスポートする参照テーブルを参照する metadata.xml ファイルの名前。
- ObjectList。エクスポートするオブジェクトのリストを含むテキストファイルへのフルパス。

オブジェクトリストを設定する際に、次の構文を使用して、オブジェクトのリストを含むテキストファイルを作成します。

```
ProjectName/FolderName/reference_table_object1
ProjectName/FolderName/reference_table_object2
ProjectName/FolderName/reference_table_object3
```

注: オブジェクトリスト内の各パスは、スラッシュを使って設定する必要があります。このパスには、バックスラッシュは使用できません。

infacmd rtm Export コマンドでは、以下の構文を使用します。

Export

<-DomainName|-dn> Domain name

<-UserName|-un> User name

<-Password|-pd> Password

<-SecurityDomain|-sdn> Security domain

[<-Gateway|-hp> Domain gateway host:port]

[<-NodeName|-nn> Node name]

<-RepositoryService|-rs> Model Repository Service name

<-CodePage|-cp> Code Page

<-Folder|-f> The folder to export to

[<-ObjectList|-ol> List of Objects to export]

[<-ProjectFolder|-pf> Name of the project folder to export]

[<-metadataFile|-mf> Metadata file]

[<-Recursive|-r> Include subfolders when exporting project folder]

[<-SkipDatGeneration|-sdg> Skip Data Generation]

以下の表に、infacmd rtm Export のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	ドメイン名	必須。Informatica ドメインの名前。 ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	ユーザー名	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	セキュリティドメイン	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	ドメインゲートウェイホスト名:ポート番号	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号を入力します。以下の構文を使用します。 gateway_hostname:HttpPort

オプション	引数	説明
-NodeName -nn	ノード名	オプション。モデルリポジトリサービスのゲートウェイノードの名前。
-RepositoryService -rs	モデルリポジトリサービス名	モデルリポジトリサービス名。
-CodePage -cp	コードページ	必須。参照データのコードページ。
-Folder -f	エクスポート先フォルダ	必須。エクスポートファイルのターゲット場所。
-ObjectList -ol	エクスポートするオブジェクトのリスト	参照テーブルオブジェクトのリストを含む完全修飾ファイル名。 ProjectFolder オプションまたは metadataFile オプションと一緒にこのオプションを設定しないでください。
-ProjectFolder -pf	エクスポートするプロジェクトフォルダの名前。	エクスポートするプロジェクトおよびフォルダの名前。以下の構文を使用します。 ProjectName/FolderName MetadataFile オプションまたは ObjectList オプションと一緒に設定しないでください。
-metadataFile -mf	メタデータファイル	オブジェクトエクスポートの場合に必須。コマンドを適用する metadata.xml ファイルのフルパスと名前です。metadata.xml ファイルに含まれるすべての参照テーブルをエクスポートします。 ProjectFolder オプションまたは ObjectList オプションと一緒にこのオプションを設定しないでください。
-Recursive -r	プロジェクトフォルダをエクスポートする際に、サブフォルダを含める	オプション。ProjectFolder オプションと一緒に使用します。複数のレベルのオブジェクトをエクスポートします。デフォルトは再帰的ではありません。
-SkipDatGeneration -sdg	データの生成をスキップ	オプション。参照テーブル構造を示す .dat ファイルをフォルダプロパティ内のディレクトリセットに書き込みます。参照テーブルのインポートプロセスでは、このファイルは使用されません。デフォルトは False です。

Import

オブジェクトエクスポートファイルからのメタデータおよびデータのインポートを実行します。参照テーブルメタデータをモデルリポジトリにインポートし、データを参照データデータベースにインポートします。また、メタデータなしで参照データをインポートします。

参照テーブルデータをインポートするためには、プロジェクトがモデルリポジトリ上に存在している必要があります。

infacmd rtm Import コマンドでは、以下の構文を使用します。

Import

```

<-DomainName|-dn> Domain name
<-UserName|-un> User name
<-Password|-pd> Password
<-securityDomain|-sdn> Security domain
[<-Gateway|-hp> Domain gateway host:port]
[<-NodeName|-nn> Node name]
<-RepositoryService|-rs> Model Repository Service name
<-CodePage|-cp> Code page
<-ConflictResolution|-cr> Conflict resolution
<-ImportType|-it> Import type
<-Folder|-f> The folder to import from
[<-FileName|-fn> Required only for importing a single dictionary]
[<-MetadataFile|-mf> Required only for Object import]
[<-ProjectFolder|-pf> Name of the project folder to import into]
[<-NotRecursive|-nr> Don't include subfolders]

```

以下の表に、infacmd rtm Import のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	ドメイン名	必須。Informatica ドメインの名前。 ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方 の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優 先されます。
-UserName -un	ユーザー名	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されて いる場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユー ザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。 両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプション が優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。 シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場 合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を 設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せず に実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパ スワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別され ます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定で きます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オ プションを使用して設定されたパスワードが優先されま す。

オプション	引数	説明
-securityDomain -sdn	セキュリティ ドメイン	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレلمと同じです。
-Gateway -hp	ドメインゲート ウェイホス ト:ポート	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名とポート番号。以下の構文を使用します。 gateway_hostname:HttpPort
-NodeName -nn	ノード名	オプション。モデルリポジトリサービスのゲートウェイノードの名前。
-RepositoryService -rs	モデルリポジ トリサービ ス名	必須。モデルリポジトリサービス名。
-CodePage -cp	コードページ	必須。参照データのコードページ。
-ConflictResolution -cr	競合の解決	必須。名前の競合が発生したときの動作を定義します。以下のいずれかの引数を入力します。 - Replace. データベースから既存の参照テーブルを削除して、新しい参照テーブルを作成します。 - Rename. 異なる名前でも新しい参照テーブルを作成します。 - スキップ。参照テーブルをインポートしません。
-ImportType -it	インポートタ イプ	必須。インポートするコンテンツのタイプ。メタデータおよびデータのインポートには「MetadataAndData」と入力します。
-Folder -f	インポート元 フォルダ	メタデータおよびデータのインポートの場合に必須。インポートする参照データファイルを含むフォルダへのフルパス。
-FileName -fn	1つのディク ショナリをイン ポートする場 合のみ必須	単一ファイルからデータをインポートする場合、メタデータおよびデータのインポートに必須。インポートする参照データを含むファイルの名前。ファイル名はフォルダパスに対して相対的に指定します。

オプション	引数	説明
-MetadataFile -mf	オブジェクトをインポートする場合のみ必須	参照データの値のみをインポートする場合に必須。コマンドを適用する metadata.xml ファイルのフルパスと名前です。metadata.xml ファイルには、参照データ値に関連付けられているメタデータが含まれます。ProjectFolder オプションと一緒に使用しないでください。
-ProjectFolder -pf	インポート先のプロジェクトフォルダの名前。	参照データおよびメタデータをインポートする場合に必須。インポート先のモデルリポジトリプロジェクトの名前。MetadataFile オプションと一緒に使用しないでください。
-NotRecursive -nr	- サブフォルダは含めない	オプション。メタデータおよびデータのインポートで使用します。1つのレベルのオブジェクトのみをインポートします。デフォルトは再帰的です。

第 21 章

infacmd sch コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [CreateSchedule, 769](#) ページ
- [DeleteSchedule, 772](#) ページ
- [ListSchedule, 774](#) ページ
- [ListServiceOptions, 776](#) ページ
- [ListServiceProcessOptions, 778](#) ページ
- [PauseAll, 780](#) ページ
- [PauseSchedule, 781](#) ページ
- [ResumeAll, 783](#) ページ
- [ResumeSchedule, 784](#) ページ
- [UpdateSchedule, 786](#) ページ
- [UpdateServiceOptions, 789](#) ページ
- [UpdateServiceProcessOptions, 792](#) ページ
- [アップグレード, 796](#) ページ

CreateSchedule

データ統合サービスが実行するデプロイ済みのマッピングまたはワークフローのスケジュールを作成します。

infacmd sch CreateSchedule コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
CreateSchedule
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
```

```

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ScheduleName|-scn> schedule_name

[<-ScheduleDescription|-scd> schedule_description]

<-Recurrence|-r> once|daily|weekly|monthly

<-StartTime|-st> yyyy-MM-dd HH:mm

[<-EndTime|-et> yyyy-MM-dd HH:mm]

[<StartTimeTimeZone|-stz> start_time_timezone]

[<-EndTimeTimeZone|-etz> end_time_time_zone]

[<-DailyRunEvery|-dre> daily_run_every]

[<-RunDaysOfWeek|-rdw> mon|tue|wed|thu|fri|sat|sun]

[<-RunDayOfWeekMonth|-rdwm> monday|tuesday|wednesday|thursday|friday|saturday|sunday]

[<-RunDayOfMonth|-rdm> 1-30|LAST_DAY_OF_MONTH]

[<-RepeatCount|-rc> repeat_count]

[<-RunnableObjects|-ro> runnable_objects]

[<-Status|-ss> SCHEDULED|SUSPENDED]

[<-RunNow|-rn> true|false]

```

引数に複数の値を設定するには、値をカンマで区切ります。

以下の表に、infacmd sch CreateSchedule のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は、ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサーバーの場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定する使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_PASSWORD の方法でパスワードを設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブ認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストールされたセキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に

オプション	引数	説明
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必須のホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒
-ScheduleName -scn	schedule_name	必須。スケジュール名。スケジュール名では、大文字と小文字が区別
-Description -scd	schedule_description	オプション。スケジュールの説明。
-Recurrence -r	once daily weekly monthly	必須。スケジュールを 1 回のみ実行するか、繰り返し実行するかを指
-StartTime -st	yyyy-MM-dd HH:mm	必須。繰り返しの開始日時。
-EndTime -et	yyyy-MM-dd HH:mm	オプション。繰り返しの終了日時。
-StartTimeTimeZone -stz	start_time_timezone	オプション。スケジューラサービスがオブジェクトを実行するときに GMT+00:00 です。タイムゾーンは次の形式で設定します。 GMT (+) hh:mm
-EndTimeTimeZone -etz	end_time_time_zone	オプション。スケジューラサービスがオブジェクトを実行するときに GMT+00:00 です。タイムゾーンは次の形式で設定します。 GMT (+) hh:mm
-DailyRunEvery -dre	daily_run_every	オプション。スケジュールを一定の間隔で実行します。 以下に、設定可能なオプションを示します。 - 分。毎日 n 分ごとにスケジュールを実行します。 - 時間。毎日 n 時間ごとにスケジュールを実行します。 - 日。n 日ごとにスケジュールを実行します。 - 週。n 週間ごとにスケジュールを実行します。 - 月。n か月ごとにスケジュールを実行します。 - 年。n 年ごとにスケジュールを実行します。 - FIRST. 毎月第 1n 曜日にスケジュールを実行します。曜日を指定す - SECOND. 毎月第 2n 曜日にスケジュールを実行します。曜日を指定す - THIRD. 毎月第 3n 曜日にスケジュールを実行します。曜日を指定す - FOURTH. 毎月第 4n 曜日にスケジュールを実行します。曜日を指定す - LAST. 毎月最終 n 曜日にスケジュールを実行します。曜日を指定す
-RunDaysOfWeek -rdw	mon tue wed thu fri sat sun	オプション。特定の曜日にスケジュールを実行します。

オプション	引数	説明
- RunDayOfWeekMonth -rdwm	monday tuesday wednesday thursday friday saturday sunday	オプション。毎月、週の特定期日にスケジュールを実行します。毎月 にスケジュールを実行するには、-dre オプションを使用します。
-RunDayOfMonth -rdm	1-30 LAST_DAY_OF_MONTH	オプション。毎月 n 日にスケジュールを実行します。
-RepeatCount -rc	repeat_count	オプション。日付ではなく実行カウントが一定数に達したときに繰り返
-RunnableObjects -ro	runnableObjects	オプション。スケジュール対象のオブジェクト。オブジェクトタイプ オブジェクトのパスを入力します。例: "mapping:DIS_1234/Application_mapping/Mapping_abc" 必要に応じて、以下の引数を使用して、オブジェクトのパラメータフ 行ユーザー名を設定します。 - parameterFilePath=PATH_TO_PARAMETER_FILE - parameterSet=PARAMETER_SET_NAME - runAsUser=USER_NAME&runAsUserSecurityDomain=SECURITY_DO 例: "workflow:DIS_1234/Application_workflow/Workflow_abc?parameterFilePath Parameter.xml&runAsUser=Administrator&runAsUserSecurityDomain=Native&
-Status -ss	SCHEDULED PAUSED	オプション。スケジュールをスケジュール済みまたは一時停止の状態
-RunNow -rn	true false	スケジュールの即時実行。

DeleteSchedule

スケジューラサービスが管理している 1 つ以上のスケジュールを削除します。

infacmd sch DeleteSchedule コマンドでは、以下の構文を使用します。

```

DeleteSchedule
<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ScheduleName|-scn> schedule_name

```

以下の表に、infacmd sch DeleteSchedule のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ScheduleName -scn	schedule_name	削除するスケジュールの名前。

ListSchedule

スケジューラサービスが管理しているスケジュールまたはスケジュール済みオブジェクトを一覧表示します。このコマンドは、入力されたすべてのオプションを満たすスケジュールまたはスケジュール済みオブジェクトを返します。

infacmd sch ListSchedule コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListSchedule
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-ScheduleName|-scn> schedule_name]
[<-Description|-scd> description]
[<-RunnableObjects|-ro> runnable_objects]
[<-ScheduleStatus|-ss> created|scheduled|paused|complete]
[<-NumberOfFireTimes|-n> number_of_fire_times]
[<-MaxResults|-m> max_results]
```

以下の表に、infacmd isp ListSchedule のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

オプション	引数	説明
ScheduleName -scn	schedule_name	オプション。名前が n のスケジュールを返します。
説明 -scd	description	オプション。説明 n を持つスケジュールを返します。
RunnableObjects -ro	runnableObjects	オプション。オブジェクトを実行するスケジュールを一覧表示します。データ統合サービスにオブジェクトタイプおよびパスを次の形式で入力します。 '{mapping workflow}://dis_name/app_name/obj_name' 以下に例を示します。 'mapping://dis_demo/app_demo/mapping_demo'
ScheduleStatus -ss	created scheduled paused completed	オプション。ステータスが n のスケジュールを返します。
NumberOfFireTimes -n	number_of_fire_times	オプション。n 回実行されたスケジュールを返します。
Maxresults -m	max_results	オプション。コマンドによって返されるスケジュールの最大数。

ListServiceOptions

スケジューラサービスに設定されているプロパティのリストを返します。

infacmd sch ListServiceOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd sch ListServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Scheduler_Service を入力します。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。

オプション	引数	説明
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

ListServiceProcessOptions

スケジューラサービスプロセスに設定されているプロパティのリストを返します。

infacmd sch ListServiceProcessOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListServiceProcessOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

以下の表に、infacmd sch ListServiceProcessOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Scheduler_Service を入力します。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	<p>ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。</p> <p>ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。</p>
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p>
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	<p>domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。</p>
-NodeName -nn	node_name	<p>サービスプロセスを実行するノードの名前。</p>

PauseAll

スケジューラサービスが管理しているすべてのスケジュールを一時停止します。スケジュールを一時停止した場合、スケジュールを再開するまで、スケジュールで実行されるオブジェクトの実行が停止されます。

infacmd sch PauseAll コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
PauseAll
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、infacmd sch PauseAll のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

PauseSchedule

スケジューラサービスが管理しているスケジュールを一時停止します。スケジュールを一時停止した場合、スケジュールを再開するまで、スケジュールで実行されるオブジェクトの実行が停止されます。

infacmd sch PauseSchedule コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
PauseSchedule
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ScheduleName|-scn> schedule_name
```

以下の表に、infacmd sch PauseSchedule のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ScheduleName -scn	schedule_name	一時停止するスケジュールの名前。スケジュール名では、大文字と小文字が区別されます。

ResumeAll

スケジューラサービスが管理している一時停止のスケジュールをすべて再開します。

infacmd sch ResumeAll コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ResumeAll
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、infacmd sch ResumeAll のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infra ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

ResumeSchedule

スケジューラサービスが管理している一時停止のスケジュールを再開します。

infacmd sch ResumeSchedule コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ResumeSchedule
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
```


[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ScheduleName|-scn> schedule_name

以下の表に、infacmd sch ResumeSchedule のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
ScheduleName -scn	schedule_name	再開する一時停止のスケジュールの名前。

UpdateSchedule

スケジューラサービスが管理しているスケジュールを更新します。スケジュールを更新して、開始時刻や終了時刻、反復、またはスケジュールで実行されるオブジェクトを変更します。現在のオプションを表示するには、infacmd sch ListSchedule コマンドを実行します。

infacmd sch UpdateSchedule コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateSchedule

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ScheduleName|-scn> schedule_name

[<-ScheduleDescription|-scd> schedule_description]

<-Recurrence|-r> once|daily|weekly|monthly

<-StartTime|-st> yyyy-MM-dd HH:mm

[<-EndTime|-et> yyyy-MM-dd HH:mm]

[<StartTimeTimeZone|-stz> start_time_timezone]

[<-EndTimeTimeZone|-etz> end_time_time_zone]

[<-DailyRunEvery|-dre> daily_run_every]

[<-RunDaysOfWeek|-rdw> mon|tue|wed|thu|fri|sat|sun]

[<-RunDayOfWeekMonth|-rdwm> monday|tuesday|wednesday|thursday|friday|saturday|sunday]

[<-RunDayOfMonth|-rdm> 1-30|LAST_DAY_OF_MONTH]

[<-RepeatCount|-rc> repeat_count]

[<-RemoveRunnableObjects|-rro> removeRunnableObjects]

[<-AddRunnableObjects|-aro> addRunnableObjects]

引数に複数の値を設定するには、値をカンマで区切ります。

以下の表に、infacmd sch UpdateSchedule のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションで指定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER_NAME で指定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはユーザー名を使用して接続を試みます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD で指定した場合、-pd オプションを使用して設定されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブ認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定された場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメインは、インストール中に指定されたドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと一致する必要があります。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合、このオプションを使用して接続先ホストおよびポート番号を指定します。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を完了するまで待機する時間。infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ScheduleName -scn	schedule_name	必須。スケジュール名。スケジュール名では、大文字と小文字が区別されず、空白は許可されません。
-Description -scd	schedule_description	オプション。スケジュールの説明。
-Recurrence -r	once daily weekly monthly	必須。スケジュールを 1 回のみ実行するか、繰り返し実行するかを指定します。
-StartTime -st	yyyy-MM-dd HH:mm	必須。繰り返しの開始日時。
-EndTime -et	yyyy-MM-dd HH:mm	オプション。繰り返しの終了日時。
-StartTimeTimeZone -stz	start_time_timezone	オプション。スケジューラサービスがオブジェクトを実行するときのタイムゾーンを設定します。タイムゾーンは次の形式で設定します。 GMT (+/-) hh:mm

オプション	引数	説明
-EndTimeTimeZone -etz	end_time_time_zone	オプション。スケジューラサービスがオブジェクトを実行するときのタイムゾーンを設定します。タイムゾーンは次の形式で設定します。 GMT (+/-) hh:mm
-DailyRunEvery -dre	daily_run_every	オプション。スケジュールを一定の間隔で実行します。 以下に、設定可能なオプションを示します。 - 分。毎日 n 分ごとにスケジュールを実行します。 - 時間。毎日 n 時間ごとにスケジュールを実行します。 - 日。n 日ごとにスケジュールを実行します。 - 週。n 週間ごとにスケジュールを実行します。 - 月。n か月ごとにスケジュールを実行します。 - 年。n 年ごとにスケジュールを実行します。 - FIRST. 毎月第 1n 曜日にスケジュールを実行します。曜日を指定します。 - SECOND. 毎月第 2n 曜日にスケジュールを実行します。曜日を指定します。 - THIRD. 毎月第 3n 曜日にスケジュールを実行します。曜日を指定します。 - FOURTH. 毎月第 4n 曜日にスケジュールを実行します。曜日を指定します。 - LAST. 毎月最終 n 曜日にスケジュールを実行します。曜日を指定します。
-RunDaysOfWeek -rdw	mon tue wed thu fri sat sun	オプション。特定の曜日にスケジュールを実行します。
-RunDayOfWeekMonth -rdwm	monday tuesday wednesday thursday friday saturday sunday	オプション。毎月、週の特定曜日にスケジュールを実行します。スケジュールを実行するには、-dre オプションを使用します。
-RunDayOfMonth -rdm	1-30 LAST_DAY_OF_MONTH	オプション。毎月 n 日にスケジュールを実行します。
-RepeatCount -rc	repeat_count	オプション。日付ではなく実行カウントが一定数に達したときにスケジュールを実行します。
RemoveRunnableObjects -rro	removeRunnableObjects	オプション。オブジェクトをスケジュールから削除します。オブジェクトのパスを指定します。 " <code>{mapping workflow}:Data Integration Service/Application/{Mapping WorkflowName}&parameterSet=PARAMETER_SET_NAME&[runAsUser=USER_NAME&runAsUserSecurityDomain=SECURITY_DOMAIN]</code> "
AddRunnableObjects -aro	addRunnableObjects	オプション。オブジェクトをスケジュールに追加します。スケジュールのパスとオブジェクトのパスを入力します。例: " <code>mapping:DIS_1234/Application_mapping/Mapping_abc</code> " 必要に応じて、以下の引数を使用して、オブジェクトのパラメータを設定します。 - parameterFilePath=PATH_TO_PARAMETER_FILE - parameterSet=PARAMETER_SET_NAME - runAsUser=USER_NAME&runAsUserSecurityDomain=SECURITY_DOMAIN 例: " <code>workflow:DIS_1234/Application_workflow/Workflow_abc?parameterFilePath=Parameter.xml&runAsUser=Administrator&runAsUserSecurityDomain=Nati</code> "

UpdateServiceOptions

スケジューラサービスのプロパティを更新します。現在のオプションを表示するには、`infacmd sch ListServiceOptions` コマンドを実行します。

`infacmd sch UpdateServiceOptions` コマンドでは、以下の構文を使用します。

`UpdateServiceOptions`

`<-DomainName|-dn> domain_name`

`<-ServiceName|-sn> service_name`

`<-UserName|-un> user_name`

`<-Password|-pd> password`

`[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]`

`[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]`

`[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]`

`[<-NodeName|-nn> primary node name]`

`[<-BackupNodes|-bn> node_name1,node_name2,...]`

`<-Options|-o> options`

以下の表に、`infacmd sch UpdateServiceOptions` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
<code>-DomainName</code> <code>-dn</code>	<code>domain_name</code>	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、 <code>-dn</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、 <code>-dn</code> オプションが優先されます。
<code>-ServiceName</code> <code>-sn</code>	<code>service_name</code>	必須。Scheduler_Service を入力します。
<code>-UserName</code> <code>-un</code>	<code>user_name</code>	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、 <code>-un</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、 <code>-un</code> オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
<code>-Password</code> <code>-pd</code>	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、 <code>-pd</code> オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、 <code>-pd</code> オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-NodeName -nn	プライマリノード名	オプション。サービスを実行するプライマリノード。
-BackupNodes -bn	node_name1,node_name2,...	オプション。プライマリノードが使用できない場合にサービスを実行できるノード。
オプション -o	options	オプション。各オプションはスペースで区切って入力します。

スケジューラサービスのオプション

スケジューラサービスのオプションは、infacmd sch UpdateServiceOptions コマンドで使用します。

次の形式でスケジューラサービスのオプションを入力します。

```
... -o option_type.option_name=value
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、スケジューラサービスのオプションを示します。

オプション	説明
SchedulerPersistenceOptions.SchedulerRepositoryServiceName	スケジューラサービスに関連付けられているモデルリポジトリサービス。
SchedulerPersistenceOptions.SchedulerRepositoryUsername	Informatica ドメインの管理者ユーザーのユーザー名。Kerberos 認証を使用するドメインでは使用できません。
SchedulerPersistenceOptions.SchedulerRepositoryPassword	Informatica ドメインの管理者ユーザーのパスワード。Kerberos 認証を使用するドメインでは使用できません。
SchedulerPersistenceOptions.SchedulerRepositorySecurityDomain	スケジューラサービスを管理するユーザーの LDAP セキュリティドメイン。ネイティブまたは Kerberos 認証のユーザーの場合、セキュリティドメインのフィールドは表示されません。

オプション	説明
SchedulerLoggingOptions.SchedulerLogLevel	<p>サービスログのデフォルトの重要度レベルを決定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 致命的。ログに FATAL メッセージを書き込みます。FATAL メッセージには、サービスがシャットダウンする、または利用不可能になる修復不能なシステム障害が含まれます。 - エラー。FATAL および ERROR コードメッセージをログに書き込みます。エラーメッセージには、接続障害、メタデータの保存や取得の失敗、サービスエラーが含まれます。 - 警告。FATAL、WARNING および ERROR メッセージをログに書き込みます。警告エラーには、修復可能なシステム障害や警告が含まれます。 - 情報。FATAL、INFO、WARNING および ERROR メッセージをログに書き込みます。INFO メッセージには、システムおよびサービスの変更メッセージが含まれます。 - トレース。FATAL、TRACE、INFO、WARNING および ERROR コードメッセージをログに書き込みます。トレースメッセージは、ユーザー要求の失敗を記録します。 - デバッグ。FATAL、DEBUG、TRACE、INFO、WARNING および ERROR メッセージをログに書き込みます。DEBUG メッセージは、ユーザー要求のログです。
SchedulerStorageOptions.SchedulerTempFileLocation	<p>パラメータファイルの読み取りまたは書き込みが行われるディレクトリへのパス。一時ファイルの場所に、ドメイン内のすべてのノードがアクセス可能なディレクトリを設定します。</p>

UpdateServiceProcessOptions

スケジューラサービスプロセスのプロパティを更新します。現在のプロセスの設定を表示するには、`infacmd sch ListServiceProcessOptions` コマンドを実行します。

`infacmd sch UpdateServiceProcessOptions` コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpdateServiceProcessOptions
```

```
<-DomainName:-dn> domain_name
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```



```

<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-NodeName|-nn> node_name]
<-Options|-o> options

```

以下の表に、infacmd sch UpdateServiceProcessOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Scheduler_Service を入力します。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
NodeName -nn	node_name	サービスプロセスを実行するノードの名前。
オプション -o	options	オプション。各オプションはスペースで区切って入力します。

スケジューラサービスプロセスのオプション

スケジューラサービスのオプションは、infacmd sch UpdateServiceOptions コマンドで使用します。

次の形式でスケジューラサービスのオプションを入力します。

```
... -o option_type.option_name=value
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、スケジューラサービスのオプションを示します。

オプション	説明
SchedulerServiceAdvancedOptions.JVMOptions	<p>Java ベースプログラムを実行するための Java 仮想マシン (JVM) のコマンドラインオプション。JVM オプションを設定する場合は、Java SDK クラスパス、Java SDK の最小メモリプロパティおよび Java SDK の最大メモリプロパティを設定する必要があります。</p> <p>次の JVM コマンドラインのオプションを設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Xms。最小ヒープサイズ。デフォルト値は 256m。 - MaxPermSize。最大の永続生成のサイズ。デフォルトは 128m。 - Dfile.encoding。ファイルのエンコード。デフォルトは UTF-8。
HttpConfigurationOptions.KeyStoreFile	<p>キーおよび証明書を含むキーストアファイルのパスとファイル名。サービスで HTTPS 接続を使用する場合に必須。キーストアファイルはキーツールで作成できます。キーツールは、プライベートキーまたはパブリックキーのペアと関連する証明書を生成してキーストアファイルに格納するユーティリティです。自己署名証明書を使用することも、認証局によって署名された証明書を使用することもできます。</p>
HttpConfigurationOptions.KeyStorePassword	キーストアファイルのパスワード
HttpConfigurationOptions.TrustStoreFile	サービスで信頼されている認証証明書を含むトラストストアファイルのパスおよびファイル名。
HttpConfigurationOptions.TrustStorePassword	キーストアファイルのパスワード
HttpConfigurationOptions.SSLProtocol	使用する Secure Socket Layer プロトコル。デフォルトは TLS です。
SchedulerServiceSecurityOptions.HttpPort	<p>サービスで HTTP プロトコルが使用されている場合の、スケジューラサービスプロセスの一意的 HTTP ポート番号。</p> <p>デフォルトは 6211 です。</p>
SchedulerServiceSecurityOptions.HttpsPort	<p>サービスで HTTPS プロトコルが使用されている場合の、スケジューラサービスプロセスの一意的 HTTPS ポート番号。</p> <p>HTTPS ポート番号を設定する場合は、必要なキーと証明書が含まれているキーストアファイルも定義する必要があります。</p>

アップグレード

スケジューラサービス設定をアップグレードします。現在のバージョンの Informatica にアップグレードするには、sch Upgrade を実行します。

infacmd sch Upgrade コマンドでは、以下の構文を使用します。

Upgrade

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-Gateway|-hp> gateway_host1:port gateway_host2:port...]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd sch Upgrade のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Scheduler_Service を入力します。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。</p>
-Gateway -hp	gateway_host1:port gateway_host2:port ...	domains.infa ファイルのゲートウェイ接続情報が最新でない場合に必要です。ドメインのゲートウェイノードのホスト名およびポート番号。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、<code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。</p>

第 22 章

infacmd search コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [CreateService, 798](#) ページ
- [ListServiceOptions, 801](#) ページ
- [ListServiceProcessOptions, 803](#) ページ
- [UpdateServiceOptions, 804](#) ページ
- [UpdateServiceProcessOptions, 806](#) ページ

CreateService

検索サービスを作成します。検索サービスは、デフォルトでは作成時に有効になります。

infacmd search の CreateService コマンドでは、次の構文を使用します。

CreateService

```
<-DomainName|-dn> domain_name
<-NodeName|-nn> node_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
[<-FolderPath|-fp> full_folder_path]
[<-BackupNodes|-bn> node_name1,node_name2,...]
<-SearchServicePort|-sp> search_service_port_number
<-IndexLocation|-il> search_index_location
<-ExtractionInterval|-ei> search_extraction_interval
<-RepositoryService|-rsn> model_repository_service_name
```

<-searchUserName|-sun> username_for_search_repositories

<-searchPassword|-spd> password_for_search_repositories

[<-searchSecurityDomain|-ssd> security_domain_of_search_repositories]

次の表に、infacmd search の CreateService オプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-NodeName -nn	node_name	必須。検索サービスを実行するノード。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-ServiceName -sn	service_name	必須。検索サービスの名前。 この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前は 230 文字以内で、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰文字や、タブ、以下の文字を含むことはできません。 / * ? < > "
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-FolderPath -fp	full_folder_path	オプション。検索サービスを追加するフォルダへの絶対パス (ドメイン名を除く)。以下の形式である必要があります。 /parent_folder/child_folder デフォルトは"/ (ドメイン) です。
-BackupNodes -bn	node_name1,node_name2,...	オプション。プライマリノードが使用できない場合にサービスが実行されるノード。高可用性オプションがある場合は、バックアップノードを設定できます。
-SearchServicePort -sp	search_service_port_number	必須。検索サービスが実行されるポート。
-IndexLocation -il	search_index_location	検索インデックスファイルを格納しているディレクトリ。
-ExtractionInterval -ei	search_extraction_interval	検索サービスが検索インデックスを更新する間隔 (単位: 秒)
-RepositoryService -rsn	model_repository_service_name	検索サービスに関連付けられているモデルリポジトリサービス。モデルリポジトリサービスは他の検索サービスに割り当てることができません。
-searchUserName -sun	username_for_search_repositories	モデルリポジトリサービスにアクセスするためのユーザー名。モデルリポジトリのユーザーに管理者ロールが割り当てられている必要があります。

オプション	引数	説明
-searchPassword -spd	password_for_search_repositories	モデルリポジトリサービスにアクセスするためのユーザーパスワード。
-searchSecurityDomain -ssdn	security_domain_of_search_repositories	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。モデルリポジトリユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p>

ListServiceOptions

検索サービスのプロパティを一覧表示します。

infacmd search の ListServiceOptions コマンドでは、次の構文を使用します。

ListServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-NodeName|-nn> node_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

次の表に、infacmd search の ListServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-NodeName -nn	node_name	必須。検索サービスを実行するノード。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。</p>
-UserName -un	user_name	<p>ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。</p> <p>ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。</p>
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-ServiceName -sn	service_name	<p>必須。検索サービスの名前。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。</p>

ListServiceProcessOptions

検索サービスプロセスのプロパティを一覧表示します。

infacmd search の ListServiceProcessOptions コマンドでは、次の構文を使用します。

ListServiceProcessOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-NodeName|-nn> node_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

次の表に、infacmd search の ListServiceProcessOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-NodeName -nn	node_name	必須。サービスプロセスを実行するノードの名前。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。検索サービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

UpdateServiceOptions

検索サービスのプロパティを更新します。現在のプロパティを表示するには、infacmd search の ListServiceOptions コマンドを実行します。

サービスが実行されている間にプロパティを変更することができます。ただし、変更を有効にするためにこのサービスを再利用する必要があります。

infacmd search の UpdateServiceOptions コマンドでは、次の構文を使用します。

UpdateServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-ServiceName|-sn> service_name

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

[<-Options|-o> options]

[<-NodeName|-nn> node name]

[<-BackupNodes|-bn> node_name1,node_name2,...]

次の表に、infacmd search の UpdateServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。検索サービスの名前。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Options -o	オプション	オプション。各オプションはスペースで区切って入力します。スペースがある場合、二重引用符内にオプション値を含みます。オプションを表示するには、infacmd search の ListServiceOptions コマンドを実行します。
-NodeName -nn	ノード名	オプション。検索サービスが実行されるノード。
-BackupNodes -bn	node_name1,node_name2,...	オプション。プライマリノードが使用できない場合にサービスが実行されるノード。高可用性オプションがある場合は、バックアップノードを設定できます。

UpdateServiceProcessOptions

検索サービスプロセスのプロパティを更新します。現在のプロパティを表示するには、infacmd search の ListServiceProcessOptions コマンドを実行します。

次の形式で接続オプションを入力します。

```
... -o option_name=value option_name=value ...
```

オプションが複数ある場合はスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

infacmd search の UpdateServiceProcessOptions コマンドでは、次の構文を使用します。

```
UpdateServiceProcessOptions
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-NodeName|-nn> node_name
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-Options|-o> options
```

次の表に、infacmd search の UpdateServiceProcessOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
NodeName -nn	node_name	必須。検索サービスを実行するノード。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。検索サービスの名前。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Options -o	オプション	必須。各オプションはスペースで区切って入力します。オプションを表示するには、infacmd search の ListServiceProcessOptions コマンドを実行します。

第 23 章

infacmd sql コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [ExecuteSQL, 809](#) ページ
- [ListColumnOptions, 810](#) ページ
- [ListSQLDataServiceOptions, 812](#) ページ
- [ListSQLDataServicePermissions, 813](#) ページ
- [ListSQLDataServices, 815](#) ページ
- [ListStoredProcedurePermissions, 817](#) ページ
- [ListTableOptions, 818](#) ページ
- [ListTablePermissions, 820](#) ページ
- [PurgeTableCache, 822](#) ページ
- [RefreshTableCache, 823](#) ページ
- [RenameSQLDataService, 825](#) ページ
- [SetColumnPermissions, 826](#) ページ
- [SetSQLDataServicePermissions, 829](#) ページ
- [SetStoredProcedurePermissions, 831](#) ページ
- [SetTablePermissions, 834](#) ページ
- [StartSQLDataService, 837](#) ページ
- [StopSQLDataService, 839](#) ページ
- [UpdateColumnOptions, 840](#) ページ
- [UpdateSQLDataServiceOptions, 843](#) ページ
- [UpdateTableOptions, 846](#) ページ

ExecuteSQL

SQL データサービスにアクセスする SQL 文を実行します。

infacmd sql ExecuteSQL を、対話または非対話モードで実行します。ExecuteSQL を対話モードで実行する場合、スクリプトを記述せずに SQL 文を入力できます。対話モードを使用する場合、-Sql オプションなしで接続文字列を入力します。後続の SQL 文は、各文に接続情報を入力せずに実行できます。

infacmd sql ExecuteSQL コマンドでは、以下の構文を使用します。

ExecuteSQL

```
<-ConnectionString|-cs> connection_string
```

```
[<-Sql> sql_statement]
```

以下の表に、infacmd sql ExecuteSQL のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-ConnectionString -cs	connection_string	必須。SQL データサービスの接続文字列を以下の構文で入力します。 jdbc:informatica:sqlds/ <optional security domain\ <optional user name\ <optional user password>@ <domain host name\ <domain HTTP port?dis= <Data Integration Service name>&sqlds= <runtime SQL data service name> 必要に応じて、次の形式でオプションを追加します。 ... <option_name>=<option_value> 接続文字列には、以下のオプションと値があります。 SQLDataServiceOptions.disableResultSetCache=true SQL データサービスが結果セットをキャッシュするように設定されている場合に、SQL データサービスクエリの結果セットのキャッシュを無効にします。
-Sql	sql_statement	オプション。対話モードで実行しない場合、SQL 文を入力します。

ListColumnOptions

仮想テーブルのカラムのプロパティを一覧表示します。

infacmd sql ListColumnOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListColumnOptions

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service
```

```
<-Table|-t> schema.table
```

```
<-Column|-c> column
```

以下の表に、infacmd sql ListColumnOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
SQLDataService -sqlds	sql_data_service	必須。SQL データサービスの名前。

オプション	引数	説明
-Table -t	schema.table	必須。テーブルの名前。テーブルを以下の構文で定義します。 <schema_name>.<table_name>
-Column -c	column	必須。カラムの名前。

ListSQLDataServiceOptions

データ統合サービスにデプロイされている SQL データサービスのプロパティを一覧表示します。

infacmd sql ListSQLDataServiceOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListSQLDataServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service

以下の表に、infacmd sql ListSQLDataServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SQLDataService -sqlds	sql_data_service	必須。SQL データサービスの名前。

ListSQLDataServicePermissions

SQL データサービスに対する権限を一覧表示します。

infacmd sql ListSQLDataServicePermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListSQLDataServicePermissions
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service
```

<<-Direct> direct_permission_only|<-Effective> effective_permission_only>

以下の表に、infacmd sql ListSQLDataServicePermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
SQLDataService -sqlDs	sql_data_service	必須。SQL データサービスの名前。
-Direct -Effective>	direct effective	必須。一覧表示する権限のレベル。直接権限は、ユーザーまたはグループに直接割り当てられる権限です。有効な権限には、直接権限と継承された権限が含まれます。

ListSQLDataServices

データ統合サービス用の SQL データサービスを一覧表示します。

infacmd sql ListSQLDataServices コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListSQLDataServices

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

以下の表に、infacmd sql ListSQLDataServices のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービス。

ListStoredProcedurePermissions

ストアドプロシージャに対する権限を一覧表示します。

infacmd sql ListStoredProcedurePermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListStoredProcedurePermissions
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sds> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-SQLDataService|-sqls> sql_data_service
```

```
<-StoredProcedure|-sp> stored_procedure
```

```
<<-Direct> direct_permission_only|<-Effective> effective_permission_only>
```

以下の表に、infacmd sql ListStoredProcedurePermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
SQLDataService -sqlds	sql_data_service	必須。SQL データサービスの名前。
StoredProcedure -sp	stored_procedure	必須。ストアードプロシージャ名。
-Direct -Effective>	direct effective	必須。一覧表示する権限のレベル。直接権限は、ユーザーまたはグループに直接割り当てられる権限です。有効な権限には、直接権限と継承された権限が含まれます。

ListTableOptions

仮想テーブルのプロパティを一覧表示します。

infacmd sql ListTableOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListTableOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service

<-Table|-t> schema.table

以下の表に、infacmd sql ListTableOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
SQLDataService -sqlds	sql_data_service	必須。SQL データサービスの名前。
-Table -t	schema.table	必須。テーブルの名前。 テーブルを以下の構文で定義します。 <schema_name>.<table_name>

ListTablePermissions

仮想テーブルに対するユーザーおよびグループの権限を一覧表示します。

infacmd sql ListTablePermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListTablePermissions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service

<-Table|-t> schema.table

<<-Direct> direct_permission_only|<-Effective> effective_permission_only>

以下の表に、infacmd sql ListTablePermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
SQLDataService -sqlds	sql_data_service	必須。SQL データサービスの名前。
-Table -t	schema.table	必須。テーブルの名前。テーブルを以下の構文で定義します。 <schema_name>.<table_name>
-Direct -Effective>	direct effective	必須。「direct」または「effective」を入力します。直接権限は、ユーザーまたはグループに直接割り当てられる権限です。有効な権限には、直接権限と継承された権限が含まれます。

PurgeTableCache

仮想テーブルキャッシュをパージします。

infacmd sql PurgeTableCache コマンドでは、以下の構文を使用します。

PurgeTableCache

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service

<-Table|-t> table

以下の表に、infacmd sql PurgeTableCache のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-SQLDataService -sqlds	sql_data_service	必須。SQL データサービスの名前。
-Table -t	テーブル	必須。削除する仮想テーブルキャッシュの名前。

RefreshTableCache

仮想テーブルキャッシュをリフレッシュします。

infacmd sql RefreshTableCache コマンドでは、以下の構文を使用します。

RefreshTableCache

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-SQLDataService|-sqllds> sql_data_service

<-Table|-t> table

以下の表に、infacmd sql RefreshTableCache のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。

オプション	引数	説明
-SQLDataService -sqlds	sql_data_service	必須。SQL データサービスの名前。
-Table -t	テーブル	必須。リフレッシュする仮想テーブルキャッシュの名前。

RenameSQLDataService

データ統合サービスにデプロイされている SQL データサービスの名前を変更します。

infacmd sql RenameSQLDataService コマンドでは、以下の構文を使用します。

RenameSQLDataService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service

<-NewName|-n> new_name

以下の表に、infacmd sql RenameSQLDataService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザ名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。SQL データサービスがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-SQLDataService -sqlds	sql_data_service	必須。名前を変更する SQL データサービスの名前。
NewName -n	new_name	必須。SQL データサービスの新しい名前。

SetColumnPermissions

グループまたはユーザーに対して、SQL クエリのカラムへのアクセスを拒否します。

infacmd sql SetColumnPermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
SetColumnPermissions
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```

<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service
<-Table|-t> schema.table
<-Column|-c> column_name
<<-GranteeUserName|-gun> grantee_user_name|<-GranteeGroupName|-ggn> grantee_group_name>
[<-GranteeSecurityDomain|-gsdn> grantee_security_domain]
<-DeniedPermissions|-dp> denied_permissions

```

以下の表に、infacmd sql SetColumnPermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SQLDataService -sqlds	sql_data_service	必須。仮想テーブルを使用する SQL データサービスの名前。
-Table -t	schema.table	必須。仮想テーブルの名前。次の形式でテーブルを入力します。 <schema_name>.<table_name>
-Column -c	column	更新するカラムの名前。
-GranteeUserName GranteeGroupName -gun -ggn	grantee_user_name grantee_group_name	必須。権限を設定または拒否するユーザー名またはグループ名。
-GranteeSecurityDomain -gsdn	grantee_security_domain	LDAP 認証を使用してユーザー権限を付与する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。
-DeniedPermissions -dp	denied_permissions	必須。SELECT にカラムを入れることをユーザーに制限するには、SQL_Select を入力します。

SetSQLDataServicePermissions

SQL データサービスに対する権限をグループまたはユーザーに設定します。権限を拒否することもできます。

infacmd sql SetSQLDataServicePermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
SetSQLDataServicePermissions
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service
```

```
<<-GranteeUserName|-gun> grantee_user_name|<-GranteeGroupName|-ggn> grantee_group_name>
```

```
[<-GranteeSecurityDomain|-gsdn> grantee_security_domain]
```

```
<-AllowedPermissions|-ap> allowed_permissions
```

```
<-DeniedPermissions|-dp> denied_permissions
```

以下の表に、infacmd sql SetSQLDataServicePermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SQLDataService -sqlds	sql_data_service	必須。SQL データサービスの名前。
-GranteeUserName GranteeGroupName -gun -ggn	grantee_user_name grantee_group_name	必須。権限を設定または拒否するユーザー名またはグループ名。
- GranteeSecurityDomain -gsdn	grantee_security_domain	LDAP 認証を使用してユーザー権限を付与する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。

オプション	引数	説明
-AllowedPermissions -ap	allowed_permissions	<p>必須。権限をスペースで区切ったリスト。以下のいずれかの権限を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Grant。Administrator ツールまたは infacmd コマンドラインプログラムを使用して、SQL データサービスの権限を付与および取り消すことができます。 - Execute。ユーザーは、JDBC または ODBC クライアントツールを使用して、SQL データサービス内のすべての仮想ストアドプロシージャを実行することができます。 - SQL_Select。ユーザーは、JDBC または ODBC クライアントツールを使用して、SQL データサービス内の仮想テーブルの SQL SELECT 文を実行することができます。
-DeniedPermissions -dp	denied_permissions	<p>オプション。ユーザーを拒否する権限のリスト。各パラメータはスペースで区切ります。以下のいずれかの権限を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - EXECUTE。ユーザーは、SQL データサービス内のいずれの仮想ストアドプロシージャも実行できません。 - SQL_SELECT。ユーザーは、SQL データサービス内のいずれのテーブルにも SELECT 文を実行できません。

SetStoredProcedurePermissions

ストアドプロシージャに対するユーザーおよびグループの権限を設定します。権限を拒否することもできます。

infacmd sql SetStoredProcedurePermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
SetStoredProcedurePermissions
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service
<-StoredProcedure|-sp> stored_procedure
<<-GranteeUserName|-gun> grantee_user_name|<-GranteeGroupName|-ggn> grantee_group_name>
[<-GranteeSecurityDomain|-gsdn> grantee_security_domain]
<-AllowedPermissions|-ap> allowed_permissions
<-DeniedPermissions|-dp> denied_permissions
```

以下の表に、infacmd sql SetStoredProcedurePermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。</p>
-SQLDataService -sqlds	sql_data_service	<p>必須。ストアードプロシージャを使用する SQL データサービスの名前。</p>
-StoredProcedure -sp	stored_procedure	<p>必須。ストアードプロシージャの名前。</p>
-GranteeUserName GranteeGroupName -gun -ggn	grantee_user_name grantee_group_name	<p>必須。権限を設定または拒否するユーザー名またはグループ名。</p>
- GranteeSecurityDomain -gsdn	grantee_security_domain	<p>LDAP 認証を使用してユーザー権限を付与する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。</p>

オプション	引数	説明
-AllowedPermissions -ap	list_of_allowed_permissions_separated_by_space	<p>必須。許可する権限のリスト。以下の任意のパラメータをスペースで区切って入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Grant。Administrator ツールまたは infacmd コマンドラインプログラムを使用して、ストアードプロシージャオブジェクトの権限を付与および取り消すことができます。 - Execute。ユーザーは、JDBC または ODBC クライアントツールを使用して、SQL データサービス内の仮想ストアードプロシージャを実行することができます。
-DeniedPermissions -dp	denied_permissions	<p>オプション。ユーザーを拒否する権限のリスト。以下の任意のパラメータをスペースで区切って入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - GRANT。ユーザーは、ストアードプロシージャオブジェクトに対する権限を付与および取り消すことができません。 - EXECUTE。ユーザーは、SQL データサービス内のストアードプロシージャを実行できません。

SetTablePermissions

仮想テーブルに対するグループおよびユーザーの権限を設定します。

infacmd sql SetTablePermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

SetTablePermissions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service

<-Table|-t> schema.table

<<-GranteeUserName|-gun> grantee_user_name|<-GranteeGroupName|-ggn> grantee_group_name>

[<-GranteeSecurityDomain|-gsdn> grantee_security_domain]

<-AllowedPermissions|-ap> allowed_permissions

<-DeniedPermissions|-dp> denied_permissions

[<-RLSPredicate|-rls> row_level_security_predicate]

以下の表に、infacmd sql SetTablePermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレلمと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SQLDataService -sqlds	sql_data_service	必須。仮想テーブルを使用する SQL データサービスの名前。
-Table -t	schema.table	必須。仮想テーブルの名前。次の形式でテーブルを入力します。 <schema_name>.<table_name>
-GranteeUserName GranteeGroupName -gun -ggn	grantee_user_name grantee_group_name	必須。権限を設定または拒否するユーザー名またはグループ名。
-GranteeSecurityDomain -gsdn	grantee_security_domain	LDAP 認証を使用してユーザー権限を付与する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。

オプション	引数	説明
-AllowedPermissions -ap	list_of_allowed_permissions	必須。許可する権限のリスト。以下のいずれかのパラメータをスペースで区切って入力します。 - Grant。Administrator ツールまたは infacmd コマンドラインプログラムを使用して、ストアードプロシージャオブジェクトの権限を付与および取り消すことができます。 - SQL_Select。ユーザーは、テーブルに対して SQL クエリを実行できます。
-DeniedPermissions -dp	denied_permissions	オプション。ユーザーを拒否する権限のリスト。以下のいずれかのパラメータをスペースで区切って入力します。 - GRANT。ユーザーは、テーブルに対する権限を付与および取り消すことができません。 - SQL_SELECT。ユーザーは、テーブルに対して SQL クエリを実行できません。
-RLSPredicate -rls	row_level_security_predicate	オプション。SELECT 文に適用される行レベルセキュリティの述部を一覧表示します。

StartSQLDataService

SQL データサービスを開始します。

infacmd sql StartSQLDataService コマンドでは、以下の構文を使用します。

StartSQLDataServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service

以下の表に、infacmd sql StartSQLDataService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SQLDataService -sqlds	sql_data_service	必須。SQL データサービスの名前。

StopSQLDataService

実行中の SQL データサービスを停止します。

infacmd sql StopSQLDataService コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
StopSQLDataService
<-DomainName|-dn> domain_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-ServiceName|-sn> service_name
<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service
```

以下の表に、infacmd sql StopSQLDataService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。SQL データサービスがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-SQLDataService -sqlds	sql_data_service	必須。停止する SQL データサービスの名前。

UpdateColumnOptions

カラムオプションを設定して、ユーザーが制限されたカラムをクエリで選択したときの動作を決定します。値を NULL 値または定数値で置き換えることができます。

infacmd sql UpdateColumnOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateColumnOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service

<-Table|-t> schema.table

<-Column|-c> column_name

<-Options|> options

以下の表に、infacmd sql UpdateColumnOptions のオプションと引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SQLDataService -sqlds	sql_data_service	必須。仮想テーブルを使用する SQL データサービスの名前。

オプション	引数	説明
-Table -t	schema.table	必須。仮想テーブルの名前。次の形式でテーブルを入力します。 <schema_name>.<table_name>
-Column -c	カラム	カラム名。
-Options -o	オプション	必須。各オプションはスペースで区切って入力します。現在のオプションを表示するには、infacmd sql ListColumnOptions コマンドを実行します。

カラムのオプション

カラムのオプションを使用してカラムを更新します。infacmd sql UpdateColumnOptions コマンドとともにカラムのオプションを使用します。

カラムのオプションは次の形式で入力します。

```
... -o UpdateColumnOptions.option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、カラムのオプションを示します。

オプション	説明
ColumnOptions.DenyWith	カラムレベルのセキュリティを使用する場合に、制限されたカラム値を置き換えるかクエリを失敗させるかを指定します。カラム値を置き換える場合、NULL 値または定数値のいずれかで値を置き換えるかを選択できます。 次のいずれかのオプションを選択します。 - ERROR。クエリが失敗してエラーを返します。 - NULL。各行の制限されたカラムに NULL 値を返します。 - VALUE。各行の制限されたカラムある場所に定数値を返します。オプション InsufficientPermissionValue に定数値を設定します。
ColumnOptions.InsufficientPermissionValue	制限されたカラム値を定数値で置き換えます。デフォルトは空の文字列です。オプション ColumnOptions.DenyWith を設定しない場合、Data Integration Service は InsufficientPermissionValue オプションを無視します。

UpdateSQLDataServiceOptions

SQL データサービスプロパティを更新します。プロパティを更新する前に SQL データサービスを停止する必要があります。

infacmd sql UpdateSQLDataServiceOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateSQLDataServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service

<-Options|-o> options

以下の表に、infacmd sql UpdateSQLDataServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-SQLDataService -sqlds	sql_data_service	必須。SQL データサービスの名前。
オプション -o	オプション	必須。更新するオプションのリスト。オプションと値をスペースで区切って入力します。SQL データサービス用のオプションを表示するには、infacmd sql ListSQLDataServiceOptions を実行します。

SQL データサービスオプション

SQL データサービスオプションを使用して、SQL データサービスを更新します。SQL データサービスオプションでは、infacmd sql UpdateSQLDataServiceOptions コマンドを使用します。

次の形式で SQL データサービスオプションを入力します。

```
... -o SQLDataServiceOptions.option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、infacmd sql UpdateSQLDataServiceOptions 用の接続オプションを示します。

オプション	説明
SQLDataServiceOptions.startupType	アプリケーション起動時または、SQL データサービスの開始時に、SQL データサービスが実行可能になっているかどうかを決定します。SQL データサービスを実行できるようにするには、「ENABLED」と入力します。SQL データサービスを実行できないようにするには、「DISABLED」と入力します。
SQLDataServiceOptions.traceLevel	セッションログに書き込まれるエラーメッセージのレベル。次のいずれかのメッセージレベルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - 致命 - エラー - 情報 - トレース - デバッグ
SQLDataServiceOptions.connectionTimeout	SQL データサービスに接続するまでの最大待機時間（ミリ秒）。デフォルトは 3,600,000 です。
SQLDataServiceOptions.requestTimeout	SQL データサービスの応答を待機する SQL 要求の最大時間（ミリ秒）。デフォルトは 3,600,000 です。
SQLDataServiceOptions.sortOrder	データ統合サービスが、Unicode モードで実行される場合に、データのソートと比較に使用するソート順。コードページに基づいてソート順を選択することができます。Data Integration が ASCII モードで実行される場合、ソート順の値は無視され、バイナリソート順が使用されます。デフォルトはバイナリです。
SQLDataServiceOptions.maxActiveConnections	SQL データサービスへのアクティブ接続の最大数。デフォルトは 10 です。
SQLDataServiceOptions.ResultSetCacheExpirationPeriod	結果セットキャッシュを使用できる時間（ミリ秒）。-1 に設定した場合、キャッシュには期限がありません。0 に設定した場合、結果セットキャッシュは無効になります。有効期限の変更は、既存のキャッシュには適用されません。すべてのキャッシュで同じ有効期限を使用する場合は、有効期限を変更した後、結果セットキャッシュをバージします。デフォルトは 0 です。

オプション	説明
SQLDataServiceOptions.DTMKeepAliveTime	<p>DTM インスタンスが最後の要求の完了後にオープン状態を維持する期間（ミリ秒）。同一の SQL クエリはオープンインスタンスを再利用できます。SQL クエリの処理に必要な時間が DTM インスタンスの初期化にかかる時間よりも短い場合、キープアライブ時間を使用してパフォーマンスを向上させます。クエリが失敗すると、DTM インスタンスは終了します。</p> <p>整数でなければなりません。負の整数値は、データ統合サービスに DTM キープアライブ時間が使用されることを示します。0 を指定した場合、データ統合サービスでは DTM インスタンスがメモリに残りません。デフォルトは-1 です。</p>
SQLDataServiceOptions.optimizeLevel	<p>Data Integration Service がオブジェクトに適用する最適化レベルです。設定する最適化レベルに関連する数値を入力します。以下のいずれかの数値を入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 0. データ統合サービスは最適化を適用しません。 - 1. データ統合サービスは初期プロジェクション最適化方式を適用します。 - 2. データ統合サービスは、初期プロジェクション、初期選択、プッシュイン、および述部の各最適化方式を適用します。 - 3. データ統合サービスは、コストベース、初期プロジェクション、初期選択、プッシュイン、述部、準結合の各最適化方式を適用します。

UpdateTableOptions

仮想テーブルのプロパティを更新します。プロパティを更新する前に SQL データサービスを停止する必要があります。

infacmd sql UpdateTableOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpdateTableOptions
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-SQLDataService|-sqlds> sql_data_service
<-Table|-t> schema.table
<-Options|-o> options
```

以下の表に、infacmd sql UpdateTableOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。アプリケーションがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
SQLDataService -sqls	sql_data_service	必須。SQL データサービスの名前。

オプション	引数	説明
-Table -t	schema.table	必須。テーブルの名前。以下の構文を使用します。 <schema_name>.<table_name>
オプション -o	オプション	必須。名前と値のペアをスペースで区切って入力します。

仮想テーブルのオプション

仮想テーブルのオプションを使用して、仮想テーブルのキャッシュを更新します。仮想テーブルのオプションは、`infacmd sql UpdateTableOptions` コマンドで使用します。

仮想テーブルのオプションを以下の形式で入力します。

```
... -o option_type.option_name=value ...
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、仮想テーブルのオプションを示します。

オプション	説明
VirtualTableOptions.CachingEnabled	データオブジェクトキャッシュデータベース内の仮想テーブルをキャッシュします。true または false。デフォルトは true です。
VirtualTableOptions.CacheRefreshPeriod	キャッシュのリフレッシュ間隔 (分)。デフォルトはゼロです。
VirtualTableOptions.CacheTableName	データ統合サービスが仮想テーブルキャッシュにアクセスする元のユーザー管理テーブル名。ユーザー管理のキャッシュテーブルは、ユーザーが作成、取り込み、必要に応じて手動でリフレッシュするデータオブジェクトキャッシュデータベース内のテーブルです。 キャッシュテーブル名を指定すると、データオブジェクトキャッシュマネージャはオブジェクトのキャッシュを管理せず、キャッシュのリフレッシュ期間を無視します。キャッシュテーブル名を指定しない場合、データオブジェクトキャッシュマネージャはオブジェクトのキャッシュを管理します。

第 24 章

infacmd tdm コマンドリファレンス

infacmd tdm プログラムは Test Data Manager サービスを制御します。infacmd tdm コマンドでは、サービスの作成、コンテンツのサービスへの追加、サービスの有効化および無効化を行うことができます。

この章では、infacmd tdm プログラムで使用できるコマンドについて説明します。コマンドは<INFA_HOME>\isp\bin パスから実行します。

注: Kerberos ネットワーク認証モードでコマンドを実行するときは、UserName オプションや Password オプションを追加する必要はありません。

CreateService

ドメインに Test Data Manager サービスを作成します。

infacmd tdm CreateService コマンドでは、以下の構文を使用します。

CreateService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-NodeName|-nn> node_name

<-LicenseName|-ln> license_name

<-PCRSServiceName|-pcrs> power_center_repo_service

<-PCISServiceName|-pcis> power_center_int_service

<-MRSServiceName|-mrs> model_repo_service

<-MRSUserName|-rsun> model_repo_service_username

<-MRSPassword|-rspd> model_repo_service_password

[<-MRSSecurityDomain|-rsdn> model_repo_security_domain]

```

<-AnalystService|-at> analyst_service
<-EnableProfiling|-ep> enable_profiling
<-EnableTDWService|-ets> enable_tdwservice
<-DISServiceName|-dis> data_integration_service
<-db_type|-dt> database_type (ORACLE, DB2, SQLSERVER or CUSTOM)
[<-customDriver|-cd> custom_driver_name]
<-DBUsername|-du> db_user
<-DBPassword|-dp> db_password
<-DBUrl|-dl> db_url
<-DBConnString|-dc> db_conn_string
[<-DbSchema|-ds> db_schema (used for SQL Server only)]
[<-DbTablespace|-db> db_tablespace (used for DB2 only)]
[<-HttpPort> http_port]
[<-HttpsPort> https_port]
[<-KeystoreFile|-kf> keystore_file_location]
[<-KeystorePassword|-kp> keystore_password]
[<-httpProtocolType|-pt> http_protocol_type]
[<-jvmParams|-jp> jvmParameters]
[<-connPoolSize|-cp> conn_pool_size]
[<-jmxPort> jmx_port]
[<-shutdownPort> shutdown_port]

```

以下のテーブルに、infacmd tdm CreateService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Test Data Manager サービスの名前。この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。文字は、関連リポジトリのコードページと互換性を保つ必要があります。名前は 230 文字以内で、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰改行文字や、タブ、以下の文字を含むことはできません。 / * ? < > "

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトは Native です。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。デフォルトは 180 秒です。
-NodeName -nn	node_name	必須。サービスを実行するノードの名前。

オプション	引数	説明
-LicenseName -ln	license_name	必須。ライセンスの名前。この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。名前は 79 文字以内で、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰改行文字や、タブ、以下の文字を含むことはできません。 /*?<>"
-PCRSServicename -pcrs	power_center_repo_service	TDM が接続する PowerCenter リポジトリサービスの名前。
-PCISServicename -pcis	power_center_int_service	TDM を接続する PowerCenter 統合サービスの名前。
-MRSServiceName -mrs	model_repo_service	TDM を接続するモデルリポジトリサービスの名前。
-MRSUserName -rsun	model_repo_service_username	必須。モデルリポジトリに接続するためのユーザー名。
-MRSPassword -rspd	model_repo_service_password	必須。モデルリポジトリ接続するためのユーザー名のパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。
-AnalystService -at	analyst_service	オプション。TDM がアセットのリンクに使用するアナリストサービスの名前。アセットのリンク機能を使用して TDM グローバルオブジェクトを Business Glossary オブジェクトにリンクする場合に必要です。
-MRSSecurityDomain -rsdn	model_repo_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。 デフォルトは Native です。
-EnableProfiling -ep	enable_profiling	データ検出設定を示します。true に設定してデータ検出を有効にします。false に設定してデータ検出を無効にします。
-EnableTDWService -ets	enable_tdwservice	Test Data Warehouse の設定を示します。Test Data リポジトリとテストデータマートを設定する場合、true に設定します。Test Data Warehouse を作成する必要がない場合、false に設定します。 デフォルトは false です。
-DISServiceName -dis	data_integration_service	TDM を接続するデータ統合サービスの名前。
-db_type -dt	database_type	TDM リポジトリデータベースのタイプ。値は、Oracle、SQL Server、DB2、またはカスタムです。

オプション	引数	説明
-customDriver -cd	custom_driver_name	カスタム JDBC ドライバパラメータ。カスタムデータベースタイプを使用する場合に必要です。
-DBUsername -du	db_user	必須。リポジトリデータベースのアカウント。データベースクライアントを使用してこのアカウントを設定します。
-DBPassword -dp	db_password	必須。データベースユーザー用のリポジトリデータベースパスワード。
-DBUrl -dl	db_url	必須。TDM リポジトリ用のデータベースへの JDBC 接続文字列。次のいずれかの構文を使用します。 Oracle: jdbc:informatica:oracle: // <machineName>:<PortNo>;ServiceName= <DBName>; MaxPooledStatements=20; CatalogOptions=0; EnableServerResultCache=true DB2: jdbc:informatica:db2: //<host>:<port>; DatabaseName=<dbname>; BatchPerformanceWorkaround=true;DynamicSections=1000 SQLServer: jdbc:informatica:sqlserver: //<host>:<port>; DatabaseName=<dbname>; SnapshotSerializable=true
-DBConnString -dc	db_conn_string	TDM リポジトリデータベースへのネイティブ接続文字列。サービスは、この文字列を使用して、Test Data Manager リポジトリと PowerCenter リポジトリへの接続オブジェクトを作成します。
-DbSchema -ds	db_schema	オプション。Microsoft SQL Server データベースのスキーマ名。
-DbTablespace -db	db_tablespace	DB2 データベースの場合にのみ必須。テーブルスペース名を設定する際、Test Data Manager サービスによってすべてのリポジトリテーブルが同じテーブルスペースに作成されます。テーブルスペース名にスペースは使用できません。 テーブルスペースは単一ノード上で定義され、ページサイズは 32KB であることが必要です。複数パーティションのデータベースでは、このオプションを選択する必要があります。単一パーティションのデータベースでは、このオプションを選択しない場合、インストーラによってデフォルトのテーブルスペースにテーブルが作成されます。
-HttpPort	http_port	必須。サービス用のポート番号。

オプション	引数	説明
-HttpsPort	https_port	オプション。Administrator ツールへの接続をセキュリティ保護するポート番号。ノードで HTTPS を設定する場合にはこのポート番号を設定します。
-KeystoreFile -kf	keystore_file_location]	オプション。PowerCenter で SSL セキュリティプロトコルを使用する場合に必要なキーと証明書が含まれるキーストアファイル。
-KeystorePassword -kp	keystore_password	オプション。TLS が有効な場合は、パスワードを指定する必要があります。
-httpProtocolType -pt	http_protocol_type	<p>サービスが使用するセキュリティプロトコル。次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - HTTP。このサービスに対する要求では HTTP URL を使用する必要があります - HTTPS。このサービスに対する要求では HTTPS URL を使用する必要があります。 - 両方。このサービスに対する要求では HTTP URL か HTTPS URL のいずれかを使用できます。 <p>HTTP プロトコルタイプを HTTPS または両方に設定する場合は、このサービスに対して Transport Layer Security (TLS) を有効にします。</p> <p>1 つのアプリケーションにデプロイされた各 Web サービスに対して、TLS を有効にすることもできます。サービスに対して HTTPS を有効にし、Web サービスに対して TLS を有効にする場合、Web サービスで HTTPS URL が使われます。サービスに対して HTTPS を有効にし、Web サービスに対して TLS を有効にしない場合、Web サービスで HTTP URL または HTTPS URL を使用できます。サービスに対して HTTPS を有効にせずに、Web サービスに対して TLS を有効にする場合、Web サービスが起動しません。</p> <p>デフォルトは HTTP です。</p>

オプション	引数	説明
-jvmParams -jp	jvmParameters	<p>設定する JVM パラメータ:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Test Data Manager に割り当てられたヒープサイズ。 - TDM UI がアイドル状態のままの場合に、データベース接続が更新されるまでの時間です。データベースの構成設定を TDM のデフォルト値よりも低い値に変更した場合に必要です。データベースの値よりも低くなるように TDM の値を編集します。 <p>一重引用符、さらに二重引用符で囲まれた JVM パラメータを含めます。例えば、'value' と "value" です。</p> <p>-Xms オプションでは、大文字と小文字が区別されます。以下に例を示します。</p> <p>"-Xms512m -Xmx1024m -XX:MaxPermSize=512m"</p> <ul style="list-style-type: none"> - IDLE_TIME。 -IDLE_TIME=<秒>。デフォルトは 300 秒です。 - CONNECT_TIME。 -DCONNECT_TIME=<秒>。デフォルトは 5000 秒です。
-connPoolSize -cp	conn_pool_size	<p>オプション。最大アイドル時間に達する前にプールがデータベース接続で維持するアイドル接続インスタンスの最大数。アイドル状態の接続インスタンスの最小数より大きな値を設定します。デフォルトは 15 です。</p>
-jmxPort	jmx_port	<p>TDM への JMX/RMI 接続用のポート番号。デフォルトは 6675 です。</p>
-shutdownPort	shutdown_port	<p>TDM のシャットダウンを制御するポート番号。</p>

CreateContents

Test Data Manager リポジトリのリポジトリコンテンツを作成します。

infacmd tdm CreateContents コマンドでは、以下の構文を使用します。

```

<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

```

以下のテーブルに、infacmd tdm CreateContents のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトは Native です。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Test Data Manager サービス名。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

EnableService

Test Data Manager サービスを有効にします。

infacmd tdm EnableService コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
<-DomainName|-dn> domain_name  
<-ServiceName|-sn> service_name  
<-UserName|-un> user_name  
<-Password|-pd> password  
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]  
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下のテーブルに、infacmd isp EnableService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。コマンドの実行対象サービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトは Native です。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレールムと同じです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。</p>

DisableService

Test Data Manager サービスを無効にします。Test Data Manager サービスを無効にすると、すべてのサービスプロセスが停止します。

infacmd tdm DisableService コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-DisableMode|-dm> disable_mode: COMPLETE|ABORT|STOP
```

以下のテーブルに、infacmd tdm DisableService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	<p>必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。</p>
-ServiceName -sn	service_name	<p>必須。コマンドの実行対象サービスの名前。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む名前を入力するには、名前を引用符で囲みます。</p>

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	<p>ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。</p> <p>ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。</p>
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトは Native です。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレールムと同じです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、infacmd では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウトの値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。</p>
-DisableMode -dm	disable_mode	<p>必須。サービスを無効にする方法を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Complete すべてのサービスプロセスが停止した後に、サービスを無効にします。 - Abort 全プロセスを直ちに停止してから、サービスを停止します。 - 停止。実行中の全ワークフローを停止してから、サービスを無効化します。

第 25 章

infacmd wfs コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [abortWorkflow, 860](#) ページ
- [bulkComplete, 862](#) ページ
- [cancelWorkflow, 864](#) ページ
- [createTables, 866](#) ページ
- [dropTables, 868](#) ページ
- [listActiveWorkflowInstances, 869](#) ページ
- [listMappingPersistedOutputs, 871](#) ページ
- [listWorkflowParams, 873](#) ページ
- [listWorkflows, 875](#) ページ
- [recoverWorkflow, 877](#) ページ
- [setMappingPersistedOutputs, 879](#) ページ
- [startWorkflow, 882](#) ページ
- [upgradeParameterFile, 884](#) ページ

abortWorkflow

実行中のワークフローインスタンスを強制終了します。

割り当てタスクまたは排他ゲートウェイが実行されている場合には、データ統合サービスはそのタスクまたはゲートウェイを完了します。タスクが強制終了または完了した後、サービスはワークフローインスタンスを強制終了します。以降のワークフローオブジェクトの実行が開始されることはありません。

infacmd wfs abortWorkflow コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
abortWorkflow
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
```

<-InstanceId|-iid> instance_id

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd wfs abortWorkflow のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ワークフローインスタンスを実行しているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-Instanceid -iid	強制終了されるワークフローのインスタンス ID	必須。強制終了するワークフローインスタンス ID。ワークフローインスタンス ID は、Administrator ツールの [監視] タブに表示されているワークフロープロパティで確認できます。または、infacmd wfs ListActiveWorkflowInstances を実行して、ワークフローインスタンス ID を検索してください。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

bulkComplete

指定したワークフローのヒューマンタスクのすべての操作を停止し、タスクによって特定されたレコードをワークフローの次のステージに渡します。bulkComplete コマンドは、ヒューマンタスクのステップのステータスを更新し、ステップが完了していることを示します。このコマンドは、タスクによって特定されたレコードのステータスを編集または更新しません。

bulkComplete コマンドでは、次の構文を使用します。

bulkComplete

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

<-InstanceId|-iid> Instance_id

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd wfs bulkComplete のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ワークフローインスタンスを実行しているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
InstanceID -iid	Instance_ID	必須。完了させるヒューマンタスクを実行するワークフローの一意的識別子。 ワークフローインスタンス ID は、Administrator ツールの [監視] タブに表示されているワークフロープロパティで確認できます。または、infacmd wfs ListActiveWorkflowInstances を実行して、ワークフローインスタンス ID を検索してください。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

cancelWorkflow

実行中のワークフローインスタンスをキャンセルします。ワークフローインスタンスをキャンセルすると、データ統合サービスは実行中のすべてのタスクの処理を終了してからワークフローインスタンスの処理を停止します。以降のオブジェクトの実行が開始されることはありません。

infacmd wfs cancelWorkflow コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
cancelWorkflow
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-InstanceID|-iid> instance_ID
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```


以下の表に、infacmd wfs cancelWorkflow のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ワークフローインスタンスを実行しているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。

オプション	引数	説明
-InstanceID -iid	instance_ID	必須。キャンセルするワークフローインスタンス ID。 ワークフローインスタンス ID は、Administrator ツールの [監視] タブに表示されているワークフロープロパティで確認できます。または、 <code>infacmd wfs ListActiveWorkflowInstances</code> を実行して、ワークフローインスタンス ID を検索してください。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

createTables

ワークフローのランタイムメタデータを格納するデータベーステーブルを作成します。このコマンドは空のテーブルを作成します。このコマンドを実行する際には、ワークフローを実行するサービスを特定してください。

データベーステーブルを作成する前に、ワークフローを実行するデータ統合サービス上で以下のオプションを確認します。

- Workflow Orchestration サービスモジュールがデータ統合サービス上でアクティブであること。
- Workflow Orchestration サービスモジュールのプロパティで、ワークフローメタデータを格納するデータベースの接続が特定されていること。

createTables コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
createTables
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、infacmd wfs createTables のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ServiceName -sn	service_name	必須。メタデータをテーブルに書き込むワークフローを実行する、データ統合サービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

dropTables

ワークフローのランタイムメタデータを格納するデータベーステーブルを削除します。

dropTables コマンドでは、次の構文を使用します。

```
dropTables
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> Password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、`infacmd wfs dropTables` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ServiceName -sn	service_name	必須。データ削除の対象であるワークフローを実行するサービスの名前。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

listActiveWorkflowInstances

アクティブなワークフローインスタンスをリスト表示します。アクティブなワークフローインスタンスとは、アクションを実行することのできるインスタンスです。アクティブなワークフローインスタンスそれぞれの状態、ワークフローインスタンス ID、ワークフロー名、およびアプリケーション名を一覧表示します。

アクティブなワークフローインスタンスには、実行中のワークフローインスタンスと、キャンセルされてリカバリのために有効にされたワークフローインスタンスがあります。

infacmd wfs listActiveWorkflowInstances コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
listActiveWorkflowInstances
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

以下の表に、`infacmd wfs listActiveWorkflowInstances` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ワークフローインスタンスを実行しているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

listMappingPersistedOutputs

保持されている各マッピング出力の状態を一覧表示します。保持されているマッピング出力値を更新するには、`infacmd wfs setMappingPersistedOutputs` コマンドを使用します。

`infacmd wfs listMappingPersistedOutputs` コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
listMappingPersistedOutputs
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-Application|-a> application_name
<-Workflow|-wf> workflow_name
<-MappingTaskInstance|-mti> mapping_task_instance_name
```

以下の表に、`infacmd wfs listMappingPersistedOutputs` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ワークフローを実行するデータ統合サービスの名前。ワークフローが含まれるアプリケーションは、データ統合サービスにデプロイされている必要があります。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p> <p>必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードには、大文字と小文字の区別があります。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p> <p>オプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。</p>
-Application -a	application_name	<p>必須。ワークフローが含まれるアプリケーションの名前。</p>
-Workflow -wf	workflow_name	<p>必須。ワークフロー名。</p>
- mti	MappingTaskInstance	<p>必須。マッピング出力を作成したマッピングタスクの名前。</p>

listWorkflowParams

ワークフローのパラメータを一覧表示し、ワークフローを実行するときに使用できるパラメータファイルを作成します。このコマンドは、更新可能なデフォルト値を含む XML ファイルを返します。infacmd wfs startWorkflow を使用してワークフローを実行する場合は、パラメータファイル名を入力します。

infacmd wfs listWorkflowParams コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
listWorkflowParams
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-Application|-a> application_name
<-Workflow|-wf> workflow_name
[<-OutputFile|-o> output_file_to_write_to]
```

以下の表に、infacmd wfs listWorkflowParams のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ワークフローを実行するデータ統合サービスの名前。ワークフローが含まれるアプリケーションは、データ統合サービスにデプロイされている必要があります。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p> <p>必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードには、大文字と小文字の区別があります。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p> <p>オプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。</p>
-Application -a	application_name	<p>必須。ワークフローが含まれるアプリケーションの名前。</p>
-Workflow -wf	workflow_name	<p>必須。ワークフロー名。</p>
-OutputFile -o	output file_to_write_to	<p>オプション。作成するパラメータファイルのパスとファイル名。ファイルを指定しないと、コマンドプロンプトにパラメータが表示されます。</p>

listWorkflowParams の出力

listWorkflowParams コマンドは、更新可能なデフォルト値を含む XML ファイルとしてパラメータファイルを返します。

例えば、アプリケーション「MyApp」およびワークフロー「MyWorkflow」に対して listWorkflowParams コマンドを実行するとします。ワークフロー「MyWorkflow」には、「MyParameter」というパラメータが 1 つあります。

listWorkflowParams コマンドは、以下の形式で XML ファイルを返します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>
<root xmlns="http://www.informatica.com/Parameterization/1.0"
      xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
      version="2.0"><!--Specify deployed application specific parameters here.--><!--
  <application name="MyApp">
    <workflow name="MyWorkflow"/>
  </application--><project name="MyProject">
    <workflow name="MyWorkflow">
      <parameter name="MyParameter">Default</parameter>
    </workflow>
  </project>
</root>
```

出力 XML ファイルには以下の最上位要素が含まれます。

アプリケーションの要素

アプリケーションの最上位要素内でパラメータを定義した場合、指定されたワークフローを指定されたアプリケーションで実行するときに、Data Integration Service によってそのパラメータ値が適用されます。アプリケーション/ワークフローの要素内には、プロジェクトの要素を 1 つ以上含める必要があります。

デフォルトでは、この最上位要素はコメントアウトされています。この要素を使用するには、コメント (!--および-->) を削除します。

プロジェクトのエレメント

プロジェクトの最上位要素内でパラメータを定義した場合、デプロイされたアプリケーションのプロジェクトの指定されたワークフローに、Data Integration Service によってそのパラメータ値が適用されます。プロジェクトでオブジェクトを使用するワークフローにもパラメータ値が適用されます。

同じパラメータファイルでプロジェクトとアプリケーションの最上位要素に同じパラメータを定義すると、アプリケーション要素で定義されたパラメータ値が優先されます。

listWorkflows

アプリケーション内のワークフローを一覧表示します。

infacmd wfs listWorkflows コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
listWorkflows
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-Application|-a> application_name

以下の表に、infacmd wfs listWorkflows のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ワークフローを実行するデータ統合サービスの名前。ワークフローが含まれるアプリケーションは、データ統合サービスにデプロイされている必要があります。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。 必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。 オプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。これら両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	application_name	必須。ワークフローが含まれるアプリケーションの名前。

recoverWorkflow

ワークフローインスタンスをリカバリします。キャンセルしたワークフローインスタンス、またはリカバリ可能なエラーによって中断されたワークフローインスタンスはリカバリできます。ワークフローインスタンスをリカバリすると、データ統合サービスは、中断されたタスクでワークフローインスタンスを再開し、中断されたタスクを再実行します。

infacmd wfs recoverWorkflow コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
recoverWorkflow
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-InstanceID|-iid> instance_ID
```

[<-Wait|-w> true|false]

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

以下の表に、infacmd wfs recoverWorkflow のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。元のワークフローインスタンスを実行していたデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-InstanceID -iid	リカバリされるワークフローのインスタンス ID	必須。リカバリするワークフローインスタンス ID。ワークフローインスタンス ID は、Administrator ツールの [監視] タブに表示されているワークフロープロパティで確認できます。または、infacmd wfs ListActiveWorkflowInstances を実行して、ワークフローインスタンス ID を検索してください。
-Wait -w	true false	オプション。ワークフローインスタンスがリカバリされるのを待機してからシェルまたはコマンドプロンプトに戻るかどうかを示します。true の場合、infacmd はワークフローインスタンスのリカバリ後にシェルまたはコマンドプロンプトに戻ります。ワークフローインスタンスがリカバリされるまでは、以降のコマンドを実行できません。false の場合、infacmd はすぐにシェルまたはコマンドプロンプトに戻ります。次のコマンドを実行する前にワークフローインスタンスがリカバリされるのを待つ必要はありません。デフォルトは False です。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

setMappingPersistedOutputs

ワークフロー内のマッピングタスクインスタンスについて、保持されているマッピング出力を更新します。または、保持されているマッピング出力を NULL 値に設定します。コマンドオプションは、マッピングタスクインスタンス名、アプリケーション名、およびワークフロー名を指定します。

値を更新するには、マッピング出力名と変更後の値を含む、名前と値のペアを入力します。保持されている値を NULL 値にリセットするには、リセットオプションを使用します。マッピングタスクインスタンスの一部のマッピング出力またはすべてのマッピング出力をリセットできます。保持されているマッピング出力を表示するには、infacmd listMappingPersistedOutputs コマンドを使用します。

infacmd wfs setMappingPersistedOutputs コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
setMappingPersistedOutputs
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-ServiceName|-sn> service_name]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-Application|-a> application_name
<-Workflow|-wf> workflow_name
```

```
<-MappingTaskInstance|-mti> mapping_task_instance_name]
<-outputValues|-onvp> space_separated_output_value_pairs
[<-resetOutputs |-reset> reset_outputs]
```

以下の表に、`infacmd wfs setMappingPersistedOutputs` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN</code> を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ワークフローを実行するデータ統合サービスの名前。ワークフローが含まれるアプリケーションは、データ統合サービスにデプロイされている必要があります。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER</code> を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 <code>INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD</code> を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。 必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードには、大文字と小文字の区別があります。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。</p> <p>オプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。</p>
-Application -a	application_name	<p>必須。ワークフローが含まれるアプリケーションの名前。</p>
-Workflow -wf	workflow_name	<p>必須。ワークフロー名。</p>
-MappingTaskInstance -mti	mappingTaskInstanceName	<p>必須。マッピング出力を作成したマッピングタスクの名前。</p>
-outputvalues -onvp	space_separated_output_value_pairs	<p>オプション。保持されている、特定のマッピング出力の値を変更します。次の構文を使用して、名前と値のペアをスペースで区切って入力します。</p> <pre>output_name=value output2_name=value output3_name=value</pre>
-ResetOutputs -reset	reset_outputs	<p>オプション。リポジトリからマッピング出力値を削除します。特定のマッピング出力をリセットするには、次の構文を使用して、リセットオプションと、スペースで区切ったマッピング出力名を入力します。</p> <pre>-reset mapping_output_name mapping_output2_name mapping_output3_name</pre>

startWorkflow

ワークフローのインスタンスを開始します。複数のワークフローインスタンスを同時に実行できます。ワークフローには、パラメータファイルまたはパラメータセットのどちらかを使用できます。

infacmd wfs startWorkflow コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
startWorkflow
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-Application|-a> application_name
```

```
<-Workflow|-wf> workflow_name
```

```
[<-Wait|-w> true|false]
```

```
[<-ParameterFile|-pf> parameter file path]
```

```
[<-ParameterSet|-ps> ParameterSet name. Both ParameterFile and ParameterSet should not be given]
```

このコマンドはインスタンス ID を返します。

以下の表に、infacmd wfs startWorkflow のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ワークフローを実行するデータ統合サービスの名前。ワークフローが含まれるアプリケーションは、データ統合サービスにデプロイされている必要があります。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p> <p>必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードには、大文字と小文字の区別があります。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p> <p>オプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。</p>
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	<p>オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。</p>
-Application -a	application_name	<p>必須。ワークフローが含まれるアプリケーションの名前。</p>
-Workflow -wf	workflow_name	<p>必須。開始するワークフローの名前。</p>

オプション	引数	説明
-Wait -w	true false	オプション。infacmd が、シェルまたはコマンドプロンプトに戻る前にワークフローインスタンスが完了するのを待機するかどうかを示します。true の場合、infacmd はワークフローインスタンスの完了後にシェルまたはコマンドプロンプトに戻ります。ワークフローインスタンスが完了するまでは、以降のコマンドを実行できません。false の場合、infacmd はすぐにシェルまたはコマンドプロンプトに戻ります。次のコマンドを実行する前にワークフローインスタンスが完了するのを待つ必要はありません。デフォルトは False です。
-ParameterFile -pf	パラメータファイルのパス	オプション。パラメータファイルの名前およびパス。 同じコマンドに、パラメータファイル名とパラメータセット名を入力しないでください。
-ParameterSet -ps	パラメータセット	オプション。実行時に使用するパラメータセットの名前。パラメータセットオプションは、アプリケーションとともにデプロイされたすべてのパラメータセットをオーバーライドします。 同じコマンドに、パラメータファイル名とパラメータセット名を入力しないでください。

upgradeParameterFile

パラメータファイル内の値をアップグレードし、ファイル内のパラメータ値が現在のリリースで有効であることを確認します。コマンドを実行する場合、アップグレードするパラメータファイルを特定し、有効なパラメータ値を含めるターゲットファイルを指定します。

infacmd wfs upgradeParameterFile コマンドでは、以下の構文を使用します。

```

upgradeParameterFile
<-DomainName|-dn> domain_name
<-ServiceName|-sn> service_name
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
<-Application|-a> application_name
<-Workflow|-wf> workflow_name
<-ParameterFile|-pf> parameter file path
<-TargetOutputFile|-of> output_file_path

```

以下の表に、infacmd wfs upgradeParameterFile のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。ワークフローを実行するデータ統合サービスの名前。ワークフローが含まれるアプリケーションは、データ統合サービスにデプロイされている必要があります。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。 必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードには、大文字と小文字の区別があります。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。 オプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはネイティブです。

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-Application -a	application_name	必須。ワークフローが含まれるアプリケーションの名前。
-Workflow -wf	workflow_name	必須。値パラメータファイルを読み取るワークフローの名前。
-Wait -w	true false	オプション。infacmd が、シェルまたはコマンドプロンプトに戻る前にワークフローインスタンスが完了するのを待機するかどうかを示します。true の場合、infacmd はワークフローインスタンスの完了後にシェルまたはコマンドプロンプトに戻ります。ワークフローインスタンスが完了するまでは、以降のコマンドを実行できません。false の場合、infacmd はすぐにシェルまたはコマンドプロンプトに戻ります。次のコマンドを実行する前にワークフローインスタンスが完了するのを待つ必要はありません。デフォルトは False です。
-ParameterFile -pf	パラメータファイルのパス	必須。アップグレードする値が含まれるパラメータファイルの名前と場所。
-TargetOutputFile -of	パラメータファイルのパス	必須。コマンドからの出力ファイルの名前と場所。出力ファイルには、現在のリリースで有効なパラメータが含まれます。

第 26 章

infacmd ws コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [ListOperationOptions, 887](#) ページ
- [ListOperationPermissions, 889](#) ページ
- [ListWebServiceOptions, 891](#) ページ
- [ListWebServicePermissions, 893](#) ページ
- [ListWebServices, 895](#) ページ
- [RenameWebService, 896](#) ページ
- [SetOperationPermissions, 898](#) ページ
- [SetWebServicePermissions, 901](#) ページ
- [StartWebService, 903](#) ページ
- [StopWebService, 905](#) ページ
- [UpdateOperationOptions, 906](#) ページ
- [UpdateWebServiceOptions, 908](#) ページ

ListOperationOptions

データ統合サービスにデプロイされている Web サービス操作のプロパティを一覧表示します。

infacmd ws ListOperationOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ListOperationOptions
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-WebService|-ws> web_service
```

<-Operation|-op> operation

以下の表に、infacmd ws ListOperationOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Web サービスがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
-WebService -ws	web_service	必須。Web サービスの名前。
Operation -op	operation	必須。プロパティを一覧表示する Web サービス操作の名前。

ListOperationPermissions

Web サービス操作のユーザーおよびグループの権限を一覧表示します。直接権限または有効な権限を指定する必要があります。

infacmd ws ListOperationPermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListOperationPermissions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-WebService|-ws> web_service

<-Operation|-op> operation

<<-Direct> direct_permission_only|<-Effective> effective_permission_only

以下の表に、infacmd ws ListOperationPermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Web サービスがデプロイされているデータ統合サービスの名前。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	<p>ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。</p> <p>ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。</p>
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレムと同じです。</p>

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-WebService -ws	web_service	必須。Web サービスの名前。
-Operation -op	operation	必須。プロパティを一覧表示する Web サービス操作の名前。
-Direct または -Effective	direct_permission_only effective_permission_only	必須。Direct を入力すると、割り当てられた権限が一覧表示されます。Effective を入力すると、継承された権限が一覧表示されます。

ListWebServiceOptions

データ統合サービスにデプロイされている Web サービスのプロパティを一覧表示します。プロパティの設定には、Administrator ツールまたは infacmd ws UpdateWebServiceOptions を使用できます。

infacmd ws ListWebServiceOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListWebServiceOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-WebService|-ws> web_service

以下の表に、infacmd ws ListWebServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Web サービスがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されません。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-WebService -ws	web_service	必須。Web サービスの名前。

ListWebServicePermissions

データ統合サービスにデプロイされている Web サービスのグループおよびユーザーの権限を一覧表示します。直接権限または有効な権限を指定する必要があります。

以下の表に、infacmd ws ListWebServicePermissions のオプションおよび引数を示します。

ListWebServicePermissions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-WebService|-ws> web_service

<<-Direct> direct_permission_only|<-Effective> effective_permission_only

以下の表に、infacmd ws ListWebServicePermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Web サービスがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレールと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間（秒）。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-WebService -ws	web_service	必須。Web サービスの名前。
-Direct または -Effective	direct_permission_only effective_permission_only	必須。Direct を入力すると、割り当てられた権限が一覧表示されます。Effective を入力すると、継承された権限が一覧表示されます。

ListWebServices

アプリケーションの Web サービスを一覧表示します。アプリケーション名を入力しない場合、データ統合サービスのすべての Web サービスが表示されます。

infacmd ws ListWebServices コマンドでは、以下の構文を使用します。

ListWebServices

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-WebService|-ws> web_service

[<-Application|-a> application]

以下の表に、infacmd ws ListWebServices のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Web サービスがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-application -ap	アプリケーション	オプション。Web サービスを一覧表示するアプリケーションの名前。

RenameWebService

Web サービスの名前を変更します。

infacmd ws RenameWebService コマンドでは、以下の構文を使用します。

RenameWebService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-WebService|-ws> web_service

<-NewName|-n> new_name

以下の表に、infacmd ws RenameWebService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Web サービスがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
-WebService -ws	web_service	必須。Web サービスの名前。
-NewName -n	new_name	必須。Web サービスの新しい名前。

SetOperationPermissions

Web サービス操作に対するグループ権限またはユーザー権限を設定します。ユーザーまたはグループの権限を設定または拒否します。

infacmd ws SetOperationPermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

SetOperationPermissions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-WebService|-ws> web_service

<-Operation|-op> operation

<-GranteeUserName|-gun> grantee_user_name|

<-GranteeGroupName|-ggn> grantee_group_name>

[<-GranteeSecurityDomain|-gsdn> grantee_security_domain]

[<-AllowedPermissions|-ap> list_of_allowed_permissions_separated_by_space]

[<-DeniedPermissions|-dp> list_of_denied_permissions_separated_by_space]

以下の表に、infacmd ws SetOperationPermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Web サービスがデプロイされているデータ統合サービスの名前。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	<p>ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。</p> <p>ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。</p>
-Password -pd	パスワード	<p>ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。</p>
-SecurityDomain -sdn	security_domain	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p>

オプション	引数	説明
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-WebService -ws	web_service	必須。Web サービスの名前。
-Operation -op	operation	必須。Web サービス操作の名前。
-GranteeUserName GranteeGroupName -gun -ggn	grantee_user_name grantee_group_name	必須。権限を設定または拒否するユーザー名またはグループ名。
-GranteeSecurityDomain -gsdn	grantee_security_domain	LDAP 認証を使用してユーザー権限を付与する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。
-AllowedPermissions -ap	list_of_allowed_permissions _separated_by_space	必須。許可する権限のリスト。以下のいずれかのパラメータをスペースで区切って入力します。 - GRANT。ユーザーは、Administrator ツールまたは infacmd コマンドラインプログラムを使用して、操作の権限を付与および取り消すことができます。 - EXECUTE。ユーザーは操作を実行できます。
-DeniedPermissions -dp	list_of_denied_permissions _separated_by_space	オプション。ユーザーを拒否する権限のリスト。以下のいずれかのパラメータをスペースで区切って入力します。 - GRANT。ユーザーは、操作に対する権限を付与および取り消すことができません。 - EXECUTE。ユーザーは操作を実行できません。

SetWebServicePermissions

Web サービスに対するグループ権限またはユーザー権限を設定します。ユーザーまたはグループごとに権限を設定または拒否します。

infacmd ws SetWebServicePermissions コマンドでは、以下の構文を使用します。

SetWebServicePermissions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-WebService|-ws> web_service

<-GranteeUserName|-gun> grantee_user_name|

<-GranteeGroupName|-ggn> grantee_group_name>

[<-GranteeSecurityDomain|-gsdn> grantee_security_domain]

[<-AllowedPermissions|-ap> list_of_allowed_permissions_separated_by_space]

[<-DeniedPermissions|-dp> list_of_denied_permissions_separated_by_space]

以下の表に、infacmd ws SetWebServicePermissions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Web サービスがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。 ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-WebService -ws	web_service	必須。Web サービスの名前。
-GranteeUserName GranteeGroupName -gun -ggn	grantee_user_name grantee_group_name	必須。権限を設定または拒否するユーザー名またはグループ名。
-GranteeSecurityDomain -gsdn	grantee_security_domain	LDAP 認証を使用してユーザー権限を付与する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。

オプション	引数	説明
-AllowedPermissions -ap	list_of_allowed_permissions _separated_by_space	必須。許可する権限のリスト。以下のいずれかのパラメータをスペースで区切って入力します。 - GRANT。ユーザーは、Administrator ツールまたは infacmd コマンドラインプログラムを使用して、Web サービスの権限を付与および取り消すことができます。 - EXECUTE。ユーザーは、Web サービスを実行できます。
-DeniedPermissions -dp	list_of_denied_permissions _separated_by_space	オプション。ユーザーを拒否する権限のリスト。以下のいずれかのパラメータをスペースで区切って入力します。 - GRANT。ユーザーは、Web サービスに対する権限を付与および取り消すことができません。 - EXECUTE。ユーザーは Web サービスを実行できません。

StartWebService

データ統合サービスにデプロイされている Web サービスを開始します。

infacmd ws StartWebService コマンドでは、以下の構文を使用します。

StartWebService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-WebService|-ws> web_service

以下の表に、infacmd ws StartWebService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	Web サービスがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-WebService -ws	web_service	必須。開始する Web サービスの名前。

StopWebService

実行中の Web サービスを停止します。

infacmd ws StopWebService コマンドでは、以下の構文を使用します。

StopWebService

<-DomainName|-dn> domain_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-ServiceName|-sn> service_name

<-WebService|-ws> web_service

以下の表に、infacmd ws StopWebService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	Web サービスがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-WebService -ws	web_service	必須。停止する Web サービスの名前。

UpdateOperationOptions

データ統合サービスにデプロイされている Web サービス操作のプロパティを更新します。

infacmd ws UpdateOperationOptions コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateOperationOptions

<-DomainName|-dn> domain_name

<-ServiceName|-sn> service_name

<-UserName|-un> user_name

<-Password|-pd> password

[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]

[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]

<-WebService|-ws> web_service

<-Operation|-op> operation

<-Options|-o> options

以下の表に、infacmd ws UpdateOperationOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Web サービスがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレームと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。
-WebService -ws	web_service	必須。Web サービスの名前。

オプション	引数	説明
Operation -op	operation	必須。更新する Web サービス操作の名前。
-Options -o> options	options	次の形式で Web サービスオプションを入力します。 ... -o option_type.option_name=value

操作オプション

Web サービス操作を更新するには、操作オプションを使用します。操作オプションは、`infacmd ws UpdateOperationOptions` と共に使用します。

操作オプションは次の形式で入力します。

```
... -o OperationOptions.option_name=value ...
```

以下の表に、`infacmd ws UpdateOperationOptions` のオプションを示します。

オプション	説明
<code>WebServiceOperationOptions.ResultSetCacheExpirationPeriod</code>	結果セットキャッシュを使用できる時間 (ミリ秒)。-1 に設定した場合、キャッシュには期限がありません。0 に設定した場合、結果セットキャッシュは無効になります。すべてのキャッシュで同じ有効期限を使用する場合は、有効期限を変更した後、結果セットキャッシュをパージします。デフォルトは 0 です。

UpdateWebServiceOptions

データ統合サービスにデプロイされている Web サービスのプロパティを更新します。Web サービスのプロパティを表示するには、`infacmd ws ListWebServiceOptions` コマンドを使用できます。

`infacmd ws UpdateWebServiceOptions` コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpdateWebServiceOptions
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

```
<-ServiceName|-sn> service_name
```

```
<-UserName|-un> user_name
```

```
<-Password|-pd> password
```

```
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
```

```
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

```
<-WebService|-ws> web_service
```

```
<-Options|-o> options
```

以下の表に、infacmd ws UpdateWebServiceOptions のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。Informatica ドメインの名前。ドメイン名は、-dn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でドメイン名を設定した場合、-dn オプションが優先されます。
-ServiceName -sn	service_name	必須。Web サービスがデプロイされているデータ統合サービスの名前。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-SecurityDomain -sdn	security_domain	ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。 ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-ResilienceTimeout -re	timeout_period_in_seconds	オプション。infacmd がドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。レジリエンスタイムアウト期間は、-re オプションまたは環境変数 INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT を使用して設定できます。両方の方法でレジリエンスタイムアウト期間を設定した場合、-re オプションが優先されます。

オプション	引数	説明
-WebService -ws	web_service	必須。Web サービスの名前。
-Options -o> options	オプション	各オプションはスペースで区切って入力します。

Web サービスオプション

Web サービスオプションを入力するには、特定の構文を使用します。

次の形式で Web サービスオプションを入力します。

```
... -o option_type.option_name=value
```

複数のオプションを入力するには、オプションをスペースで区切ります。スペースまたはアルファベット以外の文字を含む値を入力するには、値を引用符で囲みます。

以下の表に、Web サービスのオプションを示します。

オプション	説明
WebServiceOptions.startupType	アプリケーションの起動時や Web サービスの開始時に Web サービスが実行可能になるかどうかを示します。Enabled または Disabled を入力します。
WebServiceOptions.traceLevel	Web サービスのランタイムログに書き込まれるエラーメッセージのレベル。以下のいずれかのメッセージレベルを入力します。 - OFF - SEVERE - 警告 - INFO - FINE - FINEST - ALL
WebServiceOptions.requestTimeout	データ統合サービスでの操作マッピングの実行時に Web サービス要求がタイムアウトするまでの最大時間 (ミリ秒)。デフォルトは 3,600,000 です。
WebServiceOptions.maxConcurrentRequests	Web サービスで同時に処理できる要求の最大数。デフォルトは 10 です。
WebServiceOptions.sortOrder	Unicode モードでの実行時に、データ統合サービスがデータのソートと比較に使用するソート順。デフォルトはバイナリです。
WebServiceOptions.EnableTransportLayerSecurity	Web サービスで HTTPS を使用する必要があることを示します。HTTPS を使用するようにデータ統合サービスが設定されていない場合、Web サービスは開始されません。True または False を入力します。

オプション	説明
WebServiceOptions.EnableWSSecurity	<p>データ統合サービスが、ユーザー資格情報を検証し、ユーザーに各 Web サービス操作を実行する権限があることを確認できるようにします。 True または False を入力します。</p>
WebServiceOptions.optimizeLevel	<p>Data Integration Service がオブジェクトに適用する最適化レベルです。設定する最適化レベルに関連する数値を入力します。以下のいずれかの数値を入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 0. データ統合サービスは最適化を適用しません。 - 1. データ統合サービスは初期プロジェクション最適化方式を適用します。 - 2. データ統合サービスは、初期プロジェクション、初期選択、プッシュイン、および述部の各最適化方式を適用します。 - 3. データ統合サービスは、コストベース、初期プロジェクション、初期選択、プッシュイン、述部、準結合の各最適化方式を適用します。
WebServiceOptions.DTMKeepAliveTime	<p>DTM インスタンスが最後の要求の完了後にオープン状態を維持する期間（ミリ秒）。同じ操作に対して送信された Web サービス要求は、オープンインスタンスを再利用できます。要求の処理に必要な時間が、DTM インスタンスの初期化時間よりも短い場合は、キープアライブ時間を使用してパフォーマンスを向上させます。要求が失敗すると、DTM インスタンスは終了します。</p> <p>整数でなければなりません。負の整数値は、データ統合サービスに DTM キープアライブ時間が使用されることを示します。0 を指定した場合、データ統合サービスでは DTM インスタンスがメモリに残りません。デフォルトは-1 です。</p>

第 27 章

infacmd xrf コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [generateReadableViewXML, 912](#) ページ
- [updateExportXML, 912](#) ページ

generateReadableViewXML

読み取り可能な XML ファイルをエクスポート XML ファイルから生成します。エクスポート XML ファイルには、エクスポートされたドメインまたはモデルリポジトリコンテンツを含むことができます。

infacmd xrf generateReadableViewXML コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
generateReadableViewXML
```

```
<-SourceExportFile|-sxf> source_export_file
```

```
<-TargetFile|-tf> target_file_Name
```

以下の表に、infacmd xrf generateReadableViewXML のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-SourceExportFile -sxf	source_export_file	必須。エクスポート XML ファイルのパスとファイル名。
-TargetFile -tf	target_file_Name	必須。読み取り可能な XML ファイルのパスとファイル名。

updateExportXML

エクスポート XML ファイルを、対応する読み取り可能な XML ファイルに対して行われた変更で更新します。モデルリポジトリコンテンツを含む読み取り可能な XML ファイルを更新し、変更を反映したエクスポート XML ファイルを再生成できます。

infacmd xrf updateExportXML コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
updateExportXML
```

```
<SourceExportFile|-sxf> source_file
```


<generatedViewFile|-vf> view_file
<TargetFile|-tf> target_file_Name

以下の表に、infacmd xrf updateExportXML のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-SourceExportFile -sxf	source_file	必須。エクスポート XML ファイルのパスとファイル名。
-generatedViewFile -vf	view_file	必須。必要な変更を含む読み取り可能な XML ファイルのパスとファイル名。
-TargetFile -tf	target_file_Name	必須。更新されたエクスポート XML ファイルのパスとファイル名。

第 28 章

infacmd 制御ファイル

この章では、以下の項目について説明します。

- [infacmd 制御ファイルの概要, 914 ページ](#)
- [制御ファイルの構成, 915 ページ](#)
- [エクスポート制御ファイル, 915 ページ](#)
- [インポート制御ファイル, 920 ページ](#)
- [制御ファイルに関するルールおよびガイドライン, 928 ページ](#)
- [ドメインオブジェクト用の制御ファイルの例, 928 ページ](#)
- [モデルリポジトリオブジェクト用の制御ファイルの例, 930 ページ](#)

infacmd 制御ファイルの概要

infacmd コマンドラインプログラムを使用してオブジェクトのエクスポートとインポートを行う場合、制御ファイルを使用することで、エクスポートまたはインポートするオブジェクトをフィルタリングできます。

infacmd では以下の制御ファイルを使用することができます。

- エクスポート制御ファイル。エクスポート制御ファイルを使用して、ドメインまたはモデルリポジトリからエクスポートファイルにエクスポートするオブジェクトを指定します。
- エクスポート制御ファイル。エクスポート制御ファイルを使用して、モデルリポジトリからエクスポートファイルにエクスポートするオブジェクトを指定します。
- インポート制御ファイル。インポート制御ファイルを使用して、エクスポートファイルからドメインまたはモデルリポジトリにインポートするオブジェクトを指定します。
- インポート制御ファイル。インポート制御ファイルを使用して、エクスポートファイルからモデルリポジトリにインポートするオブジェクトを指定します。

エクスポート制御ファイルを使用せずにエクスポートを実行すると、ドメインまたは指定されたモデルリポジトリプロジェクトからエクスポートされたオブジェクトはフィルタリングされません。インポート制御ファイルを使用せずにドメインへのインポートを実行すると、エクスポートファイルに含まれているすべてのオブジェクトがインポートされます。インポート制御ファイルを使用せずにモデルリポジトリへのインポートを実行すると、エクスポートファイル内の指定されたプロジェクトに含まれているすべてのオブジェクトがインポートされます。

エクスポート制御ファイルを使用せずにエクスポートを実行すると、指定されたモデルリポジトリプロジェクトからエクスポートされたオブジェクトはフィルタリングされません。インポート制御ファイルを使用せずにモデルリポジトリへのインポートを実行すると、エクスポートファイル内の指定されたプロジェクトに含まれているすべてのオブジェクトがインポートされます。

制御ファイルの構成

制御ファイルは、エクスポートまたはインポートスキーマファイルに基づく XML ファイルです。以下のスキーマファイルに基づいて制御ファイルを作成できます。

- exportControl.xsd: エクスポート制御ファイルのレイアウトと構文を定義します。
- importControl.xsd: インポート制御ファイルのレイアウトと構文を定義します。

次のインストールディレクトリにある oie-util.jar の一部であるスキーマファイルにアクセスできます。

```
<InformaticaInstallationDir>/services/shared/jars/shapp
```

exportControl.xsd および importControl.xsd にコマンドラインからアクセスするには、oie-util.jar の場所へ移動し、jar ファイルを次のコマンドで解凍します:

```
jar -xvf <jar_name>
```

また、WinRAR のような解凍ソフトで oie-util.jar を抽出したり、Java 逆コンパイラを使用して xsd ファイルを oie-util.jar から表示させてスキーマファイルにアクセスすることができます。

エクスポート制御ファイルを作成するには、exportControl.xsd スキーマファイルに基づく XML ファイルを作成します。ファイルの先頭には、XML 宣言と、ホストされるスキーマファイルの場所を exportParams ルート要素内に記述する必要があります。以下の行をファイルに含めます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<exportParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/exportControl/9">
...
</exportParams>
```

インポート制御ファイルを作成するには、importControl.xsd スキーマファイルに基づく XML ファイルを作成します。このファイルの先頭には、XML 宣言と、ホストされるスキーマファイルの場所を importParams ルート要素内に記述する必要があります。以下の行をファイルに含めます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<importParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/importControl/9">
...
</importParams>
```

エクスポートまたはインポートするオブジェクトに基づいて、XML ファイルに残りの要素と属性を記述します。

制御ファイルの命名規則

制御ファイルには、わかりやすい名前を付けます。

各ファイル名に、エクスポート制御ファイルまたはインポート制御ファイルであることを示すプレフィックスを追加します。例えば、以下のような命名規則を使用します。

- エクスポート制御ファイルの場合: ecf_<file_name>.xml
- インポート制御ファイルの場合: icf_<file_name>.xml

ドメインオブジェクト用の制御ファイルの名前には、エクスポートまたはインポート対象と見なされるオブジェクトタイプをファイル名に加えることもできます。

エクスポート制御ファイル

エクスポート制御ファイルは、infacmd コマンドと一緒に使用する XML ファイルです。この制御ファイルは、ドメインまたはモデルリポジトリからエクスポートされるオブジェクトをフィルタリングします。エクスポート

ト制御ファイルは、`infacmd` コマンドと一緒に使用する XML ファイルです。この制御ファイルは、モデルリポジトリからエクスポートされるオブジェクトをフィルタリングします。

エクスポート制御ファイルは以下のコマンドと一緒に使用できます。

エクスポート制御ファイルは以下のコマンドと一緒に使用できます。

`infacmd isp ExportDomainObjects`

ネイティブユーザー、ネイティブグループ、ロール、および接続を、ドメインから XML 形式のエクスポートファイルへエクスポートします。このコマンド用のエクスポート制御ファイルを指定する場合、エクスポート対象のオブジェクトをフィルタリングできます。例えば、制御ファイルを使用して、指定した日付より後に作成されたすべてのオブジェクトをエクスポートしたり、接続だけをエクスポートし、他のオブジェクトタイプは一切エクスポートしないようにすることができます。

`infacmd oie ExportObjects`

指定されたプロジェクトから XML 形式のエクスポートファイルへ、すべてのモデルリポジトリオブジェクトタイプをエクスポートします。このコマンド用のエクスポート制御ファイルを指定する場合、エクスポート対象のオブジェクトをフィルタリングできます。例えば、制御ファイルを使用して、指定されたユーザーによって作成されたオブジェクトをすべてエクスポートしたり、プロジェクト内の特定のオブジェクトタイプをエクスポートしたりできます。

`Infacmd` は空のフォルダーをエクスポートしません。モデルリポジトリオブジェクトをエクスポートする場合、`infacmd` は依存オブジェクトもエクスポートします。依存オブジェクトは、別のオブジェクトによって使用されるオブジェクトです。依存オブジェクトは、同じプロジェクト内にある場合と別のプロジェクト内にある場合があります。

エクスポート制御ファイルでは、ドメインオブジェクトとモデルリポジトリオブジェクトのどちらをエクスポートするようにファイルを構成したかに基づいて、異なるパラメータを使用します。

エクスポート制御ファイルでは、モデルリポジトリオブジェクトをエクスポートするようにファイルを構成したかどうかに基づいて、異なるパラメータを使用します。

ドメインオブジェクト用のエクスポート制御ファイルのパラメータ

エクスポート制御ファイルのパラメータを使用して、ドメインからエクスポートするオブジェクトを構成します。

ドメインオブジェクト用のエクスポート制御ファイルは、以下の要素を含むことができます。

- `exportParams`: 複数の `objectList` 要素を含むことができます。
- `ObjectList`. オブジェクトをタイプでフィルタリングするための属性を含みます。複数の `object` 要素を含むことができます。
- `object`: オブジェクトを名前でフィルタリングする属性を含みます。

以下の表に、構成可能な属性を持つエクスポート制御ファイル要素を示します。

要素	属性名	属性の説明
objectList	type	必須。エクスポートするドメインオブジェクトのタイプ。以下のいずれかの値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - ユーザー - グループ - ロール - 接続 値の大文字と小文字は区別されません。
objectList	createdBefore	オプション。日付と時刻。指定されたタイプのオブジェクトで、この日時より前に作成されたものをエクスポートします。以下の形式で日付と時刻を入力します。 yyyy-MM-dd HH:mm:ssZ
objectList	createdAfter	オプション。日付と時刻。指定されたタイプのオブジェクトで、この日時より後に作成されたものをエクスポートします。以下の形式で日付と時刻を入力します。 yyyy-MM-dd HH:mm:ssZ
objectList	lastUpdatedBefore	オプション。日付と時刻。指定されたタイプのオブジェクトで、この日時より前に更新されたものをエクスポートします。以下の形式で日付と時刻を入力します。 yyyy-MM-dd HH:mm:ssZ
objectList	lastUpdatedAfter	オプション。日付と時刻。指定されたタイプのオブジェクトで、この日時より後に更新されたものをエクスポートします。以下の形式で日付と時刻を入力します。 yyyy-MM-dd HH:mm:ssZ
object	name	必須。エクスポートするオブジェクトの名前。所属する objectList 要素に time 属性が含まれている場合、指定されたオブジェクト名と、その time 属性の両方に一致するオブジェクトがエクスポートされます。値の大文字と小文字は区別されません。

ドメインオブジェクト用のエクスポート制御ファイルのサンプル

以下のコードは、ドメインオブジェクト用のエクスポート制御ファイルの例です。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<exportParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/exportControl/9">

  <!-- Export a specific connection. -->
  <objectList type="connection" >
    <object name="connection1" />
  </objectList>

  <!-- Export groups created before the specified date and time. -->
  <objectList type="group" createdBefore="2010-11-12 10:00:00 +0530" />

  <!-- Export role1 and role2 if created after the specified date and time. -->
  <objectList type="role" createdAfter="2010-12-25 10:00:00 +0530">
    <object name="role1" />
    <object name="role2" />
  </objectList>

  <!-- Export all users. -->
```

```
<objectList type="user" />
</exportParams>
```

モデルリポジトリオブジェクト用のエクスポート制御ファイルのパラメータ

エクスポート制御ファイルパラメータを使用して、モデルリポジトリからエクスポートするオブジェクトを構成します。

モデルリポジトリオブジェクト用のエクスポート制御ファイルは、以下の要素を含むことができます。

- exportParams: 1 つの folders 要素を含むことができます。
- folders: 複数の folder 要素を含むことができます。
- folder: 特定のフォルダー内にあるオブジェクトをフィルタリングするための属性を含みます。複数の objectList 要素を含むことができます。
- ObjectList: オブジェクトをタイプでフィルタリングするための属性を含みます。複数の object 要素を含むことができます。
- object: オブジェクトを名前でフィルタリングする属性を含みます。

以下の表に、エクスポート制御ファイル内のフォルダ要素の設定可能な属性を示します。

属性名	属性の説明
path	<p>オプション。エクスポートするオブジェクトが含まれているフォルダへのパス。次の形式を使用します。</p> <pre>"/<folder_name>/<folder_name>"</pre> <p>例えば、プロジェクトに F1 という名前のフォルダが含まれている場合、F1 のフォルダパスは"/F1"となります。プロジェクト内のオブジェクトをすべてエクスポートするには、"/"と指定します。値の大文字と小文字は区別されません。デフォルトは"/"です。</p>
recursive	<p>オプション。指定したフォルダのサブフォルダにあるオブジェクトもエクスポートするかどうかを示します。サブフォルダからエクスポートする場合は true に設定します。有効な値は true と false です。値は大文字と小文字が区別されます。デフォルトは true です。</p>
select	<p>オプション。フォルダの objectList 要素を定義する場合、指定したフォルダにある残りのすべてのオブジェクトをエクスポートするかどうかを示します。残りのすべてのオブジェクトをエクスポートするには、all に設定します。例えば、以下のコードは、user1 によって作成されたマッピングをエクスポートします。このコードは、指定したフォルダ内の残りのすべてのオブジェクトをエクスポートします。</p> <pre><folder path="/Testfolder" select="all"> <objectList type="Mapping" createdBy="user1" /> </folder></pre> <p>objectList 要素を定義していて select 属性を使用しない場合、objectList 内に定義されている属性を満たすオブジェクトがエクスポートされます。例えば、以下のコードは、指定したフォルダ内で user1 によって作成されたマッピングをエクスポートします。</p> <pre><folder path="/Testfolder"> <objectList type="Mapping" createdBy="user1" /> </folder></pre> <p>フォルダの objectList 要素を定義していない場合、select 属性のデフォルト値は all です。例えば、以下のコードは、指定したフォルダ内のすべてのオブジェクトをエクスポートします。</p> <pre><folder path="/Testfolder" /></pre> <p>有効な値は all です。</p>

属性名	属性の説明
createdBy	オプション。ユーザー名。このユーザーによって作成されたオブジェクトをエクスポートします。値の大文字と小文字は区別されません。
createdBefore	オプション。日付と時刻。この日時より前に作成されたオブジェクトをエクスポートします。以下の形式で日付と時刻を入力します。 yyyy-MM-dd HH:mm:ssZ
createdAfter	オプション。日付と時刻。この日時より後に作成されたオブジェクトをエクスポートします。以下の形式で日付と時刻を入力します。 yyyy-MM-dd HH:mm:ssZ
lastUpdatedBefore	オプション。日付と時刻。この日時より前に更新されたオブジェクトをエクスポートします。以下の形式で日付と時刻を入力します。 yyyy-MM-dd HH:mm:ssZ
lastUpdatedAfter	オプション。日付と時刻。この日時より後に更新されたオブジェクトをエクスポートします。以下の形式で日付と時刻を入力します。 yyyy-MM-dd HH:mm:ssZ
lastUpdatedBy	オプション。ユーザー名。このユーザーが最終更新者であるオブジェクトをエクスポートします。値の大文字と小文字は区別されません。

以下の表に、エクスポート制御ファイル内の objectList 要素の設定可能な属性を示します。

属性名	属性の説明
type	必須。指定されたフォルダパスからエクスポートするモデルリポジトリオブジェクトのタイプ。有効な値には、モデルリポジトリ内に存在するすべてのオブジェクトタイプなどがあります。オブジェクトのタイプは、Developer ツールの [プロパティ] ビューで確認できます。例えば、「Relational Data Object」または「Profile」と入力できます。値の大文字と小文字は区別されません。
createdBy	オプション。ユーザー名。指定されたタイプのオブジェクトで、このユーザーによって作成されたものをエクスポートします。値の大文字と小文字は区別されません。
createdBefore	オプション。日付と時刻。指定されたタイプのオブジェクトで、この日時より前に作成されたものをエクスポートします。以下の形式で日付と時刻を入力します。 yyyy-MM-dd HH:mm:ssZ
createdAfter	オプション。日付と時刻。指定されたタイプのオブジェクトで、この日時より後に作成されたものをエクスポートします。以下の形式で日付と時刻を入力します。 yyyy-MM-dd HH:mm:ssZ
lastUpdatedBefore	オプション。日付と時刻。指定されたタイプのオブジェクトで、この日時より前に更新されたものをエクスポートします。以下の形式で日付と時刻を入力します。 yyyy-MM-dd HH:mm:ssZ

属性名	属性の説明
lastUpdatedAfter	オプション。日付と時刻。指定されたタイプのオブジェクトで、この日時より後に更新されたものをエクスポートします。以下の形式で日付と時刻を入力します。 yyyy-MM-dd HH:mm:ssZ
lastUpdatedBy	オプション。ユーザー名。指定されたタイプのオブジェクトで、このユーザーが最終更新者であるものをエクスポートします。値の大文字と小文字は区別されません。

以下の表に、エクスポート制御ファイル内の object 要素の設定可能な属性を示します。

属性名	属性の説明
name	必須。エクスポートするオブジェクトの名前。所属する objectList 要素に user 属性（または time 属性）が含まれている場合、指定されたオブジェクト名と、その user フィルタ（または time フィルタ）の両方に一致するオブジェクトがエクスポートされます。値は大文字と小文字が区別されます。

モデルリポジトリオブジェクト用のエクスポート制御ファイルのサンプル

以下のコードは、モデルリポジトリオブジェクト用のエクスポート制御ファイルの例です。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<exportParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/exportControl/9">
  <folders>

    <!-- Consider exporting all objects in the project. Do not export from subfolders. -->
    <folder recursive="false" select="all">

      <!-- Export mapping1 if created by the specified user. -->
      <objectlist type="Mapping" createdBy="user1">
        <object name="mapping1" />
      <!-- Export all other mappings. -->
      </objectlist>

      <!-- Export Aggregator transformations created by the specified user. -->
      <objectlist type="Aggregator" createdBy="user1" />

      <!-- Export all remaining objects. -->
    </folder>
  </folders>
</exportParams>
```

インポート制御ファイル

インポート制御ファイルは、infacmd コマンドと一緒に使用する XML ファイルです。この制御ファイルは、エクスポートファイルからドメインまたはモデルリポジトリへインポートされるオブジェクトをフィルタリングします。インポート制御ファイルは、infacmd コマンドと一緒に使用する XML ファイルです。この制御ファイルは、エクスポートファイルからモデルリポジトリへインポートされるオブジェクトをフィルタリングします。

インポート制御ファイルは、以下のコマンドと一緒に使用できます。

インポート制御ファイルは、以下のコマンドと一緒に使用できます。

infacmd isp ImportDomainObjects

ネイティブユーザー、ネイティブグループ、ロール、および接続をエクスポートファイルからドメインへインポートします。コマンド用のインポート制御ファイルを指定する場合、以下の操作を実行できます。

- インポートするオブジェクトをフィルタリングします。例えば、制御ファイルを使用して特定のオブジェクトタイプをインポートします。
- 特定のオブジェクトタイプまたはオブジェクトのための競合の解決策を構成します。

infacmd oie ImportObjects

エクスポートファイルからモデルリポジトリへ、モデルリポジトリオブジェクトをインポートします。コマンド用のインポート制御ファイルを指定する場合、以下の操作を実行できます。

- インポートするオブジェクトをフィルタリングします。例えば、制御ファイルを使用して特定のオブジェクトタイプをインポートします。
- 特定のオブジェクトタイプまたはオブジェクトのための競合の解決策を構成します。
- ソースリポジトリ内の接続をターゲットリポジトリ内の接続にマッピングします。

依存するモデルリポジトリオブジェクトは、別のフォルダー内または別プロジェクト内にある可能性があります。インポート制御ファイル内の `folderMap` 要素を使用して、すべての依存オブジェクトを含める必要があります。そうしないと、ターゲットリポジトリに依存オブジェクトが存在しないために、インポートが失敗してエラーメッセージが出力される可能性があります。

競合の解決方法は、オブジェクトをインポートするときにコマンドラインまたは制御ファイルで定義できます。コマンドラインと制御ファイルで競合の解決を定義した場合は、制御ファイルが優先されます。競合の解決方法を定義していない場合に競合が発生すると、インポートは失敗します。

名前変更の競合の解決策を定義する場合、特定のオブジェクトに対する名前を制御ファイル内に指定できます。指定しなかった場合は、末尾に連続番号が付加された名前が生成されます。

インポート制御ファイルでは、ドメインオブジェクトとモデルリポジトリオブジェクトのどちらをインポートするようにファイルを構成したかによって、異なるパラメータを使用します。

インポート制御ファイルでは、ドメインオブジェクトとモデルリポジトリオブジェクトのどちらをインポートするようにファイルを構成したかによって、異なるパラメータを使用します。

ドメインオブジェクト用のインポート制御ファイルのパラメータ

インポート制御ファイルパラメータを使用して、XML ファイルからドメインへインポートするオブジェクトを構成します。

ドメインオブジェクト用のインポート制御ファイルには、以下の要素が含まれます。

- `importParams`。複数の `objectList` 要素を含むことができます。
- `ObjectList`。オブジェクトをタイプでフィルタリングするための属性を含みます。複数の `object` 要素を含むことができます。
- `object`。オブジェクトを名前でフィルタリングするための属性を含みます。

以下の表に、構成可能な属性を持つインポート制御ファイル要素を示します。

要素	属性名	属性の説明
objectList	type	<p>必須。インポートするドメインオブジェクトのタイプ。以下のいずれかの値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ユーザー - グループ - ロール - 接続 <p>値の大文字と小文字は区別されません。</p>
objectList	select	<p>オプション。infacmd でフォルダーの objectList の object 要素を定義するときに指定したタイプである、残りのすべてのオブジェクトをインポートするかどうかを示します。残りのすべてのオブジェクトをインポートするには、all に設定します。例えば、以下のコードは、解決策 Reuse が指定されている Group1 をインポートします。また、解決策 Merge が指定されている残りのグループをすべてインポートします。</p> <pre><objectList type="group" select="all" resolution="merge"> <object name="Group1" resolution="reuse" /> </objectList></pre> <p>object 要素を定義していて select 属性を使用しない場合、オブジェクト要素内に定義されている属性を満たすオブジェクトがインポートされます。例えば、以下のコードは、解決策 Merge が指定されている Group1 をインポートします。</p> <pre><objectList type="group" resolution="merge"> <object name="Group1" /> </objectList></pre> <p>objectList の object 要素を定義していない場合、select 属性のデフォルト値は all です。例えば、以下のコードは、解決策 Merge が指定されているすべてのグループをインポートします。</p> <pre><objectList type="group" resolution="merge" /></pre> <p>有効な値は all です。</p>
objectList	resolution	<p>オプション。競合が発生した場合の解決策。指定されたタイプのオブジェクトすべてに適用されます。以下のいずれかの値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Replace. ターゲットオブジェクトをソースオブジェクトで置き換えます。 - Rename. ソースオブジェクトの名前を、生成された名前を使用して変更し、インポートします。 - Reuse. ターゲットドメイン内のオブジェクトを再利用します。 - Merge. オブジェクトを1つのオブジェクトにマージします。このオプションは、グループにのみ適用できます。 <p>値の大文字と小文字は区別されません。</p>
object	name	<p>必須。指定されたオブジェクトタイプの、インポートする特定のオブジェクトの名前。値の大文字と小文字は区別されません。</p>

要素	属性名	属性の説明
object	resolution	オプション。このオブジェクトに対する名前の競合が発生した場合の解決策。以下のいずれかの値を指定します。 - Replace. ターゲットオブジェクトをソースオブジェクトで置き換えます。 - Rename. ソースオブジェクトの名前を変更し、インポートします。 - Reuse. ターゲットドメイン内のオブジェクトを再利用します。 - Merge. オブジェクトを1つのオブジェクトにマージします。このオプションは、グループにのみ適用できます。 値の大文字と小文字は区別されません。
object	renameTo	オプション。競合の解決策が Rename の場合に使用する名前。名前を指定しない場合、末尾に番号を付加した名前が生成されます。この値は、競合がない場合、または競合の解決策が Rename でない場合は無視されます。
object	renamedTo	オプション。接続オブジェクトをインポートし、競合の解決策が Rename の場合に使用する ID 文字列。接続 ID を指定しない場合、infacmd が接続 ID の末尾に番号を付加して ID を生成します。この値は、競合がない場合、または競合の解決策が Rename でない場合は無視されます。

ドメインオブジェクト用のインポート制御ファイルのサンプル

以下のコードは、ドメインオブジェクト用のインポート制御ファイルの例です。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<importParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/importControl/9">

  <!-- Import all connections, roles, and users. -->
  <objectList type="connection" resolution="replace" />
  <objectList type="role" resolution="reuse" />
  <objectList type="user" resolution="rename" />

  <!-- Import specific groups. -->
  <objectList type="group">
    <object name="g1" resolution="replace" />
    <object name="g2" resolution="merge" />
  </objectList>
</importParams>
```

モデルリポジトリオブジェクト用のインポート制御ファイルのパラメータ

インポート制御ファイルパラメータを使用して、XML ファイルからモデルリポジトリへインポートするオブジェクトを構成します。

モデルリポジトリオブジェクト用のインポート制御ファイルには、以下の要素が含まれます。

- importParams。1つの folderMaps 要素と1つの connectionInfo 要素を含むことができます。
- folderMaps: 複数の folderMap 要素を含むことができます。
- folderMap: 特定のフォルダー内にあるオブジェクトをフィルタリングするための属性を含みます。複数の objectList 要素を含むことができます。
- ObjectList。オブジェクトをタイプでフィルタリングするための属性を含みます。複数の object 要素を含むことができます。
- object: オブジェクトを名前フィルタリングするための属性を含みます。

- connectionInfo: 1 つの rebindMap 要素を含みます。
- rebindMap: 複数の rebind 要素を含むことができます。
- rebind: ソースリポジトリ内の接続をターゲットリポジトリ内の接続にマッピングするための属性を含みません。

以下の表に、インポート制御ファイル内の folderMap 要素の設定可能な属性を示します。

属性名	属性の説明
sourceProject	必須。エクスポートファイル内の、インポートするオブジェクトを含むソースプロジェクトの名前。値の大文字と小文字は区別されません。
sourceFolderPath	オプション。エクスポートファイル内の、インポート対象のオブジェクトを含むソースフォルダのパス。次の形式を使用します。 "/<folder_name>/<folder_name>" 例えば、プロジェクトに F1 という名前のフォルダが含まれている場合、F1 のフォルダパスは "/F1" となります。プロジェクト内のオブジェクトをすべてインポート対象と見なすには、 "/" を指定します。値の大文字と小文字は区別されません。デフォルトは "/" です。
targetProject	必須。ターゲットリポジトリ内の、オブジェクトのインポート先のプロジェクトの名前。オブジェクトをインポートするには、リポジトリ内にプロジェクトが存在する必要があります。値の大文字と小文字は区別されません。
targetFolderPath	オプション。ターゲットリポジトリ内の、オブジェクトのインポート先のフォルダへのパス。次の形式を使用します。 "/<folder_name>/<folder_name>" 例えば、プロジェクトに F1 という名前のフォルダが含まれている場合、F1 のフォルダパスは "/F1" となります。ターゲットプロジェクトにすべてのオブジェクトをインポートするには、 "/" と指定します。オブジェクトをインポートするには、リポジトリ内にフォルダが存在する必要があります。値の大文字と小文字は区別されません。デフォルトは "/" です。
recursive	オプション。指定したフォルダのサブフォルダにあるオブジェクトもインポートするかどうかを示します。true に設定すると、サブフォルダからインポートされます。有効な値は true と false です。値は大文字と小文字が区別されます。デフォルトは true です。

属性名	属性の説明
select	<p>オプション。folderMap の objectList 要素を定義する場合、指定したプロジェクトにある残りのすべてのオブジェクトをインポートするかどうかを示します。残りのすべてのオブジェクトをインポートするには、all に設定します。例えば、以下のコードは、解決策 Reuse が指定されているマッピングをインポートします。さらに、解決策 Replace が指定されている残りのオブジェクトをすべてインポートします。</p> <pre data-bbox="537 474 1393 548"><folderMap sourceProject="p1" targetProject="p2" select="all" resolution="replace"> <objectList type="Mapping" resolution="reuse" /> </folderMap></pre> <p>objectList 要素を定義して select 属性を使用しない場合、objectList 内に定義されている属性を満たすオブジェクトがインポートされます。例えば、以下のコードは、解決策 Replace が指定されているマッピングをインポートします。</p> <pre data-bbox="537 657 1258 730"><folderMap sourceProject="p1" targetProject="p2" resolution="replace"> <objectList type="Mapping" /> </folderMap></pre> <p>folderMap の objectList 要素を定義していない場合、デフォルト値は all です。例えば、以下のコードは、解決策 Replace が指定されているすべてのオブジェクトをインポートします。</p> <pre data-bbox="537 840 1279 867"><folderMap sourceProject="p1" targetProject="p2" resolution="replace" /></pre> <p>有効な値は all です。</p>
resolution	<p>オプション。名前の競合が発生した場合の解決策。このフォルダ内のすべてのオブジェクトに適用されます。次のいずれかの値を指定します。</p> <ul data-bbox="537 993 1417 1121" style="list-style-type: none"> - Rename. ソースオブジェクトの名前を、生成された名前を使用して変更し、インポートします。 - Replace. ターゲットオブジェクトをソースオブジェクトで置き換えます。 - Reuse. ターゲットモデルリポジトリ内のオブジェクトを再利用します。 - None. <p>値の大文字と小文字は区別されません。デフォルトは none です。</p>

以下の表に、インポート制御ファイル内の objectList 要素の設定可能な属性を示します。

属性名	属性の説明
type	<p>必須。指定されたフォルダパスへインポートするモデルリポジトリオブジェクトのタイプ。有効な値には、モデルリポジトリ内に存在するすべてのオブジェクトタイプなどがあります。オブジェクトのタイプは、Developer ツールの [プロパティ] ビューで確認できます。例えば、「Relational Data Object」または「Profile」と入力できます。値の大文字と小文字は区別されません。</p>
select	<p>オプション。objectList のオブジェクト要素を定義する場合、指定したタイプの残りのすべてのオブジェクトをインポートするかどうかを示します。残りのすべてのオブジェクトをインポートするには、all に設定します。例えば、以下のコードは、解決策 Reuse が指定されている MyMapping をインポートします。さらに、解決策 Replace が指定されている残りのマッピングをすべてインポートします。</p> <pre data-bbox="537 667 1187 789"><folderMap sourceProject="p1" targetProject="p2"> <objectList type="Mapping" select="all" resolution="replace"> <object name="MyMapping" resolution="reuse" /> </objectList> </folderMap></pre> <p>object 要素を定義していて select 属性を使用しない場合、object 要素内に定義されている属性を満たすオブジェクトがインポートされます。例えば、以下のコードは、解決策 Replace が指定されている MyMapping という名前のマッピングをインポートします。</p> <pre data-bbox="537 926 1052 1047"><folderMap sourceProject="p1" targetProject="p2"> <objectList type="Mapping" resolution="replace"> <object name="MyMapping" /> </objectList> </folderMap></pre> <p>objectList の object 要素を定義していない場合、デフォルト値は all です。例えば、以下のコードは、解決策 Replace が指定されているすべてのマッピングをインポートします。</p> <pre data-bbox="537 1157 1073 1230"><folderMap sourceProject="p1" targetProject="p2"> <objectList type="Mapping" resolution="replace" /> </folderMap></pre> <p>有効な値は all です。</p>
resolution	<p>オプション。名前の競合が発生した場合の解決策。指定されたタイプのオブジェクトすべてに適用されます。次のいずれかの値を指定します。</p> <ul data-bbox="537 1356 1419 1488" style="list-style-type: none"> - Rename. ソースオブジェクトの名前を、生成された名前を使用して変更し、インポートします。 - Replace. ターゲットオブジェクトをソースオブジェクトで置き換えます。 - Reuse. ターゲットモデルリポジトリ内のオブジェクトを再利用します。 - None. <p>値の大文字と小文字は区別されません。デフォルトは none です。</p>

以下の表に、インポート制御ファイル内の object 要素の設定可能な属性を示します。

属性名	属性の説明
name	必須。指定されたオブジェクトタイプの、インポートする特定のオブジェクトの名前。値の大文字と小文字は区別されません。
resolution	オプション。このオブジェクトに対する名前の競合が発生した場合の解決策。次のいずれかの値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - Rename. ソースオブジェクトの名前を変更し、インポートします。 - Replace. ターゲットオブジェクトをソースオブジェクトで置き換えます。 - Reuse. ターゲットモデルリポジトリ内のオブジェクトを再利用します。 - None. 値の大文字と小文字は区別されません。デフォルトは none です。
renameTo	オプション。競合の解決策が Rename の場合に使用する名前。名前を指定しない場合、末尾に番号を付加した名前が生成されます。この値は、競合がない場合、または競合の解決策が Rename でない場合は無視されます。
renameldTo	オプション。接続オブジェクトをインポートし、競合の解決策が Rename の場合に使用する ID 文字列。接続 ID を指定しない場合、infacmd が接続 ID の末尾に番号を付加して ID を生成します。この値は、競合がない場合、または競合の解決策が Rename でない場合は無視されます。

以下の表に、インポート制御ファイル内の rebind 要素の設定可能な属性を示します。

属性名	属性の説明
source	必須。インポート対象のファイル内のソース接続の名前。値の大文字と小文字は区別されません。
target	必須。ソース接続にマップする、ターゲットモデルリポジトリ内の接続の名前。デフォルトでは、オブジェクトをインポートするには、ターゲットリポジトリ内に接続が存在する必要があります。接続が存在しない場合は、インポートに失敗します。infacmd を実行するときに、インポート中のターゲット接続の検証をスキップするよう選択することもできます。ターゲット接続の検証をスキップすると、接続がターゲットリポジトリ内に存在しない場合に、インポートが成功します。値の大文字と小文字は区別されません。

モデルリポジトリオブジェクト用のインポート制御ファイルのサンプル

以下のコードは、モデルリポジトリオブジェクト用のインポート制御ファイルの例です。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<importParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/importControl/9">
  <folderMaps>
    <folderMap sourceProject="project1" sourceFolderPath="/f1" targetProject="project2" targetFolderPath="/f1"
recursive="true">
      <!-- Import mapping1 with the Rename resolution strategy. -->
      <objectList type="Mapping" select="all" resolution="replace">
        <object name="mapping1" resolution="rename" renameTo="mapping1_new"/>
      </objectList>
      <!-- Import all remaining mappings with the Replace resolution strategy. -->
      </objectList>
      <!-- Import all Aggregator transformations with the Replace resolution strategy. -->
      <objectList type="Aggregator" resolution="replace"/>
      <!-- Import all Filter transformations with no resolution strategy. -->
      <objectList type="Filter" resolution="none"/>
    </folderMap>
  </folderMaps>
</importParams>
```

```

</folderMap>
</folderMaps>

<!-- Map connections in the source repository to connections in the target repository. -->
<connectionInfo>
  <rebindMap>
    <rebind source="src_Conn1" target="tgt_Conn1"/>
    <rebind source="src_Conn2" target="tgt_Conn2"/>
  </rebindMap>
</connectionInfo>
</importParams>

```

制御ファイルに関するルールおよびガイドライン

制御ファイルを作成する前に、以下のルールとガイドラインを確認します。

- 要素名と属性名は大文字と小文字が区別されます。
- 制御ファイルには XML 要素の階層が含まれます。異なるレベルの要素は同じ属性を含むことができます。親要素にある属性が子要素に定義されていない場合、子要素は親要素の属性値を継承します。子要素に定義された属性値は、親要素に定義されている同じ属性の値をオーバーライドします。
- 要素が複数の属性を定義している場合、すべての属性フィルタを満たすオブジェクトがエクスポートまたはインポートされます。例えば、エクスポート制御ファイルで、objectList 要素に createdBefore 属性と lastUpdatedAfter 属性を定義したとします。指定されたタイプのオブジェクトで、指定された日付より前に作成され、かつ指定された日付より後に更新されたものがエクスポートされます。
- time 属性の値は包含的ではありません。例えば、エクスポート制御ファイルで createdAfter を「2011-02-01 16:00:00-0800」に設定したとします。infacmd は、2011 年 2 月 1 日午後 4 時より後に作成されたオブジェクトすべてをエクスポート対象と見なします。2011 年 2 月 1 日午後 4 時に作成されたオブジェクトはエクスポートされません。
- ドメインオブジェクトの場合、特定のタイプの objectList は制御ファイルに 1 回だけ指定できます。例えば、connection タイプの objectList を 1 つ指定したら、同じファイルに 2 つ目の connection タイプの objectList を指定することはできません。
- モデルリポジトリオブジェクトの場合、特定のタイプの objectList は folder 要素または folderMap 要素内に 1 回だけ指定できます。例えば、Flat File Data Object タイプの objectList を 1 つ指定したら、同じ folder 要素または folderMap 要素内に 2 つ目の Flat File Data Object タイプの objectList を指定することはできません。

ドメインオブジェクト用の制御ファイルの例

エクスポートするドメインオブジェクトは時間でフィルタリングできます。エクスポートまたはインポートするドメインオブジェクトは、オブジェクトタイプまたはオブジェクト名でフィルタリングできます。

時間によるドメインオブジェクトのエクスポート

2010-12-25 10:00:00 +0530 より後に作成されたユーザーをエクスポートするには、以下のような制御ファイルを作成します。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<exportParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/exportControl/9">
  <objectList type="user" createdAfter="2010-12-25 10:00:00 +0530" />
</exportParams>

```


タイプによるドメインオブジェクトのエクスポートとインポート

ドメインからすべてのユーザー、グループ、およびロールをエクスポートし、接続はエクスポートしないようにするには、以下のような制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<exportParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/exportControl/9">
  <objectList type="group"/>
  <objectList type="role" />
  <objectList type="user" />
</exportParams>
```

ターゲットドメインにユーザーとグループをインポートし、ロールはインポートしないようにするには、以下のような制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<importParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/importControl/9">
  <objectList type="group" resolution="merge"/>
  <objectList type="user" resolution="replace" />
</importParams>
```

名前によるドメインオブジェクトのエクスポートとインポート

すべてのユーザーとグループ、および Developer と Analyst のロールをソースドメインからエクスポートする必要があります。2011-02-01 16:00:00-0800 より後に作成された特定の接続をエクスポートする必要があります。この場合は、以下のような制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<exportParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/exportControl/9">
  <objectList type="group"/>
  <objectList type="user" />
  <objectList type="role">
    <object name="Developer" />
    <object name="Analyst" />
  </objectList>
  <objectList type="connection" createdAfter="2011-02-01 16:00:00-0800">
    <object name="Connection1" />
    <object name="Connection2" />
    <object name="Connection3" />
  </objectList>
</exportParams>
```

ユーザーとグループすべてと、特定のロールと接続をターゲットドメインにインポートするには、以下のような制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<importParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/importControl/9">
  <objectList type="group" resolution="reuse" />
  <objectList type="user" resolution="reuse" />
  <objectList type="role">
    <object name="Developer" resolution="replace" />
    <object name="Analyst" resolution="replace" />
  </objectList>
  <objectList type="connection">
    <object name="Connection1" resolution="rename" renameTo="ProdConnection1" />
    <object name="Connection2" resolution="rename" renameTo="ProdConnection2" />
    <object name="Connection3" resolution="rename" renameTo="ProdConnection3" />
  </objectList>
</importParams>
```

モデルリポジトリオブジェクト用の制御ファイルの例

時間またはユーザーによって、エクスポートするモデルリポジトリオブジェクトをフィルタリングできます。エクスポートまたはインポートするモデルリポジトリオブジェクトをオブジェクトタイプまたはオブジェクト名でフィルタリングできます。

時間によるモデルリポジトリオブジェクトのエクスポート

2011-02-01 16:00:00-0800 より前に作成されたオブジェクトで、Folder1 フォルダ内にあるものをすべてエクスポートするには、以下のような制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<exportParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/exportControl/9">
<folders>
  <folder path="/Folder1" createdBefore="2011-02-01 16:00:00-0800" />
</folders>
</exportParams>
```

ユーザーによるモデルリポジトリオブジェクトのエクスポート

プロジェクト内にあるオブジェクトで、Administrator が最終更新者であるものをすべてエクスポートするには、以下のような制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<exportParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/exportControl/9">
<folders>
  <folder lastUpdatedBy="Administrator" />
</folders>
</exportParams>
```

タイプによるモデルリポジトリオブジェクトのエクスポートとインポート

Folder1 フォルダからすべてのマッピングをエクスポートするには、以下のような制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<exportParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/exportControl/9">
<folders>
  <folder path="/Folder1" />
    <objectList type="Mapping" />
  </folder>
</folders>
</exportParams>
```

user2 によって作成されたマッピングすべてをエクスポートし、user1 によって作成された残りのオブジェクトをすべてエクスポートするとします。子 objectList 要素に定義された createdBy 属性は、親 folder 要素に定義された同じ属性をオーバーライドします。以下のような制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<exportParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/exportControl/9">
<folders>
  <folder path="/Folder1" select="all" createdBy="user1" />
    <objectList type="Mapping" createdBy="user2" />
  </folder>
</folders>
</exportParams>
```

エクスポートファイルからすべてのマッピングをインポートするとします。Folder1 からエクスポートしたマッピングの一部には、ソースリポジトリ内の Folder2 に存在する依存オブジェクトが含まれています。依存オブジェクトをインポートするには、インポート制御ファイル内の folderMap 要素を使用して

すべての依存オブジェクトを含める必要があります。さらに、ソースリポジトリ内の接続をターゲットリポジトリ内の接続にマッピングするとします。以下のような制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<importParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/importControl/9">
<folderMaps>
  <folderMap sourceProject="DevProject" sourceFolderPath="/Folder1" targetProject="TestProject"
targetFolderPath="/TestFolder1" resolution="reuse">
    <objectList type="Mapping" />
  </folderMap>
  <folderMap sourceProject="DevProject" sourceFolderPath="/Folder2" targetProject="TestProject"
targetFolderPath="/TestFolder2" resolution="reuse" />
</folderMaps>
<connectionInfo>
  <rebindMap>
    <rebind source="src_connection1" target="tgt_connection1" />
    <rebind source="src_connection2" target="tgt_connection2" />
  </rebindMap>
</connectionInfo>
</importParams>
```

名前によるモデルリポジトリオブジェクトのエクスポートとインポート

2010-11-11 23:59:59-0800 より後に作成された TestMapping という名前のマッピングをエクスポートするとします。さらに、同じフォルダ内の残りのオブジェクトすべてをエクスポートするとします。以下のような制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<exportParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/exportControl/9">
<folders>
  <folder path="/Folder1" select="all" />
    <objectList type="Mapping" createdAfter="2010-11-11 23:59:59-0800" >
      <object name="TestMapping" />
    </objectList>
  </folder>
</folders>
</exportParams>
```

エクスポートファイルに、フラットファイルデータオブジェクトとリレーショナルデータオブジェクトが含まれているとします。NewFlatFileDataObject というフラットファイルデータオブジェクトと、すべてのリレーショナルデータオブジェクトをエクスポートファイルからインポートするとします。以下のような制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE" standalone="yes" ?>
<importParams xmlns="http://www.informatica.com/oie/importControl/9">
  <folderMaps>
    <folderMap sourceProject="SampleProject" targetProject="SampleProject"
targetFolderPath="/TestFolder">
      <objectList type="Flat File Data Object" resolution="replace" >
        <object name="NewFlatFileDataObject" />
      </objectList>
      <objectList type="Relational Data Object" resolution="replace" />
    </folderMap>
  </folderMaps>
</importParams>
```

第 29 章

infasetup コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [infasetup の使用, 932](#) ページ
- [BackupDomain, 934](#) ページ
- [DefineDomain, 936](#) ページ
- [DefineGatewayNode, 948](#) ページ
- [DefineWorkerNode, 954](#) ページ
- [DeleteDomain, 958](#) ページ
- [GenerateEncryptionKey, 960](#) ページ
- [Help, 961](#) ページ
- [MigrateEncryptionKey, 962](#) ページ
- [RestoreDomain, 962](#) ページ
- [SwitchToKerberosMode, 965](#) ページ
- [UpdateGatewayNode, 966](#) ページ
- [UpdateKerberosAdminUser, 971](#) ページ
- [UpdateKerberosConfig, 971](#) ページ
- [UpdateWorkerNode, 972](#) ページ
- [UnlockUser, 975](#) ページ
- [ValidateandRegisterFeature, 976](#) ページ

infasetup の使用

infasetup は、PowerCenter ドメインおよびノードの管理に使用するコマンドラインプログラムです。

infasetup は、ゲートウェイノードの更新に使用するコマンドラインプログラムです。

PowerCenter インストールプログラムを使用して PowerCenter Services をインストールした後に、ドメインおよびノードのプロパティを変更するには、*infasetup* を使用します。たとえば、PowerCenter Services をインストールした後に、*infasetup* を使用してノードのポート番号を変更することができます。

ドメインとサービスをインストールした後で、*infasetup* を使用してドメインとノードのプロパティを変更します。

infasetup は、ドメインのバックアップ、リストア、定義、削除、さらにノードの定義と更新に使用できます。

コマンドの実行

コマンドラインから *infasetup* を起動します。スクリプト、バッチファイル、またはその他のプログラムから直接コマンドを発行できます。Windows では、*infasetup* は .bat 拡張子を持つバッチファイルです。UNIX では、*infasetup* は .sh 拡張子を持つスクリプトファイルです。

infasetup のコマンドを実行する手順

1. コマンド プロンプトを開きます。

Windows では、管理者としてコマンドプロンプトを開く必要があります。コマンドプロンプトを管理者として開かないと、Windows システム管理者が Informatica インストールディレクトリ内のファイルにアクセスする際に問題が発生することがあります。

2. コマンドプロンプトで、*infasetup* の実行可能ファイルが格納されているディレクトリに切り替えます。デフォルトでは、*infasetup* は <Informatica のインストールディレクトリ>/isp/bin ディレクトリにインストールされます。
3. Windows では *infasetup*、UNIX では *infasetup.sh* の後に続けてコマンド名を入力し、必要に応じてオプションと引数を入力します。コマンド名では大文字と小文字が区別されません。

以下はその例です。

```
infasetup(.sh) command_name [-option1] argument_1 [-option2] argument_2...
```

コマンドのオプション

infasetup を実行する場合は、コマンドごとにオプションを入力し、必要な引数を続けます。コマンドオプションは、前にハイフンが付き、大文字と小文字を区別しません。オプションの後に引数を続けます。

例えば、次のコマンドは「Node1」という名前の作業ノードとアドレス「Host1:9090」を更新します。

```
infasetup UpdateWorkerNode -nn Node1 -na Host1:9090
```

必要なオプションを 1 つでも省略するか、間違えて入力すると、コマンドは失敗し、*infasetup* からエラーメッセージが返されます。

infasetup の戻りコード

infasetup は、戻りコードでコマンドが成功したか失敗したかを示します。コマンドが成功した場合、リターンコード「0」を返します。コマンドが失敗した場合、戻りコード「-1」を返します。

コマンドのリターンコードを確認するため、*infasetup* コマンドを実行後すぐに DOS または UNIX の echo コマンドを実行します。

- DOS シェルの場合: echo %ERRORLEVEL%
- UNIX Bourne または Korn シェルの場合: echo \$?
- UNIX C シェルの場合: echo \$status

データベース接続文字列の使用

一部の *infasetup* コマンドでは、接続文字列を使用して、ドメイン設定データベースに接続します。接続文字列の一部として、データベースホスト、データベースポート、およびデータベースサービス名を指定します。

接続文字列は、以下の *infasetup* コマンドで使用できます。

- BackupDomain
- DefineDomain
- DefineGatewayNode

- DeleteDomain
- RestoreDomain
- UpdateGatewayNode

以下の表に、サポートされている各データベースの接続文字列の構文を一覧表示します。

データベース名	接続文字列
Oracle	Oracle: jdbc:informatica:oracle://host_name:port;SID=sid Oracle RAC: jdbc:informatica:oracle://host_name:port; ServiceName=[Service Name];AlternateServers=(server2:port);LoadBalancing=true
Microsoft SQL Server	jdbc:informatica:sqlserver://host_name:port; SelectMethod=cursor;DatabaseName=database_name
IBM DB2	jdbc:informatica:db2://host_name:port; DatabaseName=database_name

BackupDomain

ドメインの環境設定メタデータをバックアップします。infasetup は、バックアップドメインのメタデータを、拡張子が.mrep のバックアップファイルに格納します。

このコマンドを実行する場合、infasetup はドメイン設定データベーステーブルをバックアップします。ドメインを別のデータベースにリストアするには、ISP_RUN_LOG テーブルのコンテンツを手動でバックアップして、以前のワークフローとセッションログを取得する必要があります。

Java メモリエラーでコマンドが失敗する場合は、infasetup が使用するシステムメモリを増やします。システムメモリを増やすには、INFA_JAVA_CMD_OPTS 環境変数の-Xmx 値を設定します。

BackupDomain コマンドでは、以下の構文を使用します。

BackupDomain

```
<<-DatabaseAddress|-da> database_hostname:database_port|
<-DatabaseConnectionString|-cs> database_connection_string>
[<-DatabaseUserName|-du> database_user_name]
[<-DatabasePassword|-dp> database_password]
<-DatabaseType|-dt> database_type
[<-DatabaseServiceName|-ds> database_service_name]
<-BackupFile|-bf> backup_file_name
[<-Force|-f> overwrite_file]
[<-Tablespace|-ts> tablespace_name]
[<-SchemaName|-sc> schema_name (used for Microsoft SQL Server only)]
<-DomainName|-dn> domain_name
```

[<-DatabaseTlsEnabled|-dbtls> database_tls_enabled]

[<-DatabaseTruststorePassword|-dbtp> database_truststore_password]

[<-TrustedConnection|-tc> trusted_connection (used for Microsoft SQL Server only)]

[<-EncryptionKeyLocation|-kl> encryption_key_location]

[<-DatabaseTruststoreLocation|-dbtl> database_truststore_location]

以下の表に、*infasetup* BackupDomain のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DatabaseAddress -da	database_hostname: database_port	-DatabaseConnectionString (-cs) オプションを使用しない場合は必須。ドメイン環境設定データベースのホストマシンの名前とポート番号。
-DatabaseConnectionString -cs	database_connection _string	-DatabaseAddress (-da) および-DatabaseServiceName (-ds) オプションを使用しない場合に必須。ドメイン設定データベースへの接続に使用される接続文字列。データベースホスト、データベースポート、およびデータベースサービス名を、接続文字列の一部として指定します。接続文字列を引用符で囲みます。
-DatabaseUserName -du	データベースユーザー名	必須 (-TrustedConnection (-tc) オプションを使用しない場合)。ドメイン環境設定情報が含まれているデータベースのアカウント。
-DatabasePassword -dp	データベースパスワード	データベースユーザーのドメイン環境設定データベースパスワード。このオプションを省略すると、 <i>infasetup</i> では、INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD 環境変数で指定するパスワードを使用します。環境変数の値が指定されていない場合、このオプションを使用してパスワードを入力する必要があります。
-DatabaseType -dt	database_type	必須。ドメイン環境設定メタデータを格納するデータベースのタイプ。以下のデータベースタイプを使用できます。 - db2 - oracle - mssqlserver - sybase
-DatabaseServiceName -ds	database_service_name	-DatabaseConnectionString (-cs) オプションを使用しない場合は必須。データベースサービス名。Oracle、IBM DB2、および Microsoft SQL Server データベースの場合に必須です。Oracle の場合は SID、IBM DB2 の場合はサービス名、Microsoft SQL Server の場合はデータベース名を入力します。
-BackupFile -bf	backup_file_name	必須。バックアップファイルの名前とパスです。ファイルのパスを指定しない場合、 <i>infasetup</i> は現在のディレクトリにバックアップファイルを作成します。
-Force -f	-	オプション。同じ名前のファイルがすでに存在する場合、バックアップファイルを上書きします。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。ドメインの名前。
-Tablespace -ts	tablespace_name	IBM DB2 データベースの場合に必須。ドメイン環境設定データベーステーブルが存在するテーブルスペースの名前。
-SchemaName -sc	schema_name	オプション。Microsoft SQL Server スキーマの名前。デフォルトスキーマを使用していない場合、スキーマ名を入力します。
-DatabaseTlsEnabled -dbtls	database_tls_enabled	オプション。Informatica ドメインデータベースが TLS または SSL で保護されているかどうかを示します。セキュアなデータベースである場合、このオプションを True に設定します。デフォルトは false です。-dbtls オプションに値を指定しない場合、Informatica ドメインは、Informatica ドメインデータベースに対し安全な通信を使用する。
-DatabaseTruststorePassword -dbtp	database_truststore_password	オプション。セキュアデータベースに対するデータベーストラストストアファイルのためのパスワード。
-TrustedConnection -tc	-	オプション。信頼関係接続を使用して Microsoft SQL Server データベースに接続します。信頼認証では、現在のユーザーの Windows セキュリティ証明書を使用して Microsoft SQL Server に接続します。
-EncryptionKeyLocation -kl	encryption_key_location	現在の暗号化キーが入ったディレクトリ。暗号化ファイルの名前は sitekey です。
-DatabaseTruststoreLocation -dbtl	database_truststore_location	セキュアなドメインリポジトリデータベースのトラストストアファイルのパスとファイル名。ドメインにセキュアなドメインリポジトリデータベースを設定する場合は必須。

DefineDomain

現在のマシンにドメインを作成します。ドメインをホストしているマシンにドメインを定義する場合、まずマシン上の Informatica サービスを停止する必要があります。infasetup は、既存のドメインとノード設定を削除します。新しいドメインを定義してから、Informatica サービスを再起動します。

Windows マシン上にドメインを作成するには、まずホストのポートを開くか、ファイアウォールを無効にする必要があります。

DefineDomain コマンドのオプション (-f) の後ろには、どのような文字も含めません。余分な文字を含めると、予期しないエラーが発生して、*infasetup* が失敗する場合があります。

DefineDomain コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
DefineDomain
<<-DatabaseAddress|-da> database_hostname:database_port|
<-DatabaseConnectionString|-cs> database_connection_string|
[<-DatabaseUserName|-du> database_user_name]
[<-DatabasePassword|-dp> database_password]
<-DatabaseType|-dt> database_type ORACLE|DB2|MSSQLSERVER|SYBASE
[<-DatabaseServiceName|-ds> database_service_name]
[<-Tablespace|-ts> tablespace_name]
[<-SchemaName|-sc> schema_name (used for MSSQLServer only)]
[<-DatabaseTlsEnabled|-dbtls> database_tls_enabled]
[<-DatabaseTruststorePassword|-dbtp> database_truststore_password]
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-DomainDescription|-de> domain_description]
<-AdministratorName|-ad> administrator_name
[<-Password|-pd> password]
[<-LicenseName|-ln> license_name]
[<-LicenseKeyFile|-lf> license_key_file]
<-LogServiceDirectory|-ld> log_service_directory
[<-SystemLogDirectory|-sld> system_log_directory]
<-NodeName|-nn> node_name
<-NodeAddress|-na> node_host:port
[<-ServiceManagerPort|-sp> service_manager_port]
[<-EnableTLS|-tls> enable_tls]
[<-NodeKeystore|-nk> node_keystore_directory]
[<-NodeKeystorePass|-nkp> node_keystore_password]
[<-NodeTruststore|-nt> node_truststore_directory]
[<-NodeTruststorePass|-ntp> node_truststore_password]
[<-EnableKerberos|-krb> enable_kerberos]
[<-ServiceRealmName|-srn> realm_name_of_node_spn]
[<-UserRealmName|-urn> realm_name_of_user_spn]
[<-KeysDirectory|-kd> Infa_keys_directory_location]
[<-SPNShareLevel|-spnSL> SPNShareLevel PROCESS|NODE]
[<-AdminconsolePort|-ap> admin_tool_port]
[<-HttpsPort|-hs> admin_tool_https_port]
[<-KeystoreFile|-kf> admin_tool_file_location]
[<-KeystorePass|-kp> admin_tool_keystore_password]
<-MinProcessPort|-mi> minimum_port
<-MaxProcessPort|-ma> maximum_port
[<-ServerPort|-sv> server_shutdown_port]
[<-AdminconsoleShutdownPort|-asp> admin_tool_shutdown_port]
[<-BackupDirectory|-bd> backup_directory]
[<-ServiceResilienceTimeout|-sr> timeout_period_in_seconds]
[<-ErrorLogLevel|-el> FATAL_ERROR_WARNING_INFO_TRACE_DEBUG]
<-ResourceFile|-rf> resource_file
[<-Timezone|-tz> log_service_timezone_GMT+00:00]
[<-Force|-f>]
[<-TrustedConnection|-tc> trusted_connection (used for MSSQLServer only)]
[<-DatabaseTruststoreLocation|-dbtl> database_truststore_location]
```

以下の表に、*infasetup* DefineDomain のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DatabaseAddress -da	database_hostname:database_port	- DatabaseConnectionString (-cs) オプションを使用しない場合は必須です。ドメイン環境設定データベースのホストマシンの名前とポート番号。
-DatabaseConnectionString -cs	database_connection_string	-DatabaseAddress (-da) および DatabaseServiceName (-ds) オプションを使用しない場合に必要です。ドメイン設定データベースへの接続に使用される接続文字列。データベースホスト、データベースポート、およびデータベースサービス名を、接続文字列の一部として指定します。接続文字列を引用符で囲みます。
-DatabaseUserName -du	データベースユーザー名	必須 (-TrustedConnection (-tc) オプションを使用しない場合)。ドメイン環境設定情報が含まれているデータベースのアカウント。
-DatabasePassword -dp	データベースパスワード	データベースユーザーのドメイン環境設定データベースパスワード。このオプションを省略すると、 <i>infasetup</i> では、INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD 環境変数で指定するパスワードを使用します。値が環境変数で指定されていない場合、このオプションを使用してパスワードを入力する必要があります。
-DatabaseType -dt	database_type	必須。ドメイン環境設定メタデータを格納するデータベースのタイプ。以下のデータベースタイプを使用できます。 - db2 - oracle - mssqlserver - sybase

オプション	引数	説明
-DatabaseServiceName -ds	database_service_name	- DatabaseConnectionString (-cs) オプションを使用しない場合は必須です。データベースサービスの名前。Oracle、IBM DB2、Microsoft SQL Server データベースの場合に必須です。Oracle の場合は SID、IBM DB2 の場合はサービス名、Microsoft SQL Server の場合はデータベース名を入力します。
-Tablespace -ts	tablespace_name	IBM DB2 データベースの場合に必須。ドメイン環境設定データベーステーブルが存在するテーブルスペースの名前。
-SchemaName -sc	schema_name	オプション。Microsoft SQL Server スキーマの名前。デフォルトスキーマを使用していない場合、スキーマ名を入力します。
-DatabaseTlsEnabled -dbtls	database_tls_enabled	オプション。Informatica ドメインデータベースが TLS または SSL で保護されているかどうかを示します。セキュアデータベースの場合、このオプションを True に設定します。デフォルトは false です。-dbtls オプションを値なしで指定する場合、Informatica ドメインは、Informatica ドメインデータベースに対して安全な通信を使用します。
-DatabaseTruststorePassword -dbtp	database_truststore_password	オプション。セキュアデータベースのデータベーストラストストアファイルのパスワード。
-DomainName -dn	domain_name	必須。ドメインの名前。ドメイン名の文字数は 1 ~79 で、スペースまたは以下の文字を含めることはできません：/*?<>"
-DomainDescription -de	domain_description	オプション。ドメインの説明。

オプション	引数	説明
-AdministratorName -ad	administrator_name	必須。ドメイン管理者のユーザー名。
-Password -pd	パスワード	Kerberos ドメインの場合はオプションです。ドメイン管理者のパスワード。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-LicenseName -ln	license_name	オプション。ライセンスの名前。この名前では、大文字と小文字が区別されず、ドメイン内で一意にする必要があります。名前は 79 文字以内で、先頭または末尾にスペースは使用できず、また復帰改行文字や、タブ、以下の文字を含むことはできません。 /*?<>"
-LicenseKeyFile -lf	license_key_file	オプション。ライセンスキーファイルへのパス
-LogServiceDirectory -ld	log_service_directory	必須。ログマネージャがログイベントファイルの格納に使用する共有ディレクトリパス。
-SystemLogDirectory -sld	system_log_directory	オプション。システムログファイルを格納するディレクトリパス。デフォルトは<INFA_home>/logs です。
-NodeName -nn	node_name	必須。ノードの名前。ノード名の文字数は 1~79 で、スペースまたは以下の文字を含めることはできません：\/*?<>"
-NodeAddress -na	node_host:port	必須。ノードを管理するマシンのホスト名およびポート番号。使用可能なポート番号を選択してください。

オプション	引数	説明
-ServiceManagerPort -sp	service_manager_port	オプション。受信する接続要求をリスンするためにサービスマネージャにより使用されるポート番号。
-EnableTLS -tls	enable_tls	<p>オプション。Informatica ドメインのサービス間に安全な通信を設定します。</p> <p>Informatica から提供されるデフォルトの SSL 証明書を使用する場合、キーストアおよびトラストストアのオプションを指定する必要はありません。デフォルトの SSL 証明書を使用しない場合、キーストアおよびトラストストアのオプションを指定する必要があります。有効な値は true または false です。デフォルトは false です。-tls オプションに値を指定しない場合、Informatica ドメインはサービス間で安全な通信を使用します。</p> <p>Administrator ツール、Analyst ツール、Web サービス Hub などの関連サービスまたは Web アプリケーションに対して安全な通信を有効にするには、アプリケーション内で安全な通信を個別に設定します。</p>

オプション	引数	説明
-NodeKeystore- -nk	node_keystore_directory	<p>Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。各自の SSL 認証を使用している場合は必須。キーストアファイルを含めるディレクトリ。</p> <p>Informatica ドメインは、PEM 形式および Java Keystore (JKS) ファイルの SSL 認証を必要とします。このディレクトリには PEM および JKS 形式のキーストアファイルが含まれている必要があります。</p> <p>キーストアファイルの名前は、infa_keystore.jks および infa_keystore.pem である必要があります。認証機関 (CA) から受け取ったキーストアファイルが異なる名前である場合は、名前を infa_keystore.jks および infa_keystore.pem に変更する必要があります。</p> <p>ドメイン内のすべてのノードでは同じキーストアファイルを使用する必要があります。</p>
-NodeKeystorePass -nkp	node_keystore_password	<p>Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。各自の SSL 認証を使用している場合は必須。キーストアである infa_keystore.jks ファイルのパスワード。</p>

オプション	引数	説明
-NodeTruststore -nt	node_truststore_directory	<p>Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。トラストストアファイルが含まれるディレクトリ。Informatica ドメインは、PEM 形式および Java Keystore (JKS) ファイルの SSL 認証を必要とします。このディレクトリには PEM および JKS 形式のトラストストアファイルが含まれている必要があります。</p> <p>トラストストアファイルの名前は、infa_truststore.jks および infa_truststore.pem である必要があります。認証機関 (CA) から受け取ったトラストストアファイルが異なる名前である場合は、名前を infa_truststore.jks および infa_truststore.pem に変更する必要があります。</p>
-NodeTruststorePass -ntp	node_truststore_password	<p>Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。各自の SSL 認証を使用している場合は必須。infa_truststore.jks ファイルのパスワード。</p>
-EnableKerberos -krb	enable_kerberos	<p>オプション。Kerberos 認証を使用するように Informatica ドメインを設定します。有効な値は true または false です。true の場合、ドメインでは Kerberos 認証が使用され、後で認証モードを変更することはできません。Kerberos 認証を有効にした後は、無効にはできません。デフォルトは false です。-krb オプションを値なしで指定すると、Informatica ドメインは Kerberos 認証を使用します。</p>

オプション	引数	説明
-ServiceRealmName -srn	realm_name_of_node_spn	オプション。Informatica ドメインサービスが属す る Kerberos レalmの名 前。Kerberos 認証の場 合、-urn と同じ値を入力 していることを確認しま す。
-UserRealmName -urn	realm_name_of_user_spn	オプション。Informatica ドメインユーザーが属す る Kerberos レalmの名 前。Kerberos 認証の場 合、-srn と同じ値を入力 していることを確認しま す。
-KeysDirectory -kd	Infra_keys_directory_location	オプション。すべてのキ ータブファイルと Informatica ドメイン用 の暗号キーが格納される ディレクトリ。デフォル トは <InformaticaInstallationD ir>/isp/config/keys です。

オプション	引数	説明
-SPNShareLevel -spnSL	SPNShareLevel PROCESS NODE	<p>オプション。ドメインのサービスプリンシパルレベルを示します。このプロパティを以下のいずれかに設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - プロセス。ドメインでは、ノードごと、およびノードのサービスごとに、一意のサービスプリンシパル名 (SPN) とキータブファイルを必要とします。ノードごとに必要になる SPN とキータブファイルの数は、ノードで実行されるサービスプロセスの数により変わります。ドメインが高レベルのセキュリティを必要としない場合は、ノードレベルオプション (NODE) を使用してください。 - ノード。ドメインでは、ノードとそのノードで実行されているすべてのサービスで 1 つの SPN とキータブファイルを使用しています。また、ノードのすべての HTTP プロセスに個別の SPN とキータブファイルが必要になります。 <p>デフォルトは PROCESS です。</p>
-AdminconsolePort -ap	admin_tool_port	Informatica Administrator にアクセスするためのポート。
-HttpsPort -hs	admin_tool_https_port	<p>オプション。Administrator ツールへの接続をセキュリティ保護するポート番号。ノードで HTTPS を設定する場合にはこのポート番号を設定します。</p>
-KeystoreFile -kf	admin_tool_file_location	<p>オプション。キーと、SSL セキュリティプロトコルを使用する場合に必要な証明書が入っているキーストアファイル。</p>

オプション	引数	説明
-KeystorePass -kp	admin_tool_keystore_password	オプション。キーストアファイルの平文パスワード。パスワードは-kp オプションまたは環境変数 INFA_PASSWORD とともに設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-kp オプションとともに設定されたパスワードが優先されます。
-MinProcessPort -mi	minimum_port	必須。ノードで実行されているアプリケーションサービスプロセスの最小ポート番号。
-MaxProcessPort -ma	maximum_port	必須。ノードで実行されているアプリケーションサービスプロセスの最大ポート番号。
-ServerPort -sv	server_shutdown_port	オプション。サービスマネージャで使用する TCP/IP のポート番号。サービスマネージャは、このポートのドメインコンポーネントからシャットダウンコマンドをリスンします。マシンに複数のノードがある場合、またはデフォルトのポート番号が使用中の場合、このポート番号を指定します。デフォルトは、ノードのポート番号に 1 を加えた値です。
-AdminconsoleShutdownPort -asp	admin_tool_shutdown_port	Informatica Administrator のシャットダウンを制御するポート番号。
-BackupDirectory -bd	backup_directory	オプション。リポジトリバックアップファイルを格納するディレクトリ。このディレクトリは、ノードからアクセス可能でなければなりません。

オプション	引数	説明
-ServiceResilienceTimeout -sr	timeout_period_in_seconds	オプション。 <i>infasetup</i> がローカルドメインへの接続の確立または再確立を試行する時間 (秒)。このオプションを省略すると、 <i>infasetup</i> では、 <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> 環境変数で指定されているタイムアウト値を使用します。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。
-ErrorLogLevel -el	致命 エラー 警告 情報 トレース デバッグ	オプション。ドメインログのログイベントの重要度レベル。デフォルトは <code>info</code> です。
-ResourceFile -rf	resource_file	必須。ノードで使用可能なリソースのリストを含むファイル。次の場所にある <code>nodeoptions.xml</code> ファイルを使用します。 <code><INFA_HOME>/isp/bin</code>
-TimeZone -tz	log_service_timezone_GMT+00:00	オプション。Log Manager がログイベントファイルを生成する場合に使用するタイムゾーンです。デフォルトは <code>GMT+00:00</code> です。タイムゾーンは次の形式で設定します。 <code>GMT(+/-)hh:mm</code>
-Force -f	-	オプション。同じ名前のデータベースが既に存在する場合、そのデータベースは上書きされます。このオプションの後には、どのような文字も含めません。

オプション	引数	説明
-TrustedConnection -tc	-	オプション。信頼関係接続を使用して Microsoft SQL Server データベースに接続します。信頼認証では、現在のユーザーの Windows セキュリティ証明書を使用して Microsoft SQL Server に接続します。 注: 信頼関係接続を使用する場合は、DatabaseConnectionString オプションを設定します。
-DatabaseTruststoreLocation -dbtl	database_truststore_location	セキュアなドメインリポジトリデータベースのトラストストアファイルのパスとファイル名。ドメインにセキュアなドメインリポジトリデータベースを設定する場合は必須。

現在ドメインをホストしているノード上で DefineDomain を実行する場合は、次のドメインプロパティを再設定します。

- **アプリケーションサービス。** 同じドメインで実行したアプリケーションサービスを再利用します。
- **ユーザー。** ユーザーを再作成します。
- **ゲートウェイノード。** ドメインにゲートウェイノードを設定します。
- **一般的なドメインプロパティ。** ドメインにレジリエンスタイムアウトと再起動の最大試行回数を設定します。
- **グリッド。** ドメインのグリッドを再利用します。
- **LDAP 認証。** ドメインに LDAP 認証を設定します。
- **ログマネージャのプロパティ。** ログマネージャの共有ディレクトリパス、パーズプロパティ、およびタイムゾーンを設定します。

ゲートウェイノードのホスト名またはポート番号を変更する場合は、`infacmdAddDomainNode` コマンドを使用して、各ノードをドメインに追加することも必要になります。

DefineGatewayNode

現在のマシンでゲートウェイノードを定義します。このコマンドは、ノードに設定メタデータを格納する `nodemeta.xml` ファイルを上書きします。ノードを定義した後、`infacmd isp AddDomainNode` コマンドを実行してノードをドメインに追加します。

DefineGatewayNode コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
DefineGatewayNode
```

```

<-DatabaseAddress|-da> database_hostname:database_port|
<-DatabaseConnectionString|-cs> database_connection_string|
[<-DatabaseUserName|-du> database_user_name]
[<-DatabasePassword|-dp> database_password]
<-DatabaseType|-dt> database_type ORACLE|DB2|MSSQLSERVER|SYBASE
[<-DatabaseServiceName|-ds> database_service_name]
<-DomainName|-dn> domain_name
<-NodeName|-nn> node_name
<-NodeAddress|-na> node_host:port
[<-ServiceManagerPort|-sp> service_manager_port]
[<-EnableTLS|-tls> enable_tls]
[<-NodeKeystore|-nk> node_keystore_directory]
[<-NodeKeystorePass|-nkp> node_keystore_password]
[<-NodeTruststore|-nt> node_truststore_directory]
[<-NodeTruststorePass|-ntp> node_truststore_password]
[<-EnableKerberos|-krb> enable_kerberos]
[<-ServiceRealmName|-srn> realm_name_of_node_spn]
[<-UserRealmName|-urn> realm_name_of_user_spn]
[<-KeysDirectory|-kd> Infa_keys_directory_location]
[<-AdminconsolePort|-ap> admin_tool_port]
[<-HttpsPort|-hs> admin_tool_https_port]
[<-KeystoreFile|-kf> admin_tool_keystore_file_location]
[<-KeystorePass|-kp> admin_tool_keystore_password]
[<-MinProcessPort|-mi> minimum_port]
[<-MaxProcessPort|-ma> maximum_port]
<-LogServiceDirectory|-ld> log_service_directory
[<-SystemLogDirectory|-sld> system_log_directory]
[<-ServerPort|-sv> server_shutdown_port]
[<-AdminconsoleShutdownPort|-asp> admin_tool_shutdown_port]
[<-BackupDirectory|-bd> backup_directory]
[<-ErrorLogLevel|-el> FATAL_ERROR_WARNING_INFO_TRACE_DEBUG]
<-ResourceFile|-rf> resource_file
[<-Tablespace|-ts> tablespace_name]
[<-SchemaName|-sc> schema_name (used for MSSQLServer only)]
[<-DatabaseTlsEnabled|-dbtls> database_tls_enabled]
[<-DatabaseTruststorePassword|-dbtp> database_truststore_password]
[<-TrustedConnection|-tc> trusted_connection (used for MSSQLServer only)]
[<-DatabaseTruststoreLocation|-dbtl> database_truststore_location]

```

以下の表に、*infasetup* DefineGatewayNode のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DatabaseAddress -da	database_hostname: database_port	-DatabaseConnectionString (-cs) オプションを使用しない場合は必須です。ドメイン環境設定データベースのホストマシンの名前とポート番号。
-DatabaseConnectionString -cs	database_connection _string	-DatabaseAddress (-da) および-DatabaseServiceName (-ds) オプションを使用しない場合に必要です。ドメイン設定データベースへの接続に使用される接続文字列。データベースホスト、データベースポート、およびデータベースサービス名を、接続文字列の一部として指定します。接続文字列を引用符で囲みます。
-DatabaseUserName -du	データベースユーザー 名	必須 (-TrustedConnection (-tc) オプションを使用しない場合)。ドメイン環境設定情報が含まれているデータベースのアカウント。

オプション	引数	説明
-DatabasePassword -dp	データベースパスワード	データベースユーザのドメイン環境設定データベースパスワード。このオプションを省略すると、 <i>infasetup</i> では、INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD 環境変数で指定するパスワードを使用します。環境変数の値が指定されていない場合、このオプションを使用してパスワードを入力する必要があります。
-DatabaseType -dt	database_type	必須。ドメイン環境設定メタデータを格納するデータベースのタイプ。以下のデータベースタイプを使用できます。 - db2 - oracle - mssqlserver - sybase
-DatabaseServiceName -ds	database_service_name	-DatabaseConnectionString (-cs) オプションを使用しない場合は必須です。データベースサービスの名前。Oracle、IBM DB2、Microsoft SQL Server データベースの場合に必須です。Oracle の場合は SID、IBM DB2 の場合はサービス名、Microsoft SQL Server の場合はデータベース名を入力します。
-DomainName -dn	domain_name	必須。ドメインの名前。
-NodeName -nn	node_name	オプション。ノードの名前。ノード名の文字数は 1~79 で、スペースまたは以下の文字を含めることはできません：\/*?<>"
-NodeAddress -na	node_host:port	オプション。ノードを管理するマシンのホスト名およびポート番号。使用可能なポート番号を選択してください。
-ServiceManagerPort -sp	service_manager_port	オプション。受信する接続要求をリスンするためにサービスマネージャにより使用されるポート番号。
-EnableTLS -tls	enable_tls	オプション。Informatica ドメインのサービス間に安全な通信を設定します。 Informatica から提供されるデフォルトの SSL 証明書を使用する場合、キーストアおよびトラストストアのオプションを指定する必要はありません。デフォルトの SSL 証明書を使用しない場合、キーストアおよびトラストストアのオプションを指定する必要があります。有効な値は true または false です。デフォルトは false です。-tls オプションに値を指定しない場合、Informatica ドメインはサービス間で安全な通信を使用します。 Administrator ツール、Analyst ツール、Web サービス Hub などの関連サービスまたは Web アプリケーションに対して安全な通信を有効にするには、アプリケーション内で安全な通信を個別に設定します。

オプション	引数	説明
-NodeKeystore -nk	node_keystore_directory	<p>Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。各自の SSL 認証を使用している場合は必須。キーストアファイルを含めるディレクトリ。Informatica ドメインは、PEM 形式および Java Keystore (JKS) ファイルの SSL 認証を必要とします。このディレクトリには PEM および JKS 形式のキーストアファイルが含まれている必要があります。</p> <p>キーストアファイルの名前は、infa_keystore.jks および infa_keystore.pem である必要があります。認証機関 (CA) から受け取ったキーストアファイルが異なる名前である場合は、名前を infa_keystore.jks および infa_keystore.pem に変更する必要があります。</p> <p>ドメイン内のすべてのノードでは同じキーストアファイルを使用する必要があります。</p>
-NodeKeystorePass -nkp	node_keystore_password	<p>Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。各自の SSL 認証を使用している場合は必須。キーストアである infa_keystore.jks ファイルのパスワード。</p>
-NodeTruststore -nt	node_truststore_directory	<p>Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。各自の SSL 認証を使用している場合は必須。トラストストアファイルが含まれるディレクトリ。Informatica ドメインは、PEM 形式および Java Keystore (JKS) ファイルの SSL 認証を必要とします。このディレクトリには PEM および JKS 形式のトラストストアファイルが含まれている必要があります。</p> <p>トラストストアファイルの名前は、infa_truststore.jks および infa_truststore.pem である必要があります。認証機関 (CA) から受け取ったトラストストアファイルが異なる名前である場合は、名前を infa_truststore.jks および infa_truststore.pem に変更する必要があります。</p>
-NodeTruststorePass -ntp	node_truststore_password	<p>Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。各自の SSL 認証を使用している場合は必須。infa_truststore.jks ファイルのパスワード。</p>
-EnableKerberos -krb	enable_kerberos	<p>オプション。Kerberos 認証を使用するように Informatica ドメインを設定します。有効な値は true または false です。true の場合、ドメインでは Kerberos 認証が使用され、後で認証モードを変更することはできません。Kerberos 認証を有効にした後は、無効にはできません。デフォルトは false です。-krb オプションを値なしで指定すると、Informatica ドメインは Kerberos 認証を使用します。</p>
-ServiceRealmName -srn	realm_name_of_node_spn	<p>オプション。Informatica ドメインサービスが属する Kerberos レalm の名前。Kerberos 認証の場合、-urn と同じ値を入力していることを確認します。</p>

オプション	引数	説明
-UserRealmName -urn	realm_name_of_user_spn	オプション。Informatica ドメインユーザーが属する Kerberos レalm の名前。Kerberos 認証の場合、-srn と同じ値を入力していることを確認します。
-KeysDirectory -kd	Infatica_keys_directory_location	オプション。すべてのキータブファイルと Informatica ドメイン用の暗号キーが格納されるディレクトリ。デフォルトは <InformaticaInstallationDir>/isp/config/keys です。
-AdminconsolePort -ap	admin_tool_port	オプション。Informatica Administrator にアクセスするためのポート。
-HttpsPort -hs	admin_tool_https_port	オプション。Administrator ツールとサービスマネージャ間の通信にノードで使用されるポート番号。ノードで HTTPS を設定する場合にはこのポート番号を設定します。 ノードの HTTPS サポートを無効にする場合は、このポート番号をゼロに設定します。
-KeystoreFile -kf	admin_tool_keystore_file_location	オプション。キーと、SSL セキュリティプロトコルを使用する場合に必要な証明書が入っているキーストアファイル。
-KeystorePass -kp	admin_tool_keystore_password	オプション。キーストアファイルの平文パスワード。パスワードは -kp オプションまたは環境変数 INFA_PASSWORD とともに設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-kp オプションとともに設定されたパスワードが優先されます。
-MinProcessPort -mi	minimum_port	オプション。ノードで実行されているアプリケーションサービスプロセスの最小ポート番号。デフォルトは 11000 です。
-MaxProcessPort -ma	maximum_port	オプション。ノードで実行されているアプリケーションサービスプロセスの最大ポート番号。デフォルトは 11999 です。
-LogServiceDirectory -ld	log_service_directory	オプション。ログマネージャがログイベントファイルの格納に使用する共有ディレクトリパス。
-SystemLogDirectory -sld	system_log_directory	オプション。システムログファイルを格納するディレクトリパス。デフォルトは <INFA_home>/logs です。
-ServerPort -sv	server_shutdown_port	オプション。サービスマネージャで使用する TCP/IP のポート番号。サービスマネージャは、このポートにある PowerCenter コンポーネントのシャットダウンコマンドをリッスンします。マシンに複数のノードがある場合、またはデフォルトのポート番号が使用中の場合、このポート番号を指定します。デフォルトは 8005 です。

オプション	引数	説明
- AdminconsoleShutdownPort -asp	admin_tool_shutdown_port	オプション。Informatica Administrator のシャットダウンを制御するポート番号。
-BackupDirectory -bd	backup_directory	オプション。リポジトリバックアップファイルを格納するディレクトリ。このディレクトリは、ノードからアクセス可能でなければなりません。
-ErrorLogLevel -el	致命 エラー 警告 情報 トレース デバッグ	オプション。ドメインログのログイベントの重要度レベル。デフォルトは info です。
-ResourceFile -rf	resource_file	必須。ノードで使用可能なリソースのリストを含むファイル。server\tomcat\bin ディレクトリにある nodeoptions.xml ファイルを使用します。
-Tablespace -ts	tablespace_name	IBM DB2 データベースの場合に必須。ドメイン環境設定データベーステーブルが存在するテーブルスペースの名前。
-SchemaName -sc	schema_name	オプション。Microsoft SQL Server スキーマの名前。デフォルトスキーマを使用していない場合、スキーマ名を入力します。
-DatabaseTlsEnabled -dbtls	database_tls_enabled	オプション。Informatica ドメインデータベースが TLS または SSL で保護されているかどうかを示します。セキュアデータベースの場合、このオプションを True に設定します。デフォルトは false です。-dbtls オプションを値なしで指定する場合、Informatica ドメインは、Informatica ドメインデータベースに対して安全な通信を使用します。
- DatabaseTruststorePassword -dbtp	database_truststore_password	オプション。セキュアデータベースのデータベーストラストストアファイルのパスワード。
-TrustedConnection -tc	なし	オプション。信頼関係接続を使用して Microsoft SQL Server データベースに接続します。信頼認証では、現在のユーザーの Windows セキュリティ証明書を使用して Microsoft SQL Server に接続します。
- DatabaseTruststoreLocation -dbtl	database_truststore_location	セキュアなドメインリポジトリデータベースのトラストストアファイルのパスとファイル名。ドメインにセキュアなドメインリポジトリデータベースを設定する場合は必須。

関連項目：

- [「AddDomainNode」 \(ページ 208\)](#)

DefineWorkerNode

現在のマシンで作業ノードを定義します。infasetup は、ノードの設定メタデータを格納する nodemeta.xml ファイルを作成します。既存のノードでこのコマンドを実行すると、ノードの設定メタデータが上書きされます。ノードを定義した後、infacmd isp AddDomainNode を実行してノードをドメインに追加します。

DefineWorkerNode コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
DefineWorkerNode
<-DomainName|-dn> domain_name
<-NodeName|-nn> node_name
<-NodeAddress|-na> node_host:port
[<-ServiceManagerPort|-sp> service_manager_port]
[<-EnableTLS|-tls> enable_tls]
[<-NodeKeystore|-nk> node_keystore_directory]
[<-NodeKeystorePass|-nkp> node_keystore_password]
[<-NodeTruststore|-nt> node_truststore_directory]
[<-NodeTruststorePass|-ntp> node_truststore_password]
[<-EnableKerberos|-krb> enable_kerberos]
[<-ServiceRealmName|-srn> realm_name_of_node_spn]
[<-UserRealmName|-urn> realm_name_of_user_spn]
[<-KeysDirectory|-kd> Infa_keys_directory_location]
[<-HttpsPort|-hs> admin_tool_https_port]
[<-NodeKeystoreFile|-kf> admin_tool_keystore_file_location]
[<-KeystorePass|-kp> admin_tool_keystore_password]
<-GatewayAddress|-dg> domain_gateway_host:port
[<-UserName|-un> user_name]
[<-SecurityDomain|-sdn> security domain]
[<-Password|-pd> password]
[<-MinProcessPort|-mi> minimum_port]
[<-MaxProcessPort|-ma> maximum_port]
[<-ServerPort|-sv> server_shutdown_port]
[<-BackupDirectory|-bd> backup_directory]
[<-ErrorLogLevel|-el> FATAL_ERROR_WARNING_INFO_TRACE_DEBUG]
<-ResourceFile|-rf> resource_file
[<-SystemLogDirectory|-sld> system_log_directory]
```

以下の表に、*infasetup* DefineWorkerNode のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。作業ノードのリンク先ドメインの名前。
-NodeName -nn	node_name	必須。ノードの名前。ノード名の文字数は 1~79 で、スペースまたは以下の文字を含めることはできません：\/*?<>
-NodeAddress -na	node_host:port	必須。ノードを管理するマシンのホスト名およびポート番号。使用可能なポート番号を選択してください。
-ServiceManagerPort -sp	service_manager_port	オプション。受信する接続要求をリスンするためにサービスマネージャにより使用されるポート番号。

オプション	引数	説明
-EnableTLS -tls	enable_tls	<p>オプション。Informatica ドメインのサービス間に安全な通信を設定します。</p> <p>Informatica から提供されるデフォルトの SSL 証明書を使用する場合、キーストアおよびトラストストアのオプションを指定する必要はありません。デフォルトの SSL 証明書を使用しない場合、キーストアおよびトラストストアのオプションを指定する必要があります。有効な値は true または false です。デフォルトは false です。-tls オプションに値を指定しない場合、Informatica ドメインはサービス間で安全な通信を使用します。</p> <p>Administrator ツール、Analyst ツール、Web サービス Hub などの関連サービスまたは Web アプリケーションに対して安全な通信を有効にするには、アプリケーション内で安全な通信を個別に設定します。</p>
-NodeKeystore -nk	node_keystore_directory	<p>Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。各自の SSL 認証を使用している場合は必須。キーストアファイルを含めるディレクトリ。Informatica ドメインは、PEM 形式および Java Keystore (JKS) ファイルの SSL 認証を必要とします。このディレクトリには PEM および JKS 形式のキーストアファイルが含まれている必要があります。</p> <p>キーストアファイルの名前は、infa_keystore.jks および infa_keystore.pem である必要があります。認証機関 (CA) から受け取ったキーストアファイルが異なる名前である場合は、名前を infa_keystore.jks および infa_keystore.pem に変更する必要があります。</p> <p>ドメイン内のすべてのノードでは同じキーストアファイルを使用する必要があります。</p>
-NodeKeystorePass -nkp	node_keystore_password	<p>Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。各自の SSL 認証を使用している場合は必須。キーストアである infa_keystore.jks ファイルのパスワード。</p>
-NodeTruststore -nt	node_truststore_directory	<p>Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。トラストストアファイルが含まれるディレクトリ。Informatica ドメインは、PEM 形式および Java Keystore (JKS) ファイルの SSL 認証を必要とします。このディレクトリには PEM および JKS 形式のトラストストアファイルが含まれている必要があります。</p> <p>トラストストアファイルの名前は、infa_truststore.jks および infa_truststore.pem である必要があります。認証機関 (CA) から受け取ったトラストストアファイルが異なる名前である場合は、名前を infa_truststore.jks および infa_truststore.pem に変更する必要があります。</p>
-NodeTruststorePass -ntp	node_truststore_password	<p>Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。各自の SSL 認証を使用している場合は必須。infa_truststore.jks ファイルのパスワード。</p>

オプション	引数	説明
-EnableKerberos -krb	enable_kerberos	オプション。Kerberos 認証を使用するように Informatica ドメインを設定します。有効な値は true または false です。true の場合、ドメインでは Kerberos 認証が使用され、後で認証モードを変更することはできません。Kerberos 認証を有効にした後は、無効にはできません。デフォルトは false です。-krb オプションを値なしで指定すると、Informatica ドメインは Kerberos 認証を使用します。
-ServiceRealmName -srn	realm_name_of_node_spn	オプション。Informatica ドメインサービスが属する Kerberos レルムの名前。Kerberos 認証の場合、-urn と同じ値を入力していることを確認します。
-UserRealmName -urn	realm_name_of_user_spn	オプション。Informatica ドメインユーザーが属する Kerberos レルムの名前。Kerberos 認証の場合、-srn と同じ値を入力していることを確認します。
-KeysDirectory -kd	Infkeys_directory_location	オプション。すべてのキータブファイルと Informatica ドメイン用の暗号キーが格納されるディレクトリ。デフォルトは<InformaticaInstallationDir>/isp/config/keys です。
-HttpsPort -hs	admin_tool_https_port	オプション。Administrator ツールとサービスマネージャ間の通信用にノードで使用されるポート番号。ノードで HTTPS を設定する場合にはこのポート番号を設定します。 ノードの HTTPS サポートを無効にする場合は、このポート番号をゼロに設定します。
-NodeKeystoreFile -kf	admin_tool_keystore_file_location	オプション。キーと、SSL セキュリティプロトコルを使用する場合に必要な証明書が入っているキーストアファイル。
-KeystorePass -kp	admin_tool_keystore_password	オプション。キーストアファイルの平文パスワード。パスワードは -kp オプションまたは環境変数 INFA_PASSWORD とともに設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-kp オプションとともに設定されたパスワードが優先されます。
-GatewayAddress -dg	domain_gateway_host:port	必須。ゲートウェイホストのマシン名およびポート番号。
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。

オプション	引数	説明
-SecurityDomain -sdn	セキュリティドメイン	ドメインユーザーが属する、作成するセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 -sdn の値を指定できます。または認証モードに基づいてデフォルトの値を使用できます。 - ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。デフォルトはネイティブです。LDAP 認証と連動するには、-sdn の値を指定する必要があります。 - ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ネイティブ認証の場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-MinProcessPort -mi	minimum_port	オプション。ノードで実行されているアプリケーションサービスプロセスの最小ポート番号。デフォルトは 11000 です。
-MaxProcessPort -ma	maximum_port	オプション。ノードで実行されているアプリケーションサービスプロセスの最大ポート番号。デフォルトは 11999 です。
-ServerPort -sv	server_shutdown_port	オプション。サービスマネージャで使用する TCP/IP のポート番号。サービスマネージャは、このポートにある PowerCenter コンポーネントのシャットダウンコマンドをリスンします。マシンに複数のノードがある場合、またはデフォルトのポート番号が使用中の場合、このポート番号を指定します。デフォルトは 8005 です。
-BackupDirectory -bd	backup_directory	オプション。リポジトリバックアップファイルを格納するディレクトリ。このディレクトリは、ノードからアクセス可能でなければなりません。
-ErrorLogLevel -el	致命 エラー 警告 情報 トレース デバッグ	オプション。ドメインログのログイベントの重要度レベル。デフォルトは info です。

オプション	引数	説明
-ResourceFile -rf	resource_file	必須。ノードで使用可能なリソースのリストを含むファイル。server\tomcat\bin ディレクトリにある nodeoptions.xml ファイルを使用します。
-SystemLogDirectory -sld	system_log_directory	オプション。システムログファイルを格納するディレクトリパス。デフォルトは<INFA_home>/logs です。

DeleteDomain

ドメインメタデータテーブルを削除します。このコマンドを実行する前に、マシン上の Informatica サービスを停止する必要があります。また、Windows マシン上でドメインを削除する場合は、ホストのポートを開くか、ファイアウォールを無効にする必要もあります。

Java メモリエラーでコマンドが失敗する場合は、infasetup が使用するシステムメモリを増やします。システムメモリを増やすには、INFA_JAVA_CMD_OPTS 環境変数の-Xmx 値を設定します。

DeleteDomain コマンドでは、以下の構文を使用します。

DeleteDomain

```
<<-DatabaseAddress|-da> database_hostname:database_port|
<-DatabaseConnectionString|-cs> database_connection_string>
[<-DatabaseUserName|-du> database_user_name]
[<-DatabasePassword|-dp> database_password]
<-DatabaseType|-dt> database_type ORACLE|DB2|MSSQLSERVER|SYBASE
[<-DatabaseServiceName|-ds> database_service_name]
[<-Tablespace|-ts> tablespace_name]
[<-SchemaName|-sc> schema_name (used for Microsoft SQL Server only)]
[<-DatabaseTlsEnabled|-dbtls> database_tls_enabled]
[<-DatabaseTruststorePassword|-dbtp> database_truststore_password]
[<-TrustedConnection|-tc> trusted_connection (used for Microsoft SQL Server only)]
[<-EncryptionKeyLocation|-kl> encryption_key_location]
[<-DatabaseTruststoreLocation|-dbtl> database_truststore_location]
```

以下の表に、*infasetup DeleteDomain* のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DatabaseAddress -da	database_hostname:database_port	-DatabaseConnectionString (-cs) オプションを使用しない場合は必須。ドメイン環境設定データベースのホストマシンの名前とポート番号。
-DatabaseConnectionString -cs	database_connection_string	-DatabaseAddress (-da) および-DatabaseServiceName (-ds) オプションを使用しない場合に必須。ドメイン設定データベースへの接続に使用される接続文字列。データベースホスト、データベースポート、およびデータベースサービス名を、接続文字列の一部として指定します。接続文字列を引用符で囲みます。
-DatabaseUserName -du	データベースユーザー名	必須 (-TrustedConnection (-tc) オプションを使用しない場合)。ドメイン環境設定情報が含まれているデータベースのアカウント。
-DatabasePassword -dp	データベースパスワード	データベースユーザーのドメイン環境設定データベースパスワード。このオプションを省略すると、 <i>infasetup</i> では、INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD 環境変数で指定するパスワードを使用します。環境変数の値が指定されていない場合、このオプションを使用してパスワードを入力する必要があります。
-DatabaseType -dt	database_type	必須。ドメイン環境設定メタデータを格納するデータベースのタイプ。以下のデータベースタイプを使用できます。 - db2 - oracle - mssqlserver - sybase
-DatabaseServiceName -ds	database_service_name	-DatabaseConnectionString (-cs) オプションを使用しない場合は必須。データベースサービス名。Oracle、IBM DB2、およびMicrosoft SQL Server データベースの場合に必須です。Oracle の場合はSID、IBM DB2 の場合はサービス名、Microsoft SQL Server の場合はデータベース名を入力します。
-Tablespace -ts	tablespace_name	IBM DB2 データベースの場合に必須。ドメイン環境設定データベーステーブルが存在するテーブルスペースの名前。
SchemaName -sc	schema_name	オプション。Microsoft SQL Server スキーマの名前。デフォルトスキーマを使用していない場合、スキーマ名を入力します。

オプション	引数	説明
-DatabaseTlsEnabled -dbtls	database_tls_enabled	オプション。Informatica ドメインデータベースが TLS または SSL で保護されているかどうかを示します。セキュアなデータベースである場合、このオプションを True に設定します。デフォルトは false です。-dbtls オプションに値を指定しない場合、Informatica ドメインは、Informatica ドメインデータベースに対し安全な通信を使用する。
- DatabaseTruststorePassword -dbtp	database_truststore_password	オプション。セキュアデータベースに対するデータベーストラストストアファイルのためのパスワード。
-TrustedConnection -tc	-	オプション。信頼関係接続を使用して Microsoft SQL Server データベースに接続します。信頼認証では、現在のユーザーの Windows セキュリティ証明書を使用して Microsoft SQL Server に接続します。
-EncryptionKeyLocation -kl	encryption_key_location	現在の暗号化キーが入ったディレクトリ。暗号化ファイルの名前は sitekey です。 Informatica は、現在の sitekey ファイルを sitekey_old に名称変更し、同じディレクトリ内に sitekey という名前の新しいファイルを作り、そこに暗号化キーを生成します。
- DatabaseTruststoreLocation -dbtl	database_truststore_location	セキュアなドメインリポジトリデータベースのトラストストアファイルのパスとファイル名。ドメインにセキュアなドメインリポジトリデータベースを設定する場合は必須。

GenerateEncryptionKey

Informatica ドメインのパスワードなどの機密データを守るための暗号化キーを生成します。

GenerateEncryptionKey コマンドでは、以下の構文を使用します。

GenerateEncryptionKey

<-Keyword|-kw> keyword

<-DomainName|-dn> domain_name

[<-EncryptionKeyLocation|-kl> encryption_key_location]

以下の表に、*infasetup* GenerateEncryptionKey のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-Keyword -kw	keyword	必須。暗号化キー生成の基になるパスワードとして使用するテキスト文字列。 キーワードは以下の基準をすべて満たす必要があります。 - 長さが 8~20 文字である - 大文字を 1 文字以上使用する - 小文字を 1 文字以上使用する - 数字を 1 文字以上使用する - スペースを含まない
-DomainName -dn	domain_name	必須。ドメインの名前。
-EncryptionKeyLocation -kl	encryption_key_location	オプション。現在の暗号化キーが入ったディレクトリ。暗号化ファイルの名前は sitekey です。 Informatica は、現在の sitekey ファイルを sitekey_old に名称変更し、同じディレクトリ内に sitekey という名前の新しいファイルを作り、そこに暗号化キーを生成します。 2 つ以上の sitekey ファイルがディレクトリにある場合にコマンドを再度実行するには、sitekey ファイルをバックアップする必要があります。sitekey ファイルのバックアップをリストアする前に、sitekey ファイルを作成するコマンドを実行できます。

Help

Help コマンドを使用すると、そのコマンドのオプションと引数が表示されます。コマンド名を省略すると、*infasetup* ではすべてのコマンドが一覧表示されます。

Help コマンドでは、以下の構文を使用します。

Help [command]

例えば、「*infasetup* Help UpdateWorkerNode」と入力した場合、*infasetup* は UpdateWorkerNode コマンドに対して次のオプションおよび引数を返します。

```
UpdateWorkerNode [<-DomainName|-dn> domain_name] [<-NodeName|-nn> node_name][<-NodeAddress|-na> node_host:port]
[<-GatewayAddress|-dg> domain_gateway_host:port][<-UserName|-un> user_name][<-Password|-pd> password][<-
ServerPort|-sv> server_admin_port_number]
```

以下の表に、*infasetup* Help のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-	コマンド	オプション。コマンド名。コマンド名を省略すると、 <i>infasetup</i> ではすべてのコマンドが一覧表示されます。

MigrateEncryptionKey

Informatica ドメインのパスワードなどの機密データを保護するための暗号化キーを変更します。

MigrateEncryptionKey

```
<-LocationOfEncryptionKeys|-loc> location_of_encryption_keys
```

```
[<-IsDomainMigrated|-mig> is_domain_migrated]
```

注: ドメインにレポートサービスが含まれる場合は、暗号化キーを変更しません。ドメインにレポートサービスが含まれている場合は、migrateEncryptionKey コマンドが失敗します。

以下の表に、*infasetup* MigrateEncryptionKey のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-LocationOfEncryptionKeys -loc	location_of_encryption_keys	必須。siteKey_old という名前の古い暗号化キーファイルと、siteKey という名前の新しい暗号化キーファイルが格納されているディレクトリ。 このディレクトリには、古い暗号化キーファイルと新しい暗号化キーファイルが入っている必要があります。前の暗号化キーファイルと新しい暗号化キーファイルが別々のディレクトリに保存されている場合、暗号化キーファイルを同じディレクトリにコピーしてください。 ドメインに複数のノードがある場合、migrateEncryptionKey コマンドを実行するドメインの中のどのノードからでも、このディレクトリにアクセスできるようにしておく必要があります。
-IsDomainMigrated -mig	is_domain_migrated	オプション。ドメインが最新の暗号化キーを使用するように更新されているかどうかを示します。 migrateEncryptionKey コマンドを初めて実行するときは、このドメインが以前の暗号化キーを使用することを示すために、このオプションを False に設定します。 2 回目以降、migrateEncryptionKey コマンドを実行してドメイン内の他のノードを更新するときに、このドメインが最新の暗号化キーを使用するように更新されていることを示すために、このオプションを True に設定します。あるいは、このオプションを使わずに migrateEncryptionKey コマンドを実行してもかまいません。 デフォルトは True です。

RestoreDomain

バックアップ.mrep ファイルからドメイン用の設定メタデータをリストアします。Informatica の以前のバージョンのバックアップファイルがある場合は、以前のバージョンを使用してドメインをリストアする必要があります。

このコマンドを実行する前に、ドメインをシャットダウンする必要があります。

ドメインを元のバックアップデータベース以外のデータベースにリストアする場合は、ISP_RUN_LOG テーブルのコンテンツをリストアして以前のワークフローとセッションログを取得する必要があります。

Java メモリエラーでコマンドが失敗する場合は、`infasetup` が使用するシステムメモリを増やします。システムメモリを増やすには、`INFA_JAVA_CMD_OPTS` 環境変数の `-Xmx` 値を設定します。

`RestoreDomain` コマンドでは、以下の構文を使用します。

`RestoreDomain`

```
<<-DatabaseAddress|-da> database_hostname:database_port|
<-DatabaseConnectionString|-cs> database_connection_string>
[<-DatabaseUserName|-du> database_user_name]
[<-DatabasePassword|-dp> database_password]
<-DatabaseType|-dt> database_type
[<-DatabaseServiceName|-ds> database_service_name]
<-BackupFile|-bf> backup_file_name
[<-Force|-f>]
[<-ClearNodeAssociation|-ca>]
[<-Tablespace|-ts> tablespace_name]
[<-SchemaName|-sc> schema_name (used for MSSQLServer only)]
[<-DatabaseTlsEnabled|-dbtls> database_tls_enabled]
[<-DatabaseTruststorePassword|-dbtp> database_truststore_password]
[<-TrustedConnection|-tc> trusted_connection (used for MSSQLServer only)]
[<-EncryptionKeyLocation|-kl> encryption_key_location]
[<-DatabaseTruststoreLocation|-dbtl> database_truststore_location]
```

以下の表に、`infasetup RestoreDomain` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
<code>-DatabaseAddress</code> <code>-da</code>	<code>database_hostname:</code> <code>database_port</code>	<code>-DatabaseConnectionString (-cs)</code> オプションを使用しない場合は必須です。ドメイン環境設定データベースのホストマシンの名前とポート番号。
<code>-DatabaseConnectionString</code> <code>-cs</code>	<code>database_connectio</code> <code>n_string</code>	<code>-DatabaseAddress (-da)</code> および <code>-DatabaseServiceName (-ds)</code> オプションを使用しない場合に必要です。ドメイン設定データベースへの接続に使用される接続文字列。データベースホスト、データベースポート、およびデータベースサービス名を、接続文字列の一部として指定します。接続文字列を引用符で囲みます。
<code>-DatabaseUserName</code> <code>-du</code>	データベースユーザ 名	必須 (<code>-TrustedConnection (-tc)</code> オプションを使用しない場合)。ドメイン環境設定情報が含まれているデータベースのアカウント。

オプション	引数	説明
-DatabasePassword -dp	データベースパスワード	データベースユーザのドメイン環境設定データベースパスワード。このオプションを省略すると、 <i>infasetup</i> では、INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD 環境変数で指定するパスワードを使用します。環境変数の値が指定されていない場合、このオプションを使用してパスワードを入力する必要があります。
-databasetype -dt	database_type	必須。ドメイン環境設定メタデータを格納するデータベースのタイプ。以下のデータベースタイプを使用できます。 - db2 - oracle - mssqlserver - sybase
-DatabaseServiceName -ds	database_service_name	-DatabaseConnectionString (-cs) オプションを使用しない場合は必須です。データベースサービスの名前。Oracle、IBM DB2、および Microsoft SQL Server データベースの場合に必須です。Oracle の場合は SID、IBM DB2 の場合はサービス名、Microsoft SQL Server の場合はデータベース名を入力します。
-BackupFile -bf	backup_file_name	必須。バックアップファイルの名前とパスです。ファイルのパスを指定しない場合、 <i>infasetup</i> は現在のディレクトリにバックアップファイルを作成します。
-Force -f	-	オプション。同じ名前のデータベースがすでに存在する場合、そのデータベースは上書きされます。このオプションの後ろには、どのような文字も含まれません。
-ClearNodeAssociation -ca	-	オプション。ドメインをリストアする場合、ノードの関連付けをクリアします。たとえば、マシン「MyHost:9090」のバックアップ済みドメインにノード「Node1」が格納されています。このオプションを指定すると、ドメインのリストア時に「Node1」という名前のノードとホストアドレス「MyHost:9090」の間の接続は切断されます。切断後、別のノードを MyHost:9090 に関連付けることができます。 このオプションを指定しない場合、Node1 は MyHost:9090 への接続を保持したままです。ドメインをリストアして別のノードを MyHost:9090 に関連付けても、ノードは起動しません。
-Tablespace -ts	tablespace_name	IBM DB2 データベースの場合に必須。ドメイン設定データベーステーブルが存在するテーブルスペースの名前。
-SchemaName -sc	schema_name	オプション。Microsoft SQL Server スキーマの名前。デフォルトスキーマを使用していない場合、スキーマ名を入力します。

オプション	引数	説明
-DatabaseTlsEnabled -dbtls	database_tls_enabled	オプション。Informatica ドメインデータベースが TLS または SSL で保護されているかどうかを示します。セキュアなデータベースである場合、このオプションを True に設定します。デフォルトは false です。-dbtls オプションに値を指定しない場合、Informatica ドメインは、Informatica ドメインデータベースに対し安全な通信を使用する。
- DatabaseTruststorePassword -dbtp	database_truststore_password	オプション。セキュアデータベースに対するデータベーストラストストアファイルのためのパスワード。
-TrustedConnection -tc	-	オプション。信頼関係接続を使用して Microsoft SQL Server データベースに接続します。信頼認証では、現在のユーザーの Windows セキュリティ証明書を使用して Microsoft SQL Server に接続します。
-EncryptionKeyLocation -kl	encryption_key_location	オプション。現在の暗号化キーが入ったディレクトリ。暗号化ファイルの名前は sitekey です。
- DatabaseTruststoreLocation -dbtl	database_truststore_location	オプション。セキュアデータベースのトラストストアファイルのパスとファイル名。ドメインにセキュアなドメインリポジトリデータベースを設定する場合は必須。

SwitchToKerberosMode

Kerberos 認証を利用するように Informatica ドメインを設定します。

SwitchToKerberosMode コマンドでは、以下の構文を使用します。

SwitchToKerberosMode

<-administratorName|-ad> administrator_name

<-ServiceRealmName|-srn> realm_name_of_node_spn

<-UserRealmName|-urn> realm_name_of_user_spn

[<-SPNShareLevel|-spnSL> SPNShareLevel PROCESS|NODE]

以下の表に、*infasetup* SwitchToKerberosMode のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-administratorName -ad	administrator_name	必須。デフォルトの管理者として選択するユーザーの名前。
-ServiceRealmName -srn	realm_name_of_node_spn	必須。Informatica ドメインサービスが属する Kerberos 領域の名前。Kerberos 認証の場合、-urn と同じ値を入力していることを確認します。

オプション	引数	説明
-UserRealmName -urn	realm_name_of_user _spn	必須。Informatica ドメインユーザーが属する Kerberos 領域の名前。Kerberos 認証の場合、-srn と同じ値を入力していることを確認します。
SPNShareLevel -spnSL	SPNShareLevel PROCESS NODE]	オプション。ドメインのサービスプリンシパルレベルを示します。このプロパティを以下のいずれかに設定します。 <ul style="list-style-type: none"> - プロセス。ドメインでは、ノードごと、およびノードのサービスごとに、一意のサービスプリンシパル名 (SPN) とキータブファイルを必要とします。ノードごとに必要になる SPN とキータブファイルの数は、ノードで実行されるサービスプロセスの数により変わります。本稼働ドメインに推奨されます。 - ノード。ドメインでは、ノードとそのノードで実行されているすべてのサービスで 1 つの SPN とキータブファイルを使用しています。また、ノードのすべての HTTP プロセスに個別の SPN とキータブファイルが必要になります。テストドメインと開発ドメインに推奨されます。テストドメインと開発ドメインに推奨されます。 デフォルトは PROCESS です。

UpdateGatewayNode

現在のマシンのゲートウェイノードに関する接続情報を更新します。ゲートウェイノードを更新する前に、`infacmd isp ShutDownNode` コマンドを実行してノードをシャットダウンします。現在のマシンでゲートウェイノードを更新します。ゲートウェイノードを更新する前に、`<InformaticaInstallationDir>\tomcat\bin` から `infaservice shutdown` コマンドを実行してノードをシャットダウンする必要があります。

UpdateGatewayNode コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpdateGatewayNode
[<-DatabaseAddress|-da> database_hostname:database_port|<-DatabaseConnectionString|-cs>
database_connection_string]
[<-DatabaseUserName|-du> database_user_name]
[<-DatabasePassword|-dp> database_password]
[<-DatabaseType|-dt> database_type ORACLE|DB2|MSSQLSERVER|SYBASE]
[<-DatabaseServiceName|-ds> database_service_name]
[<-DomainName|-dn> domain_name]
[<-NodeName|-nn> node_name]
[<-NodeAddress|-na> node_host:port]
[<-ServiceManagerPort|-sp> service_manager_port]
[<-EnableTLS|-tls> enable_tls]
[<-NodeKeystore|-nk> node_keystore_directory]
[<-NodeKeystorePass|-nkp> node_keystore_password]
[<-NodeTruststore|-nt> node_truststore_directory]
[<-NodeTruststorePass|-ntp> node_truststore_password]
[<-EnableKerberos|-krb> enable_kerberos]
[<-ServiceRealmName|-srn> realm_name_of_node_spn]
[<-UserRealmName|-urn> realm_name_of_user_spn]
[<-KeysDirectory|-kd> Infa_keys_directory_location]
[<-AdminconsolePort|-ap> admin_tool_port]
[<-HttpsPort|-hs> admin_tool_https_port]
[<-KeystoreFile|-kf> admin_tool_keystore_file_location]
[<-KeystorePass|-kp> admin_tool_keystore_password]
[<-LogServiceDirectory|-ld> log_service_directory]
```

```
[<-SystemLogDirectory|-sld> system_log_directory]
[<-ServerPort|-sv> server_shutdown_port]
[<-AdminconsoleShutdownPort|-asp> admin_tool_shutdown_port]
[<-Tablespace|-ts> tablespace_name]
[<-SchemaName|-sc> schema_name (used for MSSQLServer only)]
[<-DatabaseTlsEnabled|-dbtls> database_tls_enabled]
[<-DatabaseTruststorePassword|-dbtp> database_truststore_password]
[<-DatabaseTruststoreLocation|-dbtl> database_truststore_location]
[<-TrustedConnection|-tc> trusted_connection (used for MSSQLServer only)]
[<-resetHostPort|-rst> resetHostPort]
```

以下の表に、*infasetup* UpdateGatewayNode のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DatabaseAddress -da	database_hostname:database_port	-DatabaseConnectionString (-cs) オプションを使用しない場合は必須です。ドメイン環境設定データベースのホストマシンの名前とポート番号。
-DatabaseConnectionString -cs	database_connection_string	-DatabaseAddress (-da) および-DatabaseServiceName (-ds) オプションを使用しない場合に必要です。ドメイン設定データベースへの接続に使用される接続文字列。データベースホスト、データベースポート、およびデータベースサービス名を、接続文字列の一部として指定します。接続文字列を引用符で囲みます。
-DatabaseUserName -du	データベースユーザー名	必須 (-TrustedConnection (-tc) オプションを使用しない場合)。ドメイン環境設定情報が含まれているデータベースのアカウント。
-DatabasePassword -dp	データベースパスワード	データベースユーザのドメイン環境設定データベースパスワード。このオプションを省略すると、 <i>infasetup</i> では、INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD 環境変数で指定するパスワードを使用します。環境変数の値が指定されていない場合、このオプションを使用してパスワードを入力する必要があります。
-DatabaseType -dt	database_type ORACLE DB2 MSSQLSERVER SYBASE	必須。ドメイン環境設定メタデータを格納するデータベースのタイプ。以下のデータベースタイプを使用できます。 - db2 - oracle - mssqlserver - sybase
-DatabaseServiceName -ds	database_service_name	-DatabaseConnectionString (-cs) オプションを使用しない場合は必須です。データベースサービスの名前。Oracle、IBM DB2、Microsoft SQL Server データベースの場合に必須です。Oracle の場合は SID、IBM DB2 の場合はサービス名、Microsoft SQL Server の場合はデータベース名を入力します。
-DomainName -dn	domain_name	必須。ドメインの名前。

オプション	引数	説明
-NodeName -nn	node_name	オプション。ノードの名前。ノード名の文字数は1~79で、スペースまたは以下の文字を含めることはできません： <code>\/*?<>" </code>
-NodeAddress -na	node_host:port	オプション。ノードを管理するマシンのホスト名およびポート番号。使用可能なポート番号を選択してください。
-ServiceManagerPort -sp	service_manager_port	オプション。受信する接続要求をリスンするためにサービスマネージャにより使用されるポート番号。
-EnableTLS -tls	enable_tls	<p>オプション。Informatica ドメインのサービス間に安全な通信を設定します。</p> <p>Informatica から提供されるデフォルトの SSL 証明書を使用する場合、キーストアおよびトラストストアのオプションを指定する必要はありません。デフォルトの SSL 証明書を使用しない場合、キーストアおよびトラストストアのオプションを指定する必要があります。有効な値は true または false です。デフォルトは false です。-tls オプションに値を指定しない場合、Informatica ドメインはサービス間で安全な通信を使用します。</p> <p>Administrator ツール、Analyst ツール、Web サービス Hub などの関連サービスまたは Web アプリケーションに対して安全な通信を有効にするには、アプリケーション内で安全な通信を個別に設定します。</p>
-NodeKeystore -nk	node_keystore_directory	<p>Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。各自の SSL 認証を使用している場合は必須。キーストアファイルを含めるディレクトリ。Informatica ドメインは、PEM 形式および Java Keystore (JKS) ファイルの SSL 認証を必要とします。このディレクトリには PEM および JKS 形式のキーストアファイルが含まれている必要があります。</p> <p>キーストアファイルの名前は、infa_keystore.jks および infa_keystore.pem である必要があります。認証機関 (CA) から受け取ったキーストアファイルが異なる名前である場合は、名前を infa_keystore.jks および infa_keystore.pem に変更する必要があります。</p> <p>ドメイン内のすべてのノードでは同じキーストアファイルを使用する必要があります。</p>
-NodeKeystorePass -nkp	node_keystore_password	Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。各自の SSL 認証を使用している場合は必須。キーストアである infa_keystore.jks ファイルのパスワード。

オプション	引数	説明
-NodeTruststore -nt	node_truststore_directory	Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。各自の SSL 認証を使用している場合は必須。トラストストアファイルが含まれるディレクトリ。Informatica ドメインは、PEM 形式および Java Keystore (JKS) ファイルの SSL 認証を必要とします。このディレクトリには PEM および JKS 形式のトラストストアファイルが含まれている必要があります。 トラストストアファイルの名前は、infa_truststore.jks および infa_truststore.pem である必要があります。認証機関 (CA) から受け取ったトラストストアファイルが異なる名前である場合は、名前を infa_truststore.jks および infa_truststore.pem に変更する必要があります。
-NodeTruststorePass -ntp	node_truststore_password	Informatica からのデフォルトの SSL 認証を使用している場合はオプション。各自の SSL 認証を使用している場合は必須。infa_truststore.jks ファイルのパスワード。
-EnableKerberos -krb	enable_kerberos	オプション。Kerberos 認証を使用するように Informatica ドメインを設定します。有効な値は true または false です。true の場合、ドメインでは Kerberos 認証が使用され、後で認証モードを変更することはできません。Kerberos 認証を有効にした後は、無効にはできません。デフォルトは false です。-krb オプションを値なしで指定すると、Informatica ドメインは Kerberos 認証を使用します。
-ServiceRealmName -srn	realm_name_of_node_spn	オプション。Informatica ドメインサービスが属する Kerberos レルムの名前。Kerberos 認証の場合、-urn と同じ値を入力していることを確認します。
-UserRealmName -urn	realm_name_of_user_spn	オプション。Informatica ドメインユーザーが属する Kerberos レルムの名前。Kerberos 認証の場合、-srn と同じ値を入力していることを確認します。
-KeysDirectory -kd	Infa_keys_directory_location	オプション。すべてのキータブファイルと Informatica ドメイン用の暗号キーが格納されるディレクトリ。デフォルトは <InformaticaInstallationDir>/isp/config/keys です。
-AdminconsolePort -ap	admin_tool_port	オプション。Informatica Administrator にアクセスするためのポート。
-HttpsPort -hs	admin_tool_https_port	オプション。Administrator ツールへの接続をセキュリティ保護するポート番号。ノードで HTTPS を設定する場合にはこのポート番号を設定します。ノードの HTTPS サポートを無効にする場合は、このポート番号をゼロに設定します。
-KeystoreFile -kf	admin_tool_keystore_file_location	オプション。キーと、SSL セキュリティプロトコルを使用する場合に必要な証明書が入っているキーストアファイル。

オプション	引数	説明
-KeystorePass -kp	admin_tool_keystore_password	オプション。キーストアファイルの平文パスワード。パスワードは-kp オプションまたは環境変数 INFA_PASSWORD とともに設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-kp オプションとともに設定されたパスワードが優先されます。
-LogServiceDirectory -ld	log_service_directory	オプション。ログマネージャがログイベントファイルの格納に使用する共有ディレクトリパス。
-SystemLogDirectory -sld	system_log_directory	オプション。システムログファイルを格納するディレクトリパス。デフォルトは<INFA_home>/logs です。
-ServerPort -sv	server_shutdown_port	オプション。サービスマネージャで使用する TCP/IP のポート番号。サービスマネージャは、このポートにある PowerCenter コンポーネントのシャットダウンコマンドをリッスンします。マシンに複数のノードがある場合、またはデフォルトのポート番号が使用中の場合、このポート番号を指定します。デフォルトは 8005 です。
-AdminconsoleShutdownPort -asp	admin_tool_shutdown_port	オプション。Informatica Administrator のシャットダウンを制御するポート番号。
-Tablespace -ts	tablespace_name	IBM DB2 データベースの場合に必須。ドメイン環境設定データベーステーブルが存在するテーブルスペースの名前。
-SchemaName -sc	schema_name (MSSQLServer にのみ使用される)	オプション。Microsoft SQL Server スキーマの名前。デフォルトスキーマを使用していない場合、スキーマ名を入力します。
-DatabaseTlsEnabled -dbtls	database_tls_enabled	オプション。Informatica ドメインデータベースが TLS または SSL で保護されているかどうかを示します。セキュアデータベースの場合、このオプションを True に設定します。デフォルトは false です。-dbtls オプションを値なしで指定する場合、Informatica ドメインは、Informatica ドメインデータベースに対して安全な通信を使用します。
-DatabaseTruststorePassword -dbtp	database_truststore_password	オプション。セキュアデータベースのデータベーストラストストアファイルのパスワード。
-TrustedConnection -tc	trusted_connection (MSSQLServer にのみ使用される)	オプション。信頼関係接続を使用して Microsoft SQL Server データベースに接続します。信頼認証では、現在のユーザーの Windows セキュリティ証明書を使用して Microsoft SQL Server に接続します。

オプション	引数	説明
-resetHostPort -rst	resetHostPort	NodeAddress オプションまたは ServiceManager オプションを指定する場合に必須。ホストポート番号をリセットします。
- DatabaseTruststoreLocation -dbtl	database_truststore_location	オプション。ゲートウェイノードのトラストストアファイルのパスとファイル名。

UpdateKerberosAdminUser

ドメインリポジトリのデフォルトの Kerberos 管理者ユーザーを更新します。

UpdateKerberosAdminUser コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateKerberosAdminUser

<-KerberosAdminName|-kan> kerberos_admin_name

以下の表に、*infasetup* UpdateKerberosAdminUser のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-KerberosAdminName -kan	kerberos_admin_name	必須。デフォルトの管理者として選択するユーザーの名前。

UpdateKerberosConfig

UpdateKerberosConfig コマンドは、Informatica 設定内のレルム名またはサービスレルム名を修正する場合に使用します。Informatica ドメインユーザーが属するユーザーレルムは変更できます。Informatica ドメインサービスが属するサービスレルムは変更できます。

注: このコマンドは、Kerberos 設定の変更用ではありません。このコマンドを使用して 1 つのユーザーレルムまたはサービスレルムから別のユーザーレルムまたはサービスレルムにユーザーを移行することはできません。

UpdateKerberosConfig コマンドでは、以下の構文を使用します。

UpdateKerberosConfig

[<-ServiceRealmName|-srn>] realm_name_of_node_spn

[<-UserRealmName|-urn>] realm_name_of_user_spn

以下の表に、*infasetup* UpdateKerberosConfig のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-ServiceRealmName -srn	realm_name_of_node_spn	オプション。Informatica ドメインサービスが属する Kerberos 領域の名前。サービスレルム名はユーザーレルム名と同じにする必要があります。
-UserRealmName -urn	realm_name_of_user_spn	オプション。Informatica ドメインユーザーが属する Kerberos 領域の名前。ユーザーレルム名はサービスレルム名と同じにする必要があります。

UpdateWorkerNode

現在のマシンにある作業ノードの接続性情報を更新します。作業ノードを更新するには、*infacmd* isp ShutDownNode コマンドを実行してノードをシャットダウンする必要があります。

UpdateWorkerNode コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
UpdateWorkerNode
[<-DomainName|-dn> domain_name]
[<-NodeName|-nn> node_name]
[<-NodeAddress|-na> node_host:port]
[<-ServiceManagerPort|-sp> service_manager_port]
[<-EnableTLS|-tls> enable_tls]
[<-NodeKeystore|-nk> node_keystore_directory]
[<-NodeKeystorePass|-nkp> node_keystore_password]
[<-NodeTruststore|-nt> node_truststore_directory]
[<-NodeTruststorePass|-ntp> node_truststore_password]
[<-EnableKerberos|-krb> enable_kerberos]
[<-ServiceRealmName|-srn> realm_name_of_node_spn]
[<-UserRealmName|-urn> realm_name_of_user_spn]
[<-KeysDirectory|-kd> Infa_keys_directory_location]
[<-HttpsPort|-hs> admin_tool_https_port]
[<-KeystoreFile|-kf> admin_tool_keystore_file_location]
[<-KeystorePass|-kp> admin_tool_keystore_password]
[<-GatewayAddress|-dg> domain_gateway_host:port]
[<-UserName|-un> user_name]
[<-SecurityDomain|-sdn> security domain]
[<-Password|-pd> password]
[<-ServerPort|-sv> server_shutdown_port]
[<-resetHostPort|-rst> resetHostPort]
[<-SystemLogDirectory|-sld> system_log_directory]
```

以下の表に、*infasetup* UpdateWorkerNode のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-DomainName -dn	domain_name	必須。ドメインの名前。
-NodeName -nn	node_name	オプション。ノードの名前。ノード名の文字数は 1~79 で、スペースまたは以下の文字を含めることはできません： <code>\/*?<>" </code>
-NodeAddress -na	node_host:port	オプション。ノードを管理するマシンのホスト名およびポート番号。使用可能なポート番号を選択してください。

オプション	引数	説明
-ServiceManagerPort -sp	service_manager_port	オプション。受信する接続要求をリスンするためにサービスマネージャにより使用されるポート番号。
-EnableTLS -tls	enable_tls	<p>オプション。Informatica ドメインのサービス間に安全な通信を設定します。</p> <p>Informatica から提供されるデフォルトの SSL 証明書を使用する場合、キーストアおよびトラストストアのオプションを指定する必要はありません。デフォルトの SSL 証明書を使用しない場合、キーストアおよびトラストストアのオプションを指定する必要があります。有効な値は true または false です。デフォルトは false です。-tls オプションに値を指定しない場合、Informatica ドメインはサービス間で安全な通信を使用します。</p> <p>Administrator ツール、Analyst ツール、Web サービス Hub などの関連サービスまたは Web アプリケーションに対して安全な通信を有効にするには、アプリケーション内で安全な通信を個別に設定します。</p>
-ServiceRealmName -srn	realm_name_of_node_spn	オプション。Informatica ドメインサービスが属する Kerberos レルムの名前。Kerberos 認証の場合、-urn と同じ値を入力していることを確認します。
-UserRealmName -urn	realm_name_of_user_spn	オプション。Informatica ドメインユーザーが属する Kerberos レルムの名前。Kerberos 認証の場合、-srn と同じ値を入力していることを確認します。
-KeysDirectory -kd	Infra_keys_directory_location	オプション。すべてのキータブファイルと Informatica ドメイン用の暗号キーが格納されるディレクトリ。デフォルトは<InformaticaInstallationDir>/isp/config/keys です。
-HttpsPort -hs	admin_tool_https_port	オプション。Administrator ツールへの接続をセキュリティ保護するポート番号。ノードで HTTPS を設定する場合にはこのポート番号を設定します。
-NodeKeystoreFile -kf	admin_tool_keystore_file_location	オプション。キーと、SSL セキュリティプロトコルを使用する場合に必要な証明書が入っているキーストアファイル。
-KeystorePass -kp	admin_tool_keystore_password	オプション。キーストアファイルの平文パスワード。パスワードは -kp オプションまたは環境変数 INFA_PASSWORD とともに設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-kp オプションとともに設定されたパスワードが優先されます。
-GatewayAddress -dg	domain_gateway_host:port	必須。ゲートウェイホストのマシン名およびポート番号。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	ドメインでネイティブ認証または LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインに接続するユーザー名。ユーザー名は、-un オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER を使用して設定できます。両方の方法でユーザー名を設定した場合、-un オプションが優先されます。 ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は任意。シングルサインオンを使用してコマンドを実行する場合は、ユーザー名を設定しないでください。ユーザー名を設定すると、コマンドはシングルサインオンを使用せずに実行されます。
-SecurityDomain -sdn	セキュリティドメイン	ドメインユーザーが属する、作成するセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名では、大文字小文字が区別されます。 -sdn の値を指定できます。または認証モードに基づいてデフォルトの値を使用できます。 - ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。デフォルトはネイティブです。LDAP 認証と連動するには、-sdn の値を指定する必要があります。 - ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ネイティブ認証の場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。
-Password -pd	パスワード	ユーザー名を指定する場合は必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。パスワードは、-pd オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD を使用して設定できます。両方の方法でパスワードを設定した場合、-pd オプションを使用して設定されたパスワードが優先されます。
-ServerPort -sv	server_shutdown_port	オプション。サービスマネージャで使用する TCP/IP のポート番号。サービスマネージャは、このポートにある PowerCenter コンポーネントのシャットダウンコマンドをリッスンします。マシンに複数のノードがある場合、またはデフォルトのポート番号が使用中の場合、このポート番号を指定します。
-resetHostPort -rst	true false	NodeAddress オプションまたは ServiceManager オプションを指定する場合に必須。ホストポート番号をリセットします。
-SystemLogDirectory -sld	system_log_directory	オプション。システムログファイルを格納するディレクトリパス。デフォルトは<INFA_home>/logs です。

UnlockUser

ネイティブまたは LDAP ユーザーアカウントのロックを解除します。ネイティブユーザーアカウントのロックを解除する場合は、このアカウントの新しいパスワードを指定することもできます。

ユーザーアカウントのロックは、ゲートウェイノードからドメインをシャットダウンした後に解除できます。

ユーザーアカウントのロックは、ドメインをシャットダウンし、ドメインデータベースを開始した後に解除できます。

Windows でドメインデータベースを開始する手順:

1. コマンドラインの<InformaticaInstallationDir>\h2\bin に移動します。
2. dbmanager.bat startup コマンドを実行します。

UNIX でドメインデータベースを開始する手順:

1. コマンドラインの<InformaticaInstallationDir>/h2/bin に移動します。
2. コマンド dbmanager.sh startup を入力します。

infasetup UnlockUser コマンドでは、以下の構文を使用します。

UnlockUser

<-UserName|-un> user_name

[-SecurityDomain|-sdn] security domain]

[-NewPassword|-np] new_password]

以下の表に、infasetup UnlockUser のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-UserName -un	user_name	必須。ロックされているアカウントのユーザー名。値は大文字と小文字が区別されます。
-SecurityDomain -sdn	セキュリティドメイン	<p>ドメインで LDAP 認証が使用されている場合は必須。ドメインでネイティブの認証または Kerberos 認証が使用されている場合は任意。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。</p> <p>ドメインでネイティブの認証または LDAP 認証が使用されている場合、デフォルトはネイティブです。ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合は、デフォルトはインストール中に作成された LDAP セキュリティドメインです。セキュリティドメインの名前は、インストール中に指定されたユーザーレルムと同じです。</p> <p>オプション。ドメインユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。セキュリティドメインは、-sdn オプションまたは環境変数 INFA_DEFAULT_SECURITY_DOMAIN を使用して設定できます。両方の方法でセキュリティドメイン名を設定した場合、-sdn オプションが優先されます。セキュリティドメイン名は大文字小文字を区別します。デフォルトはネイティブです。</p>
-NewPassword -np	new_password	オプション。ロックされているネイティブアカウントの新しいパスワード。

ValidateandRegisterFeature

ドメイン内の機能を検証および登録します。

ValidateandRegisterFeature コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
ValidateandRegisterFeature
```

```
<-FeatureFilename|-ff> feature_filename
```

```
<-IsUpgrade|-up> is_upgrade
```

以下の表に、*infasetup* ValidateandRegisterFeature のオプションおよび引数を示します。:

オプション	引数	説明
-FeatureFilename -ff	feature_filename	必須。プラグインの xml ファイルの場所。
-IsUpgrade -up	is_upgrade	必須。機能ファイルで、プラグインを指定されたバージョンにアップグレードするかどうかを示します。有効な値は true と false です。デフォルトは true です。

第 30 章

pmcmd コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [pmcmd の使用, 978](#) ページ
- [AbortTask, 983](#) ページ
- [abortworkflow, 985](#) ページ
- [Connect, 986](#) ページ
- [Disconnect, 987](#) ページ
- [Exit, 988](#) ページ
- [GetRunningSessionsDetails, 988](#) ページ
- [GetServiceDetails, 989](#) ページ
- [GetServiceProperties, 991](#) ページ
- [getsessionstatistics, 992](#) ページ
- [GetTaskDetails, 994](#) ページ
- [GetWorkflowDetails, 996](#) ページ
- [Help, 999](#) ページ
- [PingService, 1000](#) ページ
- [RecoverWorkflow, 1000](#) ページ
- [ScheduleWorkflow, 1002](#) ページ
- [SetFolder, 1004](#) ページ
- [SetNoWait, 1004](#) ページ
- [SetWait, 1005](#) ページ
- [ShowSettings, 1005](#) ページ
- [StartTask, 1005](#) ページ
- [StartWorkflow, 1008](#) ページ
- [StopTask, 1012](#) ページ
- [StopWorkflow, 1014](#) ページ
- [UnscheduleWorkflow, 1015](#) ページ
- [UnsetFolder, 1017](#) ページ
- [バージョン, 1017](#) ページ
- [WaitTask, 1017](#) ページ
- [WaitWorkflow, 1019](#) ページ

pmcmd の使用

pmcmd は、Integration Service と通信するために使用するプログラムです。ワークフローやタスクの開始、停止など、Workflow Manager で実行できる作業の一部は、*pmcmd* でも実行できます。

pmcmd は、以下のモードで使用します。

- **コマンドラインモード。** コマンドを発行するたびに *pmcmd* の呼び出しと終了を行います。コマンドライン構文を使用して、ワークフローをスケジューリングするスクリプトを記述できます。コマンドラインモードで記述する各コマンドには、Integration Service への接続情報が含まれている必要があります。
- **対話モード。** Integration Service へのアクティブな接続を確立して維持します。その結果、いくつかのコマンドを連続して実行できます。

pmcmd では、ユーザー名およびパスワードを環境変数として使用できます。また、環境変数を使用して、Integration Service のプロセスを実行しているマシン上で、*pmcmd* が日付および時刻を表示する方法をカスタマイズすることもできます。*pmcmd* を使用する前に、Integration Service のプロセスを実行しているマシンに、これらの環境変数を設定します。環境変数は、ノード上で実行する *pmcmd* コマンドに適用されます。

注: ドメインがミックスバージョンドメインの場合、Integration Service バージョンのインストールディレクトリから *pmcmd* を実行します。

コマンドラインモードでのコマンドの実行

コマンドラインモードでは、コマンドを実行するたびに *pmcmd* の起動と終了が行われます。バッチファイルやスクリプトなどのプログラムを使って *pmcmd* を実行する場合は、コマンドラインモードが便利です。

pmcmd コマンドは、*cron* などのオペレーティングシステムのスケジュール設定ツールと共に使用します。または、*pmcmd* をシェルスクリプトまたは Perl スクリプトに埋め込むこともできます。

pmcmd をコマンドラインモードで実行する場合は、各コマンドにドメイン名、統合サービス名、ユーザー名、パスワードなどの接続情報を入力します。例えば、フォルダー SalesEast 内の wf_SalesAvguse ワークフローを開始するには、以下の構文を使用します。

```
pmcmd startworkflow -sv MyIntService -d MyDomain -u seller3 -p jackson -f SalesEast wf_SalesAvg
```

ユーザー seller3 はパスワード“jackson”を使用して、ワークフローの開始要求を送信します。

必要なオプションを省略したり、誤って入力したりすると、コマンドは失敗し、*pmcmd* はゼロ以外のリターンコードを返します。戻りコードの詳細については、[「pmcmd の戻りコード」](#) (ページ 978) を参照してください。

コマンドラインモードで *pmcmd* のコマンドを実行する手順

1. コマンドプロンプトで、*pmcmd* の実行可能ファイルが格納されているディレクトリに切り替えます。
デフォルトでは、PowerCenter のインストーラにより *pmcmd* は \server\bin ディレクトリにインストールされます。
2. *pmcmd* に続けてコマンド名を入力します。必要に応じて、オプションや引数も入力します。
`pmcmd command_name [-option1] argument_1 [-option2] argument_2...`

pmcmd の戻りコード

コマンドラインモードの場合、*pmcmd* は、コマンドが成功したか失敗したかを戻りコードで示します。コマンドが成功した場合、リターンコード「0」を返します。それ以外の戻りコードは、コマンドが失敗したことを示します。

コマンドの戻りコードを確認するため、*pmcmd* コマンドを実行後すぐに DOS または UNIX の echo コマンドを使用します。

- DOS シェルの場合: echo %ERRORLEVEL%
- UNIX Bourne または Korn シェルの場合: echo \$?
- UNIX C シェルの場合: echo \$status

以下の表に、*pmcmd* の戻りコードを示します。

コード	説明
0	すべてのコマンドにおいて、戻りコード 0 はコマンドの実行が成功したことを示します。 starttask、startworkflow、aborttask、abortworkflow の各コマンドは、待ちモードまたは非待ちモードで実行できます。コマンドを待ちモードで実行した場合、戻りコード 0 はコマンドの実行が成功したことを示します。コマンドを非待ちモードで実行した場合、戻りコード 0 は統合サービスへ要求の送信が成功し、要求が認識されたことを示します。
1	統合サービスを利用できないか、あるいは <i>pmcmd</i> から統合サービスに接続できません。 TCP/IP ホスト名またはポート番号が誤っているか、またはネットワークに問題が発生しています。
2	タスク名、ワークフロー名、またはフォルダ名が存在しません。
3	ワークフローまたはタスクの開始時または実行中にエラーが発生しました。
4	使用法エラー。 <i>pmcmd</i> に不正なオプションが入力されました。
5	内部 <i>pmcmd</i> エラーが発生しました。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
7	無効なユーザー名またはパスワードが使用されました。
8	このタスクを実行するために必要な権限または特権がありません。
9	要求の送信中に統合サービスへの接続がタイムアウトしました。
12	セッションまたはワークフローが、スケジュールされている、イベントを待機している、待機中、初期化中、強制終了中、停止中、無効化されている、または実行中であるため、統合サービスはリカバリを開始できません。
13	ユーザー名環境変数が空の値に設定されています。
14	パスワード環境変数が空の値に設定されています。
15	ユーザー名環境変数がありません。
16	パスワード環境変数がありません。
17	パラメータファイルがありません。
18	統合サービスはパラメータファイルを見つけましたが、\$input や \$output など、セッションパラメータの初期値が含まれていませんでした。
19	ワークフローが連続して実行するように設定されているため、統合サービスは、セッションを再開できません。

コード	説明
20	リポジトリエラーが発生しました。リポジトリサービスとデータベースが動作していて、データベースへの接続数の制限を超えていないことを確認してください。
21	統合サービスはシャットダウン中で、新しい要求を受け付けていません。
22	統合サービスは、指定されたワークフロー/セッションの固有のインスタンスを見つけられません。フォルダ名とワークフロー名を指定してコマンドを再実行してください。
23	要求を満たすデータが存在しません。
24	メモリ不足です。
25	コマンドが取り消されました。

対話モードでのコマンドの実行

pmcmd を対話モードで使用して、スクリプトを記述しないでワークフローやセッションを開始および停止します。対話モードを使用する場合は、ドメイン名、Integration Service 名、ユーザー名、パスワードなどの接続情報を入力します。後続のコマンドは、各コマンドに接続情報を入力せずに実行できます。

例えば、以下のコマンドは、対話モードを呼び出して、Integration Service 「MyIntService」 への接続を確立し、フォルダ 「SalesEast」 内のワークフロー 「wf_SalesAvg」と 「wf_SalesTotal」 を開始します。

```
pmcmd
pmcmd> connect -sv MyIntService -d MyDomain -u seller3 -p jackson
pmcmd> setfolder SalesEast
pmcmd> startworkflow wf_SalesAvg
pmcmd> startworkflow wf_SalesTotal
```

対話モードで *pmcmd* コマンドを実行する手順

1. コマンドプロンプトで、*pmcmd* の実行可能ファイルが格納されているディレクトリに切り替えます。
デフォルトでは、PowerCenter のインストーラにより *pmcmd* は `\server\bin` ディレクトリにインストールされます。
2. コマンドプロンプトに、「*pmcmd*」と入力します。
これにより、*pmcmd* が対話モードで起動され、`pmcmd>` プロンプトが表示されます。対話モードでは、各コマンドの前に「*pmcmd*」と入力する必要はありません。
3. ドメインおよび Integration Service に接続情報を入力します。以下に例を示します。
`connect -sv MyIntService -d MyDomain -u seller3 -p jackson`
4. コマンド、オプションと引数を次の形式で入力します。

`command_name [-option1] argument_1 [-option2] argument_2...`
pmcmd により、コマンドが実行され、プロンプトが再び表示されます。
5. 「exit」と入力して対話セッションを終了します。

デフォルトの設定

pmcmd を使用して Integration Service に接続した後に、Integration Service がコマンドを実行するたびに使用するデフォルトのフォルダまたは条件を指定できます。例えば、同じフォルダ内の一連のコマンドまたはタスクを実行する場合、`setfolder` コマンドでフォルダ名を指定します。以降すべてのコマンドでは、そのフォルダがデフォルトとして使用されます。

以下の表に、以降のコマンドのデフォルトの設定に使用されるコマンドを示します。

Command	説明
setfolder	フォルダを、以降すべてのコマンドを実行するデフォルトフォルダとして設定します。
setnowait	以降のコマンドを非待ちモードで実行します。 <i>pmcmd</i> プロンプトは、Integration Service が前のコマンドを受け取った後に使用可能になります。非待ちモードはデフォルトのモードです。
setwait	以降のコマンドを待ちモードで実行します。 <i>pmcmd</i> プロンプトは、Integration Service が前のコマンドを完了するまで使用できません。
unsetfolder	setfolder コマンドで行われた指定を解除します。

pmcmdShowSettings コマンドを使用して、デフォルト設定を表示できます。

待ちモードでの実行

pmcmd は、待ちモードでも非待ちモードでも実行できます。待ちモードの場合、コマンドの完了後に *pmcmd* がシェルまたはコマンドプロンプトに返されます。前のコマンドが完了するまでは、以降のコマンドを実行できません。

例えば、次のコマンドを入力すると、*pmcmd* はワークフロー“wf_SalesAvg”を開始しても、ワークフローが完了するまでプロンプトに返しません。

```
pmcmd startworkflow -sv MyIntService -d MyDomain -u seller3 -p jackson -f SalesEast -wait wf_SalesAvg
```

非待ちモードの場合、*pmcmd* により直ちにシェルまたはコマンドプロンプトが返されます。1つのコマンドが完了するのを待ってから次のコマンドを実行する必要はありません。

例えば、次のコマンドを入力すると、ワークフロー“wf_SalesAvg”がまだ実行中でも、*pmcmd* はワークフロー“wf_SalesTotal”を開始します。

```
pmcmd startworkflow -sv MyIntService -d MyDomain -u seller3 -p jackson -f SalesEast wf_SalesAvg
pmcmd startworkflow -sv MyIntService -d MyDomain -u seller3 -p jackson -f SalesEast wf_SalesTotal
```

デフォルトでは、*pmcmd* は非待ちモードでコマンドを実行します。

コマンドラインまたは対話モードでコマンドを実行する場合、待ちモードに設定できます。コマンドラインモードでは、`-wait` オプションを使用してコマンドを待ちモードで実行します。対話モードでは、以降のコマンドを入力する前に、`setwait` コマンドまたは `setnowait` コマンドを使用します。

pmcmd コマンドのスクリプト作成

pmcmd を使用する場合、特定のオプションと引数で定期的いくつかのコマンドを実行することがあります。例えば、*pmcmd* を使用して Integration Service のステータスをチェックすることができます。この場合、1つ以上の *pmcmd* コマンド（そのオプションと引数を含む）を呼び出すスクリプトまたはバッチファイルを作成できます。

コマンドラインモードでスクリプトを実行できます。対話モードでは、*pmcmd* のスクリプトは実行できません。

例えば、次の UNIX シェルスクリプトは、Integration Service の「testService」のステータスをチェックし、サービスが実行中の場合、セッション「s_testSessionTask」の詳細を取得します。

```
#!/usr/bin/bash
# Sample pmcmd script
# Check if the service is alive
```

```

pmcmd pingservice -sv testService -d testDomain
if [ "$?" != 0 ]; then

    # handle error

    echo "Could not ping service"

    exit

fi
# Get service properties

pmcmd getserviceproperties -sv testService -d testDomain
if [ "$?" != 0 ]; then

    # handle error

    echo "Could not get service properties"

    exit

fi
# Get task details for session task "s_testSessionTask" of workflow
# "wf_test_workflow" in folder "testFolder"

pmcmd gettaskdetails -sv testService -d testDomain -u Administrator -p adminPass -folder testFolder -workflow
wf_test_workflow s_testSessionTask
if [ "$?" != 0 ]; then

    # handle error

    echo "Could not get details for task s_testSessionTask"

    exit

fi

```

コマンドのオプションの入力

*pmcmd*では、一部のコマンドオプションと引数の入力に、複数の方法を提供しています。例えば、パスワードを入力するには、以下の構文を使用します。

```
<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>
```

パスワードを入力するには、パスワードの前に`-password` オプションまたは`-p` オプションを付けます。

```
-password ThePassword
or
-p ThePassword
```

パスワード環境変数を使用する場合は、変数の名前の前に`-pv` オプションまたは`-passwordvar` オプションを付けます。

```
-passwordvar PASSWORD
or
-pv PASSWORD
```

コマンドオプションにスペースが含まれる場合は、オプションを一重引用符または二重引用符で囲みます。例えば、次の構文ではフォルダ名を一重引用符で囲んでいます。

```
abortworkflow -sv MyIntService -d MyDomain -u seller3 -p jackson -f 'quarterly sales' -wait wf_MyWorkflow
```

空文字列を指定する場合は、2つの一重引用符 (') または2つの二重引用符 (") を使用します。

AbortTask

タスクを強制終了します。このコマンドは、stoptask コマンドで統合サービスがタスクの停止に失敗した場合にのみ、実行してください。

AbortTask コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd AbortTask
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
<<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar>
<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>
[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar>]
[<-folder|-f> folder]
<-workflow|-w> workflow
[<-runinsname|-rin> runInsName]
[-wfrunid workflowRunId]
[-wait|-nowait]
taskInstancePath
```

AbortTask コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
AbortTask
[<-folder|-f> folder]
<-workflow|-w> workflow
[<-runinsname|-rin> runInsName]
[-wfrunid workflowRunId]
[-wait|-nowait]
taskInstancePath
```

以下の表に、*pmcmd* AbortTask のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	コマンドラインモードの場合に必須。統合サービス名。対話モードでは使用しません。
-domain -d	ドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。ドメイン名。対話モードでは使用しません。
-timeout -t	タイムアウト	コマンドラインモードの場合はオプション。 <i>pmcmd</i> が統合サービスに接続するための時間 (秒)。対話モードでは使用しません。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。

オプション	引数	説明
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。ユーザー名。対話モードでは使用しません。
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。ユーザー名環境変数を指定します。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザーセキュリティドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトはネイティブです。
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomainEnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。
-folder -f	フォルダー	タスクの名前がリポジトリ内で一意でない場合に必須。タスクが格納されているフォルダーの名前。
-workflow -w	ワークフロー	必須。ワークフロー名。
-wait -nowait	-	オプション。待ちモードを以下のように設定します。 - wait。統合サービスが前のコマンドを完了した場合のみ、新しい <i>pmcmd</i> コマンドを入力できます。 - nowait。統合サービスが前のコマンドを受け取った後、新しい <i>pmcmd</i> コマンドを入力できます。 デフォルトは <i>nowait</i> です。
-runinsname -rn	runInsName	強制終了するタスクを含むワークフロー実行インスタンスの名前。このオプションは、コンカレントワークフローを実行している場合に使用します。
-wfrunid	workflowRunId	強制終了するタスクを含むワークフロー実行インスタンスの実行識別番号 (実行 ID)。このオプションは、コンカレントワークフローを実行している場合に使用します。 注: このオプションは、ワークフローに一意の実行インスタンス名がない場合に使用します。
-	taskInstancePath	タスク名と、ワークフロー内でのタスクの出現場所を示します。タスクがワークフローの直下にある場合には、タスク名のみを入力します。タスクがワークレット内にある場合には、「WorkletName.TaskName」と入力します。taskInstancePath を完全パス文字列で入力します。

abortworkflow

ワークフローを強制終了します。このコマンドは、stopworkflow コマンドで統合サービスがワークフローの停止に失敗した場合にのみ、実行してください。

コマンドラインモードでは、abortworkflow コマンドは以下の構文を使用します。

```
pmcmd abortworkflow
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
<<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar>
<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>
[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar>]
[<-folder|-f> folder]
[-wait|-nowait]
[<-runinsname|-rin> runInsName]
[-wfrunid workflowRunId]
workflow
```

対話モードでは、abortworkflow コマンドは以下の構文を使用します。

```
abortworkflow
[<-folder|-f> folder]
[-wait|-nowait]
[<-runinsname|-rin> runInsName]
[-wfrunid workflowRunId]
workflow
```

以下の表に、*pmcmd abortworkflow* のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	service	コマンドラインモードの場合に必要です。統合サービス名。対話モードでは使用しません。
-domain -d	domain	コマンドラインモードの場合はオプション。ドメイン名。対話モードでは使用しません。
-timeout -t	タイムアウト	コマンドラインモードの場合はオプション。 <i>pmcmd</i> が統合サービスに接続するための時間 (秒)。対話モードでは使用しません。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。ユーザー名。対話モードでは使用しません。

オプション	引数	説明
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザセキュリティドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトは Native です。
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomainEnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。
-folder -f	フォルダー	タスクの名前がリポジトリ内で一意でない場合に必要です。ワークフローが格納されているフォルダーの名前。
-wait -nowait	-	オプション。待ちモードを以下のように設定します。 - wait。統合サービスが前のコマンドを完了した場合のみ、新しい <i>pmcmd</i> コマンドを入力できます。 - nowait。統合サービスが前のコマンドを受け取った後、新しい <i>pmcmd</i> コマンドを入力できます。 デフォルトは nowait です。
-runinsname -rin	runInsName	強制終了するワークフロー実行インスタンスの名前。このオプションは、同時ワークフローを実行している場合に使用します。
-wfrunid	workflowRunId	強制終了するワークフロー実行インスタンスの実行識別番号 (実行 ID)。このオプションは、同時ワークフローを実行している場合に使用します。 注: このオプションは、ワークフローに一意の実行インスタンス名がない場合に使用します。
-	ワークフロー	必須。ワークフロー名。

Connect

対話モードで、*pmcmd* プログラムを Integration Service に接続します。接続情報を省略すると、*pmcmd* により正しい情報を入力するよう求められます。*pmcmd* で正常に接続が行われると、接続情報を再入力せずにコマンドを発行できます。

Connect

```
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
<<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar>
```

<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>

[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar>]

注: このコマンドは、*pmcmd*対話モードでのみ使用します。

以下の表に、*pmcmd*Connect のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。Integration Service 名。
-domain -d	ドメイン	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <i>pmcmd</i> が Integration Service に接続するための時間 (秒)。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。ユーザー名。対話モードでは使用しません。
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザーセキュリティドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトはネイティブです。
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomainEnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。

Disconnect

pmcmd を Integration Service から切断します。*pmcmd* プログラムは終了しません。このコマンドは、Integration Service から切断して対話モードで他の Integration Service に接続する場合に使用します。

Disconnect コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
Disconnect
```

注: このコマンドは、*pmcmd*対話モードでのみ使用します。

Exit

pmcmd を Integration Service から切断し、*pmcmd* プログラムを終了します。

Exit コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
Exit
```

注: このコマンドは、*pmcmd*対話モードでのみ使用します。

GetRunningSessionsDetails

現在 Integration Service で実行されているすべてのセッションに対し、以下の詳細を返します。

- Integration Service のステータス、スタートアップ時刻および現在時刻
- フォルダとワークフローの名前
- ワークレットとセッションのインスタンス
- 実行中の各セッション: タスクタイプ、開始時刻、実行ステータス、最初のエラーコード、関連する Integration Service、実行モード、ノード名
- 実行中のセッション内のマッピング: マッピング名、セッションログファイル、最初のエラーコードとエラーメッセージ、ソースとターゲットの成功行数と失敗行数、およびトランスフォーメーションエラーメッセージの数
- Integration Service で実行中のセッション数

GetRunningSessionsDetails コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd GetRunningSessionsDetails
```

```
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
```

```
<<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar>
```

```
<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>
```

```
[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar>]
```

GetRunningSessionsDetails コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
GetRunningSessionsDetails
```

以下の表に、`pmcmd GetRunningSessionsDetails` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。Integration Service 名。
-domain -d	domain	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <code>pmcmd</code> が Integration Service に接続するための時間 (秒)。 -timeout オプションを省略すると、 <code>pmcmd</code> では <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <code>pmcmd</code> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。ユーザー名。対話モードでは使用しません。
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザーセキュリティドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトはネイティブです。
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomainEnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。

GetServiceDetails

統合サービスに関する以下の詳細を返します。

- 統合サービス名、ステータス、スタートアップ時刻および現在時刻
- 各アクティブワークフロー: フォルダー名、ワークフロー名、バージョン、実行ステータス、最初のエラーコード、開始時刻、ログファイル、実行タイプ、ワークフローを実行するユーザー
- 各アクティブタスク: フォルダ名、ワークフロー名とバージョン、タスクのインスタンス名とバージョン、タスクタイプ、開始時刻と終了時刻、実行ステータス、最初のエラーコード、エラーメッセージ、関連する統合サービス、実行モード、タスクを実行するノードの名前
- スケジュール済みでアクティブな待機中のワークフローとセッションの数

GetServiceDetails コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd GetServiceDetails
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
<<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar>
<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>
[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar>]
[-all|-running|-scheduled]
```

GetServiceDetails コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
GetServiceDetails
[-all|-running|-scheduled]
```

以下の表に、*pmcmd* GetServiceDetails のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。統合サービス名。
-domain -d	ドメイン	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <i>pmcmd</i> が統合サービスに接続するための時間（秒）。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。ユーザー名。対話モードでは使用しません。
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザーセキュリティドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトはネイティブです。

オプション	引数	説明
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomain EnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。
-all -running -scheduled	-	オプション。詳細情報を返すワークフローを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - all。スケジュールされたワークフローや実行中のワークフローの状態の詳細情報が返されます。 - running。アクティブなワークフローの状態の詳細情報が返されます。アクティブなワークフローには、実行中、一時停止処理中、および一時停止されたワークフローが含まれます。 - scheduled。スケジュールされたワークフローの状態の詳細情報が返されます。 デフォルトは all です。

GetServiceProperties

PowerCenter Integration Service に関する以下の情報を返します。

- PowerCenter Integration Service を実行するドメイン
- PowerCenter Integration Service の名前とバージョン
- PowerCenter Integration Service がマッピングのデバッグの実行を許可するかどうか
- データ移動モード
- 関連付けられているリポジトリサービス
- 現在のタイムスタンプと起動時刻
- グリッド名
- 関連する PowerCenter Integration Service プロセスの名前、ノードおよびコードページ
- PowerCenter Integration Service の操作モード

GetServiceProperties コマンドは、コマンドラインモードで、以下の構文を使用します。

```
pmcmd GetServiceProperties
```

```
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
```

GetServiceProperties コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
GetServiceProperties
```

以下の表に、`pmcmd.GetServiceProperties` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。PowerCenter Integration Service の名前。
-domain -d	ドメイン	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <code>pmcmd</code> が PowerCenter Integration Service に接続するための時間 (秒)。 -timeout オプションを省略すると、 <code>pmcmd</code> では <code>INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT</code> 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <code>pmcmd</code> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。

getsessionstatistics

セッションの詳細情報と統計が返されます。このコマンドで、次の情報が返されます。

- フォルダ名、ワークフロー名またはセッションインスタンス、マッピング名
- セッションログファイルの名前と位置情報
- ソースとターゲットの成功行数と失敗行数
- トランスフォーメーションエラーの数
- 最初のエラーコードおよびエラーメッセージ
- タスクの実行状態
- 関連する統合サービスの名前
- セッションが実行されるグリッドとノードの名前

このコマンドで、各パーティションについて次の情報が返されます。

- パーティション名。
- パーティション内のトランスフォーメーション別：トランスフォーメーションのインスタンス、トランスフォーメーション名、適用される行数、影響を受ける行数、拒否される行数、スループット、前回のエラーコード、起動時刻と終了時刻

コマンドラインモードでは、`getsessionstatistics` コマンドは以下の構文を使用します。

```
pmcmd getsessionstatistics
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
<<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar>
<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>
[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar>]
[<-folder|-f> folder]
[<-runinsname|-rin> runInsName]
```


[-wfrunid workflowRunId]

<-workflow|-w> workflow

taskInstancePath

対話モードでは、getsessionstatistics コマンドは以下の構文を使用します。

getsessionstatistics

[<-folder|-f> folder]

[<-runinsname|-rin> runInsName]

[-wfrunid workflowRunId]

<-workflow|-w> workflow

taskInstancePath

以下の表に、*pmcmd* getsessionstatistics のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	service	必須。統合サービス名。
-domain -d	domain	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <i>pmcmd</i> が統合サービスに接続するための時間（秒）。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。ユーザー名。対話モードでは使用しません。
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザセキュリティドメイン	LDAP 認証を使用する場合に必要です。コマンドラインモードの場合はオプション。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトは Native です。
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomainEnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。

オプション	引数	説明
-folder -f	フォルダー	タスクの名前がリポジトリ内で一意でない場合に必要です。タスクが格納されているフォルダーの名前。
-runinsname -rn	runInsName	タスクを含むワークフロー実行インスタンスの名前。このオプションは、同時ワークフローを実行している場合に使用します。
-wfrunid	workflowRunId	タスクを含むワークフロー実行インスタンスの実行識別番号（実行 ID）。このオプションは、同時ワークフローを実行している場合に使用します。 注: このオプションは、ワークフローに一意の実行インスタンス名がない場合に使用します。
-workflow -w	ワークフロー	必須。ワークフロー名。
-	taskInstancePath	必須。タスク名と、ワークフロー内でのタスクの出現場所を示します。タスクがワークフローの直下にある場合には、タスク名のみを入力します。タスクがワークレット内にある場合には、「WorkletName.TaskName」と入力します。taskInstancePath を完全パス文字列で入力してください。

GetTaskDetails

タスクについての次の情報が返されます。

- フォルダ名、ワークフロー名、タスクのインスタンス名、タスクタイプ
- 前回実行した起動時刻と完了時刻
- タスクの実行状態、最初のエラーコードとエラーメッセージ
- タスクが実行されるグリッドとノードの名前
- 関連する統合サービスの名前
- タスクの実行モード

タスクがセッションの場合、コマンドでも次の詳細情報が返されます。

- マッピングとセッションのログファイル名
- 最初のエラーコードとエラーメッセージ
- ソースとターゲットの成功行数と失敗行数
- トランスフォーメーションエラーの数

GetTaskDetails コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd GetTaskDetails
```

```
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout] <<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar>
```

```
<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>
```

[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar>]

[<-folder|-f> folder]

<-workflow|-w> workflow

[<-runinsname|-rin> runInsName]

taskInstancePath

GetTaskDetails コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

GetTaskDetails

[<-folder|-f> folder]

<-workflow|-w> workflow

[<-runinsname|-rin> runInsName]

taskInstancePath

以下の表に、*pmcmd* GetTaskDetails のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。統合サービス名。
-domain -d	ドメイン	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <i>pmcmd</i> が統合サービスに接続するための時間（秒）。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。ユーザー名。対話モードでは使用しません。
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザーセキュリティドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトはネイティブです。

オプション	引数	説明
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomain EnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。
-folder -f	フォルダー	タスクの名前がリポジトリ内で一意でない場合に必須。タスクが格納されているフォルダーの名前。
-workflow -w	ワークフロー	タスクの名前がリポジトリ内で一意でない場合に必須。タスクが格納されているフォルダーの名前。
-runinsname -rn	runInsName	タスクを含むワークフロー実行インスタンスの名前。このオプションは、コンカレントワークフローを実行している場合に使用します。
-	taskInstancePath	必須。タスク名と、ワークフロー内でのタスクの出現場所を示します。タスクがワークフローの直下にある場合には、タスク名のみを入力します。タスクがワークレット内にある場合には、「WorkletName.TaskName」と入力します。taskInstancePath を完全パス文字列で入力します。

GetWorkflowDetails

ワークフローについて次の情報が返されます。

- フォルダ名とワークフロー名
- ワークフローの実行状態
- 最初のエラーコードおよびエラーメッセージ
- 起動時刻と終了時刻
- Log ファイル名
- ワークフローの実行タイプ
- 前回このワークフローを実行したユーザーの名前
- 関連する統合サービスの名前

GetWorkflowDetails コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd GetWorkflowDetails
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]
<<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar
<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar
[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar]
[<-folder|-f> folder]
[<-runinsname|-rin> runInsName]
[-wfrunid workflowRunId]
```

workflow

GetWorkflowDetails コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

GetWorkflowDetails

[<-folder|-f> folder]

[<-runinsname|-rin> runInsName]

[-wfrunid workflowRunId]

workflow

以下の表に、*pmcmd* GetWorkflowDetails のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。統合サービス名。
-domain -d	ドメイン	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <i>pmcmd</i> が統合サービスに接続するための時間 (秒)。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。ユーザー名。対話モードでは使用しません。
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザーセキュリティドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトはネイティブです。
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomainEnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。
-folder -f	フォルダー	ワークフローの名前がリポジトリ内で一意でない場合に必須。ワークフローが格納されているフォルダーの名前。

オプション	引数	説明
-runinsname -rin	runInsName	ワークフロー実行インスタンスの名前。このオプションは、コンカレントワークフローを実行している場合に使用します。
-wfrunid	workflowRunId	ワークフロー実行インスタンスの実行識別番号（実行ID）。このオプションは、コンカレントワークフローを実行している場合に使用します。 注: このオプションは、ワークフローに一意の実行インスタンス名がない場合に使用します。
-	ワークフロー	ワークフロー名。

以下の表に、ワークフローの各ステータスを示します。

ステータス名	説明
強制終了	Workflow Monitor または <i>pmcmd</i> で、ワークフローまたはタスクの強制終了を選択します。統合サービスはDTM プロセスを中止し、タスクを強制終了します。強制終了されたワークフローは、そのワークフローのリカバリを有効にした場合、リカバリすることができます。
強制終了中	統合サービスはワークフローを強制終了中です。
無効	ワークフローのプロパティで [無効] オプションが選択されています。[無効] オプションをクリアしない限り、統合サービスで無効になっているワークフローは実行されません。
失敗	エラーが発生したため、統合サービスのワークフローが失敗しました。失敗したワークフローはリカバリできません。
実行の準備中	統合サービスはワークフローの実行ロックを待っています。
実行中	統合サービスはワークフローを実行中です。
スケジュール済み	将来の日付に実行されるワークフローをスケジュール設定しました。統合サービスは、スケジュール設定された期間にわたってワークフローを実行します。
停止	Workflow Monitor または <i>pmcmd</i> で、ワークフローまたはタスクの停止を選択します。統合サービスは、そのタスクとそのパスにある他のすべてのタスクの実行を停止します。同時実行されるタスクの実行は、統合サービスによって続行されます。停止したワークフローは、そのワークフローのリカバリを有効にした場合、リカバリすることができます。
停止中	統合サービスはワークフローを停止中です。
成功	統合サービスはワークフローを正常に完了しました。
一時停止中	タスクが失敗してワークフロー内で他に実行中のタスクが存在しないため、統合サービスはワークフローを一時停止します。このステータスは、[タスクのエラー発生時にサスペンドする] オプションが選択されている場合に使用されます。一時停止したワークフローはリカバリすることができます。

ステータス名	説明
サスペンド中	1つのタスクが失敗しましたがワークフロー内の他のタスクは実行中です。統合サービスは、失敗したタスクの実行を停止し、他のパスにあるタスクの実行を続行します。このステータスは、[タスクのエラー発生時にサスペンドする] オプションが選択されている場合に使用されます。
ターミネート済み	このワークフローまたはタスクの実行中に、統合サービスが予期せずシャットダウンしました。リカバリのワークフローを有効にした場合は、終了したワークフローをリカバリすることができます。
終了	統合サービスは、ワークフローまたはタスクを終了中です。
不明なステータス	このステータスには以下の状況が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> - 統合サービスは、ワークフローまたはタスクのステータスを決定できません。 - 統合サービスが Workflow Monitor からの ping に応答していません。 - Workflow Monitor が、レジリエンスタイムアウト期間中に統合サービスへ接続できません。
アンスケジュール済	ワークフローのスケジュールが解除されました。
待機中	統合サービスは、ワークフローまたはタスクを実行するためのリソースが使用可能になるのを待っています。たとえば、ノード上の各統合サービスプロセスで実行可能なセッションとコマンドタスクの最大数を 10 に設定することができます。統合サービスがすでに 10 個のコンカレントセッションを実行している場合、それ以外のワークフローおよびタスクは統合サービスが他のタスクを実行できるようになるまで [待ち状態] ステータスになります。

GetWorkflowDetails コマンドは、最後のワークフローの実行タイプの詳細を表示します。ワークフローの実行タイプは、ワークフローの開始方法を意味します。

以下の表に、GetWorkflowDetails コマンドで使用するさまざまなワークフローの実行タイプを示します。

ワークフローの実行タイプ	説明
ユーザー要求	手動でワークフローを開始しました。
スケジュール	ワークフローはスケジュール設定された時刻に実行されます。

Help

指定したコマンドの構文を返します。コマンド名を省略すると、*pmcmd* によりすべてのコマンドとその構文が一覧表示されます。

Help コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd Help [command]
```

Help コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
Help [command]
```

以下の表に、*pmcmd* Help のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-	コマンド	オプション。コマンド名。コマンド名を省略すると、 <i>pmcmd</i> によりすべてのコマンドとその構文が一覧表示されます。

PingService

Integration Service が実行されていることを確認します。

PingService コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd PingService
```

```
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
```

PingService コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
PingService
```

以下の表に、*pmcmd* PingService のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。Integration Service 名。
-domain -d	domain	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <i>pmcmd</i> が Integration Service に接続するための時間 (秒)。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。

RecoverWorkflow

一時停止されたワークフローをリカバリします。ワークフローをリカバリするには、フォルダ名とワークフロー名を指定します。統合サービスは、すべての一時停止または失敗したワークレット、およびすべての一時停止または失敗した [コマンド]、[E-Mail]、[セッション] タスクから、ワークフローをリカバリします。

RecoverWorkflow コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd RecoverWorkflow
```

```
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
```

```
<<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar>
```



```

<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>
[<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar>]
[<-folder|-f> folder]
[<-paramfile> paramfile]
[<-localparamfile|-lpf> localparamfile]
[-wait|-nowait]
[<-runinsname|-rin> runInsName]
[-wfrunid workflowRunId]
workflow

```

RecoverWorkflow コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```

RecoverWorkflow
[<-folder|-f> folder]
[<-paramfile> paramfile]
[<-localparamfile|-lpf> localparamfile]
[-wait|-nowait]
[<-runinsname|-rin> runInsName]
[-wfrunid workflowRunId]
workflow

```

以下の表に、*pmcmd* RecoverWorkflow のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。統合サービス名。
-domain -d	ドメイン	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <i>pmcmd</i> が統合サービスに接続するための時間 (秒)。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。ユーザー名。対話モードでは使用しません。
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。対話モードでは使用しません。

オプション	引数	説明
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザーセキュリティドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトはネイティブです。
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomainEnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。
-folder -f	フォルダー	ワークフローの名前がリポジトリ内で一意でない場合に必須。ワークフローが格納されているフォルダーの名前。
-paramfile	paramfile	オプション。タスクまたはワークフローの実行中に使用するパラメータファイルを決定します。ワークフローまたはタスクに設定されたパラメータファイルを上書きします。
-localparamfile -lpf	localparamfile	オプション。ワークフローの開始時に <i>pmcmd</i> が使用するローカルマシンのパラメータファイルを指定します。
-wait -nowait	-	オプション。待ちモードを以下のように設定します。 - wait。統合サービスが前のコマンドを完了した場合のみ、新しい <i>pmcmd</i> コマンドを入力できます。 - nowait。統合サービスが前のコマンドを受け取った後、新しい <i>pmcmd</i> コマンドを入力できます。 デフォルトは <i>nowait</i> です。
-runinsname -rin	runInsName	リカバリするワークフロー実行インスタンスの名前。このオプションは、コンカレントワークフローを実行している場合に使用します。
-wfrunid	workflowRunId	リカバリするワークフロー実行インスタンスの実行識別番号（実行 ID）。このオプションは、コンカレントワークフローを実行している場合に使用します。 注: このオプションは、ワークフローに一意の実行インスタンス名がない場合に使用します。
-	ワークフロー	必須。ワークフロー名。

ScheduleWorkflow

ワークフローのスケジュールを設定するよう統合サービスに指示します。スケジュールから既に除外されているワークフローを再スケジュールする場合に使用します。

ScheduleWorkflow コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd ScheduleWorkflow
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
<<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar>
<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>
[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar>]
[<-folder|-f> folder]
workflow
```

ScheduleWorkflow コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
ScheduleWorkflow
[<-folder|-f> folder]
workflow
```

以下の表に、*pmcmd* ScheduleWorkflow のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。統合サービス名。
-domain -d	domain	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <i>pmcmd</i> が統合サービスに接続するための時間（秒）。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは180です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。ユーザー名。対話モードでは使用しません。
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザーセキュリティドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトはネイティブです。

オプション	引数	説明
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomain EnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。
-folder -f	フォルダー	ワークフローの名前がリポジトリ内で一意でない場合に必須。ワークフローが格納されているフォルダーの名前。
-	ワークフロー	必須。ワークフロー名。

SetFolder

フォルダを、以降すべてのコマンドを実行するデフォルトフォルダとして設定します。このコマンドを実行したあとは、ワークフロー、タスク、セッション関連のコマンドに対して、フォルダ名を入力する必要がなくなります。SetFolder コマンドの後にコマンドでフォルダ名を入力すると、そのコマンドにおいてのみ、デフォルトのフォルダ名が入力したフォルダ名でオーバーライドされます。

SetFolder コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
SetFolder folder
```

注: このコマンドは、*pmcmd* 対話モードでのみ使用します。

以下の表に、*pmcmd* SetFolder のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-	フォルダ	必須。フォルダーの名前。

SetNoWait

pmcmd は、待ちモードでも非待ちモードでも実行できます。待ちモードの場合、コマンドの完了後に *pmcmd* がシェルまたはコマンドプロンプトに戻されます。前のコマンドが完了するまでは、以降のコマンドを実行できません。非待ちモードの場合、*pmcmd* により直ちにシェルまたはコマンドプロンプトが返されます。1つのコマンドが完了するのを待ってから次のコマンドを実行する必要はありません。

SetNoWait コマンドは、非待ちモードで *pmcmd* を実行します。非待ちモードはデフォルトのモードです。

SetNoWait コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
SetNoWait
```

非待ちモードを設定する場合、Integration Service が前のコマンドを実行した後に *pmcmd* プロンプトを使用します。

注: このコマンドは、*pmcmd* 対話モードでのみ使用します。

SetWait

*pmcmd*は、待ちモードでも非待ちモードでも実行できます。待ちモードの場合、コマンドの完了後に *pmcmd* がシェルまたはコマンドプロンプトに返されます。前のコマンドが完了するまでは、以降のコマンドを実行できません。非待ちモードの場合、*pmcmd*により直ちにシェルまたはコマンドプロンプトが返されます。1つのコマンドが完了するのを待ってから次のコマンドを実行する必要はありません。

SetWait コマンドは、待ちモードで *pmcmd* を実行します。 *pmcmd* プロンプトは、Integration Service が前のコマンドを完了するまで使用できません。

SetWait コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

SetWait

注: このコマンドは、*pmcmd* 対話モードでのみ使用します。

ShowSettings

pmcmd が接続されているドメイン、Integration Service およびリポジトリの名前が返されます。ユーザー名、待ちモード、およびデフォルトフォルダについても表示します。

ShowSettings コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

ShowSettings

注: このコマンドは、*pmcmd* 対話モードでのみ使用します。

StartTask

タスクを開始します。

StartTask コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

pmcmd StartTask

<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>

<<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar>

<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>

[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar>]

[<-folder|-f> folder]

<-workflow|-w> workflow

[<-paramfile> paramfile]

[-wait|-nowait]

[<-recovery|-norecovery>]

[<-runinsname|-rin> runInsName]

taskInstancePath

StartTask コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd StartTask
[<-folder|-f> folder]
<-workflow|-w> workflow
<-paramfile> paramfile]
[-wait|-nowait]
[<-recovery|-norecovery>]
[<-runinsname|-rin> runInsName]
taskInstancePath
```

以下の表に、*pmcmd* StartTask のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。統合サービス名。
-domain -d	domain	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <i>pmcmd</i> が統合サービスに接続するための時間 (秒)。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。ユーザー名。対話モードでは使用しません。
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザーセキュリティドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトはネイティブです。
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomainEnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。

オプション	引数	説明
-folder -f	フォルダー	ワークフローの名前がリポジトリ内で一意でない場合に必須。ワークフローが格納されているフォルダーの名前。
-workflow -w	ワークフロー	必須。ワークフロー名。
-paramfile	paramfile	オプション。タスクまたはワークフローの実行中に使用するパラメータファイルを決めます。ワークフローまたはタスクに設定されたパラメータファイルを上書きします。
-wait -nowait	-	オプション。待ちモードを以下のように設定します。 <ul style="list-style-type: none"> - wait。統合サービスが前のコマンドを完了した場合のみ、新しい <i>pmcmd</i> コマンドを入力できます。 - nowait。統合サービスが前のコマンドを受け取った後、新しい <i>pmcmd</i> コマンドを入力できます。 デフォルトは <i>nowait</i> です。
-recovery -norecovery	-	オプション。タスクがセッションである場合、統合サービスは設定したリカバリ戦略に基づいてセッションを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> - recovery。リカバリが有効化されているリアルタイムセッションの場合、統合サービスは失敗したセッションをリカバリし、ワークフロー内の残りのタスクの実行を停止します。 リカバリオプションは、Workflow Manager の [タスクのリカバリ] オプションと同じです。このオプションは、リカバリが有効化されていないセッションには適用されません。 - norecovery。リカバリが有効化されているリアルタイムセッションの場合、統合サービスはリカバリデータを処理しません。統合サービスで操作の状態、およびリカバリファイルまたはリカバリテーブルがクリアされた後、タスクが再開されます。リカバリが有効化されていないセッションの場合、統合サービスで操作の状態がクリアされ、タスクが再開されます。 非リカバリオプションは Workflow Manager の [タスクのコールドスタート] オプションと同じです。 リカバリが有効化されたセッションにオプションを提供しない場合、統合サービスはセッションをリカバリモードで実行します。リカバリを有効化していないセッションにオプションを提供しない場合、統合サービスはセッションを非リカバリモードで実行します。
-runinsname -rn	runInsName	開始するタスクを含むワークフロー実行インスタンスの名前。このオプションは、コンカレントワークフローを実行している場合に使用します。
-	taskInstancePath	必須。タスク名と、ワークフロー内でのタスクの出現場所を示します。タスクがワークフローの直下にある場合には、タスク名のみを入力します。タスクがワークレット内にある場合には、「WorkletName.TaskName」と入力します。taskInstancePath を完全パス文字列で入力します。

starttask でのパラメータファイルの使用

タスクを開始する場合、オプションでパラメータファイルのディレクトリおよび名前を入力することができます。Integration Service は、指定されたファイル内のパラメータを使ってタスクを実行します。

UNIX シェルユーザーの場合、パラメータファイル名を一重引用符で囲みます。

```
-paramfile '$PMRootDir/myfile.txt'
```

Windows コマンドプロンプトのユーザーの場合、パラメータファイル名の先頭または末尾にスペースを使用することはできません。名前にスペースが含まれている場合は、ファイル名を二重引用符で囲みます。

```
-paramfile "$PMRootDir\my file.txt"
```

別のマシン上のパラメータファイルを含む *pmcmd* コマンドを記述する場合には、¥記号と共にドル記号 (\$) を使用します。これにより、変数が定義されているマシンでプロセス変数を展開するようになります。

```
pmcmd starttask -sv MyIntService -d MyDomain -uv USERNAME -pv PASSWORD -f east -w wSalesAvg -paramfile '\$PMRootDir/myfile.txt' taskA
```

StartWorkflow

ワークフローを開始します。

StartWorkflow コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd StartWorkflow
```

```
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
```

```
<<-user|-u> username [<-uservar|-uv> userEnvVar]
```

```
<<-password|-p> password [<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar]
```

```
[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain [<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar]]
```

```
[<-folder|-f> folder]
```

```
[<-startfrom> taskInstancePath]
```

```
[<-recovery|-norecovery>]
```

```
[<-paramfile> paramfile]
```

```
[<-localparamfile|-lpf> localparamfile]
```

```
[<-osprofile|-o> OSUser]
```

```
[-wait|-nowait]
```

```
[<-runinsname|-rin> runInsName]
```

```
workflow
```

StartWorkflow コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd StartWorkflow
```

```
[<-folder|-f> folder]
```

```
[<-startfrom> taskInstancePath [<-recovery|-norecovery>]]
```

```
[<-paramfile> paramfile]
```

```
[<-localparamfile|-lpf> localparamfile]
```


[<-osprofile|-o> osProfile]

[-wait|-nowait]

[<-runinsname|-rin> runInsName]

workflow

以下の表に、*pmcmd*StartWorkflow のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。統合サービス名。
-domain -d	domain	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <i>pmcmd</i> が統合サービスに接続するための時間（秒）。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは180です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。ユーザー名。対話モードでは使用しません。
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザーセキュリティドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトはネイティブです。
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomainEnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。
-folder -f	フォルダー	ワークフローの名前がリポジトリ内で一意でない場合に必須。ワークフローが格納されているフォルダーの名前。

オプション	引数	説明
-startfrom	taskInstancePath	<p>オプション。指定されたタスク taskInstancePath からワークフローを開始します。タスクがワークフローの直下にある場合には、タスク名のみを入力します。タスクがワークレット内にある場合には、「WorkletName.TaskName」と入力します。taskInstancePath を完全パス文字列で入力します。</p> <p>開始点を指定しないと、[Start] タスクからワークフローが開始されます。</p> <p>タスクがセッションである場合、-recovery または-norecovery オプションを指定し、設定したリカバリ戦略に基づいてセッションを実行します。</p>
-paramfile	paramfile	<p>オプション。タスクまたはワークフローの実行中に使用するパラメータファイルを決定します。ワークフローまたはタスクに設定されたパラメータファイルを上書きします。</p>
-recovery -norecovery	-	<p>オプション。統合サービスにより、設定したリカバリ戦略に基づいてセッションが実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - recovery。リカバリが有効化されているリアルタイムセッションの場合、統合サービスは失敗したセッションをリカバリし、ワークフロー内の残りのタスクの実行を停止します。 リカバリオプションは、Workflow Manager の [ワークフローのリカバリ] オプションと同じです。このオプションは、リカバリが有効化されていないセッションには適用されません。 - norecovery。リカバリが有効化されているリアルタイムセッションの場合、統合サービスはリカバリデータを処理しません。統合サービスで操作の状態、およびリカバリファイルまたはリカバリテーブルがクリアされた後、タスクが再開されます。リカバリが有効化されていないセッションの場合、統合サービスで操作の状態がクリアされ、タスクが再開されます。 非リカバリオプションは、Workflow Manager の [ワークフローのコールドスタート] オプションと同じです。 <p>リカバリが有効化されたセッションにオプションを提供しない場合、統合サービスはセッションをリカバリモードで実行します。リカバリを有効化していないセッションにオプションを提供しない場合、統合サービスはセッションを非リカバリモードで実行します。</p>
-localparamfile -lpf	localparamfile	<p>オプション。ワークフローの開始時に pmcmd が使用するローカルマシンのパラメータファイルを指定します。</p>
-osprofile -o	osProfile	<p>オプション。ワークフローに割り当てられたオペレーティングシステムのプロファイルを指定します。</p>

オプション	引数	説明
-wait -nowait	-	オプション。待ちモードを以下のように設定します。 - wait。統合サービスが前のコマンドを完了した場合のみ、新しい <i>pmcmd</i> コマンドを入力できます。 - nowait。統合サービスが前のコマンドを受け取った後、新しい <i>pmcmd</i> コマンドを入力できます。 デフォルトは <i>nowait</i> です。
-runinsname -rin	runInsName	開始するワークフロー実行インスタンスの名前。このオプションは、コンカレントワークフローを実行している場合に使用します。
-	ワークフロー	必須。ワークフロー名。

startworkflow でのパラメータファイルの使用

ワークフローを開始する場合、オプションでパラメータファイルのディレクトリおよび名前を入力することができます。Integration Service は、指定されたファイル内のパラメータを使ってワークフローを実行します。UNIX シェルユーザーの場合、パラメータファイル名を一重引用符で囲みます。Windows コマンドプロンプトのユーザーの場合、パラメータファイル名の先頭または末尾にスペースを使用することはできません。名前にスペースが含まれている場合は、ファイル名を二重引用符で囲みます。

以下のマシンでパラメータファイルを使用します。

- **Integration Service を実行中のノード。** Integration Service のマシン上のパラメータファイルを使用するときは、`-paramfile` オプションを使用してパラメータファイルの場所と名前を示します。

UNIX では、次の構文を使用します。

```
-paramfile '$PMRootDir/myfile.txt'
```

Windows では、次の構文を使用します。

```
-paramfile "$PMRootDir\my file.txt"
```

- **ローカルマシン。** *pmcmd* が呼び出されるマシン上のパラメータファイルを使用する際、*pmcmd* によりファイル内の変数や値が Integration Service に渡されます。ローカルパラメータファイルを一覧表示するときは、ファイルへの絶対パスまたは相対パスを指定します。`-localparamfile` または `-lpf` オプションで、ローカルパラメータファイルの場所と名前を指定します。

UNIX では、次の構文を使用します。

```
-lpf 'param_file.txt'
```

```
-lpf 'c:\Informatica\parameterfiles\param file.txt'
```

```
-localparamfile 'c:\Informatica\parameterfiles\param file.txt'
```

Windows では、次の構文を使用します。

```
-lpf param_file.txt
```

```
-lpf "c:\Informatica\parameterfiles\param file.txt"
```

```
-localparamfile param_file.txt
```

- **共有ネットワークドライブ。** 別のマシン上のパラメータファイルを使用する場合は、`\\u-18` 号と共にドル記号 (\$) を使用します。これにより、変数が定義されているマシンでプロセス変数を展開できるようになります。

```
-paramfile '\\$PMRootDir/myfile.txt'
```

StopTask

タスクを停止します。

StopTask コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd StopTask
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
<<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar>
<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>
[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar>]
[<-folder|-f> folder]
[<-runinsname|-rin> runInsName]
[-wfrunid workflowRunId]
[-wait|-nowait]
taskInstancePath
```

StopTask コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd StopTask
[<-folder|-f> folder]
<-workflow|-w> workflow
[<-runinsname|-rin> runInsName]
[-wfrunid workflowRunId]
[-wait|-nowait]
taskInstancePath
```

以下の表に、*pmcmd* StopTask のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。統合サービス名。
-domain -d	domain	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <i>pmcmd</i> が統合サービスに接続するための時間（秒）。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。ユーザー名。対話モードでは使用しません。

オプション	引数	説明
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザーセキュリティドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトはネイティブです。
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomainEnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。
-folder -f	フォルダー	ワークフローの名前がリポジトリ内で一意でない場合に必須。ワークフローが格納されているフォルダーの名前。
-workflow -w	ワークフロー	必須。ワークフロー名。
-runinsname -rn	runInsName	停止するタスクを含むワークフロー実行インスタンスの名前。このオプションは、コンカレントワークフローを実行している場合に使用します。
-wfrunid	workflowRunId	停止するタスクを含むワークフロー実行インスタンスの実行識別番号（実行 ID）。このオプションは、コンカレントワークフローを実行している場合に使用します。 注: このオプションは、ワークフローに一意の実行インスタンス名がない場合に使用します。
-wait -nowait	-	オプション。待ちモードを以下のように設定します。 - wait。統合サービスが前のコマンドを完了した場合のみ、新しい <i>pmcmd</i> コマンドを入力できます。 - nowait。統合サービスが前のコマンドを受け取った後、新しい <i>pmcmd</i> コマンドを入力できます。 デフォルトは <i>nowait</i> です。
-	taskInstancePath	必須。タスク名と、ワークフロー内でのタスクの出現場所を示します。タスクがワークフローの直下にある場合には、タスク名のみを入力します。タスクがワークレット内にある場合には、「WorkletName.TaskName」と入力します。taskInstancePath を完全パス文字列で入力します。

StopWorkflow

ワークフローを停止します。

StopWorkflow コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd StopWorkflow
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
<<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar>
<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>
[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar>]
[<-folder|-f> folder]
[<-runinsname|-rin> runInsName]
[-wfrunid workflowRunId]
[-wait|-nowait]
```

workflow

対話モードでは、StopWorkflow コマンドは以下の構文を使用します。

```
pmcmd StopWorkflow
[<-folder|-f> folder]
[<-runinsname|-rin> runInsName]
[-wfrunid workflowRunId]
[-wait|-nowait]
```

workflow

以下の表に、*pmcmd* StopWorkflow のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。統合サービス名。
-domain -d	domain	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <i>pmcmd</i> が統合サービスに接続するための時間（秒）。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。ユーザー名。対話モードでは使用しません。

オプション	引数	説明
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザーセキュリティドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトはネイティブです。
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomainEnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。
-folder -f	フォルダー	ワークフローの名前がリポジトリ内で一意でない場合に必須。ワークフローが格納されているフォルダーの名前。
-runinsname -rin	runInsName	停止するワークフロー実行インスタンスの名前。このオプションは、コンカレントワークフローを実行している場合に使用します。
-wfrunid	workflowRunId	停止するワークフロー実行インスタンスの実行識別番号 (実行 ID)。このオプションは、コンカレントワークフローを実行している場合に使用します。 注: このオプションは、ワークフローに一意の実行インスタンス名がない場合に使用します。
-wait -nowait	-	オプション。待ちモードを以下のように設定します。 - wait。統合サービスが前のコマンドを完了した場合のみ、新しい <i>pmcmd</i> コマンドを入力できます。 - nowait。統合サービスが前のコマンドを受け取った後、新しい <i>pmcmd</i> コマンドを入力できます。 デフォルトは <i>nowait</i> です。
-	ワークフロー	必須。ワークフロー名。

UnscheduleWorkflow

スケジュールからワークフローを削除します。

UnscheduleWorkflow コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd UnscheduleWorkflow
```

```
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
```

```
<<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar>
<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>
[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar>]
[<-folder|-f> folder]
```

workflow

UnscheduleWorkflow コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

UnscheduleWorkflow

```
[<-folder|-f> folder]
```

workflow

以下の表に、*pmcmd* UnscheduleWorkflow のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。統合サービス名。
-domain -d	domain	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <i>pmcmd</i> が統合サービスに接続するための時間（秒）。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは180です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。ユーザー名。対話モードでは使用しません。
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必須。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	usersecuritydomain	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトはネイティブです。
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomainEnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。

オプション	引数	説明
-folder -f	folder	ワークフローの名前がリポジトリ内で一意でない場合に必須。ワークフローが格納されているフォルダーの名前。
-	ワークフロー	必須。ワークフロー名。

UnsetFolder

デフォルトフォルダの指定を削除します。このコマンドを実行したあとは、セッション、ワークフロー、タスク関連のコマンドを入力するたびに、フォルダ名を指定する必要があります。

UnsetFolder コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
UnsetFolder
```

注: このコマンドは、*pmcmd*対話モードでのみ使用します。

バージョン

PowerCenter のバージョン、および Informatica の商標と著作権の情報を表示します。

Version コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd Version
```

Version コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

```
Version
```

WaitTask

タスクを完了してからコマンドプロンプトまたはシェルに *pmcmd* プロンプトを返すように、統合サービスに指示します。

WaitTask コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd WaitTask
```

```
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
```

```
<<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar>
```

```
<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>
```

```
[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar>]
```

```
[<-folder|-f> folder]
```

```
<-workflow|-w> workflow
```

[<-runinsname|-rin> runInsName]

[-wfrunid workflowRunId]

taskInstancePath

WaitTask コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

WaitTask

[<-folder|-f> folder]

<-workflow|-w> workflow

[<-runinsname|-rin> runInsName]

[-wfrunid workflowRunId]

taskInstancePath

以下の表に、*pmcmd*WaitTask のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。統合サービス名。
-domain -d	ドメイン	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <i>pmcmd</i> が統合サービスに接続するための時間（秒）。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。ユーザー名。対話モードでは使用しません。
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザーセキュリティドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトはネイティブです。
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomainEnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。

オプション	引数	説明
-folder -f	フォルダー	タスクの名前がリポジトリ内で一意でない場合に必要です。タスクが格納されているフォルダーの名前。
-workflow -w	ワークフロー	必須。ワークフロー名。
-runinsname -rn	runInsName	タスクを含むワークフロー実行インスタンスの名前。このオプションは、コンカレントワークフローを実行している場合に使用します。
-wfrunid	workflowRunId	タスクを含むワークフロー実行インスタンスの実行識別番号（実行 ID）。このオプションは、コンカレントワークフローを実行している場合に使用します。 注: このオプションは、ワークフローに一意の実行インスタンス名がない場合に使用します。
-	taskInstancePath	必須。タスク名と、ワークフロー内でのタスクの出現場所を示します。タスクがワークフローの直下にある場合には、タスク名のみを入力します。タスクがワークレット内にある場合には、「WorkletName.TaskName」と入力します。taskInstancePath を完全パス文字列で入力してください。

WaitWorkflow

pmcmd は、ワークフローが完了するまで待機してから、以降のコマンドを実行します。スクリプトから *pmcmd* を実行する場合、このコマンドは戻りコードと一緒に使用します。例えば、別のワークフローを開始する前に、重要なワークフローのステータスをチェックとします。WaitWorkflow コマンドを使用して、重要なワークフローが完了するまで待機し、次に *pmcmd* の戻りコードをチェックします。戻りコードが 0（成功）の場合、次のワークフローを開始します。

WaitWorkflow コマンドは、ワークフローが完了するとプロンプトを返します。

WaitWorkflow コマンドは、コマンドラインモードで以下の構文を使用します。

```
pmcmd WaitWorkflow
<<-service|-sv> service [<-domain|-d> domain] [<-timeout|-t> timeout]>
<<-user|-u> username|<-uservar|-uv> userEnvVar>
<<-password|-p> password|<-passwordvar|-pv> passwordEnvVar>
[<<-usersecuritydomain|-usd> usersecuritydomain|<-usersecuritydomainvar|-usdv> userSecuritydomainEnvVar>]
[<-folder|-f> folder]
[<-runinsname|-rin> runInsName]
[-wfrunid workflowRunId]
workflow
```

WaitWorkflow コマンドは、対話モードで以下の構文を使用します。

WaitWorkflow

[<-folder|-f> folder]

[<-runinsname|-rin> runInsName]

[-wfrunid workflowRunId]

workflow

以下の表に、*pmcmd*WaitWorkflow のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-service -sv	サービス	必須。統合サービス名。
-domain -d	ドメイン	オプション。ドメイン名。
-timeout -t	タイムアウト	オプション。 <i>pmcmd</i> が統合サービスに接続するための時間（秒）。 -timeout オプションを省略すると、 <i>pmcmd</i> では INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定するタイムアウト値を使用します。環境変数が設定されていない場合、 <i>pmcmd</i> ではデフォルトのタイムアウト値を使用します。デフォルトは 180 です。
-user -u	ユーザー名	ユーザー名の環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。ユーザー名。対話モードでは使用しません。
-uservar -uv	userEnvVar	ユーザー名環境変数を指定します。 ユーザー名を指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。対話モードでは使用しません。
-password -p	パスワード	パスワード環境変数を指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。パスワード。対話モードでは使用しません。
-passwordvar -pv	passwordEnvVar	パスワードを指定しない場合、コマンドラインモードで必要となります。パスワード環境変数。対話モードでは使用しません。
-usersecuritydomain -usd	ユーザーセキュリティドメイン	コマンドラインモードの場合はオプション。LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。対話モードでは使用しません。デフォルトはネイティブです。
-usersecuritydomainvar -usdv	userSecuritydomainEnvVar	コマンドラインモードの場合はオプション。セキュリティドメイン環境変数。対話モードでは使用しません。
-folder -f	フォルダー	タスクの名前がリポジトリ内で一意でない場合に必要です。ワークフローが格納されているフォルダーの名前。
-runinsname -rin	runInsName	ワークフロー実行インスタンスの名前。このオプションは、同時ワークフローを実行している場合に使用します。

オプション	引数	説明
-wfrunid	workflowRunId	ワークフロー実行インスタンスの実行識別番号（実行ID）。このオプションは、同時ワークフローを実行している場合に使用します。 注: このオプションは、ワークフローに一意の実行インスタンス名がない場合に使用します。
-	ワークフロー	必須。ワークフロー名。

第 31 章

pmrep コマンドリファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- [pmrep の使用, 1023](#) ページ
- [AddToDeploymentGroup, 1026](#) ページ
- [ApplyLabel, 1028](#) ページ
- [AssignPermission, 1030](#) ページ
- [BackUp, 1032](#) ページ
- [ChangeOwner, 1033](#) ページ
- [CheckIn, 1034](#) ページ
- [CleanUp, 1034](#) ページ
- [ClearDeploymentGroup, 1035](#) ページ
- [Connect, 1035](#) ページ
- [Create, 1037](#) ページ
- [CreateConnection, 1038](#) ページ
- [CreateDeploymentGroup, 1043](#) ページ
- [CreateFolder, 1044](#) ページ
- [CreateLabel, 1046](#) ページ
- [Delete, 1046](#) ページ
- [DeleteConnection, 1047](#) ページ
- [DeleteDeploymentGroup, 1048](#) ページ
- [DeleteFolder, 1048](#) ページ
- [DeleteLabel, 1048](#) ページ
- [DeleteObject, 1049](#) ページ
- [DeployDeploymentGroup, 1050](#) ページ
- [DeployFolder, 1051](#) ページ
- [ExecuteQuery, 1053](#) ページ
- [Exit, 1055](#) ページ
- [FindCheckout, 1055](#) ページ
- [GetConnectionDetails, 1056](#) ページ
- [GenerateAbapProgramToFile, 1057](#) ページ
- [Help, 1059](#) ページ
- [InstallAbapProgram, 1059](#) ページ

- [KillUserConnection, 1061](#) ページ
- [ListConnections, 1062](#) ページ
- [ListObjectDependencies, 1062](#) ページ
- [ListObjects, 1065](#) ページ
- [ListTablesBySess, 1071](#) ページ
- [ListUserConnections, 1072](#) ページ
- [MassUpdate, 1072](#) ページ
- [ModifyFolder, 1079](#) ページ
- [Notify, 1081](#) ページ
- [ObjectExport, 1081](#) ページ
- [ObjectImport, 1083](#) ページ
- [PurgeVersion, 1084](#) ページ
- [Register, 1087](#) ページ
- [RegisterPlugin, 1088](#) ページ
- [Restore, 1090](#) ページ
- [RollbackDeployment, 1092](#) ページ
- [Run, 1093](#) ページ
- [ShowConnectionInfo, 1094](#) ページ
- [SwitchConnection, 1094](#) ページ
- [TruncateLog, 1095](#) ページ
- [UndoCheckout, 1096](#) ページ
- [Unregister, 1097](#) ページ
- [UnregisterPlugin, 1098](#) ページ
- [UpdateConnection, 1100](#) ページ
- [UpdateEmailAddr, 1101](#) ページ
- [UpdateSeqGenVals, 1102](#) ページ
- [UpdateSrcPrefix, 1103](#) ページ
- [UpdateStatistics, 1104](#) ページ
- [UpdateTargPrefix, 1105](#) ページ
- [Upgrade, 1106](#) ページ
- [UninstallAbapProgram, 1106](#) ページ
- [検証, 1108](#) ページ
- [バージョン, 1110](#) ページ

pmrep の使用

pmrep は、リポジトリ情報を更新してリポジトリ機能を実行するために使用するコマンドラインプログラムです。*pmrep* は、PowerCenter クライアントおよび PowerCenter サービスの bin ディレクトリにインストールされます。

pmrep を使用して、リポジトリオブジェクトの一覧表示、グループの作成および編集、リポジトリのリストアおよび削除、PowerCenter リポジトリ内のセッション関連のパラメータおよびセキュリティ情報の更新などのリポジトリ管理タスクを実行します。

pmrep を使用する場合は、以下のモードでコマンドを入力できます。

- **コマンドラインモード**。システムのコマンドラインから直接 *pmrep* コマンドを発行できます。コマンドラインモードを使用して、*pmrep* コマンドのスクリプトを作成します。
- **対話モード**。*pmrep* コマンドを対話的なプロンプトから発行できます。*pmrep* は、コマンドを完了した後も終了しません。

環境変数を使用して、*pmrep* に対するユーザー名およびパスワードを設定できます。*pmrep* を使用する前に、これらの変数を設定します。環境変数は、ノード上で実行する *pmrep* コマンドに適用されます。

次のコマンド以外のすべての *pmrep* コマンドは、リポジトリへの接続が必要になります。

- ヘルプ
- `listallprivileges`

リポジトリに接続するには、*pmrep* Connect コマンドを使用してから、ほかの *pmrep* コマンドを使用します。

注: ドメインがミックスページョンドメインの場合、リポジトリサービスバージョンのインストールディレクトリから *pmrep* を実行します。

コマンドラインモードでのコマンドの実行

コマンドラインモードでは、コマンドを実行するたびに *pmrep* の呼び出しと終了が行われます。バッチファイル、スクリプトやその他のプログラムを使用して、*pmrep* コマンドを実行する場合に、コマンドラインモードが役立ちます。

コマンドラインモードで *pmrep* コマンドを実行する手順

1. コマンドプロンプトで、*pmrep* の実行可能ファイルが格納されているディレクトリに切り替えます。
2. *pmrep* に続けてコマンド名、そのオプション、および引数を入力します。

```
pmrep command_name [-option1] argument_1 [-option2] argument_2...
```

対話モードでのコマンドの実行

対話モードで *pmrep* を起動します。*pmrep* のプロンプトから一連のコマンドを入力できます。各コマンドを実行するたびに *pmrep* を起動し直す必要はありません。

対話モードで *pmrep* コマンドを実行する手順

1. 対話モードを開始するには、コマンドプロンプトで「*pmrep*」と入力します。
これにより、*pmrep* が対話モードで起動され、*pmrep*>プロンプトが表示されます。対話モードでは、各コマンドの前に「*pmrep*」と入力する必要はありません。
2. コマンドに続いて、コマンドのオプションと引数を入力します。
プロンプトに次のように入力します。

```
command_name [-option1] argument_1 [-option2] argument_2...
```

pmrep により、コマンドが実行され、プロンプトが再び表示されます。

3. 「exit」と入力して対話セッションを終了します。

ノーマルモードおよび排他モードでのコマンドの実行

リポジトリサービスは、ノーマルモードまたは排他モードで動作します。リポジトリへのユーザ接続が1つしか許可できないタスクを実行する場合は、排他モードでリポジトリサービスを実行します。

排他モードでリポジトリサービスを実行すると、次の *pmrep* コマンドを使用できます。

- Create
- Delete
- Register
- RegisterPlugin
- Unregister
- UnregisterPlugin

Administrator ツールまたは *infacmd* を使用して、リポジトリサービスを排他モードで実行できます。

pmrep の戻りコード

pmrep は、戻りコードでコマンドが成功したか失敗したかを示します。コマンドが成功した場合、リターンコード「0」を返します。コマンドが失敗した場合、戻りコード「1」を返します。コマンドの中には、複数の処理を実行するものがあります。例えば、AddToDeploymentgroup はデプロイメントグループに複数のオブジェクトを追加します。このような場合、オブジェクトの一部しか正常にデプロイされなかったとしても、コマンドが正常に実行されたことを示す戻りコード「0」を返します。

pmrep コマンドの実行直後に、以下の DOS または UNIX の echo コマンドのいずれかを入力します。

- DOS シェルの場合、echo %ERRORLEVEL%を入力。
- UNIX Bourne または Korn シェルの場合、echo \$?を入力。
- UNIX C シェルの場合、echo \$statusを入力。

ネイティブ接続文字列の使用

CreateConnection や Restore など、*pmrep* コマンドにはネイティブ接続文字列が必要な場合があります。

以下の表に、サポートされている各リポジトリデータベースのネイティブ接続文字列の構文を示します。

データベース	接続文字列の構文	例
IBM DB2	<i>dbname</i>	mydatabase
Microsoft SQL Server	<i>servername@dbname</i>	sqlserver@mydatabase
Oracle	<i>dbname.world</i> (TNSNAMES エントリと同様)	oracle.world
Sybase ASE	<i>servername@dbname</i>	sambrown@mydatabase

pmrep コマンドのスクリプト作成

pmrep を使用する場合、特定のオプションと引数で定期的にくつかりのコマンドを実行することがあります。例えば、*pmrep* を使用して、本番環境リポジトリの日常のバックアップを実行できます。この場合、1つ以上の *pmrep* コマンド（そのオプションと引数を含む）を呼び出すスクリプトファイルを作成できます。

例えば、以下の Windows のバッチファイル `backupproduction.bat` は、Production と呼ばれるリポジトリに接続してバックアップします。

```
backupproduction.bat
REM This batch file uses pmrep to connect to and back up the repository Production on the server ServerName
@echo off
echo Connecting to repository Production...
c:\PowerCenter\pmrep\pmrep connect -r Production -n Administrator -x Adminpwd -d MyDomain -h Machine -o 8080
echo Backing up repository Production...
c:\PowerCenter\pmrep\pmrep backup -o c:\backup\Production_backup.rep
```

コマンドインタフェースでスクリプトファイルを実行できます。対話モードでは、`pmrep` バッチファイルを実行できません。

pmrep コマンドのスクリプト作成に関するヒント

`pmrep` スクリプトを作成して実行する場合は、以下のヒントを使用します。

- スクリプトファイルから最初に呼び出されるコマンドとして `connect` コマンドを記述します。これによって、常に正しいリポジトリで操作を行えるようになります。
- 異なるリポジトリに同時に接続する `pmrep` スクリプトを実行するには、各環境で `INFA_REPCNX_INFO` 環境変数を設定し、リポジトリ接続ファイルの名前とファイルパスを格納します。これにより、スクリプトによって別のスクリプトで使用される接続情報が上書きされることを防ぎます。

AddToDeploymentGroup

オブジェクトをデプロイメントグループに追加します。AddToDeploymentGroup を使用して、ソース、ターゲット、トランスフォーメーション、マッピング、セッション、ワークレット、ワークフロー、スケジューラ、セッション設定、およびタスクオブジェクトを追加します。

チェックアウトされているオブジェクトは、デプロイメントグループに追加できません。コマンドオプションを使用してオブジェクトを指定するか、または、パーシステントファイルを使用します。パーシステントファイルを使用する場合には、デプロイメントグループ名のオプションを入力できます。

AddToDeploymentGroup を使用して再利用可能な入力オブジェクトを追加します。再利用不可能な入力オブジェクトを追加する場合は、エンコードされたオブジェクト ID を含むパーシステントファイルを使用する必要があります。

AddToDeploymentGroup が正常に実行された場合、状態情報が何も表示されないか、または既にデプロイメントグループ内に存在したオブジェクトのリストが返されます。コマンドが失敗すると、失敗の理由が表示されます。

AddToDeploymentGroup コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
addtodeploymentgroup
-p <deployment_group_name>
[{-n <object_name>
  -o <object_type>
  -t <object_subtype>]
[-v <version_number>]
[-f <folder_name>] |
[-i <persistent_input_file>]]
```

[-d <dependency_types (all, "non-reusable", or none)>]

[-s dbd_separator]

以下の表に、*pmrep* AddToDeploymentGroup のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-p	deployment_group_name	必須。オブジェクトを追加するデプロイメントグループの名前。
-n	object_name	特定のオブジェクトを追加する場合に必要です。デプロイメントグループに追加するオブジェクトの名前。チェックアウトされているオブジェクトの名前は入力できません。-i オプションを使用している場合、-n オプションは使用できません。
-o	object_type	特定のオブジェクトを追加する際に必要です。追加するオブジェクトのタイプ。ソース、ターゲット、トランスフォーメーション、マッピング、セッション、ワークレット、ワークフロー、スケジューラ、セッション設定、タスク、キューブ、次元を指定できます。
-t	object_subtype	有効なサブタイプを使用する場合に必要です。追加するタスクまたはトランスフォーメーションのタイプ。有効なサブタイプの詳細については、「 オブジェクトタイプの一覧表示 」(ページ 1067)を参照してください。
-v	version_number	オプション。追加するオブジェクトのバージョン。デフォルトは、オブジェクトの最新バージョンです。バージョン管理されていないリポジトリのバージョン番号を指定した場合、コマンドが失敗します。
-f	folder_name	オブジェクト名を入力する場合に必要です。追加するオブジェクトを格納しているフォルダー。
-i	persistent_input_file	ExecuteQuery、Validate、または ListObjectDependencies で生成されたテキストファイル。エンコードされた ID を持つオブジェクトレコードのリストを含みます。このパラメータを使用すると、 <i>pmrep</i> は、-n、-o、および -f オプションを受け付けません。

オプション	引数	説明
-d	dependency_types	<p>オプション。オブジェクトと共にデプロイメントグループに追加する依存オブジェクト。次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - all。<i>pmrep</i>では、オブジェクトおよびすべての依存オブジェクト（再利用可能および再利用不可能なオブジェクト）をデプロイメントグループに追加します。 - non-reusable。<i>pmrep</i>では、オブジェクトおよび対応する再利用不可能な依存オブジェクトをデプロイメントグループに追加します。 - none。<i>pmrep</i>では、デプロイメントグループに依存オブジェクトを追加しません。 <p>このパラメータを省略すると、<i>pmrep</i>ではオブジェクトとすべての依存オブジェクトをデプロイメントグループに追加します。 注: スペースまたはアルファベット以外の文字が含まれる引数は、二重引用符で囲みます。</p>
-s	dbd_separator	<p>オプション。ODBC ソースの名前にピリオド (.) がある場合は、ソースオブジェクトを定義するときに別の区切り文字を定義します。たとえば、ソースオブジェクトを、<code>database_name.source_name</code> の代わりに、<code>database_name \source_name</code> として定義し、<code>dbd_separator</code> をバックスラッシュ (\) として定義します。</p>

ApplyLabel

フォルダ内のオブジェクトまたはオブジェクトのセットにラベルを適用します。フォルダ名を入力すると、フォルダ内のすべてのオブジェクトにラベルが適用されます。依存オブジェクトにラベルを適用できます。*dependency_object_types* オプションを使用した場合、*pmrep* はすべての依存オブジェクトにラベルを付けます。ラベルを適用する依存オブジェクトを選択するには、コマンドラインで、オブジェクトのタイプ名をカンマで区切り、カンマの間にスペースを含めずに入力します。

`applylabel` を使用して再利用可能な入力オブジェクトにラベルを適用します。再利用不可能な入力オブジェクトにラベルを適用する場合は、エンコードされたオブジェクト ID を含むパーシステントファイルを使用する必要があります。

`ApplyLabel` が成功した場合、*pmrep* では、ステータス情報が何も表示されないか、または既にラベルが付けられたオブジェクトのリストが表示されます。コマンドが失敗した場合、*pmrep* で失敗の理由が表示されません。

`ApplyLabel` コマンドでは、以下の構文を使用します。

```

applylabel
-a <label_name>
[{-n <object_name>
  -o <object_type>
    [-t <object_subtype>]
      [-v <version_number>]
        [-f <folder_name>] } |

```

-i <persistent_input_file>
 [-d <dependency_object_types>
 [-p <dependency_direction (children, parents, or both)>
 [-s (include pk-fk dependency)]
 [-g (across repositories)]
 [-m (move label)]
 [-c <comments>
 [-e dbd_separator]

以下の表に、*pmrep* ApplyLabel のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-a	label_name	必須。オブジェクトに適用されるラベル名。
-n	object_name	固有のオブジェクトを更新する場合に必要になります。ラベルを受け取るオブジェクトの名前。-i オプションを使用している場合はオブジェクト名を入力できません。
-o	object_type	ラベルを適用するオブジェクトのタイプ。ソース、ターゲット、トランスフォーメーション、マッピング、セッション、ワークレット、ワークフロー、スケジューラ、セッション設定、タスク、キューブ、次元を指定できます。特定のオブジェクトにラベルを適用する場合に必要です。
-t	object_subtype	必須。ラベルを適用するタスクまたはトランスフォーメーションの種類。 <i>pmrep</i> は、他のオブジェクトタイプを無視します。有効なサブタイプの詳細については、「 オブジェクトタイプの一覧表示 」(ページ 1067)を参照してください。
-v	version_number	オプション。ラベルを適用するオブジェクトのバージョン。バージョンがチェックアウトされている場合、コマンドは失敗します。デフォルトでは、オブジェクトの最新のバージョンにラベルを適用します。
-f	folder_name	オプション。オブジェクトを格納するフォルダ。オブジェクト名ではなくフォルダ名を入力する場合、 <i>pmrep</i> は、フォルダ内のすべてのオブジェクトにラベルを適用します。フォルダ名をオブジェクト名と共に入力する場合、 <i>pmrep</i> はそのフォルダ内のオブジェクトを検索します。-i オプションを使用している場合は、-f オプションは使用できません。
-i	persistent_input_file	オプション。ExecuteQuery、ListObjectDependency、Validate で生成されたテキストファイルの名前。ラベルを受け取るオブジェクトのリストを含みます。このオプションを使用する場合、オブジェクト名、オブジェクトのタイプ、またはフォルダ名を使用してオブジェクトを指定できません。

オプション	引数	説明
-d	dependency_object_types	オプション。ラベルを適用する依存オブジェクト:ショートカット、マッピング、マプレット、セッション、ワークフロー、ワークレット、ターゲット定義、ソース定義、外部キーの依存性など、有効な依存オブジェクトのタイプ。 このオプションは、オプション-pと共に使用します。オブジェクトのタイプを入力すると、ラベルは指定したオブジェクトのタイプの依存オブジェクトに適用されます。
-p	dependency_direction	オプション。ラベルを適用する依存性の親オブジェクトまたは子オブジェクト。親、子、またはその両方を選択できます。オプション-dを入力しない場合、すべての依存オブジェクトがラベルを受け取ります。 このオプションを入力しない場合、ラベルは指定されたオブジェクトのみに適用されます。
-s	-	オプション。依存性の方向に関係なく、プライマリ-外部キー依存オブジェクトを含みます。
-g	-	オプション。異なるリポジトリ間のオブジェクトの依存性を検索します。
-m	-	オプション。オブジェクトのカレントバージョンから最新バージョンにラベルを移動します。ラベルタイプが one_per_object の場合、この引数を使用します。
-c	コメント	オプション。ラベルに関するコメント。
-e	dbd_separator	オプション。ODBC ソースの名前にピリオド (.) がある場合は、ソースオブジェクトを定義するときに別の区切り文字を定義します。たとえば、ソースオブジェクトを、database_name.source_name の代わりに、database_name \source_name として定義し、dbd_separator をバックスラッシュ (\) として定義します。

AssignPermission

ユーザー、グループ、またはその他のデフォルトグループのグローバルオブジェクトに対する権限を追加、削除、または更新できます。

注: 管理者またはオブジェクトの現在のオーナーのみがオブジェクトの権限を管理できます。

AssignPermission コマンドでは、以下の構文を使用します。

AssignPermission

-o <object_type>

[-t <object_subtype>]

-n <object_name>

{-u <user_name> | -g <group_name>}

[-s <security_domain>]

-p <permission>

以下の表に、*pmrep AssignPermission* のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-o	object_type	必須。権限を管理するオブジェクトのタイプ。folder、label、deploymentgroup、query、または connection を指定できます。
-t	object_subtype	オプション。接続オブジェクトまたはクエリのタイプ。他のオブジェクトのタイプには必要ありません。有効なサブタイプの詳細については、「 AssignPermission 」(ページ 1030)を参照してください。
-n	object_name	必須。権限を管理するオブジェクトの名前。オブジェクト名には特殊文字を使用できます。
-u	user_name	-g オプションを使用しない場合は必要です。権限を追加、削除、または更新するユーザの名前。-u または -g オプションを使用し、同時には指定できません。
-g	group_name	権限を追加、削除、または更新するグループの名前。その他のデフォルトグループの権限を変更するには、グループ名に「Others」を指定します。 -u または -g オプションを使用しますが、同時には指定できません。 グループ名には特殊文字を使用できます。
-s	security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザまたはグループが属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトは Native です。
-p	permission	必須。追加、削除、または更新する権限。読み込み、書き込み、および実行権限をグローバルオブジェクトに割り当てます。文字 r、w、および x を使用して読み込み、書き込み、および実行権限を割り当てます。

以下の表に、*pmrep* コマンドで使用するオブジェクトタイプおよび値を示します。

オブジェクトタイプ	オブジェクトサブタイプ
Query	Shared
Query	Personal
Connection	Application
Connection	FTP
Connection	Loader
Connection	Queue
Connection	Relational

例

-p オプションを使用して、権限を追加、削除、または更新できます。

例えば、フォルダの読み込み権限および書き込み権限を追加する場合、プロンプトに以下のテキストを入力します。

```
pmrep AssignPermission -o folder -n Sales -u Admin -p rw
```

オブジェクトに対する権限を更新することもできます。例えば、フォルダの読み込み権限を割り当てた後に、書き込み権限も含める必要があるとします。権限を更新するには、プロンプトに以下のテキストを入力します。

```
pmrep AssignPermission -o folder -n Sales -u Admin -p rw
```

すべての権限を削除するには、プロンプトに以下のテキストを入力します。

```
pmrep AssignPermission -o folder -n Sales -u Admin -p ""
```

BackUp

i リポジトリを-o オプションで指定したファイルにバックアップします。バックアップファイル名を指定する必要があります。このコマンドはリポジトリの実行中に使用します。このコマンドを使用するには、リポジトリに接続している必要があります。

BackUp コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
backup
```

```
-o <output_file_name>
```

```
[-d <description>]
```

```
[-f (overwrite existing output file)]
```

```
[-b (skip workflow and session logs)]
```

```
[-j (skip deploy group history)]
```

```
[-q (skip MX data)]
```

```
[-v (skip task statistics)]
```

以下の表に、*pmrep* BackUp のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-o	output_file_name	必須。リポジトリバックアップ用のファイルの名前とパス。 Administrator ツールでリポジトリバックアップファイルのリストを表示する際に、拡張子が.rep のファイルのみが表示されます。
-d	説明	オプション。オプションの後ろの文字列に基づき、バックアップファイルの説明を作成します。2,000 バイトを超える文字は切りつめられます。
-f	-	オプション。既存のファイルを同じ名前で上書きします。
-b	-	オプション。バックアップ中にワークフローおよびセッションログに関連付けられたテーブルをスキップします。

オプション	引数	説明
-j	-	オプション。バックアップ中にデプロイメントグループ履歴をスキップします。
-q	-	オプション。バックアップ中に MX データに関連するテーブルをスキップします。
-v	-	オプション。バックアップ中はタスクの統計情報をスキップします。

バックアップファイルをリストアするには、Administrator ツール、または *pmrep* Restore コマンドを使用します。

ChangeOwner

グローバルオブジェクトのオーナー名を変更します。

注: 管理者またはオブジェクトの現在のオーナーのみにオブジェクトのオーナーシップを変更する権限がありません。

ChangeOwner コマンドでは、以下の構文を使用します。

ChangeOwner

-o <object_type>

[-t <object_subtype>]

-n <object_name>

-u <new_owner_name>

[-s <security_domain>]

以下の表に、*pmrep* ChangeOwner のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-o	object_type	必須。オブジェクトのタイプ。folder、label、deploymentgroup、query、または connection を指定できます。
-t	object_subtype	オプション。オブジェクトクエリまたは接続オブジェクトのタイプ。他のオブジェクトのタイプには必要ありません。有効なサブタイプの詳細については、 「AssignPermission」 (ページ 1030) を参照してください。
-n	object_name	必須。オブジェクト名。オブジェクト名には特殊文字を使用できません。
-u	new_owner_name	必須。変更されたオーナーの名前。変更されたオーナー名はドメインの有効なユーザアカウントである必要があります。
-s	security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。新規オーナーが属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトは Native です。

CheckIn

チェックアウトしたオブジェクトにチェックインします。オブジェクトをチェックインすると、新しいバージョンのオブジェクトが作成され、バージョン番号が割り当てられます。バージョン番号は、最後にチェックインされたバージョンのバージョン番号より1大きくなります。

CheckIn コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
checkin
-o <object_type>
[-t <object_subtype>]
-n <object_name>
-f <folder_name>
[-c <comments>]
[-s dbd_separator]
```

以下の表に、*pmrep* CheckIn のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-o	object_type	必須。チェックインするオブジェクトのタイプ：ソース、ターゲット、トランスフォーメーション、マッピング、セッション、ワークレット、ワークフロー、スケジューラ、セッション設定、タスク、キューブ、または次元。
-t	object_subtype	オプション。チェックインするタスクまたはトランスフォーメーションのタイプ。他のオブジェクトのタイプには必要ありません。有効なサブタイプの詳細については、「 オブジェクトタイプの一覧表示 」(ページ 1067)を参照してください。
-n	object_name	必須。チェックインするオブジェクトの名前。
-f	folder_name	必須。新しいオブジェクトのバージョンを格納するフォルダ。
-c	コメント	オプション。チェックインに関するコメント。
-s	dbd_separator	オプション。ODBC ソースの名前にピリオド (.) がある場合は、ソースオブジェクトを定義するときに別の区切り文字を定義します。たとえば、ソースオブジェクトを、database_name.source_name の代わりに、database_name\source_name として定義し、dbd_separator をバックスラッシュ (\) として定義します。

CleanUp

pmrep によって作成されたパーシステントリソースをクリーンアップします。このコマンドは、過去の *pmrep* セッションで使用された接続情報もすべてクリーンアップします。cleanup をセッションの最初のコマンドとして呼び出すと、常にエラーが返されます。

対話モードで CleanUp を呼び出した場合、*pmrep* では接続しているリポジトリが切断されます。

CleanUp コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
cleanup
```

ClearDeploymentGroup

デプロイメントグループからすべてのオブジェクトをクリアします。このコマンドは、デプロイメントグループ自体を保持して含まれるオブジェクトのみをクリアする場合に使用します。

ClearDeploymentGroup コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
cleardeploymentgroup
```

```
-p <deployment_group_name>
```

```
[-f (force clear)]
```

以下の表に、*pmrep* ClearDeploymentGroup のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-p	deployment_group_name	必須。クリアするデプロイメントグループの名前。
-f	-	オプション。確認なしでオブジェクトを削除します。この引数を省略した場合、コマンドは、オブジェクトをクリアする前に確認を求めるプロンプトを表示します。

Connect

リポジトリに接続します。コマンドラインモードと対話モードのいずれの場合でも、*pmrep* を最初に使用する際には connect コマンドを使用する必要があります。次のコマンド以外のすべてのコマンドは、リポジトリへの接続が必要になります。

- Exit
- Help
- ListAllPrivileges

コマンドラインモードでは、*pmrep* は、前回のリポジトリ接続時に指定された情報を使用します。正しく接続されていない状態で *pmrep* を呼び出すと、エラーが返されます。コマンドラインモードでは、*pmrep* は、コマンドを実行するたびに、リポジトリへの接続とリポジトリからの接続解除を行います。

1つのセッションで *pmrep* を使用して複数のリポジトリのタスクを実行するには、リポジトリを切り替えるたびに connect コマンドを発行する必要があります。対話モードでは、*pmrep* を終了するか connect をもう一度実行するまで、*pmrep* は接続を持続します。connect をもう一度実行すると、*pmrep* は現在接続中のリポジトリから接続を解除し、次のリポジトリに接続します。次のリポジトリへの接続が失敗した場合、前の接続は解除されたままなので、どのリポジトリにも接続されていない状態になります。リポジトリに接続されていない状態でリポジトリへの接続が必要なコマンドを実行した場合、*pmrep* は、過去の *pmrep* セッションにおいて、そのリポジトリに対して最後に接続に成功したときの接続情報を使用します。*pmrep* は、cleanup コマンドが実行されるまでは、最後に成功した接続の情報を保持しています。

connect コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
connect
-r <repository_name>
{-d <domain_name> |
  {-h <portal_host_name>
    -o <portal_port_number>}}
[{-n <user_name>
  -s <user_security_domain>}]
[-x <password> |
  -X <password_environment_variable>}] |
-u <connect_without_user_in_kerberos_mode>]
[-t <client_resilience>]
```

以下の表に、*pmrep* Connect のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-r	レポジトリ名	必須。接続先にするレポジトリの名前。
-d	domain_name	-h および-o を使用しない場合に必須。レポジトリのドメインの名前。-d オプションを使用する場合は、-h と-o のオプションを使用しないでください。
-h	portal_host_name	-d を使用しない場合に必須。-h オプションを使用する場合は、-o オプションも使用する必要があります。ゲートウェイホスト名。
-o	portal_port_number	-d を使用しない場合に必須。-o オプションを使用する場合は、-h オプションも使用する必要があります。ゲートウェイポート番号。
-n	user_name	オプション。レポジトリへの接続に使用するユーザー名。
-s	user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-x	パスワード	-n オプションを使用し、-X オプションを使用しない場合に必須。ユーザー名に対するパスワード。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。-x または-X オプションを使用しますが、同時には指定できません。
-X	password_environment_variable	-n オプションを使用し、-x オプションを使用しない場合に必須。パスワード環境変数。-x または-X オプションを使用しますが、同時には指定できません。

オプション	引数	説明
-u	connect_without_user_in_kerberos_mode	必須。Informatica ドメインが Kerberos 認証を使用する場合は、ユーザー名とパスワードを使用せずにリポジトリサービスに接続します。リポジトリにコンテンツが含まれない場合は、-u オプションを使用してリポジトリサービスに接続します。
-t	client_resilience	オプション。 <i>pmrep</i> がリポジトリへの接続を確立または再確立しようとする時間 (秒)。-t オプションを省略した場合、 <i>pmrep</i> では、INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数で指定したタイムアウト値が使用されます。値が環境変数で指定されていない場合、デフォルトの 180 秒を使用します。

Create

データベースにリポジトリテーブルを作成します。リポジトリテーブルを作成する前に、以下の作業を完了する必要があります。

- データベースを作成し、設定してリポジトリを格納します。
- Administrator ツールまたは *infacmd* のいずれかでリポジトリサービスを作成します。
- Administrator ツールまたは *infacmd* のいずれかで、リポジトリサービスを排他モードで実行します。
- *pmrep* でリポジトリに接続します。

リポジトリデータベースに既にリポジトリテーブルが含まれている場合、create コマンドは使用できません。

create コマンドを使用するには、ドメインのリポジトリサービスに関する権限が必要です。

create コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
create
-u <domain_user_name>
[-s <domain_user_security_domain>]
[-p <domain_password> |
-P <domain_password_environment_variable>]
[-g (create global repository)]
[-v (enable object versioning)]
```

以下の表に、*pmrep* Create のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-u	domain_user_name	必須。ユーザー名。
-s	domain_user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。

オプション	引数	説明
-p	domain_password	オプション。パスワード。-p または -P オプションを使用しますが、同時には指定できません。-p と -P オプションのどちらも使用しない場合、 <i>pmrep</i> でパスワードを入力するよう要求するメッセージが表示されます。
-P	domain_password_environment_variable	オプション。パスワード環境変数。-p または -P オプションを使用しますが、同時には指定できません。-p と -P オプションのどちらも使用しない場合、 <i>pmrep</i> でパスワードを入力するよう要求するメッセージが表示されます。
-g	-	オプション。リポジトリがグローバルリポジトリに昇格します。
-v	-	オプション。リポジトリオブジェクトのバージョニングを有効にします。

CreateConnection

リポジトリ内にソースまたはターゲット接続を作成します。接続は、リレーショナル接続またはアプリケーション接続の場合があります。createconnection コマンドのオプションと引数のうち、リレーショナルデータベース接続に必要とされるものは、データベースタイプによって異なります。例えば、Oracle との接続では、-z、-d、-t の各オプションは使用できません。-k オプションを使用してアプリケーション接続に属性を指定します。

createconnection コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
createconnection
-s <connection_type>
-n <connection_name>
[{-u <user_name>
[-p <password> |
-P <password_environment_variable>]}]
-K <connection_to_the_Kerberos_server>
[-c <connect string> (required for Oracle, Informix, DB2, ODBC, and NetezzaRelational)]
-l <code_page>
[-r <rollback_segment> (valid for Oracle connection only)]
[-e <connection_environment_SQL>]
[-f <transaction_environment_SQL>]
[-z <packet_size> (valid for Sybase ASE and MS SQL Server connection)]
[-b <database_name> (valid for Sybase ASE, Teradata and MS SQL Server connection)]
[-v <server_name> (valid for Sybase ASE and MS SQL Server connection)]
```

[-d <domain name> (valid for MS SQL Server connection only)]

[-t (enable_trusted_connection, valid for MS SQL Server connection only)]

[-a <data_source_name> (valid for Teradata connection only)]

[-x (enable advanced security, lets users give Read, Write and Execute permissions only for themselves.)]

[-k <connection_attributes> (attributes have the format name=value;name=value; and so on)]

[- y <Provider Type, valid for MS SQL Server connection only>]

[- m <Use DSN, valid for MS SQL Server connection only>]

以下の表に、*pmrep* CreateConnection のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-s	connection_type	必須。接続タイプ。例えば、Salesforce 接続を作成する場合、以下の構文を使用します。 -s "salesforce connection"
-n	connection_name	必須。接続の名前。
-u	user_name	一部の接続タイプで必須。認証に使用するユーザー名。
-p	パスワード	一部の接続タイプで必須。リレーショナルデータベースに接続するときの認証に使用するパスワード。-p または -P オプションを使用しますが、同時には指定できません。ユーザー名を指定し、-p または -P を指定しないと、 <i>pmrep</i> によりパスワードを入力するように求められます。
-P	password_environment_variable	オプション。リレーショナルデータベースに接続するときの認証に使用するパスワード環境変数。-p または -P オプションを使用しますが、同時には指定できません。-p と -P オプションのどちらも使用しない場合、 <i>pmrep</i> でパスワードを入力するよう要求するメッセージが表示されます。
-K	connection_to_the_Kerberos_server	オプション。接続先のデータベースが、Kerberos 認証を使用するネットワークで実行されることを示します。
-c	connect_string	統合サービスがリレーショナルデータベースに接続するとき使用する接続文字列。
-l	code_page	一部の接続タイプで必須。接続に関連付けられたコードページ。
-r	rollback_segment	オプション。Oracle への接続に有効です。ロールバックセグメントの名前。ロールバックセグメントには、データベーストランザクションが記録されます。これによって、トランザクションを取り消して元に戻すことができます。

オプション	引数	説明
-e	connection_environment_sql	オプション。データベースに接続するとき、SQL コマンドを入力してデータベースの環境設定を行います。Integration Service は、データベースに接続するたびに、接続環境 SQL を実行します。
-f	transaction_environment_sql	オプション。データベースに接続するとき、SQL コマンドを入力してデータベースの環境設定を行います。トランザクション環境 SQL を各トランザクションの開始時に実行します。
-z	packet_size	オプション。Sybase ASE と Microsoft SQL Server の接続に有効です。Sybase ASE または Microsoft SQL Server との ODBC 接続を最適化します。
-b	database_name	オプション。データベースの名前。Sybase ASE と Microsoft SQL Server の接続に有効です。
-v	server_name	オプション。データベースサーバの名前。Sybase ASE と Microsoft SQL Server の接続に有効です。
-d	domain_name	オプション。Microsoft SQL Server への接続に有効です。ドメインの名前。Microsoft SQL Server で使用します。
-t	-	オプション。Microsoft SQL Server への接続に有効です。有効な場合、Integration Service は、Windows 認証を使用して Microsoft SQL Server データベースにアクセスします。Integration Service を起動するユーザ名は、MS SQL Server データベースへのアクセス権限を持つ、有効な Windows ユーザでなければなりません。
-a	data_source_name	オプション。Teradata ODBC データソースの名前。Teradata に接続するときに有効です。
-x	-	拡張セキュリティを有効にします。読み込み、書き込み、および実行権限を与えます。Public グループおよびワールドグループには権限は与えられません。このオプションが有効になっていない場合、すべてのグループおよびユーザに読み込み、書き込み、および実行権限が与えられます。
-k	connection_attributes	ユーザー定義の接続属性を有効にします。属性は、<name>=<value>;<name>=<value> という形式です。 注: 属性名の前にスペースは入れないでください。
-y	connection_attributes	プロバイダタイプの値を有効にします。次のプロバイダタイプを指定することができます。 - 1: ODBC - 2: Oledb (廃止)
-m	connection_attributes	[DSN の使用] 属性を有効にします。 PowerCenter 統合サービスは、データベース名とサーバー名を DSN から取得します。

データベースタイプの指定

接続を作成する場合、*pmrep* でデータベースタイプに関連付けられた文字列を使用して、データベースタイプを入力する必要があります。この文字列は、大文字と小文字を区別しません。スペースを含む文字列を引数に入力する場合は、引用符で囲みます。

以下の表に、データベースに応じた必要な *pmrep* のデータベースタイプ文字列を示します。

データベース	データベースタイプ文字列
HTTP トランスフォーメーション	Http トランスフォーメーション
IBM DB2 for Linux、UNIX、および Windows	DB2
Informix	Informix
JMS	JMS Connection
JNDI	JNDI Connection
LMAPI Target	LMAPI Target
Microsoft SQL Server	Microsoft SQL Server
ODBC	ODBC
Oracle	Oracle
PeopleSoft DB2	PeopleSoft DB2
PeopleSoft Informix	PeopleSoft Informix
PeopleSoft MS SQL Server	PeopleSoft MsSqlServer
PeopleSoft Oracle	PeopleSoft Oracle
PeopleSoft Sybase	PeopleSoft Sybase
PowerChannel for DB2	PowerChannel for DB2
PowerChannel for MS SQL Server	PowerChannel for MS SQL Server
PowerChannel for ODBC	PowerChannel for ODBC
PowerChannel for Oracle	PowerChannel for Oracle
DB2 for i5/OS、PowerExchange のバルクデータ移動	PWX DB2i5OS
DB2 for i5/OS、PowerExchange の変更データキャプチャ	PWX DB2i5OS CDC Change
DB2 for i5/OS、PowerExchange の変更データキャプチャ	PWX DB2i5OS CDC Real Time
DB2 for Linux、UNIX、および Windows、PowerExchange のバルクデータ移動	PWX DB2LUW

データベース	データベースタイプ文字列
DB2 for Linux、UNIX、および Windows、PowerExchange の変更データキャプチャ	PWX DB2LUW CDC Change
DB2 for Linux、UNIX、および Windows、PowerExchange の変更データキャプチャ	PWX DB2LUW CDC Real Time
DB2 for z/OS、PowerExchange のバルクデータ移動	PWX DB2zOS
DB2 for z/OS、PowerExchange の変更データキャプチャ	PWX DB2zOS CDC Change
DB2 for z/OS、PowerExchange の変更データキャプチャ	PWX DB2zOS CDC Real Time
Microsoft SQL Server、PowerExchange のバルクデータ移動	PWX MSSQLServer
Microsoft SQL Server、PowerExchange の変更データキャプチャ	PWX MSSQL CDC Change
Microsoft SQL Server、PowerExchange の変更データキャプチャ	PWX MSSQL CDC Real Time
非リレーショナル、PowerExchange のバルクデータ移動	PWX NRDB Batch
非リレーショナル、PowerExchange の変更データキャプチャ	PWX NRDB CDC Change
非リレーショナル、PowerExchange の変更データキャプチャ	PWX NRDB CDC Real Time
非リレーショナルルックアップ、PowerExchange	PWX NRDB Lookup
Oracle、PowerExchange のバルクデータ移動	PWX Oracle
Oracle、PowerExchange の変更データキャプチャ	PWX Oracle CDC Change
Oracle、PowerExchange の変更データキャプチャ	PWX Oracle CDC Real Time
Sybase、PowerExchange のバルクデータ移動	PWX Sybase
Salesforce	Salesforce 接続
SAP BW	SAP BW
SAP BWOHS READER	SAP_BWOHS_READER
SAP R3	SAP R3
SAP RFC/BAPI Interface	SAP RFC/BAPI Interface
SAP/ALE IDoc Reader	SAP_ALE_IDoc_Reader

データベース	データベースタイプ文字列
SAP/ALE IDoc Writer	SAP_ALE_IDoc_Writer
Siebel DB2	Siebel DB2
Siebel Informix	Siebel Informix
Siebel MS SQL Server	Siebel MsSqlserver
Siebel Oracle	Siebel Oracle
Siebel Sybase	Siebel Sybase
Sybase	Sybase
Teradata	Teradata
Teradata FastExport	Teradata FastExport Connection
Web Services Consumer	Web Services Consumer
webMethods Broker	webMethods Broker

データベースのコードページの指定

このオプションには、データベース接続のコードページを指定します。データベース接続を割り当てるコードページの名前を入力します。例えば、データベース接続に US-ASCII コードページを割り当てる場合、コードページ名「US-ASCII」を入力します。

データベース接続コードページを変更すると、新しいコードページがソースデータベースまたはターゲットデータベースの接続コードページと互換性がない場合に、データに不整合が生じる原因となることがあります。また、データコードページの検証を行う Integration Service を設定する場合、データベース接続コードページを変更すると、ソースデータベースの接続コードページがターゲットデータベースの接続コードページのサブセットでない場合に、セッションが失敗する原因となることがあります。

CreateDeploymentGroup

デプロイメントグループを作成します。動的デプロイメントグループまたは静的デプロイメントグループを作成することができます。動的なデプロイメントグループを作成する場合には、クエリ名を指定して、クエリが private と public のどちらであるかを示す必要があります。

createdeploymentgroup コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
createdeploymentgroup
-p <deployment_group_name>
[-t <deployment_group_type (static or dynamic)>]
[-q <query_name>]
[-u <query_type (shared or personal)>]
```

[-c <comments>]

以下の表に、*pmrep CreateDeploymentGroup* のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-p	deployment_group_name	必須。作成するデプロイメントグループの名前。
-t	deployment_group_type	オプション。静的グループを作成するか、クエリを使用してグループを動的に作成します。静的または動的を指定することができます。デフォルトでは静的です。
-q	query_name	デプロイメントグループが動的な場合に必須。グループが静的な場合は無視されます。デプロイメントグループに関連付けられたクエリの名前。
-u	query_type	デプロイメントグループが動的な場合に必須。グループが静的な場合は無視されます。デプロイメントグループを作成するクエリのタイプ。shared または personal を指定できます。
-c	コメント	オプション。新しいデプロイメントグループに関するコメント。

CreateFolder

リポジトリ内にフォルダーを作成します。

CreateFolder コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
createfolder
```

```
-n <folder_name>
```

```
[-d <folder_description>]
```

```
[-o <owner_name>]
```

```
[-a <owner_security_domain>]
```

```
[-s (shared_folder)]
```

```
[-p <permissions>]
```

```
[-f <active | frozendeploy | frozennodeploy>]
```

以下の表に、*pmrep CreateFolder* のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-n	folder_name	必須。フォルダ名。
-d	folder_description	オプション。Repository Manager に表示される、フォルダの説明 フォルダの説明にスペースまたは英数字以外の文字が含まれる場合は、説明を引用符で囲みます。

オプション	引数	説明
-o	owner_name	オプション。フォルダのオーナー。リポジトリ内の任意のユーザーをフォルダオーナーとすることができます。デフォルトのオーナーはフォルダを作成するユーザーです。
-a	owner_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。オーナーが属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトは Native です。
-s	-	オプション。フォルダを共有フォルダにします。
-p	permissions	オプション。フォルダーのアクセス権。省略される場合、Repository Service がデフォルトの権限を割り当てます。
-f	active frozendeploy frozenndeploy	オプション。フォルダの状態を以下のいずれかに変更します。 <ul style="list-style-type: none"> - active このステータスの場合、ユーザーはフォルダ内のバージョン管理されたオブジェクトをチェックアウトすることができます。 - frozendeploy (凍結-デプロイによる置換を許可)。このステータスの場合、ユーザーはフォルダ内のオブジェクトをチェックアウトできません。このフォルダへオブジェクトをデプロイメントすると、新しいバージョンが作成されます。 - frozenndeploy (凍結-デプロイによる置換を禁止)。このステータスの場合、ユーザーはフォルダ内のオブジェクトをチェックアウトできません。このフォルダにオブジェクトをデプロイメントすることもできません。

注: AssignPermission コマンドを使用することにより、フォルダーに対する権限を追加、削除、または更新できます。

権限の割り当て

オーナー、グループ、およびリポジトリ権限を割り当てるには、-p オプションを 3 桁で入力します。最初の桁はオーナー権限、2 桁目はユーザーが属するグループの権限、3 桁目は他のすべての権限に対応します。

それぞれの権限のセットに対して 1 つの数値を入力します。各権限は数値に関連付けられます。読み込み権限には 4、書き込み権限には 2、実行権限には 1 で指定します。権限を割り当てるには、4、2、1、またはこれらの数値を組み合わせた合計を入力します。

例えば、デフォルトの権限を割り当てるには、次の構文を使用します。

```
-p 764
```

この指定により、フォルダオーナーに読み込み、書き込み、および実行権限が与えられます (7 = 4 + 2 + 1)。オーナーのグループは、読み込みおよび書き込み権限を与えられます (6 = 4 + 2)。他のすべては読み込み権限を与えられます。

コマンドは、「createfolder が完了しました。」または「createfolder の実行が失敗しました。」というメッセージを返します。作成は以下の理由で失敗することがあります。

- フォルダが既に存在している。
- オーナーが存在しない、またはグループに属していない。

CreateLabel

開発中にオブジェクトのグループを関連づけるラベルを作成します。ラベルをリポジトリ内のバージョンされたオブジェクトまたはオブジェクトのグループに関連付けることができます。

createlabel コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
createlabel  
-a <label_name>  
[-c <comments>]
```

以下の表に、*pmrep* CreateLabel のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-a	label_name	必須。作成するラベルの名前。
-c	コメント	オプション。ラベルに関するコメント。

Delete

リポジトリデータベースからリポジトリテーブルを削除します。

delete コマンドを削除する前に、リポジトリに接続して、ユーザー名とパスワードまたはパスワード環境変数を指定します。

Delete コマンドを使用する場合、リポジトリサービスを排他モードで実行する必要があります。Administrator ツールの排他モードでリポジトリサービスを実行するように設定することや、または *infacmd* UpdateRepositoryService コマンドを使用することができます。

Delete コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
delete  
[-x <repository_password_for_confirmation> |  
-X <repository_password_environment_variable_for_confirmation>]  
[-f (forceful delete: unregisters local repositories and deletes)]
```

以下の表に、*pmrep* Delete のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-x	repository_password_for_confirmation	オプション。パスワード。-x または -X オプションを使用できませんが、同時には指定できません。-x と -X オプションのどちらも使用しない場合、 <i>pmrep</i> でパスワードを確認のために入力するよう要求するメッセージが表示されます。
-X	repository_password_environment_variable_for_confirmation	オプション。パスワード環境変数。-x または -X オプションを使用できませんが、同時には指定できません。-x と -X オプションのどちらも使用しない場合、 <i>pmrep</i> でパスワードを確認のために入力するよう要求するメッセージが表示されます。
-f	-	オプション。グローバルリポジトリを削除すると、ローカルリポジトリは登録解除されます。すべての登録されたローカルリポジトリが実行中でなければなりません。

DeleteConnection

リポジトリからのリレーショナル接続を削除します。

DeleteConnection コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
deleteconnection
```

```
-n <connection_name>
```

```
[-f (force delete)]
```

```
[-s <connection type application, relational, ftp, loader or queue>]
```

以下の表に、*pmrep* DeleteConnection のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-n	connection_name	必須。削除する接続の名前。
-f	-	オプション。接続は、確認なしで削除されます。
-s	connection type application、relational、ftp、loader、または queue	オプション。接続タイプ。接続は以下のいずれかのタイプにすることができます。 <ul style="list-style-type: none">- Application- FTP- Loader- Queue- Relational デフォルトは relational です。

DeleteDeploymentGroup

デプロイメントグループを削除します。静的デプロイメントグループを削除すると、デプロイメントグループからすべてのオブジェクトがクリアされます。

DeleteDeploymentGroup コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
deletedeploymentgroup
```

```
-p <deployment_group_name>
```

```
[-f (force delete)]
```

以下の表に、*pmrep* DeleteDeploymentGroup のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-p	deployment_group_name	必須。削除するデプロイメントグループの名前。
-f	-	オプション。確認なしでデプロイメントグループを削除します。この引数を省略する場合、 <i>pmrep</i> は、デプロイメントグループを削除する前に確認を求めるプロンプトを表示します。

DeleteFolder

フォルダをリポジトリから削除します。

DeleteFolder コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
deletefolder
```

```
-n <folder_name>
```

以下の表に、*pmrep* DeleteFolder のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-n	folder_name	必須。フォルダの名前。

DeleteLabel

ラベルを削除し、それを使用するすべてのオブジェクトからラベルを削除します。ラベルがロックされている場合、削除は失敗します。

DeleteLabel コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
deletelabel
```

```
-a <label_name>
```


[-f (force delete)]

以下の表に、*pmrep* DeleteLabel のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-a	label_name	必須。削除するラベルの名前。
-f	-	オプション。確認なしでラベルを削除します。この引数を省略した場合、コマンドは、ラベルを削除する前に確認を求めるプロンプトを表示します。

DeleteObject

オブジェクトを削除します。DeleteObject を使用して、ソース、ターゲット、ユーザー定義関数、マプレット、マッピング、セッション、ワークレット、またはワークフローを削除します。

DeleteObject コマンドでは、以下の構文を使用します。

DeleteObject

-o <object_type>

-f <folder_name>

-n <object_name>

[-s dbd_separator]

以下の表に、*pmrep* DeleteObject のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-o	object_type	必須。削除するオブジェクトのタイプ：ソース、ターゲット、マプレット、マッピング、セッション、「ユーザ定義関数」、ワークレット、ワークフロー。
-f	folder_name	必須。オブジェクトを含むフォルダ名。
-n	object_name	必須。削除するオブジェクト名。ソース定義を削除する場合は、データベース名を付加する必要があります。たとえば、「DBD.ソース名」です。
-s	dbd_separator	オプション。ODBC ソースの名前にピリオド (.) がある場合は、ソースオブジェクトを定義するときに別の区切り文字を定義します。たとえば、ソースオブジェクトを、database_name.source_name の代わりに、database_name\source_name として定義し、dbd_separator をバックスラッシュ (\) として定義します。

注: DeleteObject コマンドは、バージョン管理されていないリポジトリに対して実行できます。バージョン管理されたリポジトリに対して DeleteObject コマンドを実行した場合、*pmrep* は以下のエラーを返します。

```
This command is not supported because the versioning is on for the repository <Repository name>.
Failed to execute DeleteObject
```

DeployDeploymentGroup

デプロイメントグループをデプロイします。このコマンドは、デプロイメントグループをリポジトリ内または別のリポジトリにコピーできます。

このコマンドを使用するには、コピーウィザードで指定する必要があるすべての項目を含む制御ファイルを作成する必要があります。制御ファイルは、`depcntl.dtd` ファイルで定義された XML ファイルです。

pmrep がすぐにターゲットリポジトリのオブジェクトのロックを取得できない場合、デフォルトではロックを取得するまで無制限に待機します。

デプロイメント制御ファイルのパラメータを使用してデプロイメントのタイムアウトを指定できます。デプロイメントのタイムアウトは、*pmrep* がロックを取得するまで待機する時間（秒）です。*pmrep* が直ちにロックを取得できない場合、0 の値によりデプロイメントが失敗します。デフォルトの値は -1 です。これは、*pmrep* に、ロックを取得するまで無制限に待機するように指示する値です。

Ctrl+C キーを押して、デプロイメントの処理中または *pmrep* がオブジェクトロックの取得を待機する間にデプロイメントをキャンセルします。

DeployDeploymentGroup コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
deploydeploymentgroup
-p <deployment_group_name>
-c <control_file_name>
-r <target_repository_name>
[-n <target_repository_user_name>
-s <target_repository_user_security_domain>
[-x <target_repository_password> |
-X <target_repository_password_environment_variable>
-d <target_domain_name> |
{-h <target_portal_host_name>
-o <target_portal_port_number>}] (only if target is in a different domain)
[-l <log_file_name>]
```

以下の表に、*pmrep* DeployDeploymentGroup のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-p	deployment_group_name	必須。デプロイメントするグループの名前。
-c	control_file_name	必須。コピーウィザードで指定する項目を格納している XML ファイルの名前。デプロイメント制御ファイルが必要です。
-r	target_repository_name	必須。デプロイメントグループをコピーする場合のターゲットリポジトリの名前。
-n	target_repository_user_name	別のリポジトリにデプロイメントグループをコピーする場合は必須。デプロイメント先リポジトリのログインユーザー名。

オプション	引数	説明
-s	target_repository_user_ security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-x	target_repository_password	オプション。デプロイメント先リポジトリのログインパスワード。-x または -X オプションを使用しますが、同時には指定できません。デプロイメントグループを異なるリポジトリにコピーし、-x または -X オプションを使用しない場合、 <i>pmrep</i> からパスワードを求められます。
-X	target_repository_password_ environment_variable	オプション。デプロイメント先リポジトリのログインパスワード環境変数。-x または -X オプションを使用しますが、同時には指定できません。デプロイメントグループを異なるリポジトリにコピーし、-x または -X オプションを使用しない場合、 <i>pmrep</i> からパスワードを求められます。
-d	target_domain_name	デプロイメントグループを別のリポジトリにコピーし、-h オプションと -o オプションを使用しない場合は必須。リポジトリのドメイン名。
-h	target_portal_host_name	デプロイメントグループを別のリポジトリにコピーし、-d オプションを使用しない場合は必須。デプロイメント先リポジトリのドメインを管理するノードのマシン名。
-o	target_portal_port_number	デプロイメントグループを別のリポジトリにコピーし、-d オプションを使用しない場合は必須。デプロイメント先リポジトリのドメインを管理するノードのポート番号。
-l	log_file_name	オプション。デプロイメントの実行結果を記録するログファイル。このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> がデプロイメントの実行結果をコマンドラインウィンドウに表示します。

DeployFolder

フォルダをデプロイメントします。このコマンドは、リポジトリ内または別のリポジトリにフォルダをコピーするときに使用します。

このコマンドを使用するには、コピーウィザードで指定する必要のあるすべての項目を含む制御ファイルを作成する必要があります。制御ファイルは、`depctl.dtd` ファイルで定義された XML ファイルです。

pmrep がすぐにターゲットリポジトリのオブジェクトのロックを取得できない場合、デフォルトではロックを取得するまで無制限に待機します。

デプロイメント制御ファイルのパラメータを使用してデプロイメントのタイムアウトを指定できます。デプロイメントのタイムアウトは、*pmrep* がロックを取得するまで待機する時間（秒）です。*pmrep* が直ちにロックを取得できない場合、0 の値によりデプロイメントが失敗します。デフォルトの値は -1 です。これは、*pmrep* に、ロックを取得するまで無制限に待機するように指示する値です。

Ctrl+C キーを押して、デプロイメントの処理中または *pmrep* がオブジェクトロックの取得を待機する間にデプロイメントをキャンセルします。

DeployFolder コマンドでは、以下の構文を使用します。

deployfolder

-f <folder_name>

-c <control_file_name>

-r <target_repository_name>

[-n <target_repository_user_name>

[-s <target_repository_user_security_domain>]

[-x <target_repository_password> |

-X <target_repository_password_environment_variable>]

[-d <target_domain_name> |

{-h <target_portal_host_name>

-o <target_portal_port_number>}}] (only if target is in a different domain)

[-l <log_file_name>]

以下の表に、*pmrep* DeployFolder のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-f	folder_name	必須。デプロイするフォルダの名前。
-c	control_file_name	必須。コピーウィザードで指定する項目を格納している XML ファイルの名前。
-r	target_repository_name	必須。フォルダのコピー先ターゲットリポジトリの名前。
-n	target_repository_user_name	フォルダを別のリポジトリにコピーする場合に必須。デプロイメント先リポジトリのログインユーザー名。
-s	target_repository_user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-x	target_repository_user_password	オプション。デプロイメント先リポジトリのログインパスワード。-x または -X オプションを使用しますが、同時には指定できません。フォルダを別のリポジトリにコピーし、-x または -X オプションを使用しない場合、 <i>pmrep</i> からパスワードを要求されます。
-X	target_repository_password_environment_variable	オプション。デプロイメント先リポジトリのログインパスワード環境変数。-x または -X オプションを使用しますが、同時には指定できません。フォルダを別のリポジトリにコピーし、-x または -X オプションを使用しない場合、 <i>pmrep</i> からパスワードを要求されます。
-d	target_domain_name	フォルダを別のリポジトリにコピーし、-h オプションと -o オプションを使用しない場合は必須。リポジトリのドメイン名。
-h	target_portal_host_name	デプロイメントグループを別のリポジトリにコピーし、-d オプションを使用しない場合は必須。デプロイメント先リポジトリのドメインを管理するノードのマシン名。

オプション	引数	説明
-o	target_portal_port_number	デプロイメントグループを別のリポジトリにコピーし、-d オプションを使用しない場合は必須。デプロイメント先リポジトリのドメインを管理するノードのポート番号。
-l	log_file_name	オプション。デプロイメントの実行結果を記録するログファイル。このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> がデプロイメントの実行結果をコマンドラインウィンドウに表示します。

ExecuteQuery

クエリを実行します。結果を表示するか、パーシステントファイルに書き込むかを選択できます。クエリが成功すると、検出したレコードの総数を返します。

永続入力ファイルは、ApplyLabel、AddToDeploymentGroup、MassUpdate、および Validate コマンドと共に使用します。

ExecuteQuery コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
executequery
```

```
-q <query_name>
```

```
[-t <query_type (shared or personal)>]
```

```
[-u <output_persistent_file_name>]
```

```
[-a (append)]
```

```
[-c <column_separator>]
```

```
[-r <end-of-record_separator>]
```

```
[-l <end-of-listing_indicator>]
```

```
[-b (verbose)]
```

```
[-y (print database type)]
```

```
[-n (do not include parent path)]
```

```
[-s <dbd_separator>]
```

以下の表に、*pmrep* ExecuteQuery のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-q	query_name	必須。実行するクエリーの名前。
-t	query_type	オプション。実行するクエリーのタイプ。public または private を指定することができます。指定しない場合、 <i>pmrep</i> は、はじめにすべての private クエリーを検索して一致するクエリー名を探します。次に public クエリーを検索します。

オプション	引数	説明
-u	persistent_output_file_name	オプション。テキストファイルにクエリー結果を出力します。ファイル名を入力しない場合、クエリー結果は標準出力に出力されます。
-a	-	オプション。パーシステントファイルにクエリー結果を追加します。このオプションを入力しない場合、 <i>pmrep</i> はファイルの内容を上書きします。
-c	column_separator	オプション。オブジェクトのメタデータの列を区切るのに使用する文字または文字のセット。リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを使用します。リポジトリオブジェクト名にスペースが含まれている場合、列区切り文字としてスペースを使わないようにしたい場合があります。 このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> は区切り文字として 1 文字分のスペースを使用します。
-r	end-of-record_separator	オプション。オブジェクトのメタデータの末尾を示すために使用する文字または文字のセット。リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを使用します。このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> は改行します。
-l	end-of-listing_indicator	オプション。オブジェクトのリストの末尾を示すために使用する文字または文字のセット。リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを入力します。このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> はピリオドを使用します。
-b	-	オプション。Verbose。オブジェクトに関する詳細情報を表示します。このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> は短いフォーマットを出力し、オブジェクトのタイプ、再利用可能または再利用不可、オブジェクト名およびパスを表示します。verbose フォーマットでは、オブジェクトのステータス、バージョン番号、フォルダ名、およびチェックアウト情報も表示されます。 ラベル、クエリー、デプロイメントグループおよび接続などのグローバルオブジェクトを短いフォーマットで表示すると、オブジェクトのタイプおよびオブジェクト名が表示されます。verbose フォーマットには、ラベルのタイプ、クエリーのタイプ、デプロイメントグループのタイプ、作成者名、および作成時刻が含まれます。
-y	-	オプション。ソースおよびターゲットのデータベースタイプを表示します。
-n	-	オプション。クエリ結果内の再利用不可能なオブジェクトの親の完全パスは含みません。例えば、このオプションを使用すると、結果には再利用不可能なトランスフォーメーションが含まれ、 <i>pmrep</i> は mapping_name.transformation_name ではなく transformation_name を出力します。このオプションで <i>pmrep</i> のパフォーマンスを改善できます。
-s	dbd_separator	オプション。ODBC ソースの名前にピリオド (.) がある場合は、ソースオブジェクトを定義するときに別の区切り文字を定義します。たとえば、ソースオブジェクトを、database_name.source_name の代わりに、database_name \source_name として定義し、dbd_separator をバックスラッシュ (\) として定義します。

Exit

対話モードの *pmrep* を終了します。

コマンドラインモードでは、コマンドを実行するたびに *pmrep* の呼び出しと終了が行われます。

Exit コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
exit
```

FindCheckout

リポジトリ内のチェックアウトされているオブジェクトのリストを表示します。「all users」を指定しなければ、一覧表示にはチェックアウトされている項目が含まれます。

オブジェクトのタイプを選択すると、特定のフォルダ内またはすべてのフォルダ内のチェックアウトされているオブジェクトを一覧表示することができます。オブジェクトタイプを指定しなければ、*pmrep* は、リポジトリのすべてのチェックアウトされているオブジェクトを返します。

FindCheckout コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
findcheckout
```

```
[-o <object_type>]
```

```
[-f <folder_name>]
```

```
[-u (all_users)]
```

```
[-c <column_separator>]
```

```
[-r <end-of-record_separator>]
```

```
[-l <end-of-listing_indicator>]
```

```
[-b (verbose)]
```

```
[-y (print database type)]
```

```
[-s <dbd_separator>]
```

以下の表に、*pmrep* FindCheckout のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-o	object_type	一覧表示するオブジェクトのタイプ。ソース、ターゲット、トランスフォーメーション、マッピング、セッション、ワークレット、ワークフロー、スケジューラ、セッション設定、タスク、キューブ、次元を指定できます。オブジェクトのタイプを使用しない場合、 <i>pmrep</i> は、 <i>-f</i> オプションおよび <i>-u</i> オプションを無視し、コマンドはリポジトリのすべてのチェックアウトオブジェクトを返します。
-f	folder_name	オブジェクトのタイプを指定した場合はオプション。指定したフォルダ内にある指定したオブジェクトのタイプのチェックアウトされているオブジェクトのリストを返します。デフォルトでは、すべてのフォルダ内の指定したオブジェクトのタイプのオブジェクトを一覧表示します。

オプション	引数	説明
-u	-	オプション。すべてのユーザーによりチェックアウトされたオブジェクトを一覧表示します。デフォルトでは、現在のユーザーがチェックアウトしたオブジェクトを一覧表示します。
-c	column_separator	オプション。オブジェクトのメタデータの列を区切るのに使用する文字または文字のセット。 リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを使用します。リポジトリオブジェクト名にスペースが含まれている場合、列区切り文字としてスペースを使わないようにしたい場合があります。 このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> は区切り文字として 1 文字分のスペースを使用します。
-r	end-of-record_separator	オプション。オブジェクトのメタデータの末尾を示すために使用する文字または文字のセット。リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを使用します。デフォルトでは改行 (/n) です。
-l	end-of-listing_indicator	オプション。オブジェクトのリストの末尾を示すために使用する文字または文字のセット。リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを使用します。このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> はピリオドを使用します。
-b	-	オプション。Verbose。オブジェクトに関する詳細情報を表示します。このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> は短いフォーマットを出力し、オブジェクトのタイプ、再利用可能または再利用不可、オブジェクト名およびパスを表示します。verbose フォーマットではバージョン番号およびフォルダ名も表示されます。 ラベル、クエリー、デプロイメントグループおよび接続などのグローバルオブジェクトを短いフォーマットで表示すると、オブジェクトのタイプおよびオブジェクト名が表示されます。verbose フォーマットでは、作成者名および作成時刻も表示されます。
-y	-	オプション。ソースおよびターゲットのデータベースタイプを表示します。
-s	dbd_separator	オプション。ODBC ソースの名前にピリオド (.) がある場合は、ソースオブジェクトを定義するときに別の区切り文字を定義します。たとえば、ソースオブジェクトを、database_name.source_name の代わりに、database_name \source_name として定義し、dbd_separator をバックスラッシュ (\) として定義します。

GetConnectionDetails

接続オブジェクトのプロパティおよび属性を名前と値のペアで一覧表示します。

GetConnectionDetails コマンドを使用するには、接続オブジェクトに対する読み込み権限が必要です。

GetConnectionDetails コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
getconnectiondetails
```


-n <connection_name>

-t <connection_type>

以下の表に、*pmrep* GetConnectionDetails のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-n	connection_name	必須。詳細を一覧表示する接続名。
-t	connection_type	必須。接続タイプ。接続は以下のいずれかのタイプにすることができません。 <ul style="list-style-type: none">- Application- FTP- Loader- Queue- Relational

GenerateAbapProgramToFile

SAP テーブルをソースとするマッピングに対して ABAP プログラムを生成します。

GenerateAbapProgramToFile コマンドは、PowerCenter リポジトリ内のマッピングに対して ABAP プログラムを生成します。生成したプログラムはファイルとして保存されます。SAP テーブルをソースとして使用するマッピングに GenerateAbapProgramToFile コマンドを使用することもできます。

ファイルの命名規則は、マッピング名_<バージョン>_<プログラムモード>.ab4です。パスとファイル名は二重引用符で囲む必要があります。ABAP プログラムを生成してファイルに保存したら、InstallAbapProgram コマンドを使用して SAP システムに ABAP プログラムをインストールします。

GenerateAbapProgramToFile コマンドでは、以下の構文を使用します。

generateabaprogramtofile

-s <folder_name>

-m <mapping_name>

[-v <version_number>]

[-l <log_filename>]

-u <user_name>

-x <password>

-c <connect_string>

-t <client>

[-y <language>]

-p <program_mode (file, stream)>

-f <output_file_location>

{-e (enable override)}

-o <override_name> }
 [-a (authority check)]
 [-n (use namespace)]

以下の表に、pmrep GenerateAbapProgramToFile のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-s	folder_name	必須。生成が必要な ABAP プログラムのマッピングを含むフォルダーの名前。
-m	mapping_name	必須。マッピングの名前。
-v	version_number	オプション。マッピングのバージョン番号。デフォルトは、最新バージョンです。
-l	log_filename	オプション。情報またはエラーメッセージの記録に使用するログファイルの名前。デフォルトでは、ログファイルはコマンドを実行したディレクトリに作成されます。
-u	user_name	必須。SAP ソースシステム接続のユーザー名。ソースシステム接続の作成対象のユーザーにする必要があります。
-x	パスワード	必須。ユーザー名に対するパスワード。コマンドラインプログラム pmpasswd を使用して、ユーザーパスワードを暗号化します。
-c	connect_string	必須。特定の SAP アプリケーションサーバーへの接続、または SAP 負荷分散を使用する接続のために、sapnwrfc.ini ファイルに定義された DEST エントリ。
-t	client	必須。SAP クライアント番号。
-y	language	オプション。SAP ログオン言語。PowerCenter Client のコードページとの互換性が必要です。デフォルトは、SAP システムの言語です。
-p	program_mode (ファイル、ストリーム)	必須。PowerCenter 統合サービスが SAP システムからデータを抽出するときのモード。ファイルまたはストリームのいずれかを選択します。
-f	output_file_location	必須。ABAP プログラムファイルを保存するローカルマシン内の場所。
-e	-	オプション。ABAP プログラムのデフォルトのファイル名を上書きします。
-o	override_name	上書きを有効にする場合は必須です。ABAP プログラムのファイル名
-a	-	オプション。ABAP プログラムに権限チェックを追加します。
-n	-	オプション。SAP に登録した名前空間を ABAP プログラム名に追加します。

例

次の例は、ABAP プログラムを生成してファイルに保存します。

```
generateabaprogramtofile -s folder_name -m mapping_name -l logfile_name -u user_name -x password -c  
connect_string -t 800 -y EN -p stream -e -o program_name -n -a -f "C:\<informativa_installation_dir>\ABAP_prog"
```

Help

指定したコマンドの構文を返します。コマンドを指定しないと、すべての *pmrep* コマンドの構文が表示されます。

Help コマンドでは、以下の構文のいずれかを使用します。

```
help [command]  
-help [command]
```

InstallAbapProgram

SAP システムに ABAP プログラムをインストールします。InstallAbapProgram コマンドを使用して、生成した ABAP プログラムを SAP システムに直接インストールすることができます。ファイルから ABAP プログラムを SAP システムにインストールすることもできます。また、SAP テーブルをソースとして使用するマッピングに InstallAbapProgram コマンドを使用することができます。

InstallAbapProgram コマンドは、マッピング用の PowerCenter リポジトリからマッピング情報を取得し、ABAP プログラムを生成します。次に、生成した ABAP プログラムを SAP システムにインストールします。ABAP プログラムを初めて SAP システムにインストールする際に、プログラム名が自動生成されます。プログラムモードを変更しない限り、それ以降のインストールではこのプログラム名が使用されます。

ABAP プログラムをファイルから SAP システムにインストールする場合は、インストールする ABAP プログラムの完全パスとファイル名を指定する必要があります。パスとファイル名は二重引用符で囲みます。また、生成した ABAP プログラムのフォルダー名とマッピング情報も指定する必要があります。InstallAbapProgram コマンドはマッピングを取得し、SAP システムへのインストール時に ABAP プログラムにその情報を追加します。

InstallAbapProgram コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
installabaprogram  
  
-s <folder_name>  
  
-m <mapping_name>  
  
[-v <version_number>]  
  
[-l <log_filename>]  
  
-u <user_name>  
  
-x <password>  
  
-c <connect_string>  
  
-t <client>  
  
[-y <language>]
```

```

{-f <input_file_name> |
-p <program_mode (file, stream)>
-e (enable override)
-o <override_name> }
[-a (authority check)]
[-n (use namespace)]}
[-d <development_class_name>]

```

以下の表に、InstallAbapProgram のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-s	folder_name	必須。生成が必要な ABAP プログラムのマッピングを含むフォルダーの名前。ファイルからインストールする場合は、ABAP プログラムを生成したときのマッピングを含むフォルダーの名前。
-m	mapping_name	必須。マッピングの名前。ファイルからインストールする場合は、ABAP プログラムを生成したときのマッピングの名前。
-v	version_number	オプション。マッピングのバージョン番号。デフォルトは、最新バージョンです。ファイルからインストールする場合は、ABAP プログラムを生成したときのマッピングのバージョン。
-l	log_filename	オプション。情報またはエラーメッセージの記録に使用するログファイルの名前。デフォルトでは、ログファイルはコマンドを実行するディレクトリに格納されます。
-u	user_name	必須。SAP ソースシステム接続のユーザー名。ソースシステム接続の作成対象のユーザーにする必要があります。
-x	パスワード	必須。ユーザー名に対するパスワード。コマンドラインプログラム pmpasswd を使用して、ユーザーパスワードを暗号化します。
-c	connect_string	必須。特定の SAP アプリケーションサーバーへの接続、または SAP 負荷分散を使用する接続のために、sapnwrfc.ini ファイルに定義された DEST エントリ。
-t	client	必須。SAP クライアント番号。
-y	language	オプション。SAP ログオン言語。PowerCenter Client のコードページとの互換性が必要です。デフォルトは、SAP システムの言語です。
-f	input_file_name	ABAP プログラムをファイルからインストールする場合は必須です。SAP システムにインストールする ABAP プログラムのファイル名。
-p	program_mode (ファイル、ストリーム)	ABAP プログラムを生成して、SAP システムに直接インストールする場合は必須です。ABAP プログラムをファイルからインストールする場合は、オプションです。PowerCenter 統合サービスが SAP システムからデータを抽出するときのモード。ファイルまたはストリームのいずれかを選択します。

オプション	引数	説明
-e	-	ABAP プログラムを生成して SAP システムに直接インストールする場合は、オプションです。ABAP プログラムのデフォルトのファイル名を上書きします。
-o	override_name	上書きを有効にする場合は必須です。ABAP プログラムのファイル名
-a	-	ABAP プログラムを生成して SAP システムに直接インストールする場合は、オプションです。ABAP プログラムに権限チェックを追加します。
-n	-	ABAP プログラムを生成して SAP システムに直接インストールする場合は、オプションです。SAP に登録した名前空間を ABAP プログラム名に追加します。
-d	development_class_name	オプション。PowerCenter リポジトリサービスが ABAP プログラムをインストールするパッケージ (開発クラス名)。デフォルトの開発クラスは \$TMP です。

例

次の例は、ABAP プログラムを直接 SAP システムにインストールする場合です。

```
installabaprogram -s folder_name -m mapping_name -l logfile_name -u user_name -x password -c connect_string -t 800 -y EN -p file -e -o zabc -a -n -d development_class
```

次の例は、ABAP プログラムをファイルから SAP システムにインストールする場合です。

```
installabaprogram -s folder_name -m mapping_name -l logfile_name -u user_name -x password -c connect_string -t 800 -y EN -p file -v 1 -f "C:\mapping_name_version_file.ab4"
```

KillUserConnection

リポジトリへのユーザー接続を終了します。ユーザー名または接続 ID に基づいて、ユーザー接続を終了できません。リポジトリへのユーザー接続も終了することができます。

KillUserConnection コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
killuserconnection
{-i <connection_id> |
-n <user_name> |
-a (kill all)}
```

以下の表に、*pmrep KillUserConnection* のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-i	connection_id	リポジトリの接続 ID。
-n	user_name	ユーザー名。
-a	-	すべての接続を終了します。

ListConnections

リポジトリのすべての接続オブジェクトおよびその接続タイプを一覧表示します。接続は以下のいずれかのタイプにすることができます。

- Application
- FTP
- Loader
- Queue
- Relational

ListConnections コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
listconnections
```

```
[-t (output includes connection subtype)]
```

以下の表に、*pmrep ListConnections* のオプションを示します。

オプション	引数	説明
-t	-	オプション。接続サブタイプを表示します。たとえば、リレーショナル接続の場合、接続サブタイプには Oracle、Sybase、Microsoft SQL Server があります。読み込み権限のある接続のサブタイプのみ表示できます。

ListObjectDependencies

依存オブジェクトを再利用可能なオブジェクトまたは再利用不可能なオブジェクトに一覧表示します。再利用不可能なオブジェクトの依存性を一覧表示する場合は、オブジェクト ID を含むパーシステントファイルを使用する必要があります。このファイルは、クエリを実行してテキストファイルを作成するように選択すると作成できます。

ListObjectDependencies はパーシステントファイルを受け付けることも、パーシステントファイルを作成することもできます。これらのファイルは同じフォーマットです。出力ファイルを作成した場合、ApplyLabel、AddToDeployment Group、または Validate *pmrep* コマンドへの入力として出力ファイルを使用します。

ListObjectDependencies が正常に実行されると、レコード数が返されます。

ListObjectDependencies コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
listobjectdependencies
{{-n <object_name>
  -o <object_type>
  [-t <object_subtype>]
  [-v <version_number>]
  [-f <folder_name>] } |
  -i <persistent_input_file>}
[-d <dependency_object_types>]
[-p <dependency_direction (children, parents, or both)>]
[-s (include pk-fk dependency)]
[-g (across repositories)]
[-u <persistent_output_file_name>
  [-a (append)]]
[-c <column_separator>]
[-r <end-of-record_separator>]
[-l <end-of-listing_indicator>]
[-b (verbose)]
[-y (print database type)]
[-e <dbd_separator>]
```

以下の表に、*pmrep* ListObjectDependencies のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-n	object_name	必須。一覧表示される依存性の対象となる特定のオブジェクト名。
-o	object_type	必須。一覧表示される依存性の対象となるオブジェクトのタイプ。ソース、ターゲット、トランスフォーメーション、マッピング、セッション、ワークレット、ワークフロー、スケジューラ、セッション設定、タスク、キューブ、次元を指定できます。
-t	object_subtype	トランスフォーメーションまたはタスクのタイプ。他のオブジェクトのタイプの場合は無視されます。有効なサブタイプの詳細については、 「オブジェクトタイプの一覧表示」 (ページ 1067) を参照してください。
-v	version_number	オプション。最新バージョン以外のオブジェクトのバージョンの依存オブジェクトを一覧表示します。このオプションは、バージョン管理されたりポジトリにのみ使用します。バージョン管理されていないリポジトリには適用されません。
-f	folder_name	オブジェクト名を含むフォルダ。-i オプションを使用しない場合、フォルダが必要です。

オプション	引数	説明
-i	persistent_input_file	オプション。ExecuteQuery または Validate コマンドで生成されたオブジェクトのテキストファイル。再利用不可能なオブジェクトの依存性を一覧表示したい場合、このファイルを使用する必要があります。 このオプションを使用すると、特定のオブジェクトに対しては -n、-o、-f オプションが使用できません。
-d	dependency_object_types	オプション。一覧表示する依存オブジェクトのタイプ。「All」または 1 つ以上のオブジェクトのタイプを指定できます。デフォルトは ALL です。 「All」の場合、 <i>pmrep</i> はサポートされているすべての依存オブジェクトを一覧表示します。1 つ以上のオブジェクトを選択すると、 <i>pmrep</i> は、これらのタイプの依存オブジェクトを一覧表示します。複数のオブジェクトタイプを入力するには、これらをカンマで区切り、スペースを含みません。
-p	dependency_direction	-s オプションを使用しない場合は必須です。一覧表示する親または子依存オブジェクト。親、子、またはその両方を選択できます。-p オプションを使用しない場合、 <i>pmrep</i> は親または子の依存オブジェクトを一覧表示しません。
-s	-	-p オプションを使用しない場合は必須です。依存性の方向に関係なく、プライマリ-外部キー依存オブジェクトを含みます。-s オプションを使用しない場合、 <i>pmrep</i> はプライマリキー/外部キーの依存性を一覧表示しません。
-g	-	オプション。異なるリポジトリ間のオブジェクトの依存性を検索します。
-u	persistent_output_file_name	テキストファイルに依存結果を出力します。テキストファイルは、 <i>pmrep</i> の ApplyLabel、AddToDeployment Group、または Validate コマンドへの入力として使用できます。デフォルトでは、クエリー結果は標準出力に出力されます。このオプションと同時に -b および -c オプションを使用できません。
-a	-	結果をパーシステントファイルに、上書きせずに追加します。
-c	column_separator	オブジェクトのメタデータの列を区切るのに使用する文字または文字のセット。リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを使用します。リポジトリオブジェクト名にスペースが含まれている場合、列区切り文字としてスペースを使わないようにしたい場合があります。このオプションを -u オプションと共に使用できません。 このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> は区切り文字として 1 文字分のスペースを使用します。
-r	end-of-record_separator	オブジェクトのメタデータの末尾を示すために使用する文字または文字のセット。リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを使用します。 デフォルトでは改行 (/n) です。
-l	end-of-listing_indicator	オブジェクトのリストの末尾を示すために使用する文字または文字のセット。リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを入力します。 このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> はピリオドを使用します。

オプション	引数	説明
-b	-	Verbose。オブジェクトに関する詳細情報を表示します。このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> は短いフォーマットを出力し、オブジェクトのタイプ、再利用可能または再利用不可、オブジェクト名およびパスを表示します。verbose フォーマットではバージョン番号およびフォルダ名も表示されます。 ラベル、クエリー、デプロイメントグループおよび接続などのグローバルオブジェクトを短いフォーマットで表示すると、オブジェクトのタイプおよびオブジェクト名が表示されます。verbose フォーマットでは、作成者名および作成時刻も表示されます。このオプションを-u オプションと共に使用できません。
-y	-	オプション。ソースおよびターゲットのデータベースタイプを表示します。
-e	dbd_separator	オプション。ODBC ソースの名前にピリオド (.) がある場合は、ソースオブジェクトを定義するときに別の区切り文字を定義します。たとえば、ソースオブジェクトを、database_name.source_name の代わりに、database_name\source_name として定義し、dbd_separator をバックスラッシュ (\) として定義します。

ListObjects

リポジトリ内のオブジェクトのリストを返します。オブジェクトを一覧表示した場合、*pmrep* でオブジェクトのメタデータが返されます。以下のリスト操作を使用します。

- **オブジェクトタイプの一覧表示。** 一覧表示するオブジェクトを定義します。
- **フォルダーの一覧表示。** リポジトリ内のフォルダーをすべて一覧表示します。
- **オブジェクトの一覧表示。** リポジトリ内またはフォルダー内の再利用可能なオブジェクトおよび再利用不可なオブジェクトを一覧表示します。

シェルスクリプトで ListObjects を使用してオブジェクトのメタデータを返し、メタデータを解析してから、解析されたデータを別の *pmrep* コマンドで使用します。

例えば、listobjects コマンドを使用して、リポジトリのすべてのシーケンスジェネレータートランスフォーメーションを一覧表示することができます。シーケンスジェネレータートランスフォーメーションの情報を返す listobjects コマンドを使用してシェルスクリプトを作成し、listobjects コマンドが返したデータを解析して、updateseqgenvals を使用してシーケンス値を更新します。

pmrep では、各オブジェクトが 1 レコードで、各オブジェクトのメタデータが 1 カラムで返されます。デフォルトでは、レコードは改行で区切られます。レコードおよびカラムを区切る文字を入力することができます。また、一覧表示の末尾を示す文字を入力することもできます。

ヒント: レコードおよびカラムを区切る文字や一覧表示の末尾を示す文字を入力する場合には、リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字を使用します。これは、シェルスクリプトを使用してオブジェクトのメタデータを解析する場合に役立ちます。

listobjects コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
listobjects
-o <object_type>
```

[-t <object_subtype>]
 [-f <folder_name>]
 [-c <column_separator>]
 [-r <end-of-record_indicator>]
 [-l <end-of-listing_indicator>]
 [-b (verbose)]
 [-y (print database type)]
 [-s <dbd_separator>]

以下の表に、*pmrep* ListObjects のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-o	object_type	<p>必須。一覧表示するオブジェクトのタイプ</p> <ul style="list-style-type: none"> - フォルダを入力する場合、他のオプションを指定する必要はありません。<i>pmrep</i> は、-t および -f オプションを無視します。 - フォルダ以外のオブジェクトを入力する場合は、-f オプションを指定する必要があります。 - トランスフォーメーションまたはタスクを入力する場合、-f オプションを指定する必要があります。また、必要に応じて -t オプションを指定できます。 <p>ListObjects で使用するオブジェクトタイプの詳細については、「オブジェクトタイプの一覧表示」 (ページ 1067)を参照してください。</p>
-t	object_subtype	<p>オプション。一覧表示するトランスフォーメーションまたはタスクのタイプ。オブジェクトのタイプとしてトランスフォーメーションまたはタスクを入力する場合には、このオプションを指定して特定のタイプを表示させることができます。</p> <p>ListObjects で使用するオブジェクトタイプの詳細については、「オブジェクトタイプの一覧表示」 (ページ 1067)を参照してください。</p>
-f	folder_name	<p>フォルダー以外のオブジェクトを一覧表示する場合に必要です。検索するフォルダーデプロイメントグループ、フォルダー、ラベル、およびクエリ以外のすべてのオブジェクトタイプでこのオプションを使用します。</p>
-c	column_separator	<p>オプション。オブジェクトのメタデータのカラムを区切るのに使用する文字または文字のセット。リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを使用します。リポジトリオブジェクト名にスペースが含まれている場合、カラム区切り文字としてスペースを使わないようにしたい場合があります。</p> <p>このオプションを省略すると、<i>pmrep</i> は区切り文字として 1 文字分のスペースを使用します。</p>
-r	end-of-record_インジケータ	<p>オプション。オブジェクトのメタデータの末尾を示すために使用する文字または文字のセット。リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを使用します。</p> <p>デフォルトでは改行 (/n) です。</p>

オプション	引数	説明
-l	end_of_listing_indicator	オプション。オブジェクトのリストの末尾を示すために使用する文字または文字のセット。リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを入力します。 このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> はピリオドを使用します。
-b	-	オプション。Verbose。オブジェクトに関する詳細情報を表示します。このオプションを省略すると短いフォーマットになり、オブジェクトのタイプ、再利用可能または再利用不可、オブジェクト名およびパスを表示します。verbose フォーマットでは、オブジェクトのステータス、バージョン番号、フォルダ名、およびチェックアウト情報も表示されます。 ラベル、クエリー、デプロイメントグループおよび接続などのグローバルオブジェクトを短いフォーマットで表示すると、オブジェクトのタイプおよびオブジェクト名が表示されます。verbose フォーマットには、ラベルのタイプ、クエリーのタイプ、デプロイメントグループのタイプ、作成者名、および作成時刻が含まれます。
-y	-	オプション。ソースおよびターゲットのデータベースタイプを表示します。
-s	dbd_separator	オプション。ODBC ソースの名前にピリオド (.) がある場合は、ソースオブジェクトを定義するときに別の区切り文字を定義します。たとえば、ソースオブジェクトを、database_name.source_name の代わりに、database_name\source_name として定義し、dbd_separator をバックスラッシュ (\) として定義します。

オブジェクトタイプの一覧表示

object_type オプションを使用して、一覧表示するオブジェクトを定義します。コマンドにより、ショートカットを含み、オブジェクトタイプのルールに応じたオブジェクトを除外した、オブジェクトの最新バージョンまたはチェックアウトされているバージョンが一覧表示されます。

以下の表に、ListObjects コマンドで使用するオブジェクトタイプおよびルールを示します。

オブジェクトタイプ	ルール
Deploymentgroup	リポジトリのデプロイメントグループを一覧表示します。
Folder	リポジトリのフォルダを一覧表示します。
Label	リポジトリのラベルを一覧表示します。
Mapplet	フォルダー内の最新またはチェックアウトされているバージョンのマッピングを一覧表示します。ショーカットは含まれますが、再利用可能なマッピングのインスタンスは表示されません。
Mapping	フォルダー内の最新またはチェックアウトされているバージョンのマッピングを一覧表示します。ショーカットは含まれますが、再利用可能なマッピングのインスタンスは表示されません。
Query	リポジトリのクエリを一覧表示します。

オブジェクトタイプ	ルール
Scheduler	フォルダ内の最新またはチェックアウトされているバージョンの再利用可能および再利用不可能なスケジューラを一覧表示します。
Session	フォルダ内の最新またはチェックアウトされているバージョンの再利用可能および再利用不可能なセッションを一覧表示します。再利用可能なセッションのインスタンスは表示されません。
Sessionconfig	フォルダ内の最新またはチェックアウトされているバージョンのセッション設定を一覧表示します。
Source	フォルダ内の最新またはチェックアウトされているバージョンのソースを一覧表示します。ショーカットは含まれますが、ソースのインスタンスは表示されません。
Target	フォルダ内の最新またはチェックアウトされているバージョンのターゲットを一覧表示します。ショートカットは含まれますが、ターゲットのインスタンスは表示されません。
タスク	フォルダ内の最新またはチェックアウトされているバージョンの再利用可能および再利用不可能なタスクを一覧表示します。
トランスフォーメーション	フォルダ内の最新またはチェックアウトされているバージョンの再利用可能および再利用不可能なトランスフォーメーションを一覧表示します。ショートカットは含まれますが、再利用可能なトランスフォーメーションのインスタンスは表示されません。
“User Defined Function”	リポジトリのユーザー定義関数を一覧表示します。
Workflow	フォルダ内の最新またはチェックアウトされているバージョンのワークフローを一覧表示します。
Worklet	フォルダ内の最新またはチェックアウトされているバージョンの再利用可能および再利用不可能なワークレットを一覧表示します。再利用可能なワークレットのインスタンスは表示されません。

以下の表に、*pmrep* コマンドで使用するオブジェクトタイプおよび値を示します。

オブジェクトタイプ	サブタイプ値	説明
タスク	割付	割り当て
タスク	コマンド	コマンド
タスク	control	コントロール
タスク	decision	ディシジョン
タスク	email	電子メール
タスク	event_raise	イベントレイズ
タスク	event_wait	イベント待ち
タスク	start	開始

オブジェクトタイプ	サブタイプ値	説明
タスク	timer	タイマ
トランスフォーマーシ ョン	aggregator	アグリゲータ
トランスフォーマーシ ョン	application_source_qualifier	アプリケーションソース修飾子
トランスフォーマーシ ョン	app_multi- group_source_qualifier	アプリケーションマルチグループソース修飾子
トランスフォーマーシ ョン	custom_transformation	カスタム
トランスフォーマーシ ョン	custom_transformation	HTTP
トランスフォーマーシ ョン	custom_transformation	SQL
トランスフォーマーシ ョン	custom_transformation	共有体
トランスフォーマーシ ョン	custom_transformation	XML ジェネレータ
トランスフォーマーシ ョン	custom_transformation	XML パーサー
トランスフォーマーシ ョン	expression	式
トランスフォーマーシ ョン	external_procedure	エクスターナルプロシージャ
トランスフォーマーシ ョン	filter	フィルタ
トランスフォーマーシ ョン	input_transformation	入力
トランスフォーマーシ ョン	java	Java
トランスフォーマーシ ョン	joiner	ジョイナ
トランスフォーマーシ ョン	lookup_procedure	ルックアップ
トランスフォーマーシ ョン	mq_source_qualifier	MQ ソース修飾子
トランスフォーマーシ ョン	normalizer	ノーマライザ

オブジェクトタイプ	サブタイプ値	説明
トランスフォーメーション	output_transformation	出力
トランスフォーメーション	ランク	ランク
トランスフォーメーション	ルータ	ルータ
トランスフォーメーション	シーケンス	シーケンスジェネレータ
トランスフォーメーション	ソータ	ソータ
トランスフォーメーション	source_qualifier	ソース修飾子
トランスフォーメーション	stored_procedure	ストアードプロシージャ
トランスフォーメーション	transaction_control	トランザクション制御
トランスフォーメーション	update_strategy	アップデートストラテジ
トランスフォーメーション	xml_source_qualifier	XML ソース修飾子

フォルダの一覧表示

ListObjects を使用してリポジトリに各フォルダを返します。オブジェクトタイプとして folder を入力した場合、*pmrep* ではサブタイプおよびフォルダ名が無視されます。

例えば、リポジトリ内のすべてのフォルダを一覧表示する場合、以下の構文を使用します。

```
listobjects -o folder
```

または、異なるカラムセパレータと一覧表示するインジケータの末尾を入力することもできます。

```
ListObjects -o folder -c "***" -l #
```

オブジェクトの一覧表示

listobjects を使用して、リポジトリまたはフォルダ内にある再利用可能なおよび再利用不可能なオブジェクトを一覧表示することができます。*pmrep* では、再利用可能なオブジェクトのインスタンスは含まれません。オブジェクトを一覧表示する場合には、フォルダに関連するすべてのオブジェクトに対してフォルダ名を含める必要があります。

pmrep では、パス名を適用できる場合には、パス名を持つオブジェクト名が返されます。例えば、トランスフォーメーションがマッピングまたはマップレット内にある場合、*pmrep* により、*mapping_name.transformation_name* または *mapplet_name.transformation_name* が返されます。

トランスフォーメーションおよびタスクの戻り値のリストについては、[「オブジェクトタイプの一覧表示」 \(ページ 1067\)](#) を参照してください。

例えば、フォルダー内のすべてのトランスフォーメーションのタイプを一覧表示するには、プロンプトで次のように入力します。

```
listobjects -o transformation -f myfolder
```

pmrep では、以下の情報が返されます。

```
stored_procedure reusable sp_sproc1
expression reusable expl
stored_procedure non-reusable mapping1.sp_nsproc
sequence non-reusable smallmaplet.seqgen_empid
.listobjects completed successfully.
```

フォルダー内のすべてのストアードプロシージャトランスフォーメーションを一覧表示するには、プロンプトに以下のテキストを入力します。

```
listobjects -o transformation -t stored_procedure -f myfolder
```

pmrep では、以下の情報が返されます。

```
stored_procedure reusable sp_sproc1
stored_procedure non-reusable mapping1.sp_nsproc
.listobjects completed successfully.
```

フォルダー内のすべてのセッションを一覧表示するには、プロンプトに以下のテキストを入力します。

```
listobjects -o session -f myfolder
```

pmrep では、以下の情報が返されます。

```
session reusable s_sales_by_CUSTID
session non-reusable wf_sales.s_sales_Q3
session non-reusable wf_orders.wl_shirt_orders.s_shirt_orders
.listobjects completed successfully.
```

ListTablesBySess

セッションで使用したソースまたはターゲットのリストを返します。ソースまたはターゲットを一覧表示した場合、*pmrep* では、ソースまたはターゲットのインスタンス名がウィンドウに返されます。*ListTablesBySess* は、他の *pmrep* コマンドと共にシェルスクリプトで使用します。例えば、*ListTablesBySess* を使用してソースインスタンス名を返し、*Updatesrcprefix* を使用してソースのオーナー名を更新するシェルスクリプトを作成できます。

ListTablesBySess を使用した場合、*pmrep* では、セッションプロパティに表示されるように、ソースまたはターゲットのインスタンス名が返されます。例えば、マッピングにソースを持つマップレットが含まれている場合、*pmrep* では、以下の形式でソースのインスタンス名が返されます。

```
maplet_name.source_name
```

ListTablesBySess コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
listtablesby sess
```

```
-f <folder_name>
```

```
-s [<qualifying_path>.]<session_name>
```

```
-t <object_type_listed> (source or target)
```

以下の表に、`pmrep ListTablesBySess` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-f	folder_name	必須。セッションが格納されているフォルダ。
-s	session_name	必須。ソースまたはターゲットが格納されているセッション名。再利用可能なまたは再利用不可能なセッションを入力できます。ただし、再利用可能なセッションのインスタンスは入力できません。 ワークフローの再利用不可能なセッション名を入力するには、ワークフロー名およびセッション名を <code>workflow_name.session_name</code> のように入力します。
-t	object_type_listed	必須。ソースを一覧表示する場合には <code>source</code> 、ターゲットを一覧表示する場合には <code>target</code> を入力します。

例えば、再利用可能なセッション内のすべてのソースを一覧表示するには、プロンプトで次のように入力します。

```
listtablesbyseSS -f myfolder -s s_reus_sess1 -t source
```

`pmrep` では、以下の情報が返されます。

```
ITEMS  
mapplet1.ORDERS  
Shortcut_To_ITEM_ID  
listtablesbyseSS completed successfully.
```

マッピングに、ソースを持つマップレットが含まれている場合、`pmrep` には、`mapplet1.ORDERS` などのソースを持つマップレット名が含まれます。

例えば、ワークフロー内の再利用不可能なセッションのすべてのターゲットを一覧表示することができます。

```
listtablesbyseSS -f myfolder -s wf_workkflow1.s_nrsess1 -t target
```

`pmrep` では、以下の情報が返されます。

```
target1_inst  
ORDERS_BY_CUSTID  
Shortcut_To_tgt2_inst  
listtablesbyseSS completed successfully.
```

ListUserConnections

リポジトリに接続するユーザーごとに情報を一覧表示します。

`listuserconnections` コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
listuserconnections
```

MassUpdate

指定した条件を満たすセッションのセットのためのセッションプロパティを更新します。フォルダー内のすべてのセッションまたはセッションのリストを更新できます。セッションのリストを更新するには、永続入力フ

ファイルを作成します。リストには、セッションの特定のリストを含めることも、名前のパターンやプロパティ値などの条件を含めることができます。ExecuteQuery を使用して、永続入力ファイルを生成します。

MassUpdate を実行した場合、フォルダー名、正常に更新または失敗したセッション数、更新されたセッション名などの情報を表示できます。コマンドラインウィンドウまたはコマンドで生成されるログファイルに、更新のステータスを表示できます。コマンドを実行する際に、ログファイルの名前とパスを指定します。デフォルトでは、ログファイルはコマンドを実行するディレクトリに格納されます。

PowerCenter のバージョンによりデフォルト値が変更される場合、MassUpdate を使用して、複数のセッションにわたってセッションプロパティを更新します。

注: 依存セッションプロパティは更新できません。

セッションを更新する前に、テストモードで MassUpdate を実行して変更を表示することもできます。サンプルのログファイルを表示するには、[「サンプルのログファイル」 \(ページ 1079\)](#) を参照してください。

MassUpdate コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
pmrep massupdate
```

```
-t <session_property_type (session_property, session_config_property, transformation_instance_attribute, session_instance_runtime_option)>
```

```
-n <session_property_name>
```

```
-v <session_property_value>
```

```
[-w <transformation_type>]
```

```
[-i <persistent_input_file> | -f <folder_name> ]
```

```
[-o <condition_operator (equal, unequal, less, greater)>]
```

```
[-l <condition_value>]
```

```
[-g <update_session_instance_flag>]
```

```
[-m <test_mode>]
```

```
[-u <output_log_file_name>]
```

以下の表に、*pmrep* MassUpdate のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-t	session_property_type	必須。更新するセッションプロパティタイプ。セッションプロパティは以下のタイプのいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> - session_property - session_config_property - transformation_instance_attribute - session_instance_runtime_option
-n	session_property_name	必須。更新する属性またはプロパティの名前。
-v	session_property_value	必須。プロパティに割り当てる値で、末尾にセミコロンを記入します。 たとえば、プロパティに値を割り当てるには、-v "IgnoreNULLInExpressionComparison=Yes;" という構文を使用します。 注: セッションのプロパティ値を二重引用符で囲みます。

オプション	引数	説明
-w	transformation_type	トランスフォーメーションインスタンスの属性を更新する場合に必須。更新するトランスフォーメーションタイプ。以下のトランスフォーメーションタイプを更新できます。アグリゲータ、ジョイナ、ルックアッププロシージャ、ランク、ソータ、ソース定義、およびターゲット定義。
-i	persistent_input_file	-f オプションを使用しない場合に必須。更新するセッションの選択したリストを含むファイルの名前。 <i>pmrep</i> ExecuteQuery コマンドを使用してクエリを実行し、このファイルを生成できます。セッションではないオブジェクトを指定した場合、MassUpdate ではエラーが返されず、-i オプションまたは-f オプションを使用する必要がありますが、同時に使用することはできません。
-f	folder_name	-i オプションを使用しない場合は必須です。フォルダーの名前。フォルダー内のすべてのセッションを更新するために使用します。-i オプションまたは-f オプションを使用する必要がありますが、同時に使用することはできません。
-o	condition_operator	condition_value を使用する場合に必須。セッションセットを定義する条件の一部。 条件が満たされた場合、セッションまたはセッションインスタンスの属性が更新されます。 次の比較演算子を使用して、文字列を更新できます。等しい、または等しくない。 次の比較演算子を使用して、整数を更新できます。等しい、等しくない、より少ない、より大きい。
-l	condition_value	比較演算子を使用する場合に必須。条件の一部。条件は次のように表示されます。 <session_property_value> <condition operator> <condition_value>
-g	update_session_instance_flag	セッションインスタンスのランタイムオプションを更新する場合に必須。 次のセッションプロパティタイプに関してはオプションとなります。セッションプロパティ、セッションの設定属性、トランスフォーメーションインスタンスの属性。 セッションインスタンスを更新します。 セッションインスタンスが属性をオーバーライドする場合、セッションインスタンス内の属性を更新できます。

オプション	引数	説明
-m	test_mode	<p>オプション。MassUpdate をテストモードで実行します。変更をコミットする前に、コマンドによって影響を受けるセッションを表示します。コマンドラインウィンドウに以下の詳細を表示することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - セッション名 - セッションのタイプ: 再利用可能または再利用不可能 - セッションプロパティのカレント値 - 属性に同じ値を持ち、コマンドの影響を受けないセッション。
-u	output_log_file_name	<p>オプション。更新のステータス、およびセッションまたはセッションインスタンスに関する基本的な情報を格納するログファイルの名前。以前の属性値もこのファイルに書き込まれます。このオプションを使用しない場合、詳細がコマンドラインウィンドウに表示されます。</p>

MassUpdate コマンドにより、「massupdate が正常に完了しました。」または「massupdate の実行に失敗しました。」というメッセージが返されます。更新は以下の理由で失敗することがあります。

- 属性名に関連する有効な属性値を指定しなかった。
- 正しいセッションプロパティ名を指定したが、それに対して間違ったセッションプロパティタイプを指定した。
- セッションプロパティ値の更新時に、-v オプションの末尾のセミコロンを指定しなかった。
- トランスフォーメーションインスタンスの属性の更新時に-w オプションを指定しなかった。
- セッションインスタンスのランタイムオプションの更新時に-g オプションを指定しなかった。
- リポジトリサービスの管理者ロールがない。

セッションプロパティタイプ

MassUpdate の実行時に、セッションプロパティタイプと名前を指定します。以下のセッションプロパティタイプを指定します。

- セッションプロパティ
- セッション設定の属性
- トランスフォーメーションインスタンスの属性
- セッションインスタンスのランタイムオプション

注: セッションプロパティは引用符で囲む必要があります。

以下の表に、更新可能なセッションプロパティとセッションプロパティのタイプを示します。

セッションプロパティ	セッションプロパティのタイプ
\$Source connection value	session_property
\$Target connection value	session_property

セッションプロパティ	セッションプロパティのタイプ
ルックアップキャッシュ作成のための追加のコンカレントパイプライン	session_config_property
アグリゲータデータキャッシュサイズ	transformation_instance_attribute 引数 transformation_type はアグリゲータである必要があります。
アグリゲータインデックスキャッシュサイズ	transformation_instance_attribute 引数 transformation_type はアグリゲータである必要があります。
ブッシュダウンに対する一時シーケンスの許可	session_property
ブッシュダウンに対する一時ビューの許可	session_property
キャッシュディレクトリ	transformation_instance_attribute 引数 transformation_type はアグリゲータ、ジョイナ、またはランクである必要があります。
LOOKUP のキャッシング機能	session_config_property
パフォーマンスデータの収集	session_property
コミット間隔	session_property
コミットタイプ	session_property
データベースの制約に基づくロード順序	session_config_property
カスタムプロパティ	session_config_property
日時形式文字列	session_config_property
デフォルトのバッファブロックサイズ	session_config_property
このタスクを無効にする	session_instance_runtime_option
DTM バッファサイズ	session_property
高精度 10 進演算を有効にする	session_property
テストロードを有効にする	session_property
実行されない時、親タスクを失敗にする	session_instance_runtime_option
失敗時、親タスクを失敗にする	session_instance_runtime_option
差分集計	session_property
は有効	session_config_property
Java クラスパス	session_property

セッションプロパティ	セッションプロパティのタイプ
ジョイナデータキャッシュサイズ	transformation_instance_attribute 引数 transformation_type はジョイナである必要があります。
ジョイナインデックスキャッシュサイズ	transformation_instance_attribute 引数 transformation_type はジョイナである必要があります。
連続行のバッファ長	session_config_property
ルックアップキャッシュディレクトリ名	transformation_instance_attribute 引数 transformation_type はルックアッププロシージャである必要があります。
ルックアップデータキャッシュサイズ	transformation_instance_attribute 引数 transformation_type はルックアッププロシージャである必要があります。
ルックアップインデックスキャッシュサイズ	transformation_instance_attribute 引数 transformation_type はルックアッププロシージャである必要があります。
自動メモリ属性で使用できる最大メモリ	session_config_property
自動メモリ属性で使用できる合計メモリの最大割合 (%)	session_config_property
実行前/実行後 SQL のエラー	session_config_property
セッション実行前のコマンドタスクのエラー	session_config_property
ストアドプロシージャのエラー	session_config_property
出力ファイルディレクトリ	transformation_instance_attribute 引数 transformation_type はターゲット定義である必要があります。
トレースのオーバーライド	session_config_property
パラメータファイル名	session_property
85 以前のタイムスタンプの互換性	session_config_property
ルックアップキャッシュの事前作成	session_config_property
プッシュダウンの最適化	session_property
ランクデータキャッシュサイズ	transformation_instance_attribute 引数 transformation_type はランクである必要があります。
ランクインデックスキャッシュサイズ	transformation_instance_attribute 引数 transformation_type はランクである必要があります。

セッションプロパティ	セッションプロパティのタイプ
リカバリ戦略	session_property
拒否ファイルディレクトリ	transformation_instance_attribute 引数 transformation_type はターゲット定義である必要があります。
トランザクションエラーでロールバックしません	session_property
セッションログの保存	session_config_property
セッションログファイルディレクトリ	session_property
デッドロック時のセッションのリトライ	session_property
セッションのソート順	session_property 統合サービスが Unicode モードで実行されている場合、セッション内のソート文字データのソート順を選択できません。ソート順には、以下の値を設定できます。 - 0. BINARY - 2. SPANISH - 3. TRADITIONAL_SPANISH - 4. DANISH - 5. SWEDISH - 6. FINNISH
ソータキャッシュサイズ	transformation_instance_attribute 引数 transformation_type はソータである必要があります。
ソースファイルディレクトリ	transformation_instance_attribute 引数 transformation_type はソース定義である必要があります。
エラー時の停止	session_config_property
ソース行の扱い	session_property
複数入力リンクの扱い AND	session_instance_runtime_option
下位互換セッションログファイル	session_property

MassUpdate に関するルールおよびガイドライン

MassUpdate を実行する際には、以下のルールおよびガイドラインを使用します。

- リポジトリサービスプロセスを実行中のノードに制限されたメモリがある場合、MassUpdate を実行する前にリポジトリエージェントキャッシュを無効にするか、MassUpdate の実行後にリポジトリサービスを再起動する。
- 再利用可能なセッションおよび再利用不可能のセッションを更新できる。
- MassUpdate の実行後にプロパティ値を戻すことはできない。

- チェックアウトされたセッションは更新できない。
- 凍結したフォルダ内のセッションは更新できない。

サンプルのログファイル

以下のテキストに、*pmrep* MassUpdate で生成されたサンプルのログファイルを示します。

```
cases_auto,s_test_ff,reusable,0
s_test_ff was successfully checked out.

-----
11/10/2008 11:12:55 ** Saving... Repository test_ver_MU, Folder cases_auto
-----
Session s_test_ff updated.
Checking-in saved objects...done
-----

cases_auto,wf_non_reusable_test_ff.s_test_ff_non_reusable,non-reusable,0
wf_non_reusable_test_ff was successfully checked out.

-----
11/10/2008 11:12:57 ** Saving... Repository test_ver_MU, Folder cases_auto
-----
Validating the flow semantics of Workflow wf_non_reusable_test_ff...
...flow semantics validation completed with no errors.

Validating tasks of Workflow wf_non_reusable_test_ff...
...Workflow wf_non_reusable_test_ff tasks validation completed with no errors.

Workflow wf_non_reusable_test_ff updated.
Checking-in saved objects...done
-----

Massupdate Summary:
Number of reusable sessions that are successfully updated: 1.
Number of non-reusable sessions that are successfully updated: 1.
Number of session instances that are successfully updated: 0.
Number of reusable sessions that fail to be updated: 0.
Number of non-reusable sessions that fail to be updated: 0.
Number of session instances that fail to be updated: 0.
-----
```

ModifyFolder

フォルダのプロパティを変更します。バージョン管理されていないリポジトリのフォルダを変更します。

コマンドは、「ModifyFolder が完了しました。」または「ModifyFolder の実行が失敗しました。」というメッセージを返します。変更は以下の理由で失敗することがあります。

- フォルダが存在しない。
- 新しいオーナーが存在しない、またはグループに属していない。
- 新しいフォルダ名を使用したフォルダが既に存在する。

modifyfolder コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
modifyFolder
-n <folder_name>
[-d <folder_description>]
```

[-o <owner_name>]
 [-a <owner_security_domain>]
 [-s (shared folder)]
 [-p <permissions>]
 [-r <new_folder_name>]
 [-f <folder_status> (active, frozendeploy, or frozennodeploy)]
 [-u <os_profile>]

以下の表に、*pmrepModifyFolder*のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-n	folder_name	必須。新規のフォルダ名。
-d	folder_description	オプション。Repository Manager に表示されるフォルダの説明。
-o	owner_name	オプション。フォルダの現在のオーナー。リポジトリ内の任意のユーザーをフォルダオーナーとすることができます。デフォルトのオーナーは現在のユーザーです。
-a	owner_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必須。オーナーが属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-s	shared_folder	オプション。フォルダを共有フォルダにします。
-p	権限	オプション。フォルダのアクセス権。省略される場合、リポジトリサービスでは既存の権限が使用されます。
-r	new_folder_name	オプション。フォルダの名前。
-f	folder_status	オプション。フォルダの状態を以下のいずれかに変更します。 <ul style="list-style-type: none"> - active。このステータスの場合、ユーザーはフォルダ内のバージョン管理されたオブジェクトをチェックアウトすることができます。 - frozendeploy (凍結-デプロイによる置換を許可)。このステータスの場合、ユーザーはフォルダ内のオブジェクトをチェックアウトできません。このフォルダへオブジェクトをデプロイメントすると、新しいバージョンが作成されます。 - frozennodeploy (凍結-デプロイによる置換を禁止)。このステータスの場合、ユーザーはフォルダ内のオブジェクトをチェックアウトできません。このフォルダにオブジェクトをデプロイメントすることもできません。
-u	os_profile	オプション。オペレーティングシステムのプロファイルをフォルダに割り当てます。

Notify

ユーザーに通知メッセージを送信します。このユーザーはリポジトリサービスが管理するすべてのリポジトリに接続しているリポジトリまたはユーザーに接続しています。

Notify コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
notify
```

```
-m <message>
```

以下の表に、*pmrep* Notify のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-m	メッセージ	必須。送信するメッセージ。

コマンドは、「notify が完了しました。」または「notify の実行が失敗しました。」というメッセージを返します。通知は以下の理由で失敗することがあります。

- 入力したメッセージタイプが無効である。
- リポジトリサービスに接続できない。
- Repository Server がユーザーへの通知に失敗した。

ObjectExport

powrmart.dtd ファイルで定義された XML ファイルに対してオブジェクトをエクスポートします。オブジェクト名を指定してオブジェクトをエクスポートします。オブジェクトを入力する場合、そのオブジェクトが格納されているフォルダ名を入力する必要があります。バージョン番号を入力しない場合、最新バージョンのオブジェクトがエクスポートされます。

パーシステントファイルを使用して数種類のオブジェクトを指定し、一度にエクスポートすることができます。このファイルは、*pmrep* の *ExecuteQuery*、*Validate*、または *ListObjectDependencies* コマンドを使用して作成できます。パーシステントファイルを使用する場合には、オブジェクトの指定に他のパラメータは使用しません。

マッピングをエクスポートする場合、デフォルトでは PowerCenter はマッピングおよびそのインスタンスをエクスポートします。依存オブジェクトを含む場合は、適切な *pmrep* オプションを追加する必要があります。必要に応じて再利用可能および再利用不可な依存オブジェクト、ショートカットが参照するオブジェクト、およびプライマリキーと外部キーの関係にある関連オブジェクトを含めることができます。

マッピング依存性をエクスポートするには、*-b* オプションと *-r* オプションを使用する必要があります。

ObjectExport コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
objectexport
```

```
{{-n <object_name>
```

```
-o <object_type>
```

```
[-t <object_subtype>]
```

```
[-v <version_number>]
```

```

[-f <folder_name>}] |
-i <persistent_input_file>
[-m (export pk-fk dependency)]
[-s (export objects referred by shortcut)]
[-b (export non-reusable dependents)]
[-r (export reusable dependents)]
-u <xml_output_file_name>
[-l <log_file_name>]
[-e dbd_separator]

```

以下の表に、*pmrep* ObjectExport のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-n	object_name	-i オプションを使用しない場合は必須です。エクスポートする特定のオブジェクトの名前。このオプションを入力しない場合、 <i>pmrep</i> がフォルダ内のすべての最新またはチェックアウトされているオブジェクトをエクスポートします。-n オプションまたは-i オプションを使用しますが、同時には指定できません。
-o	object_type	オブジェクト名のオブジェクトタイプ。ソース、ターゲット、トランスフォーメーション、マッピング、マップレット、セッション、ワークレット、ワークフロー、スケジューラ、セッション設定、タスクを指定できます。このオプションと同時に-i オプションを指定することはできません。
-t	object_subtype	トランスフォーメーションまたはタスクのタイプ。この引数は、他のオブジェクトのタイプの場合は無視されます。有効なサブタイプの詳細については、「 オブジェクトタイプの一覧表示 」(ページ 1067)を参照してください。
-v	version_number	オプション。入力するオブジェクトのバージョンをエクスポートします
-f	folder_name	エクスポートするオブジェクトを含むフォルダの名前。オブジェクト名を指定しない場合、 <i>pmrep</i> がこのフォルダ内のすべてのオブジェクトをエクスポートします。このオプションと同時に-i オプションを指定することはできません。
-i	persistent_input_file	-n オプションを使用しない場合は必須です。ExecuteQuery、Validate、または ListObjectDependencies コマンドで生成されたオブジェクトのテキストファイル。エンコードされた ID を持つオブジェクトのレコードを含みます。このパラメータを使用する場合、-n、-o、-f の各オプションは使用できません。
-m	-	依存するオブジェクトをエクスポートする場合は必須です。外部キーによりソースまたはターゲットをエクスポートする場合にプライマリキーテーブルの定義をエクスポートします。
-s	-	依存するオブジェクトをエクスポートする場合は必須です。ショートカットの参照元オブジェクトをエクスポートします。

オプション	引数	説明
-b	-	依存するオブジェクトをエクスポートする場合は必須です。再利用不可能なオブジェクトをエクスポートします。
-r	-	依存するオブジェクトをエクスポートする場合は必須です。再利用可能なオブジェクトをエクスポートします。
-u	xml_output_file_name	必須。オブジェクト情報を格納する XML ファイルの名前。
-l	log_file_name	オプション。エクスポートの実行結果を記録するログファイル。このオプションを省略すると、ステータスメッセージがウィンドウに出力されます。
-e	dbd_separator	オプション。ODBC ソースの名前にピリオド (.) がある場合は、ソースオブジェクトを定義するときに別の区切り文字を定義します。たとえば、ソースオブジェクトを、database_name.source_name の代わりに、database_name\source_name として定義し、dbd_separator をバックスラッシュ (\) として定義します。

例

以下の例では、フォルダ 1 に格納されている map という名前のマッピングを、map.xml という名前のファイルにエクスポートします。

```
objectexport -n map -o mapping -f folder1 -u map.xml
```

以下の例では、persistent_input.xml という名前が付けられたパーシステントファイルで特定されるオブジェクトを、map.xml という名前が付けられたファイルにエクスポートします。

```
objectexport -i persistent_input.txt -u map.xml
```

注: 手動で作成された永続入力ファイルを使用する際、エンコードされた ID に対して「なし」を入力しているため、以下のメッセージが表示されます。ID は無効です。[none, folder1, map, mapping, none, 1] の名前を使って試します。

ObjectImport

XML ファイルからオブジェクトをインポートします。このコマンドには、インポートするオブジェクトおよび名前の衝突を解決する方法を指定する制御ファイルが必要です。制御ファイルは、impcntl.dtd ファイルで定義された XML ファイルです。

ObjectImport コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
objectimport
-i <input_xml_file_name>
-c <control_file_name>
[-l <log_file_name>]
[-p (retain persistent value)]
```

以下の表に、*pmrep* ObjectImport のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-i	input_XML_file_name	必須。インポートする XML ファイルの名前。
-c	control_file_name	必須。インポートオプションを定義する制御ファイルの名前。
-l	log_file_name	オプション。エクスポートの実行結果を記録するログファイル。このオプションを省略すると、ステータスメッセージがウィンドウに出力されます。
-p	-	オプション。マッピング変数のパーシステント値を保持します。

注: ObjectImport コマンドは、入力されたフォルダ名がリポジトリに存在しない場合、フォルダを作成しません。

PurgeVersion

リポジトリデータベースからオブジェクトのバージョンをパージします。削除したオブジェクトおよびアクティブオブジェクトのバージョンをパージできます。最新バージョンのオブジェクトがチェックインされてバージョンのステータスが Deleted の場合、そのオブジェクトは削除されたオブジェクトです。その他のオブジェクトはアクティブオブジェクトです。

削除されたオブジェクトのバージョンをパージする場合は、すべてのバージョンをパージします。削除されたオブジェクトはチェックインする必要があります。削除されたすべてのオブジェクトのバージョン、または指定した終了時刻よりも前に削除されたオブジェクトのバージョンをパージできます。終了時刻は、日付と時刻、日付のみ、または現在の日付からの日数で指定できます。

アクティブオブジェクトのバージョンをパージする場合は、パージ基準を指定できます。以前のバージョンを保持およびパージするバージョン数を指定でき、指定したパージカットオフ時刻よりも古いバージョンをパージできます。チェックアウトバージョンまたは最新のチェックインバージョンはパージできません。

複合オブジェクトのバージョンをパージする場合は、パージする依存オブジェクトのバージョンを考慮してください。

-k オプションを使用すると、パージされないオブジェクトと、オブジェクトバージョンがパージされない理由を表示できます。例えば、ユーザーにオブジェクトバージョンをパージする権限がない場合があります。デプロイメントグループの一部であるオブジェクトバージョンはパージできません。

PurgeVersion コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
purgeversion
{-d <all | time_date | num_day> |
{-n <last_n_versions_to_keep> |
-t <time_date | num_day>}}
[-f <folder_name>]
[-q <query_name>]
[-o <output_file_name>]
[-p (preview purged objects only)]
[-b (verbose)]
[-c (check deployment group reference)]
[-s dbd_separator]
[-k (log objects not purged)]
```

以下の表に、*pmrep PurgeVersion* のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-d	all time_date num_day	-n または -t を使用しない場合に必須。チェックインされた削除済みオブジェクトのすべてのバージョンをパージします。削除したすべてのオブジェクトに all を指定するか、または終了時刻を指定すると、終了時刻よりも前に削除されたオブジェクトのすべてのバージョンをパージできます。終了時刻は、MM/DD/YYYY HH24:MI:SS または MM/DD/YYYY の形式、または現在の日付からの日数で指定します。複数の日付を指定する場合、値は 0 より大きい整数である必要があります。
-n	last_n_versions_to_keep	-d または -t を使用しない場合に必須。アクティブオブジェクトに対して保持しておく最新のチェックインオブジェクトバージョンの数。値は 0 より大きい整数である必要があります。たとえば、最後の 6 つのチェックインバージョンを除くすべてのバージョンをパージするには、6 を入力します。オブジェクトがチェックアウトされている場合は、チェックアウトバージョンも保持されません。 注: オブジェクトバージョンをパージした後で、そのオブジェクトバージョンを取得することはできません。過去のバージョンに戻ることができるようにするには、オブジェクトのすべてのバージョンをパージすることを回避します。
-t	purge_cutoff_time	-d または -n を使用しない場合に必須。アクティブオブジェクトのオブジェクトバージョンをパージするためのカットオフ時刻。カットオフ時刻よりも前にチェックインされたバージョンをパージします。カットオフ時刻は、MM/DD/YYYY HH24:MI:SS または MM/DD/YYYY の形式、または現在の日付からの日数で指定できます。複数の日付を指定する場合、値は 0 より大きい整数である必要があります。-t オプションを使用する場合は、パージのカットオフ時刻の後にチェックインされた場合でも最新チェックインバージョンを保持します。
-f	folder_name	オプション。オブジェクトバージョンがパージされるフォルダ。フォルダを指定しない場合、リポジトリのすべてのフォルダからオブジェクトバージョンをパージします。
-q	query_name	オプション。特定のクエリ結果セットからオブジェクトバージョンをパージするために使用するクエリ。 注: -d オプションを使用する場合は、削除されたオブジェクトのすべてのバージョンをパージします。削除されたオブジェクトの最近のバージョンを保持して古いバージョンをパージするには、削除したオブジェクトを返すクエリを定義してから、-n オプション、-t オプション、またはその両方と共に -q オプションを使用できます。
-o	outputfile_name	オプション。パージしたオブジェクトバージョンに関する情報を保存する出力ファイル。
-p	-	オプション。PurgeVersion コマンドをプレビューします。 <i>pmrep</i> は、実際にオブジェクトバージョンをパージしないでパージ結果を表示します。

オプション	引数	説明
-b	-	オプション。Verbose モードでページ情報を表示または保存します。Verbose モードは、リポジトリ名、フォルダ名、バージョン番号、ステータスなど、オブジェクトバージョンに関する詳細情報を示します。-b オプションは、-o オプションおよび -p オプションと共に使用できます。
-c	-	オプション。ページプレビューで返されるオブジェクトバージョンでリポジトリのデプロイメントグループを検索します。ページプレビューにデプロイメントグループのオブジェクトバージョンが含まれる場合、 <i>pmrep</i> は警告を表示します。 -c オプションを -p オプションとともに使用した場合、ページされるオブジェクトと、デプロイメントグループに含まれるオブジェクトバージョンが表示されます。-c オプションを使用し、-p オプションを使用しない場合、デプロイメントグループの一部であるオブジェクトバージョンはページされません。 注: -c オプションはパフォーマンスにマイナスの影響を与える可能性があります。
-s	dbd_separator	オプション。ODBC ソースの名前にピリオド (.) がある場合は、ソースオブジェクトを定義するときに別の区切り文字を定義します。たとえば、ソースオブジェクトを、 <i>database_name.source_name</i> の代わりに、 <i>database_name \source_name</i> として定義し、dbd_separator をバックスラッシュ (\) として定義します。
-k	-	オプション。ページ基準に一致してもページされないオブジェクト名およびバージョンをすべてリストします。-k オプションを使用すると、オブジェクトバージョンがページされない理由も表示されます。例えば、オブジェクトをページするために必要な特権がない場合は、オブジェクトバージョンはページされません。 注: オブジェクトバージョンがデプロイメントグループに属する場合、そのオブジェクトバージョンはページされません。オブジェクトが複数のデプロイメントグループのメンバーである場合、理由には、オブジェクトがページされない原因となった最初のデプロイメントグループが表示されます。

例

以下の例では、リポジトリ内の削除したすべてのオブジェクトのすべてのバージョンをページします。

```
pmrep purgeversion -d all
```

注: 最適なパフォーマンスを得るには、フォルダレベルでページするか、またはページ基準を使用して、ページされるオブジェクトバージョンの数を減らします。すべての削除済みオブジェクトまたはすべての古いバージョンを、リポジトリレベルでページしないようにします。

以下の例では、*folder1* というフォルダの最新チェックインバージョンのオブジェクトを除いた、すべてのバージョンのオブジェクトをページします。

```
pmrep purgeversion -n 1 -f folder1
```

以下の例では、2005 年 1 月 5 日の正午より前にチェックインされたすべてのオブジェクトバージョンをプレビューし、*purge_output.txt* という名前が付けられたファイルに結果を出力します。

```
pmrep purgeversion -t '01/05/2005 12:00:00' -o purge_output.txt -p
```

Register

ローカルリポジトリを接続先のグローバルリポジトリに登録します。ローカルリポジトリに登録する前に、グローバルリポジトリに接続する必要があります。

また、排他モードで、ローカルリポジトリに対してリポジトリサービスを実行する必要があります。Administrator ツールの排他モードでリポジトリサービスを実行するように設定することや、または `infacmd UpdateRepositoryService` コマンドを使用することができます。

コマンドは、「登録が完了しました。」または「登録の実行が失敗しました。」というメッセージを返します。登録解除は以下の理由で失敗することがあります。

- リポジトリサービスに接続できない。
- ローカルリポジトリは、排他モードで実行されない。
- リポジトリサービスがグローバルリポジトリに関する情報の初期化に失敗した。
- リポジトリサービスがグローバルリポジトリへのローカルリポジトリの登録に失敗した。

登録コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
register
-r <local_repository_name>
-n <local_repository_user_name>
[-s <local_repository_user_security_domain>]
[-x <local_repository_password> |
-X <local_repository_password_environment_variable>]
[-d <local_repository_domain_name> |
-h <local_repository_portal_host_name>
-o <local_repository_portal_port_number>]] (if local repository is in a different domain)
```

以下の表に、`pmrep` 登録のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-r	local_repository_name	必須。登録するローカルレジストリの名前。
-n	local_repository_user_name	必須。ローカルユーザー名。
-s	local_repository_user_security_ドメイン	LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-x	local_repository_password	オプション。ローカルデプロイメント先リポジトリのログインパスワード。-x または -X オプションを使用しますが、同時には指定できません。-x と -X オプションのどちらも使用しない場合、 <code>pmrep</code> でパスワードを入力するよう要求するメッセージが表示されます。

オプション	引数	説明
-X	repository_password_environment_variable	オプション。ローカルデプロイメント先リポジトリのログインパスワード環境変数。-x または -X オプションを使用しますが、同時には指定できません。-x と -X オプションのどちらも使用しない場合、 <i>pmrep</i> でパスワードを入力するよう要求するメッセージが表示されます。
-d	local_repository_domain_name	ローカルリポジトリが別のドメインにあり、-h および -o オプションを使用しない場合は必須。リポジトリの Informatica ドメイン名。
-h	local_repository_portal_host_name	ローカルリポジトリが別のドメインにあり、-d を使用しない場合に必須。ローカルリポジトリが存在するドメインのマシン名。このオプションと同時に -o オプションを指定する必要があります。
-o	local_repository_portal_port_number	ローカルリポジトリが別のドメインにあり、-d を使用しない場合に必須。ローカルリポジトリが存在するドメインのポート番号。このオプションと同時に -h オプションを指定する必要があります。

RegisterPlugin

外部プラグインをリポジトリに登録します。プラグインを登録するとリポジトリに機能が追加されます。RegisterPlugin コマンドを使用して既存のプラグインを更新します。

このコマンドを使用する場合、リポジトリサービスを排他モードで実行する必要があります。Administrator ツールの排他モードでリポジトリサービスを実行するように設定することや、または *infacmd* UpdateRepositoryService コマンドを使用することができます。

RegisterPlugin コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
registerplugin
-i <input_registration_file_name_or_path>
[-e (update plug-in)]
[-l <NIS_login>
{-w <NIS_password> |
-W <NIS_password_environment_variable>}
[-k (CRC check on security library)]]
[-N (is native plug-in)]
```


以下の表に、*pmrep* RegisterPlugin のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-i	input_registration_file_name_or - path	必須。プラグイン用登録ファイルの名前またはパス。
-e	-	オプション。既存のプラグインを更新します。認証モジュールでは使用しません。
-l	NIS login	オプション。セキュリティモジュールコンポーネントを登録します。外部セキュリティモジュールを登録するユーザーの NIS ログインを指定します。プラグインに認証モジュールが含まれている場合、外部ログイン名を指定する必要があります。指定しない場合、登録は失敗します。このログインは、リポジトリの Administrator ユーザー名になります。このオプションを他のプラグインに使用しないでください。
-w	NIS password	オプション。認証モジュールコンポーネントを登録する場合に使用します。 モジュールを登録するユーザーの外部ディレクトリパスワード。プラグインに認証モジュールが含まれている場合、外部ディレクトリからユーザーパスワード指定する必要があります。指定しない場合、登録は失敗します。このオプションを他のプラグインに使用しないでください。 -w または -W オプションを使用しますが、同時には指定できません。パスワードまたはパスワード環境変数を指定しない場合、 <i>pmrep</i> によってパスワードが要求されます。
-W	NIS_password_environment_ variable	オプション。認証モジュールコンポーネントを登録する場合に使用します。 モジュールを登録するユーザーの外部ディレクトリパスワード環境変数。プラグインに認証モジュールが含まれている場合、外部ディレクトリからユーザーパスワードを指定する必要があります。指定しない場合、登録は失敗します。このオプションを他のプラグインに使用しないでください。 -w または -W オプションを使用しますが、同時には指定できません。パスワードまたはパスワード環境変数を指定しない場合、 <i>pmrep</i> によってパスワードが要求されます。

オプション	引数	説明
-k	-	オプション。リポジトリにプラグインライブラリの CRC を保管します。モジュールをロードすると、リポジトリサービスはライブラリと CRC を照合してチェックします。
-N	-	<p>プラグインの登録。以下の条件が当てはまる場合に必須。</p> <ul style="list-style-type: none"> - PowerCenter をアップグレードする。 - PowerCenter のアップグレードにリポジトリの新しいバージョンがない。 - プラグインに更新された機能が含まれている。 - プラグインがデフォルトで新しい PowerCenter のインストールに登録される。 <p>アップグレード時に登録する必要があるプラグインに関する情報は、『PowerCenter リリースガイド』を参照してください。</p>

セキュリティモジュールの登録

外部ディレクトリサービスを使用してリポジトリのユーザーおよびパスワードを保持する場合、リポジトリにセキュリティモジュールを登録する必要があります。registerplugin コマンドを使用してセキュリティプラグインを登録します。

例

ユーザー認証用に集中化された LDAP NIS を備えた、組織の PowerCenter を管理しているとします。PowerCenter をアップグレードする場合、ユーザー認証用に LDAP を使用することを決定します。アップグレードによって、リポジトリセキュリティフォルダに LDAP セキュリティモジュールがインストールされます。Connect コマンドでリポジトリに接続した後、管理者は pmrep コマンドを実行し、リポジトリに新しい外部モジュールを登録します。

```
pmrep registerplugin -i security/ldap_authen.xml -l adminuser -w admpass
```

-l のログイン名および -w のログインパスワードオプションには、pmrep コマンドを実行するユーザーの有効な NIS ログイン情報が含まれます。登録後、管理者ユーザーはこのログイン名とパスワードを使用してリポジトリにアクセスする必要があります。

注: ログイン名およびパスワードは外部ディレクトリで有効でなければなりません。それ以外の場合は、管理者は LDAP を使用しているリポジトリにアクセスできません。

-i オプションには、セキュリティモジュールが記述されている XML ファイル名を指定します。

Restore

リポジトリバックアップファイルをデータベースにリストアします。リストア先のデータベースは空である必要があります。

pmrep の Restore コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
restore
```

```
-u <domain_user_name>
```

```

[-s <domain_user_security_domain>]
[-p <domain_password> |
-P <domain_password_environment_variable>]
-i <input_file_name>
[-g (create global repository)]
[-y (enable object versioning)]
[-b (skip workflow and session logs)]
[-j (skip deployment group history)]
[-q (skip MX data)]
[-f (skip task statistics)]
[-a (as new repository)]
[-e (exit if domain name in the binary file is different from current domain name)]

```

以下の表に、*pmrep* Restore のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-u	domain_user_name	必須。ユーザー名。
-s	domain_user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必要です。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトは Native です。
-p	domain_password	オプション。パスワード。-p または -P オプションを使用できますが、同時に使用することはできません。-p と -P オプションのどちらも使用しない場合、 <i>pmrep</i> でパスワードを入力するよう要求するメッセージが表示されます。
-P	domain_password_environment_variable	オプション。パスワード環境変数。-p または -P オプションを使用できますが、同時に使用することはできません。-p と -P オプションのどちらも使用しない場合、 <i>pmrep</i> でパスワードを入力するよう要求するメッセージが表示されます。
-i	input_file_name	必須。リポジトリバックアップファイルの名前。Repository Server に対してローカルなファイル名およびパスを指定します。
-g	-	オプション。リポジトリがグローバルリポジトリに昇格します。
-y	-	オプション。リポジトリオブジェクトのバージョン管理を有効にします。
-b	-	オプション。リストア中にワークフローおよびセッションログに関連付けられたテーブルをスキップします。
-j	-	オプション。リストア中にデプロイメントグループ履歴をスキップします。

オプション	引数	説明
-q	-	オプション。リストア中に MX データに関連するテーブルをスキップします。
-f	-	オプション。リストア中にタスクの統計情報をスキップします。
-a	-	オプション。リストアされたりポジトリ内のフォルダに、新しい内部フォルダ ID を作成します。これによって、ユーザーは元のリポジトリとリストアされたりポジトリとの間でフォルダとデプロイメントグループをコピーすることができます。-a オプションを使用しない場合、元のリポジトリとリストアされたりポジトリとの間にフォルダやデプロイメントグループをコピーできません。
-e	-	オプション。バイナリファイル内のドメイン名が現在のドメイン名と異なる場合に終了します。

例

以下の例では、リポジトリをバージョン管理されたりポジトリとしてリストアし、LDAP セキュリティモジュール登録を保持するために管理者ユーザー名とパスワードを指定しています。

```
restore -u administrator -p password -i repository1_backup.rep -y
```

RollbackDeployment

デプロイメントをロールバックして、デプロイメント先のリポジトリからデプロイメント済みのバージョンを消去します。このコマンドを使用すると、特定の日にデプロイしたデプロイメントグループのすべてのオブジェクトがロールバックされます。

デプロイメントを部分的にロールバックすることはできません。ロールバックするには、ターゲットリポジトリに接続する必要があります。バージョン管理されていないリポジトリからデプロイメントをロールバックすることはできません。

ロールバックを開始するには、各オブジェクトの最新バージョンをロールバックする必要があります。

RollbackDeployment コマンドでは、以下の構文が使用されます。

```
pmrep rollbackdeployment -p <deployment_group_name> -t <nth_latest_deploy_run> -r <repository_name> -v <nth_latest_version_of_deployment_group>
```

以下の表に、*pmrep* RollbackDeployment のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-p	deployment_group_name	必須。ロールバックするデプロイメントグループの名前。
-t	nth_latest_deploy_run	必須。ロールバックしたいデプロイメントのバージョン。

オプション	引数	説明
-r	レポジトリ名	オプション。デプロイメントグループをデプロイするソースリポジトリの名前。
-v	nth_latest_version_of_deploy ment_group	オプション。ロールバックするデプロイメントグループのバージョン。

例

例えば、5つのバージョンを持つデプロイメントがあり、最後の2つのバージョンをロールバックするとします。この場合、最初に最新のデプロイメントをロールバックする必要があります。プロンプトに次のテキストを入力して1度ロールバックして最後のデプロイメントをパーズします。

```
rollbackdeployment -p Deploy_sales -t 1
```

次に、以下のテキストを入力して最後のデプロイメントの次のデプロイメントをロールバックします。

```
rollbackdeployment -p Deploy_sales -t 2
```

Run

複数の *pmrep* コマンドを含むスクリプトファイルを開き、各コマンドを読み込んでそれらを実行します。スクリプトファイルが UTF-8 形式の場合、*-u* オプションを使用してリポジトリコードページを UTF-8 形式にする必要があります。UTF-8 形式のスクリプトファイルを実行する場合、スクリプトファイルに含まれる *connect* コマンドが UTF-8 コードページに対応していないリポジトリに対して実行されると、*run* コマンドは失敗します。

スクリプトファイルが UTF-8 以外の形式の場合、*-u* オプションは省略されます。*-o* オプションおよび *-u* オプションを使用する場合、*pmrep* では UTF-8 で出力ファイルが生成されます。*-o* オプションを使用して *-u* オプションを省略する場合、*pmrep* は自身が動作しているマシンのシステムロケールに基づいて *pmrep* 出力ファイルを生成します。

コマンドは、「run が完了しました。」または「run の実行が失敗しました。」というメッセージを返します。リポジトリサービスがスクリプトファイルまたは出力ファイルを開けなかった場合に、*run* コマンドが失敗することがあります。

Run コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
run
-f <script_file_name>
[-o <output_file_name>]
[-e (echo commands)]
[-s (stop at first error)]
[-u (UTF-8 encoded script file and output file)]
```

以下の表に、*pmrep* 実行オプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-f	script file name	必須。スクリプトファイルの名前。
-o	output file name	オプション。出力ファイルの名前。このオプションは、スクリプトファイルのコマンドによって生成されたメッセージをすべて出力ファイルに書き込みます。-u オプションと-o オプションを使用する場合、 <i>pmrep</i> は UTF-8 形式出力ファイルを生成します。-u オプションを指定しないで-o オプションを使用する場合、 <i>pmrep</i> は自身が動作しているマシンのシステムロケールに基づいて <i>pmrep</i> 出力をエンコードします。
-e	-	オプション。コマンドはスクリプトにエコーバックされます。
-s	-	オプション。最初のエラーが発生したら、スクリプトの実行を停止します。
-u	-	オプション。出力ファイルを UTF-8 形式でエコーされます。-u オプションと-o オプションを使用する場合、 <i>pmrep</i> は UTF-8 形式で出力ファイルをエコーします。リポジトリコードページが UTF-8 形式の場合、このオプションを使用します。

ShowConnectionInfo

現在の接続に対するリポジトリの名前とユーザー情報が返されます。

showconnectioninfo コマンドは対話モードで使用します。対話モードでリポジトリに接続した場合、リポジトリを終了するか、または異なるリポジトリに接続するまで、*pmrep* ではメモリに接続情報が保持されます。

コマンドラインモードで ShowConnectionInfo コマンドを使用した場合、コマンドの実行に失敗したことを示すメッセージが表示されます。*pmrep* では、コマンドラインモードで接続情報が保持されません。

showconnectioninfo コマンドはリポジトリに接続しません。

ShowConnectionInfo コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
showconnectioninfo
```

ShowConnectionInfo コマンドで、以下と同様の情報が返されます。

```
Connected to Repository MyRepository in MyDomain as user MyUserName
```

SwitchConnection

既存の接続名を変更します。switchconnection を使用すると、リポジトリサービスは、指定した接続を使用するすべてのセッションのリレーショナルデータベース接続（下記の一覧参照）を上書きします。

- ソース接続
- ターゲット接続
- ルックアップトランスフォーメーション内の [接続情報] プロパティ

- ストアドプロシージャトランスフォーメーション内の [接続情報] プロパティ
- [\$Source Connection Value] セッションプロパティ
- [\$Target Connection Value] セッションプロパティ

リポジトリに同じ名前のリレーショナル接続およびアプリケーション接続の両方が含まれており、リポジトリのすべての場所で接続タイプをリレーショナルとして指定した場合、リポジトリサービスはリレーショナル接続を上書きします。

例えば、リレーショナルソースとアプリケーションソースがあり、それぞれの名前が ITEMS だとします。セッションで、リレーショナルソース接続として「Relational:ITEMS」ではなく「ITEMS」と指定しました。switchconnection を使用してリレーショナル接続 ITEMS を別のリレーショナル接続で上書きする場合、「ITEMS」と入力されたソース接続の接続タイプを判別できないため、*pmrep* は、リポジトリのいずれの接続も上書きしません。

switchconnection コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
switchconnection
-o <old_connection_name>
-n <new_connection_name>
```

以下の表に、*pmrep* SwitchConnection のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-o	old_connection_name	必須。変更する既存の接続名。
-n	new_connection_name	必須。新しい接続名。

TruncateLog

リポジトリから詳細情報を削除します。すべてのログを削除するか、フォルダまたはワークフローのログを削除することができます。また、日付を入力し、その日付よりも古いログをすべて削除することができます。

コマンドは、「truncateLog が完了しました」または「truncateLog の実行が失敗しました」というメッセージを返します。切り詰め操作は以下の理由で失敗することがあります。

- フォルダ名が無効である。
- ワークフローが指定のフォルダに存在しない。
- ワークフローだけを指定し、フォルダ名を指定しなかった。

TruncateLog コマンドでは、次の構文を使用します。

```
truncateLog
-t <logs_truncated (all or up to end time in MM/DD/YYYY HH24:MI:SS format or as number of days before current date)>
[-f <folder_name>]
[-w <workflow_name>]
```

以下の表に、`pmrep TruncateLog` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-t	logs_truncated	必須。「all」を使用してすべてのログを削除するか、または終了時刻を入力します。 <code>pmrep</code> は、終了時刻よりも古いログをすべて削除します。MM/DD/YYYY HH24:MI:SS 形式で終了時刻を入力するか、現在の日付からの日数を指定します。日数を指定する場合は、終了時刻は 0 より大きい整数である必要があります。
-f	folder_name	オプション。フォルダに関連付けられたログを削除します。フォルダ名およびワークフロー名を両方とも指定しない場合、 <code>pmrep</code> ではすべてのログがリポジトリから削除されます。
-w	workflow_name	オプション。ワークフローに関連付けられたログを削除します。フォルダ名とワークフロー名を両方とも指定しなかった場合、Repository Service は、すべてのログをリポジトリから削除します。フォルダ名とワークフロー名を両方とも入力した場合、Repository Service はワークフローに関連付けられたログを削除します。ワークフロー名を入力した場合は、フォルダ名も指定する必要があります。

UndoCheckout

オブジェクトのチェックアウトを戻します。チェックアウトを取り消すと、リポジトリはオブジェクトの write-intent ロックを解除し、前回チェックインしたオブジェクトのバージョンに戻します。オブジェクトを再度変更する場合は、チェックアウトします。

UndoCheckout コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
undocheckout
```

```
-o <object_type>
```

```
[-t <object_subtype>]
```

```
-n <object_name>
```

```
-f <folder_name>
```

```
[-s dbd_separator]
```

以下の表に、`pmrep UndoCheckout` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-o	object_type	必須。オブジェクトのタイプ。ソース、ターゲット、トランスフォーメーション、マッピング、セッション、ワークレット、ワークフロー、スケジューラ、セッション設定、タスク、キューブ、次元を指定できます。
-t	object_subtype	オプション。トランスフォーメーションまたはタスクのタイプ。他のオブジェクトのタイプの場合は無視されます。有効なサブタイプの詳細については、「 オブジェクトタイプの一覧表示 」 (ページ 1067) を参照してください。

オプション	引数	説明
-n	object_name	必須。チェックアウトされているオブジェクトの名前。
-f	folder_name	必須。オブジェクトが格納されているフォルダー名。
-s	dbd_separator	オプション。ODBC ソースの名前にピリオド (.) がある場合は、ソースオブジェクトを定義するときに別の区切り文字を定義します。たとえば、ソースオブジェクトを、database_name.source_name の代わりに、database_name\source_name として定義し、dbd_separator をバックスラッシュ (\) として定義します。

Unregister

ローカルリポジトリを接続されたグローバルリポジトリから登録解除します。

このコマンドを使用するには、排他モードで、ローカルリポジトリに対してリポジトリサービスを実行する必要があります。Administrator ツールの排他モードでリポジトリサービスを実行するように設定することや、または `infacmd UpdateRepositoryService` コマンドを使用することができます。

コマンドは、「unregister が完了しました。」または「unregister の実行が失敗しました。」メッセージを返します。登録解除は以下の理由で失敗することがあります。

- ローカルリポジトリのリポジトリサービスが排他モードで実行されていない。
- リポジトリサービスがグローバルリポジトリに関する情報の初期化に失敗した。
- リポジトリサービスに接続できない。

unregister コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
unregister
-r <local_repository_name>
-n <local_repository_user_name>
[-s <local_repository_user_security_domain>]
[-x <local_repository_password> |
-X <repository_password_environment_variable>]
[-d <local_repository_domain_name> |
-h <local_repository_portal_host_name>
-o <local_repository_portal_port_number>]] (if local repository is in a different domain)
```

以下の表に、`pmrep Unregister` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-r	local_repository_name	必須。登録解除するローカルレジストリの名前。
-n	local_repository_user_name	必須。ローカルユーザー名。

オプション	引数	説明
-s	local_repository_user_security_domain	LDAP 認証を使用する場合に必須。ユーザーが属しているセキュリティドメインの名前。デフォルトはネイティブです。
-x	local_repository_password	-X オプションを使用しない場合は必須。ローカルデプロイメント先リポジトリのログインパスワード。-x または -X オプションを使用する必要がありますが、同時には指定できません。
-X	local_repository_password_environment_variable	-x オプションを使用しない場合は必須。ローカルデプロイメント先リポジトリのログインパスワード環境変数。-x または -X オプションを使用する必要がありますが、同時には指定できません。
-d	local_repository_domain_name	ローカルリポジトリが別のドメインにあり、-h および -o オプションを使用しない場合は必須。リポジトリの Informatica ドメイン名。
-h	local_repository_portal_host_name	ローカルリポジトリが別のドメインにあり、-d オプションを使用しない場合は必須。ローカルリポジトリの保存先ドメインのマシン名。このオプションと同時に -o オプションを指定する必要があります。
-o	local_repository_portal_port_number	ローカルリポジトリが別のドメインにあり、-d オプションを使用しない場合は必須。ローカルリポジトリの保存先ドメインのポート番号。このオプションと同時に -h オプションを指定する必要があります。

UnregisterPlugin

リポジトリからプラグインを削除します。システム機能を拡張するため、プラグインを追加および削除することができます。プラグインは、新しいリポジトリメタデータを導入するソフトウェアモジュールです。

このコマンドを使用する場合、リポジトリサービスを排他モードで実行する必要があります。Administrator ツールの排他モードでリポジトリサービスを実行するように設定することや、または *infacmd* UpdateRepositoryService コマンドを使用することができます。

UnregisterPlugin コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
unregisterplugin
-v <vendor_id>
-l <plug-in_id>
[-s (is security module)
[-g (remove user-name-login mapping)]
{-w <new_password> |
-W <new_password_environment_variable>}]
```

以下の表に、`pmrep UnregisterPlugin` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-v	vendor_id	必須。ベンダ識別番号でセキュリティプラグインを識別します。この番号はプラグインを登録する際に定義します。
-l	plug-in_id	必須。識別番号でプラグインを識別します。この識別番号はプラグインを登録する際に定義します。
-s	-	オプション。モジュールが外部セキュリティモジュールかどうかを示します。
-g	-	オプション。外部セキュリティモジュールを登録する場合に使用します。 外部セキュリティモジュールを登録解除する場合に、リポジトリのユーザー名とログイン名の関連付けを削除します。このオプションを省略すると、リポジトリに上記の関連付けを保持します。ただし、Repository Manager はこれらをどこにも表示しません。 セキュリティモジュールを登録解除する場合にこのオプションを使用します。
-w	new_password	プラグインがセキュリティモジュールを含む場合に必須。 -W オプションを使用しない場合は必須。-w または -W オプションを使用する必要がありますが、同時には指定できません。 UnregisterPlugin コマンドを実行しているユーザーの新規パスワードを指定します。外部認証モジュールを登録解除する場合、すべてのユーザーパスワードは、リポジトリ内の値にリセットされます。リポジトリにアクセスするために、新規パスワードを指定する必要があります。
-W	new_password_environment_variable	プラグインがセキュリティモジュールを含む場合に必須。 -w オプションを使用しない場合は必須。-w または -W オプションを使用する必要がありますが、同時には指定できません。 unregisterplugin コマンドを実行しているユーザーの新規パスワード環境変数を指定します。外部認証モジュールを登録解除する場合、すべてのユーザーパスワードは、リポジトリ内の値にリセットされます。リポジトリにアクセスするために、新規パスワードを指定する必要があります。

外部セキュリティモジュールの登録解除

`unregisterplugin` コマンドを使用して、リポジトリでの外部セキュリティモジュールの使用を中止します。外部セキュリティモジュールの登録を解除すると、PowerCenter はリポジトリ認証モードに切り替わります。すべてのユーザーパスワードが、外部ディレクトリサービスの値からリポジトリ内の値にリセットされます。セキュリティモジュールを登録解除する場合に `-g` オプションを入力しなければ、ユーザー名と外部セキュリティログイン名のマッピング情報は失われません。新しいセキュリティモジュールを登録すると、マッピング情報を再び利用できます。

注: 外部ログインとユーザー名との関連付けは保存できますが、ユーザー認証に基づいて実行中の外部ログインは表示されません。

セキュリティモジュールを登録解除する場合、`-w` オプションまたは `-W` オプションを使用して新規パスワードを作成する必要があります。

例

管理者として、LDAP セキュリティモジュールからリポジトリ認証に切り替えることを決定したとします。ユーザー名とログイン名のマッピング情報を削除した場合、以下ようになります。リポジトリ認証の管理下でシステムに追加したすべてのユーザーは、以前のユーザー名およびパスワードを使用してログインできます。LDAP セキュリティ下でリポジトリに追加したすべてのユーザーは、ユーザー名を有効にしない限りログインできません。

注: LDAP NIS ログインおよびパスワードを指定して `unregisterplugin` コマンドを使用する必要があります。また、ユーザー認証に切り替えた後に使用する新規パスワードも指定する必要があります。

UpdateConnection

データベース接続のユーザー名、パスワード、接続文字列、属性を更新します。

コマンドは、「updateconnection が完了しました。」または「updateconnection の実行が失敗しました。」というメッセージを返します。以下の理由で失敗が発生することがあります。

- データベースタイプがサポートされていない。
- 接続オブジェクトが存在しない。
- `pmrep` がオブジェクトのロックを取得できない。
- 必要なパラメータの 1 つが欠落している。

UpdateConnection コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
updateconnection
-t <connection_subtype >
-d <connection_name>
[{-u <new_user_name>
[-p <new_password>|-P <new_password_environment_variable>}]
-K <connection_to_the_Kerberos_server>]
[-c <new_connection_string>]
[-a <attribute_name>
-v <new_attribute_value>]
[-s <connection type application, relational, ftp, loader or queue > ]
[-l <code page>]
```

以下の表に、`pmrep UpdateConnection` のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-t	connection_subtype	必須。リレーショナル接続のタイプ。
-d	connection_name	必須。データベース接続名。

オプション	引数	説明
-u	new_user_name	オプション。リレーショナルデータベースに接続するときの認証に使用するユーザー名。
-p	new_password	オプション。リレーショナルデータベースに接続するときの認証に使用するパスワード。-p または -P オプションを使用しますが、同時には指定できません。
-P	new_password_environment_variable	オプション。リレーショナルデータベースに接続するときの認証に使用するパスワード環境変数。-p または -P オプションを使用しますが、同時には指定できません。
-K	connection_to_the_kerberos_server	オプション。接続先のデータベースが、Kerberos 認証を使用するネットワークで実行されることを示します。
-c	new_connection_string	オプション。統合サービスがリレーショナルデータベースへの接続に使用する接続文字列。
-a	attribute_name	オプション。属性の名前。
-v	new_attribute_value	-a オプションを使用する場合に必須です。接続の新規属性の値。新規属性を有効にする場合は「yes」を入力し、無効にする場合は「no」を入力します。
-s	connection type application、relational、ftp、loader、または queue	オプション。接続タイプ。接続は以下のいずれかのタイプにすることができます。 <ul style="list-style-type: none"> - Application - FTP - Loader - Queue - Relational
-l	コードページ	オプション。接続に関連付けられたコードページ。

UpdateEmailAddress

セッションに関連付けられている E-mail タスクとのセッション通知メールアドレスを更新します。成功の E-mail タスクも失敗の E-mail タスクもセッションに入力されていなかった場合、このコマンドはメールアドレスの更新を行いません。更新できるのは、フォルダ内で一意の名前を持つ再利用不可能なセッションのメール通知アドレスです。成功および失敗の通知を受け取るアドレスを別々に指定できます。このコマンドを使用するには、リポジトリに接続する必要があります。

updateemailaddr コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
updateemailaddr
```

```
-d <folder_name>
```

```
-s <session_name>
```

```
-u <success_email_address>
```

-f <failure_email_address>

以下の表に、*pmrep* UpdateEmailAddr のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-d	folder_name	必須。セッションフォルダの名前。
-s	session_name	必須。セッション名。
-u	success_email_address	必須。セッション成功の通知を送信するメールアドレス。
-f	failure_email_address	必須。セッション失敗の通知を送信する電子メールアドレス。

UpdateSeqGenVals

指定したシーケンスジェネレータトランスフォーメーションの以下のプロパティを 1 つ以上更新します。

- 開始値
- 終了値
- 増分
- 現在の値

マッピングを開発環境から本番環境に移動する場合にシーケンス値を更新することができます。updateseqgenvals コマンドを使用して、再利用可能および再利用不可能なシーケンスジェネレータトランスフォーメーションを更新することができます。ただし、再利用可能なシーケンスジェネレータトランスフォーメーションのインスタンスの値、またはシーケンスジェネレータトランスフォーメーションのショートカットの値は更新できません。

UpdateSeqGenVals コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
updateseqgenvals
-f <folder_name>
[-m <mapping_name>]
-t <sequence_generator_name>
[-s <start_value>]
[-e <end_value>]
[-i <increment_by>]
[-c <current_value>]
```

以下の表に、*pmrep* UpdateSeqGenVals のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-f	folder_name	必須。フォルダ名。
-m	mapping_name	マッピング名。再利用不可能なシーケンスジェネレータトランスフォーメーションの値を更新する場合、マッピング名を含める必要があります。
-t	sequence_generator_name	必須。シーケンスジェネレータトランスフォーメーションの名前。
-s	start_value	オプション。シーケンスジェネレータトランスフォーメーションで [Cycle] プロパティを使用する場合に、Integration Service が使用する生成シーケンスの初期値。トランスフォーメーションのプロパティで [Cycle] を選択した場合、Integration Service は終値に達したあとでこの値に戻ります。 無効な値を指定すると、 <i>pmrep</i> は、エラーメッセージを表示し、シーケンスジェネレータトランスフォーメーションを更新しません。
-e	end_value	オプション。Integration Service が生成する最大値。シーケンスのサイクル動作が設定されていないときに Integration Service がセッションの実行中にこの値に達すると、セッションは失敗します。 無効な値を指定すると、 <i>pmrep</i> は、エラーメッセージを表示し、シーケンスジェネレータトランスフォーメーションを更新しません。
-i	increment_by	オプション。NEXTVAL ポートから出力される連続した 2 つの値の差。 無効な値を指定すると、 <i>pmrep</i> は、エラーメッセージを表示し、シーケンスジェネレータトランスフォーメーションを更新しません。
-c	current_value	オプション。シーケンスのカレント値。Integration Service がシーケンスの最初の値として使用する値を入力します。一連の値をサイクルに従って使用する場合は、カレント値は初期値以上、終値未満である必要があります。 無効な値を指定すると、 <i>pmrep</i> は、エラーメッセージを表示し、シーケンスジェネレータトランスフォーメーションを更新しません。

UpdateSrcPrefix

セッションのソーステーブルのオーナー名を更新します。セッション内の 1 つまたはすべてのソースのオーナー名を更新することができます。updatesrcprefix は、セッションレベルでソーステーブルのオーナー名を更新します。

pmrep では、セッションプロパティのソーステーブル名を事前に編集している場合、ソーステーブルのオーナー名が更新されます。

UpdateSrcPrefix コマンドでは、以下の構文を使用します。

updatesrcprefix

-f <folder_name>

-s [<qualifying_path>.]<session_name>

[-t <source_name>]

-p <prefix_name>

[-n (use source instance name; not using -n gives old, deprecated behavior)]

以下の表に、*pmrep* UpdateSrcPrefix のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-f	folder_name	必須。セッションが格納されているフォルダ。
-s	session_name	必須。更新するソースが格納されているセッション名。 再利用可能なセッションの場合、セッション名を入力します。 再利用不可能なセッションの場合、 <i>worklet_name.session_name</i> または <i>workflow_name.session_name</i> など、セッションパスも入力する必要があります。
-t	source_name	オプション。更新するソースの名前。 このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> は、セッション内のすべてのソーステーブルのオーナー名を更新します。 -n オプションを指定する場合には、セッションプロパティに表示されるソースインスタンス名、または <i>ListTablesBySess</i> コマンドで出力されるソースインスタンス名を入力します。 UpdateSrcPrefix コマンドは -n オプションがなくても実行できますが、ソースのインスタンス名を使用するには -n オプションを使用します。 -n オプションを省略する場合、dbd 名およびソーステーブル名を <i>dbd_name.source_name</i> と入力する必要があります。ソース dbd 名は Designer Navigator で検索することができます。 リポジトリにソース定義を作成する場合、Designer はソースタイプまたはデータソース名から dbd 名を生成します。
-p	prefix_name	必須。ソーステーブルで更新するオーナー名。
-n	-	オプション。source_name 引数をソースインスタンス名に一致させます。 UpdateSrcPrefix コマンドは -n オプションがなくても実行できますが、ソースのインスタンス名を使用するには -n オプションを使用します。 このオプションを指定しないと、 <i>pmrep</i> は、source_name 引数とソーステーブル名を比較します。

UpdateStatistics

リポジトリテーブルおよびインデックスの統計を更新します。

コマンドは、「updatestatistics が正常に完了しました。」または「updatestatistics が失敗しました。」というメッセージを返します。

UpdateStatistics コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
updatestatistics
```

UpdateTargPrefix

セッションのターゲットテーブルのテーブル名の接頭語を更新します。テーブル名の接頭語は、データベースのテーブルのオーナーを指定します。セッション内で指定された 1 つまたはすべてのターゲットのオーナー名を更新することができます。UpdateTargPrefix は、セッションレベルでターゲットテーブル名の接頭語を更新します。

pmrep では、セッションレベルで事前にテーブル名のプレフィックスを編集している場合、テーブル名のプレフィックスが更新されます。

UpdateTargPrefix コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
updatetargprefix
```

```
-f <folder_name>
```

```
-s [<qualifying_path>.]<session_name>
```

```
[-t <target_name>]
```

```
-p <prefix_name>
```

```
[-n (use target instance name; not using -n gives old, deprecated behavior)]
```

以下の表に、*pmrep* UpdateTargPrefix のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-f	folder_name	必須。セッションが格納されているフォルダ。
-s	session_name	必須。更新するターゲットが格納されているセッション名。 再利用可能なセッションの場合、セッション名を入力します。 再利用不可能なセッションの場合、 <i>worklet_name.session_name</i> または <i>workflow_name.session_name</i> など、セッションパスを入力します。
-t	target_name	オプション。更新するターゲットの名前。 このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> は、セッション内のすべてのターゲットテーブル名の接頭語を更新します。 -n オプションを指定する場合には、セッションプロパティで表示されるターゲットインスタンス名、または ListTablesBySess コマンドで出力されるターゲットインスタンス名を入力します。 UpdateTargPrefix コマンドは -n オプションがなくても実行できますが、ターゲットのインスタンス名を使用するには -n オプションを使用します。-n オプションを省略する場合には、ターゲットインスタンス名の代わりにターゲットテーブル名を入力する必要があります。

オプション	引数	説明
-p	prefix_name	必須。ターゲットテーブルで更新するテーブル名の接頭語。
-n	-	オプション。ターゲットの引数をターゲットインスタンス名に一致させます。 UpdateTargPrefix コマンドは-n オプションがなくても実行できますが、ターゲットのインスタンス名を使用するには-n オプションを使用します。このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> は、ターゲット名の引数をターゲットテーブル名に一致させます。

Upgrade

リポジトリを最新のバージョンにアップグレードします。

Upgrade コマンドでは、以下の構文を使用します。

`upgrade`

`[-x <repository_password_for_confirmation> |`

`-X <repository_password_environment_variable_for_confirmation>]`

以下の表に、*pmrep* Upgrade のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-x	repository_password_for_confirmation	オプション。パスワード。-x または-X オプションを使用できますが、同時には指定できません。-x と-X オプションのどちらも使用しない場合、 <i>pmrep</i> でパスワードを確認のために入力するよう要求するメッセージが表示されます。
-X	repository_password_environment_variable_for_confirmation	-x オプションを使用しない場合は必須。パスワード環境変数。-x または-X オプションを使用する必要がありますが、同時には指定できません。

UninstallAbapProgram

ABAP プログラムをアンインストールします。プログラムとマッピングとの関連付けが不要になった場合、ABAP プログラムをアンインストールします。UninstallAbapProgram コマンドは、SAP システムから ABAP プログラムをアンインストールし、PowerCenter リポジトリから対応するプログラム情報を削除します。

UninstallAbapProgram コマンドでは、以下の構文を使用します。

`uninstallabaprogram`

`-s <folder_name>`

`-m <mapping_name>`

[-v <version_number>]
 [-l <log_filename>]
 -u <user_name>
 -x <password>
 -c <connect_string>
 -t <client>
 [-y <language>]
 -p <program_mode (file, stream)>

以下の表に、pmrep UninstallAbapProgram のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-s	folder_name	必須。アンインストールする ABAP プログラムのマッピングを含むフォルダーの名前。
-m	mapping_name	必須。マッピングの名前。
-v	version_number	オプション。マッピングのバージョン番号。デフォルトは、最新バージョンです。
-l	log_filename	オプション。情報またはエラーメッセージの記録に使用するログファイルの名前。デフォルトでは、ログファイルはコマンドを実行するディレクトリに格納されます。
-u	user_name	必須。SAP ソースシステム接続のユーザー名。ソースシステム接続の作成対象のユーザーにする必要があります。
-x	パスワード	必須。ユーザー名に対するパスワード。コマンドラインプログラム pmpasswd を使用して、ユーザーパスワードを暗号化します。
-c	connect_string	必須。特定の SAP アプリケーションサーバーへの接続、または SAP 負荷分散を使用する接続のために、sapnwrfc.ini ファイルに定義された DEST エントリ。
-t	client	必須。SAP クライアント番号。
-y	language	オプション。SAP ログオン言語。PowerCenter Client のコードページとの互換性が必要です。デフォルトは、SAP システムの言語です。
-p	program_mode (ファイル、ストリーム)	必須。PowerCenter 統合サービスが SAP システムからデータを抽出するときのモード。ファイルまたはストリームのいずれかを選択します。

例

次の例は、ABAP プログラムをアンインストールします。

```
uninstallabaprogram -s folder_name -m mapping_name -l logfile_name -u user_name -x password -c connect_string -t 800 -y EN -p stream
```

検証

オブジェクトを検証します。結果を永続出力ファイルまたは標準出力に出力できます。

stdout には検証概要も表示されます。要約には、有効なオブジェクト、無効なオブジェクト、およびスキップされたオブジェクトの数が含まれます。パーシステントファイルには、基本情報、エンコードされた ID、および CRC チェックが含まれます。無効から有効に変化するオブジェクトを保存およびチェックインできます。

以下のタイプのオブジェクトを検査することができます。

- マッピング
- マップレット
- セッション
- ワークフロー
- ワークレットオブジェクト

別のタイプのオブジェクトを入力パラメータに使用すると、*pmrep* はエラーを返します。永続入力ファイル内で間違ったタイプのオブジェクトを使用した場合、*pmrep* はエラーを報告し、そのオブジェクトをスキップします。

注: *pmrep* *validate* コマンドでは、ショートカットの検証は行いません。

検証を実行する場合、以下のオブジェクトステータスに関する情報を出力できます。

- **valid**。正常に検証されたオブジェクト。
- **saved**。検証後に保存されたオブジェクト。
- **skipped**。検証が不要なショートカットおよびオブジェクトのタイプ。
- **save_failed**。ロックの競合または別のユーザーによりチェックアウトされたために保存されなかったオブジェクト。
- **invalid_before**。検証の前に無効になっていたオブジェクト。
- **invalid_after**。検証の後に無効になったオブジェクト。

再利用可能な親オブジェクトが保存されていないかぎり、再利用不可能なオブジェクトを保存することはできません。-s オプションを指定すると、検証済みの再利用不可能なオブジェクトは保存されません。ただし、同じコマンド内で、再利用不可能なオブジェクトの親として再利用可能なオブジェクトが指定されている場合はその限りではありません。

validate コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
validate
[{-n <object_name>
-o <object_type (mapplet, mapping, session, worklet, workflow)>
[-v <version_number>]
[-f <folder_name>]} |
-i <persistent_input_file>]
[-s (save upon valid)
[-k (check in upon valid)
[-m <check_in_comments>]]]
[-p <output_option_types (valid, saved, skipped, save_failed, invalid_before, invalid_after, or all)>]
[-u <persistent_output_file_name>]
[-a (append)]
[-c <column_separator>]
[-r <end-of-record_separator>]
[-l <end-of-listing_indicator>]
[-b (verbose)]
[-y (print database type)]
```

以下の表に、*pmrep* Validate のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-n	object_name	必須。検査するオブジェクトの名前。-i 引数を使用している場合はこのオプションを使用しないでください。再利用不可能なセッションを検証する場合は、ワークフロー名を含めます。ワークフロー名とセッション名を以下の形式で入力します。 <ワークフロー名>.<セッションインスタンス名>
-o	object_type	パーシステントファイルを使用しない場合に必要です。検査するオブジェクトのタイプ。マップレット、マッピング、セッション、ワークレット、およびワークフローを指定できます。
-v	version_number	オプション。検査するオブジェクトのバージョン。デフォルトは、オブジェクトの最新またはチェックアウトされているバージョンです。
-f	folder_name	必須。オブジェクトが格納されているフォルダ名。
-i	persistent_input_file	オプション。executequery、validate、listobjectdependencies コマンドで作成されたテキストファイル。オブジェクトレコードのリストを含みます。-n、-o、-f 引数を使用してオブジェクトを指定している場合、このファイルを使用できません。
-s	-	オプション。無効から有効に変更されたオブジェクトをリポジトリに保存します。
-k	-	-s を使用する場合に必要です。保存されたオブジェクト内をチェックします。
-m	check_in_comments	-k オプションを使用する場合に必要です。現在のリポジトリには、チェックインのコメントが必要です。オブジェクトをチェックインする場合にコメントを追加します。
-p	output_option_types	-u 引数を使用する場合は必須です。検査の後にパーシステントファイルまたは標準出力に出力するオブジェクトのタイプ。valid、saved、skipped、save_failed、invalid_before、またはinvalid_after を指定できます。1 つ以上のオプションを入力するには、これらをカンマで区切ります。
-u	persistent_output_file_name	-p 引数を使用する場合は必須です。出力テキストファイルの名前。ファイル名を入力すると、クエリーは結果をファイルに書き込みます。
-a	append	オプション。結果をパーシステントファイルに、上書きせずに追加します。
-c	column_separator	オプション。オブジェクトのメタデータの列を区切るのに使用する文字または文字のセット。 リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを使用します。リポジトリオブジェクト名にスペースが含まれている場合、列区切り文字としてスペースを使わないようにしたい場合があります。 このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> は区切り文字として 1 文字分のスペースを使用します。

オプション	引数	説明
-r	end-of-record_separator	オプション。オブジェクトのメタデータの末尾を示すために使用する文字または文字のセット。 リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを使用します。 デフォルトでは改行 (/n) です。
-l	end-of-listing_indicator	オプション。オブジェクトのリストの末尾を示すために使用する文字または文字のセット。リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを入力します。 このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> はピリオドを使用します。
-b	-	オプション。Verbose。オブジェクトに関する詳細情報を表示します。このオプションを省略すると、 <i>pmrep</i> は短いフォーマットを出力し、オブジェクトのタイプ、再利用可能または再利用不可、オブジェクト名およびパスを表示します。verbose フォーマットではバージョン番号およびフォルダ名も表示されません。 ラベル、クエリー、デプロイメントグループおよび接続などのグローバルオブジェクトを短いフォーマットで表示すると、オブジェクトのタイプおよびオブジェクト名が表示されます。 verbose フォーマットでは、作成者名および作成時刻も表示されます。
-y	-	オプション。ソースおよびターゲットのデータベースタイプを表示します。

バージョン

PowerCenter のバージョン、および Informatica の商標と著作権の情報を表示します。

Version コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
version
```

第 32 章

pmrep ファイルに関する作業

この章では、以下の項目について説明します。

- [pmrep ファイルに関する作業の概要, 1111 ページ](#)
- [永続入力ファイルの使用, 1111 ページ](#)
- [オブジェクトインポート制御ファイルの使用, 1113 ページ](#)
- [オブジェクトインポート制御ファイルの例, 1118 ページ](#)
- [デプロイメント制御ファイルの使用, 1125 ページ](#)
- [デプロイメント制御ファイルの例, 1130 ページ](#)
- [pmrep ファイルに関する作業のためのヒント, 1132 ページ](#)

pmrep ファイルに関する作業の概要

pmrep には、リポジトリにオブジェクトをインポートする方法を定義するときに使用する制御ファイルのセットが含まれています。制御ファイルのパラメータは、PowerCenter クライアントで使用する制御ファイルと同じパラメータを使用します。次の制御ファイルを使用することができます。

- **永続入力ファイル。** 永続入力ファイルを使用して、処理を行うリポジトリオブジェクトを指定します。
- **オブジェクトインポート制御ファイル。** オブジェクトインポート制御ファイルを使用して、オブジェクトのインポート方法の定義を支援する一連の質問を指定します。
- **デプロイメント制御ファイル。** 動的または静的デプロイメントグループのオブジェクトを、ターゲットリポジトリ内の複数のターゲットフォルダにコピーすることができます。

永続入力ファイルの使用

pmrep で複数のタスクを実行するときに、処理したいリポジトリオブジェクト（群）をパーシステントファイルによって指定することができます。パーシステントファイルには、既にリポジトリに格納されているオブジェクト（群）を指定するための情報が含まれています。パーシステントファイルは、手動または *pmrep* を使用して作成できます。

パーシステントファイルは次の *pmrep* コマンドと共に使用します。

- **AddToDeploymentGroup。** オブジェクトをデプロイメントグループに追加します。
- **ApplyLabel。** オブジェクトにラベルを付けます。

- **ExecuteQuery**。クエリを実行して、永続入力ファイルを作成します。ファイルは、他の *pmrep* コマンドに使用します。
- **ListObjectDependencies**。依存オブジェクトを一覧表示します。このコマンドでは、パーシステントファイルを入力として処理に使用できます。また、パーシステントファイルを出力として作成できます。
- **MassUpdate**。一連のセッションに対するセッションのプロパティを更新します。
- **ObjectExport**。XML ファイルにオブジェクトをエクスポートします。
- **Validate**。オブジェクトを検査します。このコマンドでは、パーシステントファイルを入力として処理に使用できます。また、パーシステントファイルを出力として作成できます。

パーシステントファイルの形式は次のとおりです。

encoded ID, foldername, object_name, object_type, object_subtype, version_number, reusable|non-reusable

pmrep での永続入力ファイルの作成

pmrep の `executequery`、`validate`、または `listobjectdependencies` コマンドを使用してパーシステントファイルを作成できます。これらのコマンドは、エンコードされた ID と Cyclic Redundancy Checking (CRC) の値 VALUE と共に、一連のオブジェクト情報を含むファイルを作成します。また、このファイルには暗号化されたリポジトリの ID も含まれています。この ID は、レコードの出所であるリポジトリを識別します。

パーシステントファイルを使用する *pmrep* コマンドは、エンコードされた ID からオブジェクト情報を取得します。エンコードされた ID によって、*pmrep* は入力ファイルを迅速に処理できます。

pmrep では、*pmrep* のインストールディレクトリにパーシステントファイルが作成されます。別のパスも指定できます。

以下のテキストに、永続入力ファイルの例を示します。

```
2072670638:57bfc2ff-df64-40fc-9cd4-
a15cb489bab8:3538944199885:138608640183285:1376256153425:131072168215:65536142655:0288235:088154:65536122855,EX
PORT,M_ITEMS,mapping,none,2
1995857227:57bfc2ff-df64-40fc-9cd4-
a15cb489bab8:3538944135065:13867417666804:1376256233835:19660880104:65536271545:0319425:017154:6553644164,EXPOR
T,M_ITEMS_2,mapping,none,3
1828891977:57bfc2ff-df64-40fc-9cd4-
a15cb489bab8:3538944279765:138739712184505:137625613474:65536221345:65536133675:091734:09053:65536156675,EXPORT
,M_NIELSEN,mapping,none,1
3267622055:57bfc2ff-df64-40fc-9cd4-
a15cb489bab8:353894462954:138805248300075:1376256151365:6553675414:65536174015:0273455:0241435:65536261685,EXPOR
T,M_OS1,mapping,none,1
```

例

`executequery` コマンドを使用してオブジェクトのパーシステントファイルを作成します。このファイルは、他の *pmrep* コマンドで使用できます。例えば、リポジトリから論理的に削除されたすべてのオブジェクトをエクスポートします。これには、「`find_deleted_objects`」というクエリを作成します。このクエリを *pmrep* で実行すると、リポジトリにある削除されたオブジェクトすべてが検出され、パーシステントファイルに結果が出力されます。

```
ExecuteQuery -q find_deleted_objects -t private -u deletes_workfile
```

次に、`deletes_workfile` を `objectexport` のパーシステントファイルとして使用します。

```
ObjectExport -i deletes_workfile -u exported_del_file
```

`objectexport` は、すべての参照先オブジェクトを `exported_del_file` という XML ファイルにエクスポートします。

手動での永続入力ファイルの作成

ExecuteQuery などのコマンドで特定できないオブジェクトのセットに対して *pmrep* コマンドを実行する場合、手動で入力ファイルを作成することができます。

永続入力ファイルを作成する際には、以下のルールおよびガイドラインを使用します。

- エンコードされた ID に対して「なし」を入力する。 *pmrep* コマンドによってレコード内の他の引数からオブジェクト情報が取得されます。
- ソースオブジェクトについては、オブジェクト名を<DBD_name>.<source_name>として入力する。
- *sub_type* がないマッピングなどのオブジェクトについては、*object_subtype* として「なし」を入力するか、空白にします。有効なトランスフォーメーションタイプとタスクタイプの詳細については、[「オブジェクトタイプの一覧表示」 \(ページ 1067\)](#)を参照してください。
- バージョン管理されたリポジトリについては、オブジェクトのバージョン番号を入力するか、オブジェクトの最新バージョンを使用する場合は「LATEST」を入力します。
- バージョン管理されていないリポジトリについては、引数 *version_number* を空白にします。
- 再利用可能でない、または再利用不可能のターゲットなどのオブジェクトタイプについては、引数を削除します。
- 再利用不可能のオブジェクトを含めることはできません。再利用不可能のオブジェクトの再利用可能な親を指定できます。

例えば、再利用不可能なフィルタトランスフォーメーションのオブジェクトの依存関係を一覧表示します。このトランスフォーメーションの親オブジェクトであるマッピングを指定できます。

```
none,CAPO,m_seqgen_map,mapping,none,1,reusable
```

マッピング *m_seqgen_map* は、フィルタトランスフォーメーションの再利用可能な親です。再利用可能な親を指定した場合、コマンドは正常に実行されます。

注: 手動で作成された永続入力ファイルを使用する際、リポジトリサービスからその ID が有効でないことを示すメッセージが返されます。これは情報メッセージです。リポジトリサービスでは、これが手動で作成された入力ファイルであることが認識され、ID として「なし」を指定してコマンドを処理することができます。

例

以下の例は、手動で作成された永続入力ファイルを示します。

```
none,EXPORT,CustTgt,target,none,2
none,EXPORT,S_Orders,session,,2,reusable
none,EXPORT,EXP_CalcTot,transformation,expression,LATEST,reusable
```

最初のレコードの *CustTgt* はターゲット定義です。ターゲットにサブタイプがないため、*object_subtype* 引数に「なし」を入力します。ターゲットには再利用可能または再利用不可能を指定できないため、再利用可能引数は削除します。このレコードの引数は 7 個ではなく 6 個です。

2 つ目のレコードの *S_Orders* はセッションです。セッションにサブタイプがないため、この引数は空白にします。

3 つ目のレコードでは、最新バージョンのトランスフォーメーションを使用するために、*version_number* 引数に「LATEST」を入力します。

オブジェクトインポート制御ファイルの使用

pmrep *ObjectImport* コマンドを使用すると、通常インポートウィザードでオブジェクトをインポートするときに回答している質問に対して、制御ファイルを使用して回答することができます。制御ファイルを作成する

には、impcntl.dtd で定義されている XML ファイルを作成する必要があります。インポート制御ファイルは PowerCenter クライアントにインストールされますが、この制御ファイルの場所を入力する XML ファイルに組み込む必要があります。

impcntl.dtd ファイルの例を次に示します（以下ではコメント部分が翻訳されていますが、実際のファイルは英語表記になっています）。

```
<!-- Informatica Object Import Control DTD Grammar - >

<!--IMPORTPARAMS This inputs the options and inputs required for import operation -->
<!--CHECKIN_AFTER_IMPORT Check in objects on successful import operation -->
<!--CHECKIN_COMMENTS Check in comments -->
<!--APPLY_LABEL_NAME Apply the given label name on imported objects -->
<!--RETAIN_GENERATED_VALUE Retain existing sequence generator, normalizer and XML DSQ current values in the
destination -->
<!--COPY_SAP_PROGRAM Copy SAP program information into the target repository -->
<!--APPLY_DEFAULT_CONNECTION Apply the default connection when a connection used by a session does not exist
in the target repository -->
<!ELEMENT IMPORTPARAMS (FOLDERMAP*, TYPEFILTER*, RESOLVECONFLICT?)>
<!ATTLIST IMPORTPARAMS
    CHECKIN_AFTER_IMPORT          CDATA          #IMPLIED          (YES | NO) "NO"
    CHECKIN_COMMENTS             CDATA          #IMPLIED
    APPLY_LABEL_NAME             CDATA          #IMPLIED
    RETAIN_GENERATED_VALUE       (YES | NO)    "NO"
    COPY_SAP_PROGRAM             (YES | NO)    "YES"
    APPLY_DEFAULT_CONNECTION     (YES | NO)    "NO"
>

<!--FOLDERMAP matches the folders in the imported file with the folders in the target repository -->
<!ELEMENT FOLDERMAP EMPTY>
<!ATTLIST FOLDERMAP
    SOURCEFOLDERNAME             CDATA          #REQUIRED
    SOURCEREPOSITORYNAME        CDATA          #REQUIRED
    TARGETFOLDERNAME             CDATA          #REQUIRED
    TARGETREPOSITORYNAME        CDATA          #REQUIRED
>

<!--Import will only import the objects in the selected types in TYPEFILTER node -->
<!--TYPENAME type name to import. This should conforming to the element name in powermart.dtd, e.g. SOURCE,
TARGET and etc.-->
<!ELEMENT TYPEFILTER EMPTY>
<!ATTLIST TYPEFILTER
    TYPENAME                     CDATA          #REQUIRED
>

<!--RESOLVECONFLICT allows to specify resolution for conflicting objects during import. The combination of
specified child nodes can be supplied -->
<!ELEMENT RESOLVECONFLICT (LABELOBJECT | QUERYOBJECT | TYPEOBJECT | SPECIFICOBJECT)*>

<!--LABELOBJECT allows objects in the target with label name to apply replace/reuse upon conflict -->
<!ELEMENT LABELOBJECT EMPTY>
<!ATTLIST LABELOBJECT
    LABELNAME                    CDATA          #REQUIRED
    RESOLUTION                   (REPLACE | REUSE | RENAME) #REQUIRED
>

<!--QUERYOBJECT allows objects result from a query to apply replace/reuse upon conflict -->
<!ELEMENT QUERYOBJECT EMPTY>
<!ATTLIST QUERYOBJECT
    QUERYNAME                    CDATA          #REQUIRED
    RESOLUTION                   (REPLACE | REUSE | RENAME) #REQUIRED
>

<!--TYPEOBJECT allows objects of certain type to apply replace/reuse upon conflict-->
<!ELEMENT TYPEOBJECT EMPTY>
<!ATTLIST TYPEOBJECT
    OBJECTTYPENAME              CDATA          #REQUIRED
    RESOLUTION                   (REPLACE | REUSE | RENAME) #REQUIRED
>

<!--SPECIFICOBJECT allows a particular object(name, typename etc.) to apply replace/reuse upon conflict -->
```

```

<!--NAME Object name-->
<!--EXTRNAME Source DBD name - required for source object to identify uniquely-->
<!--OBJECTYPENAME Object type name-->
<!--FOLDERNAME Folder which the object belongs to-->
<!--REPOSITORYNAME Repository name that this object belongs to-->
<!--RESOLUTION Resolution to apply for the object in case of conflict-->
<!ELEMENT SPECIFICOBJECT EMPTY>
<!ATTLIST SPECIFICOBJECT
    NAME          CDATA      #REQUIRED
    DBDNAME       CDATA      #IMPLIED
    OBJECTYPENAME CDATA      #REQUIRED
    FOLDERNAME    CDATA      #REQUIRED
    REPOSITORYNAME CDATA      #REQUIRED
    RESOLUTION
    RENAME)      #REQUIRED>

```

(REPLACE | REUSE |

オブジェクトインポート制御ファイルのパラメータ

以下の表に、*pmrep* のオブジェクトインポート制御ファイルのパラメータを一覧表示します。

エレメント	属性名	属性の説明
IMPORTPARAMS	CHECKIN_AFTER_IMPORT	バージョンングが有効な場合に必須。正常にインポートされた場合にオブジェクト内をチェックします。
IMPORTPARAMS	CHECKIN_COMMENTS	オプション。チェックインしたオブジェクトにコメントを追加します。
IMPORTPARAMS	APPLY_LABEL_NAME	オプション。インポートしたオブジェクトにラベル名を付与します。
IMPORTPARAMS	RETAIN_GENERATED_VALUE	シーケンスジェネレータ、ノーマライザ、XML ソース修飾子の各トランスフォーメーションを使用する場合に必須。インポート先の既存のシーケンスジェネレータ、ノーマライザ、および XML DSQ のカレント値を保持します。
IMPORTPARAMS	COPY_SAP_PROGRAM	オプション。SAP プログラム情報をインポート先リポジトリにコピーします。
IMPORTPARAMS	APPLY_DEFAULT_CONNECTION	オプション。セッションが使用する接続がターゲットリポジトリに存在しない場合、デフォルトの接続を適用します。デフォルトの接続は、利用できる接続をソートしたリストにある最初の接続です。Workflow Manager で接続のリストを検索します。
FOLDERMAP	SOURCEFOLDERNAME	必須。インポート先リポジトリのフォルダと照合するインポートフォルダ名。

エレメント	属性名	属性の説明
FOLDERMAP	SOURCEREPOSITORYNAME	必須。インポート元フォルダが格納されているリポジトリ。
FOLDERMAP	TARGETFOLDERNAME	必須。照合するインポート先フォルダ名。
FOLDERMAP	TARGETREPOSITORYNAME	必須。インポート先フォルダが格納されているリポジトリ。
TYPEFILTER	TYPENAME	オプション。ソース、ターゲット、マッピングなど、特定のノードのオブジェクトをインポートします。
RESOLVECONFLICT	LABELOBJECT、QUERYOBJECT、TYPEOBJECT、SPECIFICOBJECT の要素。	オブジェクト競合の解決策を指定できます。
LABELOBJECT	LABELNAME	必須。ラベル名によってオブジェクトを識別し、競合の解決策を指定します。
LABELOBJECT	RESOLUTION	必須。上書き、再利用、名前の変更。
QUERYOBJECT	QUERYNAME	必須。このクエリによりオブジェクトを識別し、競合の解決策を指定します。
QUERYOBJECT	RESOLUTION	必須。上書き、再利用または名前の変更。
TYPEOBJECT	OBJECTTYPENAME	必須。この競合解決策のオブジェクトのタイプ。オブジェクトタイプのリストについては、「 オブジェクトインポート制御ファイルのパラメータ 」(ページ 1115)を参照してください。
TYPEOBJECT	RESOLUTION	必須。上書き、再利用または名前の変更。
SPECIFICOBJECT	NAME	必須。この競合解決策を用いる特定のオブジェクト名。
SPECIFICOBJECT	DBDNAME	オプション。インポート元 DBD。インポート元オブジェクトを識別します。
SPECIFICOBJECT	OBJECTTYPENAME	必須。この競合解決策のオブジェクトのタイプ。オブジェクトタイプのリストについては、「 オブジェクトインポート制御ファイルのパラメータ 」(ページ 1115)を参照してください。

エレメント	属性名	属性の説明
SPECIFICOBJECT	FOLDERNAME	必須。オブジェクトが格納されているインポート元フォルダ。
SPECIFICOBJECT	REPOSITORYNAME	必須。オブジェクトが格納されているソースリポジトリ。
SPECIFICOBJECT	RESOLUTION	必須。上書き、再利用または名前の変更。

OBJECTTYPE_NAME 属性の、次のオブジェクトタイプを使用できます。

- すべて
- アグリゲータ
- アプリケーションマルチグループソース修飾子
- アプリケーションソース修飾子
- 割付
- コマンド
- コントロール
- カスタムトランスフォーメーション
- ディシジョン
- 電子メール
- イベントレイズ
- イベントウェイト
- Expression
- エクスターナルプロシージャ
- Filter
- 入力トランスフォーメーション
- ジョイナ
- ルックアッププロシージャ
- Mapping
- マップレット
- MQ ソース修飾子
- ノーマライザ
- 出力トランスフォーメーション
- ランク
- ルータ
- Scheduler
- Session
- シーケンス
- SessionConfig

- ソータ
- Source Definition
- Source Qualifier
- 開始
- Target Definition
- Timer
- トランザクションコントロール
- アップデートストラテジ
- ユーザー定義関数
- ワークフロー
- ワークレット
- XML ソース修飾子

注: すべてのオブジェクトを再利用または置き換えるには、オブジェクトタイプ「All」を使用します。

オブジェクトインポート制御ファイルの例

制御ファイルコードで指定するパラメータによって、*pmrep* で ObjectImport コマンドを実行する際に発生するアクションが決定されます。以下の例では、objectimport コマンドを制御ファイルと共に使用して、リポジトリオブジェクトをインポートする場合の事例について示します。要素および属性の名前は、記述されたタスクを実行するのに重要です。コードにコメントと共に指定されます。

以下の表に、オブジェクトインポート制御ファイルの例の説明を示します。

機能	説明
ソースオブジェクトのインポート。	TYPEFILTER エlementを使用して、ソースオブジェクトのみをインポートします。
1つのフォルダへの複数のオブジェクトのインポート。	IMPORTPARAMS Elementおよび FOLDERMAP Elementを使用して、複数のオブジェクトをインポートします。
インポートされたオブジェクトのチェックインおよびラベル付け。	IMPORTPARAMS Elementの CHECKIN_AFTER_IMPORT 属性と APPLY_LABEL_NAME 属性を使用して、インポートしたオブジェクトにラベルを付けます。
シーケンスジェネレータおよびノーマライザトランスフォーメーションの値の保持。	IMPORTPARAMS Elementの RETAIN_GENERATED_VALUE 属性を使用して、オブジェクトをインポートする際にシーケンスジェネレータとノーマライザの値を保持します。
同一のリポジトリへのオブジェクトとローカルのショートカットオブジェクトのインポート。	FOLDERMAP Elementの全属性を使用して、オブジェクトと、そのオブジェクトを参照しているローカルのショートカットオブジェクトをインポートします。
別のリポジトリからのショートカットオブジェクトのインポート。	FOLDERMAP Elementの全属性を使用して、別のリポジトリからショートカットオブジェクトをインポートします。

機能	説明
複数フォルダへのオブジェクトのインポート。	FOLDERMAP エLEMENTの全属性を使用して、オブジェクトを複数のフォルダにインポートします。
特定のオブジェクトのインポート。	TYPEFILTER エLEMENTを使用して、特定のオブジェクトをインポートします。
依存オブジェクトの再利用および置き換え。	TYPEOBJECT エLEMENTの OBJECTTYPENAME 属性と RESOLUTION 属性を使用して、依存オブジェクトの再利用および置き換えを行います。
無効になるマッピングの置き換え。	QUERYOBJECT エLEMENTを使用して、無効になるマッピングを置き換えます。
オブジェクトの名前の変更。	SPECIFICOBJECT エLEMENTの RESOLUTION 属性を使用して、オブジェクトの名前を変更します。
SAP マッピングと SAP プログラム情報のコピー。	IMPORTPARAMS エLEMENTの COPY_SAP_PROGRAM 属性を使用して、SAP マッピングと SAP プログラム情報をコピーします。
デフォルトの接続属性の適用。	IMPORTPARAMS エLEMENTの APPLY_DEFAULT_CONNECTION 属性を使用して、デフォルトの接続属性を適用します。
オブジェクト競合の解決。	RESOLVECONFLICT エLEMENTを使用して、オブジェクトの競合を解決します。

ソースオブジェクトのインポート

ソースオブジェクトをインポートすることができます。例えば、インポート先フォルダで「Monthend」ラベルが適用されたすべての重複するオブジェクトを上書きします。ただし、オブジェクト名に「Yr_End」が含まれている競合するソースオブジェクトの名前は変更します。これらのオブジェクトを検出する「yr_end_qry」というクエリがあります。

次の引数を使用して、制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<!DOCTYPE IMPORTPARAMS SYSTEM "impcntl.dtd">
<IMPORTPARAMS CHECKIN_AFTER_IMPORT ="NO">
<FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME ="OLD_ACCOUNTING"
SOURCEREPOSITORYNAME ="OLD_REPOS"
TARGETFOLDERNAME ="NEW_ACCOUNTING"
TARGETREPOSITORYNAME ="NEW_REPOS"/>

<!-- use the TYPEFILTER element to import only source objects -->
<TYPEFILTER TYPENAME ="SOURCE"/>
<RESOLVECONFLICT>
<LABELOBJECT LABELNAME ="Monthend"
RESOLUTION = "REPLACE"/>
<QUERYOBJECT QUERYNAME ="yr_end_qry"
RESOLUTION ="RENAME"/>
</RESOLVECONFLICT>
</IMPORTPARAMS>
```

複数のオブジェクトの1つのフォルダへのインポート

複数のオブジェクトを1つのフォルダにインポート、チェックイン、ラベルの適用ができます。例えば、SRC_F1 フォルダにオブジェクトをインポートし、そのオブジェクトにラベル LABEL_IMPORT_NEW を適用します。

次の引数を使用して、制御ファイルを作成します。

```
<xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>
<!DOCTYPE IMPORTPARAMS SYSTEM "impcntl.dtd">
<!--apply label name LABEL_IMPORT_NEW to imported objects-->
<IMPORTPARAMS CHECKIN_AFTER_IMPORT="YES" CHECKIN_COMMENTS="NEWOBJECTS" APPLY_LABEL_NAME="LABEL_IMPORT_NEW">
<FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="SRC_F1" SOURCEREPOSITORYNAME="SRC_REPO1" TARGETFOLDERNAME="TGT_F1"
TARGETREPOSITORYNAME="TGT_REPO1"/>
</IMPORTPARAMS>
```

インポートされたオブジェクトのチェックインおよびラベルの適用

1つのフォルダにオブジェクトをインポートし、チェックイン、ラベルの適用、さらにセッション設定オブジェクト間の競合を解決できます。例えば、SRC_F1 フォルダのオブジェクトをエクスポートして、それを TGT_F1 フォルダにインポートします。リポジトリサービスでは、デフォルトでインポート先フォルダにセッション設定を作成します。APPLY_LABEL_NAME 属性を IMPORTPARAMS 要素に組み込むと、インポートされたオブジェクトにラベルが適用され、RESOLVECONFLICT 要素を制御ファイルに使用すると、競合が解決されます。

次の引数を使用して、制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>

<!DOCTYPE IMPORTPARAMS SYSTEM "impcntl.dtd">
<!--enter VERSION1 as the comment for the object you check in-->
<!--apply label name LABEL_IMPORT_NEW to imported objects-->

<IMPORTPARAMS CHECKIN_AFTER_IMPORT="YES" CHECKIN_COMMENTS="VERSION1" APPLY_LABEL_NAME="LABEL_IMPORT_NEW">
<FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="SRC_F1" SOURCEREPOSITORYNAME="SRC_REPO1" TARGETFOLDERNAME="TGT_F1"
TARGETREPOSITORYNAME="TGT_REPO1"/>
<RESOLVECONFLICT>
<TYPEOBJECT OBJECTTYPE="SessionConfig" RESOLUTION="REUSE"/>
</RESOLVECONFLICT>
</IMPORTPARAMS>
```

シーケンスジェネレータおよびノーマライザの値の保持

オブジェクトをインポートし、インポート先フォルダのすべてのオブジェクトを上書きする場合、シーケンスジェネレータの値とノーマライザトランスフォーメーションの値を保持できます。

次の引数を使用して、制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>

<!DOCTYPE IMPORTPARAMS SYSTEM "impcntl.dtd">
<!--enter YES as the value for the RETAIN_GENERATED_VALUE attribute -->
<IMPORTPARAMS CHECKIN_AFTER_IMPORT="YES" CHECKIN_COMMENTS="VERSION1" APPLY_LABEL_NAME="LABEL_IMPORT_NEW"
RETAIN_GENERATED_VALUE="YES">w
<FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="SRC_F1" SOURCEREPOSITORYNAME="SRC_REPO1" TARGETFOLDERNAME="TGT_F1"
TARGETREPOSITORYNAME="TGT_REPO1"/>
<RESOLVECONFLICT>
<TYPEOBJECT OBJECTTYPE="ALL" RESOLUTION="REPLACE"/>
</RESOLVECONFLICT>
</IMPORTPARAMS>
```

オブジェクトおよびローカルショートカットオブジェクトの同一リポジトリへのインポート

オブジェクトをそれぞれのローカルショートカットオブジェクトと、同一リポジトリにインポートすることができます。例えば、SRC_SHARED_F1 および SRC_NONSHARED_F1 という名前のフォルダを使用しています。SRC_NONSHARED_F1 フォルダは共有ではなく、SRC_SHARED_F1 フォルダのオブジェクトを参照するローカルショートカットオブジェクトが格納されています。インポート先リポジトリの別のフォルダにオブジェク

トをインポートし、TGT_NONSHARED_F1 フォルダ内のショートカットオブジェクトが TGT_SHARED_F1 内のオブジェクトを参照するようにします。

次の引数を使用して、制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>

<!DOCTYPE IMPORTPARAMS SYSTEM "impcntl.dtd">
<IMPORTPARAMS CHECKIN_AFTER_IMPORT="NO">

<!-- import objects from SRC_SHARED_F1 to TGT_SHARED_F1, and shortcut objects from SRC_NONSHARED_F1 to
TGT_NONSHARED_F1-->
<FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="SRC_SHARED_F1" SOURCEREPOSITORYNAME="SRC_REPO1" TARGETFOLDERNAME="TGT_SHARED_F1"
TARGETREPOSITORYNAME="TGT_REPO1"/>
<FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="SRC_NONSHARED_F1" SOURCEREPOSITORYNAME="SRC_REPO1"
TARGETFOLDERNAME="TGT_NONSHARED_F1" TARGETREPOSITORYNAME="TGT_REPO1"/>
</IMPORTPARAMS>
```

別のリポジトリからのショートカットオブジェクトのインポート

他のリポジトリからオブジェクトをインポートすることができます。例えば、ローカルリポジトリのフォルダに、グローバルリポジトリのオブジェクトへのショートカットが格納されています。グローバルショートカットオブジェクトを、グローバルリポジトリに登録されているリポジトリにインポートし、グローバルリポジトリ内でインポート元オブジェクトのショートカットを維持するとします。

次の引数を使用して、制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>
<!DOCTYPE IMPORTPARAMS SYSTEM "impcntl.dtd">
<IMPORTPARAMS CHECKIN_AFTER_IMPORT="YES" CHECKIN_COMMENTS="global objects"
APPLY_LABEL_NAME="LABEL_IMPORT_GLOBAL_SHORTCUT">

<!--import the shortcut objects from source folder SRC_SHARED_F1 in source repository SRC_GDR_REPO1 to source
folder SRC_SHARED_F1 in target repository SRC_GDR_REPO2 -->

<FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="SRC_SHARED_F1" SOURCEREPOSITORYNAME="SRC_GDR_REPO1"
TARGETFOLDERNAME="SRC_SHARED_F1" TARGETREPOSITORYNAME="SRC_GDR_REPO2"/>
<FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="SRC_NONSHARED_F1" SOURCEREPOSITORYNAME="SRC_LDR_REPO1"
TARGETFOLDERNAME="TGT_NONSHARED_F1" TARGETREPOSITORYNAME="SRC_LDR_REPO2"/>
</IMPORTPARAMS>
```

複数のフォルダへのオブジェクトのインポート

複数のフォルダからエクスポートされたオブジェクトを、複数のフォルダにインポートできます。例えば、フォルダ SRC_F1、SRC_F2 および SRC_F3 からエクスポートされたオブジェクトを、リポジトリ TGT_REPO1 内のターゲットフォルダ TGT_F1、TGT_F2 および TGT_F3 にインポートします。

次の引数を使用して、制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>

<!DOCTYPE IMPORTPARAMS SYSTEM "impcntl.dtd">
<IMPORTPARAMS CHECKIN_AFTER_IMPORT="YES" CHECKIN_COMMENTS="mulfolders" APPLY_LABEL_NAME="L1">

<!-- import objects from source folders SRC_F1, SRC_F2, and SRC_F3 to target folders TGT_F1, TGT_F2, and
TGT_F3 in repository TGT_REPO1 -->
<FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="SRC_F1" SOURCEREPOSITORYNAME="SRC_REPO1" TARGETFOLDERNAME="TGT_F1"
TARGETREPOSITORYNAME="TGT_REPO1"/>
<FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="SRC_F2" SOURCEREPOSITORYNAME="SRC_REPO2" TARGETFOLDERNAME="TGT_F2"
TARGETREPOSITORYNAME="TGT_REPO1"/>
<FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="SRC_F3" SOURCEREPOSITORYNAME="SRC_REPO3" TARGETFOLDERNAME="TGT_F3"
TARGETREPOSITORYNAME="TGT_REPO1"/>
<RESOLVECONFLICT>
<TYPEOBJECT OBJECTTYPENAME = "SESSIONCONFIG" RESOLUTION="REUSE"/>
</RESOLVECONFLICT>

</IMPORTPARAMS>
```

特定のオブジェクトのインポート

インポートするオブジェクトを選択することができます。例えば、複数のオブジェクトタイプを1つのXMLファイルにエクスポートしたとします。マッピングと、それぞれのソースとターゲットのみ1つのフォルダにインポートします。

次の引数を使用して、制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>

<!DOCTYPE IMPORTPARAMS SYSTEM "impcntl.dtd">
<IMPORTPARAMS CHECKIN_AFTER_IMPORT="YES" CHECKIN_COMMENTS="PMREP_IMPORT_TYPEFILTER"
APPLY_LABEL_NAME="LABEL_MAPPING_TYPEFILTER">
<FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="SRC_F1" SOURCEREPOSITORYNAME="REPO_EX_1" TARGETFOLDERNAME="TGT_F1"
TARGETREPOSITORYNAME="REPO_EX1"/>

<!-- use the TYPENAME attribute to import only mappings -->
<TYPEFILTER TYPENAME="MAPPING"/>
</IMPORTPARAMS>
```

依存オブジェクトの再利用および上書き

セッションのインポート、マッピングの上書き、ターゲットフォルダ内での既存のソースとターゲットの再利用を行うことができます。例えば、マッピングを上書きし、ソース定義とターゲット定義およびセッション設定オブジェクトを再利用します。

次の引数を使用して、制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>
<!DOCTYPE IMPORTPARAMS SYSTEM "impcntl.dtd">

<IMPORTPARAMS CHECKIN_AFTER_IMPORT="YES" CHECKIN_COMMENTS="PMREP_IMPORT_TYPEFILTER"
APPLY_LABEL_NAME="LABEL_SESSION_TYPEFILTER">
<FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="PMREP_CHECKED_OUT" SOURCEREPOSITORYNAME="REPO_EX_1"
TARGETFOLDERNAME="PMREP_CHECKED_OUT_IMPORT_TYPEFILTER_SESSION" TARGETREPOSITORYNAME="REPO_EX_1"/>
<TYPEFILTER TYPENAME="SESSION"/>
<RESOLVECONFLICT>

<!-- replace all mappings -->
<TYPEOBJECT OBJECTTYPENAME = "MAPPING" RESOLUTION="REPLACE"/>

<!-- reuse source definitions, target definitions, and sessionconfigs -->
<TYPEOBJECT OBJECTTYPENAME = "SOURCE DEFINITION" RESOLUTION="REUSE"/>
<TYPEOBJECT OBJECTTYPENAME = "TARGET DEFINITION" RESOLUTION="REUSE"/>
<TYPEOBJECT OBJECTTYPENAME = "SESSIONCONFIG" RESOLUTION="REUSE"/>

<!-- replace some object types and reuse remaining objects-->
<TYPEOBJECT OBJECTTYPENAME = "ALL" RESOLUTION="REUSE"/>
<TYPEOBJECT OBJECTTYPENAME = "SOURCE DEFINITION" RESOLUTION="REPLACE"/>
<TYPEOBJECT OBJECTTYPENAME = "MAPPING" RESOLUTION="REPLACE"/>

</RESOLVECONFLICT>
</IMPORTPARAMS>
```

注: あるオブジェクトタイプを再利用または置き換える場合、そのオブジェクトタイプに対する resolution は、すべてのオブジェクトタイプに対する resolution をオーバーライドします。上記の例では、ソース定義およびマッピングを置き換え、残りのオブジェクトを再利用します。すべてのオブジェクトを再利用または置き換えるには、オブジェクトタイプ「All」を使用します。オブジェクトタイプの詳細については、[「オブジェクトインポート制御ファイルのパラメータ」](#) (ページ 1115) を参照してください。

無効なマッピングの上書き

無効なマッピングと、クエリにより返された関連づけられた子オブジェクトを上書きできます。例えば、クエリ QUERY_PARENT_RENAME によって返されるオブジェクトを上書きします。

次の引数を使用して、制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>
<!DOCTYPE IMPORTPARAMS SYSTEM "impcntl.dtd">

<IMPORTPARAMS CHECKIN_AFTER_IMPORT="YES"

CHECKIN_COMMENTS="PMREP_IMPORT_QUERY_PARENT_REPLACE_CHILD_REUSE"
APPLY_LABEL_NAME="LABEL_QUERY_PARENT_RENAME_CHILD_REUSE">
  <FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="PMREP_CHECKED_OUT" SOURCE_REPOSITORYNAME="REPO_EX_1"
TARGETFOLDERNAME="PMREP_CHECKED_OUT" TARGET_REPOSITORYNAME="REPO_EX_1"/>
  <RESOLVECONFLICT>

<!--replace the objects returned by the query QUERY_PARENT_RENAME -->
<QUERYOBJECT QUERYNAME="QUERY_PARENT_RENAME" RESOLUTION="REPLACE"/>
</RESOLVECONFLICT>
</IMPORTPARAMS>
```

オブジェクト名の変更

オブジェクトの競合が発生した場合、特定のオブジェクトの名前を変更することができます。例えば、オブジェクト ADDRESS、ADDRESS1、R_LKP、MAP_MLET、R_S3、WF_RS1 の名前を変更します。リポジトリサービスは、数字付きのオブジェクト名を追加します。

次の引数を使用して、制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>
<!DOCTYPE IMPORTPARAMS SYSTEM "impcntl.dtd">

<IMPORTPARAMS CHECKIN_AFTER_IMPORT="YES" CHECKIN_COMMENTS="PMREP_IMPORT_SPECIFICOBJECT_RENAME"
APPLY_LABEL_NAME="LABEL_IMPORT_SPECIFIC_OBJECT_RENAME">
  <FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="SRC_FOLDER1" SOURCE_REPOSITORYNAME="REPO_EX_1" TARGETFOLDERNAME="TGT_FOLDER1"
TARGET_REPOSITORYNAME="REPO_EX_1"/>

<RESOLVECONFLICT>

<!-- rename the objects ADDRESS, ADDRESS1, R_LKP, MAP_MLET, R_S3, WF_RS1 -->

<SPECIFICOBJECT NAME="ADDRESS" DBDNAME="sol805" OBJECTTYPE="Source Definition"
FOLDERNAME="PMREP_CHECKED_OUT" REPOSITORYNAME="REPO_EX_1" RESOLUTION="RENAME"/>
<SPECIFICOBJECT NAME="ADDRESS1" OBJECTTYPE="Target Definition" FOLDERNAME="PMREP_CHECKED_OUT"
REPOSITORYNAME="REPO_EX_1" RESOLUTION="RENAME"/>
<SPECIFICOBJECT NAME="R_LKP" OBJECTTYPE="Lookup Procedure" FOLDERNAME="PMREP_CHECKED_OUT"
REPOSITORYNAME="REPO_EX_1" RESOLUTION="RENAME"/>
<SPECIFICOBJECT NAME="MAP_MLET" OBJECTTYPE="Mapping" FOLDERNAME="PMREP_CHECKED_OUT"
REPOSITORYNAME="REPO_EX_1" RESOLUTION="RENAME"/>
<SPECIFICOBJECT NAME="R_S3" OBJECTTYPE="Session" FOLDERNAME="PMREP_CHECKED_OUT" REPOSITORYNAME="REPO_EX_1"
RESOLUTION="RENAME"/>
<SPECIFICOBJECT NAME="WF_RS1" OBJECTTYPE="Workflow" FOLDERNAME="PMREP_CHECKED_OUT"
REPOSITORYNAME="REPO_EX_1" RESOLUTION="RENAME"/>
</RESOLVECONFLICT></IMPORTPARAMS>
```

SAP マッピングおよび SAP プログラム情報のコピー

SAP プログラム情報は、SAP マッピングをインポートするときにコピーされます。例えば、SAP マッピングをインポートし、フォルダ TGT_F1 にインポートしているオブジェクトに関連付けられている SAP プログラム情報をコピーします。

次の引数を使用して、制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>
<!DOCTYPE IMPORTPARAMS SYSTEM "impcntl.dtd">

<!-- enter YES as the value for the COPY_SAP_PROGRAM attribute to copy SAP mappings and SAP program
information -->
```

```

<IMPORTPARAMS CHECKIN_AFTER_IMPORT="YES" CHECKIN_COMMENTS="Version2 of objects"
APPLY_LABEL_NAME="LABEL71_REPLACE_FOLDER" COPY_SAP_PROGRAM="YES">
  <FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="SRC_F1" SOURCE_REPOSITORYNAME="REPO_EX_1" TARGETFOLDERNAME="TGT_F1"
TARGETREPOSITORYNAME="REPO_EX_1"/>
</IMPORTPARAMS>

```

デフォルトの接続属性の適用

ターゲットリポジトリ内に接続が存在しない場合、デフォルトの接続属性をセッションに適用できます。例えば、ターゲットリポジトリ REPO_EX_1 内に接続が存在しないとします。

次の引数を使用して、制御ファイルを作成します。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>
<!DOCTYPE IMPORTPARAMS SYSTEM "impcntl.dtd">

<!-- enter YES as the value of the APPLY_DEFAULT_CONNECTION element to apply a default connection attribute -->
<IMPORTPARAMS CHECKIN_AFTER_IMPORT="NO" APPLY_DEFAULT_CONNECTION="YES">
  <FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="SRC_F1" SOURCE_REPOSITORYNAME="REPO_EX_1" TARGETFOLDERNAME="TGT_F1"
TARGETREPOSITORYNAME="REPO_EX_1"/>
<RESOLVECONFLICT>
<SPECIFICOBJECT NAME="R_S3" OBJECTTYPE="Session" FOLDERNAME="PMREP_CHECKED_OUT" REPOSITORYNAME="REPO_EX_1"
RESOLUTION="REPLACE"/>
<RESOLVECONFLICT>
</IMPORTPARAMS>

```

オブジェクト競合の解決

ターゲットリポジトリ内でラベルが適用されたオブジェクトの競合を解決することができます。例えば、マッピング、マプレット、ソースと、LBL_MPNG_MPLTS_SRCS_TGTS というラベルが適用されたターゲットがあるとします。これらのオブジェクトを上書きし、それらに REPLACE_LBL_MPNG_MPLTS_SRCS_TGTS というラベルを適用して、すべてのトランスフォーメーションを再利用します。

次の引数を使用して、制御ファイルを作成します。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>

<!DOCTYPE IMPORTPARAMS SYSTEM "impcntl.dtd">
<IMPORTPARAMS CHECKIN_AFTER_IMPORT="YES" CHECKIN_COMMENTS="PMREP_IMPORT_LABEL_REPLACE"
APPLY_LABEL_NAME="REPLACE_LBL_MPNG_MPLTS_SRCS_TGTS" >
  <FOLDERMAP SOURCEFOLDERNAME="SRC_F1" SOURCE_REPOSITORYNAME="REPO_EX_1" TARGETFOLDERNAME="TGT_F1"
TARGETREPOSITORYNAME="REPO_EX_1"/>

<!-- use the RESOLVECONFLICT element in conjunction with the RESOLUTION attribute of the OBJECTTYPE element to resolve conflicts when you import objects -->
  <RESOLVECONFLICT>
    <LABELOBJECT LABELNAME="LBL_MPNG_MPLTS_SRCS_TGTS" RESOLUTION="REPLACE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="Lookup Procedure" RESOLUTION="REUSE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="Stored Procedure" RESOLUTION="REUSE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="Expression" RESOLUTION="REUSE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="Filter" RESOLUTION="REUSE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="Aggregator" RESOLUTION="REUSE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="Rank" RESOLUTION="REUSE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="Normalizer" RESOLUTION="REUSE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="Router" RESOLUTION="REUSE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="Sequence" RESOLUTION="REUSE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="Sorter" RESOLUTION="REUSE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="update strategy" RESOLUTION="REUSE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="Custom Transformation" RESOLUTION="REUSE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="Transaction control" RESOLUTION="REUSE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="External Procedure" RESOLUTION="REUSE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="Joiner" RESOLUTION="REUSE"/>
    <TYPEOBJECT OBJECTTYPE="SessionConfig" RESOLUTION="REUSE"/>
  </RESOLVECONFLICT>
</IMPORTPARAMS>

```

デプロイメント制御ファイルの使用

デプロイメント制御ファイルは XML ファイルであり、フォルダまたはデプロイメントグループをデプロイするために DeployFolder および DeployDeploymentGroup の *pmrep* コマンドと共に使用されます。デプロイメント制御ファイルは、デプロイメントのパラメータを指定して手動で作成するか、コピーウィザードを使用して作成できます。

デプロイメント制御ファイルを手動で作成する場合は、作成するファイルが PowerCenter Client と共にインストールされる depcntl.dtd ファイルに準拠していることが必要です。depcntl.dtd ファイルの位置情報は、デプロイメント制御ファイルに含まれます。

デプロイメントのタイムアウトは、デプロイメント制御ファイルで指定できます。デプロイメントのタイムアウトは、*pmrep* がターゲットリポジトリ内でオブジェクトのロックを取得するまで待機する時間です。デフォルトでは、*pmrep* は、ロックを取得するか、またはデプロイメントをキャンセルするまで無制限に待機します。*pmrep* がロックを取得するために待機しているときにデプロイメントをキャンセルするには、Ctrl+C キーを押します。

注: デプロイメント制御ファイルを手動で作成するには、DEPLOYTIMEOUT などのデプロイメントパラメータを使用する必要があります。

depcntl.dtd ファイルの例を次に示します（以下ではコメント部分が翻訳されていますが、実際のファイルは英語表記になっています）。

```
<!ELEMENT DEPLOYPARAMS (DEPLOYFOLDER?, DEPLOYGROUP?)>
<!ATTLIST DEPLOYPARAMS
    DEFAULTSERVERNAME CDATA #IMPLIED
    COPYPROGRAMINFO (YES | NO) "YES"
    COPYMAPVARPERVALS (YES | NO) "NO"
    RETAINMAPVARPERVALS (YES | NO) "NO"
    COPYWFLOWVARPERVALS (YES | NO) "NO"
    COPYWFLOWSESSLOGS (YES | NO) "NO"
    COPYDEPENDENCY (YES | NO) "YES"
    LATESTVERSIONONLY (YES | NO) "NO"
    CHECKIN_COMMENTS CDATA #IMPLIED
    DEPLOYTIMEOUT CDATA "-1"
    RETAINGENERATEDVAL (YES | NO) "YES"
    RETAINSERVERNETVALS (YES | NO) "YES">
    COPYDEPLOYMENTGROUP (YES | NO) "NO">

<!--criteria specific to deploying folder-->
<!ELEMENT DEPLOYFOLDER (REPLACEFOLDER?, DEPLOYEDFOLDEROWNER?, OVERRIDEFOLDER*)>
<!ATTLIST DEPLOYFOLDER
    NEWFOLDERNAME CDATA #IMPLIED>

<!--folder to replace-->
<!ELEMENT REPLACEFOLDER EMPTY>
<!ATTLIST REPLACEFOLDER
    FOLDERNAME CDATA #REQUIRED
    RETAINMAPVARPERVALS (YES | NO) "NO"
    RETAINWFLOWVARPERVALS (YES | NO) "YES"
    RETAINWFLOWSESSLOGS (YES | NO) "NO"
    MODIFIEDMANUALLY (YES | NO) "NO"
    RETAINORIGFOLDEROWNER (YES | NO) "NO">

<!--shared folder to override-->
<!ELEMENT OVERRIDEFOLDER EMPTY>
<!ATTLIST OVERRIDEFOLDER
    SOURCEFOLDERNAME CDATA #REQUIRED
    SOURCEFOLDERTYPE (LOCAL | GLOBAL) "LOCAL"
    TARGETFOLDERNAME CDATA #REQUIRED
    TARGETFOLDERTYPE (LOCAL | GLOBAL) "LOCAL"
    MODIFIEDMANUALLY (YES | NO) "NO">

<!--criteria specific to deploy deployment group-->
<!ELEMENT DEPLOYGROUP (REPLACEDG?, TARGETDGOOWNER?, OVERRIDEFOLDER*, APPLYLABEL?)>
<!ATTLIST DEPLOYGROUP
```

```

CLEARSRCDEPLOYGROUP (YES | NO) "NO">
NEWDEPLOYGROUPNAME CDATA #IMPLIED

<!-- labels used to apply on the src objects and deployed objects-->
<!ELEMENT APPLYLABEL EMPTY>
<!ATTLIST APPLYLABEL
SOURCELABELNAME CDATA #IMPLIED
SOURCEMOVELABEL (YES | NO) "NO"
TARGETLABELNAME CDATA #IMPLIED
TARGETMOVELABEL (YES | NO) "NO">

<!-- new owners of deployed folders -->
<!ELEMENT DEPLOYEDFOLDEROWNER EMPTY>
<!ATTLIST DEPLOYEDFOLDEROWNER
USERNAME CDATA #IMPLIED
SECURITYDOMAIN CDATA #IMPLIED
GROUPNAME CDATA #IMPLIED>

<!-- to indicate that a deployment group should be replaced-->
<!ELEMENT REPLACEDG EMPTY>
<!ATTLIST REPLACEDG
DGNAME CDATA #REQUIRED
SECURITYDOMAIN CDATA #IMPLIED>

<!-- new owner of copied deployment group-->
<!ELEMENT TARGETDGOWNER EMPTY>
<!ATTLIST TARGETDGOWNER
USERNAME CDATA #IMPLIED
SECURITYDOMAIN CDATA #IMPLIED>

```

デプロイメント制御ファイルのパラメータ

以下の表に、*pmrep*のデプロイメント制御ファイルのパラメータを一覧表示します。

要素	属性名	属性の説明
DEPLOYPARAMS (DeployFolder および DeployDeploymentGroup で使用)	DEFAULTSERVERNAME	オプション。ターゲットリポジトリに登録されている Integration Service はワークフローを実行します。デプロイする場合は、1つのデフォルトサーバー名を指定します。
-	COPYPROGRAMINFO	オプション。ABAP プログラムがインストールされている SAP をコピーします。
-	COPYMAPVARPERVALS	オプション。マッピング変数の永続値をコピーします。
-	RETAINMAPVARPERVALS	オプション。ターゲットのマッピング変数の永続値を保持します。
-	COPYFLOWVARPERVALS	オプション。ワークフロー変数の永続値をコピーします。
-	COPYFLOWSESSLOGS	オプション。ワークフローログをコピーします。
-	COPYDEPENDENCY	オプション。マッピングにあるオブジェクトの依存情報をコピーします。

要素	属性名	属性の説明
-	COPYDEPLOYMENTGROUP	オプション。デプロイメントグループおよびデプロイメントグループ内のオブジェクトをターゲットリポジトリにコピーします。
-	VALIDATETARGETREPOSITORY	オプション。ターゲットリポジトリ内のオブジェクトを検証します。
-	LATESTVERSIONONLY	オプション。最新バージョンをコピーします。
-	CHECKIN_COMMENTS	オプション。オブジェクトをコピーまたはデプロイする場合は、デフォルトのコメントを上書きし、ターゲットリポジトリにコメントを追加します。この属性を使用するには、LATESTVERSIONONLY を true に設定します。
-	DEPLOYTIMEOUT	オプション。 <i>pmrep</i> がターゲットリポジトリでオブジェクトのロック取得を試行する時間 (秒)。 <i>pmrep</i> がロックを取得できない場合、値が 0 になりコピー処理が失敗します。値が -1 の場合、ロックを取得するか、またはユーザが操作を中断するまで待機するよう <i>pmrep</i> に指示します。デフォルトは -1 です。
-	RETAINGENERATEDVAL	オプション。Sequence Generator トランスフォーメーションまたは Normalizer トランスフォーメーションのカレント値を維持します。
-	RETAINSERVERNETVALS	オプション。タスクのサーバーネットワーク関連の値を保持します。
DEPLOYFOLDER (DeployFolder で使用)	NEWFOLDERNAME	オプション。この名前で作成フォルダを作成します。
REPLACEFOLDER (DeployFolder で使用)	FOLDERNAME	必須。上書き後、フォルダに名前をつけます。
-	RETAINMAPVARPERVALS	オプション。ターゲットのマッピング変数の永続値を保持します。
-	RETAINWFLOWWARPERVALS	オプション。ワークフロー変数の永続値を保持します。
-	RETAINWFLOWSESSLOGS	オプション。ターゲットのワークフローセッションログを保持します。
-	MODIFIEDMANUALLY	オプション。ターゲットフォルダにオブジェクトが作成されたか、または前回のデプロイメントから変更があった場合、フォルダを比較します。

要素	属性名	属性の説明
-	RETAINORIGFOLDEROWNER	オプション。既存のフォルダオーナーを保持します。 <i>pmrep</i> は、DEPLOYEDFOLDEROWNER 要素に指定された情報を無視します。
OVERRIDEFOLDER (DeployFolder および DeployDeploymentGroup で使用)	SOURCEFOLDERNAME	必須。フォルダのデプロイメントでは、ショートカットの参照先である現在のフォルダを指定します。 デプロイメントグループをデプロイする場合、以下のフォルダを指定します。 - ショートカット元となるフォルダ (複数の場合あり) - デプロイメントグループのオブジェクトを含むフォルダ (複数の場合あり)
-	SOURCEFOLDERTYPE	オプション。フォルダのデプロイメントでは、ショートカットの参照先のフォルダタイプを指定します。ローカルショートカットまたはグローバルショートカットを使用します。
-	TARGETFOLDERNAME	必須。フォルダのデプロイメントでは、ショートカットの参照先のフォルダを指定します。 デプロイメントグループをデプロイする場合、以下のフォルダを指定します。 - ショートカット元となるフォルダ (複数の場合あり) - デプロイメントグループのオブジェクトを含むフォルダ (複数の場合あり)
-	TARGETFOLDERTYPE	オプション。フォルダのデプロイメントでは、ショートカットの参照先のフォルダタイプを指定します。ローカルショートカットまたはグローバルショートカットを使用します。
-	MODIFIEDMANUALLY	オプション。ターゲットフォルダにオブジェクトが作成されたか、または前回のデプロイメントから変更があった場合、フォルダを比較します。この属性は、 <i>deploydeploymentgroup</i> コマンドでのみ使用されます。
DEPLOYGROUP (DeployDeploymentGroup で使用)	CLEARSRCDEPLOYGROUP	オプション。デプロイ後にソースグループからオブジェクトを削除します。
-	NEWDEPLOYGROUPNAME	オプション。この名前でデプロイメントグループを作成します。 REPLACEDG が指定されている場合は無視されます。デフォルトはソースデプロイメントグループ名です。

要素	属性名	属性の説明
REPLACEDG	DGNAME	オプション。置き換えられるデプロイメントグループの名前。
-	RETAINORIGINALOWNER	オプション。ターゲットリポジトリで置き換えられるデプロイメントグループのオーナーを保持するかどうかを指定します。
TARGETDGOWNER	USERNAME	オプション。コピーされたデプロイメントグループのオーナー。デフォルトはソースデプロイメントグループのオーナーです。
-	SECURITYDOMAIN	オプション。ターゲットデプロイメントグループのセキュリティドメイン。
APPLYLABEL (DeployDeploymentGroup で使用)	SOURCELABELNAME	オプション。ソースグループ内のすべてのオブジェクトにラベルを適用します。
-	SOURCEMOVELABEL	オプション。デプロイメント元グループ内のオブジェクトの異なるバージョンから、オブジェクトのデプロイメントグループバージョンに、ラベルを移動します。同じオブジェクトの別のバージョンへラベルが適用されたことをリポジトリエージェントが検出した場合、オブジェクトの選択したバージョンにそのラベルを移動できます。
-	TARGETLABELNAME	オプション。ターゲットリポジトリにデプロイされたすべてのオブジェクトにラベルを適用します。
-	TARGETMOVELABEL	オプション。デプロイメント先グループ内のオブジェクトの異なるバージョンから、オブジェクトのデプロイメントグループバージョンに、ラベルを移動します。同じオブジェクトの別のバージョンへラベルが適用されたことをリポジトリエージェントが検出した場合、オブジェクトの最新バージョンにそのラベルを移動できます。
DEPLOYEDFOLDEROWNER (DeployFolder および DeployDeploymentGroup で使用)	USERNAME	オプション。ターゲットリポジトリにデプロイメントされたフォルダまたはデプロイメントグループのオーナー。

要素	属性名	属性の説明
-	SECURITYDOMAIN	オプション。デプロイメントされるフォルダのオーナーまたはデプロイメントグループが属するセキュリティドメインの名前。
-	GROUPNAME	オプション。ターゲットリポジトリ内でデプロイメントされたフォルダまたはデプロイメントグループのグループオーナー。

デプロイメント制御ファイルの例

デプロイメント制御ファイルのコードで指定するパラメータによって、*pmrep* で `DeployFolder` コマンドまたは `DeployDeploymentGroup` コマンドを実行する際に発生するアクションが決定されます。以下の例では、`DeployFolder` コマンドおよび `DeployDeploymentGroup` コマンドをデプロイメント制御ファイルと共に使用する場合のインスタンスを示します。

フォルダの最新バージョンのデプロイメント

最新バージョンのフォルダをデプロイし、すべての依存オブジェクトを組み込むことができます。例えば、シーケンスジェネレータートランスフォーメーションのカレント値を保持し、ショートカットが `sc_folder` から `new_sc_folder` を指す必要があるとします。コピーしたフォルダの名前を「`new_year`」に変更します。

この場合、次の引数を使用して制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<!DOCTYPE DEPLOYPARAMS SYSTEM "depctl.dtd">
<DEPLOYPARAMS DEFAULTSERVERNAME ="info7261"
  COPYPROGRAMINFO ="NO"
  COPYFLOWVARPERVALS ="NO"
  COPYFLOWSESSLOGS ="NO"
  COPYDEPENDENCY ="YES"
  LATESTVERSIONONLY = "NO">

<REPLACEFOLDER FOLDERNAME ="NEW_YEAR"
  RETAINMAPVARPERVALS ="YES"/>

<OVERRIDEFOLDER SOURCEFOLDERNAME ="SC_FOLDER"
  OVERRIDEFOLDERNAME ="NEW_SC_FOLDER"/>

</DEPLOYPARAMS>
```

デプロイメントグループの最新バージョンのデプロイメント

デプロイメントグループの最新バージョンをデプロイして、そのグループ内のオブジェクトに共通のラベルを適用することができます。例えば、ソースグループのすべてのオブジェクトにラベル `NEW_SRC_LABEL_NAME` を、ターゲットグループのすべてのオブジェクトには `NEW_TGT_LABEL_NAME` を適用します。この場合、次の引数を使用して制御ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>
<!DOCTYPE DEPLOYPARAMS SYSTEM "depctl.dtd">
<DEPLOYPARAMS DEFAULTSERVERNAME="dg_sunqa2_51880"
  COPYPROGRAMINFO="YES"
  COPYMAPVARPERVALS="YES">
```

```

COPYWFLOWVARPERVALS="YES"
COPYWFLOWSESSLOGS="NO"
COPYDEPENDENCY="YES"
LATESTVERSIONONLY="YES"
RETAINGENERATEDVAL="YES"
RETAINSERVERNETVALS="YES">
<DEPLOYGROUP CLEARSRCDEPLOYGROUP="NO">
<OVERRIDEFOLDER SOURCEFOLDERNAME="SRC_FOLDER1"
SOURCEFOLDERTYPE="LOCAL"
TARGETFOLDERNAME="TGT_FOLDER1"
TARGETFOLDERTYPE="LOCAL"/>
    <APPLYLABEL SOURCELABELNAME="NEW_SRC_LABEL_NAME"
SOURCEMOVELABEL="YES"
TARGETLABELNAME="NEW_TGT_LABEL_NAME"
TARGETMOVELABEL="YES" />
</DEPLOYGROUP>
</DEPLOYPARAMS>

```

複数のソースフォルダとターゲットフォルダの一覧表示

制御ファイルで OVERRIDEFOLDER 要素を使用すると、複数のソースおよびターゲットのフォルダをリストで表示できます。ソースおよびターゲットのリポジトリで次のフォルダを指定する場合は、SOURCEFOLDERNAME 属性と TARGETFOLDERNAME 属性を使用します。

- ショートカット元となるフォルダ（複数の場合あり）
- デプロイメントグループのオブジェクトを含むフォルダ（複数の場合あり）

pmrep コマンドの *deploydeploymentgroup* を実行すると、デプロイメントグループのオブジェクトをチェックした後にデプロイするプロセスで、適切なターゲットフォルダが選択されます。

例えば、デプロイメントグループが、3 番目のフォルダへのショートカットもある 2 つのフォルダにオブジェクトを格納している場合、OVERRIDEFOLDER が 3 回発生する制御ファイルを作成できます。次の制御ファイルの例は、フォルダ OBJECTFOLDER1 と OBJECTFOLDER2 にオブジェクトを格納するデプロイメントグループをデプロイします。格納されている 2 つのフォルダには、フォルダ SHAREDSHORTCUT を指すショートカットが格納されています。

```

<!DOCTYPE DEPLOYPARAMS SYSTEM "depctl.dtd">
<DEPLOYPARAMS DEFAULTSERVERNAME="dg_sun_71099"
COPYPROGRAMINFO="YES"
COPYMAPVARPERVALS="YES"
COPYWFLOWVARPERVALS="YES"
COPYWFLOWSESSLOGS="NO"
COPYDEPENDENCY="YES"
LATESTVERSIONONLY="YES"
RETAINGENERATEDVAL="YES"
RETAINSERVERNETVALS="YES">
<DEPLOYGROUP CLEARSRCDEPLOYGROUP="NO">
<OVERRIDEFOLDER SOURCEFOLDERNAME="OBJECTFOLDER1"
SOURCEFOLDERTYPE="LOCAL"
TARGETFOLDERNAME="OBJECTFOLDER1"
TARGETFOLDERTYPE="LOCAL"/>
<OVERRIDEFOLDER SOURCEFOLDERNAME="OBJECTFOLDER2"
SOURCEFOLDERTYPE="LOCAL"
TARGETFOLDERNAME="OBJECTFOLDER2"
TARGETFOLDERTYPE="LOCAL"/>
<OVERRIDEFOLDER SOURCEFOLDERNAME="SHAREDSHORTCUTS"
SOURCEFOLDERTYPE="GLOBAL"
TARGETFOLDERNAME="SHAREDSHORTCUTS"
TARGETFOLDERTYPE="GLOBAL"/>
</DEPLOYGROUP>
</DEPLOYPARAMS>

```

pmrep ファイルに関する作業のためのヒント

pmrep の `updatesrcprefix` または `updatetargprefix` コマンドを使用する場合に `-n` オプションを使用する。

`-n` オプションを含める場合、`-t` オプションのソースまたはターゲットのインスタンス名を入力する必要があります。ソースまたはターゲットのインスタンス名は、セッションプロパティで表示される名前、または `listtablesbyse` コマンドにより出力される名前と一致している必要があります。

ソースとターゲットのインスタンス名が一致する場合、`-n` オプションを使用すると、シェルスクリプトの中で `updatesrcprefix` または `updatetargprefix` コマンドと共に `listtablesbyse` コマンドを使用できます。また、`-n` オプションを使用すると、セッションがマッピングへのショートカットを使用している場合でもソースを更新できます。

pmrep の `listobjects` を使用する場合、カラム区切り文字、レコードの末尾を示す文字、および一覧表示の末尾を示す文字に、リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字または文字のセットを入力する。

レコードおよびカラムを区切る文字や一覧表示の末尾を示す文字を入力する場合には、リポジトリオブジェクト名で使用されていない文字を使用します。これは、シェルスクリプトを使用してオブジェクトのメタデータを解析する場合に役立ちます。

pmrep の場合、ユーザー管理に外部ディレクトリサービスを使用するリポジトリのリストア時に `-v` オプションを使用する。

`restore` に `-v` オプションを含めると、リポジトリの外部ディレクトリサービス登録を保持できます。有効な管理者のユーザー名およびパスワードと共にこのオプションを入力しない場合、リストアされたリポジトリはデフォルトでリポジトリ認証モードに設定され、ログイン名とユーザー名の間に関連性が失われます。

索引

記号

pmcmd

Integration Service、ping [1000](#)
Integration Service、接続 [986](#)
Integration Service、切断 [987](#)
PowerCenter Integration Service、プロパティの取得 [991](#)
コマンドラインモード [978](#)
サービス設定、取得 [1005](#)
スクリプトファイル [981](#)
セッション、詳細の取得 [988](#)
セッションの統計、取得 [992](#)
対話モード [980](#)
対話モード、終了 [988](#)
タスク、開始 [1005](#)
タスク、強制終了 [983](#)
タスク、詳細の取得 [989](#), [994](#)
タスク、停止 [1012](#)
タスク、プロンプトが返される前に完了 [1017](#)
バージョン、表示 [1017](#)
パラメータファイル [1008](#), [1011](#)
非待ちモード、設定 [1004](#)
フォルダー、実行コマンドに指定 [1004](#)
フォルダ、デフォルトフォルダを指定しない [1017](#)
待ちモード、設定 [1005](#)
ミックスバージョンドメインでの実行 [978](#)
戻りコード [978](#)
ワークフロー、開始 [1008](#)
ワークフロー、強制終了 [985](#)
ワークフロー、実行する場合に決定 [1019](#)
ワークフロー、詳細の取得 [989](#), [996](#)
ワークフロー、スケジューリング [1002](#)
ワークフロー、スケジュールから削除 [1015](#)
ワークフロー、停止 [1014](#)
ワークフロー、リカバリ [1000](#)

A

AbortTask (pmcmd)
説明 [983](#)
abortWorkflow
infacmd wfs [860](#)
AbortWorkflow (pmcmd)
説明 [985](#)
AddAlertUser (infacmd isp) [202](#)
AddConnectionPermissions (infacmd isp) [204](#)
AddDomainLink (infacmd isp) [206](#)
AddDomainNode (infacmd isp) [208](#)
AddGroupPrivilege (infacmd isp) [210](#), [224](#)
AddLicense (infacmd isp) [212](#)
AddNamespace (infacmd isp) [214](#)
AddNodeResource (infacmd isp) [216](#)
AddParameterSetEntries (infacmd dis) [111](#)
AddRolePrivilege (infacmd isp) [218](#)
AddServiceLevel (infacmd isp) [220](#)

AddToDeploymentGroup (pmrep)
説明 [1026](#)
AddUserPrivilege (infacmd isp) [222](#)
ApplyLabel (pmrep)
説明 [1028](#)
AssignedToLicense (infacmd isp) [226](#)
AssignGroupPermission (infacmd isp) [228](#)
AssignIStoMMSservice (infacmd isp) [230](#)
AssignLicense (infacmd isp) [232](#)
AssignPermission (pmrep)
説明 [1030](#)
AssignRoleToGroup (infacmd isp) [234](#)
AssignRoletoUser (infacmd isp) [236](#)
AssignRStoWShubService (infacmd isp) [238](#)
AssignUserPermission (infacmd isp) [240](#)

B

BackUp (pmrep)
説明 [1032](#)
BackupApplication (infacmd dis) [113](#)
BackupContents (infacmd mrs) [595](#)
BackupDARepositoryContents (infacmd isp) [242](#)
BackupDomain (infasetup)
説明 [934](#)
Blaze サービス
停止 [158](#)

C

CancelDataObjectCacheRefresh (infacmd dis) [115](#)
cancelProfileExecution (infacmd ps) [671](#)
cancelWorkflow
infacmd wfs [864](#)
ChangeOwner (pmrep)
説明 [1033](#)
CheckIn (pmrep)
説明 [1034](#)
CheckInObject (infacmd mrs) [597](#)
CleanUp (pmrep)
説明 [1034](#)
ClearDeploymentGroup (pmrep)
説明 [1035](#)
CloseForceListener (infacmd pwx) [693](#)
CloseListener (infacmd pwx) [696](#)
CondenseLogger (infacmd pwx) [698](#)
Connect (pmrep)
説明 [1035](#)
Content Management Service
アップグレード [108](#)
プロパティの一覧表示 [95](#)
ConvertLogFile (infacmd isp) [244](#)
CPU プロファイル
infacmd isp を使用して計算 [518](#)

Create (pmrep)
 説明 [1037](#)
 CreateAuditTables (infacmd as) [65](#)
 CreateAuditTables (infacmd cms) [89](#)
 CreateConnection (infacmd isp) [245](#)
 CreateConnection (pmrep)
 説明 [1038](#)
 CreateContent (infacmd tdm) [855](#)
 CreateContents (infacmd mrs) [598](#)
 CreateDARespositoryContents (infacmd isp) [308](#)
 createdatamaps (infacmd pwx) [700](#)
 CreateDeploymentGroup (pmrep)
 説明 [1043](#)
 CreateFolder (infacmd isp) [309](#)
 CreateFolder (pmrep)
 説明 [1044](#)
 CreateGrid (infacmd isp) [311](#)
 CreateGroup (infacmd isp) [313](#)
 CreateGroup (pmrep)
 説明 [1046](#)
 CreateIntegrationService (infacmd isp) [315](#)
 CreateLabel (pmrep)
 説明 [1046](#)
 CreateListenerService (infacmd pwx) [703](#)
 CreateLoggerService (infacmd pwx) [706](#)
 CreateMMService (infacmd isp) [324](#)
 CreateOSProfile (infacmd isp) [329](#)
 CreateProject (infacmd mrs) [600, 601](#)
 CreateReportingService (infacmd isp) [332](#)
 CreateRepositoryService (infacmd isp) [337](#)
 CreateRole (infacmd isp) [341](#)
 CreateSAPBWSservice (infacmd isp) [343](#)
 CreateSchedule (infacmd sch) [769](#)
 CreateService (infacmd as) [62](#)
 CreateService (infacmd dis) [116](#)
 CreateService (infacmd mrs) [603](#)
 CreateService (infacmd search) [798](#)
 CreateService (infacmd tdm) [849](#)
 CreateService (infacmd cms) [91](#)
 CreateUser (infacmd isp) [347](#)
 CreateWH (infacmd ps) [673](#)
 CreateWHubService (infacmd isp) [349](#)

D

Data Analyzer リポジトリ
 infacmd isp を使用したコンテンツの更新 [589](#)
 infacmd isp を使用したコンテンツのリストア [516](#)
 infacmd isp を使用したユーザーおよびグループのアップグレード [590](#)
 コンテンツの削除 [353](#)
 コンテンツの作成 [308](#)
 コンテンツのバックアップ [242](#)
 DB2
 infacmd 接続オプション [275](#)
 DefineDomain (infasetup)
 説明 [936](#)
 DefineGatewayNode (infasetup)
 説明 [948](#)
 DefineWorkerNode (infasetup)
 説明 [954](#)
 Delete (pmrep)
 説明 [1046](#)
 DeleteAuditTables (infacmd as) [67](#)
 DeleteAuditTables (infacmd cms) [93](#)
 DeleteConnection (pmrep)
 説明 [1047](#)

DeleteContents (infacmdmrs) [606](#)
 DeleteDARespositoryContents (infacmd isp) [353](#)
 DeleteDeploymentGroup (pmrep)
 説明 [1048](#)
 DeleteDomain (infasetup)
 説明 [958](#)
 DeleteFolder (pmrep)
 説明 [1048](#)
 DeleteFolder (infacmd mrs) [608](#)
 DeleteLabel (pmrep)
 説明 [1048](#)
 DeleteNamespace (infacmd isp) [354](#)
 DeleteObject (pmrep)
 説明 [1049](#)
 DeleteParameterSetEntries (infacmd dis) [120, 132](#)
 DeleteProject (infacmd mrs) [609](#)
 DeleteSchedule (infacmd sch) [772](#)
 depcntl.dtd
 一覧表示 [1125](#)
 DeployApplication (infacmd dis) [122](#)
 DeployDeploymentGroup (pmrep)
 説明 [1050](#)
 DeployFolder (pmrep)
 説明 [1051](#)
 DeployImport (infacmd rtm) [761](#)
 DeployObjects
 infacmd oie [657](#)
 DisableNodeResource (infacmd isp) [356](#)
 DisableService (infacmd isp) [358](#)
 DisableService (infacmd tdm) [858](#)
 DisableServiceProcess (infacmd isp) [360](#)
 DisableUser (infacmd isp) [362](#)
 DisplayAllLogger (infacmd pwx) [711](#)
 DisplayCPULogger (infacmd pwx) [714](#)
 DisplayEventsLogger (infacmd pwx) [716](#)
 DisplayMemoryLogger (infacmd pwx) [719](#)
 DisplayRecordsLogger (infacmd pwx)
 [DisplayRecordsLoggerinfacmdpwx] [721](#)
 displayStatsListener (infacmd pwx) [725](#)
 DisplayStatusLogger (infacmd pwx) [729](#)
 dropTables (infacmd wfs) [868](#)
 DropWH (infacmd ps) [674](#)
 DTD ファイル
 プラグインテンプレート [1090](#)

E

EditUser (infacmd isp) [364](#)
 EditUser (pmrep)
 説明 [1053](#)
 EnableNodeResource (infacmd isp) [366](#)
 EnableService (infacmd isp) [368](#)
 EnableService (infacmd tdm) [857](#)
 EnableServiceProcess (infacmd isp) [370](#)
 EnableUser (infacmd isp) [372](#)
 Execute (infacmd ps) [676](#)
 executeProfile (infacmd ps) [678](#)
 ExecuteQuery (pmrep)
 説明 [1053](#)
 ExecuteSQL (infacmd sql) [809](#)
 exportControl.xsd
 infacmd 制御ファイル [915](#)
 ExportDomainObjects (infacmd isp)
 説明 [373](#)
 ExportObjects
 infacmd oie [658](#)

exportResources
 infacmd oie [662](#)
ExportToPC (infacmd ipc) [196](#)
ExportUsersAndGroups (infacmd isp) [376](#)

F

FileSwitchLogger(infacmd pwx) [731](#)
FindCheckout (pmrep)
 説明 [1055](#)

G

GenerateAbapProgramToFile (pmrep)
 説明 [1057](#)
GenerateEncryptionKey (infasetup)
 説明 [960](#)
generateReadableViewXML
 infacmd xrf [912](#)
GetConnectionDetails (pmrep)
 説明 [1056](#)
getDomainObjectPermissions (infacmd aud) [76](#)
getExecutionStatus (infacmd ps) [679](#)
GetFolderInfo (infacmd isp) [378](#)
GetLastError (infacmd isp) [380](#)
GetLog (infacmd isp) [382](#)
GetNodeName (infacmd isp) [385](#)
getPrivilegeAssociation (infacmd aud) [78](#)
getProfileExecutionStatus (infacmd ps) [681](#)
GetRequestLog
 infacmd ms [644](#)
GetRunningSessionsDetails (pmcmd)
 説明 [988](#)
GetServiceDetails (pmcmd)
 説明 [989](#)
GetServiceOption (infacmd isp) [386](#)
GetServiceProcessOption (infacmd isp) [388](#)
GetServiceProcessStatus (infacmd isp) [389](#)
GetServiceProperties (pmcmd)
 説明 [991](#)
GetServiceStatus (infacmd isp) [391](#)
GetSessionLog (infacmd isp) [393](#)
GetSessionStatistics (pmcmd)
 説明 [992](#)
GetSystemLogDirectory (infacmd isp) [396](#)
GetTaskDetails (pmcmd)
 説明 [994](#)
getUserGroupAssociation (infacmd aud) [80](#), [82](#)
getUsersPersonalInfo (infacmd aud) [84](#)
GetWorkflowDetails (pmcmd)
 説明 [996](#)
GetWorkflowLog (infacmd isp) [400](#)

H

Help (pmcmd)
 説明 [999](#)

I

IBM DB2
 接続文字列の例 [1025](#)
ICMD_JAVA_OPTS
 構成 [41](#)

impcntl.dtd
 説明 [1113](#)
importControl.xsd
 infacmd 制御ファイル [915](#)
ImportDomainObjects (infacmd isp)
 説明 [404](#)
ImportObjects
 infacmd oie [664](#)
ImportUsersAndGroups (infacmd isp)
 説明 [408](#)
INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT
 構成 [42](#)
INFA_CODEPAGENAME
 構成 [42](#)
INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD
 構成 [43](#)
INFA_DEFAULT_DOMAIN
 構成 [45](#)
INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD
 構成 [45](#)
INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER
 設定 [46](#)
INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD
 構成 [47](#)
INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD
 構成 [48](#)
INFA_JAVA_CMD_OPTS
 構成 [49](#)
INFA_PASSWORD
 構成 [50](#)
INFA_REPCNX_INFO
 構成 [52](#)
INFA_REPOSITORY_PASSWORD
 構成 [53](#)
infacmd

 Metadata Manager サービスの関連付けの解除 [535](#)
 Reporting Service のオプション [334](#)
 SAP BW サービスのオプション [346](#)
 SAP BW サービスプロセスのオプション [346](#)
 Web Services Hub サービスオプション [352](#)
 コマンドの実行 [59](#)
 コマンドのヘルプの表示 [403](#)
 サービスプロセスのオプション [323](#)
 制御ファイル [914](#)
 セキュリティドメイン、一覧表示 [451](#)
 統合サービスのオプション [318](#), [637](#)
 ドメイン情報の更新 [60](#)
 ノード、作業からゲートウェイへの切り換え [530](#)
 バージョン情報、表示 [593](#)
 プラグイン識別子の一覧表示 [58](#)
 戻りコード [60](#)
 ライセンス、割り当て解除 [537](#)
infacmd advanced
 機能の検証 [592](#)
infacmd as
 アナリストサービスの設定の一覧表示 [68](#)
 アナリストサービスのためのプロパティの更新 [71](#)
 アナリストサービスプロセスのプロパティの設定 [73](#)
 アナリストサービスプロセスのプロパティの一覧表示 [69](#)
 監査証跡のテーブルの削除 [67](#)
 監査証跡のテーブルの作成 [65](#)
 ドメイン内にアナリストサービスを作成 [62](#)
infacmd bg
 モデルリポジトリの Business Glossary データのアップグレード [87](#)
infacmd cms
 Content Management Service のオプションの一覧表示 [95](#)
 監査証跡のテーブルの削除 [93](#)
 監査証跡のテーブルの作成 [89](#)

infacmd cms (続く)

- 孤立した参照データのページ [98](#)
- コンテンツ管理サービスのオプションの更新 [104](#)
- コンテンツ管理サービスプロセスのオプションの一覧表示 [97](#)
- コンテンツ管理サービスプロセスのオプションの設定 [106](#)
- コンテンツ管理サービスをドメインから削除 [100](#)
- サービスのアップグレード [108](#)
- データの同期 [102](#)
- ドメイン内へのコンテンツ管理サービスの作成 [91](#)

infacmd dis

- Blaze サービスの停止 [158](#)
- アプリケーションアーカイブ (iar) ファイルのデプロイ [122](#)
- アプリケーション内のパラメータセットの一覧表示 [135](#)
- アプリケーションのオブジェクトの一覧表示 [125](#)
- アプリケーションの開始 [154](#)
- アプリケーションの更新 [161](#)
- アプリケーションの削除 [159](#)
- アプリケーションの停止 [156](#)
- アプリケーションのプロパティの一覧表示 [127](#)
- アプリケーションプロパティの設定 [162](#)
- 計算プロパティの一覧表示 [128](#)
- 計算プロパティの設定 [164](#)
- 結果セットキャッシュのページ [145](#)
- シーケンスオブジェクトの一覧表示 [138](#)
- シーケンスオブジェクトのプロパティの一覧表示 [136](#)
- シーケンスデータオブジェクトの現在値の更新 [152](#)
- データオブジェクトキャッシュのリフレッシュ [147](#)
- データオブジェクトのオプション [168](#)
- データオブジェクトのプロパティの一覧表示 [130](#)
- データオブジェクトプロパティの設定 [166](#)
- データ統合サービスに対するプロパティの設定 [170](#)
- データ統合サービスの作成 [116](#)
- データ統合サービスのプロパティの一覧表示 [140](#)
- データ統合サービスプロセスに対するプロパティの設定 [185](#)
- データ統合サービスプロセスのプロパティの一覧表示 [141](#)
- デプロイされたアプリケーションの一覧表示 [123](#)
- デプロイされたアプリケーションの名前の変更 [148](#)
- デプロイされたアプリケーションのバックアップ [113](#)
- バックアップファイルからのアプリケーションのリストア [150](#)
- パラメータセットのエントリの更新 [169](#)
- パラメータセットのエントリの削除 [120, 132](#)
- パラメータセットのエントリの追加 [111](#)
- パラメータセットのオブジェクトを一覧表示 [133](#)
- 論理データオブジェクトのキャッシュの更新を停止 [115](#)
- 論理データオブジェクトのキャッシュのページ [143](#)

infacmd ipc

- モデルリポトリからのオブジェクトのエクスポート [196](#)

infacmd isp

- CPU プロファイル、計算 [518](#)
- Data Analyzer リポトリからコンテンツの削除 [353](#)
- Data Analyzer リポトリ、コンテンツのアップグレード [589](#)
- Data Analyzer リポトリ、コンテンツのリストア [516](#)
- Data Analyzer リポトリのコンテンツの作成 [308](#)
- Data Analyzer リポトリのコンテンツのバックアップ [242](#)
- Data Analyzer リポトリ、ユーザーおよびグループのアップグレード [590](#)
- LDAP サーバーの設定、一覧表示 [448](#)
- LDAP サーバーの設定、更新 [524](#)
- LDAP 接続、一覧表示 [435](#)
- LDAP 認証、設定 [521](#)
- Metadata Manager サービスプロパティ、更新 [560](#)
- PowerCenter リソースの無効化 [356](#)
- SAP BW サービス、更新 [579](#)
- Web サービス Hub、更新 [587](#)
- Web サービス Hub でのリポトリの関連付け [238](#)
- Web サービス Hub、リポトリの関連付けの解除 [542](#)
- アプリケーションサービスのステータスの取得 [391](#)
- アプリケーションサービスの無効化 [358](#)

infacmd isp (続く)

- アプリケーションサービスの有効化 [368](#)
- アプリケーションサービスへのライセンスの割り当て [232](#)
- インポート制御ファイル [920](#)
- エクスポート制御ファイル [916](#)
- オブジェクトに対するグループ権限の削除 [488](#)
- オブジェクトに対するグループ権限の割り当て [228](#)
- オブジェクトに対するユーザー権限の割り当て [240](#)
- オブジェクトの ping [470](#)
- オブジェクトのユーザー権限の削除 [508](#)
- オペレーティングシステムのプロファイル、一覧表示 [446](#)
- オペレーティングシステムのプロファイル、更新 [571](#)
- オペレーティングシステムのプロファイル、削除 [497](#)
- グリッド、削除 [485](#)
- グリッド、ノードの一覧表示 [428](#)
- グリッドの作成 [311](#)
- グリッド、割り当てられたノードの更新 [554](#)
- グループ、一覧表示 [411](#)
- グループ、削除 [487](#)
- グループ、特権の一覧表示 [432](#)
- グループ、特権の削除 [490](#)
- グループ内のロールへの特権の割り当て [218](#)
- グループへの特権の割り当て [210](#)
- グループ用ドメインオブジェクトの一覧表示 [430](#)
- 警告、SMTP 設定の設定 [585](#)
- 警告、サブスクライブされたユーザーの一覧表示 [410](#)
- 警告、サブスクライブの解除 [477](#)
- ゲートウェイ情報、更新 [553](#)
- 権限、ユーザーまたはグループ接続から削除 [480](#)
- サービス、一覧表示 [457](#)
- サービス、削除 [502](#)
- サービス、特権の一覧表示 [455](#)
- サービスプロセス、更新 [583](#)
- サービスプロパティの取得 [386](#)
- サービスレベル、一覧表示 [452](#)
- サービスレベル、更新 [581](#)
- サービスレベル、削除 [504](#)
- サービスレベルの追加 [220](#)
- 最新のエラーメッセージの取得 [380](#)
- システムログディレクトリパスの取得 [396](#)
- 指定したログイベントの取得 [382](#)
- セキュリティドメイン内のユーザーおよびグループを LDAP のユーザーおよびグループと同期 [533](#)
- セッションのログイベントの取得 [393](#)
- 接続、インポート [404](#)
- 接続、エクスポート [373](#)
- 接続、一覧表示 [420](#)
- 接続、オプションの一覧表示 [422](#)
- 接続権限、グループによる一覧表示 [417](#)
- 接続、ドメインからの削除 [479](#)
- 接続の作成 [245](#)
- 接続のための権限でのユーザーの一覧表示 [419](#)
- 接続のためのユーザーまたはグループの権限の一覧表示 [416](#)
- 接続の名前変更 [513](#)
- 接続、プロパティの更新 [546](#)
- 送信メールサーバーに対する SMTP 設定の一覧表示 [459](#)
- 通知へのユーザーのサブスクライブ [202](#)
- 統合サービス、更新 [556](#)
- 統合サービスの割り当て [230](#)
- 統合サービスプロセスプロパティの取得 [388](#)
- ドメイン内での SAP BW サービスの作成 [343](#)
- ドメイン内でのオペレーティングシステムのプロファイルの作成 [329](#)
- ドメイン内での統合サービスの作成 [315](#)
- ドメイン内でのレポートサービスの作成 [332](#)
- ドメイン内でのロールの作成 [341](#)
- ドメイン内に Metadata Manager サービスを作成 [324](#)
- ドメイン内にグループの作成 [313](#)

infacmd isp (続く)

ドメイン内にユーザーの作成 [347](#)
ドメイン内にリポジトリサービスを作成 [337](#)
ドメイン内の Web サービス Hub の作成 [349](#)
ドメインのグループへのユーザーの追加 [224](#)
ドメイン、プロパティの一覧表示 [425](#)
ドメイン、プロパティの更新 [549](#)
ドメインへのノードの追加 [208](#)
ドメインへのライセンスの追加 [212](#)
ドメインまたはアプリケーションサービス用グループへのロールの割り当て [234](#)
ドメイン、リンクドメインの一覧表示 [424](#)
ドメイン、リンクの削除 [482](#)
ドメインリンクの追加 [206](#)
ノード、一覧表示 [444](#), [454](#)
ノード、オプションの一覧表示 [440](#)
ノード、更新 [567](#)
ノード、ゲートウェイから作業への切り換え [532](#)
ノード、削除 [494](#)
ノード、シャットダウン [528](#)
ノード上でサービスプロセスの有効化 [370](#)
ノード上でサービスプロセスを無効化 [360](#)
ノード上でアプリケーションサービスプロセスのステータスの取得 [389](#)
ノード、ドメインから関連付けを解除 [544](#)
ノードへのリソースの追加 [216](#)
ノードロールの一覧表示 [443](#)
ノードロールの更新 [569](#)
ノード名の取得 [385](#)
バイナリログファイルの変換 [244](#)
パスワード、ユーザーパスワードのリセット [514](#)
ファイルへのユーザーおよびグループのエクスポート [376](#)
フォルダー、一覧表示 [427](#)
フォルダー、移動 [466](#)
フォルダー、オブジェクトの移動 [468](#)
フォルダー、削除 [484](#)
フォルダ、説明の更新 [551](#)
フォルダの作成 [309](#)
フォルダープロパティの一覧表示 [378](#)
ユーザーアカウントの無効化 [362](#)
ユーザーアカウントの有効化 [372](#)
ユーザーアカウントプロパティの編集 [364](#)
ユーザー、一覧表示 [414](#)
ユーザーおよびグループ、インポート [404](#), [408](#)
ユーザーおよびグループ、エクスポート [373](#)
ユーザーおよびグループの権限の削除 [519](#)
ユーザー、グループからの削除 [507](#)
ユーザー、削除 [505](#)
ユーザー、特権の一覧表示 [463](#)
ユーザー、特権の削除 [511](#)
ユーザーの移行 [464](#)
ユーザーのグループの一覧表示 [433](#)
ユーザーへの特権の割り当て [222](#)
ユーザーへのロールの割り当て [236](#)
ユーザーまたはグループへの接続権限の割り当て [204](#)
ユーザー用ドメインオブジェクトの一覧表示 [461](#)
ライセンス、一覧表示 [437](#)
ライセンス、更新 [558](#)
ライセンス、情報の表示 [527](#)
ライセンス、取り消し [492](#)
ライセンスに割り当てられたサービスの一覧表示 [226](#)
リソース、ノードからの削除 [495](#)
リソース、ノード用の一覧表示 [441](#)
リソースの有効化 [366](#)
リポジトリサービス、更新 [575](#)
レポートサービス、更新 [573](#)
ロール、インポート [404](#)
ロール、エクスポート [373](#)

infacmd isp (続く)

ロール、一覧表示 [413](#)
ロール、グループからの削除 [538](#)
ロール、削除 [499](#)
ロール、特権の一覧表示 [449](#)
ロール、特権の削除 [500](#)
ロール、ユーザーからの削除 [540](#)
ログイベント、ページ [473](#)
ワークフロー用ログイベントの取得 [400](#)
infacmd isp 監視データのページ [474](#)
infacmd isp ドメイン監視オプションの一覧表示 [438](#)
infacmd isp ドメイン監視オプションの更新 [561](#)
infacmd mrs
オブジェクト依存関係のグラフの再構築 [626](#)
オブジェクトのチェックイン [597](#)
オブジェクトのロック解除 [633](#)
チェックアウトされたオブジェクトの一覧表示 [613](#)
チェックアウトされたオブジェクトの再割り当て [624](#)
チェックアウトされたオブジェクトを元に戻す [631](#)
バージョン管理システムへのデータの取り込み [623](#)
バックアップフォルダー内のファイルの一覧表示 [611](#)
ファイルへのモデルリポジトリのコンテンツのバックアップ [595](#)
フォルダの削除 [608](#)
フォルダの名前変更 [628](#)
プロジェクトの削除 [609](#)
プロジェクトの作成 [600](#), [601](#)
モデルリポジトリコンテンツの削除 [606](#)
モデルリポジトリサービスのオプションの一覧表示 [620](#)
モデルリポジトリサービスのオプションの更新 [635](#)
モデルリポジトリサービスのコンテンツのアップグレード [642](#)
モデルリポジトリサービスのサービスプロセスオプションの一覧表示 [621](#)
モデルリポジトリサービスのサービスプロセスオプションの更新 [640](#)
モデルリポジトリサービスの作成 [603](#)
モデルリポジトリサービスのリポジトリコンテンツの作成 [598](#)
モデルリポジトリサービスリポジトリ内のプロジェクトの一覧表示 [618](#)
モデルリポジトリサービスリポジトリ内のフォルダの一覧表示 [614](#)
モデルリポジトリのコンテンツのリストア [629](#)
ロックされたオブジェクトの一覧表示 [616](#)
ロックされたオブジェクトの再割り当て [624](#)
infacmd ms
アプリケーション内のマッピングの一覧表示 [649](#)
データ統合サービスにデプロイされたマッピングの実行 [651](#)
マッピングパラメータファイルのアップグレード [654](#)
マッピングログの書き込み [644](#)
infacmd oie
Metadata Manager へのリソースのエクスポート [662](#)
インポート制御ファイル [920](#)
エクスポート制御ファイル [916](#)
オブジェクトのインポート [664](#)
オブジェクトのエクスポート [658](#)
オブジェクトのデプロイ [657](#)
infacmd ps
Data Profiling ウェアハウスの作成 [673](#)
キーの移行 [690](#)
スコアカードの結果の移行 [686](#)
プロファイリングウェアハウスコンテンツの削除 [674](#)
プロファイルおよびスコアカードの結果の一覧表示 [683](#)
プロファイルおよびスコアカードの結果の実行 [676](#)
プロファイルおよびスコアカードの結果のページ [687](#)
プロファイル結果の移行 [684](#)
プロファイルタスクのステータスの取得 [679](#)
プロファイルモデルのキャンセル [671](#)
プロファイルモデルの実行 [678](#)
プロファイルモデルのステータスの取得 [681](#)

infacmd pwx

- アクティブなリスナサービスタスク用の情報の表示 [734](#)
- すべてのロッガーサービスマッセージの表示 [711](#)
- データマップの作成 [700](#)
- 非リレショナルデータオブジェクトのアップグレード [742](#)
- リスナサービスタスクの停止 [739](#)
- リスナサービスとそのタスクの監視統計の表示 [725](#)
- リスナサービスの作成 [703](#)
- リスナサービスの停止 [696](#)
- リスナサービスのプロパティの更新 [744](#)
- リスナサービスを強制的に停止 [693](#)
- ロッガーサービスで処理された変更レコード数の表示 [721](#)
- ロッガーサービスの Writer サブタスクのステータスの表示 [729](#)
- ロッガーサービスのイベントの表示 [716](#)
- ロッガーサービスの作成 [706](#)
- ロッガーサービスの停止 [736](#)
- ロッガーサービスのプロパティの更新 [747](#)
- ロッガーサービスのメモリ使用量の表示 [719](#)
- ロッガーサービスのロギングサイクルの開始 [698](#)
- ロッガーサービスのログファイルの新しいセットへの切り替え [731](#)
- ロッガーサービス用の CPU 情報の表示 [714](#)

infacmd rms

- 計算ノード属性の一覧表示 [753](#)
- 計算ノード属性の設定 [756](#)
- リソースマネージャサービスのプロパティの一覧表示 [755](#)
- リソースマネージャサービスのプロパティの設定 [758](#)

infacmd rtm

- アプリケーションファイルからのコンテンツのインポート [761](#)
- 参照テーブルのエクスポート [763](#)
- モデルリポジトリへの参照テーブルのインポート [765](#)

infacmd sch

- スケジュールの更新 [786](#)
- スケジュールの削除 [772](#)
- スケジュールの作成 [769](#)

infacmd search

- 検索サービス処理のプロパティの設定 [806](#)
- 検索サービスの作成 [798](#)
- 検索サービスのプロパティの一覧表示 [801](#)
- 検索サービスのプロパティの設定 [804](#)
- 検索サービスプロセスのプロパティの一覧表示 [803](#)

infacmd sql

- SQL データサービスオプションの更新 [843](#)
- SQL データサービスの権限の一覧表示 [813](#)
- SQL データサービスに対する権限の設定 [829](#)
- SQL データサービスの開始 [837](#)
- SQL データサービスの停止 [839](#)
- SQL データサービスのプロパティの一覧表示 [812](#)
- SQL データサービス名の変更 [825](#)
- SQL データサービスオプション [844](#)
- 仮想テーブルカラムでの権限の設定 [826](#)
- 仮想テーブルキャッシュのページ [822](#)
- 仮想テーブルキャッシュのリフレッシュ [823](#)
- 仮想テーブルでのグループおよびユーザー権限の設定 [834](#)
- 仮想テーブルのオプション [848](#)
- 仮想テーブルのカラムのプロパティの一覧表示 [810](#)
- 仮想テーブルの権限の一覧表示 [820](#)
- 仮想テーブルのプロパティの一覧表示 [818](#)
- 仮想テーブルのプロパティの設定 [846](#)
- カラムのオプション [842](#)
- ストアドプロシージャに対するユーザーおよびグループの権限の設定 [831](#)
- ストアドプロシージャの権限の一覧表示 [817](#)
- データ統合サービスの SQL データサービスの一覧表示 [815](#)

infacmd sqlupdate 仮想カラムオプション [840](#)

infacmd tdm

- Test Data Manager サービスの無効化 [858](#)
- Test Data Manager サービスの有効化 [857](#)
- ドメイン内での Test Data Manager サービスコンテンツの作成 [855](#)

infacmd tdm (続く)

- ドメイン内での Test Data Manager サービスの作成 [849](#)

infacmd wfs

- アクティブなワークフローインスタンスの一覧表示 [869](#)
- アプリケーション内のワークフローの一覧表示 [875](#)
- 永続マッピング出力の一覧表示 [871](#)
- 永続マッピング出力の更新 [879](#)
- データベーステーブルの削除 [868](#)
- ワークフローインスタンスの開始 [882](#)
- ワークフローインスタンスのキャンセル [864](#)
- ワークフローインスタンスの強制終了 [860](#)
- ワークフローインスタンスのリカバリ [877](#)
- ワークフローパラメータの一覧表示 [873](#)

infacmd ws

- ListOperationOptions [887](#)
- ListOperationPermissions [889](#)
- ListWebServiceOptions [891](#)
- ListWebServicePermissions [893](#)
- ListWebServices [895](#)
- RenameWebService [896](#)
- SetOperationPermissions [898](#)
- SetWebServicePermissions [901](#)
- StartWebService [903](#)
- StopWebService [905](#)
- UpdateOperationOptions [906](#)
- UpdateWebServiceOptions [908](#)
- Web サービス操作の権限の一覧表示 [889](#)
- Web サービス操作のプロパティの一覧表示 [887](#)
- Web サービス操作のプロパティの更新 [906](#)
- Web サービスの権限の一覧表示 [893](#)
- Web サービスのプロパティの更新 [908](#)

infacmd xrf

- エクスポート XML の更新 [912](#)
- 読み取り可能な XML の生成 [912](#)

infacmd コマンド

- ヘルプの取得 [403](#)
- INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD
設定 [44](#)
- INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD
設定 [51](#)
- INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD
設定 [51](#)

infasetup

- run [933](#)
- ゲートウェイノード、更新 [966](#)
- ゲートウェイノード、定義 [948](#)
- 作業ノード、更新 [972](#)
- 作業ノード、定義 [954](#)
- ドメイン、削除 [958](#)
- ドメイン、定義 [936](#)
- ドメイン、バックアップ [934](#)
- ドメイン、リストア [962](#)
- 戻りコード [933](#)
- INFATOOL_DATEFORMAT
構成 [54](#)
- Informatica ユーティリティ (インストール [28](#))
- Informatica ユーティリティ (セキュリティ設定 [31](#))
- InstallAbapProgram (pmrep)
説明 [1059](#)

K

KillUserConnection (pmrep)

- 説明 [1061](#)

L

- LDAP サーバーの設定
 - infacmd isp を使用した一覧表示 [448](#)
 - infacmd isp を使用して更新 [524](#)
- LDAP 接続
 - infacmd isp を使用した一覧表示 [435](#)
- LDAP 認証
 - infacmd isp を使用して設定 [521](#)
- List (infacmd ps) [683](#)
- listActiveWorkflowInstances
 - infacmd wfs [869](#)
- ListAlertUsers (infacmd isp)
 - 説明 [410](#)
- ListAllGroups (infacmd isp)
 - 説明 [411](#)
- ListAllRoles (infacmd isp)
 - 説明 [413](#)
- ListAllUsers (infacmd isp)
 - 説明 [414](#)
- ListAllUsers (pmrep)
 - 説明 [1062](#)
- ListApplicationObjects (infacmd dis) [125](#)
- ListApplicationOptions (infacmd dis) [127](#)
- ListApplications (infacmd dis) [123](#)
- ListBackupFiles (infacmd mrs) [611](#)
- ListCheckedOutObjects (infacmd mrs) [613](#)
- ListColumnOptions (infacmd sql) [810](#)
- ListComputeNodeAttributes (infacmd rms) [753](#)
- ListComputeOptions (infacmd dis) [128](#), [164](#)
- ListConnectionOptions (infacmd isp)
 - 説明 [422](#)
- ListConnectionPermissionByUser (infacmd isp) [419](#)
- ListConnectionPermissions (infacmd isp) [416](#)
- ListConnectionPermissionsByGroup (infacmd isp)
 - 説明 [417](#)
- ListConnections (infacmd isp)
 - 説明 [420](#)
- ListConnections (pmrep)
 - 説明 [1062](#)
- ListDataObjectOptions (infacmd dis) [130](#)
- ListDomainLinks (infacmd isp)
 - 説明 [424](#)
- ListDomainOptions (infacmd isp)
 - 説明 [425](#)
- ListFolders (infacmd isp)
 - 説明 [427](#)
- ListFOlders (infacmd mrs) [614](#)
- ListGridNodes (infacmd isp)
 - 説明 [428](#)
- ListGroupPermissions (infacmd isp) [430](#)
- ListGroupPrivileges (infacmd isp)
 - 説明 [432](#)
- ListGroupsForUser (infacmd isp) [433](#)
- ListLicenses (infacmd isp)
 - 説明 [437](#)
- ListLockedObjects (infacmd mrs) [616](#)
- listMappingPersistedOutputs
 - infacmd wfs [871](#)
- ListMappings (infacmd ms) [649](#)
- listMonitoringOptions (infacmd isp) [438](#)
- ListNodeOptions (infacmd isp)
 - 説明 [440](#)
- ListNodeResources (infacmd isp)
 - 説明 [441](#)
- ListNodeRoles (infacmd isp) [443](#)
- ListNodes (infacmd isp)
 - 説明 [444](#)
- ListObjectDependencies (pmrep)
 - 説明 [1062](#)
- ListObjects (pmrep)
 - フォルダの一覧表示 [1070](#)
- ListObjects (pmrep)
 - 説明 [1065](#)
 - トランスフォーメーションのタイプ [1067](#)
- ListOperationOptions
 - infacmd ws [887](#)
- ListOSProfiles (infacmd isp)
 - 説明 [446](#)
- ListParameterSetObjects (infacmd dis) [133](#)
- ListParameterSets (infacmd dis) [135](#)
- ListPlugins (infacmd) [58](#)
- ListProjects (infacmd mrs) [618](#)
- ListRepositoryLDAPConfiguration (infacmd isp)
 - 説明 [448](#)
- ListRolePrivileges (infacmd isp)
 - 説明 [449](#)
- ListSchedule (infacmd sch) [774](#)
- ListSecurityDomains (infacmd)
 - 説明 [451](#)
- ListSequenceObjectProperties (infacmd dis) [136](#)
- ListSequenceObjects (infacmd dis) [138](#)
- ListServiceLevels (infacmd isp)
 - 説明 [452](#)
- ListServiceNodes (infacmd isp)
 - 説明 [454](#)
- ListServiceOptions (infacmd as) [68](#)
- ListServiceOptions (infacmd dis) [140](#)
- ListServiceOptions (infacmd search) [801](#)
- ListServiceOptions (infacmd cms) [95](#)
- ListServiceOptions (infacmd mrs) [620](#)
- ListServiceOptions (infacmd rms) [755](#)
- ListServiceOptions (infacmd sch) [776](#)
- ListServicePrivileges (infacmd isp)
 - 説明 [455](#)
- ListServiceProcessOptions (infacmd as) [69](#)
- ListServiceProcessOptions (infacmd dis) [141](#)
- ListServiceProcessOptions (infacmd search) [803](#)
- ListServiceProcessOptions (infacmd cms) [97](#)
- ListServiceProcessOptions (infacmd mrs) [621](#)
- ListServiceProcessOptions (infacmd sch) [778](#)
- ListServices (infacmd isp)
 - 説明 [457](#)
- ListSMTPOptions (infacmd isp) [459](#)
- ListSQLDataServiceOptions (infacmd sql) [812](#)
- ListSQLDataServicePermissions (infacmd sql) [813](#)
- ListSQLDataServices (infacmd sql) [815](#)
- ListStoredProcedurePermissions (infacmd sql) [817](#)
- ListTableOptions (infacmd sql) [818](#)
- ListTablePermissions (infacmd sql) [820](#)
- ListTablesBySess (pmrep)
 - 説明 [1071](#)
- ListTaskListener (infacmd pwx) [734](#)
- ListLDAPConnectivity (infacmd isp)
 - 説明 [435](#)
- ListUserConnections (pmrep)
 - 説明 [1072](#)
- ListUserPermissions (infacmd isp) [461](#)
- ListUserPrivileges (infacmd isp)
 - 説明 [463](#)
- ListWebServiceOptions
 - infacmd ws [891](#)
- ListWebServicePermissions
 - infacmd ws [893](#)
- ListWebServices
 - infacmd ws [895](#)

listWorkflowParameters
 infacmd wfs [873](#)
listWorkflows
 infacmd wfs [875](#)

M

MassUpdate (pmrep)
 説明 [1072](#)
Metadata Manager サービス
 ドメイン内での作成 [324](#)
 プロパティの更新 [560](#)
Metadata Manager ユーティリティ
 インストール [28](#)
 構成 [30](#)
 セキュリティ設定 [31](#)
Microsoft SQL Server
 接続文字列の構文 [1025](#)
MigrateEncryptionKey (infasetup)
 説明 [962](#)
migrateProfileResults (infacmd ps) [684](#)
migrateScorecards (infacmd ps) [686](#)
migrateUsers
 infacmd isp [464](#)
ModifyFolder (pmrep)
 説明 [1079](#)
MoveFolder (infacmd isp)
 説明 [466](#)
MoveObject (infacmd isp)
 説明 [468](#)

O

ObjectExport (pmrep)
 説明 [1081](#)
ObjectImport (pmrep)
 説明 [1083](#)
Oracle
 接続オプション [292](#)
 接続文字列の構文 [1025](#)
OVERRIDEFOLDER
 サンプル制御ファイル [1131](#)

P

PauseAll (infacmd sch) [780](#)
PauseSchedule (infacmd sch) [781](#)
Ping (infacmd isp)
 説明 [470](#)
PingService (pmcmd)
 説明 [1000](#)
pmcmd のコマンドラインモード()
 接続 [978](#)
pmpasswd
 構文 [54](#)
 パスワードの暗号化 [54](#)
pmrep
 ABAP プログラムのアンインストール [1106](#)
 ABAP プログラムのインストール [1059](#)
 ABAP プログラムの生成 [1057](#)
 checked-out オブジェクト、一覧表示 [1055](#)
 永続入力ファイル、作成 [1112](#)
 オブジェクト、一覧表示 [1065](#)
 オブジェクト、インポート [1083](#)
 オブジェクトインポート制御のパラメータ [1115](#)

pmrep (続く)
 オブジェクト、エクスポート [1081](#)
 オブジェクト、検証 [1108](#)
 オブジェクト、削除 [1049](#)
 オブジェクト、所有権の変更 [1033](#)
 オブジェクト、チェックイン [1034](#)
 オブジェクトの依存関係、一覧表示 [1062](#)
 オブジェクトバージョン、ページ [1084](#)
 概要 [1023](#)
 クエリ、実行 [1053](#)
 グループ、作成 [1046](#)
 権限、割り当て [1030](#)
 コマンドラインモード [1024](#)
 シーケンス値、更新 [1102](#)
 スクリプト、実行 [1093](#)
 スクリプトファイル [1025](#)
 接続、一覧表示 [1062](#)
 接続、更新 [1100](#)
 接続、削除 [1047](#)
 接続、作成 [1038](#)
 接続情報、表示 [1094](#)
 接続の詳細、一覧表示 [1056](#)
 接続名、変更 [1094](#)
 対話モード [1024](#)
 対話モード、終了 [1055](#)
 ターゲットテーブル名のプレフィックス、更新 [1105](#)
 チェックアウト、取り消し [1096](#)
 通知メッセージ、送信 [1081](#)
 テーブルオーナー名、更新 [1103](#)
 テーブル、セッションによる一覧表示 [1071](#)
 デプロイメントグループ、オブジェクトの追加 [1026](#)
 デプロイメントグループ、オブジェクトの取り消し [1035](#)
 デプロイメントグループ、削除 [1048](#)
 デプロイメントグループ、作成 [1043](#)
 デプロイメントグループ、デプロイ [1050](#)
 デプロイメント制御ファイルのパラメータ [1126](#)
 デプロイメント、ロールバック [1092](#)
 電子メールアドレス、更新 [1101](#)
 特権、削除 [1092](#)
 バージョン情報、表示 [1110](#)
 フォルダ、一覧表示 [1070](#)
 フォルダ、削除 [1048](#)
 フォルダー、作成 [1044](#)
 フォルダ、デプロイ [1051](#)
 フォルダ、プロパティの変更 [1079](#)
 フォルダプロパティ、変更 [1079](#)
 プラグイン、登録 [1088](#)
 プラグイン、登録解除 [1098](#)
 ヘルプ [1059](#)
 ミックスバージョンドメインでの実行 [1023](#)
 ユーザー、一覧表示 [1062](#)
 ユーザー接続、一覧表示 [1072](#)
 ユーザー接続、終了条件 [1061](#)
 ユーザープロパティ、編集 [1053](#)
 ラベル、削除 [1048](#)
 ラベル、作成 [1046](#)
 ラベル、適用 [1028](#)
 リソース、クリーンアップ [1034](#)
 リポジトリ、削除 [1046](#)
 リポジトリ、作成 [1037](#)
 リポジトリ、接続先 [1035](#)
 リポジトリ接続ファイル、指定 [52](#)
 リポジトリ、登録 [1087](#)
 リポジトリ、登録解除 [1097](#)
 リポジトリの統計、更新 [1104](#)
 リポジトリ、バックアップ [1032](#)
 リポジトリ、リストア [1090](#)
 ログ、削除 [1095](#)

PopulateVCS (infacmd mrs) [623](#)
PowerCenter からのインポート
オプション [199](#)
PowerCenter ユーティリティ
インストール [28](#)
構成 [30](#)
セキュリティ設定 [31](#)
PowerCenter リソース
無効化 [356](#)
有効化 [366](#)
PowerExchange リスナーサービス
強制的に停止 [693](#)
作成 [703](#)
タスクの一覧表示 [734](#)
タスクの停止 [739](#)
停止 [696](#)
プロパティの更新 [744](#)
リスナーサービスとそのタスクの監視統計の表示 [725](#)
PowerExchange ロガーサービス
CPU 情報の表示 [714](#)
Writer サブタスクのステータスの表示 [729](#)
イベントの表示 [716](#)
作成 [706](#)
シャットダウン [736](#)
処理された変更レコード数の表示 [721](#)
すべてのメッセージの表示 [711](#)
プロパティの更新 [747](#)
メモリ使用量の表示 [719](#)
ロギングサイクルの開始 [698](#)
ログファイルの新しいセットへの切り替え [731](#)
PrintSPNAndKeytabNames (infacmd isp) [471](#)
Purge (infacmd cms) [98](#)
PurgeDataObjectCache (infacmd dis) [143](#)
urgeLog (infacmd isp)
説明 [473](#)
PurgeMonitoringOptions (infacmd isp) [474](#)
PurgeResultSetCache (infacmd dis) [145](#)
PurgeTableCache (infacmd sql) [822](#)
PurgeVersion (pmrep)
説明 [1084](#)

R

reassignCheckedOutObject (infacmd mrs) [624](#)
rebuildDependencyGraph (infacmd mrs) [626](#)
recoverWorkflow
infacmd wfs [877](#)
RecoverWorkflow (pmcmd)
説明 [1000](#)
RefreshDataObjectCache (infacmd dis) [147](#)
RefreshTableCache (infacmd sql) [823](#)
RegisterPlugin (pmrep)
説明 [1088](#)
RemoveAlertUser (infacmd isp)
説明 [477](#)
RemoveConnection (infacmd isp)
説明 [479](#)
RemoveConnectionPermissions (infacmd isp)
説明 [480](#)
RemoveDomainLink (infacmd isp)
説明 [482](#)
RemoveFolder (infacmd isp)
説明 [484](#)
RemoveGrid (infacmd isp)
説明 [485](#)
RemoveGroup (infacmd isp)
説明 [487](#)

RemoveGroupPermission (infacmd isp) [488](#)
RemoveGroupPrivilege (infacmdisp)
説明 [490](#)
RemoveLicense (infacmd isp)
説明 [492](#)
RemoveNode (infacmd isp)
説明 [494](#)
RemoveNodeResource (infacmd isp)
説明 [495](#)
RemoveOSProfile (infacmd isp)
説明 [497](#)
RemoveRole (infacmd isp)
説明 [499](#)
RemoveRolePrivilege (infacmd isp)
説明 [500](#)
RemoveService (infacmd isp)
説明 [502](#)
RemoveService (infacmd cms) [100](#)
RemoveServiceLevel (infacmdisp)
説明 [504](#)
RemoveUser (infacmd isp)
説明 [505](#)
RemoveUserFromGroup (infacmd isp)
説明 [507](#)
RemoveUserPermission (infacmd isp) [508](#)
RemoveUserPrivilege (infacmd isp)
説明 [511](#)
RenameApplication (infacmd dis) [148](#)
RenameConnection (infacmd isp) [513](#)
RenameFolder (infacmd mrs) [628](#)
RenameSQLDataService (infacmd sql) [825](#)
RenameWebService
infacmd ws [896](#)
ResetPassword (infacmd isp)
説明 [514](#)
Restore (pmrep)
説明 [1090](#)
RestoreApplication (infacmd dis) [150](#)
RestoreContents (infacmd mrs) [629](#)
RestoreDARespositoryContents (infacmd isp)
説明 [516](#)
RestoreDomain (infasetup)
説明 [962](#)
ResumeAll (infacmd sch) [783](#)
ResumeSchedule (infacmd sch) [784](#)
resyncData (infacmd cms) [102](#)
RevertObject (infacmd mrs) [631](#)
RmPrivilege (pmrep)
説明 [1092](#)
RollbackDeployment (pmrep)
説明 [1092](#)
Run (pmrep)
説明 [1093](#)
RunCPUProfile (infacmd isp)
説明 [518](#)
RunMapping
infacmd ms [651](#)

S

SAP BW サービス
infacmd isp を使用して更新 [579](#)
ドメイン内での作成 [343](#)
ScheduleWorkflow (pmcmd)
説明 [1002](#)
SEQ
infacmd 接続オプション [297](#)

SetColumnPermissions (infacmd sql) [826](#)
SetComputeNodeAttributes (infacmd rms) [756](#)
SetConnectionPermissions (infacmd isp) [519](#)
SetFolder (pmcmd)
説明 [1004](#)
SetLDAPConnectivity (infacmd isp)
説明 [521](#)
setMappingPersistedOutputs
infacmd wfs [879](#)
SetNoWait (pmcmd)
説明 [1004](#)
SetOperationPermissions
infacmd ws [898](#)
SetRepositoryLDAPConfiguration (infacmd isp)
説明 [524](#)
SetSequenceState (infacmd dis) [152](#)
SetSQLDataServicePermissions (infacmd sql) [829](#)
SetStoredProcedurePermissions (infacmd sql) [831](#)
SetTablePermissions (infacmd sql) [834](#)
SetWait (pmcmd)
説明 [1005](#)
SetWebServicePermissions
infacmd ws [901](#)
ShowConnectionInfo (pmrep)
説明 [1094](#)
ShowLicense (infacmd isp)
説明 [527](#)
WaitWorkflow (pmcmd)
説明 [1005](#), [1019](#)
ShutDownLogger (infacmd pwx) [736](#)
ShutdownNode (infacmd isp)
説明 [528](#)
SQL データサービス
infacmd のオプション [844](#)
オプションの更新 [843](#)
開始 [837](#)
権限の一覧表示 [813](#)
権限の設定 [829](#)
停止 [839](#)
データ統合サービス用の一覧表示 [815](#)
名前の変更 [825](#)
プロパティの一覧表示 [812](#)
StartApplication (infacmd dis) [154](#)
StartSQLDataService (infacmd sql) [837](#)
StartTask (pmcmd)
説明 [1005](#)
パラメータファイルの使用 [1008](#)
StartWebService
infacmd ws [903](#)
startWorkflow
infacmd wfs [882](#)
StartWorkflow (pmcmd)
説明 [1008](#)
パラメータファイルの使用 [1011](#)
StopApplication (infacmd dis) [156](#)
stopBlazeService (infacmd dis) [158](#)
StopSQLDataService (infacmd sql) [839](#)
StopTask (pmcmd)
説明 [1012](#)
StopTaskListener (infacmd pwx) [739](#)
StopWebService
infacmd ws [905](#)
StopWorkflow (pmcmd)
説明 [1014](#)
SwitchConnection (pmrep)
説明 [1094](#)
SwitchToGatewayNode (infacmd)
説明 [530](#)

SwitchToKerberosMode (infasetup)
説明 [965](#)
SwitchToWorkerNode (infacmd isp)
説明 [532](#)
synchronizeProfile (infacmd ps) [690](#)
SyncSecurityDomains (infacmd isp) [533](#)

T

TDM サービス
無効化 [858](#)
Teradata Parallel Transporter 接続
infacmd [300](#)
Test Data Manager サービス
ドメイン内での作成 [849](#), [855](#)
TruncateLog (pmrep)
説明 [1095](#)

U

UnassignISMMService (infacmd)
説明 [535](#)
UnassignLicense (infacmd)
説明 [537](#)
UnassignRoleFromGroup (infacmd isp)
説明 [538](#)
UnassignRoleFromUser (infacmd isp)
説明 [540](#)
UnassignRSWSHubService (infacmd isp)
説明 [542](#)
UnassociateDomainNode (infacmd isp)
説明 [544](#)
UndeployApplication (infacmd dis) [159](#)
UndoCheckout (pmrep)
説明 [1096](#)
UninstallAbapProgram (pmrep)
説明 [1106](#)
unlockObject (infacmd mrs) [633](#)
UnregisterPlugin (pmrep)
説明 [1098](#)
UnscheduleWorkflow (pmcmd)
説明 [1015](#)
UnsetFolder (pmcmd)
説明 [1017](#)
UpdateApplication (infacmd dis) [161](#)
UpdateApplicationOptions (infacmd dis) [162](#)
UpdateColumnOptions (infacmd sql) [840](#)
UpdateConnection (infacmd isp)
説明 [546](#)
UpdateConnection (pmrep)
説明 [1100](#)
UpdateDataObjectsOptions (infacmd dis) [166](#)
UpdateDomainOptions (infacmd isp)
説明 [549](#)
UpdateEmailAddr (pmrep)
説明 [1101](#)
updateExportXML
infacmd xrf [912](#)
UpdateFolder (infacmd isp)
説明 [551](#)
UpdateGatewayInfo (infacmd isp)
説明 [553](#)
UpdateGatewayInfo (infacmd) [60](#)
UpdateGatewayNode (infasetup)
説明 [966](#)

UpdateGrid (infacmd isp)
説明 [554](#)

UpdateIntegrationService (infacmd isp)
説明 [556](#)

UpdateKerberosAdminUser (infasetup)
説明 [971](#)

UpdateKerberosConfig (infasetup)
説明 [971](#)

UpdateLicense (infacmd isp)
説明 [558](#)

UpdateListenerService (infacmd pwx) [744](#)

UpdateLoggerService (infacmd pwx) [747](#)

UpdateMMService (infacmd isp)
説明 [560](#)

UpdateMonitoringOptions (infacmd isp) [561](#)

UpdateNamespace (infacmd isp) [565](#)

UpdateNodeOptions (infacmd isp)
説明 [567](#)

UpdateNodeRole (infacmd isp) [569](#)

UpdateOperationOptions
infacmd ws [906](#)

UpdateOSProfile (infacmd isp)
説明 [571](#)

UpdateParameterSetEntries (infacmd dis) [169](#)

UpdateReportingService (infacmd isp)
説明 [573](#)

UpdateRepositoryService (infacmd isp)
説明 [575](#)

UpdateSAPBWSservice (infacmd isp)
説明 [579](#)

UpdateSchedule (infacmd sch) [786](#)

UpdateSeqGenVals (pmrep)
説明 [1102](#)

UpdateServiceLevel (infacmd isp)
説明 [581](#)

UpdateServiceOptions (infacmd as) [71](#)

UpdateServiceOptions (infacmd dis) [170](#)

UpdateServiceOptions (infacmd rms) [758](#)

UpdateServiceOptions (infacmd search) [804](#)

UpdateServiceOptions (infacmd cms) [104](#)

UpdateServiceOptions (infacmd mrs) [635](#)

UpdateServiceOptions (infacmd sch) [789](#)

UpdateServiceProcess (infacmd isp)
説明 [583](#)

UpdateServiceProcessOptions (infacmd as) [73](#)

UpdateServiceProcessOptions (infacmd dis) [185](#)

UpdateServiceProcessOptions (infacmd search) [806](#)

UpdateServiceProcessOptions (infacmd cms) [106](#)

UpdateServiceProcessOptions (infacmd mrs) [640](#)

UpdateServiceProcessOptions (infacmd sch) [792](#)

UpdateSMTOptions (infacmd isp)
説明 [585](#)

UpdateSQLDataServiceOptions (infacmd sql) [843](#)

UpdateSrcPrefix (pmrep)
再利用不可能なセッションの更新 [1103](#)
説明 [1103](#)

UpdateStatistics (pmrep)
説明 [1104](#)

UpdateTableOptions (infacmd sql) [846](#)

UpdateTargPrefix (pmrep)
再利用不可能なセッションの更新 [1105](#)
説明 [1105](#)

UpdateWebServiceOptions
infacmd ws [908](#)

UpdateWorkerNode (infasetup)
説明 [972](#)

UpdateWSHubService (infacmd isp)
説明 [587](#)

Upgrade (infacmd cms) [108](#)

Upgrade (infacmd sch) [796](#)

UpgradeContents (infacmd mrs) [642](#)

UpgradeDARepositoryContents (infacmd isp)
説明 [589](#)

UpgradeDARepositoryUsers (infacmd isp)
説明 [590](#)

UpgradeModels (infacmd pwx) [742](#)

upgradeRepository (infacmd bg) [87](#)

V

Validate (pmrep)
説明 [1108](#)

ValidateandRegisterFeature (infasetup)
説明 [976](#)

validateFeature (infacmd advanced) [592](#)

Version (infacmd)
説明 [593](#)

VSAM
infacmd 接続オプション [304](#)

W

WaitTask (pmcmd)
説明 [1017](#)

Web コンテンツ-Kapow Katalyst
接続 [307](#)

Web サービス
infacmd による一覧表示 [895](#)
infacmd による開始 [903](#)
infacmd による権限の設定 [901](#)
infacmd による停止 [905](#)
infacmd による名前変更 [896](#)
権限の一覧表示 [893](#)
プロパティの一覧表示 [891](#)
プロパティの更新 [908](#)

Web サービス Hub
infacmd を使用したリポジトリの関連付けを解除 [542](#)
infacmd isp を使用して更新 [587](#)
infacmd を使用したリポジトリの関連付け [238](#)
ドメイン内での作成 [349](#)

Web サービスオプション
infacmd 構文 [910](#)

Web サービス操作
infacmd による権限の設定 [898](#)
権限の一覧表示 [889](#)
プロパティの一覧表示 [887](#)
プロパティの更新 [906](#)

X

XML ファイル
プラグインテンプレート [1090](#)

あ

アナリストサービス
Business Glossary データのアップグレード [87](#)
設定の一覧表示 [68](#)
ドメイン内での作成 [62](#)
プロパティの一覧表示 [69](#)
プロパティの更新 [71](#)

アナリストサービスプロセス
プロパティの設定 [73](#)
アプリケーション
オブジェクトの一覧表示 [125](#)
開始 [154](#)
結果セットキャッシュのページ [145](#)
更新 [161](#)
停止 [156](#)
データ統合サービスからの削除 [159](#)
名前の変更 [148](#)
プロパティの一覧表示 [127](#)
プロパティの設定 [162](#)
リストア [150](#)
アプリケーションアーカイブ (iar) ファイル
データ統合サービスへのデプロイ [122](#)
アプリケーションサービス
infacmd isp を使用して削除 [502](#)
ステータスの取得 [391](#)
プロパティの取得 [386](#)
無効化 [358](#)
有効化 [368, 857](#)
アプリケーションサービスプロセス
ステータスの取得 [389](#)

い

インポート (infacmd rtm) [765](#)
インポート制御ファイル
infacmd [914](#)
スキーマファイル [915](#)
ドメインオブジェクトのパラメータ [921](#)
ドメインオブジェクトの例 [928](#)
命名規則 [915](#)
モデルリポジトリオブジェクトのパラメータ [923](#)
モデルリポジトリオブジェクトの例 [930](#)
ルールおよびガイドライン [928](#)

え

永続入力ファイル
pmrep での作成 [1112](#)
エクスポート (infacmd rtm) [763](#)
エクスポート制御ファイル
infacmd [914](#)
スキーマファイル [915](#)
ドメインオブジェクトのパラメータ [916](#)
ドメインオブジェクトの例 [928](#)
命名規則 [915](#)
モデルリポジトリオブジェクトのパラメータ [918](#)
モデルリポジトリオブジェクトの例 [930](#)
ルールおよびガイドライン [928](#)

お

オブジェクト
アーカイブファイルへのデプロイ [657](#)
インポート [1083](#)
エクスポート [1081](#)
オブジェクトエクスポートファイルからのインポート [664](#)
オブジェクトエクスポートファイルへのエクスポート [658](#)
削除 [1049](#)
チェックイン [1034](#)
ユーザー権限の削除 [508](#)
ユーザー権限の割り当て [240](#)

オブジェクトインポート制御ファイル
説明 [1113](#)
オブジェクトのインポート
impcntl.dtd [1113](#)
ObjectImport の XML の例 [1118](#)
オブジェクトの検証
pmrep を使用 [1108](#)
オブジェクトのデプロイ
depcntl.dtd [1125](#)
オペレーティングシステムのプロファイル
infacmd isp を使用して一覧表示 [446](#)
infacmd isp を使用して更新 [571](#)
infacmd isp を使用して削除 [497](#)
ドメイン内での作成 [329](#)

か

外部セキュリティモジュール
登録 [1090](#)
登録解除 [1099](#)
仮想カラム
オプションの更新 [840](#)
仮想スキーマ
権限の一覧表示 [809](#)
仮想テーブル
infacmd のオプション [848](#)
権限の一覧表示 [820](#)
権限の設定 [834](#)
プロパティの一覧表示 [818](#)
プロパティの設定 [846](#)
仮想テーブルカラム
権限の設定 [826](#)
仮想テーブルキャッシュ
ページ [822](#)
リフレッシュ [823](#)
カラム
infacmd のオプション [842](#)
プロパティの一覧表示 [810](#)
環境変数
ICMD_JAVA_OPTS [41](#)
INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT [42](#)
INFA_CODEPAGENAME [42](#)
INFA_DEFAULT_DATABASE_PASSWORD [43](#)
INFA_DEFAULT_DOMAIN [45](#)
INFA_DEFAULT_DOMAIN_PASSWORD [45](#)
INFA_DEFAULT_DOMAIN_USER [46](#)
INFA_DEFAULT_PWX_OSEPASSWORD [47](#)
INFA_DEFAULT_PWX_OSPASSWORD [48](#)
INFA_JAVA_CMD_OPTS [49](#)
INFA_PASSWORD [50](#)
INFA_REPCNX_INFO [52](#)
INFA_REPOSITORY_PASSWORD [53](#)
INFA_DEFAULT_DB_TRUSTSTORE_PASSWORD [44](#)
INFA_NODE_KEYSTORE_PASSWORD [51](#)
INFA_NODE_TRUSTSTORE_PASSWORD [51](#)
INFATool_DATEFORMAT [54](#)
コマンドラインプログラムの設定 [39](#)
監査証跡のテーブル
削除 [67](#)
削除、コンテンツ管理サービス [93](#)
作成 [65](#)
作成、コンテンツ管理サービス [89](#)

き

機能

検証 [592](#)

く

クエリ

実行 [1053](#)

グリッド

infacmd isp を使用したノードの一覧表示 [428](#)

infacmd isp を使用して削除 [485](#)

infacmd isp を使用して割り当てられたノードの更新 [554](#)

作成 [311](#)

グループ

infacmd isp を使用した一覧表示 [411](#)

infacmd isp を使用したインポート [404](#), [408](#)

infacmd isp を使用してエクスポート [373](#)

infacmd isp を使用して削除 [487](#)

エクスポート [376](#)

ドメイン内に作成 [313](#)

ユーザー用の一覧表示 [433](#)

グループ権限

オブジェクトからの削除 [488](#)

オブジェクトへの割り当て [228](#)

ドメインオブジェクト用の一覧表示 [430](#)

け

警告

infacmd isp でサブスクライブされたユーザーの一覧表示 [410](#)

infacmd isp を使用して SMTP 設定を設定 [585](#)

infacmd isp を使用してサブスクライブを解除 [477](#)

infacmd を使用した SMTP 設定の一覧表示 [459](#)

ユーザーのサブスクライブ [202](#)

計算ノード

属性の一覧表示 [753](#)

属性の設定 [756](#)

ゲートウェイ

infacmd isp を使用して情報の更新 [553](#)

権限

infacmd isp を使用してユーザーまたはグループ接続から削除 [480](#)

pmrep を使用した割り当て [1030](#)

検索サービス

作成 [798](#)

プロパティの一覧表示 [801](#)

プロパティの設定 [804](#)

検索サービスのプロセス

プロパティの一覧表示 [803](#)

プロパティの設定 [806](#)

こ

構成

コマンドラインユーティリティ [29](#)

構文

コマンドラインプログラム [35](#)

スケジューラサービス infacmd のオプション [790](#), [794](#)

データ統合サービス infacmd のオプション [172](#)

リソースマネージャサービス infacmd のオプション [760](#)

コマンド

オプションと引数の入力 [34](#)

コマンドラインプログラム

概要 [33](#)

構文 [35](#)

コマンドラインユーティリティ

domains.infa ファイル [31](#)

構成 [29](#)

コマンドラインユーティリティ (Metadata Manager ユーティリティの設定)

コマンドラインユーティリティ (PowerCenter ユーティリティの設定)

コンカレントワークフロー

コマンドラインからの開始 [1008](#)

コマンドラインからの停止 [1014](#)

コンテンツ

アプリケーションファイルからのインポート [761](#)

コンテンツ管理サービス

infacmd cms を使用した削除 [100](#)

オプションの一覧表示 [97](#)

オプションの更新 [104](#)

孤立した参照データのページ [98](#)

ドメイン内での作成 [91](#)

マスタ CMS マシンとのデータの同期 [102](#)

コンテンツ管理サービスプロセス

オプションの設定 [106](#)

さ

サービス

infacmd isp を使用した一覧表示 [457](#)

ping [470](#)

サービスプロセス

ノード上での有効化 [370](#)

ノード上で無効化 [360](#)

サービスレベル

infacmd isp を使用した一覧表示 [452](#)

infacmd isp を使用して更新 [581](#)

infacmd isp を使用して削除 [504](#)

追加 [220](#)

参照テーブル

エクスポート [763](#)

モデルリポジトリへのインポート [765](#)

す

スキーマファイル

infacmd 制御ファイル [915](#)

スクリプトファイル

pmrep コマンドに使用 [1025](#)

実行 [1093](#)

スケジューラサービスのオプション

infacmd 構文 [790](#), [794](#)

スコアカード

移行 [686](#)

結果の一覧表示 [683](#)

結果のページ [687](#)

実行 [676](#)

ストアドプロシージャ

権限の一覧表示 [817](#)

権限の設定 [831](#)

せ

制御ファイル

infacmd [914](#)

ObjectImport の XML の例 [1118](#)

オブジェクトインポート [1113](#)

スキーマファイル [915](#)

デプロイメント [1125](#)

制御ファイル (続く)

- ドメインオブジェクトのパラメータ [916](#), [921](#)
- ドメインオブジェクトの例 [928](#)
- 命名規則 [915](#)
- モデルリポジトリオブジェクトのパラメータ [918](#), [923](#)
- モデルリポジトリオブジェクトの例 [930](#)
- ルールおよびガイドライン [928](#)

セキュリティドメイン

- infacmd を使用した一覧表示 [451](#)
- セキュリティドメイン内のユーザーとグループ
LDAP のユーザーおよびグループと同期 [533](#)

セッション

- ログイベントの取得 [393](#)
- セッション実行後の電子メール
pmrep を使用したアドレスの更新 [1101](#)

接続

- infacmd isp を使用した一覧表示 [420](#)
- infacmd isp を使用したインポート [404](#)
- infacmd isp を使用したオプションの一覧表示 [422](#)
- infacmd isp を使用してエクスポート [373](#)
- infacmd isp を使用して更新 [546](#)
- infacmd isp を使用してドメインから削除 [479](#)
- infacmd で作成 [245](#)
- infacmd による名前変更 [513](#)
- Oracle [292](#)
- Web コンテンツ-Kapow Katalyst [307](#)
- 接続文字列の例 [1025](#)

接続 (pmcmd)

- 説明 [986](#)

接続オプション

- infacmd の DB2 [275](#)
- infacmd の SEQ [297](#)
- infacmd の VSAM [304](#)

接続権限

- infacmd isp を使用した一覧表示 [417](#)
- ユーザーまたはグループへの追加 [204](#)
- ユーザーまたはグループ用の一覧表示 [416](#)

接続文字列

- 構文 [1025](#)
- 例 [1025](#)

切断 (pmcmd)

- 説明 [987](#)
- 説明 [471](#)

た

対話モード (pmcmd)

- 接続 [980](#)
- デフォルトの設定 [980](#)

つ

通知 (pmrep)

- 説明 [1081](#)

て

データオブジェクト

- プロパティの一覧表示 [130](#)
- プロパティの設定 [166](#)
- データオブジェクトキャッシュ
リフレッシュ [147](#)

データ統合サービス

- 計算プロパティの一覧表示 [128](#)
- 計算プロパティの設定 [164](#)

データ統合サービス (続く)

- 作成 [116](#)
- プロパティの一覧表示 [140](#)
- プロパティの設定 [170](#)
- データ統合サービスにデプロイされたマッピング
実行 [651](#)
- データ統合サービスにデプロイされたワークフロー
起動 [882](#)
- キャンセル [864](#)
- 強制終了 [860](#)
- リカバリ [877](#)
- データ統合サービスのオプション
infacmd 構文 [172](#)
- データ統合サービスプロセス
プロパティの一覧表示 [136](#), [141](#)
- プロパティの設定 [185](#)
- テーブルオーナー名
pmrep での更新 [1103](#)
- デプロイされたアプリケーション
一覧表示 [123](#)
- バックアップ [113](#)
- デプロイメントグループ
複数のフォルダの一覧表示 [1131](#)
- デプロイメント制御ファイル
説明 [1125](#)

と

統計

- リポジトリの更新 [1104](#)

統合サービス

- infacmd isp を使用して更新 [556](#)
- infacmd isp を使用して削除 [502](#)
- Metadata Manager サービスへの割り当て [230](#)
- 作成 [315](#)

統合サービスプロセス

- オプションの更新 [583](#)
- プロパティの取得 [388](#)

登録

- pmrep を使用したセキュリティモジュール [1090](#)
- pmrep を使用するプラグイン [1088](#)

登録 (pmrep)

- 説明 [1087](#)

登録解除 (pmrep)

- 説明 [1097](#)

特権

- infacmd isp を使用したグループ用の一覧表示 [432](#)
- infacmd isp を使用したロール用の一覧表示 [449](#)
- infacmd isp を使用してグループから削除 [490](#)
- infacmd isp を使用してサービス用の一覧表示 [455](#)
- infacmd isp を使用してユーザーから削除 [511](#)
- infacmd isp を使用してロールから削除 [500](#)
- 削除 [1092](#)
- ドメイン内のグループへの割り当て [210](#)
- ユーザー用の一覧表示 [463](#)
- ロールへの割り当て [218](#)

ドメイン

- infacmd isp を使用したリンクドメインの一覧表示 [424](#)
- infacmd isp を使用してプロパティを更新 [549](#)
- infacmd isp を使用してリンクを削除 [482](#)
- infacmd を使用してプロパティを一覧表示 [425](#)
- infasetup を使用した削除 [958](#)
- infasetup を使用した作成 [936](#)
- infasetup を使用したリストア [962](#)
- infasetup を使用するバックアップ [934](#)
- ping [470](#)

ドメイン監視
オプションの一覧表示 [438](#)
更新オプション [561](#)
ページオプション [474](#)
ドメインゲートウェイホスト
ping [470](#)

の

ノード
infacmd isp を使用した一覧表示 [454](#)
infacmd isp を使用したオプションの一覧表示 [440](#)
infasetup を使用したゲートウェイの更新 [966](#)
infasetup を使用したゲートウェイの定義 [948](#)
infasetup を使用した作業の定義 [954](#)
infasetup を使用したワーカーの更新 [972](#)
ping [470](#)
ゲートウェイから作業 infacmd isp への切り換え [532](#)
更新 [567](#)
作業からゲートウェイ infacmd への切り換え [530](#)
ドメイン infacmd isp から関連付けを解除 [544](#)
ドメインからの削除 [494](#)
ドメイン内のすべての一覧表示 [444](#)
ドメインへの追加 [208](#)
名前の取得 [385](#)
リソースの追加 [216](#)
ロールの一覧表示 [443](#)
ロールの更新 [569](#)

は

ページ (infacmd ps) [687](#)
バイナリログファイル
テキスト、XML、または読み込み可能なテキストへの変換 [244](#)
バージョン (pmcmd)
説明 [1017](#)
バージョン (pmrep)
説明 [1110](#)
パスワード
infacmd を使用してユーザーパスワードをリセット [514](#)
暗号化 [54](#)
パラメータファイル
pmcmd StartTask での使用 [1008](#)
pmcmd StartWorkflow での使用 [1011](#)

ふ

フォルダ
infacmd isp を使用した説明の更新 [551](#)
削除 [1048](#)
デプロイ [1051](#)
ドメイン内での作成 [309](#)
変更 [1079](#)
フォルダー
infacmd isp を使用した一覧表示 [427](#)
infacmd を使用して移動 [466](#)
infacmd isp を使用してオブジェクトを移動 [468](#)
infacmd isp を使用して削除 [484](#)
プラグイン
XML テンプレート [1090](#)
プロファイリングウェアハウスコンテンツ
削除 [674](#)
プロファイル
結果の一覧表示 [683](#)
結果のページ [687](#)

プロファイル (続く)
実行 [676](#)
プロファイルタスク
ステータスの取得 [679](#), [690](#)
プロファイルモデル
キャンセル [671](#)
実行 [678](#)
ステータスの取得 [681](#)

へ

ヘルプ (infacmd) [403](#)
ヘルプ (pmrep)
説明 [1059](#)

ま

待ちモード
pmcmd を使用して設定 [981](#)
マッピング
一覧表示 [649](#)
マッピング出力
infacmd を使用した更新 [879](#)
マッピングの実行
ランタイムパラメータセットを使用 [651](#)
マッピングログ
infacmd ms を使用したアクセス [644](#)

み

ミックスバージョンドメイン
pmcmd の実行 [978](#)
pmrep の実行 [1023](#)

も

モデルリポジトリ
オブジェクト依存関係のグラフの再構築 [626](#)
オブジェクトのチェックイン [597](#)
オブジェクトのロック解除 [633](#)
コンテンツの削除 [606](#)
コンテンツのリストア [629](#)
チェックアウトされたオブジェクトの一覧表示 [613](#)
チェックアウトされたオブジェクトの再割り当て [624](#)
チェックアウトされたオブジェクトを元に戻す [631](#)
バックアップフォルダー内のファイルの一覧表示 [611](#)
ファイルへのコンテンツのバックアップ [595](#)
モデルリポジトリサービスのオプションの一覧表示 [620](#)
モデルリポジトリサービスのオプションの更新 [635](#)
モデルリポジトリサービスのコンテンツのアップグレード [642](#)
モデルリポジトリサービスのサービスプロセスオプションの更新 [640](#)
モデルリポジトリサービスリポジトリ内のプロジェクトの一覧表示 [618](#)
モデルリポジトリサービスリポジトリ内のフォルダの一覧表示 [614](#)
ロックされたオブジェクトの一覧表示 [616](#)
ロックされたオブジェクトの再割り当て [624](#)
モデルリポジトリオブジェクト
エクスポート [196](#)
モデルリポジトリサービス
一覧表示 [621](#)
作成 [603](#)
リポジトリコンテンツの作成 [598](#)

戻りコード

infacmd [60](#)
infasetup [933](#)
pmcmd [978](#)

ゆ

ユーザー

infacmd isp を使用した一覧表示 [414](#)
infacmd isp を使用したインポート [404](#), [408](#)
infacmd isp を使用してエクスポート [373](#)
infacmd isp を使用してグループから削除 [507](#)
infacmd isp を使用して削除 [505](#)
infacmd での移行 [464](#)
エクスポート [376](#)
権限のタイプの一覧表示 [419](#)
ドメイン内での作成 [347](#)
ドメインのグループに追加 [224](#)
ユーザーのグループの一覧表示 [433](#)

ユーザーアカウント

ドメイン内で無効化 [362](#)
プロパティの編集 [364](#)
有効化 [372](#)

ユーザーおよびグループ

権限の削除 [519](#)

ユーザー権限

ドメインオブジェクト用の一覧表示 [461](#)

ら

ライセンス

infacmd isp を使用した一覧表示 [437](#)
infacmd isp を使用して更新 [558](#)
infacmd isp を使用して削除 [492](#)
infacmd isp を使用して表示 [527](#)
infacmd を使用した割り当て解除 [537](#)
ドメインへの追加 [212](#)
割り当てられたサービスの一覧表示 [226](#)

ラベル

pmrep を使用して作成 [1046](#)
削除 [1048](#)

り

リストア

pmrep の Restore を使用するリポジトリ [1090](#)

リソース

infacmd isp を使用して削除 [495](#)
infacmd isp を使用して表示 [441](#)
オブジェクトエクスポートファイルへのエクスポート [662](#)

リソースマネージャサービス

プロパティの一覧表示 [755](#)
プロパティの設定 [758](#)

リソースマネージャサービスのオプション

infacmd 構文 [760](#)

リポジトリ

pmrep を使用した接続 [1035](#)

リポジトリ (続く)

pmrep を使用したバックアップ [1032](#)
詳細の削除 [1095](#)
登録 [1087](#)
登録解除 [1097](#)
リレーショナルの作成 [1038](#)

リポジトリサービス

infacmd isp を使用して更新 [575](#)
infacmd isp を使用して削除 [502](#)
ドメイン内での作成 [337](#)

リンク

ドメインへの追加 [206](#)

れ

レポートサービス

infacmd isp を使用して更新 [573](#)
ドメイン内での作成 [332](#)

ろ

ロール

infacmd isp を使用した一覧表示 [413](#)
infacmd isp を使用したインポート [404](#)
infacmd isp を使用してエクスポート [373](#)
infacmd isp を使用してグループから削除 [538](#)
infacmd isp を使用して削除 [499](#)
infacmd isp を使用してユーザーから削除 [540](#)
infacmd isp を使用してユーザーに割り当て [236](#)
ドメイン内での作成 [341](#)

ローカルパラメータファイル

pmcmd StartWorkflow での使用 [1011](#)

ロギイベント

infacmd isp を使用してページ [473](#)
pmrep を使用した切り詰め [1095](#)

ロック解除

ロックされたオブジェクト [633](#)

論理データオブジェクト

infacmd のオプション [168](#)

キャッシュのページ [143](#)

論理データオブジェクトのキャッシュ

更新の停止 [115](#)

わ

ワークフロー

pmcmd 構文を使用したリカバリ [1000](#)

一覧表示 [875](#)

コマンドラインからの開始 [1008](#)

コマンドラインからの停止 [1014](#)

ロギイベントの取得 [400](#)

ワークフローサービス

データベーステーブルの削除 [868](#)